

恵庭市

# 西島松5遺跡(6)

— 柏木川基幹河川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

第1分冊 本文編

平成20年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター

恵庭市

# 西島松5遺跡(6)

— 柏木川基幹河川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

第1分冊 本文編

平成20年度

財団法人 北海道埋蔵文化財センター





P445



P412



P411



P411の出土遺物



P404の出土遺物



P448の出土遺物



P398の出土遺物

## 例 言

1. 本書は、柏木川基幹河川改修工事に伴い、財団法人北海道埋蔵文化財センターが平成12年度から発掘調査を実施した、恵庭市西島松5遺跡の埋蔵文化財発掘調査報告書である。  
本書には、平成14・15・16年度に同道跡から検出された遺構（住居跡を除く土坑・Tピット・焼土・小ピット・集石遺構）と、平成19年度の調査で新たに見つかった西島松3遺跡内の5基の遺構を掲載する。
2. 平成14・15・19年度の発掘調査と整理作業は第2調査部第1調査課が、平成16年度の発掘調査と整理作業は第1調査部第2調査課が、平成20年度の整理作業は第2調査部第3調査課が行った。
3. 本書の執筆は土肥研晶が、写真図版は柳瀬由佳が担当した。
4. 遺物の分類は、石器を佐藤和雄が、その他は土肥研晶が担当した。
5. 現場での写真撮影は、各遺構担当の調査員が、遺物の写真撮影は吉田裕史洋が行った。
6. 出土した遺物のうち、動物遺存体は、金子浩昌氏に、サメの歯については北海道大学水産学部教授 仲谷一宏氏に、ネズミの歯形については元北海道大学教授 阿部 永氏に鑑定していただいた。なお、ネズミの歯形の鑑定については北大植物園所蔵の標本を参考にした。また、玉類の石材鑑定は、(株)アースサイエンスに依頼した。
7. 調査にあたっては、下記の諸機関および人々のご協力、ご助言をいただいた（順不同、敬称略）。

北海道教育庁生涯学習部文化・スポーツ課

恵庭市郷土資料館 田嶋弘美・上屋真一・松谷純一・長町章弘・大林千春

北広島市教育委員会 下野直章

札幌市埋蔵文化財センター 上野秀一・羽賀憲二・仙庭伸久・秋山洋司・石井 淳・藤井誠二

千歳市教育委員会 田村俊之・高橋 理・豊田宏良・松田淳子

北海道開拓記念館 右代啓視・鈴木琢也・山田悟郎

厚真町教育委員会 乾 哲也・小野哲也・奈良智法・天方直仁・山田和史

新ひだか町静内郷土館 齋藤大朋・藪中剛司 厚沢部町教育委員会 石井淳平

苫小牧市博物館 赤石慎三 七飯町歴史館 山田 央

登別市教育委員会 菅野修広 平取町教育委員会 森岡健治・長田佳宏

富良野市教育委員会 杉浦重信・澤田 健 伊達市教育委員会 大島直行・青野友哉

室蘭市教育委員会 松田宏介 秋田県大館郷土博物館 嶋影社憲

酪農学園大学 浅川満彦 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園・博物館

福島県文化振興事業団 水野一夫 株式会社シン技術コンサル 長谷川徹・大島秀俊

野村 崇、和泉田毅、遠藤龍敏、藤岡智子、鈴木克彦

## 記号等の説明

1. 遺構の表記は、本文および図表中では次の略号を使用した。また、グリッド番号と区別するため、「P 1」「F 1」、のように、アルファベットとアラビア数字の間にはハイフンは入っていない。

H：住居跡 P：土坑および土坑墓 TP：Tピット F：焼土 SP：小ピット M：盛土遺構

2. 実測図、拓影図の縮尺は、原則として次のとおりである。

遺構図（平面図・断面図・エレベーション図）—1：40 集石—1：10

遺物出土状況詳細図—遺構ごとの出土状況に合わせたため、縮尺は異なるが、それぞれにスケールを付している。

土器実測図・土器拓影図—1：3（P692のみ土器を30%で掲載。また、ミニチュア土器には個々にスケールを付した。） 土製品—1：2

玉類・石斧・剥片石器—1：2 石棒・礫石器—1：3（石皿にかぎり30%に縮小）

骨角器・歯牙製品（サメの歯）—1：1 漆製品—1：2

なお、写真のスケールはおおむね次のとおりである。

復元土器—任意 拓本—3：1 剥片石器—1：2 石楾—2：3 玉類・サメの歯—1：1

礫石器—任意 漆・骨角器—3：4（75%） 土・石製品（石斧）・アスファルト—2：3

3. 遺構図中の数字は標高（単位m）を示し、平面図、断面図、エレベーション図は40分の1で、平面図の真北方向をページの真上に統一している。表中での遺構の規模は単位cmで表記した。なお、推定事項については、（ ）で示し、不明の部分は一で示した。セクション図中の遺物のうち、礫にはS、土器にはP、石斧、石棒などの製品にはその名称を記している。
4. 遺物出土状況詳細図中の番号（青）は、遺物掲載番号（黒色）と統一し、破損などで実測されなかった未掲載遺物で、表にデータのみを記している遺物には赤で掲載遺物番号の続きの数を記している。土壌水洗で見つかった遺物や出土地点の記録が無いものについては、詳細図に掲載番号はない。
5. 詳細遺物出土状況図中の番号は掲載番号で統一し、ベンガラ層については、その濃淡を次の3段階のパターンで表現した。



6. 土層の色調は、「新版標準土色帖」(小山・竹原1967年版)を使用し、カラーチャートの番号を記し土色を記した。



# 目 次

〔第1分冊〕

口 絵 (カラー写真)

例 言

記号等の説明

## I 調査の概要

1. 調査要項	1
2. 調査体制	1
3. 調査に至る経緯	2
4. 調査結果の概要	3

## II 遺跡の立地と周辺の遺跡

1. 遺跡の位置と環境	13
2. 周辺の縄文時代後期末の遺跡	13

## III 調査の方法

1. 調査区の設定	19
2. 掘削	19
3. 土層	19
4. 整理の方法	21
5. 記録と保管	21
6. 遺物の分類	21
7. 玉・垂飾類の分類	23

## IV 遺構と遺物

1. 概要	51
2. 土坑	51
3. 周堤墓の設定	115
4. Tピット	116
5. 焼土	116
6. 集石遺構	117
7. 小ピット	117
8. キウス5遺跡出土の漆塗櫛	117
9. 西島松3遺跡追加の遺構	117
10. 考察	118

## V 自然科学的手法による分析

1. 西島松5遺跡出土の玉類・石製品・石斧石材の岩石学的分析	209
1-1 西島松5遺跡出土カンラン岩・ロジン岩製遺物産地分析	209
1-2 西島松5遺跡出土玉類の岩石学的分析	221
1-3 西島松5遺跡出土の玉・石製品の岩石学的分析	236
2. 西島松5遺跡出土ヒスイ製玉類の産地分析	247
3. 西島松5遺跡出土の縄文時代以降の炭化種実について	254
4. 西島松5遺跡出土の動物骨同定	264
5. 西島松5遺跡出土のネズミのかじり痕のある玉について	278
6. 忠庭市西島松5遺跡から出土した赤色漆塗櫛の構造と製作技法について	279
7. 蛍光X線分析	283

## 挿 図 目 次

図Ⅰ—1 年度別調査範囲図 …………… 2	図Ⅲ—14 分割図G …………… 36
図Ⅱ—1 遺跡位置図 …………… 15	図Ⅲ—15 分割図H …………… 37
図Ⅱ—2 西島松5遺跡と周辺の遺跡 …… 16	図Ⅲ—16 分割図I …………… 38
図Ⅲ—1 基本土層模式図 …………… 19	図Ⅲ—17 分割図J …………… 39
図Ⅲ—2 グリッド設定図 …………… 20	図Ⅲ—18 分割図K …………… 40
図Ⅲ—3 玉類分類模式図 …………… 23	図Ⅲ—19 分割図L …………… 41
図Ⅲ—4 玉・垂飾類分類図 …………… 25	図Ⅲ—20 分割図M …………… 42
図Ⅲ—5 玉・垂飾類集計グラフ ……… 26	図Ⅲ—21 分割図N …………… 43
図Ⅲ—6 遺構位置全体図 …………… 27	図Ⅲ—22 分割図O …………… 44
図Ⅲ—7 遺構位置分割図 …………… 29	図Ⅲ—23 分割図P …………… 45
図Ⅲ—8 分割図A …………… 30	図Ⅲ—24 分割図Q …………… 46
図Ⅲ—9 分割図B …………… 31	図Ⅲ—25 分割図R …………… 47
図Ⅲ—10 分割図C …………… 32	図Ⅲ—26 分割図S …………… 48
図Ⅲ—11 分割図D …………… 33	図Ⅲ—27 分割図T …………… 49
図Ⅲ—12 分割図E …………… 34	図Ⅲ—28 分割図U・V …………… 50
図Ⅲ—13 分割図F …………… 35	

## 表 目 次

表Ⅰ—1 西島松5遺跡(6)掲載遺構 ……………	3
表Ⅰ—2 西島松5遺跡報告済遺構数 ……………	4
表Ⅰ—3 報告書別報告済遺物点数一覧 ……	6
表Ⅰ—4 報告書別掲載遺構一覧 ……………	6
表Ⅰ—5 西島松5遺跡調査体制一覧 ……	7
表Ⅰ—6 時期別掲載遺構一覧 ……………	8
表Ⅰ—7 金属製品出土一覧 ……………	9
表Ⅰ—8 北埋調報224 恵庭市 西島松5遺跡(4)正誤表 ……	10
表Ⅰ—9 漆塗製品遺構出土一覧 ……………	11
表Ⅰ—10 サメ歯穿孔孔品遺構出土一覧 ……	11
表Ⅰ—11 玉・垂飾類遺構出土一覧 ……………	12
表Ⅱ—1 周辺遺跡一覧 ……………	17
表Ⅳ—1 土坑掲載遺物一覧 ……………	119
表Ⅳ—2 遺構別掲載遺物一覧 T P ……	173
表Ⅳ—3 遺構別掲載遺物一覧 焼土 ……	173
表Ⅳ—4 遺構別掲載遺物一覧 集石 ……	177
表Ⅳ—5 遺構別掲載遺物一覧 S P ……	178
表Ⅳ—6 土坑出土遺物一覧 ……………	179
表Ⅳ—7 T P出土遺物一覧 ……………	188
表Ⅳ—8 焼土出土遺物一覧 ……………	188
表Ⅳ—9 集石出土遺物一覧 ……………	192
表Ⅳ—10 S P出土遺物一覧 ……………	193
表Ⅳ—11 西島松5遺跡遺構出土遺物一覧 ……	208

第2分冊 図版編  
第3分冊 写真図版編

# I 調査の概要

## 1 調査要項

事業名：柏木川基幹河川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査  
 委託者：北海道石狩支庁（札幌土木現業所）  
 受託者：財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
 遺跡名：西島松5遺跡（北海道教育委員会登録番号A-04-38）  
 所在地：恵庭市西島松306番、501番地先河川敷地  
 調査面積：西島松5遺跡 21,210㎡  
 発掘期間：平成12年4月1日～平成17年10月30日  
 整理期間：平成12年4月1日～平成21年3月31日

## 2 調査体制

平成14年度

理事長	大澤 満（平成14年6月30日まで）	第2調査部長	西田 茂
理事長	森重 楯一（平成14年7月1日から）	第1調査課長	佐藤 和雄
専務理事	宮崎 勝	主任	土肥 研晶
常務理事	畑 宏明（第1調査部長兼務）	主任	佐藤 剛
		文化財保護主事	石井 淳平

平成15年度

理事長	森重 楯一	第2調査部長	西田 茂
専務理事	宮崎 勝	第1調査課長	佐藤 和雄
常務理事	畑 宏明（第1調査部長兼務）	主任	鈴木 信
		主任	土肥 研晶
		主任	佐藤 剛
		文化財保護主事	立田 理

平成16年度

理事長	森重 楯一	第1調査部長	千葉 英一
専務理事	宮崎 勝	第2調査課長	佐藤 和雄
常務理事	佐藤 俊和	主任	土肥 研晶
		主任	立田 理
		主任	吉田裕史洋

平成20年度

理事長	森重 楯一（平成20年5月31日まで）	第2調査部長	西田 茂
理事長	坂本 均（平成20年6月1日から）	第3調査課長	佐藤 和雄
専務理事	佐藤 俊和	主任	土肥 研晶
常務理事	畑 宏明	主任	柳瀬 由佳

### 3 調査に至る経緯

恵庭市内を流れる柏木川は、陸上自衛隊島松演習場内に源を發し、千歳川に流入する長さ約11kmの小河川である。この流域には多くの遺跡が点在し、恵庭市内で最も遺跡分布密度の濃いところの1つである。ところで、千歳川本流およびそこに流入する小河川流域は過去に幾度となく洪水に見舞われてきた。柏木川もその例外ではなく、とくにその下流の左岸一帯はたびたび洪水被害をこうむってきた。このため、昭和58（1983）年、柏木川改修計画が策定され、昭和61（1986）年から現河川拡幅の改修工事が実施され、下流域側から上流側（市道西六線～道々江別・恵庭大通付近）へ進められてきた。その後平成7年（1995）年、柏木川改修工事の延長と遊水池が計画され、平成9（1997）年4月、柏木川改修計画増の区間（道々江別・恵庭線～道央自動車道）と第1・第2遊水池建設が決定された。工事主体である北海道札幌土木現業所から北海道教育委員会に第2遊水池建設について埋蔵文化財保護のための事前協議書が提出された。これを受けて北海道教育委員会は平成10（1998）年10月、第2遊水池建設予定地内に含まれる西島松5遺跡の範囲確認調査を実施した。さて、西島松5遺跡では、昭和36（1961）当時（西島松南D遺跡）年、地元の中学生が土偶などを表探し、北海道大学の犬場利夫に持参したことから、翌年、同氏らによる土偶発見地点付近の発掘調査がおこなわれた（この場所は平成13年の調査で見つかったMC盛土付近）。昭和39（1964）年には、さらに3地点を発掘し、縄文時代早期～統縄文時代にかけての遺物や、住居址・土坑などを報告した経緯がある（『恵庭遺跡』恵庭町教育委員会1966）。北海道教育委員会による遺跡範囲確認調査によっても、同様な遺構・遺物が発見され、関係者間での協議の結果、工事の性格上、計画変更はきわめて困難であることから、記録保存のための発掘調査の実施となった。

調査は平成12（1990）年4月から当センターで実施することとなり、西島松5遺跡は平成16年10月で基線南23号より南側の範囲を、西島松3遺跡、西島松2遺跡は、平成19年10月でその包蔵地範囲すべての調査を終えた。途中遺跡範囲の変更があったが、最終的な調査終了面積は西島松5遺跡が21,210㎡、西島松3遺跡7,180㎡、西島松2遺跡19,904㎡となった。

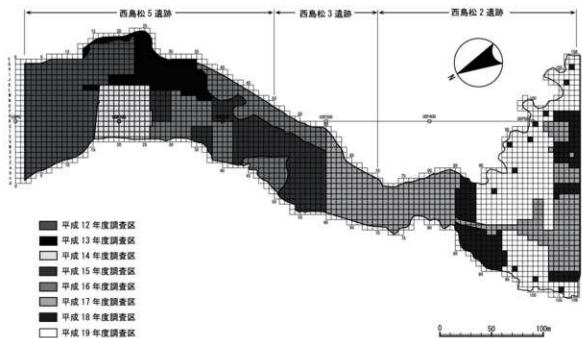


図1-1 年度別調査範囲図

#### 4 調査結果の概要

西島松2遺跡・西島松3遺跡・西島松5遺跡はそれぞれ境を接しており、元地権者の所有地で、3遺跡と5遺跡は、南北グリッドの38ライン付近、2遺跡と3遺跡は75ライン付近で分けていた。西島松3遺跡は、後に造成工事で著しく削平を受け、遺構の大半は失われたものとみられた。平成15年度の調査で、西島松5遺跡から縄文時代後期後葉の漆製品などを副葬する墓が、墓域を形成して分布することがわかり、同時に墓域の約半分が西島松3遺跡の範囲内に遺存することも確認された。平成17年度の調査では、西島松3遺跡の南側より、縄文時代晩期の土坑群が見つかり、この範囲が西島松2遺跡に広がることがわかった。西島松2・3・5遺跡はもともと一連の遺跡であり、まとまった墓や土坑群の途中で遺跡名が変わるのは、後の整理・報告・活用に不都合なことから、後に西島松3遺跡と西島松5遺跡の境を従来の境から約60m南側の50ラインに、西島松2遺跡と西島松3遺跡の境を約50m北側の70ラインに変更してほしいむね、恵庭市教育委員会に伝え、平成17年度に遺跡範囲の変更を行った。

西島松5遺跡から検出された遺構の中で、本書に掲載されているものは、337～835号土坑、11～16号のTピット、焼土は160～459号、小ピットは、2513～3774号、集石遺構が1～5号までである。これらの遺構のうち、土坑では677、686、727、732号の4基が欠番、焼土では319号が、小ピットでは2991・3224・3372・3440・3465号の5基が欠番である。よって報告する遺構数は土坑495基、Tピット6基、焼土299ヵ所、小ピット1,257ヵ所、集石遺構5基である。

以下、掲載遺構数を表I-1にまとめた。

表I-1 西島松5遺跡⑥掲載遺構

	遺構番号	欠番	合計
土坑	337号～835号	677・686・727・732号	495基
Tピット	11号～16号	—	6基
焼土	160号～459号	319号	299ヵ所
小ピット	2513号～3774号	2991・3224・3372・3440・3465号	1,257ヵ所
集石遺構	1号～5号	—	5基

また、本報告をもって西島松5遺跡の報告はすべて終了するが、これまでに刊行した全6冊で報告した遺構総数は、住居址75軒、土坑825基、Tピット23基、焼土454ヵ所、小ピット3,514ヵ所、集石遺構5基である。

以下報告書に掲載している遺構数を表I-2にまとめたが、報告書ごとに表記が異なる「土壇」や「土壇墓」「土坑」は、墓と土坑の区別をなくし、一律で土坑として数えた。また、この数のうち、周溝のある墓X2～X7（北埋調報178）は、主体部と周溝部合わせて1基と数えた。周堤墓と考えられる土坑群（北埋調報260）も3ヵ所見られたが、周堤部は失われており、個々の土坑として数えている。堅穴状遺構とされるX1（北埋調報178）は住居址1軒として換算した。小ピットにおいては、平面・断面のいずれかが掲載されていれば報告済みとみなし数えた。

本遺跡から検出された遺構のうち、住居では、縄文時代中期の住居址が28軒、縄文時代前期前半期

の静内中野式期相当の住居址が21軒、撥文時代（9～10世紀）の住居址10軒、以下、縄文時代早期4軒、縄文時代後期中葉3軒、阿前葉2軒である。このほかに出土遺物から後期後葉や晩期として報告済みの住居がある。

表I-2 西島松5遺跡報告遺構概数

	遺構番号	欠番	合計
住居跡	H1～H75・X1	H10	75軒
土坑	P1～P835号・X2～X7	P124・P140・P141・P142・ P147・P167・P204・P205・ P206・P215・P216・P243・ P677・P686・P727・P732	825基
Tピット	TP1～TP16・P124・ P140・P141・P142・ P147・P215・P216	—	23基
焼土	F1～F459	F10・F19・F38・F153・F319	454ヵ所
小ピット	SP1～SP3774	201～330・466・501～620・ 1484～1487・2991・3244・3372・ 3440・3465	3,514ヵ所
集石遺構	1号～5号	—	5基

土坑では、7世紀から9世紀にかけての墓・土坑（周溝のある墓も含む）が153基、縄文時代後期後葉（周堤墓を含む）から晩期前葉にかけての墓287基がおもなものである。

7世紀～9世紀にかけての墓は、調査区の北側に分布して検出された。墓域は基線南23号の道路下にも広がるようである。これらの墓では遺体は木郭などに収められていた痕跡があり、副葬品として金属製品188点以上、土器66点などが出土した。なお、北埋調報178集で撥文時代の土坑として数えられていたP124・142・147・215・216は、長径50cmほどの小型のTピットがL字に並ぶような遺構であるが、同市内の西島松18遺跡（「西島松17遺跡・西島松18遺跡」恵庭市教育委員会1992）やユカンボシE7（北埋調報132）・E11遺跡（「ユカンボシE11遺跡」2002恵庭市教育委員会）などで報告されている「小形Tピット群」と類似する特徴なので、Tピットとして数えた。同様にP140・P141もTピットとし、土坑数が減少している。

縄文時代後期後葉から晩期前葉にかけての墓は、土器形式で見ると堂林式期から、三ツ谷式、御殿山式、大洞B式期相当の墓への変遷がたどれる状況で調査範囲の南西側に分布していた。周堤墓とみられる土坑群は3ヵ所あるが、周堤部は失われているため、状況判断による認定である。1号から3号までのうち、ほぼ確実なものは1・2号で、3号はやや強引な判定だったかもしれない。これら周堤墓内の墓からは、石棒、ヒスイ製の玉、土器などの副葬品が出土した。

堂林式期以降、周堤墓は大型化し、三ツ谷式期には史跡キウス周堤墓群や、柏木B遺跡などに大型の周堤墓が現れるが、本遺跡では、三ツ谷式期以降の墓の周囲に周堤を築いた痕跡は確認できず、堂林式期以降に周堤墓は造られていないものとみられる。また、副葬される漆塗製品は、三ツ谷式期以降に出土頻度が増え、御殿山式期の墓で最多になり、大洞B1式期相当からは数を減らす傾向がみられた。出土した主な副葬品には、漆塗製品141点（漆塗俵39点・環状漆塗製品27点ほか）、玉・垂飾類1,519点、サメの歯293点、石棒6点ほか土器・土製品類がある。

表にはないが、このほかに縄文時代後期後葉から晩期前葉の遺物を多量に包蔵していた盛土遺構3カ所（MA・MB・MC盛土）や、盛土遺構であった可能性のある斜面包含層から出土した晩期前葉の一括出土遺物や、低地との境から出土した縄文時代晩期後葉の土器捨て場、縄文時代早期前半のアルトリ式や前期の静内中野式を伴う生活廃棄とみられる遺物集中がみつまっている。

遺物総数は6年間の調査で、1,667,856点、そのうち土器は1,327,893点出土し、その9割が盛土遺構や斜面包含層から出土した縄文時代後期後葉およびその前後のものであることから、石器などほかの遺物の大多数も同時期のものとみられる。

次に本報告書で説明する各時期の土坑の特色を以下にまとめる。

#### 縄文時代早期の土坑

早期とした土坑は39基ある。前半期とみられる土坑834号土坑のアルトリ式期相当のものが1基のみである。これの残存状況は良くないが、住居址の痕跡ともみられ、報告済の同時期の土器捨て場（北埋調報248）と関連する遺構とみられる。早期後半期では、東鋼路Ⅳ式や中茶路式の破片が出土する土坑はしばしば見られるが、確実に早期後半の土坑といえるものは少ない。

625号土坑や668号土坑は破片の出土状況から早期後半の土坑とみられる。また、土器片は出土していないが、石斧の形態から判断して早期の遺構と考えられるものに742号土坑がある。

#### 縄文時代前期の土坑

前半期中野式期相当の土坑が41基検出されている。土器がまとまって出土したのは337・389・540・548号土坑である。337号と389号土坑は、形状がはっきりしないが、遺物がまとまって出土したものである。540・548号土坑は同時期の住居址内に掘られた墓とみられ、540の覆土上部からは小形の土器が、548の坑底からはつまみ付きナイフが出土した。同様に、つまみ付きナイフが坑底から出土する611・624号土坑なども同時期の墓と考えられる。

#### 縄文時代中期の土坑

縄文時代中期の土坑は47基を確認しているが、遺物が多数出土する土坑は少ない。円筒上層式の後半期に相当する破片が632号土坑からまとまって出土しているほか、萩ヶ岡1式相当の深鉢が復元された640号土坑、萩ヶ岡2式相当の破片がまとまって出土した709号土坑などがある。ただしこれらの土坑は住居址であった可能性がある。

#### 縄文時代後期の土坑

後期前葉としたのはP490、P599の2基だけである。P490の輪郭は不明瞭であるが、付近に同時期の住居址も見つかり、これと関連する遺構かもしれない。P599は後期後葉の墓に切られ、覆土から内外面に縄文が施された土器片が出土している。中葉とした土坑は9基である。P522からは、オロシガネ状土製品が出土し、P609は同時期の住居址床面に掘られたもので、坑底面より中葉の破片が出土している。後期後葉（堂林式・三ツ谷式～御殿山式古段階）と判断した土坑は171基、後期末葉（御殿山式の新しい段階）としたものが24基、合計206基である。この時期の土坑のほとんどは墓とみられ、そのうち堂林式期のものには周堤墓だったとみられる土坑群が3カ所あり、1号～3号周堤墓まで設定している。三ツ谷式以降では周堤墓は造られなくなるが、墓の集合状況は認められ、その分布には中心域があり、その外郭に新しい墓が造られるようである。この様子は周堤墓の

竪穴内部の墓と周土上の墓の関係と類似している。副葬品は、墓の上部に土器、坑底付近からは漆塗製品や玉・垂飾類、サメ歯穿孔品などの装身具類や、石棒、石斧などが出土する。西島松5遺跡における、縄文時代後期後葉から末葉にかけての墓は、標高の高い位置から低い場所へ立地が動いている。つまり、柏木川の上流方向から下流に向かって新しい時期になる。

表I-3 報告書別報告遺物点数一覧

	土器	土製品	石器	石製品	金属製品	漆製品	木製品	骨角器	その他	合計
西島松5	201,091	202	75,123	32	65					276,513
西島松5(2)	26,755	71	8,200	23	175					35,224
西島松5(3)	542,188	938	100,506	137	2		2	18	1	643,792
西島松5(4)	10,118	15	9,267	3	6			2		19,411
西島松5(5)	518,201	1,076	119,823	83	3			19	54	639,259
西島松5(6)	29,578	166	21,928	1,521		141		322	1	53,657
合計	1,327,931	2,468	334,847	1,799	251	141	2	361	56	1,667,836

表I-4 報告書別掲載遺構一覧

	住居	土坑	Tピット	焼土	小ピット	集石
西島松5	X1・H1～9	X2～7 P1～221	TP1～8 Pより7基	F1～56	SP1～1013	—
	10軒	216基	15基	53ヶ所	762ヶ所	—
西島松5(2)	H11～19	P222～334	TP9・10	F57～159 (一部3ヶ所)	SP1014～2512	—
	9軒	108基	2基	95ヶ所	1,495ヶ所	—
西島松5(3)	—	236・238・239 310・335・336	—	F103・108・118・152 F157～159	—	—
	—	6基	—	7ヶ所	—	—
西島松5(4)	H20～75	—	—	—	—	—
	56軒	—	—	—	—	—
西島松5(5)	—	—	—	—	—	—
	—	—	—	—	—	—
西島松5(6)	—	P337～835	TP11～16	160～459	SP2513～3774	1～5
	—	495基	6基	299ヶ所	1,257ヶ所	5ヶ所
合計	75軒	825基	23基	454ヶ所	3,514ヶ所	5ヶ所



## 縄文時代晩期の土坑

晩期の土坑は97基ある。このうち前葉としたものが55基、中葉15基、後葉27基、さらに南側の西島松3遺跡でも後葉の土坑が検出されている。分布は、最も初期とみられるものが後期末葉の墓域の外郭に分布し、次により東側のMC盛土上にひろがる。中葉の土坑は、2001年の調査区で柏木川に面する台地縁に帯状に分布し、そのつづきの一部がN-35・36付近にみられる。後葉の土坑はそれより西側の台地縁から西島松3遺跡側に分布を広げ、その先にあったであろう後葉の土坑が分布する範囲は耕作等による削平が著しく、遺構が失われている。晩期の土坑は前葉の土坑が後期後葉の続きに作られ、中葉以降は逆に標高の低い場所から高い場所へ立地が動き、遺跡の上流側に位置する西島松3・2遺跡の範囲にまで広がっていた可能性がある。

## 続縄文時代の土坑

後北C<sub>2</sub>D式に相当する土坑が21基検出されている。土器片が入っていることで認定したものがほとんどだが、形状や土坑の分布、大型の礫が入るなどの特徴で認定したものもある。まとまった土器が出土したものは419号土坑のみである。また、赤穴式系の土器片が出土しているのが、385号・427号である。土坑の分布は晩期中葉の分布より台地の中央に寄るようで、後期の墓域と重なる部分がある。まばらな分布ではあるが上流にある西島松2遺跡でも同様な分布をしており、広い範囲に散在する分布をしている可能性がある。

## 縄文時代の土坑

縄文時代の土坑は802号土坑の1基である。小型の円形土坑で、青灰色の粘土と炭化物層の上に9世紀の甕の口縁部がのっている状況で検出された。9世紀代の堅穴住居が床面より下まで削平され、最も深く掘られた煙出しの堅穴の底だけが残ったものとみられる。これとは別に、北大Ⅲ式相当の土坑が1基、縄文時代後期後葉の墓の間から検出されている。覆土からは甕の底部片2点が出土している。本遺跡では同時期の墓域が約100m北東側で調査報告（北理調報178）されており、この土坑だけが1基離れて分布している。

表I-5 西島松5遺跡調査体制一覧

	平成12年	平成13年	平成14年	平成15年	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
	第2調査部 第2調査課	第2調査部 第2調査課	第2調査部 第1調査課	第2調査部 第1調査課	第1調査部 第2調査課	第1調査部 第2調査課	第1調査部 第2調査課	第2調査部 第1調査課	第2調査部 第3調査課
鬼柳 彰 部長	○								
大沼 忠治 部長		○							
西田 茂 部長			○	○				○	○
千葉 美一 部長					○	○	○		
高橋 和樹 課長	○								
佐藤 和雄 課長		○	○	○	○	○	○	○	○
和泉田 毅 主査	○	○							
中山 昭大 主任	○								
末光 正卓 主任	○								
石井 淳平 文化財保護主査		○	○						
新家 水奈 主任		○							
佐藤 剛 主任		○	○	○					
土肥 研晶 主任			○	○	○	○			
土肥 研晶 主査							○	○	○
鈴木 信 主査				○					
立田 理 文化財保護主査				○					
立田 理 主任					○	○			
吉田裕史洋 主任					○	○	○	○	
柳瀬 由任 主任						○	○		○

表 I - 6 時期別掲載遺構一覧

住居(軒)	推定時代	総縄文時代	縄文時代					不明	計
			晩期	後期	中期	前期	早期		
西島松 5			1		8			1	10
西島松 5(2)				3	1	2	3		9
西島松 5(4)	10		4	20	19	2	1	56	
計	10		1	7	29	21	5	75	

土坑(基)	推定時代	総縄文時代	縄文時代					不明	計
			晩期	後期	中期	前期	早期		
西島松 5	145	4		7	9			51	216
西島松 5(2)		1	10	64				33	108
西島松 5(3)			3	2				1	6
西島松 5(6)	2	21	97	206	47	41	39	42	495
計	147	26	95	303	58	39	38	119	825

焼土(n所)	推定時代	総縄文時代	縄文時代					不明	計
			晩期	後期	中期	前期	早期		
西島松 5								53	53
西島松 5(2)				24			1	70	95
西島松 5(3)								7	7
西島松 5(6)		5	138	88	10		4	54	299
計		5	138	112	10		5	184	454

小ピット(n所)	推定時代	総縄文時代	縄文時代					不明	計
			晩期	後期	中期	前期	早期		
西島松 5					2			760	762
西島松 5(2)								1,495	1,495
西島松 5(6)	1	1	165	14	9	6	6	1,061	1,257
計		1	1	165	16	9	6	3,316	3,514

Tピット(基)	推定時代	総縄文時代	縄文時代					不明	計
			晩期	後期	中期	前期	早期		
西島松 5					15				15
西島松 5(2)					2				2
西島松 5(6)					6				6
計					23				23

敷石(n所)	推定時代	総縄文時代	縄文時代					不明	計
			晩期	後期	中期	前期	早期		
西島松 5(6)					5				5
計					5				5

西島松 5 合計	推定時代	総縄文時代	縄文時代					不明	計
			晩期	後期	中期	前期	早期		
住居跡(軒)	10		1	7	29	21	5	2	75
土坑(基)	147	26	94	304	58	39	38	119	825
焼土(n所)	1	14	7	218	14		5	195	454
小ピット(n所)		1	1	165	16	9	6	3,316	3,514
Tピット(基)					23				23
敷石(n所)					5				5
計	158	41	103	694	145	69	54	3,632	4,896

表 I-7 金属製品出土一覧

遺跡	品目	掲載															非掲載					総計	備考		
		大刀	横刀	兼手刀	刀子	鉄鍔	鉄拵	鉄鐙	釣針	魚突 釣子	鉄針 鎌	藤製 耳環	鉄噴	釘	鉄製品	刀子	鉄製品 小道具	鉄針	銅	鉄製品	鉄片			遺物 不明	
P011	178系		3		2			1							1									7	
P012	178系		1		3		1																	5	
P015	178系		3									2			1									6	
P030	178系		2		2		2							3										9	
P096	178系	1	1		1		1																	4	
P098	178系	1			3																			4	
F101	178系			1	5		5		1	1		1		2									16	書留9刀子1	
F112	178系			1																			1		
F118	178系		2		1		2																5		
F131	178系		3		1																		4		
X 6	178系		1		1										1							1	4		
178系小計		2	16	2	19	6	5	1	1	1	1	2		6	1	1				1		1	65		
P001	196系				1																		1		
P002	196系						1																1		
P003	196系		1																				1		
P005	196系			1	6																		7		
P006	196系		1				1			1													3		
P007	196系		2		2									1								1	4		
P009	196系		2																				2		
P014	196系		4																				4		
P016	196系			2		1						1											4		
P017	196系																				1		1		
P019	196系			1						1													2	計あるいは意	
P020	196系																					>1	船釘10の銅10枚		
P021	196系			1																			1		
P022	196系			1						1													2	兼	
P023	196系											3		1									4		
P024	196系			1																			1		
P028	196系			2				1															3		
P029	196系	1				1																	2		
P033	196系						1																1		
P068	196系			1																			1		
P073	196系		1											1	1	4		1					8		
P075	196系		1		1	1								1									4	針	
P083	196系		1							1							1						1	4針	
P084	196系		1							1													1	2針	
P085	196系		1																				1		
P089	196系		1																				1		
P094	196系				2			1						1									4		
P097	196系		2		1									1	3						1		8		
F102	196系			7						1													8	針	
F103	196系		1																				1		
F111	196系		2											1									3		
F117	196系		1																				1		
F120	196系		1							2													3		
F121	196系		2		1																		3		
F125	196系		1		5																		6		
F127	196系							1															1		
F129	196系	1		1																			2		
F130	196系	4		2								1											7		
F143	196系		1		1	1	1																3		
F145	196系		1																				1		
F146	196系		1		1																		2		
F150	196系		1																				1		
F203	196系		1																				1		
F207	196系		2																				2		
194系小計		8	50	16	7	5	4		5	1	3	2		6	2	7	1	1	>1	2	2	>123			
H20	230系			2									1										3		
H33	230系		1																				1		
H34	230系		1																				1		
H42	230系			1																			1		
234系小計			4	1									1										6		
総計		2	24	2	23	23	12	6	5	1	5	2	5	2	1	12	3	8	1	1	>1	3	2	194	

品名	刀子	鉄製 容器	角釘	丸釘	釘	木 ネジ	金輪	鎌巻	平 かすが い	櫛	針金	駒形 製品	刀の 跨	板状 鉄製品	古銭	鉄 製品	不明 鉄製品	鉄片	総計	備考
総計	4	1	6	17	5	2	1	2	4	1	2	1	1	1	2	1	2	4	57	

表I-8 北埋調報224 恵庭市 西島松5遺跡(4)正誤表

頁	行	誤	正	
151	12	図V-9-15	図V-10	
	14・15	図V-1-1~15	図V-1-1~17	
	29	図-43-5	図-44-5	
	36	4 (北埋調報 第178集 図N-43-4)	3 (北埋調報 第178集 図N-44-4)	
	40	5 (北埋調報 第178集 図N-48-4)	4 (北埋調報 第178集 図N-48-4)	
152	5	6 (北埋調報 第178集 図N-47-3)	5左下 (北埋調報 第178集 図N-47-3)	
	9	7 (北埋調報 第178集 図N-47-3)	5右下 (北埋調報 第178集 図N-47-3)	
	13	6・7	5左下・5右下	
	14	8 (北埋調報 第178集 図N-47-1)	5左上 (北埋調報 第178集 図N-47-1)	
	18	9 (北埋調報 第178集 図N-55-2)	6右 (北埋調報 第178集 図N-55-2)	
	23	10 (北埋調報 第178集 図N-55-2)	6左 (北埋調報 第178集 図N-55-2)	
	29	11 (北埋調報 第178集 図N-78-8)	7左 (北埋調報 第178集 図N-78-8)	
	37	12 (北埋調報 第178集 図N-78-8)	7右 (北埋調報 第178集 図N-78-8)	
	1	13 (北埋調報 第178集 図N-143-4)	8 (北埋調報 第178集 図N-143-4)	
	153	7	14 (北埋調報 第178集 図N-142-3)	9 (北埋調報 第178集 図N-142-3)
11		15 (北埋調報 第178集 図N-150-1)	10 (北埋調報 第178集 図N-150-1)	
18		16 (北埋調報 第178集 図N-160-16)	11 (北埋調報 第178集 図N-160-16)	
23		17 (北埋調報 第178集 図N-170-1)	12 (北埋調報 第178集 図N-170-1)	
23		P101	P112	
29		18 (北埋調報 第178集 図N-190-1)	13 (北埋調報 第178集 図N-190-1)	
34		19 (北埋調報 第178集 図N-200-1)	14 (北埋調報 第178集 図N-200-1)	
38		20 (北埋調報 第178集 図N-200-1)	15 (北埋調報 第178集 図N-200-1)	
154		2	21 (北埋調報 第178集 図N-201-2)	16 (北埋調報 第178集 図N-201-2)
6		22 (北埋調報 第178集 図N-201-3)	17 (北埋調報 第178集 図N-201-3)	
6	刀子	横刀		
10・11	図V-1-16~24	図V-1-18~26		
12	刀子・土器は1/6、その他は1/4	土器は1/6、刀子・その他は1/4		
17	刀身・柄頭+鍔	刀身・柄頭+鍔		
21	刀身・柄頭+足金物	刀身・柄頭?+足金物?		
155	4	P 8	P 9	
	8	P 4	P14	
	10	P15	P12	
	16	(図N-8)	(図N-18)	
	26	(同伴大刀より6世紀後葉)	(同伴土器より6世紀後葉)	
34	1a-1はP2・11・30・33・75・128・143	1a-1はP2・11・30・33・128・143		
158	スケール目盛り：0~20センチメートル	スケール目盛り：0~10センチメートル		
160	スケール目盛り：0~20センチメートル	スケール目盛り：0~10センチメートル		
163	スケール目盛り：0~20センチメートル	スケール目盛り：0~10センチメートル		
170	スケール目盛り：0~20センチメートル	スケール目盛り：0~10センチメートル		

\*表I-7は報告以降、土壌等の検査・遺物保存処理中に新たに検出された金属製品を示している。

表I-9 塗装製品遺構出土一覧

遺構名	調査区	層位	漆塗層	電装 漆塗製品	漆塗 基層・土	漆塗遺構	漆塗製品	鍍金	合計	銅点数	備考
P308	R-28	覆土	1				1		2	1	
P399	R-28	覆土	11	4			6		21	8	
P400	R-28	覆土	3						3	3	
P401	R-28,29	覆土	2	2			1		5	1	
P402	R-29	覆土			20				20		漆塗土
P403	S-28	覆土		1			1		2		
P404	P-34	覆土	1	1					2	1	
P412	O-31	覆土						1	1		鍍金
P434	N-30	覆土		1					1		
P436	O-30	覆土	1	2					3	1	
P438	N-31	覆土	1						1	1	
P439	N-31	覆土	4	1		2			7	4	
P441	N-31	覆土	1		14				15	1	漆塗系物
P445	N-31	覆土	3						3	3	
P447	O-32	覆土	1						1	1	
P448	O-32	覆土	4						4	4	
P462	P, Q-31	覆土		5					9		
P474	P-33	覆土	1	2			3		6	1	
P476	Q-34	覆土		2					2		
P482	R-34	覆土	1				2		3	1	
P486	M-32	覆土		1					1		
P511	R-27	覆土	2						2		
P513	S-28	覆土		1					1		
P518	R-29	覆土	1	2					3	1	
P519	S-29	覆土	1				4		5	1	
P526	R-32	覆土		2			3		5		
P552	S-38	覆土	1						1	1	
P554	S-39	覆土	1						1	1	
P690	V-45	覆土					1		1		
P750	T-40	覆土					6		6		1号明地蔵
P777	O-32	覆土	1						1	1	
P781	P-34	覆土	2						2	2	
P809	O-32	覆土	1						1	1	
	計		45	27	34	2	32	1	141	39	

表I-10 サメ歯穿孔孔品遺構出土一覧

遺構	調査区	層位	アオサメ	ホホジロ サメ	オキメジロ サメ	イタチサメ	不明	計	備考
P385	1	覆土	3					3	
P404	P-34	覆土		1				1	
P412	O-31	覆土		4	1			5	
P431	M-30	覆土		3				3	
P433	N-30	覆土		3				3	
P435	O-30	覆土		5			1	6	
P436	O-30	覆土		8				8	
P445	N-31	覆土		40		3		43	
P459	O-33	覆土		108				108	
P474	P-33	覆土		1	1			2	
P476	Q-34	覆土		2				2	
P482	R-34	覆土		17				17	
P504	P-33	覆土			1			1	
P508	R-27	覆土		1			2	3	
P515	R-28	覆土	15					15	
P519	S-29	覆土		33				33	
P554	S-39	覆土	1	5				6	
P666	O-31	覆土		6				6	
P716	O-31	覆土		1				1	
P781	P-34	覆土		19				19	
P793	O-31	覆土		6				6	
P799	N-32	覆土		1				1	
	計		19	264	3	3	3	292	

表I-11 五・垂飾類遺構出土一覧

遺構	調査区	部位	A型						B型			C型			D型			E型			不明	合計	備考	
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	E-1	E-2				E-3
P386	K-23	坑底																			1	1		
P395	S-26	坑底	10	3	1				1											1	1	17		
P398	R-28	坑底	69	13	3					2			3	7					2		4	103		
P399	R-28	坑底	10	7						1				4								22		
P401	R-28,29	坑底	4					2							1							7		
P402	R-29	坑底	1	1						1					1							4		
P404	P-34	坑底	2										2					1				5		
P411	O-31	坑底		1	1								1									5		
P412	O-31	坑底	14	10	2					1	4	1		1				2				33	港珠	
P432	M-30	坑底	16	1	1	1		2					1	1	1							23		
P433	N-30	坑底	3	2							1		1	1								8		
P434	N-30	坑底	7							1												8		
P435	237	覆土中				3	1				2		1									7		
P436	O-30	坑底											1	2								3		
P438	N-31	坑底	17	1	2			1		1												22	港珠	
P439	N-31	坑底	17	7		4		2			1		1	3							1	26	港珠	
P441	N-31	坑底	20	3																		23		
P444	O-31	坑底	32	7		4		2					1	1								47		
P445	N-31	坑底	1					1			1		2									5		
P447	O-32	坑底	1		1			1				1										4		
P448	O-32	坑底																						
P468	O-34	坑底	1																			1		
P476	Q-34	坑底	18	4	4			2		1	1		5									35		
P480	R-34	坑底	3																			3		
P483	R-33	坑底	10	5		42		1		1	4		3	1								67	港珠	
P486	M-32	坑底	57	2	2	3		2													7	73		
P487	M-32	坑底	1						6													7		
P503	R-33	坑底		2																		2		
P504	P-33	坑底																	1			1		
P508	R-26,27	坑底	182	2						2			1								9	196		
P509	R-27	坑底	12	1									1	3		1						18		
P510	R-27	坑底	39												1				1	1		42		
P511	R-27	坑底	138	42		36			1	4											8	229	港珠	
P512	S-26,27	坑底	5	5		1														1	1	12	港珠	
P513	S-28	坑底	17	8						1												26		
P515	R-28	坑底	2	4	1			1														9		
P516	R-28	坑底	43	5						2			1									51		
P518	R-29	坑底		2										2								5		
P519	S-29	坑底	33	5		2			1	2	1		1							1		46		
P553	R-39	坑底	36	4	1	3		4		1	2		2		1	1						55		
P554	S-39	坑底	56	18	4	1		2		2	5											88		
P570	S-42	坑底	3	4		4															3	14		
P589	U-39	坑底						1														1		
P592	U-38	坑底	3																			3		
P666	O-31	覆土上	11	24	2			1		1			3									42		
P689	V-46	坑底																			1	1	3号附城基	
P713	O-31	坑底	2	4		2							2	1								11		
P753	Q-35	坑底											1									1		
P754	T-40	坑底							4													4	1号附城基	
P781	P-34	坑底	1	1		3		2		2		1									1	11		
P787	Q-33	坑底	31	12		5		1		2		1	1									4	57	
P799	N-32	坑底	2	1									1									1	5	
P806	O-32	坑底											1	1								2		
P815	N-32	坑底		1			3		2													1	7	
F189	M-19	日堀	1																			1		
F231	S-22		1																			1	フロートシロツ	
西島松5(6)合計			932	215	21	115	3	28	15	24	26	2	34	33	4	2	1	3	4	1	2	44	1,509	北洲調査所290
遺構	調査区	部位	A型						B型			C型			D型			E型			不明	合計	備考	
			A-1	A-2	A-3	A-4	A-5	A-6	A-7	B-1	B-2	B-3	C-1	C-2	C-3	D-1	D-2	D-3	E-1	E-2				E-3
P75	T-3	坑底面																			1		1	北洲調査所
P119	V-9	坑底面																			1		1	178
P246	M-36	覆土												1								1	1	北洲調査所194
小計													1								2		3	
合計			932	215	21	115	3	28	15	24	26	2	34	34	4	2	1	3	4	1	2	44	1,512	

## II 遺跡の立地と周辺の遺跡

### 1 遺跡の位置と環境

遺跡は恵庭市の西方、JR恵み野駅から北西約800m、柏木川の左岸、北西をキトウシュメンナイ川に挟まれた標高約26mの低い台地上に位置する。柏木川の支流であるキトウシュメンナイ川は、遺跡より約500m上流に水源を持ち、およそ500m下流で柏木川に合流する。流域には、いたるところに冬でも凍らない湧水があり、調査前まで自衛隊駐屯地の水源にしていたほど澄んだ水が小さな泉を形成している。米軍撮影の写真を参考にすると、柏木川は、昭和23年当時はほとんどが蛇行する自然の姿で、西島松2遺跡の東縁を流れていた様子がわかる。後の昭和30年代には改修され、調査前の状況になっている。柏木川のアイス語はベケレベツ (pekere-pet) といい、「木立の無い草だけの場所・見晴らしのよい川」の意で、昭和20年代まではその姿を留めていた模様である。キトウシュメンナイ (kitu-ushi-mem-nay) は「藪のたくさんみられる泉のある沢」の意とされ、現在でもその様相を呈している。柏木川の兩岸は濃い密度で遺跡が登録されている。

### 2 周辺の縄文時代後期末の遺跡

市内の遺跡は市街地や農地を流れる小河川の流域に分布する。なかでも柏木川流域は市街化される時期の関係か、市内の遺跡の半数が登録されている。(図Ⅱ-2参照 表には図中の遺跡を記載)

今回報告の西島松5遺跡の内容で主なものも縄文時代後期後葉から晩期前葉の墓であるが、発掘調査により同時期の墓が検出された遺跡が隣に2ヶ所ある。

ひとつは柏木B遺跡(図Ⅱ-2参照)である。遺跡は茂漁川の左岸の標高約61mの丘陵縁に位置する。調査は1977年から4年間にわたり、住居址28軒(縄文時代前期後半26軒、縄文時代中期2軒)、環状土籬(周堤墓)5基(内2基は不確定、土坑数73基)、土坑墓433基(縄文時代早期6基、前期13基、中期1基、後期51基、統縄文時代223基、不明139基)などを報告、これ以降、北海道の縄文時代後期の墓制を語る上では避けられない調査例となっている。

環状土籬の時期は三ツ谷式期で、出土した副葬品では、石棒14点が目立っている。そのほかヒスイ製がほとんどの玉類145点、石斧など出土している。土取りで隔絶された第2地点からは、三ツ谷式期～御殿山式期相当の墓が40基ほど見つかり、副葬品で漆塗りの櫛7点・蛇紋岩やタルクを主体とする玉類181点などが出土している。柏木B遺跡の1・2号環状土籬や御殿山式期相当の433号～436号墓には、墓標としての石柱や配石が顕著にみられる。柏木B遺跡は、このほかに縄文時代前期後半の植苗式期の住居址群や後北C、D式期の土坑群が重なり、遺構密度の濃い遺跡となっている。

もうひとつの遺跡は平成11年に発掘調査が行われたカリンバ3遺跡(平成17年3月に調査区の東西約42,000㎡が国指定史跡カリンバ遺跡となる)である。遺跡は旧カリンバ川の右岸、標高は約26mに位置し、住居址9軒、建物跡3軒、土坑(墓)321基、Tピット1基などが調査・報告されている。このうち御殿山式期とされる墓48基から漆製品128点(櫛57点、腕輪35点、紐状製品16点、腰飾り帯2点など)玉類1,145点、石棒4点などが出土している。縄文時代後期の単一の遺跡から出土した漆製品の量は国内最多である。中でも118・119・123号墓の3基だけで漆製品出土総数の6割を占める80点の製品が出土し、カリンバ遺跡を象徴する遺構となっている。平成13年には、遺跡保存目的の詳細分布調査が行われ、環状土籬(周堤墓)と考えられる浅い皿状の落ち込みを確認し、堅穴内部から墓標とみられる柱状節理の安山岩や後半期の堂林式土器などが出土している。このことから環状土籬

(周堤墓)は堂林式後中期のものとみられ、報告された墓出土の土器には、三ツ谷式から御殿山式までの幅があるようである。カリンバ3遺跡は西島松5遺跡と同様に、堂林式期以降に周堤墓が造られていない可能性がある。

西島松5遺跡・柏木B遺跡・カリンバ3遺跡の3遺跡では、共通して周堤墓(環状土籬)から後期末葉の墓があることから、同時期に存在し、生活の場も墓の近くにあったと考えられる。

これらの遺跡はそれぞれ市内を南西から北東方向に並んで流れる柏木川、茂漁川、旧カリンバ川に面し、直線距離で西島松5遺跡からカリンバ3遺跡が約3km、カリンバ3遺跡から柏木B遺跡まで約4km、柏木B遺跡から西島松5遺跡までは約3.3kmの距離にあり、分布の中間にある柏木B遺跡がほかの遺跡より約30m高い上流域に立地している。ただし、周堤墓は生活域より標高の高い場所に造られる例がキウス4遺跡や美沢川流域の遺跡にあるため、柏木B遺跡における生活域は、より下流側であった可能性はある。この3つの遺跡の分布は、集落の規模も関係するが、石狩低地帯南部における中小の河川に挟まれた地域では、隣り合う河川沿いで集落間の距離がおよそ3～4kmだったことを示す例で、この位置関係は当時の集落の生活基盤の範囲を探る材料にもなる。また、同様に近隣を流れるルルマップ川や、ユカノシ川流域にも同様の距離を保ち同時期の集落があった可能性もあるわけである。同一河川の例でみると、千歳市キウス4遺跡の堂林式期の生業の痕跡が、上流約2kmキウス5遺跡の低地に見つかっている。河川に沿った上・下流への移動は日常的に広い範囲で行われていた可能性がある。

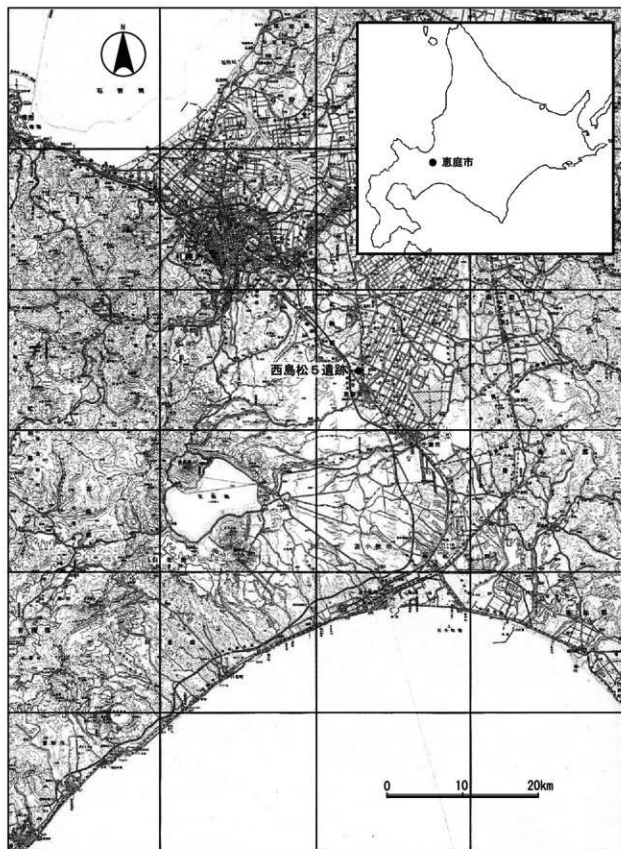
なお、本報告に千歳市キウス5遺跡の低地部の後期末葉の御殿山式期の泥炭層から出土した漆塗り縦櫛を掲載する。これは発掘の際に粉々に壊れてしまったものを保存、接合したもののだが、時間的に報告書に間に合わず、報告の機会を待っていたものである。

さて、同時期に存在しているこれらの遺跡ではあるが、その墓の形態と副葬品の内容に違いがある。北海道の後期後葉を代表する墓の形態に周堤墓があり、その8割が石狩低地帯南部に集中している。周堤墓は堂林式古段階に住居址ほどの規模で生じ、御殿山式期に至るまで、規模の大型化・土坑数の増加、副葬品の多様化・多量化が進み、大型化のある段階で終焉を迎えるという指摘がなされている。

柏木B遺跡は、石柱や積石、副葬品の多様化・多量化などの特徴から周堤墓末期の典型的な姿といえよう。しかし、西島松5遺跡では堂林式後中期を最後に周堤墓は造らなくなる。本遺跡における1号周堤墓とした、密集分布する墓からは堂林式後中期の土器が出土し、周堤上に掘られたとみられる墓も5基みついている。また、本遺跡で縄文時代後期後葉から晩期前葉にかけての墓は、調査区の西側(柏木川上流側)が古く、東側(柏木川下流側)に向かって新しい墓が分布しており、1号周堤墓より東には堂林式後中期以降の墓が分布している。しかし、その区域には縄文時代後期以前の堅穴住居が残り、後期の墓はそれらと重なり検出される例もある。墓の埋土も黒色土面から掘られた様相であり、このような事例から1号周堤墓から東側に周堤墓は無いとみられる。

また、副葬品にもそれぞれ特色がある。柏木B遺跡の周堤墓の副葬品には石棒が多く、玉類はヒスイ製のものがほとんどである。これに対し、西島松5遺跡の玉類は、ほとんどが緑泥石(蛇紋岩が緑泥石化したもの)製で、漆製品の数も増え始める。玉類の分析では、緑泥石の玉類も道外からの搬入品である可能性が大きく、良品が多量に柏木B遺跡に流入したとも考えられる。西島松5遺跡のように周堤墓を一足先に造らなく(造れなく)なるのは集落の力(規模)の差なのかもしれない。しかし、一方で周堤墓を造り続けることが集落の力の失速につながり、御殿山式期に至り豊富な漆塗製品が副葬された墓がカリンバ3遺跡や西島松5遺跡で出現することにつながった可能性もある。これだけ近隣の遺跡で周堤墓の終焉に時間差があることは問題点が残る。





図II-1 遺跡位置図



図中央の赤色部分が西島松5遺跡である。(詳細は、図Ⅲ-2 グリッド設定図を参照)

図Ⅱ-2 西島松5遺跡と周辺の遺跡

表Ⅱ-1 周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	種別	時期	文献（多数ある場合は新しいもの）
9	柏 水 A	遺物 包含地	縄文	
10	柏 水 B	集落跡、墳墓	縄文（早～晩）、縄縄（北大）	1981『北海道道庁市 柏水B遺跡発掘調査報告書』
11	柏 水 C	遺物 包含地		
12	柏 水 沢	遺物 包含地	縄文（晩期）	
13	茂 漁 ナヤシ	ナヤシ 跡	アイヌ	1980『日本縄文大系Ⅰ』 北海道
14	柏木東（茂漁古墳群）	墳 墓	縄文	1966『忠庭遺跡』
15	茂 漁 1	遺物 包含地	縄文（晩期）、縄縄（後北）、縄文（北大）	1979『熊手遺跡』
16	茂 漁 2	遺物 包含地	縄文	
17	柏木水源池	墳 墓	縄文（中・後期）、縄縄、縄文	
18	柏木川 1	集落跡、墳墓	縄文（中・晩期）、縄文	1971『柏木川』
19	柏木川 2	遺物 包含地	縄文（中・晩期）	
20	柏木川 3	遺物 包含地	縄文（中・晩期）	
21	柏木川 4	遺物 包含地	縄文（後期）	20『8A(1)・8A(2)・2期跡』 20『8A(1)・2期跡』 20『8A(1)・2期跡』
22	柏木川 5	遺物 包含地	縄文（早・中・後期）	
23	柏木川 6	遺物 包含地		
24	柏木川 7	集落跡	縄文（早・前・中期）	2009『柏木川7遺跡』
25	柏木川 8	遺物 包含地	縄文（中期）	1988『柏木川8遺跡』『柏木川13遺跡』
26	柏木川 9	遺物 包含地	縄文（中期）	
27	柏木川 10	遺物 包含地	縄文（中期）	
28	柏木川 11	遺物 包含地	縄文（中期）	1994『柏木川11遺跡（B）』
29	柏木川 12	遺物 包含地		
30	柏木工業団地1	集落跡	縄文（中・後・晩期）	
31	柏木工業団地2	集落跡	縄文（後期）、縄縄、縄文	
32	柏木工業団地3	集落跡	縄文	
33	柏木工業団地4	遺物 包含地	縄文	
34	西島松 1	遺物 包含地	縄文（前期）	
35	西島松 2	遺物 包含地	縄文（晩期）、縄文	平成21年度『西島松2遺跡』発行予定
36	西島松 3	集落跡	縄文（前～晩期）、縄文	1966『忠庭遺跡』 2007『西島松3・西島松5遺跡②』北川調朗248
37	西島松 4	遺物 包含地	縄文（後期）	
38	西島松 5	集落跡	縄文（早～晩期）、縄縄、縄文	1996『忠庭遺跡』 『西島松5遺跡・』(2)・(3)・(4)・(5)
39	西島松 6	遺物 包含地	縄文（前～晩期）、縄文	
40	西島松 7	遺物 包含地	縄文（早・中・後期）、縄文	
41	西島松 8	遺物 包含地	縄文	
42	西島松 9	遺物 包含地	縄文（早・中・後期）、縄縄	2002『西島松遺跡』 2002『西島松9遺跡』179集
43	西島松 10	集落跡	縄文（晩期）、縄文	
44	西島松 11	遺物 包含地	縄文	
45	西島松 12	遺物 包含地	縄文（中期）	
46	西島松 13	遺物 包含地	縄文	
47	西島松 14	遺物 包含地	縄文（中・後・晩期）	1993『西島松14遺跡』『西島松15遺跡』
48	西島松 15	遺物 包含地	縄文（中期）	1994『高松伸町遺跡』『西島松15遺跡B地点』
49	西島松 16	遺物 包含地	縄文	
50	西島松 17	遺物 包含地	縄文（中期）	1992『西島松17遺跡・西島松18遺跡』
51	西島松 18	遺物 包含地	縄文（中期）	1992『西島松17遺跡・西島松18遺跡』
52	島松寿町 1	遺物 包含地	縄文（後期）	
53	島松寿町 2	遺物 包含地	縄文（後・晩期）、縄文	1966『忠庭遺跡』
54	島松伸町	遺物 包含地	縄文（中期）、縄文	1994『島松伸町遺跡・西島松15遺跡B地点』
55	島松東町	遺物 包含地	縄文	
56	島松旭町 1	遺物 包含地		
57	島松旭町 2	集落跡	縄文	1966『忠庭遺跡』
58	島松旭町 3	遺物 包含地		

番号	遺跡名	種別	時期	文献（多数ある場合は新しいもの）
59	南島松 1	遺物包含地	縄文（早・中期）	1991『南島松1遺跡・南島松4遺跡』
60	南島松 2	遺物包含地	縄文（早・中・後期）、弥文	1992『中島松1遺跡・南島松4遺跡・南島松3遺跡・南島松2遺跡』
61	南島松 3	遺物包含地	縄文（中・後期）、弥文	1992『中島松1遺跡・南島松4遺跡・南島松3遺跡・南島松2遺跡』
62	南島松 4	集落跡	縄文、弥文	1992『中島松1遺跡・南島松4遺跡・南島松3遺跡・南島松2遺跡』
63	南島松 5	遺物包含地	縄文、弥文	
64	中島松 1	遺物包含地	縄文（早・中・後期）、弥文	1992『中島松1遺跡・南島松4遺跡・南島松3遺跡・南島松2遺跡』
65	中島松 2	遺物包含地	縄文	
66	中島松 3	遺物包含地	縄文	
67	中島松 4	遺物包含地		
68	中島松 5	集落跡	縄文（中期）、弥文	1990『中島松5遺跡B地点・中島松7遺跡C地点』 1989A地点
69	中島松 6	集落跡	縄文（中・後・晩期）、弥文	1988『中島松6・7遺跡』
70	中島松 7	集落跡	縄文（早・後期）、縄縄、弥文	1990『中島松5遺跡B地点・中島松7遺跡C地点』
71	下島松 1	遺物包含地	縄文	
72	下島松 2	遺物包含地	縄文、弥文	
73	下島松 3	遺物包含地	縄文	
74	下島松 4	遺物包含地	縄文	
76	ルルマップ川1	遺物包含地	縄文	
77	ルルマップ川2	遺物包含地	縄文	
78	ルルマップ川3	遺物包含地	縄文	
79	ルルマップ川4	遺物包含地	縄文	
80	ルルマップ川5	遺物包含地	縄文	
81	ルルマップ川6	遺物包含地	縄文	
82	ルルマップ川7	遺物包含地	縄文	
83	ルルマップ川8	遺物包含地	縄文	
84	ルルマップ川9	遺物包含地	縄文	
85	ルルマップ川10	遺物包含地	縄文、縄縄	
86	ルルマップ川11	遺物包含地		
87	ルルマップ川12	遺物包含地	縄文	
88	ルルマップ川13	遺物包含地	縄文	
89	ルルマップ川14	集落跡	縄文	
90	ルルマップ川15	遺物包含地	縄文	
91	下島松 5	遺物包含地	縄文	
92	下島松 6	遺物包含地	縄文、縄縄、弥文	
93	島松チャシB	チャシ跡		
94	島松チャシC	チャシ跡		
96	漁川 1	遺物包含地	縄文、弥文	
96	カリンバ 3	墳墓・集落跡	縄文（後・晩期）、弥文、近世	2003『カリンバ3遺跡①』
104	カリンバ 1	遺物包含地	縄文（中期）、近世（アイヌ期）	カリンバ1遺跡A・B・C・D・E地点
105	カリンバ 2	遺物包含地	縄文（早・中・後期）	カリンバ2遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ・Ⅵ・Ⅶ A・B・C・D・E地点
106	カリンバ 4	遺物包含地	縄文（後・晩期）、弥文、アイヌ	2001 1990 1997 1979 『カリンバ4遺跡』
107	柏木川 13	遺物包含地	縄文（早・中・晩期）、縄縄、弥文	2005『柏木川13遺跡①』 2003『柏木川13遺跡②』北沢潤報203
111	茂漁 3	集落跡	縄文（中期）、縄縄（2・D）、弥文（中期）	
112	茂漁 4	遺物包含地	縄文（後・晩期）、縄縄、弥文、近世	1977『茂漁4遺跡』
113	茂漁 5	遺物包含地	弥文（北大首）	1997『茂漁5遺跡』
114	ルルマップ 15	遺物包含地	縄文	1996『ルルマップ15遺跡』北沢潤報118
116	茂漁 6	遺物包含地	縄縄、アイヌ	
119	茂漁 7			
120	茂漁 8			
	史跡カリンバ遺跡	墳墓・住居跡	縄文（後・晩期）、縄縄、弥文、近世	2004『カリンバ3遺跡③』

## Ⅲ 調査の方法

### 1 調査区の設定

柏木川基幹河川改修工事におけるUSPラインを基軸に設定した。真北に対して $26^{\circ}51'1''$ 東偏するUSPラインをRラインとし、北西から南東方向に5mごとにアルファベットを付し、同様にUSP0を0とし、北東から南西方向に5mごとにアラビア数字を付した。5m×5mの区画(グリッド)の名称は、北東側交点をその名称とし、「B-25」のようにアルファベットとアラビア数字の間にハイフンをもうけ、遺構名と区別した。したがって、USP100はR-20、USP200がR-40となる(図Ⅲ-2グリッド設定図参照)。一連の遺跡である西島松2・3遺跡と柏木川の右岸にある西島松9遺跡もそのままこの調査区を用いているが、アルファベットのZを超える地域は、小文字のアルファベットを使用している。なお、基準杭の平面直角座標系第Ⅱ系による座標値は以下のとおりである。

USP0	(R-0)	: X = -121292.638	Y = -55345.279
USP100	(R-20)	: X = -121381.857	Y = -55390.445

### 2 掘削

平成14年度の西島松5遺跡の調査区は、住宅基礎の攪乱を受けるが、耕作はされていないため、包含層の残りが比較的良好、縄文時代後期末葉の盛土遺構も広がっていることから、掘り下げはすべて人力で行った。平成15・16年度の調査区は、遺構確認区で調査区内の立木を伐採したのち、様々な攪乱の及んだI層は、重機で除去した。包含層から出土した遺物はグリッド、層位ごとに取り上げ、遺構の遺物は、出土状況や遺物の性格により、記録したものと、遺構内の層位でまとめて取り上げたものがある。

### 3 土層

基本土層は、平成12年度の西島松5遺跡の調査における観察結果と基本的に同じであり、観察項目、観察手順とも前報告書(北埋調報178 Ⅲ、調査の方法 3.土層)に準拠している。ただ、堅穴住居の窪みや、調査区縁の一部には、Ta-aが残り、Ⅱ層も良好な状態で堆積していた。良好な堆積のⅡ層観察の結果、次の3層に分層されることが判明し、上層からⅡA層、ⅡB層、ⅡC層と区分して、調査し、遺物の取り上げを行った。なお、土層の観察には『標準土色帖』(小山・竹原1967)および『土壌調査ハンドブック』(ペドロジスト懇談会1984)を用いている。

I 層:耕作土 地表土、Ta-a、Ⅱ層、Ⅲ層、Ⅳ層が耕作などで混ぜられた攪乱層。

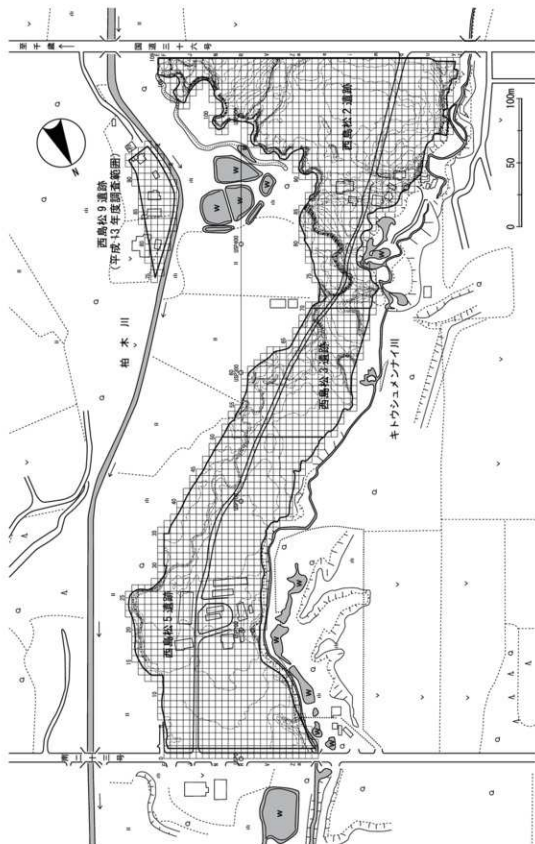
樽前a降下軽石層(Ta-a A.D. 1739年降下)

Ⅱ 層:黒色腐植土

ⅡA層:黒色土層で乾燥すると白っぽくなる。B-Tm苦小



図Ⅲ-1 基本土層模式図



図Ⅲ-2 グリッド設定図

牧火山灰層が微量混入する。主に縄文時代～擦文時代の遺物が含まれる。

Ⅱ B層：暗褐色土層で、T a - c（樽前C降下軽石。B P 2,300～2,500年降下）が微量混入する。主に縄文時代後期～晩期の遺物が混入する。

Ⅱ C層：黒褐色土層で、粒子が細かく、軟質土である。主に縄文時代早期～後期の遺物が含まれる。

Ⅲ 層：暗褐色～暗黄褐色土 Ⅱ層とⅣ層の漸移層

Ⅳ 層：支笏軽石（約32,000年前降下）が、恵庭 a 降下軽石（E n - a 15,000～17,000年前降下）を取り込んで二次堆積し、土壌化した層。

## 4 整理の方法

取り上げた遺物は、現地では原則として以下の作業工程で整理を行った。遺構・包含層それぞれの「遺物取り上げ台帳」、および「土壌水洗サンプル取り上げ台帳」を作成し、これをもとに水洗、乾燥、分類、注記、点数集計等の作業を進めた。注記の内容は、西島松5遺跡を「西5」と略記し、その後に遺構名あるいはグリッド名、層位、遺物番号の順に記した。注記するスペースのない、小さな遺物については省略した。

遺物の出土グリッド、層位、点数、分類名、日付などの情報は「遺物カード」に記録し、遺物とともにビニール袋へ入れ、収納した。カードの情報は遺構ごと、分類ごとの情報を集計し、最終的な遺物台帳を作成した。

## 5 記録と保管

現地での実測図・土器・石器などの実測図、写真などの記録は当センターにおいて保管する。遺物は報告書刊行の後、恵庭市教育委員会が保管予定である。

## 6 遺物の分類

### (1) 土器

土器は大きな区分である時期ごとの特徴から、便宜的に縄文時代早期に属する資料をⅠ群とし、以下順に前期をⅡ群、中期をⅢ群、後期をⅣ群、晩期をⅤ群、続縄文時代をⅥ群、擦文時代相当のものをⅦ群、その他土製品とし、各群にアルファベットの小文字を組み合わせ、前半（a類）、後半（b類）、あるいは前葉（a類）、中葉（b類）、後葉（c類）に分類した。また、必要に応じて細分類（例 a-1類など）を行っている。

#### Ⅰ群 縄文時代早期に属する土器

a類：貝殻条痕文、貝殻文、組紐圧痕文、などが施される、虎杖浜式、アトトリ式などに相当するもの

b類：撚糸文、組紐圧痕文、絡条体圧痕文、貼付文、縄文等の施されるもの

Ⅰ群b類は、b-3類：コックロ式、中茶路式に相当するもの、b-4類：東鋼路Ⅳ式に相当するものに細分

#### Ⅱ群 縄文時代前期に属する土器

a類：厚みがあり、縄文原体（0段多縄が多い）は条の幅が広く、地文の縄文が器面に深く施文される、丸底、尖底を特色とするもの。本遺跡では静内中野式前後に相当するものが出土

- b類：円筒土器下層式に相当する土器で、植苗式相当とみられるものが出土
- Ⅲ群** 縄文時代中期に属する土器（中葉前後の破片が多く、分類はⅢ群で行っているものが多い）
- a類：貼付文及び沈線文で文縁帯が構成される、円筒土器上層式に相当、もしくはその系譜を引くと考えられるもの、および萩ヶ岡1・2式に相当するもの
- b類：天神山式、柏木川式、北筒式（トコロ6類）、煉瓦台式に相当するもの
- Ⅳ群** 縄文時代後期に属する土器
- a類：余市式、タブコブ式、入江式に相当するもの
- b類：ウサクマイC式、手稲式、ホッケマ式に相当するもの
- c類：堂林式、三ツ谷式、御殿山式に相当するもの
- Ⅴ群** 縄文時代晩期に属する土器
- a類：大洞B式、大洞B'式、及び主に半截竹管状工具による器表面への垂直な刺突（爪形文と呼称）が施される上ノ国式に相当するもの。遺跡出土の本類とみられる土器と、Ⅳ群c類後葉の土器との識別が困難なことから、復元などで確実なものをのぞきⅣ群c類に分類、詳細は一覧表で示した
- b類：大洞C'式、大洞C'式に相当するもの
- c類：大洞A式、大洞A'式に相当するもの
- Ⅵ群** 統縄文時代に属する土器群
- Ⅶ群** 縄文時代に属する土器群（北大Ⅲ式土器群も含めた）

(2) 土製品

土偶、土玉、垂飾、耳栓、環状土製品、ミニチュア土器、焼成粘土などに分類している

(3) 石器等

石器等は昨年度の本遺跡の報告（北埴調報第209集）の分類項目に加え、恵庭市を始め近隣の市町村の調査報告を参考に以下のように分類した。分類は素材の状態から剥片石器、磨製石器、礫石器、石製品に大別し、定型的な器種について分類した。器種は大分類にとどめ、記号などを用いた細分は行っていない。なお本文中の記載順も以下のとおりである。

**剥片石器**

- ・石鏃・石槍またはナイフ・石錐・つまみ付きナイフ・スクレイパー類・Rフレイク
- ・Uフレイク・楔型石器（剥片の上下両端に加撃痕と摩滅痕があるもの）・石核
- ・フレイク
- ・原石（主に頁岩、珪岩、メノウなど、石器素材として持ち込まれたとみられる礫）

**磨製石器**

- ・石斧（明瞭な刃部が作出されず、打欠きなど粗く調整されるものを未製品として区分した。また概ね2分の1以下の破片を石斧片とした。）
- ・石斧原石（緑色泥岩、緑色片岩を素材とし、ほとんど加工が認められないもの）

**礫石器**

- ・たたき石、砥石、すり石、石皿、扁平打製石器、台石、石鋸、石錘、その他（上記の分類に含まれないもので、礫を素材とする石器）

**石製品**

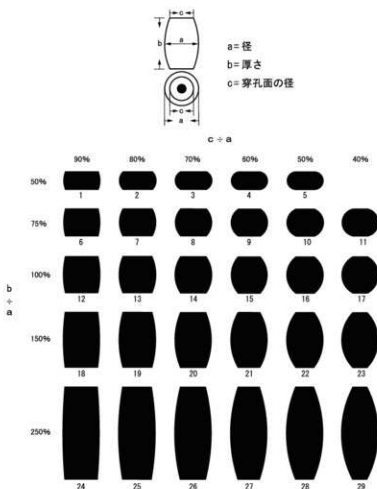
- ・異形石器、石棒、石刀、のほか、玉・垂飾類、ツノガイ化石やしずく石に穿孔をくわえたものがみられた。石棒と石刀の区別は、製品の最も太い部分の短径を長径で割った比率が6割以下のもの



のを石刀とし、それより割合が大きいものを石棒とした。この結果石刀となったのはP433出土の1例であった。遺構から出土した玉・垂飾類は、かざられた時期の遺物であるうえ、点数も1,500点を超える量が出土しており、縄文時代後期後葉の玉類を分類するには良い機会と考え、さらに次のように細分を試みた。

## 7 玉・垂飾類の分類

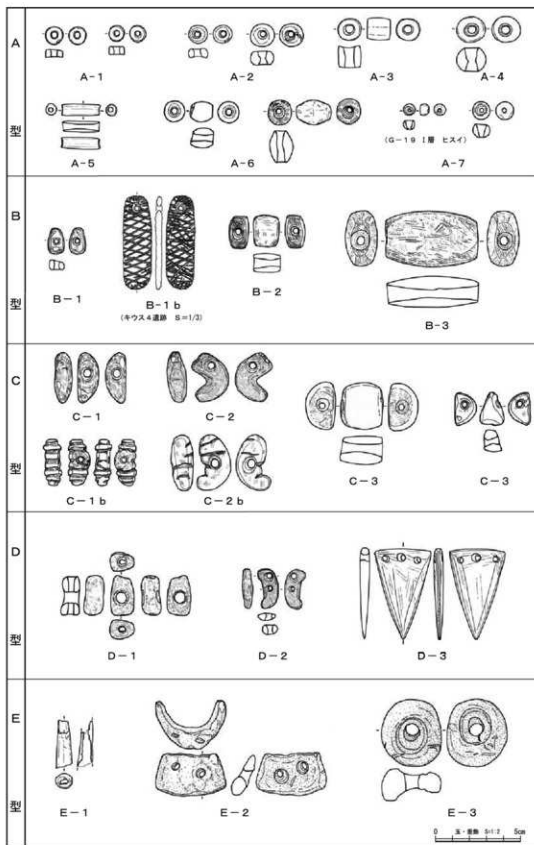
玉・垂飾類を分類するにあたり、まず、穿孔のある方向から個々の製品の観察を行い、ほぼ円形のをA型、長軸を縦にして左右対称形のをB型、長軸を縦にして左右非対称形のをC型、穿孔が2ヵ所以上あるものをD型、化石や自然石(半石など)を利用したものをE型とした。なお、A型としたほぼ円形の玉の範囲は、厳密な円形のものには存在しないため、その長径と短径の差を15パーセント以内と緩やかな設定とし、これからはみ出るものはB型とした。なお、穿孔が中心をせているものや、穿孔しなおしのあるものもA型とした。結果としては出土した玉類の約9割がA型に大別された。次に、A型とされた玉類の厚み(b)を長径(a)で割った値で玉の長短の割合を、穿孔面の径(c)を長径(a)で割った値でおおよその側面の湾曲度を数値化した。これらの数値の前者を縦軸に、後者を横軸にし、玉の側面観を模式的に図化したものが下の模式図である。これをもと側面観からA型の玉を数値的に次のように分類した。また、B、C、D、E型の細分についても以下のように設定した。



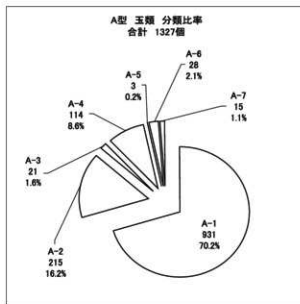
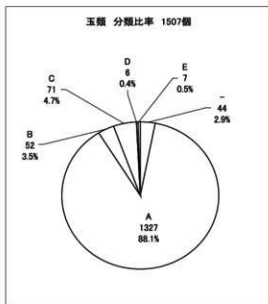
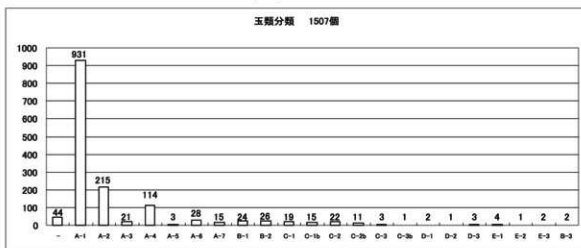
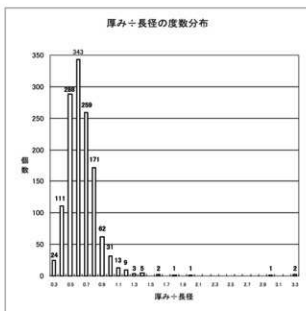
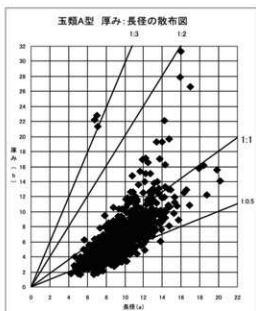
図III-3 玉類分類模式図

- A-1型** : 厚さが100%より小さく屈曲度が80%より大きいもの、ただし厚さが75%以上100%未満のものは屈曲度70%までのもの。模式図では1、2、6、7、8を指し、おおむね白玉状の玉が該当する。
- A-2型** : 厚さが75%未満で屈曲度が70%より小さいもの、模式図では3、4、5を指し、角が丸い白玉状の玉が該当する。
- A-3型** : 厚さが100%以上200%未満、屈曲度が80%以上のもの。模式図では12、13、18、19をさし、白玉と管玉の中間的な形状の玉類が該当する。
- A-4型** : 厚さが75%以上100%以下で、屈曲度が50%以下のもの、厚みが75%以上100%未満のものは屈曲度60%までのもの、模式図では9、10、11、16、17を指し、おおむね丸玉状の玉が該当する。
- A-5型** : 厚さが200以上で、屈曲度が60%以上のもの、模式図では24、25、26、27を指し、おおむね管玉状の玉が該当する。
- A-6型** : 厚さが100%以上200%未満、屈曲度が70%以下60%以上のものと、厚さが150%以上250%以下で、屈曲度が50%以下のもの、模式図では14、15、20、21、22、23、28、29を指し、おおむね環玉状の玉が該当する。
- A-7型** : 模式図では両方向から穿孔された玉類を対象としており、これとは別に片側穿孔で側面観がおわん形の玉、主にヒスイ製の硬い素材を用いた玉が該当する。
- B-1型** : 長軸と短軸の差が15%以上の玉で、厚さを短軸で割った値が100%以下のもの。
- B-1b型** : B-1型の表面に文様が刻まれたもの。
- B-2型** : 上記の玉で、厚さを短軸で割った値が100%以上200%以下のもの。
- B-3型** : 上記の玉で、厚さを短軸で割った値が200%以上のもの。
- C-1型** : 長軸を縦に左右非対称形の玉類のうち、挟りが無く、短軸より厚みが薄いものをさす。
- C-1b型** : C-1型の表面に文様が刻まれたもの。
- C-2型** : 長軸を縦に左右非対称形の玉類のうち、片側に挟りがある主に勾玉状の玉類。
- C-2b型** : C-2型の表面に文様が刻まれたもの。
- C-3型** : 長軸を縦に左右非対称形の玉類のうち、厚さを短軸で割った数値が100%以上のもの。
- D-1型** : 交差する2ヵ所の穿孔が施されるもの。
- D-2型** : 並んだ2ヵ所の穿孔が施されるもの。
- D-3型** : 3ヵ所以上の穿孔が施されるもの。
- E-1型** : 化石を利用したもの。本遺跡ではツノガイ化石に穿孔を加え利用したものが出土。
- E-2型** : 化石以外の自然石に穿孔などの加工を加え装身具としたもの。
- E-3型** : 自然石をそのまま装身具としたもの。

以上が出土した玉類・垂飾類の分類基準である(図Ⅲ-4玉・垂飾類分類図参照)。基本的には、ある形状に分類された玉に文様が刻まれれば、b類を追加する。なお、この分類には、計測点によりデータ誤差が生じること、左右対称形の基準が必要なこと、A分類の模式図のカーブを一律弧線状にしたが、現状にはより多様性があり、さらに細分の余地があること、C-3分類も側面観の形状より細分が可能なことなど、玉どうしの擦り減り(以下玉ズレ)が激しいものの扱いなど、問題点は多いが、荒削りではあるがこの分類で分けた結果をグラフ化したものが図Ⅲ-5である。



図III-4 五・垂飾類分類図



図Ⅲ-5 玉・垂飾類集計グラフ

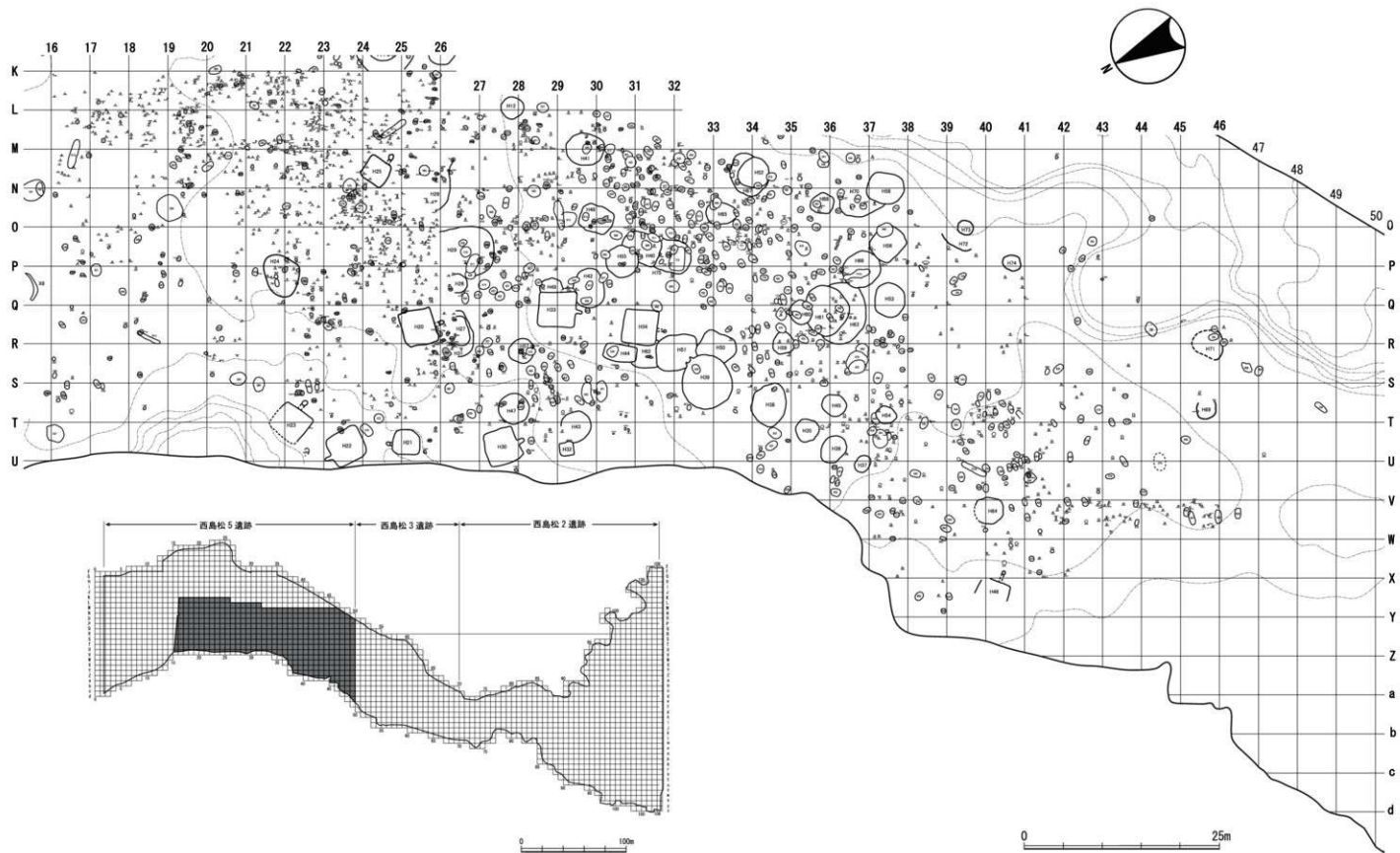
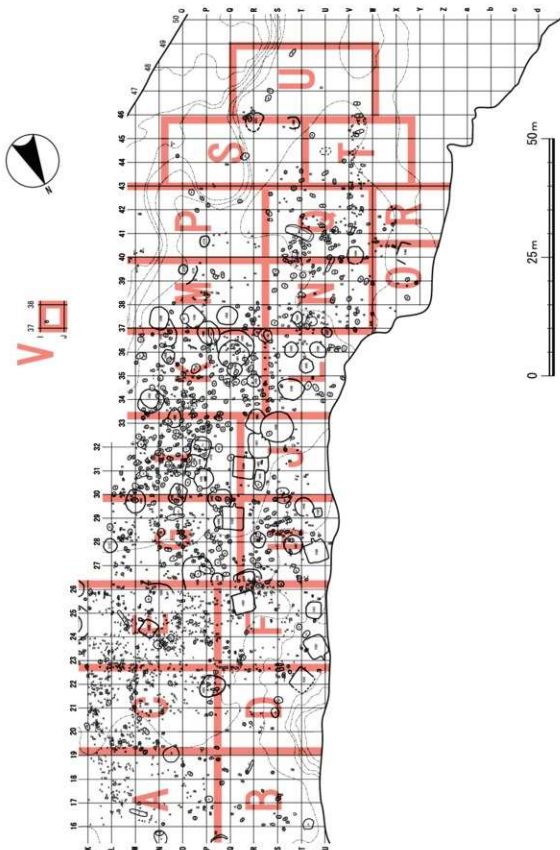
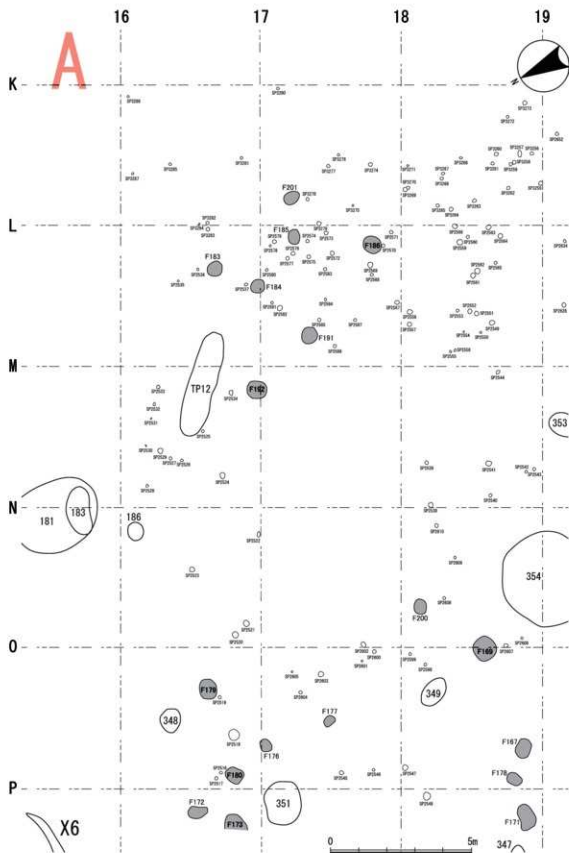


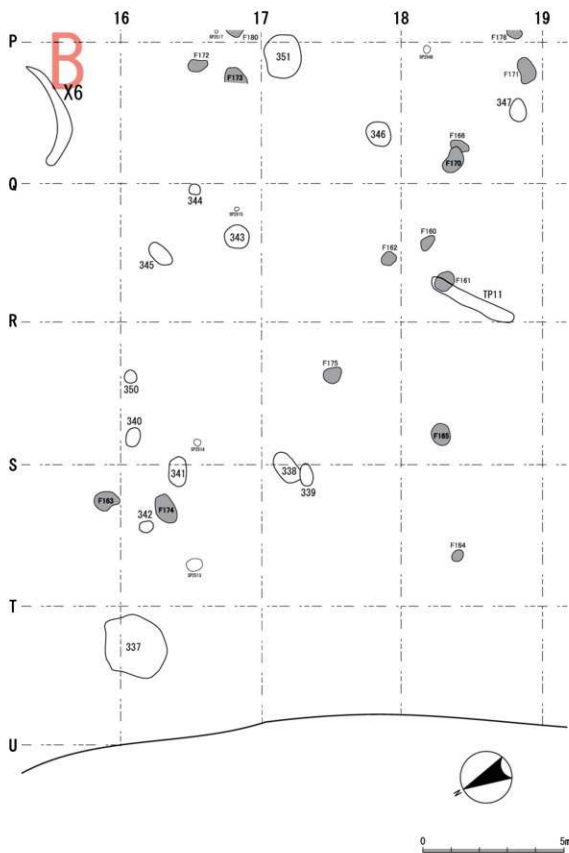
图 III-6 遺構位置全体图



図III-7 遺構位置分割図

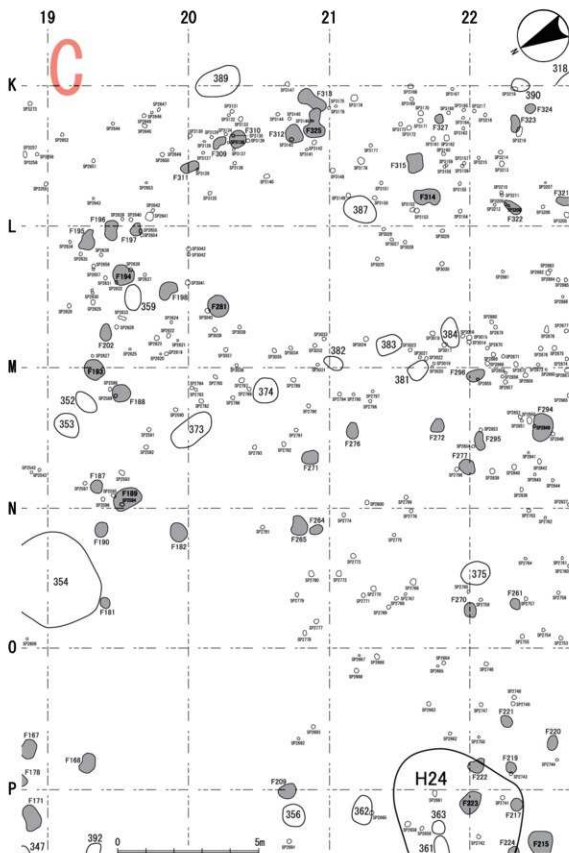


图Ⅲ—8 分割图A

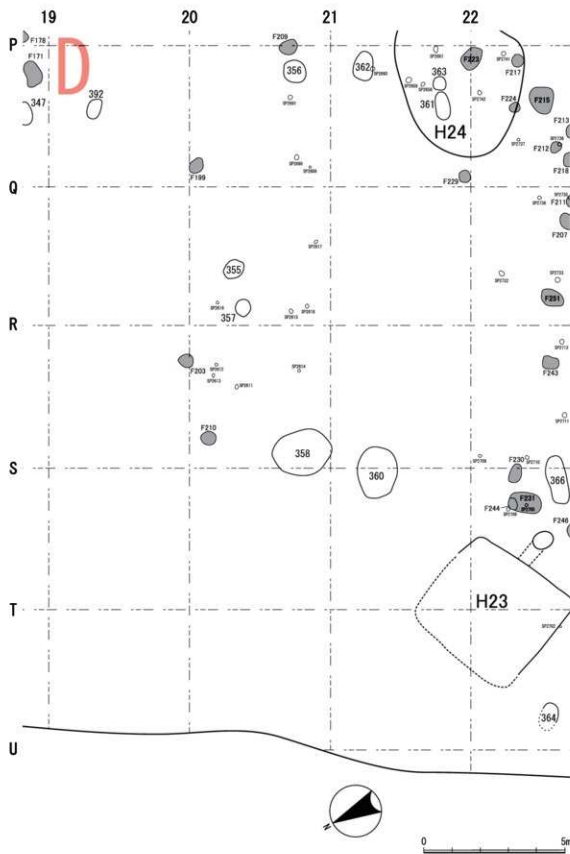


図III-9 分割図B

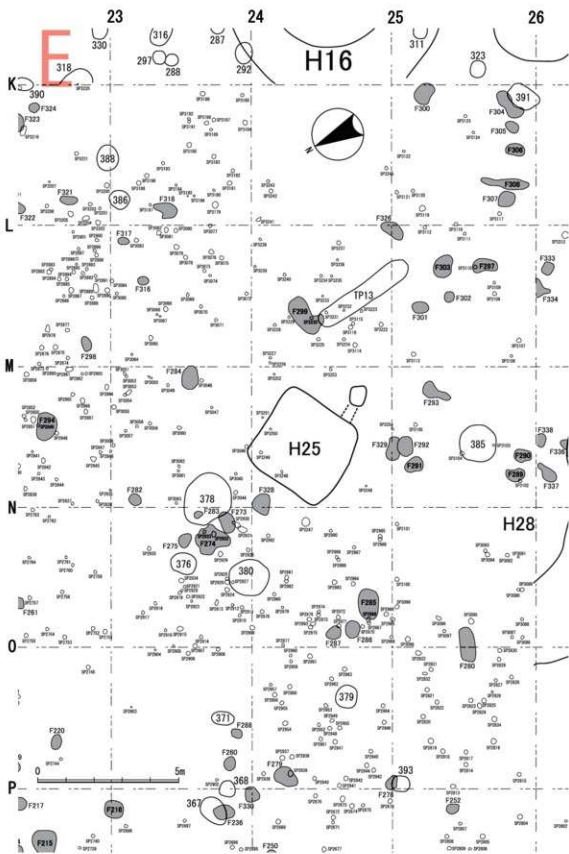




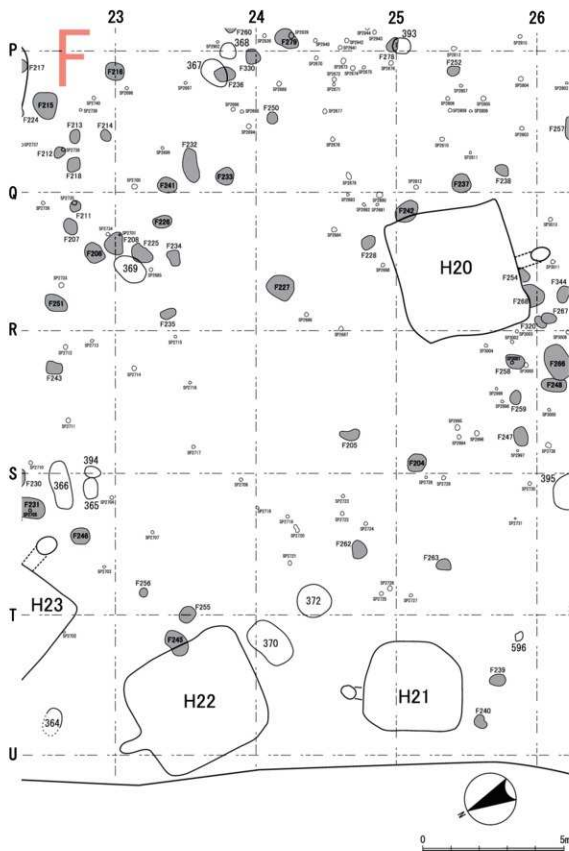
图Ⅲ-10 分割图C



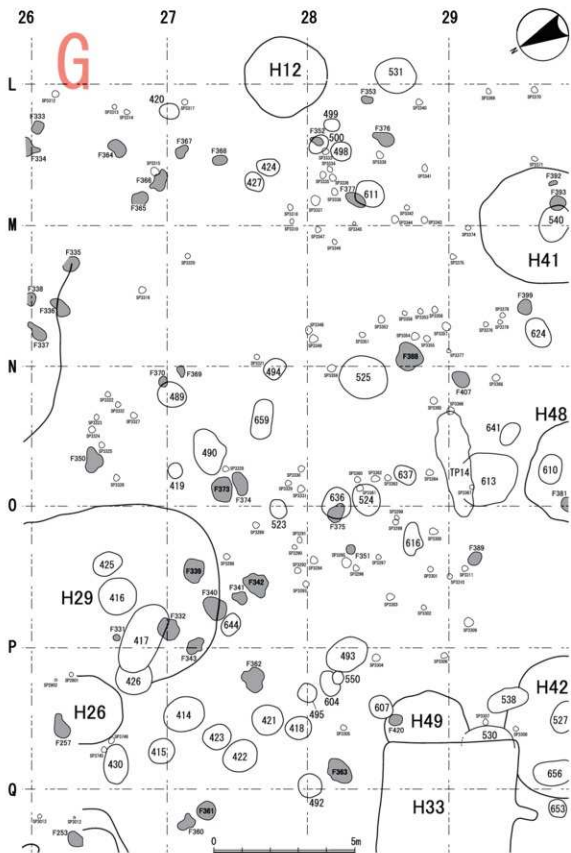
図Ⅲ-11 分割図D



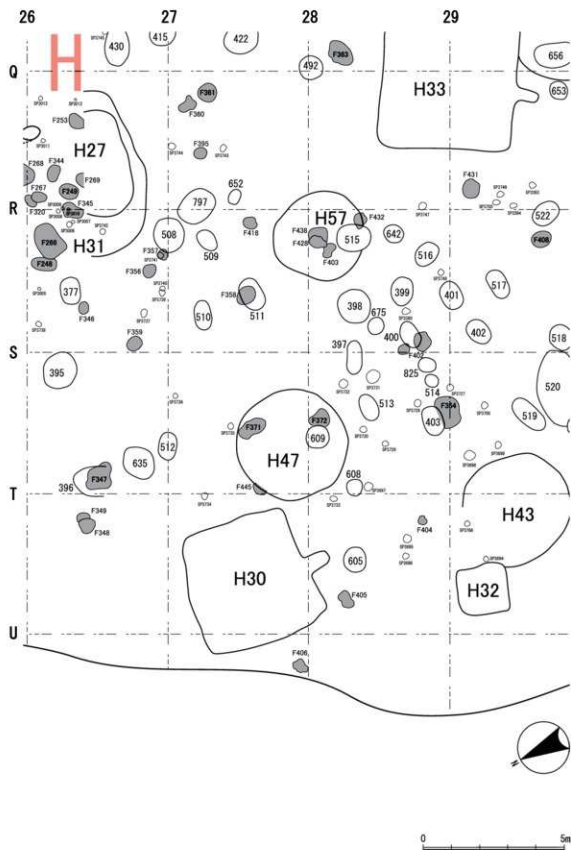
图Ⅲ-12 分割图 E



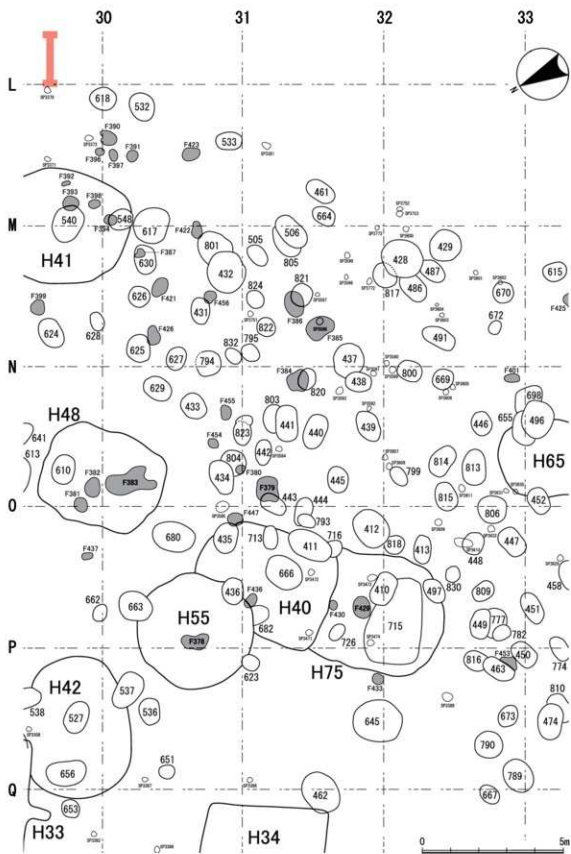
図Ⅲ-13 分割図F



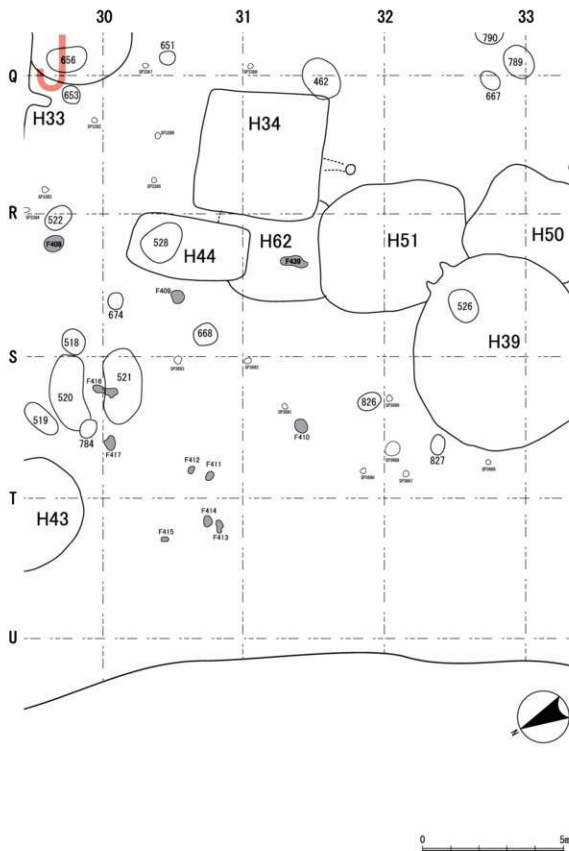
图Ⅲ-14 分割图G



図Ⅲ-15 分割図H



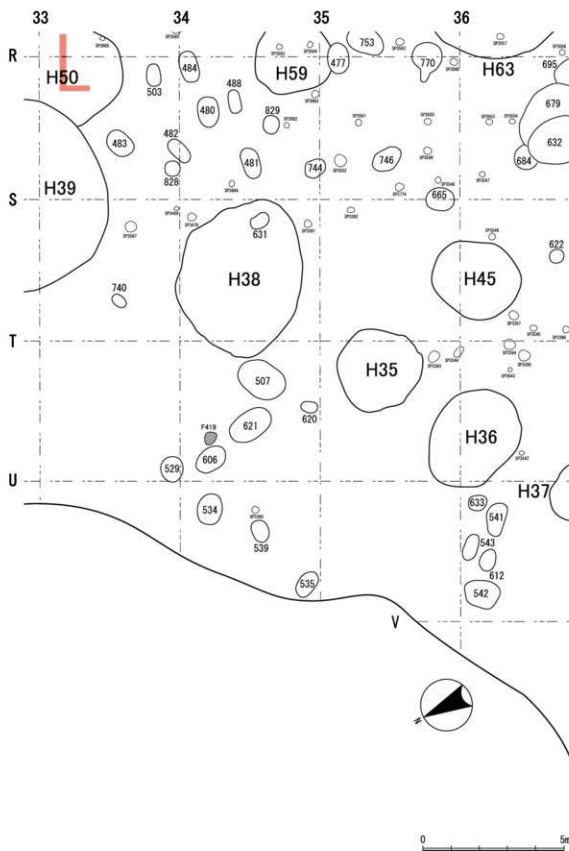
图Ⅲ-16 分割图 I



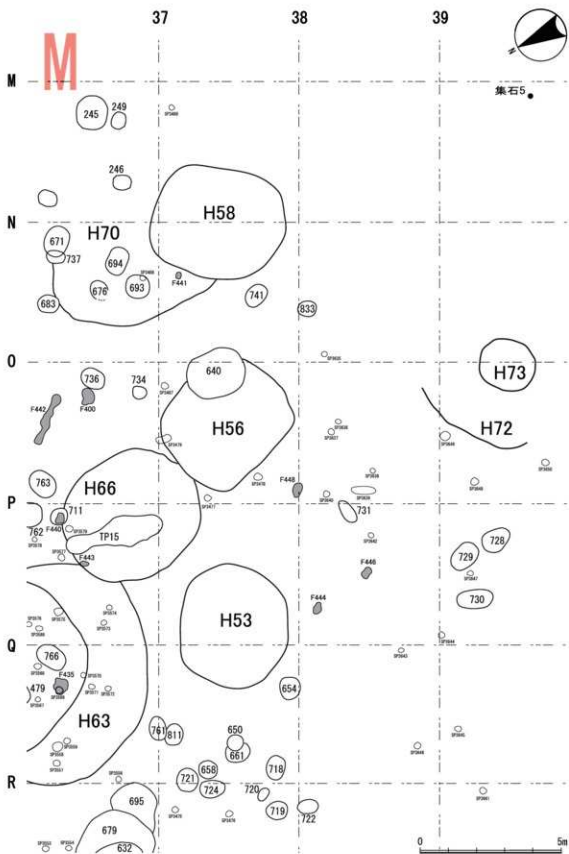
図Ⅲ-17 分割図J





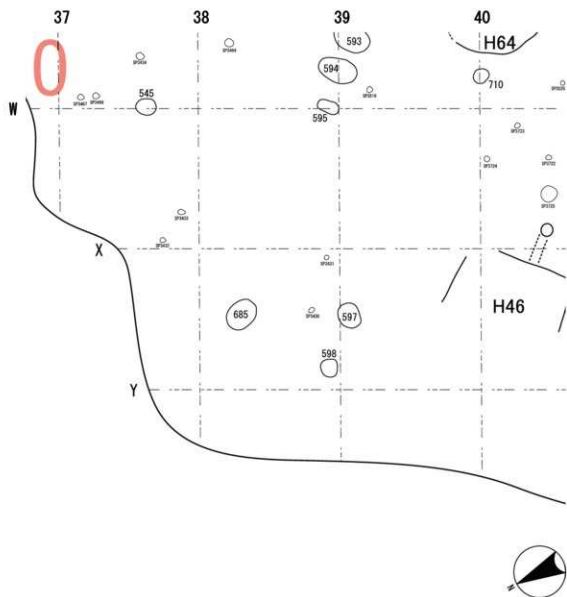


図Ⅲ-19 分割図L

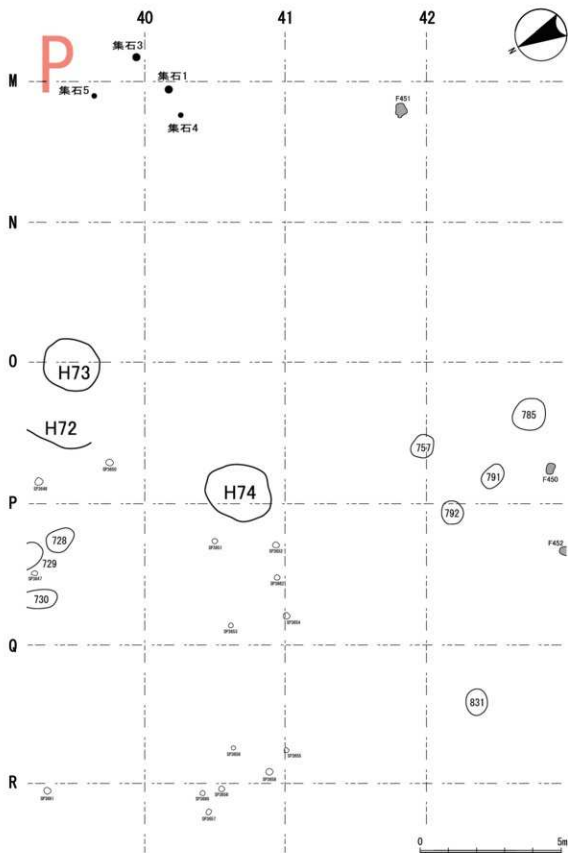


图Ⅲ—20 分割图M

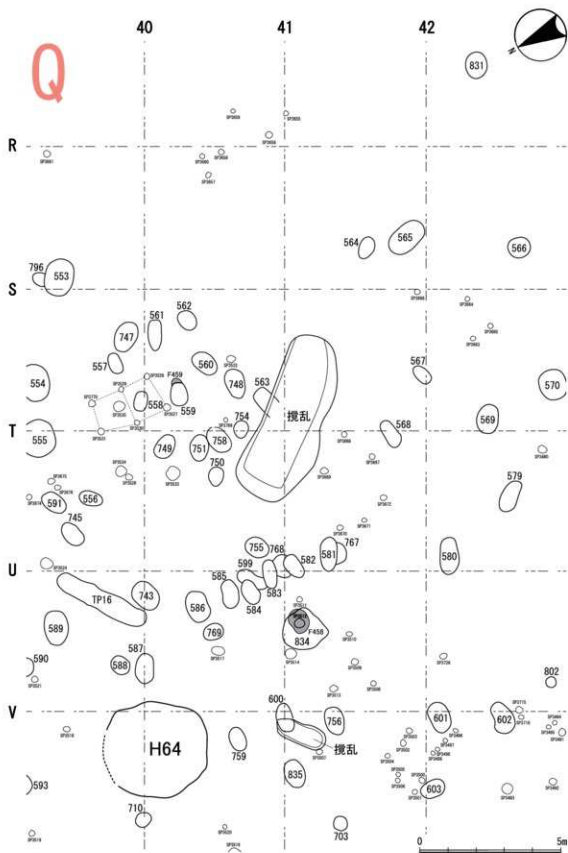




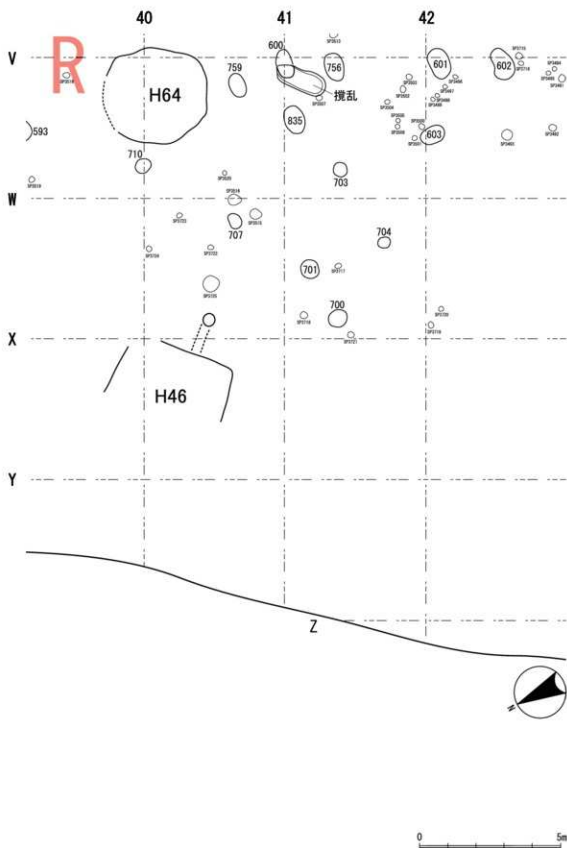
图Ⅲ—22 分割图○



図Ⅲ-23 分割図P

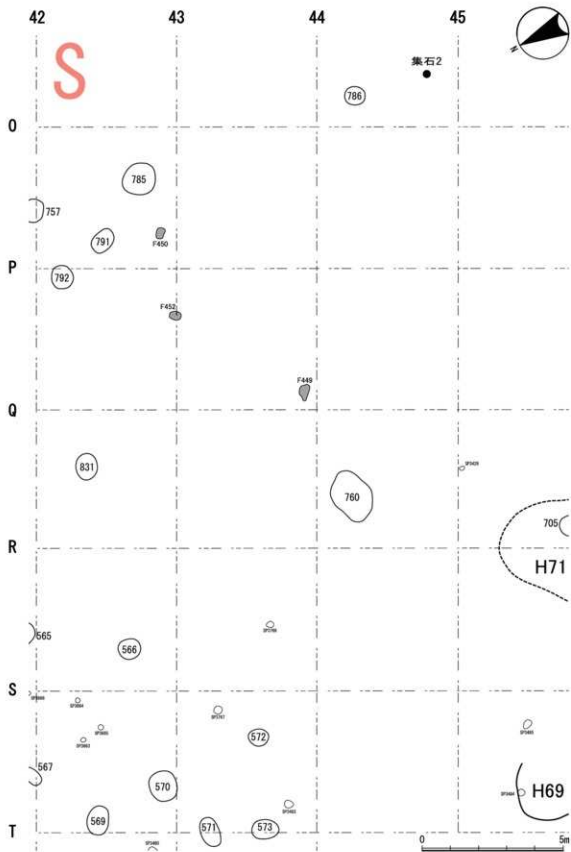


图Ⅲ—24 分割图Q

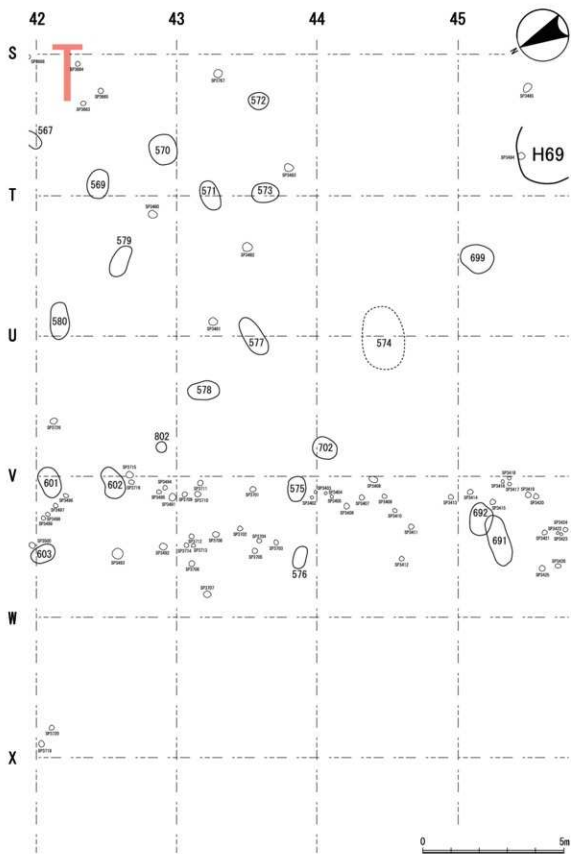


図Ⅲ-25 分割図R

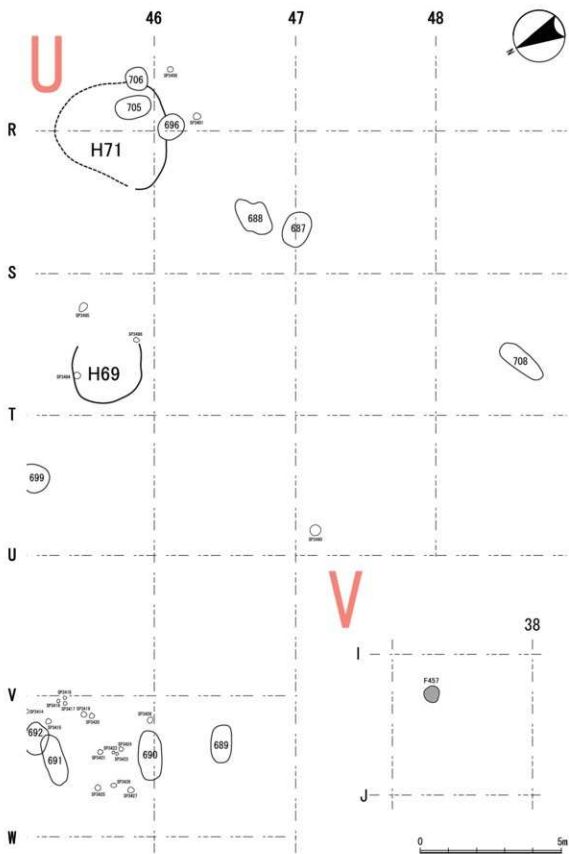




图Ⅲ-26 分割图S



図Ⅲ-27 分割図丁



图五—28 分割图 U · V

## IV 遺構と遺物

### 1 概要

平成14・15・16年度に調査した土坑495基、Tピット6基、焼土299ヵ所、小ピット1,257基、集石遺構5基について報告する。調査区内のうち、もと西島松3遺跡は造成によりIV層深部まで削平を受け、多くの遺構が失われている。一方、平成14年度の調査範囲は元地権者の家屋敷地であり、建物跡や防空壕の跡などの局地的な擾乱を受けてはいるが、それ以外の場所は包含層の残りが良好だった。この地域は、縄文時代後期後葉の遺物を多量に含む盛土遺構（MC盛土）の範囲と重なり遺構の確認が難しい状況であった。結果として遺構分布図上でも遺構の密度に差が生じたが、調査区境には、縄文時代前期・中期・後期の住居址やMC盛土層を掘りぬく円形土坑が続いていたとみられる。また、本報告の遺構図は、なるべく番号順の掲載に努めたが、遺物の量により土坑番号が前後している部分がある。

### 2 土坑

第一分冊では、平成14年度に調査した土坑P337からP394、平成15・16年度に調査した土坑P395からP835合計495基の土坑を報告する。

#### P337 (図2 図版8)

**遺構** III層で確認された長径約220cmの不整形の浅い土坑である。平面形の西側は擾乱層につられ掘りすぎたもの。覆土下位には少量のIV層起源のバミスが少量混じる黒色土が堆積し、IV層との境は明瞭である。坑底部中央より縄文時代前期前半の静内中野式相当の破片が出土、破片の大半は4の個体になった。本土坑周辺から西側のキトウシメナイ川縁にかけて、同時期の遺物がまぎらって出土していることから、本土坑は住居址の窪みの一部であった可能性もある。同時期の柱穴とみられるP342が隣のグリッドで検出されており、両遺構は関係があるのかもしれない。

**遺物** 出土した土器片には中・後期の破片がわずかに入るが、圧倒的に静内中野式相当の破片が多い。1は覆土中出土の黒曜石製のスクレイパー、2～4は静内中野式相当の土器。いずれも胎土には繊維を含み、4に施された縄文は斜行であるが、一部の筋が摩り消されており、より古い縄文式に似る特徴を持つ。同じように筋をつぶした資料が56号住居（北埋調報224）や包含層出土の資料（北埋調報248）にみられる。

#### P338 (図3 図版9)

**遺構** III層面で確認した小判型を呈する土坑。覆土にはII層起源の黒色土が入る。接するように位置するP339をわずかに切る。III層からの調査なので深さは約10cmしか確認できなかった。出土遺物から後期後葉以降の土坑とみられる。

**遺物** 覆土中から中期・後期後葉の土器片少量と、フレイク

3点が出土している。

#### P339 (図3 図版9)

**遺構** III層面で確認した楕円形を呈する土坑。隣接するP338に切られている。覆土にはII層起源の黒色土が入る。深さは約8cmしか確認できなかった。

**遺構** 覆土から遺物は出土していない。土坑の特徴が隣に位置するP338に類似することから、縄文時代後期後葉と推定した。

#### P340 (図3 図版9)

**遺構** III層面で確認した楕円形の土坑。覆土下位にはIV層起源の暗褐色土が入り、上位にはII層起源の黒褐色土が落ち込む。検出面にはやや大きな礫が入る。深さは70cmを超えており、断面図太線部分で柱穴と推定している。

**遺物** 覆土中からは中期の土器片21点のほか、礫が5点出土。土器から判断すると縄文時代中期のものともみられる。

#### P341 (図3 図版8・9)

**遺構** III層面で確認した楕円形の土坑。覆土下位にはIII層・IV層が混じる暗褐色土層が入り、最上層にはII層が皿状に落ち込む。検出面付近はやや不整形だが、土坑の中位ぐらいからは隅丸方形に掘られている。坑底付近の南東壁面には長径30cmを超える礫が長軸にそって1点ある。土坑の深さは約80cmあり、形状からも墓の可能性もある。

**遺物** 覆土中からは中期の円筒上層式とみられる破片が1点

(掲載No1)、一部焼熱した(トーン表現)すり石(掲載No2)1点が出土した。出土遺物から判断すると、縄文時代中期の墓と考えられる。

#### P342 (図4 図版8・9)

遺構 Ⅲ層面で確認したほぼ円形の土坑。覆土上位にはⅡ層の落ち込み、覆土下位はⅢ・Ⅳ層が混じる暗褐色土層が入る。平面形は小さいが深さがあり、柱穴状である。

遺物 覆土から静内中野式相当の破片1点出土したほか遺物はない。遺構の時期も縄文時代前期前半とみられる。P337との関連が考えられる遺構である。

#### P343 (図4 図版8・9)

遺構 Ⅲ層面で確認したやや隅丸方形の土坑。覆土上位にはⅡ層が落ち込み、覆土下位はⅢ・Ⅳ層が混じる暗褐色土層が入る。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは少量のフレイクのほか、縄文時代中期の土器片のみが43点出土した。1は口縁部片で、胎土に繊維を含み、内面はみがかれている。口縁部の貼り付けは地紋を施した後貼付し、縄の圧痕を施している。2は胴下部片で、胎土には砂粒を含み、内面はみがされていない。

#### P344 (図4 図版10)

遺構 Ⅲ層面で確認したほぼ円形で坑底面も平らに掘られた土坑。覆土上位はⅡ層起源の黒褐色土、覆土下位はⅡ・Ⅲ・Ⅳ層が混じる黒褐色土層が入る。出土遺物から縄文時代後期後葉としており、同時期の土坑はまとめて検出されており、このような形状で、単体で存在する土坑は後北C<sub>2</sub>D式期のもつと推測する。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点、後期後葉の破片3点が検出されている。

#### P345 (図4 図版10)

遺構 Ⅲ層面で確認した楕円形の土坑。覆土上位にはⅡ層が落ち込み、覆土下位はⅢ・Ⅳ層が混じる暗褐色土層が入る。出土遺物から縄文時代中期とみられる。

遺物 覆土から縄文時代中期の破片12点出土したほかフレイクが6点出土している。

#### P346 (図5 図版10)

遺構 Ⅲ層面で確認した楕円形の土坑。覆土最上位にはローム粒を含むⅡ層が落ち込み、覆土下位はⅢ・Ⅳ層が混じる黄褐色土層が厚く入る。坑底も平らに調整され、土層は埋め戻しの様相を呈する。出土遺物から判断すると縄文時代中期の墓とみられる。

遺物 覆土からは礫1点のほか、縄文時代中期の破片21点が出土した。

#### P347 (図5 図版10・11)

遺構 Ⅲ層面で確認した不整形の土坑。坑底面も凹凸があり、覆土は全般にⅡ層が主な黒色土層である。覆土中には遺物が多数含まれる。出土遺物の新しいもので縄文時代晩期中葉の土坑とみているが、近現代の擾乱の可能性がある。

遺物 覆土からはスクレイパー1点(掲載No1)のほか縄文時代後期後葉の土器片が76点、これにまぎれるように晩期中葉の破片が2点出土した。掲載2は晩期中葉の口縁部片、器形は浅鉢の可能性が高い。3は後期後葉の無紋の鉢口縁部片で、突き縁がある。4は沈線文が施された鉢の破片である。

#### P348 (図5 図版10・11)

遺構 掘削の穴を抜いた時点で壁面に断面が目視でき確認した土坑。平面形は円形に近かったものとみられる。覆土上部には焼土があり、焼骨もみられる。焼土下にはⅡ層が混じる黒褐色土層ははいり、断面に雑や土器が見える状況であった。出土遺物から判断すると後北C<sub>2</sub>D式期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは礫3点のほか土器は後期後葉の破片が11点、後北C<sub>2</sub>D式の破片が2点出土している。掲載1は、後北C<sub>2</sub>D式の口縁部片で、口縁部の添付帯は1本で、微隆起線紋には本体と異なる白色の粘土が利用されている。

#### P349 (図6 図版11)

遺構 Ⅲ層面で確認した小判型の土坑。覆土はローム粒をわずかに含むⅡ層の落ち込みで、坑底面は皿状に窪む。出土遺物から縄文時代晩期中葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは後期後葉の破片が32点、晩期中葉の破片2点が出た。掲載1は後期後葉の深鉢口縁部片で、沈線文の間を棒状工具で連続刻突したもので、三ツ谷式期相当とみられる破片。2は口唇部に棒状工具による刻みが施された晩期中葉とみられる破片である。

#### P350 (図6 図版11)

遺構 掘削下のⅣ層面で検出した円形の土坑。覆土は黒色のⅡ層の落ち込みで、坑底面は平らである。出土遺物から後期後葉のものとしたが、形状は後北C<sub>2</sub>D式期の土坑である可能性がある。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片4点と後期後葉の破片1点が出土している。

#### P351 (図6 図版11)

遺構 Ⅲ層面で検出した直径150cmほどの円形の土坑。覆土にはパミスを含む黒色土層ははいり、坑底にも根痕も見られるため中期の土坑とした。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片18点と後期後葉の破片2点が出た。1は天神山式期相当の口縁部片で、口唇に半線

竹管による押し引き文が施される。

#### P352 (図7 図版11・12)

**遺構** N層面で検出した長径約90cmの楕円形の土坑。覆土は全般にローム粒を含む黒色土層が堆積する。遺構の残りは悪いが、覆土から出土した多数の土器片には後北C<sub>2</sub>D式期の破片が含まれており、同時期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片2点と後期後葉から晩期前葉の破片91点、後北C<sub>2</sub>D式の破片4点が出土。1は御殿山式相当の復元個体であるが、本土坑からは破片2点のみ接合し、あとは包含層の遺物である。爪形文で区画された文様帯には曲線文が施される。2～5は胴部にくびれを持つ深鉢片。2には遺構から1片が接合している。小波状の口縁部に沈線文が施される。3～5は同一個体、これも遺構からは1点が接合したのみで、文様帯の境目に、竹管状工具による三日月形の細かな刺突が施される。2～5は破片の厚さから三ツ谷式相当と見られる。6は鉢形土器片、文様には三叉文もみられる。7は後北C<sub>2</sub>D式の底部片。本土坑から3点と隣に位置するP353から1点接合した。

#### P353 (図8 図版11・12)

**遺構** N層面で検出した直径約90cmのほぼ円形の土坑。覆土はローム粒を含む黒色土層がはいる。隣にあるP352と同様にM<sub>2</sub>C盛土層を掘りぬく土坑で、覆土からは後期後葉の破片が多数検出された。出土遺物から判断すると後北C<sub>2</sub>D式の土坑と考えられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片1点と後期後葉から晩期前葉の破片82点、後北C<sub>2</sub>D式の破片5点のほか石器が少量出土。1は黒曜石製で、縄文時代中期の石槍か。2～4は三ツ谷式～御殿山式に相当する小形の鉢の破片で、2は口縁部に沈線文がめぐる。このほかP352-7に掲載した底部片に本土坑の破片が含まれている。

#### P354 (図8 図版13)

**遺構** N層面で検出した長径約4mの楕円形の大型土坑。覆土位にはバミス混じりのII層が混じり落ち込み、覆土下位にはIII・IV層の混じる暗褐色土層がはいる。出土遺物から早期の東園路V式相当の時期とみられるが、土坑の規模から住居址の可能性もある。

**遺物** 覆土位からは縄文時代後期後葉の破片5点が、覆土下位からは縄文時代早期の東園路V式相当の破片が16点出土している。1は東園路V式相当の深鉢口縁部片で、接合破片のすべてが本遺構から出土した。2は三ツ谷式相当の口縁部片で、口縁部には突突文、編み紐の圧痕文が施される。

#### P355 (図9 図版12・13)

**遺構** III層面から検出した直径約70cmの円形土坑。覆土にはバミス混じりのII層が落ち込む。覆土からは縄文時代後期後葉

の破片が多数出土した。本遺構の位置に盛土遺構は分布していないとされるが、出土遺物の状況は盛土遺構を掘りぬいた土坑に類似している。本土坑と特徴が似るP357が並んで分布することから、後北C<sub>2</sub>D式期の土坑かもしれない。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片2点、後期後葉の破片128点が出土。1、2は同一個体とみられる深鉢片で、口縁部の突起下と胴部に胎線文があり、口縁部の突突文と同じ工具で刺突される。3は小形の土器底部片で、器面に0段の縄文が施される。底部は上げ底である。いずれも三ツ谷式相当の破片とみられる。

#### P356 (図9 図版12)

**遺構** III層面から検出した長径約90cm短径75cmの楕円形の土坑。覆土は盛土層にII層が落ち込むほかはIII・IV層が混じる埋め戻しの様相を呈する。遺構の位置は盛土遺構の範囲と重なり、それを掘りぬいているとみられるが、覆土中の遺物が少ない。遺物や遺構の状況から縄文時代晩期前葉の墓とみている。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片2点、後期後葉の破片4点が出土している。

#### P357 (図9 図版15)

**遺構** 直径約65cmの円形の土坑。覆土にはバミス混じりのII層が落ち込む。確認が遅く深さも浅いが、土器片が多かった。出土遺物の傾向から判断して晩期前葉の土坑としたが、約1m離れて位置するP355と特徴が似ており、後北C<sub>2</sub>D式の土坑である可能性がある。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片1点、後期後葉の破片27点、のほか礫、石礫などが出土している。1は五角形の黒曜石製の石礫で、縄文時代早期の流れ込みとみられる。

#### P358 (図9 図版13・15)

**遺構** キトウシュメンナイ川に面する斜面縁のN層面から検出した長径約190cm、短径170cmのほぼ円形の大型土坑。覆土位にはII層が落ち込み、覆土下位にはIII層が混じる黒褐色土層が入る。N層で確認したため深さは平面の規模のわりに浅い土坑である。出土遺物から判断して縄文時代中期の土坑とみている。約1m離れて並ぶP360と特徴が似ており、同時の土坑とみられる。

**遺物** 覆土下位から縄文時代中期の破片のみ32点が検出されている。1は中期の胴部片で、貼付帯上に半截竹管による押し文、胴部には腹面を利用した沈線文が施される。

#### P359 (図10 図版13・15)

**遺構** N層面から検出した長径約80cmの長円形の土坑。覆土位にはバミスやブロック状のIV層が混じる黒褐色土、下位にはIII・IV層の混土が入り、埋め戻しの様相である。出土遺物から、縄文時代晩期中葉の墓と考えられる。

遺物 覆土からは後期後葉の破片4点、晩期中葉の破片8点出、スクレイパーなどが検出されている。1は頁岩製のスクレイパー、2、3は同一個体片とみられる晩期中葉の胴部、底部片である。

#### P 360 (図10 図版14)

遺構 キトウシユメンナイ川に面する斜面縁のⅣ層面で検出した、ほぼ円形の大型土坑である。覆土上位にはⅡ層が落ち込み、覆土下位にはⅢ・Ⅳ層が混じる黒褐色土層が入る。Ⅳ層で確認したため深さは浅い。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみている。約1m離れて並ぶP358と特徴が類似しており、ほぼ同時期の土坑とみられる。

遺物 覆土下位からは縄文時代中期の破片のみ22点が検出されている。

#### P 361 (図10 図版14・15)

遺構 Ⅳ層面で検出した長径約100cm、短径約65cmの小判型の土坑。坑底面は平らであり、覆土は全般にバミスやⅣ層を含み、埋め戻しの様相を呈する。土坑長軸南東側では人歯を確認しており、墓とみられる。出土遺物から判断すると縄文時代晩期前葉の墓とみている。

遺物 覆土から縄文時代中期の破片13点、後期後葉の破片2点が検出されている。1は縄文時代中期中葉の突起片で、半截竹管による施文が施される。包含層からの流れ込みとみられる。

#### P 362 (図11 図版14)

遺構 Ⅳ層面で検出した長径約100cm、短径約70cmのほぼ小判型の土坑。覆土は全般にローム粒を含み、埋め戻しの様相を呈する。本土坑はP356とP361の間に2～3mの間隔をとり、長軸を揃えた形状で検出されている。このような状況から縄文時代晩期前葉の墓とみている。

遺物 遺構の覆土からは遺物は検出されていない。

#### P 363 (図11 図版14・15)

遺構 P362の長軸東側に検出され、直径約60cmの円形である。覆土はローム粒がふくまれるⅡ層で、土坑の状況から判断すると縄文時代晩期前葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片が6点検出されている。1は縄文時代中期中葉の口縁部片で、口縁部の貼付帯には半截竹管による押引文が施される。

#### P 364 (図11 図版14)

遺構 キトウシユメンナイ川に面する斜面縁のⅣ層面で検出した長径約90cmの楕円形の土坑と推測される。覆土にはⅡ層が落ち込む。土坑特徴から縄文時代中期の土坑と考える。

遺物 覆土からは後期後葉の破片3点が出土している。

#### P 365 (図11 図版14)

遺構 Ⅳ層下位で検出した長径約80cmの楕円形の土坑である。覆土上位はバミスが混じるⅡ層が、下位にはさらにⅢ・Ⅳ層が混じる黒褐色土が入る。出土遺物から判断すると縄文時代中期の土坑と考えられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片6点が出土している。

#### P 366 (図12 図版15)

遺構 Ⅱ層中で検出した長径約180cm短径約70cmの長円形の土坑。覆土は全般にⅡ層にバミスとⅣ層が混じた黒褐色土層で埋め戻しの状況である。土坑の状況から時期は縄文時代晩期前葉と考える。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片が6点、後期後葉の破片3点、礫1点などが出土している。

#### P 367 (図12 図版15)

遺構 Ⅲ層中で検出した長径約110cmの長円形の土坑。覆土は最上層にⅡ層が落ち込み、下位にはⅢ・Ⅳ層が混じる黒褐色土層がはいる。土坑の状況から判断すると縄文時代晩期前葉と考えられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片が9点、後期後葉の破片1点が出土している。

#### P 368 (図12 図版15)

遺構 Ⅲ層中で検出した直径約70cmの円形土坑。覆土にはローム粒混じりのⅡ層が落ち込み、土坑の状況から判断すると縄文時代晩期前葉と考えられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片が2点、後期後葉の破片7点が出土している。

#### P 369 (図12 図版16・17)

遺構 Ⅲ層面で検出した長径約110cm短径約80cmの楕円形土坑。覆土上位にはⅡ層起源の黒色土が落ち込み、覆土下位にはⅢ・Ⅳ層がブロック状に混じる黒褐色土層が入る。覆土には後期後葉の破片が多数含まれ、後期後葉の包含層を掘り抜いた縄文時代晩期前葉の土坑と考えられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の土器片が11点、後期中葉1点、後期後葉159点が出土している。1～3は深鉢口縁部片で、口縁部は細かい刻み小波状の口縁部で、器壁も厚く、堂林式新段階から三つ谷式中期に相当する。

#### P 370 (図13 図版16)

遺構 Ⅱ層からⅢ層にかかる斜面で検出した長径約180cm短径約130cmの小判型の土坑である。斜面に掘られているため坑底面には一部Ⅱ層の面が残る。覆土はバミスやローム粒が混じるⅡ層で、出土遺物から判断すると縄文時代後期中葉と考えられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片が3点、後期中葉の破

片1点が出土している。

#### P 371 (図13 図版16・17)

**遺構** III層で検出した長径約80cm短径約65cmの小判型の土坑である。覆土は全般的にバミス混じりのII層で、覆土には縄文時代後期後葉の土器片が比較的多く含まれ、MC盛土を掘りぬいているものとみられる。このような状況から、縄文時代晩期前葉の土坑と考えている。

**遺物** 覆土からは後期後葉の破片28点や石鏃などが出土している。1は黒曜石製の石鏃で、形状の特徴から判断すると縄文時代後期後葉のものと思われる。2は深鉢口縁部片で、小波状の口縁部とその下に爪形片が施される御殿山式期相当の破片である。

#### P 372 (図13 図版16)

**遺構** III層で検出した直径約120～130cmのおおよそ円形の土坑である。覆土はバミス混じりのII層で黒褐色土である。覆土からは縄文時代中期の土器片1点のみが出土、遺物量は少ないが、このような状況はP358やP360の特徴と似ており、時期も縄文時代中期の土坑と考えられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片1点のほかは剥片が1点出土している。

#### P 373 (図13 図版16・17)

**遺構** III層で検出した長径約160cm短径約100cmの小判型の土坑である。覆土にはローム粒の混じるII層が入る。遺物は縄文時代後期後葉の土器片が少数出土しているが、樹の根穴も多く混入とみられる。時期は最も多く出土した縄文時代中期と考えられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片70点、後期後葉の破片4点が出土している。1は胴部片で、内面は磨かれ器面の貼付帯は半截竹管による押し引きが施される。2は底部片で、胎土に繊維を含む。

#### P 374 (図14 図版16)

**遺構** IV層で検出した直径約100～110cmのほぼ円形の土坑である。覆土上位にはII層、下位にはバミスやIII層の混じる黒褐色土層である。覆土からは縄文時代後期後葉の破片が出土していることから、縄文時代晩期前葉の土坑と考えている。

**遺物** 覆土からは後期後葉の破片が2点出土している。

#### P 375 (図14 図版17)

**遺構** III層で検出した長径約100cm短径約80cmの楕円形の土坑である。覆土上位にはII層が落ち込み、下位はIV層やII層が薄く互層に堆積しており、埋め戻しの様相を呈する。覆土中と坑底付近には長径約20cmの円礫が2点入る。出土遺物から判断して縄文時代中期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片が10点出土しているほ

か、礫2点などが出土している。

#### P 376 (図14 図版17)

**遺構** III層で検出した直径約110cmの円形土坑である。覆土にはII層にローム粒やIII・IV層が混じった黒褐色土が入る。覆土中には縄文時代後期後葉の遺物が多数入ることから、MC盛土を掘りぬいた縄文時代晩期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片が4点、後期後葉の破片108点が出土しているほか、石鏃2点やスクレイパー、剥片などが出土している。1、2は黒曜石製の石鏃で、1は破損品である。3、4は深鉢片で、3は小波状口縁に突楯文が施される。4の口縁部にある爪形文より下は無紋である。5、6は壺あるいは注口土器の胴部・頸部片である。7は小形の土器の底部片。

#### P 377 (図15 図版18・19)

**遺構** III層で検出した長径約130cm短径約110cmの長円形の土坑である。覆土は上位と下位に比較的II層を多く含む土が入り、そのほかはIV層主体の黄褐色土層により埋め戻されている。覆土中には縄文時代後期後葉の遺物が多数入ることから、同時期の包含層を掘りぬいているとみられ、この状況から縄文時代晩期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片が3点、中期の破片が3点、後期後葉の破片142点のほか、スクレイパー類や砥石などが出土している。1、2、5は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢とみられる。地文には羽状縄文が施され、1、2の口縁部は小波状である。3、4は同一個体片である。胴部にゆるやかなぐいれをもつ無紋の深鉢とみられ、頸部には3条の沈線文にA状の突起が付される。御殿山式から大洞B1式相当の土器とみられる。6は黒曜石製のつまみ付きナイフである。

#### P 378 (図15 図版17)

**遺構** IV層で検出した長径約200cm短径約170cmの土坑である。覆土上位には縄文時代後期後葉の遺物を多量に含む黒色土が入り、覆土下位には遺物は少ない。断面から、縄文時代中期の土坑と晩期前葉の土坑が重なったものとみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片が1点、中期の破片が26点、後期後葉の破片56点が出土しているほか、台石片なども出土している。1は堂林式から御殿山式に相当する鉢形土器の口縁部片で、器壁は薄い。

#### P 379 (図16 図版19・20)

**遺構** IV層で検出した長径約85cm短径約80cmのほぼ円形の土坑である。覆土はII層にローム粒やバミスを含む黒褐色土層で、覆土下位には特に炭化物が多く含まれる。包含層を下げた後に調査したため確認面からの深さは浅いが、縄文時代後期後葉の遺物を多く含むことから、MC盛土を掘りぬいた晩



期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは後期後葉の破片63点が出土している。1～3は壺形あるいは注口土器の破片で、2、3は同一個体である。口縁部は開かず、すばまった胴部端を若干直立させて口縁部を作り出している。文様は口縁部付近にのみ施される。盛土と土坑の破片が接合したものである。文様から三ツ谷式期に相当するものとみられる。

#### P380 (図16 図版18・19)

**遺構** N層で検出した長径約150cm短径約140cmのほぼ円形の土坑である。覆土は上部にII層が多く含まれる黒色土、下位にはN層を多く含む黒褐色土層になっている。包含層を下げた後に調査したため確認面からの深さは浅いが、後期後葉の遺物を多量に含むことから、MC盛土を掘りぬいた縄文時代晩期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片が2点、後期後葉の破片372点が出土しているほか、礫などが出土している。1～7は深鉢片である。1、2は口縁部に突瘤文が施され、1は無紋のやや小ぶりの深鉢片2は小波状の口縁部をもち、突瘤文の下位には2列の爪形文が施される。3～8は口縁部に無文帯があることや玉拍き三叉文の存在などから晩期前葉の資料とみられ、本土坑にはそのような時期の破片が多くみられる。3は突起上面に三叉文その下に玉拍き三叉文が施される。口縁部には爪形文が退化したとみられる割目が施され玉拍き三叉文の中心には補修孔が空けられる。8の口唇部は爪形文により斜めに割まれ、口縁部には2列の刺突文が施される。器形は浅鉢の可能性がある。9は壺形あるいは注口土器の破片である。器面には竹管状工具による刺突列が施される。掲載遺物のなかには、ある程度接合している資料もあるが、遺構出土の破片どうして接合したのではなく、周辺の盛土遺構中の破片に土坑中の破片が接合したものである。

#### P381 (図17 図版一)

**遺構** N層で検出した長径約90cm短径約65cmの長円形の土坑である。覆土はバミス混じりのII層である。N層面で確認しているため、残りは浅い。覆土からは縄文時代後期後葉の土器片が出土していることから、晩期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは後期後葉の破片22点が出土している。

#### P382 (図17 図版一)

**遺構** N層で検出した長径約75cm短径約60cmの小判型の土坑である。覆土はN層とバミス混じりのII層である。包含層を下げた後に確認しているため、浅い土坑となっている。残りの悪い土坑ではあるが、覆土からは縄文時代後期後葉の土器片が出土していることから、晩期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは後期後葉の破片10点が出土している。

#### P383 (図17 図版18・19)

**遺構** N層で検出した長径約110cm短径約85cmの小判型の土坑である。覆土は全般にバミスが混入したII層が主体である。包含層を下げた後に確認・調査したため浅いが、縄文時代後期後葉の遺物を多量に含むことから、MC盛土層を掘りぬいた縄文時代晩期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片が1点、後期後葉の破片203点、石鏃やスクレイパー類、土製品などが出土している。1は黒曜石製の石鏃で、形状の特徴から縄文時代後期のもみられる。2は頁岩製の石鏃である。3は土製垂飾品片で、上部の突起に孔が空けられ、形状は環状だったと推測される。表面には縄文・沈線文が施される。4、5は深鉢口縁部片で、5は口縁部の突瘤文を施した後に内面の調整が施されている。6は壺形あるいは注口土器の無文の口縁部片。7は壺形とみられる復元個体である。復元に使用した45片のうち、本土坑の破片は1点のみで、ほかは周辺の包含層から出土した。口縁部は無紋で細かい縄文が施された胴部との境には割目が施される。底部は上げ底で底部の文様には三叉文が施される。8、9は大ききから見て深鉢の底部片とみられる。8の底部中央には焼成前に貫通孔が空けられている。このように底部に焼成前に穿孔される例は、恵庭市カリンバ3遺跡や本道跡で時折みられるが、大型底部片の例は少ない。6、7は御殿山式から晩期前葉にまで相当しそうである。

#### P384 (図17 図版20・21)

**遺構** N層で検出した長径約100cm短径約85cmの小判型の土坑である。覆土はバミス混じりのII層である。包含層を下げた後に確認しているため、残りは浅いが、覆土からは縄文時代後期後葉の土器片が多数出土していることから、MC盛土を掘りぬいた晩期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片が1点、後期後葉の破片94点が出土しているほか、石鏃やスクレイパー類が検出されている。1～3は黒曜石製の石鏃で、形状の特徴から判断すると縄文時代後期の所産とみられる。4は鉢形の口縁部片とみられる。

#### P385 (図18 図版20・21)

**遺構** III層で検出した直径約130cmのほぼ円形の土坑である。覆土上部はN層主体の黒褐色土層で、坑底付近に黒色土が入る。残りは浅いが、覆土からは後期後葉の破片が多量に出土したほか、縄文中期（赤穴式）の破片が出土している。このことより後北C,D式期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは少量の縄文時代早期、中期の破片のほか、後期後葉の破片148点、縄文中期の破片11点などが出土している。1～4は同一個体で、いずれも赤穴式に相当する。底部は平らに調整され、胴部には絡縄文ややくり文が施される。

## P386 (図18 図版20・21)

**遺構** III層で検出した長径約65cm短径約55cmのほぼ円形の土坑である。土坑の中央には長径30cmを越える大型の礫が入り、覆土上部はIV層主体の黒褐色土層、坑底付近にII層主体の黒色土が入る。包含層を下げた後に確認しているため、残りは浅いが、覆土からは縄文時代後期後葉の土器片が多く出土しているほか、土坑内から後北C<sub>1</sub>D式期の破片が少量出土していることから同時期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片41点、統縄文期の破片4点などのほか耳縁の破片などが出土している。1は凝灰岩製の玉の破片で、土壌水洗で見つかったもの。2～4は縄文時代後期後葉～晩期前葉の破片である。5は後北C<sub>1</sub>D式期の口縁部片である。

## P387 (図18 図版20・21)

**遺構** IV層で検出した長径約100cm短径約80cmの不整形である。覆土にはII層主体の黒色土が入る。残存する土坑の深さは8cmと浅いが、覆土からは後期後葉の土器片が出土していることから、MC盛土層を掘りぬいた晩期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片29点、石斧片などが出土している。1～3は深鉢片、2には突瘤文、2には爪形文、3は口縁部の摩消し下位に1条の沈線文があり、剥離しているがA状の突起があったとみられる。4は無紋の鉢の底部片とみられる。これらの土器も脚輪山式から晩期前葉のものとみられる。

## P388 (図19 図版20)

**遺構** IV層で検出した直径約70cmのほぼ円形の土坑である。覆土にはII層主体の黒色土が入る。包含層調査後に検出しているため残りは浅いが、覆土からは多数の縄文時代後期後葉の土器片と後北C<sub>1</sub>D式期の破片が出土しているため、時期は後北C<sub>1</sub>D式期とみられる。

**遺物** 覆土からは後期後葉の破片42点、後北C<sub>1</sub>D式期の破片4点、スクレイパー、台石片などが出土している。

## P389 (図20～23 図版21～23)

**遺構** III層で検出した長径約150cm短径約85cmの長円形の土坑である。覆土にはバミス混じりのII層が入る。本土坑は平成13年度と14年度の調査区の境に検出されたもので、平成13年度では土坑扱いではなく、一括遺物4として調査され、遺物検出も同年にはほぼ終了していた。また、土坑の南半分の遺物はこの時点で取り上げ、出土した土器と石皿片は『西島松5遺跡(2)北埋埋報194』に報告済である。平成20年度の整理のさいに本土坑の一部が報告されていることに気づき、割れた石皿9と報告済みの破片が接合するのではと確認したところ、土坑の中央付近から出土したと石皿片がまとまり、ほぼ完形品の石皿となった。風倒木の窪みに落ち込んだ縄文

時代前期の遺物である可能性もあったが、平分以上が掘り終えている遺構から、その確認も出来なかった。出土遺物から判断して、縄文時代前期前葉の静内中野式期相当の土坑とみられる。

**遺物** 遺構覆土からは縄文時代前期の破片193点、後期後葉の破片3点、凝灰岩製の石皿片102点が出土した。1、2は静内中野式相当の土器で、口径が約40cmある大型の鉢である。1は内面が無紋で、2は内面に縄文が施される。3～7のうち、内面が無紋の3、4、5は1と同一個体片とみられ、内面に縄文のある7は2と同一個体片とみられる。6は底部付近の破片であるが、どの個体のものかは不明である。8は砂岩製の砥石、9は安山岩製の石皿である。10は凝灰岩製の石皿で、両面が利用されている。また、表面は被熱しており、赤く変色している部分がみられる。

## P390 (図19 図版23)

**遺構** III層で検出した長円形の土坑である。覆土にはII層主体の黒色土が入る。包含層調査中に後期後葉の破片が集中して出土することから確認した土坑である。断面は遺物を取り上げ後に調査しているため浅い。遺物のほとんどは断面より高い位置で出土した。MC盛土層を掘りぬいた縄文時代晩期前葉のものとみられる。

**遺物** 遺構上からは後期後葉の破片157点、石皿2点、スクレイパー類1点などが出土した。1は無紋石製の石皿。2、3は同一個体片で、包含層と接合したもの。4は注口土器の口縁部片とみられ、5は鉢の胴部片である。

## P391 (図19 図版23)

**遺構** IV層で検出した長径約100cm短径約80cmの小判型の土坑。覆土にはIV層を含む黒褐色土が主体で、埋め戻しの状況である。時期は不明である。

**遺物** 土坑覆土からは遺物は出土していない。

## P392 (図19 図版24)

**遺構** IV層で検出した長径約80cm短径約50cmの長円形の土坑である。覆土上部にはII層にローム粒を含む黒色土が主体で、下部にIV層を主体とする黄褐色土が入る埋め戻しの状況である。遺物が出土しなかったが、付近には形態が類似する土坑が1列に並ぶ様子があるため、それらの時期と同じ晩期中葉の墓ではないかと考えている。

**遺物** 土坑覆土からは遺物は出土していない。

## P393 (図24 図版24)

**遺構** IV層で検出した長径約60cm短径45cmの楕円形の土坑である。覆土にはIV層が混じりのII層が入る。覆土からは後期後葉の破片が出土しており、検出された位置とあわせ晩期前葉の土坑とみている。

**遺物** 覆土から後期後葉の土器片が1点出土している。

**P 394 (図24 図版24)**

**遺構** IV層で検出した長径約75cm短径約70cmのほぼ円形の土坑である。覆土にはバミスを含む層が入る。土器片が出土していないため土坑の時期は不明である。

**遺物** 1は土坑中央から出土した凹み石である。

**P 395 (図25・26 図版24～27)**

**遺構** 平成14年度と15年度の調査区境付近で検出され、平成15年最初に手がけた土坑である。II C層上面で検出し、長径約135cm短径約120cmの楕円形の土坑である。平成14年度の調査範囲は本来26ラインであったが、縄文時代の住居址H20(全体図参照)の煙道を調査するため、幅15m奥行き2mで、調査範囲を拡張した。付近はMC盛土が堆積し、遺物も多い場所である。平成15年度の調査は、年度境の断面を記録することから始め、最初に2mの突出している部分を調査した。包含層を下げはじめ、まもなく13の「お猪口」形ともみませる土製品を検出した。包含層から土製品が出土することは珍しくもなかったため、これを取り上げるよう指示した。しばらくすると、また同形の土製品14が出土した。土製品が立て続けに出土することもあり得るほどの包含層の濃さであったため、再びこれも取り上げるよう指示した。まもなく同形の土製品12が出土する。さすがに3個の同形の土製品がまとまって出土するのは人為的と考え、周囲の構成をおこなった。その結果II層の黒色土面にIV層が混じる黒褐色土の落ち込んでいるのを確認した。落ち込みの中央は黒色土で、土器片が多数入っているのが解った。一見これらの土器片にまともではなく、あるいは包含層の落ち込みにみえ、ある程度掘り下げると、土器がまとまって検出される。付近に広がるMC盛土内の遺物出土状況とは異なるため、このような状況は遺構に伴うものと判断できた。

土器が集中して出土したのは覆土上位の層までで、覆土中位からはIV層がブロック状に入る褐色土となる。坑底ではベンガタ層が南西側に片寄って認められ、ベンガタ層よりサメ歯穿孔孔品や玉類、ナイフなどが出土した。復元された土器から、本土坑は縄文時代晩期初期の墓とみられる。

**遺物** 1は無紋の注口土器で、底部と注口部先端が欠損する。外面は磨かれているが、内面の調整はやや雑である。頸部にはA状の突起を付した胎土が貼付される。注口の付け根には二重の沈線が付され、注口下は三叉文状に刻まれている。底部は欠損し、尖底か乳房状突起が付されていたか不明であるが、胴部の最大径が胴部の中心より下にくることや、底部の平たい立ち上がりなどに晩期初期の要素があり、本個体を晩期初期とみた。2の壺形土器は底部を欠損するが、上げ底であったとみられる。器面には縄文が施され、頸部にはA状の突起が施される。胴部上半分には沈線が渦巻きなどの不規則な文様が施され、その間に三叉文状の沈線文が施される。内面は丁寧になでられる。1、2は覆土上部に口縁部を上にした状態で並んで検出された。3は小形で無紋

のキャリバー形土器である。口縁部は楕円で、長径9.2cm短径8.1cmである。(実測図は長径側から) 頸部と底部の器台に1条の沈線文が施され、頸部内面にも線紋を作り出している。20は3の器形をミニチュアにしたものとみられ、破片の下位に括れる。また、口縁部には1対の穿孔孔が施される。4は3の器形の口縁部を除いた形で、胴部はゆるやかに内反する。器台部との境に沈線文が施され胴部には縄文、台部は無紋である。口縁部に一ヶ所、焼成前に孔が空けられているが、反対側の破片が無いので対の孔かどうかは不明であるが、20の例から対であったとみられる。これも土坑の上部出土だが、破片が細かく取り上げ時の記録がない。5、6も土坑上部から出土した破片の接合を試みたところ、包含層の破片も合わせて形になった小形の深鉢である。5の口縁部にはA状の突起に沈線文が、6の口縁部にはA状の突起のみが付される。破片の残存率が低いが、包含層との接合でこまめで復元されるのは、やはり土坑に伴っていたと考えられる。7～11は無紋の台付ミニチュア土器で、底部片の16作りと砂粒を多く含む胎土から同じものである。12～14の「お猪口形」のミニチュア土器は上下が不明であるが、台付ミニチュア土器と比べると胎土の砂粒は少なく割れ目が黒い特徴がある。同グリッドから出土した15はお猪口形と同じものとみられ、本土坑に伴うものと考えた。17～20は土坑上部から出土した、別のミニチュア土器の破片である。断片の器形は不明であるが、胎土や焼成の特徴はお猪口形に似る。ミニチュア土器の焼成の違いは、同じ墓の副葬品の製作者が異なる可能性もある。21は覆土上部の破片と包含層の接合資料で、文様の特徴から判断して晩期前期のものとみられる。22～24はオオザメ上頸骨を利用したサメ歯穿孔孔品である。いずれも歯根部は腐食して失われているが、歯根側に穿孔孔の痕跡が認められる25はツノガイ化石である。貝殻に詰まった泥に穿孔しようとした痕跡はあるが、貫通していない。26～41は玉類である。出土した16点すべてが緑泥石岩製で、多くが土塊水洗で見つかった。26は葉玉状で破損している。42は黒曜石製の石錐、43は坑底部出土の頁岩製のナイフである。

**P 396 (図24 図版一)**

**遺構** 平成14年度と15年度の調査区境の区を土層観察するため掘り下げたところ半分が検出された。本土坑上には後期後葉の焼土が重なることから、それより下位から掘られている。出土遺物から判断すると縄文時代中期とみられる。

**遺物** 覆土より縄文時代中期の破片5点が出土している。

**P 397 (図24 図版23・28・29)**

**遺構** II C層面でバミスやローム粒の混じる黄褐色な長円形に落ち込む状況で検出した、長径約120cm短径約50cmの長円形の土坑である。本土坑周囲では同時にP398～P402を検出、どの土坑も黒色のII C層面に黄褐色土が落ち込む状況で検出された。覆土はバミスやローム粒が混じる、埋め戻し

で、周囲の土坑と同時期の御殿山式期相当の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片25点、後期後葉の破片18点などが出土している。1は後期後葉の深鉢胴部片で、羽状縄文が施される。

#### P 398 (図27～30 図版28～32)

**遺構** 重機による表土除去の際に本土坑とP399が黒色土中に認められ、同時に土坑上に土器片104が確認された。周辺を精査したところP397～P402の6基の土坑を検出したので、このうちの3基に着手した。後に、これらの土坑は御殿山式期の墓域の中心に位置するものと判断した。その根拠のひとつは、6基のうち5基から漆製品や玉類などの副葬品が検出されたからである。P398は6基のうち最も規模の大きなもので、ⅡC層面にⅣ層の黄褐色土層、Ⅱ層とⅣ層の混土である黒褐色土、包含層のⅡ層の落ち込みが同心円状に重なり検出された。断面を観察すると、中央のⅡ層の落ち込みは浅く、その直下の黒褐色土層から注口土器106と、台付鉢とみられる104の破片がまともに出て検出され、断面残り個からは、ばらばらに割れた漆製品103が検出される。自然層の落ち込みであるⅡ層の直下から検出されているため、これらの遺物は地表付近に置かれたものとみられる。覆土下位の南側には炭化物層が入り、櫛や玉類はその上面から出土している。北側には炭化物層はなく、坑底面にはベンガラ層が検出され、玉の一部はその上面より検出した。覆土外側に堆積するⅣ層の埋土は坑底縁を取り囲むように堆積し、黒褐色土層は土坑の中央に隅9方に落ち込む。炭化物層やベンガラはごく黒褐色土層の下位に添って堆積することから、本土坑の被葬者は何かに包まれて埋葬されている可能性があり、111の石斧は炭化物層の外側に位置することから直接坑底に置かれたものと考えられる。復元された注口土器は御殿山式期のものである。

**遺物** 1～101は玉類である。坑底面付近から検出された玉類には、まともに出て出土したものと散らばって出土するものがあった。玉類の図示にあたっては、玉の連なりをある程度復元している。本土坑では、出土状況をもとにから3つの分布域ごとに示した。1～28は坑底面の櫛よりまともに出て検出されたもので、本土坑出土の琥珀玉4点すべてが含まれている。4点の内、出土状況図の赤番112が破損のため未実測である。残りは7、19、21が琥珀製である。7は勾玉状であったが、劣化が著しく、2つに割れた玉の下側のみを実測したものである。29～70は連った状況で出土した。玉の脇には人歯があることから、首にかけていたものとみられる。この連珠には勾玉状の玉は含まれない。71～101は坑底面付近で散らばって出土したものである。当初から坑底付近に散布した状況であった可能性もある。93、95はツノイ化石を利用したもので、この2点ほどもと別物で、95は両端から穿孔され、93は自然の孔を利用したものである。102は結晶式の堅櫛（以下櫛とよぶ）である。色調は赤系で、透かし

がある。歯は12本で、幅9.7cm、高さ5.4cmある。四隅に三角形、中央には工字とそれをかこみ「( )」形の透かしが施される。103～105は覆土上部から出土した。103は漆製品だが、小片に砕けているため、形状は不明である。104は鉢形土器である。底部は剥離しており、造りは不明だが残存状況から台部の径は4cm以下で、高さのある台が付いた可能性がある。105は注口土器である。注口下部には3つの貼瘤があり、ほとんど剥離しており図では解りにくいが、口縁部と胴部の境と胴部最大径の付近に連続するA状の突起が貼付されていた。底部は丸く調整された後に径約5cmの台が付けられる。文様は胴部のみで、連続する入り組み文の間に刻みや三叉文が施される。106～110は覆土中の遺物で、包含層からの流れ込みとみられる。106、107は堂林～三ツ谷期相当の深鉢口縁部、108、110は黒曜石製、109は頁岩製のまみ付きナイフ、111は坑底部西側から出土した泥岩製の石斧である。全面敲打による調整がなされ、刃部と側面を研磨する。

#### P 399 (図31～35 図版29・32～36)

**遺構** 重機による表土除去の際にⅡC層面で、Ⅳ層と黒褐色土（Ⅱ層とⅣ層の混土）が円形に落ち込むのが認められた。周辺を精査したところP397～P402の6基の土坑が検出され、このうち3基を同時に着手した。本土坑は縄文時代後期中葉ころの機土を切っている。検出面の中央にはⅡ層が薄く落ち込み、直下の黒褐色土から深鉢胴部片（51はか）が出土、当初は包含層の流れ込みと見ていた。

断面側を下げる際に注口土器（46）がまともに出て検出され、その周りからも同じ深鉢の胴部片が出土し、注口土器と深鉢が副葬されていたものとみている。覆土中には主にⅣ層起源の褐色の土層で埋め戻され、覆土下位にはベンガラを含む黒褐色の土層が堆積し、この層から漆製品の破片や玉類が散らばった状況で検出された。櫛はすべて透かしのあるもので、出土位置は坑底の北西側にかたよっている。破片のため厳密な点数ではないが、部位の重複を考えると出土した櫛は8点である。これらの櫛の位置と櫛の下から人歯が出土したことから判断して、頭位は北西とした。櫛のほかに環状漆製品とみられる破片がおもに坑底南側に散布していた。破片の観察から、耳栓ほどの小形のものから、色調ではオレンジ系のもの、赤系のものがあり、最低でも3個はある。玉類も坑底全域に散在して21点が出土した。本土坑は規模が小さく、装身具は大きく落ち込み、ばらばらになったとみられる。

**遺物** 1～11は櫛を示した。番号に（ ）が付いたものは、復元想定図である。現地調査では漆製品は土ごと取り上げているが、後に土から分離できたのは1のみである。四隅に三角形、中央には工字状とそれをかこむ「( )」形の透かしが施される櫛は1、2、3、4、5の5点で、それらの破片とみられるものが10、11である。なお、7の破片は5の復元に

利用している。これら8点のうち、1には頂部の突起下にも三角形の透かしがあげられており、カリンバ3遺跡の出土品例では、頂部の両突起の間の形状は、弧線状ではなく、方形あるいは円形に切り込まれたものだったと考えられる。中央に円形あるいはひし形の孔を空け、その両端にそれぞれ三つの三角形の透かしを空けた、合計7ヶ所の透かしもつ櫛が6、8、9の3点である。12~21は環状漆製品の破片である。遺物の状態から復元は困難であり、想定図はないが、17は直径3cmほどの小形の環状漆製品とみられ、16は環状漆製品の裝飾部の破片で、厚みのある破片には円形の突出部が付いている。色調は、12、13の右側にある小片群、14の右下の破片、15の右下側の破片がオレンジ系の破片で同一製品とみられる。この破片は赤系の色を呈する。22~43はばらばらに出した玉類である。22~25はいわゆる勾玉で、長径が1.5cm以下のものは本遺跡では最小の部類に含まれる。同様の製品は隣に位置するP398内から散らばって出土した玉にもみられる。A類に分類される玉類には緑泥石岩製36~43と緑色凝灰岩製26~35があり、後者のほうが大きい。44、45は覆土から出土した黒曜石製の石鏝と砂岩の砥石片である。46は覆土上位で倒れた状態でつぶれて出土した御殿山式相当の注口土器である。上げ底で、胴部は丸く、口の大きい注口で、口唇部には幅広く上に出る突起と斜め横に突出する突起が交互に並び、口縁部と胴部の境にはA状の突起が並ぶ。胴部の文様は注口部を中心に胴部真横付近まで施されている。沈線文による入組文系の文様のあいたは切り込まれた三叉文が施される。47の破片の一部は注口土器の上から出土した。注口土器の46より47の胴部の境にはA状の突起があったが、覆土上位やグリッドの包含層片が接合し、復元できた小形の深鉢である。底部は丁寧な作りの上げ底で、口縁部に突起はないとみられる。口縁部と胴部下位、底部の境に2条の沈線が施され、口縁部と胴部の沈線の間には刻みか施される。胴部上位には入組文系の文様が施される。48~50は深鉢口縁部片、51は胴部片で、50と同一個体である。本土域からはほかにも同一個体の胴部片が出土している。52は深鉢底部片で上げ底である。50、51は同一個体片かは不明である。

#### P400 (図36 図版29・37)

遺構 II C層面で、黒褐色土 (II層とIV層の混土) が小判型に落ち込むのが認められた。周辺には縄文時代後期中葉以前の焼土P402があり、土坑はこれを切っている。覆土上位にはII層が多く含まれる黒色土が落ち込み、中位にはIV層やIII層、焼土などが混じる暗褐色土、坑底付近には、ベンガラをわずかに含む黒色土で埋められている。覆土中からは中期の破片10点、後期後葉の破片61点、石鏝、石鏝などが出土している。土坑上面は削平されている。坑底の西側にはわずかにベンガラが散布され、壁際から櫛3点が重なって検出された。いずれの櫛も透かしのあるタイプであるが、この3点を土から分離することは出来なかった。そのため重なった下位

にある櫛の詳細は不明である。

遺物 1~2は櫛である。1の色調は赤色で、中央に円形の孔を空け、その両端にそれぞれ三つの三角形の透かしを空けた、合計7ヶ所の透かしもつ櫛である。2は四隅に三角形、中央には工字とそれをかこみ「( )」形の透かしが施される櫛である。色調は黒ずんでいるが、表面の赤い塗膜が剥がれているようである。出土状況に赤の8で示した位置に残りもう1点の櫛がある。図上でも詳細を確認するのは困難であるが、数ヶ所に透かしがあることが認められる。色調は赤色である。3つの櫛の出土位置は、1と赤の8が並んでいる上に2の櫛が乗っている。3、4は石鏝である。3は頁岩製で先端部にアスファルトが付着したように黒ずんでいる。4は黒曜石製で、刃先と柄縁は使用痕で丸く摩滅している。5は石鏝またはナイフと分類されている。黒曜石製で全体に被焼し、光沢を失っている。6、7は覆土に流れ込んだ土器片とみられる。堂林式の折上り段階から御殿山式に相当するものとみられる。6は深鉢口縁部片で、波状の沈線文が施されている。7は3点が接合した鉢形土器の破片である。6、7の破片はいずれも被焼している。

#### P401 (図37・38 図版38・39)

遺構 II C層面で、P398、P399と並ぶ位置で黄褐色土が小判型に落ち込む状況で確認した。P398、399とともに着手し、本遺跡で最初に漆製品が発掘された土坑である。覆土は中位と下位には黒色土層が陥状に入るが、ほかはIII層やIV層などがブロック状に混ざり合う、埋め込みの土層である。土層断面を頭位側である西側から切ったため、土坑の壁面を行って際、1の櫛左側に移植の先端が当たり破損させたが、そのことで、漆製品が存在することが判明した。周囲の土坑からも漆製品の検出があつたので土坑の分布範囲の確認を優先した。そして、このあと7グリッドはど離れた場所でも確認されている土坑4基 (P404~407) の調査に着手した。P401は覆土中からまとまった遺物は出土しなかったが、坑底面から別な櫛の破片3と環状漆製品2点、玉類が検出された。南側の環状漆製品は完形で出土したが取り上げ時に破損した。

遺物 1~5は漆製品である。1、3は櫛で、1は土から分離できなかった。四隅に三角形、中央には工字が上下に分かれたような、十字形と三角形の透かしを空け、下位の十字形のまわりに「( )」形の透かしが施される櫛である。3は櫛の中央部分の破片で、工字と周りの「( )」形の透かし部分の破片である。観察する限り1と部分的に重複ヶ所があるので別な櫛と考えている。2の環状漆製品は土坑の南側から出土し、推定で外径約12cm、内径約7.8cmあるもので、出土時には完形だったが、取り上げ時に破損させた。実測図は推定で破片を並べたものであり、右下の破片が土から外れず、図の展開をしていない。出土時に裏側だった部分に4、5はもともと1点の環状漆製品だったとみられるものである。二つ

に分かれて検出されたが、取り上げ前に雨水が浸入したので状態が悪化した。これら漆塗製品の色調はいずれも朱色である。6-12は玉類である。石質は、すべて緑泥石岩製で、6、8は2の環状漆製品の横から、7は5の環状漆製品の下方出土し、9-12は2の取り上げ後に漆製品の下の黒から出土したものである。6の垂珠は頂部に2ヶ所、背面に1ヶ所の刻みが施される。7はいわゆる葉玉であるが、本遺跡出中もっともの厚みがある。13は頁岩製の小形のつまみ付きナイフ14は堂林式新段階～三ツ谷式相当の深鉢口縁部。

#### P402 (図39 図版40・41)

**遺構** II C層面で、Ⅲ・Ⅳ層が混じる黄褐色土が小判型に落ち込む状況で確認された。覆土上位はⅣ層主体の黄褐色土、覆土下位はⅡ層主体の黒色土層で埋められた。土色による埋め分けがなされている土層である。本遺跡ではこのような埋土の土層が多数あり、縄文時代後期後葉～末葉の土層であること手がかりの1つと考えている。覆土下位の黒色土中からは後期後葉の土器片が200点出土しているが、これは流れ込みのものと思われる。坑底部中央付近からは、木芯の玉に漆を塗ったとみられる漆塗玉が20点、玉類4点が検出された。この付近には人歯の痕跡もあったことから一連の首飾りだったとみられる。

**遺物** 1～20は漆塗玉である。色調はいずれも朱色で、1～3は土から分離することが出来た。その内1が唯一の完品で、発掘時に土から分離できた。漆塗玉の芯の本質部は消失し空洞になっており、形状は葉玉状で径約12mm、厚さ19mmである。穿孔面は平らに削り、表面には5条の刻みを縦方向や斜めに施す。ほかの漆塗玉もほぼ同形同大だったとみられるが、つぶれた状況で重なって出土したものはそのまま固めている。21～24は玉類で、木製の玉の周からややまとまって出土している。25は黒曜石製の石鏃、26～28は堂林式の新段階～三ツ谷式相当の深鉢口縁部片である。これら土器片は包含層から混入したものとみられる。

#### P403 (図40 図版41・42)

**遺構** 6基並んだP397～402の土坑の東側約2mのII C層面で、Ⅱ・Ⅳ層が混じる黒褐色土が小判型に落ち込む状況で確認された。6基並ぶ土坑のうちP397からは副葬品がみつからないため、これらの土坑の分布の外側に位置する土坑を調査したものである。覆土上位と下位は、Ⅱ層にⅢ・Ⅳ層が混入する黒褐色土、中位はバミス混じりのⅡ層で埋められており、上部は削平されるが、土色による埋め分けをしたものとみられる。坑底部北側階段の覆土下位から漆製品の破片が出土した。さらに、坑底部西側からは頭部の痕跡と人歯が検出され、頭部わきからも漆の塗膜片が検出された。覆土下位から出土した漆製品片は副葬品であった可能性が高い。

**遺物** 1は漆製品片である。環状漆製品としては形状的に整合しない部分があり、容器片の可能性もある。2も漆片で

あり、幅の広さから櫛の破片かもしれない。色調はどちらも朱色である。覆土からは縄文時代後期後葉の土器片が152点、石器類が48点、銜頭片が検出されているが、これらは包含層からの混入とみられる。3は焼けた銜頭の破片とみられ、尾部には穿孔があり、側面には刻みが施される。4は黒曜石製の石鏃、5、6は、珪質頁岩製のスクレイパー類、7は砂岩製の砥石片である。8～11は堂林式の新段階～三ツ谷式相当の深鉢口縁部片である。

#### P404 (図41・42 図版42～44)

**遺構** III層近くまで削平された面で、Ⅲ・Ⅳ層が混じる黄褐色土が長円形に落ち込む状況で検出された。本土坑周辺では約10基の土坑が確認され、このうちの隣接する4基にP404～407までの番号を付け調査した。本土坑の覆土は黒褐色土層と褐色土層が互層に入る埋戻しの様相である。西側の壁階、覆土中からは小形の環状漆製品の破片が検出され、坑底部からは被葬者の頭部跡にベンガラが検出された。このことは被葬者の上にベンガラが散布されたものとみられる。頭部の周辺からは、頭上のベンガラ中からサメの歯が1点、頭頂部から三角形の石製品1点、頭部左側から櫛が1点、頭部左下からは刃部を体側に向けて小形の石斧1点が出土した。坑底部の胸上付近からは動物意匠のある勾玉ほか3点の玉類が、坑底中央付近では勾玉と小形の石斧が出土している。

**遺物** 1は櫛である。頂部の突起下には前後交互に6ヶ所の四角い突起を有するが、これは14本の櫛歯を束ねる際に太い繊維を用い、両脇の2本には巻きつけ、間の12本には交互に縄を掛けて作り出した突出部で、下地の黒漆で形を整えたものとみられる。色調は朱色で、幅は9.3cm、高さ5.5cmである大型の櫛である。2は小形の環状漆製品片であったものだが、取り上げ前に乾燥のため形がくずれてしまった。P399～17に図示した漆製品と類似するものとみられる。3は体長2m前後のホホジロザメの上顎右側の歯を用いたサメ歯穿孔品とみられる。4～8は玉類である。4は二等辺三角形に加工した素材の短片に3ヶ所の穿孔を加えたもので、サメ歯穿孔品を模したともみられる石製品である。本土坑では、頭頂付近で出土しているが、P411では被葬者の両耳付近から2点、包含層から1点(北理調報209)の出土例がある。5、6は勾玉である。6の勾玉の上部には動物意匠とみられる加工が施される。9、10は緑色石岩製の石斧である。全面を敲打による調整で形状を整えたのちに刃部や基部を作出したものである。長さが10cm前後の9ほどのサイズの石斧はしばしばみられるが、10の長さ6cmほどのサイズのものはかなり小型である。これらの石斧は刃部の傷など使用痕がみられないことから、もともとは副葬品として作られたものとみられる。覆土からは縄文時代後期後葉の破片67点が出土している。11は堂林式の古手の重形あるいは注口土器片で、頸部に2段の刻みが施される。

**P405 (図42 図版42・44)**

**遺構** III層近くまで削平された面で、III・IV層が見える黄褐色土が小判型に落ち込む状況で検出された。本土坑の覆土は黒褐色土層や褐色土層、黄褐色土層が交互に入る埋め戻しの様相であるが、IV層を多く含む褐色土層は覆土の上位に多い。坑底は平らで、西側には頭部らしき痕跡もあつたが図示するには至らなかった。埋土の状況と出土遺物から判断すると縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片4点、後期後葉の破片44点のほかフレイク19点が出土した。1、2は堂林式の新段階の深鉢口縁部片である。

**P406 (図43～45 図版42・45・46)**

**遺構** II層下位まで削平された面で、IV層主体の黄褐色土が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位には、一部黒褐色土が落ち込むが、そのほかは土に掘り返されたIV層が堆積し、覆土下位は黒色土や黒褐色土層が交互に入る埋め戻しの様相であるが、全体に黒色系の土で埋められていることから、土色による埋分けが行われている。上部は削平されているにもかかわらず深さ約90cmあり、最も深い墓のひとつである。坑底の南西側からは、被葬者の頭部とみられる有機質な黒色土層の高まりがみつきり、付近から歯の痕跡も検出された。被葬者の左側からは、アスファルト塊とその下から石器、フレイク類、が出土した。石鏝や石鎌の出土位置や向きがそろっている点から、石器類、フレイク類、を置いた後、アスファルト塊、石斧、ナイフを置いたとみられる。アスファルト塊の端は石斧34とつまみ付きナイフ13に接する位置で途切れ、下部はフレイクがささる状況だった。副葬品付近にはベンガラ粒も観察された。

**遺物** 1～8は黒曜石製の有茎鏝である。1～6、8は副葬品で、形状もほぼそろっているが、7は覆土中の遺物で、形状も異なる。覆土出土の縄文時代中期の破片と同時期の石器である可能性がある。9は頁岩製の石鏝である。つまみの両端には挟りが入り、装飾的な基部を持つ。この形態は縄文時代後期後葉の特徴を示すものである。10～20はスクレイパー類である。つまみ付きナイフとしたものは11、13、20である。13はスクレイパー類中唯一頁岩製で、副葬品中最大の割片石器である。石斧34と並んでアスファルト塊の端から出土した。12は破損しているがつまみ付きナイフであった可能性はある。21～32はフレイク類である。副葬されたスクレイパー類やフレイクは、ほとんどが赤井川産の黒曜石と見られるが、28は頁岩製、17、29は十勝産の黒曜石のようである。また、赤井川産とみられるものも、白色に近いものから透明にちかい黒色のものまでその質感には幅があり、一つの母岩から作られたものではないようである。これは遺跡に持ち込まれる赤井川産の黒曜石が小さいことに起因するのかもしれない。後に説明するP596は、縄文時代中期頃とみられる赤井川産黒曜石の原石や割片で埋まった小ピットだが、最大の原

石でもこぶし大ぐらいである。33、34は泥岩製の石斧である。全面を敲打によって形状を整えたのちに刃部や基部を作出したものである。33の長さが8.8cm、34の長さが10.2cmである。長さが10cm前後のサイズの石斧はしばしばみられるが、これらの石斧は刃部の傷などの使用痕もないことから、もともと副葬品として作られた小型の石斧とみられる。35は石器の上に置かれたアスファルト塊である。表面には土器片が付いており、もともと土器に取められていたのかもしれない。36は覆土の遺物で堂林式の新段階の深鉢口縁部片である。

**P407 (図46 図版42・46・47)**

**遺構** II層下位まで削平された面で、黄褐色土が小判型に落ち込む状況で検出された。本土坑の覆土上位はIV層主体の土、覆土下位はII層主体の黒色土層で埋められた、土色による埋分けがなされている土坑である。坑底付近にはベンガラ粒がわずかに混じる褐色土層が堆積し、坑底部南西側より被葬者の頭部とみられる有機質な黒色土層の高まりと歯の痕跡が検出された。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期2点、前期2点、中期10点、後期後葉27点の土器片などが出土している。1は堂林式新段階の深鉢口縁部片である。

**P408 (図46 図版47)**

**遺構** III層まで削平された面で、II層主体の黒色土が小判型に落ち込む状況で検出された。本土坑は、墓域の広がりや内容をつかむために広い範囲の調査を進めた際、先に説明したP404～407の分布から約20m西側のIII層面で確認した2基の土坑(P408、P409)の一つである。削平がはげしい地域に位置するため浅い土坑である。覆土の上位にはII層が主な黒色土、中位は褐色土、坑底直上には黒色土が堆積する。土坑南東から円礫が出土したほか目立った遺物は出土していない。隣に位置するP409と特徴が似ていることから縄文時代晩期中葉のものとした。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期6点、後期後葉1点の土器片が出土しているほかつまみ付きナイフや点が出土した。1覆土から出土した頁岩製のつまみ付きナイフである。

**P409 (図46 図版47)**

**遺構** III層下位まで削平された面で、黒褐色土が小判型に落ち込む状況で検出された。本土坑の覆土下位にはII層主体の黒色土層が入り、その直上より縄文時代晩期中葉の土器片がまともに出土した。覆土からも同時期の土器片が出土しており、縄文時代晩期中葉の土坑と考えられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期3点、後期後葉3点、晩期中葉42点土器片のほか石鏝、スクレイパー類などが出土している。1は覆土下位からまともに出土した縄文時代晩期中葉の浅鉢である。底部はまるみをもち、口唇部はおおむね角型

で縄文が施される。口縁部は全体の4割近く残るが、その範囲に突起は無い。2は浅鉢口縁部片で、口唇部に交差する削みが施される。3、4は深鉢口縁部片とみられ、口縁部には縄文が施される。器壁は深鉢としては薄いため、小型の鉢かもしれない。図示した土器のうち1は出土状況から土坑に伴っているものとみられ、ほかの3点よりやや新しいものとみられる。

#### P410 (図47 図版48)

**遺構** 本土坑は縄文時代前期の住居と重なっており、住居の覆土上に落ち込んだⅡ層面で、Ⅳ層主体の黄褐色土が長円形に落ち込む状況で検出された。覆土上位は、Ⅳ層で埋められ、その下位はⅡ層主体の黒色土層や黒褐色土で埋められて、土色による埋め分けがなされている。坑底付近の北西壁よりベンガラ層がみつかったことから、頭位はこの付近だったとみられる。形状や覆土の特徴から縄文時代後葉の墓と考えられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期25点、後期前葉4点、後期後葉112点の土器片が出土しているほか石鏃、スクレイパー類が出土した。1は黒曜石製の石鏃、形状の特徴から判断すると遺構より古いとみられる。2～6は堂林式新段階から三ツ谷式相当の破片で、5、6は壺または注口土器破片である。二条の沈線文の間に円形の刺突が施されることから同一個体かもしれない。

#### P411 (図48～50 図版48～50)

**遺構** Ⅱ層下位まで削平された面で、長円形の礫を土坑の縁に沿って並べた配石と副葬品とみられる壺形土器複数、長円形に落ち込む褐色土層上に重なっている状況で検出された。遺物出土状況を観察すると、検出面には褐色土層上に灰褐色の土層、その上に暗褐色土層が重なり、配石や副葬品の土器は最上位に堆積する暗褐色土層の範囲にのみ分布していた。この範囲は被葬者のほぼ真上で、覆土の落ち込みが最も大きかった場所である。そのため遺体が朽ちたあとの窪みに落ち込んだ遺物のみ削平を免れて残った可能性が高く、土坑の南西側に残る配石は、本来土坑全体の縁を放射状に長円形の礫で囲み、配石の中央に副葬品の土器が置かれていた可能性もある。検出面付近からは副葬品の壺形土器6点と配石に利用された礫23点が出土した。覆土は、上位にⅣ層が主体の褐色土層が入り、下位はⅡ層主体の黒色土層で埋められ、土色による埋め分けがなされている。坑底面にはベンガラが混じる層が堆積し、被葬者の頭部付近はベンガラ層の盛り上がりがあり、やや離れて南の痕跡、坑底中央付近には足の痕跡が検出された。頭部の左右からは、被葬者の耳あるいは頭の両側に装着していたものとみられる三角形の石製品と玉がそれぞれ対になって出土し、その中間のやや足側からは、胸につけていたとみられる垂珠1点が出土した。副葬品の土器は三ツ谷式期の新段階とみられ、墓も同時期と考えら

れる。

なお、調査区は全体に削平されていたためか、検出面上に配石が確認された例は少なく、中でも複数の礫が検出されたのは本例が唯一である。

**遺物** 1～4の玉類のうち、1は3つについて被葬者の右耳付近から、2と4は左耳付近から、それぞれ玉を外側、石製品を内側にして出土した。3、4は二等辺三角形に加工した石材の短片に沿って3ヶ所の穿孔を加えたもので、サメ歯穿孔品を模したともみられる石製品である。本土坑では、両耳付近で出土しているが、P404被葬者の頭頂部付近から1点、このほかに包含層から1点（北里調報209）の出土例がある。3は穿孔孔周囲が肥厚する。孔は1ヶ所が破損していることから、中央の孔に玉を連ねて装着していたとみられる。4は本遺跡最大の玉珠で、厚さが54.5mmあり、両端から穿孔している。形状は平たい雲玉状である。被葬者の頭部周辺からは、炭化したクルミの殻が出土したが、人為的な痕跡かどうかは判断できない。6は黒曜石製の石鏃で、包含層からの流れ込みとみられる。7～12は墓の上部に副葬されていたとみられる6点の壺形の土器である。ほば復元出来たのは8、9、10、の3点で、7は口縁部から胴部の一部が、11は胴部のみ、12は口縁部のみである。7～10、12は密着していた上面が削平されたものだが、11はほかの土器より少し離れた下の層中から一括出土しており、ベンガラが付着し、口縁部や胴部の一部を欠くことから当初から埋れて副葬されたものと見られる。7、10、12の胴部や頸部には貼文が施され、7と12は、肥厚させた口縁部に縄文を施し、頸部に刻みをくわえた垂下付けを施すなどの特徴が類似する。8は検出面で倒れて出土した。口唇部には縄文が施され、口唇直下と頸部、胴部文腰帯の上下には連続する爪形文が施される。口縁部から肩部、胴下部は無文である。連続する爪形文が見られる点で、本土坑出土の土器の中では最も新しい要素をもつものである。9の口縁部には半截竹管による押し引き風の文様が施されるが、これ以外の文様には半截竹管や棒状工具による連続刺突文が施される。7、9には沈線文による入組文が施されている。13～15は覆土から出土した堂林式新段階から三ツ谷式相当の深鉢片で、15は無紋で、の波状1線、突起とその中間の口唇部に粘土を貼り付け刻みをいれたものである。

#### P412 (図51～53 図版51～53)

**遺構** Ⅱ層下位で、Ⅳ層が小判型に落ち込む状況で検出された。本遺跡では大型の土坑である。覆土上位はⅣ層主体の褐色土、下位はⅡ層主体の黒褐色土層で埋められており、土色による埋め分けがみられる。坑底面西側からは被葬者の頭部の痕跡が2ヶ所みつかり、南側の被葬者からは首飾りが、北側の被葬者の胸部付近からは玉1点、頭部右側からは髪飾りとみられる漆片と、サメの歯5点が出土された。それぞれの被葬者の頭部右側には1点の石芥が、柄の部分が頭部と重なる



ような位置で出土した。北側の被葬者の下から南側の被葬者の頭部付近にはベンガラが散れ、遺体と重なった部分のベンガラは茶褐色に変色している。また、南側の被葬者の足元付近からは石芥がもう1点検出されている。周りに遺体の痕跡は見つからなかったが、坑底面にはもう一人分の広さが残っており、頭部と重ねて置かれた石芥の出土状況や被葬者の位置から、3人の合葬墓である可能性もある。覆土中の土器や周囲の墓の状況から三ツ谷式期の墓とみられる。

**遺物** 1は髪針とみられる漆製品である。器体の頂部付近の装飾加工部分とみられ、横向きに図示しているが、図の上下には3ヵ所の突起がある。2～6はサメ歯穿孔品とみられる。ホホジロザメの歯を用いたものがほとんどだが、4は歯肉の状況や歯根部の欠損状況からメジロザメ科の上顎歯を利用したものとみられる。7～38は南側の被葬者が装着していた首飾りを玉の配列順に示した。連珠の中心には最大の垂珠状の玉21が、とこところに黒玉状の13、16、31が入る。10は唯一勾玉状に加工されたものである。石材は本遺跡では少ないタカク化純紋岩が使用されたものが多く含まれる。39は北側の被葬者の胸付近から出土した垂珠状の玉である。40～42は坑底部に副葬された石芥である。いずれも泥岩製で、刃部が摩滅している。覆土からは縄文時代早期5点、前期1点、中期5点、後期後葉70点の土器片が出土している。43・44は堂林式新段階から三ツ谷式相の破片で、43は深鉢口縁部、44は注口土器あるいは壺形土器の胴下部片である。

#### P413 (図47 図版53)

**遺構** II層下位で、IV層小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位はIV層、その下位はII層主体の黒褐色土層で埋められており、土色による埋め分けがなされている。坑底部北西側より被葬者の頭部とみられる痕跡みつけた。土坑の形状や覆土の特徴から判断すると縄文時代後期後葉の墓と考えられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期16点、中期6点、後期後葉34点の土器片が出土している。1は堂林式に相当する深鉢口縁部、2は堂林式新段階から三ツ谷式期相当の壺または注口土器頸部片である。

#### P414 (図47 図版53・55)

**遺構** II層下位で、土器片を多量に含むMC盛土とみられる層が丸く落ち込む状況で検出された。覆土上位は、ローム粒や土器片を多量に含む盛土層そのものが堆積し、下位には黒褐色土層が堆積している。上部にあったMC盛土を掘りぬいたか、あるいは同時期のものとみられ、覆土上位の盛土層は埋め戻しではない可能性もある。覆土の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とした。

**遺物** 削平された浅い土坑だが、覆土からは縄文時代早期1点、前期1点、中期3点、後期後葉339点の土器片のほか、石鏝やスクレイパー類、400点近いブレイクなどが出土して

いる。1は黒曜石製の石鏝、2～6は御殿山式～大洞B1式に相当する破片である。2口縁部にはA状の突起があり、3の口縁部には3列の爪形文が施される。4は片口土器の破片で、片口わきには三叉文と貼瘤が施される。6は無紋の鉢で、5と同一個体の可能性もある。7は堂林式新段階から御殿山式相当の小形の鉢底部片である。

#### P415 (図54 図版54・55)

**遺構** II層下位で、土器片を多量に含むMC盛土が丸く落ち込む状況で検出された。覆土上位は、骨片や土器片を多量に含む盛土層そのものが堆積し、下位には遺物量がやや少ない黒褐色土層が堆積している。上部にあった縄文時代晩期前葉のMC盛土を掘りぬいたか、あるいは盛土と同時期に埋められたものとみられる。覆土の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とした。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片84点が出土している。1～3は堂林式新段階から御殿山式相当の破片で、1は小波状の口縁部をもつ深鉢片で、貼瘤文が施される。2は壺あるいは注口土器の無文の口縁部で、焼成前に貫通孔が空けられる。3は深鉢胴部片である。

#### P416 (図55 図版54・55)

**遺構** 縄文時代前期の住居H29の覆土上部で、多量の土器片やローム粒を含むMC盛土とみられる黒色土が円形に落ち込む状況で検出された。上部にあった縄文時代晩期前葉のMC盛土を掘りぬいたか、あるいは同時期のものとみられ、覆土は埋め戻しではない可能性もある。覆土の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とした。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期1点、中期29点、後期後葉666点の土器片が出土している。覆土からは縄文時代中期3点、後期後葉55点の土器片が出土しているほか、石鏝3点、つまみ付きナイフ、スクレイパー類、石芥、羽片類など多数の石器もみつかっている。1は環状土製品の破片で、図右側の貼付左側にはスリットが入れられ、右側には穿孔されている痕跡がある。製品全体にベンガラが塗られている。2～13は堂林式新段階から御殿山式相当の土器片である。2、3は鉢形土器口縁部片で、2は沈線で施文される。4は斜行縄文が施された深鉢片で、本土坑からは左側のままとった破片、右側の口縁部片は1層から見つかったもの。5は羽状縄文が施される大型の深鉢口縁部片。6～11は胴部に括弧を持つ深鉢片で、磨治文、沈線文が施される。8～11は周囲の包含層や遺構覆土から集められた同一個体片で、胴部には貼瘤文が施される。12は三叉文、入組文の施された片口あるいは舟形と見られる器形の土器。13は深鉢底部片である土器片はまとまりがなく、復元できた土器は遺構に入っていたものの可能性がたかいた。4は削平された土坑としてはまとまりのある出土状況で、MC盛土からの流れ込みではなく土坑に伴っていたものなのかもしれない。

## P417 (図54 図版54・55)

**遺構** 縄文時代前期の住居H29の覆土上部に黒色土が長円形に落ち込む状況で検出された。覆土は黒褐色土の単層だが、完掘時に縄文時代晩期前葉の土坑P426に切られていることが判明した。縄文時代後期後葉の土器片13点が出土しているが、これはP426からの遺物とみられる。時期は出土遺物から縄文時代中期とした。

**遺物** 1は黒曜石製の石鏃で、形状の特徴から判断すると縄文時代後期後葉よりは古いとみられる。2は堂林式新段階から三ツ谷式相当の鉢の口縁部片であり、P426からの流れ込みとみられる。

## P418 (図54 図版56・57)

**遺構** Ⅲ層上面で、ローム粒や土器片を多量に含むMC盛土とみられる黒色土が円形に落ち込む状況で検出された。上部にあった縄文時代晩期前葉のMC盛土を掘りぬいたか、あるいは同時期のものとみられ、土坑覆土は埋め戻しではないかもしれない。覆土の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とした。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期3点、後期後葉55点の土器片が出土している。1、2は堂林式新段階から御殿山式相当の鉢の口縁部片である。

## P419 (図56 図版56・57)

**遺構** Ⅲ層上面で、ローム粒を含んだⅡ層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は土器片をしばしば含むが、坑底まで黒土が変化なく堆積している。掘り進むと坑底面付近で、一箇体が割れた状態の深鉢を検出した。出土遺物から判断すると後北C、D式期の土坑と考えられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期3点、後期後葉25点、続縄文期65点の土器片が出土。1は坑底面付近で割れて出土した後北D式の深鉢である。口縁部には1対の補修孔、内面には炭化物の付着も見られ、煮炊きに使用された土器とみられる。破片は1ヶ所の突起を除きすべてがそろっている。2、3は同一個体の小形の注口土器片で、坑底面付近から1点が出土したほかは覆土から出土したものである。

## P420 (図56 図版56)

**遺構** グリッドの境に位置し、片側の包含層をⅢ層まで下げた時点で、Ⅱ層が円形に落ち込む状況を確認した。覆土は時々土器片を含むが、坑底まで変化なく、土坑の北西側覆土中よりやや大きな円礫片が出土した。土坑の形状などから後北C、D式期の土坑と考えられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期1点、後期後葉10点の土器片と礫1点などが出土している。

## P421 (図57 図版57)

**遺構** Ⅲ層面で、土器片を多量に含むMC盛土とみられる土

層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土上位には、ローム粒や土器片を多量に含む盛土層が堆積し、下位にはⅣ層が混じる黒褐色土層が堆積している。本土坑は上部にあった縄文時代晩期前葉のMC盛土を掘りぬいたか、あるいは同時期のものとみられ、覆土上部の盛土層は埋め戻しではないかもしれない。覆土の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とした。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期1点、中期5点、後期後葉117点の土器片が出土した。1、2は御殿山式から大洞B1式期相当の破片とみられる。1の口唇部外側は爪形文状に刻まれ、口縁部には突瘤文と口縁に併行して三列の爪形文が施される。

## P422 (図57 図版58)

**遺構** Ⅲ層上面で、土器片を多量に含むMC盛土とみられる黒色土とそれを囲むⅣ層混じりの黒褐色土層が円形に重なる状況で検出された。覆土上位には、ローム粒や土器片を含む盛土層が堆積し、下位にはⅣ層が混じる黒褐色土層が、覆土下位にはさらにⅣ層を多く含んだ黒褐色土層が堆積している。本土坑は上部にあった縄文時代晩期前葉のMC盛土を掘りぬいたか、あるいは同時期のものとみられ、覆土上部の盛土層は埋め戻しではないかもしれない。覆土の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とした。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期4点、後期後葉258点の土器片ほか石鏃、スクレイパー類、剥片などの遺物が出土した。1は黒曜石製の楔形石器、2～7は堂林式新段階から大洞B1式相当の深鉢口縁部片である。2～4は沈線文が施されたもので、堂林式相当と見られる3は沈線文後に縄文が付されている。4には貼瘤文が施される。5は口縁部に1列の爪形文が施されることから御殿山式以降のものとみられる。6は口縁部の無紋帯にA状突起が付される大洞B式相当の破片である。7は無紋で口縁部に突瘤文が施される。8～11は鉢形土器の口縁部である。8は胴部の括れがやや強いことや突起の形状から、大型の注口土器口縁部片の可能性もある。12、13は壺あるいは注口土器の破片である。12の頸部には爪形文が施され、無紋の口縁部は急角度に立ち上がる。器形から大洞B式相当とみられる。13は文様から堂林式新段階～御殿山式相当のもの。

## P423 (図58 図版58)

**遺構** Ⅲ層面で、黒褐色土層と黒色土が円形に重なり落ち込む状況で検出された。覆土上位には、Ⅳ層を多く含む黒褐色土が堆積し、下位には黒色土層が堆積している。本土坑からは上部にあった後期後葉の包含層からの遺物の流入が無く、出土した遺物から縄文時代中期の土坑とした。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片10点が出土。1はその半数が接合した萩ヶ岡2式相当の胴部片である。

P424 (図58 図版57)

遺構 道跡の撤下の踏み固められたⅢ層から検出された土坑である。土坑の壁は圧力のためかゆがんでいた。北東壁からはやや大きな礫2点が重なって出土した。土坑の特徴から判断すると後北C、D式期のものと考えられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期1点、後期後葉25点の土器片や礫2点などが出土している。

P425 (図58 図版59)

遺構 Ⅲ層上面で、土器片を多量に含むMC盛土とみられる黒色土層が長円形に落ち込む状況で検出された。覆土は土器片を含む盛土層が坑底まで堆積する。本土坑は縄文時代晩期前葉のMC盛土を掘りぬいたか、あるいは同時期のものとみられる。覆土の特徴から縄文時代晩期前葉のものとした。

遺物 覆土からは縄文時代中期30点、後期後葉79点の土器片やつまみ付きナイフやスクレイパー類などが出土している。1は口縁部に併行する沈線の間には爪形文を施した三ツ谷式以降の深鉢片とみられる。

P426 (図59 図版59)

遺構 縄文時代前期の住居H29の覆土上部に位置する縄文時代中期の土坑P417を完掘した際、本土坑がP417を切って存在していることに気付いた。そのため、図面で平面は欠けているが、本来は円形の土坑であったとみられる。覆土には土器片やパミスが混じるMC盛土層が落ち込んだ状況で、縄文時代晩期前葉のMC盛土を掘りぬいたか、あるいは同時期のものとみられる。覆土の盛土層は埋め戻しではないかもしれない。これらの特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とした。

遺物 覆土からは縄文時代中期12点、後期後葉73点の土器片や石鏃、スクレイパー類などが出土している。1～3は器壁の薄さから御殿山式から大洞B式相当の深鉢口縁部片とみられる。1の口縁部には1条の爪形文が施される。3は無紋土器で、口唇部外側に爪形文が施される。

P427 (図59 図版59・60)

遺構 Ⅲ層上面で、黒褐色土と黒色土が円形に重なる状況で確認された。覆土上位には黒褐色土、下位には黒色土がはいり、検出面上には石皿が1点、覆土中には多数の土器片が含まれていた。出土遺物から後北C、D式期と考えられる。

遺物 覆土からは縄文時代後期後葉47点、続縄文期10点の土器片が出土した。1は赤穴式の深鉢口縁部片である。口唇はゆるやかな波状で、口縁部に1条の縄線文、胴部には絡絡体文が施され、原体の端部のあたりが口縁部に併行して走る。内面には炭化物が付着し、土器のつくりは在地の後北C、D式と類似する。2は後北D式の深鉢胴部片で、これも内面に炭化物が付着する。

P428 (図60 図版60・61)

遺構 平成13年度調査範囲との境目のMライン付近でP429と並んで検出された。Ⅱ層の緩斜面で、中央に黒色土、外側に褐色土が円形に落ち込む状況で検出された。土層断面をみると、覆土上位に黒色土、中間にⅣ層を多く含む暗褐色土、下位に黒褐色土がはいり、いずれの層もパミスが含まれ、埋め戻しの様相を呈する。坑底面の北東側にはわずかにベンガラ散布が確認された。覆土には後期後葉(晩期前葉の破片も含む)の土器片が含まれ、出土遺物や土坑の位置を勘案して縄文時代晩期前葉の墓と考えた。小形の深鉢や大洞B式相当の注口土器片がややまとまって出土しており、覆土上部の副葬品である可能性がある。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。2～12は堂林式新段階～大洞B式相当の破片である。2は、ものに本土坑に接して検出されるP486の覆土上部の破片と接合し、復元された小型の深鉢で、御殿山式以降のものと思われる。口唇部は細かく刻み小波状に作られ、底部は上げ底である。3は口縁部の突起片で幅広い突起口唇部には3条の沈線文が施される。突起の形状から晩期前葉とみられる。4、5は堂林式新段階から三ツ谷式相当の破片とみられ、4は小型の深鉢片、5は鉢形土器の破片である。6から12は大洞B式相当の壺あるいは注口土器の破片である。6、7は鉢形土器の口縁部かもしれない。8は無紋の頸部片、9～12は胴部片である。10の胴部片は沈線で施文されるが、注口部周辺にのみ文様が施される例があるため、8～12は同一個体である可能性がある。

P429 (図59 図版61)

遺構 平成13年度調査範囲との境目のMライン付近でP428と並んで検出された。この付近の包含層は、二年間風雨にさらされたため崩れやすくなっていた。本土坑は、それらを取り除いたⅡ層からⅣ層にかけての緩斜面で、中央に黒色土、外側に褐色土が円形に落ち込む状況で検出された。断面は覆土上位に黒色土、中間にⅣ層を多く含む暗褐色土、下位に黒褐色土がはいり、いずれの層もパミスが含まれ、埋め戻しの様相を呈する。覆土中には後期後葉の土器片が含まれ、出土遺物や土坑の特徴から縄文時代晩期前葉の墓と考えた。

遺物 覆土からは縄文時代早期2点、中期2点、後期後葉38点の土器片が出土。石器類の出土量も少ないため、この付近に縄文時代後期後葉の遺物を含む盛土遺構はなかったとみられる。1～3は堂林式新段階から三ツ谷式相当の破片で、1、2は深鉢口縁部、3は壺あるいは注口土器の口縁部である。口唇には突起があり、口縁部に併行した2条の沈線の間を棒状工具でハの字状に刺突している。

P430 (図60 図版62)

遺構 Ⅲ層上面で、黒色土が小判型に落ち込む状況で検出した。遺構の確認が遅かったため、残りも浅く、覆土から遺物は検出されなかった。

遺物 遺物は出土していない。

**P431 (図61・62 図版62・63)**

遺構 II層下位で、IV層が混じる黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。検出面上に遺物はほとんど見えなかったが、掘りはじめるとすぐに土器片や礫が多数検出された。破片のほとんどは水平に出土したが、その中に口縁部を欠損する以外には完品の注口土器1点が礫とともに坑底面に置かれた状態で検出された。同時期の副葬品は墓の上部に置かれる傾向があることから、墓以外の遺構の可能性もあると考えたが、坑底面の南西壁際よりサメ歯穿孔孔品3点が検出されたことから、御殿山式期の墓と考え、同時に頭位も南西付近にあると推測した。覆土は、因ではバミスが混じる黒色土1層になっているが、検出面上には薄く黒褐色土があり、本来は土色による埋め分けがなされていた可能性がある。

遺物 1～3は坑底面から出土したホホジロザメ下顎歯を用いたサメ歯穿孔孔品とみられる。4は覆土上位から出土した砂岩製の砥石片である。この砥石には割れた後も使用されていた痕跡が残る。覆土からは縄文時代後期後葉の土器片273点が出土。5は口縁部と注口部を欠損する以外は原形をとどめる。文様は注口の周りにのみ施され、ひとつは剥離しているが、注口下には2個の貼輪があり、それを三叉文が囲む。注口より上にはA状の突起が繰り返される胎付帯が1条施され、底部には中央に刺突のある孔状突起が付く。6には地紋がなく、口縁部に2条の平行沈線、胴部には矢羽状の沈線が施される鉢形土器である。口唇部は角型で器壁は薄く、上げ底の底部を持つ。未接合の破片をあわせると、9割以上の破片が遺構覆土から出土している。7の器面には縄文が施され、口唇は丸く上げ底である。未接合の破片をあわせると7割以上の破片が遺構覆土から出土している。8の大型の深鉢は、底部周辺の破片が覆土上部から出土した。胴部中央から口縁部にかけては、隣P432覆土と周辺の包含層の破片が接合したものである。遺構の残り悪い場合包含層からの出土量が多いかもしれないが、となりの遺構覆土からも出土するのは、本土坑が作られた時点であるという破片が散らばっていた可能性もある。底部は上げ底で、口唇部外側には、親指と人差し指でつまむように刻んだ縦方向の親指の爪痕と上から人差し指の爪先による刻みが連続する。9、10は覆土出土の深鉢口縁部片、11～13は注口土器の破片である。11の口縁部は大小の突起が交互に付されるもので、大きな突起の下には三叉文が施される。12は注口部の破片、13は無紋の注口土器あるいは壺の胴部上半の破片で、P508-213に図示した注口土器に似たものとみられる。

**P432 (図63～65 図版64・65)**

遺構 平II層面度中央にバミス混じりの黒褐色土、外側に褐色土が円形に重なり落ち込む状況で検出された。直径約140cmの本道跡中では大型の円形土坑である。断面は覆土上

位に黒褐色土、中間にIV層を多く含む褐色土、下位に黒褐色土がはいり、いずれの層もバミスが含まれ、埋め戻しの様相を呈する。覆土上位の黒褐色土層中からは、副葬品とみられる縄文時代晩期前葉の土器5点が出土。このうち注口土器と片口土器は、口縁を落ち込みの中央に向けた状態で倒れて出土した。これらの土器は埋め戻しの際、並べて置かれていたのかもしれない。また、坑底付近より養身具とみられる玉類23点や人歯の痕跡が出土した。副葬された土器から縄文時代晩期前葉の墓と考えられる。出土土器には隣に位置するP431に伴う大型の深鉢口縁部片が数点出土しているが、本遺構のほうがP431より新しいため、埋め戻しの際に流れ込んだ破片とみられる。

遺物 1～23は坑底付近から出土した玉類である。1は蛇紋岩製の本道標最大の玉である。これは高いレベルではかの玉類からやや離れた高い位置で出土したが、ネズミの咬み跡が見られることから、埋葬地より後世に動いた可能性がある。2は勾玉状の玉で、線刻が施される。3は丸玉状、8、9は葉玉状である。石材は6がジャスパー製、23がヒスイ製、残りはすべて緑泥石岩製である。24～28は覆土上部に副葬されていた縄文時代晩期前葉の土器である。24の口唇は平らに調整され、頸部と注口付近に縄文が、頸部と肩部の境には爪による刻みが施される。胴部の張り出し付近に1条の沈線をめぐらせ、注口下部の胎付けは左右非対称で、三叉文が施される。底部は平らに調整される。25は胴部の一部が欠落するため、壺型か注口土器かは不明である。胴部の形状は24と類似し、底部は平らに調整される。26はキャリバー型の土器とみられ、これらの類例であるP395・P462・P508からの出土資料と比較すると口縁部と頸部の境にあるくびれが無くなるなど、最も新しい要素が見られる。底部は上げ底である。27はやや小ぶりの浅鉢で、器面になてた痕跡が残る。底部の大きさは26、28に匹敵する。28無紋の片口土器である。墓の上で倒立した状況で出土し、一部欠損する口縁部は検出面側のため、割平されたものとみられる。無紋の浅鉢形土器の口縁の一部をつまみ出したような調整で、口唇部は平らに調整される。この5点の土器は器面調整や焼成が類似しており、同時に作られたものとみられる。29から32は覆土中の破片である。29は口唇を爪で削り、口縁部に2列の爪形文が並ぶ。30の口縁部は棒状工具で斜めに削られ、口縁部には突瘤文と爪形文が施される。31は浅鉢とみられ、三叉文が施される。32は口縁部が無紋で地紋との境に沈線文が施される。

**P433 (図66・67 図版66・67)**

遺構 II層下位で、II層とIV層の混土である黒褐色土層とIV層の褐色土が小判型に落ち込む状況で検出された。検出面西側を占める黒褐色土層上には副葬品と見られる土器片が認められた。覆土上部からは注口土器1点、注口あるいは壺形とみられる底部片1点、ミニチュア土器3点が割れた状態で出

土した。覆土は、全体に褐色土と黒褐色土が互層に堆積した埋め戻しである。坑底面西側には頭部の痕跡がわずかにみられ、付近から歯が検出された。頭部の南側からは折られた石刀が置かれ、その周辺からはサメ歯穿孔孔品3点と玉類8点が散らばって出土した。出土した注口土器から縄文時代晩期前葉の墓とみられる。

**遺物** 1～3はサメ歯穿孔孔品とみられる。1、2はホゾロザメ下顎歯、3は同上顎歯を利用したもの。4から11の玉類のうち、4は線刻の施された勾玉状の玉、5は扁平な葉玉状の玉である。石材は5が赤色変質岩、6がコハク、その他は緑泥石岩である。12は緑色凝灰岩製の石刀片である。最も幅のある部分での長軸と短軸の比率は55.8%であり、数値的に石刀とした。断面は楕円形で片方の側面には面取りが施される。図の上部は破損面が新しく、両扉するさいに折ったものとみられ、失っていたとみられる図下部の破損面はつぶれて磨耗している。13は注口土器である。底部は丸く、口縁部には10ヶ所の貼付があり、その上面に沈線が施される。口縁部と肩部の境には6ヶ所の突起がある貼付帯が付けられ、突起間に沈線が付けられる。14は口縁部から1対の孔が空けられ、底部は丸底である。15は半球状、16の底部は剥離し、口縁部は内湾する。14～16はミニチュア土器である。17は乳房状の底部をもつ壺または注口土器の胴下部で、底部の貼付は破損している。18、19は堂林式新段階から御殿山式中期相当の破片で覆土の遺物で、18は深鉢口縁部、19は壺または注口土器の肩部片である。

#### P434 (図68 図版67・68)

**遺構** Ⅱ層下位で、Ⅳ層が混じる黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は上部にⅣ層にⅡ層の混じる黒褐色土が落ち込み、覆土下位は主にⅣ層起源の土で埋まる。坑底面中央付近からは環状漆塗製品と玉6点が、北側壁際からは玉3点（このうち2点が接合し、玉の合計は8点となる）が出土した。覆土上部は削平のせいかな遺物は出土しなかった。墓の位置や覆土の状況から縄文時代後期末葉の墓とみている。

**遺物** 1は環状漆塗製品とみられる。表面には矢羽状の文様がみられる。2～9は緑泥石岩のおもに白玉状の玉である。10は黒曜石製の石鏃である。11は堂林式新段階から三ツ谷式中期相当の深鉢胴部片である。

#### P435 (図69・70 図版68・69)

**遺構** 縄文時代前期の40号住居の黒褐色土の覆土層で、中央にⅡ層の黒色土、外側にⅣ層が混じる黒褐色土層が重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上部には包含層のⅡ層が落ち込みその周りは主にバミスを含むⅡ層とⅣ層の混土により埋められている。土層断面図に示した6層の黒褐色土層中からは7点の玉類が出土した。本層は覆土上位の包含層の落ち込みとの間に埋め戻しの褐色土層が挟まることから、

埋葬時に半分近く埋め戻したおりに埋められたものとみられる。覆土中位から玉類が見つかった墓は本道構のみである。坑底面北西側からは6点のサメ歯穿孔孔品がまとまって出土したことから、被葬者の頭部もこの付近と考えた。なお、出土したサメ歯穿孔孔品のうち2点は破損のため図示しなかった。坑底の中央付近からはつまみ付きナイフ1点が出土した。道構の形態的な特徴から判断すると縄文時代後期後葉の墓と考えられる。

**遺物** 1から4はサメ歯穿孔孔品とみられる。歯根部は失われている。1はホゾロザメ下顎歯、2、4は同上顎歯を利用したもの。3は破損品だが、下顎歯を利用したものとみられる。5から11は覆土中位からばらばらで出土した玉・垂飾類である。5は縦長の垂飾とみられ、頂部には装飾が施され、下部は欠損する。6は扁平な丸玉状である。石材はすべてが緑泥石岩である。12は坑底面から出土した黒曜石製のつまみ付きナイフである。13から18は覆土中の土器片である。1の口縁部には突輪文と爪形文が付けられる。口唇部の細い刻みの間には幅のある突起が付くようである。14は無紋の口縁部に文様が刷まれ、口縁部の下位には爪形文が施される。13、14は縄文時代晩期前葉の破片である。15、16は堂林式新段階から三ツ谷式中期相当する破片で、15は深鉢、16は壺または注口土器の胴部片である。17、18は三ツ谷式から御殿山式中期相当の壺または注口土器の底部で、内側の様子もみず未使用の個体片である。副葬された土器の一部である可能性もある。

#### P436 (図70・71 図版69・70)

**遺構** 縄文時代後期中葉の55号住居の覆土面で、Ⅳ層とⅣ層混じりの黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土最上部にはⅡ層の落ち込みがあり、その下位は黒褐色土層が検出面から南側に落ち込み、褐色土層がその下位、坑底面付近には黒色土堆積し、断面南側には副葬品と見られる石斧が北側には玉（勾玉状）が2点入っているのが観察された。断面で見えた遺物はそれ以外に出土しなかったが、坑底付近の北西側からは頭の痕跡と見られる黒褐色土の高まりが見つかり、その頭部からは人歯が、あたまた北側からは骨が立った状態で出土（検出の際に移植が当たり、角を欠損する）した。頭部と見られる黒褐色土は調査のさい掘り下げたが、そのおり頭頂部付近からサメ歯穿孔孔品8点が検出された。また、坑底中央付近からは環状漆塗製品が2点ひとつは横につぶれ、ひとつは環状に出土、また、人歯とはほぼ重なる位置で1点の勾玉状の玉が出土した。北側壁中央付近から2点の勾玉状の玉が重なるように出土した。覆土上部は削平のせいかな遺物は出土しなかった。墓の位置や覆土の状況から縄文時代後期後葉の墓とみている。

**遺物** 1～3には漆塗製品を掲載した。色調はいずれも朱色である。1は櫛である。透かしはなく、欠損箇所は発見の際に移植が当たったもの。2、3は環状漆塗製品である。2は立

った状態で埋まり、つぶれたものとみられる。3は環状に出土した。直径はおよそ8cm前後とみられ、被葬者が両腕に装着していたものとみられる。4～11はサメ歯穿孔品である。いずれもホホジロザメの歯を利用したもので、4、11は上顎歯を利用したもので、5～8、10は半分欠損品。9は下顎歯とみられる。12は頭部と重なる位置で見つかった勾玉状の玉で、13はE字状、14は表面に文様が刻まれたもので、いずれも緑泥石岩である。15は断面でみえていた石斧である。基部は前面敲打による調整である。石斧の下位にはベンガラ層があり、石斧にも付着していた。16は堂林式新段階から三ツ谷式期相当の深鉢口縁部片である。

#### P437 (図72 図版71)

**遺構** II層下位で、褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。検出状況からP438に一部切られていることがわかった。覆土上部にはIV層主体の褐色土層が皿状に落ち込み、下位にII層が強い黒褐色土層で、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底北西寄りからは頭部の痕跡と見られる黒褐色の高まりがみつかった。出土遺物から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片が3点、中期の破片が9点、後期後葉の破片111点が出土しているほか、石鏃、スクレイパー類なども出土している。出土した遺物はすべて流れ込みとみられる。1は黒曜石製の石鏃、2はメノウ製のスクレイパー類、3から6は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する破片である。

#### P438 (図72・73 図版71・72)

**遺構** II層下位で黒褐色土層が円形にお落ち込む状況で検出された土坑である。検出状況からP437を切ることがわかった。覆土は上部に黒褐色土、中位にIV層が混じるにぶい黄褐色土、下位には黒褐色土が堆積する。坑底の北東寄りから頭蓋骨の痕跡、中央からは大腿骨の痕跡がみつきり、首の位置からはコハク玉を含む首飾りが出土、被葬者の西側、膝付近から透かしのある髷1点が検出された。髷の位置は頭からは離れており、被葬者のわきに置かれたものとみられる。

**遺物** 1は髷である。表面の赤彩は検出の際に水洗で流れたが、色調はオレンジ系である。四隅に三角形、中央には工字状の透かしを空け、その下位に「( )」形の透かしが施される髷である。髷幅は12cm、幅8.8cm、高さ6.5cmである。2、3は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する破片で覆土の遺物である。4から25は玉類である。14は葉玉状で、17、25が厚みのあるもの、あとは白玉状のものである。石材はほとんどが緑泥石岩製であるが、12、13、23がコハク製である。

#### P439 (図74～77 図版72～77)

**遺構** 検出面は擾乱が激しく受けるが、III層面で褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認された土坑である。覆土は全般的にIV層主体の褐色土層とII層を含む黒褐色土層が互層に堆積する。土坑の東側を掘ったさいに坑底付近から10点の玉が並んで出土した。全体を坑底付近まで下げると、細長い土坑にもかかわらず2体分の頭部の痕跡と人骨が認められ、合葬墓であることがわかった。それぞれ被葬者頭上には髷が1点ずつ、南側の頭上には透かしのある髷が、北側の頭上からは透かしの無い髷が検出された。さらに二人の頭の間には倒立した状態で1点、その髷の下である被葬者の頭の下にはもう1点の髷がみとめられ、合計4点の髷が確認された。頭の間と下から検出された髷は、どちらの被葬者が装着していたかははっきりしないが、髷の方向は南側の被葬者頭部に向いていた。またそれぞれの被葬者の頭部の下からは首飾りが検出された。北側の被葬者の頭の下からは22点の連なった土玉と、それと重なるように勾玉状の玉2点も出土し、南側の被葬者からは葉玉状の玉を中心に勾玉状の玉やコハク製の玉など24点の連なった状況で検出された。被葬者の前庭の残りが良く、それぞれ上顎と下顎の歯が確認できた。特に北側の被葬者は南列のまま出土した。北側の被葬者上顎の南列の上には動物犬歯(大きな犬歯から推測するとヒョウマであった可能性がある)を利用した歯牙製品らしき痕跡も認められたが、取り上げるには至らなかった。二人の頭部の中間から約10cm離れた胸元付近からは環状漆塗製品2点が重なって検出された。出土位置から北側の被葬者が二連で倒立装着していた可能性が高いとみられる。坑底中央付近からは、被葬者がそれぞれ腰に付けていたと考えられる位置で漆塗腰飾2点が坑底を横切るように検出された。先に見つかった10点の玉は腰飾よりも足側に位置することから、足首に装着されていた可能性もある。

**遺物** 1～4には髷を示した。4点出土した髷のうち透かしが施されるのは2だけである。2は土から分離することが出来なかった。四隅に三角形、中央には工字が上下に分かれたような、十字形と三角形の透かしを空け、下位の十字形のまわりに「( )」形の透かしが施される髷である。1、2、4は透かしのない髷である。1は北側の被葬者頭上から出土したもので、髷幅は12cmで、体部の上部に5ヶ所、下部に2ヶ所の瘤が作られる。残存する幅は82cm、高さ56cmである。3は被葬者の頭の間を横向きに立って出土したものである。突起部は方形に切り込まれた状態で、体部の上部に1ヶ所、下部に2ヶ所の瘤が作られる。髷幅は10cmと推測され、残存する幅は69.5cmである。4は被葬者の頭の下から出土したもので、髷幅は12cmで、現存する幅は87cmである。発見時と重なる部分を水洗した際、その部分の顔料が流れたことから、表面の赤彩に使われた漆が少ないのかもしれない。色調は赤系で、体部の上部に3ヶ所、下部に2ヶ所の瘤が作られる。5は2点重なったまま取り上げ、土から分離することが出来なかった環状漆塗製品である。表面は滑らかで張り出した装飾は無いとみられる。6、7は漆塗腰飾である。本遺跡ではP439が唯一の出土例である。6は北側の被葬者上から検出

されたもので全長約60cm、幅約2mmの細長い繊維5条を平行に合わせて約15mmの幅に加工されている。7は南側の被葬者上から検出されたもので、残存する長さは約36cm、幅約15mmで、細い繊維をまとめた状況にない。8～64は玉類である。8～30は南側の被葬者の首飾りで、菓玉状の20を中心に勾玉状の玉と点などを連ねたもの。10、11、14、15、18、19、21、22、24、25はコハク製で、2点並べて大きな玉の両側などや連の途中に配している。31～54は北側の被葬者の首飾りである。31～52は土玉で、球状に丸めた粘土に穿孔したものである。31～52は土玉で、球状に丸めた粘土に穿孔したものである。53、54の勾玉状の2点は土玉の連珠からはみ出しており、土玉の連から飛び出した位置に配されていたとみられる。55～64は北側の被葬者の足付近から出土した連珠である。菓玉状の60を中心に10点を連ねたもので、すべて緑泥石岩製である。65は覆土中の土器片で、御殿山式期相当の鉢の口縁部である。

#### P440 (図77 図版78)

**遺構** II層下位で、褐色土層が長円形に落ち込む状況で検出された。覆土上部には比較的IV層主体の褐色土層が皿状に落ち込み、下位にはII層主体の黒褐色土層が堆積しており、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底北西寄りからは頸部の痕跡と見られる黒褐色の高まりがみつかった。出土遺物から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片も出土しているが、土壌の上面は攪乱にまぎれたものと見られる。1、2は三ツ谷式の鉢の破片である。

#### P441 (図78・79 図版78～80)

**遺構** II層下位で、褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上部には比較的IV層主体の褐色土層が皿状に落ち込み、下位にはII層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底北西寄りからは頸部の痕跡と見られる黒褐色の高まりと人歯がみつき、その頭上には髷が1点と複数の漆塗垂飾とみられる製品がみつかった。漆塗垂飾はその後、被葬者の首や肩、胸元付近からも玉類とともに出土し、合計14点まで確認できた。形状は宮城県の沼津貝塚から出土した骨製の環状垂飾に似るもので、楕円形に空けた穴の長短の軸方向に複雑な突起を配したもので、同様の骨角器がF312からもみつかった。漆塗垂飾は形状の複雑さから壊れやすく、検出作業の時点で破損したものが多く、確認した点数よりも実際には多くあったとみられる。また、処理後の状態から形状がわかりにくいため、出土位置図に写真と復元想定図を掲載した。覆土の出土遺物から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 1には髷を示した。透かしは無く、破損が激しいため体部の瘤の有無や髷歯の数は不明である。2～15は漆塗垂飾である。全体に崩れており図では形状はわからない。16～38は胸元付近から出土した玉類33点である。ほとんどが緑泥石

岩製だが、18、20、38は凝灰岩とみられる。39は黒曜石製の石鏃40は覆土出土の石斧である。41～48は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する破片である。

#### P442 (図80 図版80)

**遺構** III層面で、黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上部には比較的IV層主体の褐色土層が混じり、下位にはII層主体の黒褐色土層が堆積しているが、上面の削平が深いため、土色による埋め分けがされているかは不明である。坑底北西寄りからは北東向きに頭蓋骨、坑底中央からは左右大腿骨と左脛骨の痕跡が検出された。覆土中の遺物から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 1、2は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する土器片で、3は晩期中葉とみられる破片で、おそらく覆土上の攪乱にまぎれていたものとみられる。

#### P443 (図81・82 図版81・82)

**遺構** III層面で、黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上部には比較的IV層主体の褐色土層が混じり、下位にはII層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされていた可能性はある。覆土上位からは、北東側で台石(10)が、中央から南西側で深鉢片(9)がまともに出土した。坑底南西側からは北西向きに頭蓋骨の痕跡が検出された。顎の周囲や頭の下にはベンガラが散布され、黒曜石の剥片やスクレイバー類、石鏃が出土している。これらは被葬者の頭に下に故意に置かれたものとみられる。北東側では左右の大腿骨と脛骨の痕跡が残り、被葬者の腰付近からは赤彩された環状土製品が出土している。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 1、2は黒曜石製の有茎鏃である。どちらも破損しており、1は頭骨下から、2は頭骨脇から出土したものの。3、4は黒曜石製のスクレイバー類である。3は顎の脇から、4は頭の下から出土した。5は赤彩された環状土製品で、図の縦方向に貫通孔が空けられている。側面には1条の沈線文を巡らせている。6～9は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する土器片で、6は深鉢口縁部、7は沈線文が施される鉢の口縁部、8は小形の土器の底部である。9は覆土上部に副葬された土器の口縁部片で、小波状口縁と突線文をもつ。10は覆土上部出土の安山岩製の台石である。

#### P444 (図83・84 図版82・83)

**遺構** III層面で、黒褐色土層で落ち込むP444とP793の2基の土坑が十字状に重なって検出された。P444の長軸で断面を設定し、観察したところ、土坑の上部で本土坑がP793に切られているのがわかった。また、この時点でP793の半分が失われた。P444の覆土は全体にII層・IV層の混じる黒褐色土で、埋め戻しの様相を呈している。覆土上位には11片の深鉢胴部片がみつめられ、P443の例から副葬品の可能性が

あると考え図化した。坑底部北西側からは南西に向く頭部の痕跡が出土し、被葬者の歯の付近から後頭部にかけて、47点の玉を連ねた首飾りが出土した。また、坑底部南東側からは左右の大腿骨と脛骨の痕跡が出土した。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

遺物 1～47は玉類である。このうち勾玉状の玉が17と27の2点、葉玉状のものが4と9などで、のこりのほとんどは白玉状のものである。石材はすべて緑泥石岩製である。48は三ツ谷式期に相当する壺あるいは注口土器胴部片である。49は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片。50は覆土上部で検出した深鉢胴部片である。

#### P445 (図85～87 図版83～85)

遺構 Ⅱ層面、黒褐色土層と暗褐色土層が小判型に重なって落ち込む状況で検出された。検出面上では上部副葬品の三ツ谷式期の片口土器55が口縁部を上に見えていたが、口唇の一部は破損していた。断面はこの土器をとおる長軸で設定した。覆土は上位にはⅣ層とⅡ層の混泥土である黒褐色土層が堆積し、下位にはⅡ層が主な黒土で埋められている。また、坑底面には薄くベンガラがしかれていた。坑底部西側の土器の真下付近には被葬者の頭部があり、髷3点とサメの歯の集の中や人歯が検出された。これらの遺物集域から離れた坑底部東側にも、玉類、サメの歯、土製品のみがあり、有機質な遺物（図では歯とされている）もみられた。サメの歯は被葬者の頭部付近から出土する例が多いことから、この位置にもう一人の被葬者の頭部があった可能性があり、本土坑は縄文時代後期後葉の三ツ谷式期の合葬墓であったとみられる。

遺物 1～3は櫛である。1の体部には、対向する2対の三角形を横に並べ、中心が菱形になった形の透かしが施される。突起部は方形に切り込まれ、体部の上部に1ヶ所、透かしの間に2ヶ所、下部に2ヶ所の櫛が付される。櫛歯は推定10本である。2は1の下から同じ向きで検出された透かしのない櫛である。突起部は弧線状に加工され、体部の上部に5ヶ所、下部に2ヶ所の櫛が付される。3は1と2の横に倒立して出土した半円形の体部をもつ櫛である。取り上げは2と3を一緒に固め、分離は出来なかった。体部の文様帯は完全に削れているが、紐状の心材を型厚材（漆）で固め、半円形の文様帯に仕上げたものとみられ、恵庭市カリンバ3遺跡119号土坑墓の出土品に似たと考えられる。4～46はサメ歯穿孔孔品である。このうち4～21と出土地点の記録が無いが、櫛の取り上げのさいに出土した46が坑底部西側のまとまりで、22～45は東側のまとまりである。西側と東側を比較すると、前者にはイタチザメの歯3点（11、14、21）が含まれている。イタチザメは秋田県の定置網に入った記録があるそうだが、通常はもっと南海の種である。上顎、下顎かは不明であるが、最大の21が第1歯だとしても全長4mm前後はると推測される大きさである。（北海道大学教授 仲谷一宏氏ご教

示による）本種を用いたサメ歯穿孔孔品は東北地方の遺跡からも出土例はあるが、明確な出土例は北海道では初である。西側から出土した歯はホホジロザメの下顎歯が多く、東側のものより大型の歯を利用している。東側出土のものにはホホジロザメ上顎歯の8番目以降の歯が目立つ。47～52は玉類と土製品である。すべて坑底部東側からの出土で、サメの歯の集域の外側に散らばる状況で少数が出土した。52は赤彩のある分層土製品である。頂部付近には穿孔があり、表面には縄文が施され一條の沈線が螺旋状に施す。出土状況からこれらの玉・土製品は一緒に進められた可能性もある。53、54は覆土出土の土器片である。55は覆土上部に調整されて片口土器である。沈線文の一部にはベンガラがみられ、口縁部と文様帯の下には棒状工具による刺突が施され、無紋の底部は上げ底である。口唇部の片口縁には2ヶ所の突起が施される。

#### P446 (図80 図版86)

遺構 Ⅱ層下面で、褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上部にはⅣ層主体の褐色土層が混じり、下位にⅡ層主体の黒褐色土層が堆積しており、土色による埋め分けがされている。坑底面西側からはベンガラが混じる頭部の高まりと人歯が検出された。出土遺物から縄文時代後期後葉の墓と考える。

遺物 1は頁岩製のつまみ付きナイフ、2～4は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する土器片である。

#### P447 (図88 図版86～87)

遺構 耕作跡の残るⅢ層面で、褐色土層が黒褐色土層に囲まれて楕円形に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にⅣ層主体の褐色土、下位にⅡ層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底面には薄くベンガラが敷かれ、坑底西側から頭部の痕跡がみつかり、歯の周囲からは4点の玉が出土した。また、被葬者の頭上北側の坑底面より高い位置で櫛が1点検出された。出土遺物の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

遺物 1は透かしのない櫛である。突起部は弧線状に加工され、体部の上部に5ヶ所、下部に2ヶ所の櫛が付される。櫛歯は12本で、幅は88mmである。2～5は玉類である。このうち2は勾玉状で、3は葉玉状である。石材は2、3が緑泥石岩製、4、5が緑色凝灰岩製である。6は東側の破断覆土出土の石筴である。全面が磨かれ、後期後葉より古いものとみられる。7、8は覆土から出土した堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する土器片である。

#### P448 (図89～90 図版87～89)

遺構 耕作跡の残るⅢ層面、暗褐色土層が黒褐色土層に囲まれて円形に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にⅣ層主体の暗褐色土、下位にⅡ層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑



底部の長軸が70cmを切る小形の土坑だが、底には薄くベンガラが敷かれ、坑底部南東側の黒褐色土層中からは4点の髷(透かしのあるもの2点、無いもの2点)と髷の下から5点の環状土製品が検出された。土製品は5点のうち2点が髷の真下に位置し、後の保存処理時に見つかったものである。土製品のそばに人歯も検出されたことから、これら土製品と髷は被葬者の頭に装着していたものとみられる。出土遺物から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 1～4は髷である。1は四隅に三角形、中央には工字状の透かしを空け、そのまわりに「( )」形の透かしを施した髷である。色調は朱色で、体部の下位には2ヶ所の瘤が造られる。髷面は12本で、幅86mmである。2は中央に工字状とまわりに「( )」形の透かしを空け、体部の端には三角形の透かしを3ヶ所空けている。髷面は12本で幅は87mmである。3は透かしのない髷である。突起部は弧線状に加工され、体部の上部に5ヶ所、下部に1ヶ所の瘤が付される。髷面は13本で、幅は92.5mmである。4は透かしのない髷である。突起部は弧線状に加工され、体部の上部に6ヶ所、下部に1ヶ所の瘤が付される。髷面は11本で、幅は69mmである。5～8は環状土製品である。5点のうち、5～7は髷2を取り上げるさい、まわりから検出されたもので、8、9が髷2を土から分離した際に見つかったものである。出土位置は発見時の状況から復元した。これら環状土製品に文様は無い。

#### P449 (図84 図版89)

**遺構** 耕作の激しいⅡ層面で、褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にⅣ層主体の褐色土層、下位にⅡ層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。本土坑を平段中に、同時期の777号土坑を確認し、これを切っているときが、深く攪乱を受けた場所のため確実ではない。坑底部の北西端から頭部の痕跡である黒色土の高まりと歯が見つかった。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片が2点、中期の破片9点、後期後葉の破片106点が出土した。1～3は覆土出土の堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢片である。

#### P450 (図91 図版89・90)

**遺構** Ⅱ層下面で、バミス混じりの黒褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出された。土坑の位置はP-33の坑と重なる。覆土上位にはⅣ層がやや多く混じる黒褐色土が皿状に落ち込み、下位には比較的Ⅱ層主体の黒褐色土層が堆積している。覆土は全般にバミス混じりで、埋め戻しの様相を呈する。坑底部の南西側からは人歯が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片23点、後期後葉の破片35点が出土した。1～3は覆土から出土した堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢片である。

#### P451 (図91 図版90・91)

**遺構** Ⅱ層下面で、一部大きく攪乱を受けるが褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認された。覆土上位にはⅣ層の褐色土層、その下にⅣ層主体の暗褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部西側にはベンガラの散布が確認された。頸位も同じ方向とみられる。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片が1点、中期の破片22点、後期後葉の破片39点が出土した。1は頁岩製の石鎌、2、3は堂林式新段階から三ツ谷式期の破片である。

#### P452 (図91 図版90・91)

**遺構** 耕作跡の残るⅢ層面で、暗褐色土層が黒褐色土層に囲まれて楕円形に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅣ層主体の暗褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部西側からは人歯が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片9点、後期後葉の破片15点が出土した。1、2は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P453 (図92 図版91)

**遺構** 165の覆土上で、褐色土層が機土を切った小判型に落ち込む状況で確認された。覆土上位にはⅣ層主体の褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部の西側からは頭骨と歯、東側からは左右の大腿骨の痕跡が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片2点、中期の破片7点、後期後葉の破片34点が出土した。1、2は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P454 (図92 図版91)

**遺構** Ⅱ層下面で、褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認された。覆土上位にはⅣ層主体の褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部の南西側からはベンガラの散布と頭部の痕跡が、北東側からは大腿骨とみられる痕跡が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片22点、前期の破片5点、中期の破片5点、後期後葉の破片39点が出土した。1～3は堂林式新段階から三ツ谷式期の深鉢片である。

## P455 (図93・94 図版92)

**遺構** 耕作跡の残るⅢ層面で、暗褐色土層が円形に落ち込み状況で検出された。検出面上に土器片の集中がみられ、注口土器が復元された。覆土は全般にバミス泥がまじり、Ⅱ層とⅣ層の混土である暗褐色土層と褐色土層がスジ状に互層に堆積し、埋め戻しの様相を呈する。坑底部の中央から東側にかけてベンガラ散布がみられ、歯の痕跡も2ヶ所確認された。また、坑底面には刃部を南に向けた石斧2点が約35cmはなれて並び検出された。このような状況から、被葬者は頭を北向きに、南北方向に体をそろえて2体ならんでいた合葬墓とみられる。時期は、上部に副葬された注口土器より三ツ谷式期とみられる。

**遺物** 1、2は坑底部に副葬された石斧である。1は東側、2は西側から出土したもので敲打による形状調整の後に刃部をつけたものである。3は検出面の注口土器である。口縁部と胴部上半には直線の区画内に弧線を重ねる文様を施し、文様の区画部に刻みを付した貼瘤を施す。注口部下には円形の貼付土に小さな貼瘤を付す。胴部と頸部は無紋で、図示していないが器面全面にベンガラが塗布された痕跡がみられる。大きいほうの底径は36mmで、底径18mmの小さな底と二重の構造に加工される。4～8は覆土出土の堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する破片である。4、5は深鉢口縁部、6は片口土器、7、8は注口または壺形土器である。6と8にはベンガラが付着する。

## P456 (図92 図版93・94)

**遺構** Ⅲ層面で、バミス泥じりの黒褐色土層が小判型に落ち込み状況で検出された。検出面上の西寄りには長径約30cmの石皿1点が乗っていた。覆土は全般にバミス泥じりのⅡ層とⅣ層の混土で、埋め戻しの様相を呈する。坑底面からはベンガラの厚い堆積が確認された。ベンガラ面の西寄りでは頭部の痕跡とみられる暗赤褐色の範囲がみられた。土塊の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片17点が出土した。1は三ツ谷式期に相当する鉢の口縁部片である。

## P457 (図95 図版93・94)

**遺構** 耕作跡の残るⅣ層上面で、褐色土層が黒褐色土層に囲まれて小判型に落ち込み状況で検出された。覆土上位にはⅣ層主体の褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部から遺体の痕跡などは見つからなかったが、土塊の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片9点、後期後葉の破片25点が出土した。1は三ツ谷式期に相当する深鉢の口縁部片である。

## P458 (図95 図版93・94)

**遺構** 耕作跡の残るⅣ層上面で、暗褐色土層が楕円形に落ち込み状況で検出された。覆土は全般にバミス泥がまじり、Ⅲ層とⅣ層の混土である暗褐色土層と褐色土層がスジ状に互層に堆積し、埋め戻しの様相を呈する。坑底部西側から南側縁にあってベンガラの散布がみられ、西側には頭部の痕跡と歯が確認された。また、頭部の北側には石斧が1点添えられていた。土塊の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片3点、後期後葉の破片8点が出土している。1は覆土中から出土した堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する注口土器または壺の破片である。2は被葬者の頭部北側に添えられていた石斧である。敲打による形状調整の後に刃部をつけたものである。

## P459 (図96・97 図版94)

**遺構** 耕作跡の残るⅣ層上面で、褐色土層が暗褐色土層にかこまれて円形に落ち込み状況で検出された。覆土上位はⅣ層主体の褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部西側を中心にベンガラ層が厚く堆積しており、西側壁付近には2体分の歯がみとめられた。また、北側の被葬者の頭部付近にサメ歯穿孔品とみられるホホジロザメの上顎骨が1点検出された。その北側の壁際では、ホホジロザメの胎児とみられる(北海道大学教授 仲谷一宏氏ご指示による)歯108点がまとまって出土した。このような出土状況は、加工されたサメ歯穿孔品が集中しているのではなく、小形のサメの歯が置かれていた可能性もある。土塊の特徴から縄文時代後期後葉の合葬墓とみられる。

**遺物** 1～80にはサメ歯穿孔品とみられるものを示した。1は北側の被葬者頭部付近から出土したホホジロザメの上顎骨(推定全長は2mを下回る小さな個体)を利用したものである。2～80は108点出土したサメの歯のうち実測出来た79点である。図では見えないが、縁には副歯状の構造がみられるものが多く、細長い歯では観察できないが、同じ個体の歯であるとすれば、上顎と下顎のセットと考えられる。81、82は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する口縁部片である。

## P460 (図98 図版95)

**遺構** 耕作跡の残るⅣ層上面で、褐色土層が暗褐色土層にかこまれて長円形に落ち込み状況で検出された。覆土上位はⅣ層主体の褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積し、坑底部にはⅢ層とⅣ層の混土が堆積しているが、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部にはベンガラの散布がみられ、坑底部西側からは2ヶ所の頭部と歯の痕跡が確認された。土塊の特徴から縄文時代後期後葉の合葬墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、前期の破片2点、中期の破片19点、後期後葉の破片18点が出土した。

P461 (図98 図版95)

遺構 Ⅲ層面、バミス泥りの暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅡ層にⅣ層とバミスが混じる黒褐色土層であり、下位にはⅡ層主体の比較的上層と比べると黒土層が堆積している。ある程度は土色による埋め分けをしたものとみられる。坑底部の西側からは頭部の痕跡と見られる黒褐色の高まりがみつかった。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の合葬墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片5点、後期後葉の破片101点が出土している。1、2は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する口縁部片である。

P462 (図99~101 図版96~98)

遺構 推文時代の住居H34の北角のⅣ層上面で、Ⅲ層が混じる褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。検出面には耕作の擾乱があるが、土坑の中央には灰白色の層とそれを囲む黒褐色土層が認められ、上部は削平されているのがわかった。残る覆土は坑底部までⅢ層とⅣ層の混泥土で、埋め戻しの様相を呈する。覆土上部の灰白色層と黒褐色土層を下げるのと土坑の中央に4の注口土器が倒れて出土し、周辺からは複数の土器がつぶれた状態で検出され、これらの土器は調製品と考えられた。坑底部中央にはベンガラが散布あり、その上から環状漆塗り製品1点が壊れた状態でみつかった。

また、土坑の北西側からは頭部の痕跡と見られる黒褐色の高まりもみつかった。上部に調製された土器から縄文時代晩期前葉の墓とみられる。

遺物 1(1-1-1-1-9)は環状漆塗り製品である。図は1-1と1-2を合わせ図上で全体像を復元したものである。掲載した9点すべてが同じ環状漆塗り製品の破片とみられる。製品には環状に張り出す装飾が1ヶ所付けられるが、1-1、1-2とも土からの分離が出来なかったため、詳細は推定である。色調は朱色である。2-14は墓の上部から出土した一括性の高い土器を示した。2は丸底で、胴部は張り出し、そばん玉に近い形状をなす。頸部は胴部の張り出しの直上で弱くくびれ、口縁部は失われている。胎土には小石が含まれているが観察できる。3の胴部は丸く張り出し頸部は胴部の張り出しのから近い位置でくびれる。底部と口縁部を欠くが、丸底であったと推測される。注口部の根元はふくらみ、下部には挟りに入る突起とそれを囲み三叉文が施される。4は土坑の中央に横向きで出土した注口土器である。胴部の張り出しは弱く縦長の器形で、底部は割離するが、乳房状突起が付けられていられる。口縁部は無紋で頸部には4条1組の弧線文が、胴部には2条から3条一組の渦巻き文や三叉文が施される。5は小形の注口土器で、胴部は丸く張り出し、頸部には明瞭な段を有する。底部には沈線文が施され中央は丸く窪ませる。口縁部と注口部は欠損する。6は注口土器の胴部片である。外面は丁寧に磨かれ胴部の張り出し直上に頸部の括れを有する。7は注口土器が鉢形土器の口縁部

片、8はキャリバー形の口縁部を有する鉢である。無紋の口縁部には内反し、胴部には斜行縄文が施される。底部は上げ底で無紋である。9は深鉢の口縁部～胴部片である。口縁部は無紋帯があり、縄文が施される胴部の境には爪形文が施される。10-14は小形の鉢形土器である。いずれも上げ底で、焼成前から底部中央が穿孔される。11は器面に菱形の文様が施され、10以外は台部と胴部の境に沈線文が施される。14は口縁部の間きが弱い、ミニチュア土器である。

P463 (図102 図版99)

遺構 耕作跡に切られるが、Ⅱ層下位で、褐色土層が小判型に落ち込む状況がかなり確認できた土坑である。上部には攪乱層が入るが、覆土上位にはⅣ層主体の褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底面にはベンガラが散布され、坑底部南西からは頭部の痕跡と見られるベンガラの高まりがみつかり、被葬者の南脇には石棒が1点、柄頭を頸部に向けて置かれていた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 1-2は覆土出土の堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する口縁部片である。3は砂岩製の砥石である。4は被葬者の南脇に置かれていた単頭の石棒である。長さ54.8cmで、柄頭には1条の線刻とその下に細く線刻の刻みが施され、端部は細身に加工し先端は平らに調整される。柄頭より下位には2条の線刻とその下に細く線刻が2条みられる。両側には敲打痕がのこり、全面磨かれている。

P464 (図103 図版100・101)

遺構 縄文時代前期の住居H52上で、褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出した。覆土上位にはⅣ層が混じる黒褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部南西からは頭部の痕跡と見られる黒褐色土層の高まりと人歯がみつかり、北東側ではベンガラが散布と足の痕跡が認められた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片16点、中期の破片4点、後期後葉の破片57点が出土している。1-2は覆土出土の堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する土器片である。3は東銅路Ⅳ式の底部片である。

P465 (図103 図版100・101)

遺構 Ⅱ層下位で、褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混泥土である褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片20点、中期の破片4点、後期後葉の破片22点が出土している。1-3は覆土出土

の堂台式新段階から三ツ谷式期に相当する土器片である。2、3は壺または注口土器の同一個体片で、口縁部は広がりず、胴部の張り出しから狭まったまま口縁部となる。

#### P466 (図103 図版100・101)

**遺構** 耕作跡の残るⅡ層下面で、暗褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出された。覆土はバミス泥がまじり、Ⅱ層とⅣ層の混土である暗褐色土層と褐色土層がスジ状に互層に堆積し、埋め戻しの様相を呈する。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片2点、後期後葉の破片20点が出土している。1は覆土出土の堂台式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P467 (図104 図版101)

**遺構** Ⅲ層面で褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出された。一部黒褐色土層が入るが、覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混土である褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部には有機質な黒褐色土層があり、その西側には頭部の痕跡と見られる黒褐色土層の高まりがみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、中期の破片4点、後期後葉の破片36点が出土している。1、2は覆土出土の堂台式新段階から三ツ谷式期に相当する破片で、1は深鉢口縁部片、2は無紋の片口土器片とみられる。

#### P468 (図104 図版101)

**遺構** 耕作跡の残るⅢ層面で褐色土層に黒褐色土層が重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混土である褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片2点、中期の破片4点、後期後葉の破片43点などが出土している。また、出土地点が確認できなかったが玉が1点出している。1は緑泥石岩製の玉、2は堂台式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P469 (図104 図版102・103)

**遺構** 耕作跡の残るⅢ層面で暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底面の一部にはベンガラの散布がみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片6点、後期後葉の破片140点などが出土している。1～3は堂台式新段階から三ツ

谷式期に相当する深鉢片である。

#### P470 (図105 図版102・103)

**遺構** 耕作跡の残るⅢ層面で暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部北西縁には頭部の痕跡と見られる有機質な黒褐色土層がみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片1点、中期の破片7点、後期後葉の破片40点などが出している。1～3は堂台式新段階から三ツ谷式期に相当する。1はミニチュア土器である。頸部はくびれ、口縁部に3条の細い縄文が施される。2、3は深鉢口縁部片である。

#### P471 (図105 図版102・103)

**遺構** 耕作跡の残るⅢ層面で暗褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片8点、後期後葉の破片46点などが出している。1～3は堂台式新段階から三ツ谷式期に相当する土器片である。1は深鉢口縁部、2は鉢形で刻みが施される突起の下には穿孔が施される。3は壺または注口土器の頸部片である。

#### P472 (図105 図版103)

**遺構** 耕作跡の残るⅢ層面で褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混土である褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部には遺体の痕跡とみられる有機質な黒褐色土層がみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、前期の破片4点、中期の破片7点、後期後葉の破片18点などが出している。1、2は堂台式新段階から三ツ谷式期に相当する破片である。

#### P473 (図105 図版103)

**遺構** 耕作跡の残るⅢ層面で黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはバミスが混じるⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積している。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片1点、中期の破片25点、後期後葉の破片7点などが出している。1は堂台式新

段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P474 (図106・107 図版104)

**遺構** 耕作跡の残るⅣ層面で褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。上部に少量の黒褐色土層の落ち込みがみられたが、覆土はⅣ層主体の褐色土層が坑底付近まで堆積していた。坑底部は全体に厚くベンガラが堆積し、坑底部北西側には頭部の痕跡と見られるくすんだベンガラ層の高まりがみとめられ、その北側からは2点のサメ歯穿孔孔品と透かしのない髷1点が発見された。また、坑底部南側には環状漆塗製品1点分の破片が散らばって検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1、2はサメ歯穿孔孔品とみられるもので、1は全長2m前後のホホジロザメ上顎歯、2は鰓歯の状況と歯根部の欠損状況からオオメジロザメの歯を利用した可能性がある。3は透かしのない髷である。色調は朱色で、状態が悪いため細部の特徴は不明である。4、5は同一の環状漆塗製品の破片である。これらの漆塗製品はいずれも土から分離することが出来なかった。

#### P475 (図107 図版105)

**遺構** 耕作跡の残るⅣ層面で黒褐色土層に暗褐色土層が重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部東縁ではわずかにベンガラの痕跡がみられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片1点、中期の破片1点、後期後葉の破片11点などが出土している。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P476 (図108・109 図版105~107)

**遺構** 耕作跡の残るⅣ層面で黒褐色土層に褐色土層が重なるように小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅡ層がU字状に落ち込み、そのまわりにⅣ層主体の褐色土層、下位にはⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が堆積している。坑底面南半分にはベンガラが散布され、ベンガラ上の南西側には環状漆塗製品2点が壊れた状況で出土し、その東縁には人歯の痕跡がみられたことからこれら漆塗製品は頭部に装着されていたものとみられる。さらに頭部付近ではサメの歯2点も出土している。頭部の南側壁際には刃部を足個に向けた石斧が1点おかれ、ベンガラの無い坑底部北側には玉類の集中が2ヶ所みられた。出土遺物や土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は環状漆塗製品である。取り上げの際に1-2、1-3が外れたため、両面展開させている。色調は朱色で、裝飾などの突起はみとめられない。2、3はサメ歯穿孔孔品とみられる。ホホジロザメ上顎歯が用いられている。4~38は玉

類である。4~15が坑底部中央付近から出土したもので、16~38が頭部に近い坑底部南西側で出土したものである。それぞれ連なっていた順を想定した掲載としている。いずれも緑泥石岩製で、9、12は深い斜め見て立体的な装飾が施される。31、38の縁には刻みが施される。39は頭部の脇に置かれていた石斧である。全面敲打により形を整えたのちに刃部の加工が施される。

#### P477 (図110 図版106・109)

**遺構** Ⅳ層面で黒褐色土層に暗褐色土層が重なるように小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。本土坑は縄文時代中期の住居址H59を切っているが、住居址を先に調査し、断面の一部が失われている。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片11点、後期後葉の破片29点などが出土している。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P478 (図110 図版108・109)

**遺構** Ⅲ層面で黒褐色土層に褐色土層が重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混土である褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部北東側からは頭部の痕跡と見られるベンガラ層の高まりがみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片1点、中期の破片19点、後期後葉の破片26点などが出土している。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する壺または注口土器の胴部片である。

#### P479 (図110 図版108)

**遺構** Ⅳ層面で黒褐色土層に暗褐色土層と褐色土層が混ざり合い小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が、上位はⅣ層主体の褐色土とⅡ層主体の黒褐色土層が堆積している。坑底部中央付近にはベンガラの散布がみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片17点、後期後葉の破片8点などが出土している。

#### P480 (図111 図版109)

**遺構** 耕作跡の残るⅣ層面で黒褐色土層に黒褐色土、褐色土層が重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けが

されたものとみられる。坑底部西側からは玉が3点検出されたことから、頭位もこの方向とみられる。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片2点、中期の破片2点、後期後葉の破片8点などが出土している。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する注口土器あるいは特殊な器形の土器の裝飾部の破片とみられる。2～3は緑泥石岩製の玉類である。

#### P481 (図110 図版109)

**遺構** IV層面で黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。遺存する深さは17cmで、覆土は坑底付近に堆積するII層主体の黒褐色土層のみである。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片3点、後期後葉の破片1点などが出土している。

#### P482 (図112 図版110)

**遺構** IV層面で黒色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。遺存する深さは10cmで、覆土は坑底付近に堆積するII層主体の黒色土層のみである。土坑の西側、検出面直下から透かしの無い櫛が1点検出され、櫛の西側からはサメの歯17点が検出、櫛の下位からは、漆塗製品の破片が見つかった。このような状況から被葬者の頭位は西南西側で、土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は櫛である。透かしは全く体部上位には6ヶ所、下位には2ヶ所の櫛が施されていると推測する。2は櫛の下から見つかった漆塗製品の破片で、詳細は不明である。3～18はサメ歯穿孔孔とみられる17点出土したうちの1点が破損のため実測できなかったが、出土状況から並び順を復元し掲載した。全長2m前後のホホジロザメ土頸骨を用いたものが多く、中央に大き目の歯を、両端には小さめの歯が並ぶ。

#### P483 (図113・114 図版111・112)

**遺構** IV層面で黒褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出された。遺存する深さは18cmで、覆土は坑底付近に堆積するII層主体の黒褐色土層のみである。土坑の南西側では頭部の痕跡と見られるベンガラ層が薄く乗る。有機質な黒褐色土層の高まりがみとめられた。頭部の痕跡の北側からは67点の玉類を用いた首飾りが、連なったままの状況で出土した。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1～67は玉類である。連珠を復元すると、大きめの重い玉が中央に集まり、端には小形の玉を連ね、両端付近には小形の勾玉状の玉が配置されている。石材は8がジャスパー、57がタルク製であるほかは緑泥石岩製である。

#### P484 (図111 図版113)

**遺構** 耕作跡の残るIV層面でIII層とIV層の混土である暗褐色

土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位には暗褐色土層、下位には黒褐色土層やIV層がブロック状に混じるII層が堆積している。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片1点、中期の破片1点、後期後葉の破片3点が出土している。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P485 (図111 図版113)

**遺構** 耕作跡の残るIV層面で黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は全般にII層とIII層の混土にIV層が混じる状況である。坑底部北西側には頭部の痕跡とみられる有機質な黒褐色土層の高まりがみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片1点、中期の破片1点、後期後葉の破片35点などが出土している。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P486 (図115・116 図版113・114)

**遺構** II層下位で黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にII層とIV層が混じる黒褐色土層が堆積し、下位には上位の層よりも比較的II層が多く混じる黒褐色土層が堆積する。土坑は一部縄文時代晩期前葉の墓P429と重なっている。坑底部西側寄りから人歯と、その横に玉類73点を用いた首飾りが出土した。また、首飾りの南側からは環状漆塗製品が1点検出された。環状漆塗製品は頭部付近から出土していることから頭に装着されていたものとみられる。首飾りには緑泥石岩製の玉とコハク製の玉が利用され、葉玉状に加工された深緑色の玉の脇にコハク玉製の赤い玉を連ねる傾向がみられ、玉の色調を意識した配列がなされているとみられる。覆土上部から出土した無紋の注口土器から、本土坑は縄文時代後期末葉の御殿山式期の墓とみられる。

**遺物** 1は被葬者の頭部に装着されていたものとみられる環状漆塗製品である。芯材に幅のある樹皮あるいは草皮を縦に巻きつけ、2ヶ所の肥厚する丸い裝飾が付けられる。色調は赤色である。2～68は玉類である。73点出土したもののうち6点が破損のため実測である。石材は2、4、9、10、13、18～20、23、24、28、34の12点がコハク玉である。69は覆土上部の破片と一部付近の晩期前葉の土坑上部から出土した破片と合わせてある程度の形状を復元できた御殿山式期相当の無紋の注口土器胴部から底部である。底径17mm前後で上げ底である。70～72は覆土出土の堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P487 (図117 図版115)

**遺構** II層下位に遺物混じりのIV層が広がっている状況から土坑と判断したものである。IV層下の黒色土からは7点の玉が集中して検出されるなど、遺物包合層とは異なる状況がみ

られ、本時期にみられる盛土墓であった可能性があるとみている。覆土上位のⅣ層主体の褐色土層は因では攪乱層としていますが、本層中から出土した遺物はまとまっていることから、攪乱ではなく覆土であったとみられる。

覆土上部から出土した無紋の注口土器から、本土坑は縄文時代後期末葉の御殿山式期の墓とみられる。

**遺物** 1～7はまとまって出土した玉類である。ヒスイ製の片割穿孔のものが6点で、残り1点は緑泥石岩製である。8～11は覆土上部の褐色土層中の土器片である。8は覆土上部の破片と、一部付近の晩期前葉の土坑上部から出土した破片と合わせて復元できた御殿山式期相当の無紋の注口土器である。底径22.5mmで上げ底である。口縁部と頸部の境には1条の沈線文が施される。9は覆土上部の破片と、一部付近の晩期前葉の土坑上部から出土し復元できた御殿山式期相当の鉢形土器である。口縁部と胴下部には細かい縄文が施され、胴中央部には、沈線文で区画された無紋帯が施される。10、11は三ツ谷式期～御殿山式期に相当する深鉢口縁部片である。11の口縁部には突縮文の上下に爪形文が施される。

#### P488 (図116 図版116)

**遺構** 耕作跡の残るⅣ層面でバミスの混じる黒色土層が黒褐色土層に重なり長円形に落ち込む状況で検出された。遺存する深さは5cmで、覆土上位にはバミスの混じるⅡ層が堆積し、下位にはⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。土坑の特徴から縄文時代後期末葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からはフレイク2点が出土した。

#### P489 (図118 図版116・117)

**遺構** Ⅲ層面で黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土はⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層である。覆土から敲き石1点が検出された。出土遺物から縄文時代前期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片4点、敲き石1点などが出土している。1は安山岩製の敲き石で、端部の角2ヶ所に敲打痕がのこる。

#### P490 (図118 図版116・117)

**遺構** Ⅲ層面で黒褐色土層が不整形に落ち込む状況で検出された。覆土はⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層である。覆土からは後期前葉の破片が出土していることと、付近に同時期の住居址H28があることなどから縄文時代後期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片3点、後期前葉の破片19点などが出土している。1は中期中葉の口縁部片で、2～4は縄文時代後期前葉のタブコブ式に相当する破片である。

#### P491 (図118 図版117)

**遺構** Ⅲ層面でバミス混じりの黒色土層が小判型に落ち込む

状況で検出された。覆土は上位にバミスが混じるⅡ層が、下位にはⅢ層とⅣ層の混土である褐色土層が堆積する。覆土からは縄文時代後期前葉の破片も出土しているが、上位から後北C,D式の破片が出土したため、同時期の土坑とみられる。

**遺物** 1、2は同一個体と見られる後北C,D式の口縁部片である。口唇部は割れ、口縁部には1条の貼付帯が施される。

#### P492 (図119 図版117)

**遺構** Ⅲ層面で黒色土が黒褐色土層と重なり円形に落ち込む状況で検出された。検出地点はQ-28の杭と重なる。覆土は上位にⅡ層の落込みがあり、下位はⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。覆土からは多数の縄文時代後期末葉の破片が出土しており、この付近に広がっていたMC盛土からの流れ込みとみられる。遺構の特徴から縄文時代後期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 1は縄文時代後期前葉の口縁部片とみられる。無紋の口縁部の下には爪形文が施される。2～4は御殿山式～晩期前葉期に相当する破片である。2の口縁部には無紋帯がある。3は無紋の浅鉢の口縁部片、4は爪形文が施される胴部片である。

#### P493 (図119 図版118)

**遺構** Ⅲ層面で黒色土が黒褐色土層と重なり楕円形に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にバミス混じりのⅡ層の落込みがあり、下位はⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。覆土から遺物は目立って出土していないが、盛土との位置に関連するのかもしれない。遺構の特徴から縄文時代後期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片2点、中期の破片12点、後期前葉の破片6点などが出土している。

#### P494 (図119 図版118)

**遺構** Ⅲ層面で黒色土が楕円形に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にバミス混じりのⅡ層の落込みがあり、下位はⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。覆土は上位に黒色土、下位にバミス混りの黒褐色土層が堆積する。遺構の特徴から縄文時代前期の土坑と考えた。

**遺物** 覆土から遺物は出土していない。

#### P495 (図119 図版118)

**遺構** Ⅱ層下面で黒色土と黒褐色土が円形に落ち込む状況で確認された。検出面上には扁平な円礫が1点乗っていた。覆土は黒色土や黒褐色土層が皿状に堆積している。覆土から遺物はほとんど出土しなかったが、遺構の特徴から後北C,D式期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期前葉の破片1点、後期前葉の破片1点などが出土している。

## P496 (図120 図版119)

**遺構** II層下面で、パミスの混じる黒色土層が小判型に落ち込み、褐色土層の落ち込みを切る状況で確認された。断面から、本土坑は縄文時代後期後葉の墓であるP655を切ることが確認された。覆土は上位にパミスの混じる黒色土層が、下位には黒褐色土層が堆積する。覆土上位から後北C<sub>2</sub>D<sub>2</sub>式の注口土器の破片が出土したことから、同時期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片14点、後期後葉の破片59点、後北C<sub>2</sub>D<sub>2</sub>式の破片2点などが出土している。1は後北C<sub>2</sub>D<sub>2</sub>式の注口土器の破片である。器高は10cm以下の小形のものともみられる。2は晩期前葉の口縁部片、3、4は後期後葉の破片である。

## P497 (図121・122 図版119・120)

**遺構** 耕作跡の残るII層下面で黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。検出面上の一部明褐色シルト層が堆積しており、シルト層の下からは黒褐色土層を挟んで、2個体の深鉢片や礫が出土した。覆土はII層主体の黒色土層や黒褐色土層、III層、IV層の混土である暗褐色土層が互層で堆積し、堆積の層相を呈する。坑底面には薄いベンガラ散布がみとめられ、坑底部西側からは、頭部の痕跡と見られる有機質黒褐色土層の高まり2ヶ所が歯とともにみつかり、東側からは2体分の足の痕跡がみとめられた。出土遺物から三ツ谷式期の合葬墓とみられる。

**遺物** 1は胴下部片である。2、3の土器は底部が欠けるが、別個体とみられる。2、3は三ツ谷式期の深鉢である。2の口唇には爪形文が施された突起が5ヶ所あり、突起の間には指などで口唇をつぶした窪みが付される。口縁部の文様には対向する三叉文とその間に、上下交互に向く三叉文を中心に沈線文で文様を描き、充填縄文が施される。3は小波状の口唇部をもつ深鉢で、口縁部には交錯文が施される。

## P498 (図120 図版120・121)

**遺構** IV層面で暗褐色土層が黒色土層に重なり円形に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にIV層が混じる暗褐色土層、下位にはパミスの混じるII層主体の黒褐色土層が堆積する。坑底部西側からは、後北C<sub>2</sub>D<sub>2</sub>式の底部片が出土したことから、同時期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片14点、後北C<sub>2</sub>D<sub>2</sub>式の破片6点などが出土している。1は後北C<sub>2</sub>D<sub>2</sub>式の底部片である。底は平らに調整され、編縄文が施される。

## P499 (図120 図版120・121)

**遺構** IV層面でパミス混じりの黒色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は全般にパミスの混じる黒色土層が堆積する。付近にはP498、P500の3基の土坑が並び、残り2基とも後北C<sub>2</sub>D<sub>2</sub>式の土坑で、覆土も特徴が似ていること

から、本土坑も後北C<sub>2</sub>D<sub>2</sub>式期とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片4点が出土した。

## P500 (図120 図版121)

**遺構** IV層面で暗褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。検出面上には礫が1点乗っていた。残りは悪いが出土遺物か、後北C<sub>2</sub>D<sub>2</sub>式期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片4点、後北C<sub>2</sub>D<sub>2</sub>式の破片6点などが出土している。

## P501 (図123 図版122・123)

**遺構** III層面で、III層とIV層の混土である褐色土層が黒色土層と重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはIII層とIV層の混土である褐色土層、下位にはII層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底面にはわずかにベンガラの痕跡がみとめられ、坑底部西側には頭部の痕跡と見られる有機質黒褐色土層の高まりがみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片5点、後期後葉の破片34点などが出土している。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

## P502 (図123 図版122・123)

**遺構** 耕作跡の残るIV層面で、III層面で、III層とIV層の混土である暗褐色土層が黒色土層と重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはIII層とIV層の混土である暗褐色土層、下位にはII層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底面にはわずかにベンガラの痕跡がみとめられ、坑底面にはベンガラの散布がみとめられ、坑底部西側には頭部の痕跡と見られる有機質黒褐色土層の高まりと、はっきりしたベンガラの散布がみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する無紋の深鉢口縁部片である。2は覆土出土の石斧である。特徴が同時期の石斧の形態と異なることから流れ込みとみられる。

## P503 (図123 図版122)

**遺構** 耕作跡の残るIV層面で、パミスが混じるII層が小判型に落ち込む状況で検出された。遺存する深さは10cmで、覆土は上位に黒色土層が堆積し、下位にIII層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積している。坑底部より浮いた位置の西側と東側から2点の玉が出土した。出土位置が異なるが、東側から出土した玉にはネズミのかじり跡が付いており、原位置から移動しているものと考えられる。被葬者の頭位は西側出土の玉付近とみられ、土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。



遺物 1、2玉である。2の表面にはネズミのかじり跡が付いている。いずれも緑泥石岩製である。3は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P504 (図124 図版123)

遺構 耕作跡の残るⅣ層面で褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土の中央に薄く黒褐色土層の堆積がみられたが、そのほかはⅣ層主体の褐色土層が坑底付近まで堆積していた。坑底部は全体に厚くベンガラが堆積し、坑底部北西側には歯の痕跡が、南東側には足の痕跡がみとめられた。北側壁際の覆土中からはベンガラが付着した石皿が縦向きに出土し、坑底部中央にはツノガイ化石が1点、被葬者の足付近からはサメの歯が1点検出された。土坑の散敷から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 1サメ歯穿孔品とみられる。鋸歯部両端は接着時に挟まってしまったが、全長2m前後のホホジロザメ上顎歯を用いている。2はツノガイ化石を利用した垂飾である。3は覆土出土の頁岩製の石鏃である。4、5は覆土出土の堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する破片である。4は深鉢口縁部、5は壺または注口土器の胴部片である。6は壁際から縦向きに出土した安山岩製の石皿である。片面にはベンガラの付着がみられ、坑底部に敷かれるベンガラの制作に関係する遺物かもしれない。

#### P505 (図125 図版124・125)

遺構 Ⅱ層下位で、暗褐色土層に黒褐色土層が重なり小判型に落ち込む状況で検出された。本土は縄文時代晩期前葉の墓、P432の隣に位置するが、覆土上位に黒褐色土層が堆積するため、確認面がP432より10cm前後低い面となった。覆土上位にⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積し、下位にはⅡ層主体の黒色土層が堆積する。坑底部からは遺体の痕跡などはみつからなかったが、土坑の状況から縄文時代後期末葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片8点、後期後葉の破片74点などが出土している。1～3は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P506 (図126・127 図版124・125)

遺構 P505の南側Ⅱ層下位で、暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。検出面上には少量の土器片が散らばっていた。覆土上位にはバミスが混じる黒褐色土層、下位にはⅡ層にⅣ層がブロック状に混じる比較的黑色土層が堆積する。また、上位の層中からは比較的大きな土器片が検出されたが、南西側からは、注口土器と深鉢の破片がまとめて出土した。坑底部からは遺体の痕跡などはみつからなかったが、土坑の状況と出土遺物から縄文時代晩期前葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代後期後葉の破片572点、晩期前葉

の破片88点など大量の土器片が出土している。1～8は堂林式新段階から晩期前葉に相当する土器である。1は堂林式の深鉢口縁部片、2は御殿山式～大洞B1式期相当の破片である。3は覆土上位から一括で出土した注口土器である。底部と注口部、口縁部の大半を欠き、頸部のみ沈線による文様が施される。口縁部と胴部の境には連続する瘤を貼付し、貼瘤の稜に沿って1条の沈線を施す。頸部には玉泡き三叉文が施されることから大洞B1式期相当とみられる。4は上げ底の深鉢底部片、5は無紋の浅鉢口縁部、6は壺(注口)形土器の胴部片である。7は破片のほとんどが遺構確認以前の包含層からみついている。胴部は張り出し、そろばん玉状に近い形状をなす。胴部上半に文様が施される。大洞B1式期相当の壺(注口)形土器とみられる。8は小波状の口縁部を持つ深鉢である。底部を欠き、口唇は指先で削れる。

#### P507 (図125 図版125・126)

遺構 H38の確認作業のためⅣ層上面精査していたところ、黒褐色土の落ち込みを確認した。長軸にあわせて南東側を平敷すると、不明瞭ながらも壁、坑底を確認することができた。覆土は黒褐色土で、坑底は緩やかで平坦であるが、北東壁際に小さなくぼみがある。重複する遺構の可能性があったが、覆土が区別できなかったため、土坑内に形成されたくぼみと判断した。壁は坑底と緩やかに連続している。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片66点が出土している。1は荻ヶ岡2式相当の胴部片である。

#### P508 (図128～132 図版126～130)

遺構 Ⅱ層面で、黒色土層が暗褐色土層に重なり円形に落ち込む状況で検出された。覆土上位にⅡ層の落ち込みと見られる黒色土、その下にⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層、覆土下位はⅣ層主体の褐色土層が堆積する。Ⅱ層の落ち込みには割れた円盤がみとめられ、その下の黒褐色土層中からは上部に副葬されたと思われる土器類9点がふたれた状態で出土した。坑底部の中央から西側にはベンガラの散布がみとめられ、ベンガラ範囲の南側、壁際には黒曜石製の剥片や石鏃、石鎌、石斧などが直線状に並んで出土、またベンガラ上からはサメの歯と白玉状の玉196点が検出された。上部に副葬された土器から縄文時代晩期前葉の墓とみられる。

遺物 1、2は黒曜石製の石鏃で、1は坑底部剥片の下から出土したもの、2は覆土上位から出土したもの。3、4は頁岩製の石鏃で、どちらも坑底部の剥片の下から出土したものである。5は坑底部の剥片上から出土した泥岩製の小形の石斧である。側面と端部に敲打痕がある。6～8は黒曜石製の剥片である。赤井川産とみられる。14～16はサメ歯穿孔品とみられる。14はホホジロザメ上顎歯の1～2番目を利用したもので、全長3mほどの個体のものとみられる。本道路から出土した最大のサメの歯である。15、16は坑底部の土壌水洗

で見つかったもの。鋸歯のない小形の歯で、種は不明である。17～212は坑底部にまとまって出土した玉類である。これらのうち4点は土壌水洗で見つかったものである。石材はすべて緑泥石岩製で、119が勾玉状に近い形態であるが、そのほかの玉の形態はほとんどが白玉状である。213～222には土器を示した。これらのうち213は坑底部に埋葬されたフレイク類の上に乗っていた注口土器底部片で、包含層からの流れ込みの可能性がある。時期は御殿山式期とみられ、乳房状突起を有する。そのほかの土器類は覆土上部から出土した一括遺物である。文様の無いものがほとんどである。213は胴部と頸部の境がわずかに括れ、1条の沈線が施される。底部は割離しているが、乳房状突起があったとみられる。215の胴部上半は粘土の輪積みがはがれた状態で、アスファルトによる修飾が行われている。注口部を欠損し、口縁部に1条の細い沈線、底部には乳房状突起が施される。胴部は張り出し、底部は半球状でそろばん玉状にちかい形態である。このような器形は晩期初期にみられる新しい要素であるため、これらの土器は大洞B1式相当とみている。216はキャリパ型の鉢である。底部は上げ底で、口縁部は強く括れ内反する。217、218口縁部にA状の突起を連続して施し、218には上げ底の台部が付く。217は底部との境に1条の沈線が施され、台部は欠ける。底の状況から欠損部は開くとみられ、あるいは上下逆で、より大きい口縁部が付く可能性もある。219～222はワイングラス状とも言うべきか、細長い台部を有する縦長の器形である。220、221は台部を欠損するが、219や221に類似する器形であったとみられる。219の台部の破片は土坑西側の壁際覆土中位はどから出土したが、口縁部は覆土上位から出土している。口縁部のA状の突起は219が12ヶ所、220が7ヶ所あったと推測され、221には無い。222は219などのミニチュアともみられる。口縁部にはA状の突起を陪付し、突起の間と下位に沈線を施す。また底部の境に沈線が施され、胴部下の細い台部との境にも一部沈線がある。

#### P509 (図133 図版130・131)

**遺構** II層下面で、III層とIV層の混土である暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は全般にバミスが混じる暗褐色土層で、埋め戻しの様相を呈する。坑底面の東側にはベンガラ散布があり、ベンガラ範囲と重なり玉類と漆の小片などが検出された。土坑の特徴から縄文時代晩期前葉の墓とみられる。

**遺物** 1～18は玉類である。いずれも緑泥石岩製で、9、16、18が勾玉状のもの、11は勾玉状だが2ヶ所の穿孔がある。12は縁に刻みを施した三角形の形状で、P476から類例2点がみついている。残りの玉はほとんどが白玉状である。19、20は覆土から出土した堂林式新段階から御殿山式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P510 (図134・135 図版131～133)

**遺構** II層下面で、III層とIV層の混土である暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。検出面上の北西側には、鉢形土器2個体の破片がまとまって出土した。覆土は上部にIII層とIV層の混土である暗褐色土層が落ち込み、検出面上の土器も本層中にあったとみられる。覆土中位から下位にかけては、坑底部直上にIV層がブロック状に堆積するほかは、バミスが混じるII層主体の覆土である。土坑中央の覆土中からは交差する穿孔が施された垂飾1点が検出された。覆土中位に玉類を副葬した例にはP435がある。坑底部中央の北側壁際からは雨だれ石を利用した垂飾が2点、坑底部北西側からは白玉状の玉類39点を利用した首飾りが出土した。土坑上部から出土した土器から縄文時代後期末葉の御殿山式期の墓とみられる。

**遺物** 1は覆土中位から出土した交差する穿孔が施された玉である。2、3は泥岩製の雨だれ石を利用した垂飾である。2は割れた雨だれ石に2ヶ所の穿孔を加えたもので、穿孔部内面にはベンガラの付着がみられる。3は雨だれ石そのもので、孔の内側にはベンガラが付着する。4～42首飾りに利用されていた白玉状の玉類である。すべて緑泥石岩製で、玉ずれがはげず、穿孔面が面状に窪むものや、ゆるやかに膨らむものが多い。43、44は検出面上で一括出土した御殿山式期の鉢形土器である。43の口唇には幅のある突起と、2個1組の小さな突起が交互に付される。文様は胴部に施され、上下に間に刻みを加えた2条の沈線が施され、その間には対向する三又文を中心に文様が施される。44は口縁部、胴部中央、胴下部、台部に分けて縄文を施す。45～47は覆土から出土した三ツ谷式～御殿山式期に相当する深鉢片である。

#### P511 (図136～138 図版133～135)

**遺構** III層面で、II層とIII層の混土である黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土はバミス混じりの黒褐色土層が上位に落ち込み、下位には範囲を記録するには至らなかったが、ベンガラが混じるとみられる赤味を帯びたII層が堆積する。坑底部西側からは、状態が悪いが透かしのある鉢2点が出土し、その東側からは主に白玉状の玉176点が検出された(土壌水洗も含む)。出土した玉との位置から首飾りとみられる。坑底部東側では白玉状の玉1点のみが検出された。玉類の集中する場所は土壌水洗をおこない、その結果9点の玉が出土した。出土状況は不明であるが、玉の大きさが、玉の東側から出土した首飾りのものとみられる。土坑の特徴から縄文時代後期末葉の御殿山式期の墓とみられる。

**遺物** 1、2には飾を施した。状態が悪く、2点を同時に取り上げ、土から分離することは出来なかったが、2点とも四隅に三角形、中央には工字状の透かしを空け、そのままに「( )」形の透かしを施した飾であるとみられる。残りの良い部分で観察すると、色調は朱色である。3～54は坑底部東側から出土した首飾りである。形状はほとんどが白玉状で、

石材は22がヒスイ、25、27がジャスパー、のこりはすべて緑泥石岩製である。55～222は獅の東側から出土した。径の小さい玉が増えるため丸みのある玉が増える傾向がある。石材は149が凝灰岩、209が蛇紋岩製であるほかはすべて緑泥石岩製である。223～231は土壌水洗でみつかった玉類である。大ききから後者の首飾りに属するものとみられる。

#### P512 (図125 図版135)

**遺構** II層面で、黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積し、覆土下位にはII層主体の黒色土が堆積する。坑底面には少量のベンガラ散布がみとめられ、坑底部北西側で、玉類12個を連ねた首飾りが出土した。土坑の状況から縄文時代晩期前葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片2点、後期後葉の破片47点などが出土している。1～12は緑泥石岩製の玉類で、中央に大きな玉、端には小形の玉が連なる。13は御殿山式期～晩期前葉の深鉢口縁部片である。

#### P513 (図139・140 図版136・137)

**遺構** II層下面で、黒色土層が黒褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で検出された。検出面には割れた礫の一部が見えていた。覆土はローム粒が混じるII層が坑底面まで堆積していた。土坑の西側に頸位がある例が多いため、東側半分を掘り始めると、検出面に見えていた礫は石皿で、土坑の中心まで落ち込み、石皿の上に口縁部を下向きに鉢形土器1点が見つかる検出された。土坑の北側壁面には貝殻製のフレイクがまとまって出土するのみとめられた。上位出土の遺物を取り上げ、坑底まで下げると、玉類25個を連ねた首飾りが出土し、その西側からは環状漆塗製品が1点検出された。

この状況から石皿が被葬者の頸部と重なる位置にあることがわかった。発掘時に頁岩製のフレイクの続きと玉1点が検出された。そのほかは目立って遺物は出土していない。覆土上部の遺物から縄文時代後期末葉の御殿山式期の墓とみられる。

**遺物** 1は環状漆塗製品である。残りは悪く土から切り離すことは出来なかった。色調は朱色である。2は石皿の上から出土した鉢である。底部は上げ底で、端部は波状で、5ヶ所波打つ。口縁部には2条の沈線が施され、間を竹管状工具で刻む。台部との境には浅く沈線が施される。3は覆土に散在した破片が接合したもので、蓋または注口土器の口縁部片である。4は3と同一個体の可能性がある無紋の胴部片である。5～30は玉類である。5は離れて1点出土した玉で、緑色凝灰岩製である。6～26までは連なって出土した。並び順は中央に凝灰岩製の16が位置し、両側に向かって徐々に小さい玉が連なる。27～30は連なった玉の途切れた場所に散らばった4点でやはり同じ首飾りのものと見られる。やや大きい30は琥珀製である。31～45は覆土上部で検出された頁岩製の

フレイクである。頁岩の質から母岩は2つ以上あるとみられる。46は安山岩製の石皿である。

#### P514 (図141 図版138)

**遺構** 縄文時代後期末葉の墓が集まる場所の包含層調査時に、II層下位で土器や礫が出土し始め、III層面で、黒色土層が円形に落ち込む状況で確認した。覆土はII層で黒まり、土器の底部片2個体や礫などが出土した。出土遺物から北大II～III期の土坑とみられる。

**遺物** 1、2は北大II～III期の底部片である。本土坑周辺は包含層の残りはよいが、破片は土坑からのみ接合した。当初から土坑に底部片を入れたものとみられる。内外面とも縦方向に磨かれ、底部には笹葉の圧痕のこる。

#### P515 (図142・143 図版138～140)

**遺構** II層下位で黒色土層がIII層とIV層の混土である暗褐色土層と重なり楕円形に落ち込む状況で検出された。本土坑は縄文時代中期の深い住居址H57と重なる。覆土はII層主体の黒色土層とIII層とIV層の混土である暗褐色土層が互層で堆積する。覆土上位の東壁付近からは黒曜石と頁岩のフレイクがまとまって出土した。坑底部にはベンガラの散布がみとめられ、南西壁際からは頸部の痕跡と見られるベンガラ層が薄く乗る、有機質黒褐色土層の高まりがみとめられ、付近には歯の痕跡もみとめられた。歯の周辺には9点の玉類が散在し、被葬者の体と重なる位置からは、柄頭をもたない石棒が、失った端部を頭に向け出土した。また、頸部の高まりの中からはサメ歯穿孔品とみられるアオサメの歯15点が見出された。土坑の特徴から御殿山式期の墓とみられる。

**遺物** 1は片岩製の石棒である。長さ56.3cmで、柄頭は無く、柄尻に穿孔が施される。柄部には2条1組の線刻が2ヶ所施され、その中間にも弱い1条の線刻が施される。端部は尖らせ、貫通しない穿孔が1ヶ所施される。2～10は玉類である。葉玉状や丸珠のある白玉状のものが多く、石材すべては緑泥石岩製である。11～25はサメ歯穿孔品とみられる。全長2m前後のアオサメの歯を利用したもので、上顎左の歯を利用したものが16、22、25、そのほかは下顎歯を利用している。20と23は互いに半分欠けるが、接合しなかった。26～36は覆土上位に湖葬されたとみられるフレイクである。石材は35、36が黒曜石製で、のこりは頁岩製である。頁岩の母岩は33以外同じである。37～40は覆土から出土した三つ谷式～御殿山式期に相当する破片である。

#### P516 (図144 図版141)

**遺構** II層下位で、黒褐色土層が暗褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にII層主体の黒褐色土、下位にはII層とIV層の混じる暗褐色土が堆積する。坑底部の南寄りからは、51点の玉を連ねた首飾りが出土し、その南脇からは黒曜石製の石皿1点が出土した。石皿の出土位置

は被葬者の頭部と重なると考えられる。この遺物は包含層からの流れ込みともみられるが石器類を頭部の下に副葬した例がP443にあることから、副葬品である可能性もある。土坑の管状から御殿山式期の墓とみられる。

遺物 1～5は坑底部から連なる状況で出土した玉類である。石材には12がヒスイ、13、17、19、31が緑色凝灰岩、そのほかは緑泥石岩がつかわれている。出土状況から玉の並びを考慮した掲載としているが、縦長の深緑色の玉の両側に緑色凝灰岩製の薄い緑の玉を並べるなど、色にも配慮した並びがみられる。52は首飾りのわきから出土した黒曜石製の石鏃である。

#### P517 (図145 図版142-143)

遺構 II層下位で、バミスが混じる暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土はII層主体の黒色土層とIII層とIV層の混土である暗褐色土層がII層に堆積する。坑底部西側からは頭部の痕跡とみられる有機質土層がみられた。土坑の状況から縄文時代後期末葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代後期末葉の破片6点などが出土している。1は堂林式新段階から御殿山式期に相当する深鉢部片である。

#### P518 (図146 図版142-143)

遺構 II層下位で、褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはIII層とIV層の混土である褐色土層、下位にはII層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による区別がなされたものとみられる。坑底部西側からは透かしのある櫛1点と、玉類5点が出土し、北寄りにはベンガラの散布がみとめられ、環状漆塗製品2点が並んで検出された。土坑の状況から御殿山式期の墓とみられる。

遺物 1は土から分離することは出来なかったが、四隅に三角形、中央には工字状の透かしを空け、そのまわりに「( )」形の透かしを施した櫛である。色調は朱色で、体部の上位に1ヶ所、下位には2ヶ所の瘤が造られる。2、3は環状漆塗製品である。2は芯材に編み物を巻き付け漆で固定したもので、2は樹皮あるいは草皮を編みに巻きつけたものとみられる。出土状況での幅は2が20mm前後、3は9mm前後である。ともに裝飾的な突起は無く、色調は小豆色である。4～8は玉類である。4、5は勾玉状の玉で、4は長軸が最大で44mmあり、不道踏出土最大のコハク製の勾玉である。5は表面に線刻が施される。9、10は堂林式新段階から御殿山式期に相当する破片である。

#### P519 (図147～149 図版144-145)

遺構 II層下位で、バミス混じりの黒褐色土層と褐色土層が重なり合い小判型に落ち込む状況で検出された。覆土上位にはIII層とIV層の混土である褐色土層が比較的多く入り、下位にはバミスやロームブロックが混じるII層が堆積している。

坑底部にはベンガラの散布がみとめられ、南西側からは頭部の痕跡と見られる有機質な黒褐色土層の高まりがみとめられ、付近には歯の痕跡もみとめられた。被葬者の体にはサメ歯穿孔孔品とみられるはサメの歯が333点出土、このうちの16点は基部を揃えた状態で並んで出土した。サメの歯の分布の外側には、部分的には歯をなすが、遺体を取り囲むように玉類が土坑の壁際に散らして出土した。坑底部東側からは透かしのある櫛が1点と、同一個体の環状漆塗製品の破片が玉類と同様に南側壁際と西側壁際などに散らばって出土した。土坑の状況から御殿山式期の墓とみられる。

遺物 1は土から分離することは出来なかったが、四隅に三角形、中央には工字状の透かしを空け、そのまわりに「( )」形の透かしを施した櫛である。色調は朱色で、体部の上位に1ヶ所、下位には2ヶ所の瘤が造られる。2～5は同一個体の環状漆塗製品の破片である。芯材に編み物を巻き付け漆で固定したものとみられ、出土状況での幅は19mm前後である。P518出土のものと同様の製品とみられる。6～23には、サメ歯穿孔孔品とみられる。6～17まで基部を揃えて並んで出土したのだが、間の4点が破損している。小さな歯でもホログロザメの歯を利用しているものが多く、18～23はアオザメの歯を利用したものである。最も大きい歯は3で、ホログロザメの下顎歯を利用したもので、4～5番の歯だとしても2.5mm前後の個体とみられる。24～69には玉類を示した。このうち65はヒスイ、24、69は凝灰岩質、61、63は緑色凝灰岩、26、28、32、36、43～45、48、67がコハク、このりは緑泥石岩製である。形状では24は丸玉状、62は左右非対称形で刻みを施すもの、69は雨だれ石を利用したものである。70～72は三ツ谷式から御殿山式期に相当する破片である。

#### P520-521 (図150 図版146-147)

遺構 II層面とIV層混じりの暗褐色土層が落ち込む状況で確認したが、予想以上に大きな遺構であったため、途中をIV層まで下げた時点で並んで分布する全体を確認した。平面形は互いの方向にやや括れた長円形で、長径約270cmあり、P520は縄文時代後期末葉の土坑P784に一部切られた。2基の土坑はその形状と配列から同時に存在したとみられ、約80cm離れる2基の間には特に遺構は見当たらなかった。断面は、遺構の中央にII層が落ち込み、遺構の両端や下位にはIII層とIV層が混じる暗褐色土層が堆積し、埋め戻しの様相を呈する。出土遺物の最も新しい遺物から縄文時代後期末葉だが、覆土からは後期中葉や中期の遺物が多く出土しており、縄文時代後期中葉の遺構とみられる。

遺物 1～3はP520から出土した遺物である。1は御殿山式期相当の無紋の鉢で、2、3は黒曜石製の石鏃である。4～7はP521から出土したもので、4は縄文時代後期中葉の底部片、5は黒曜石製の石鏃で、6、7はすり石である。

**P522 (図145 図版148)**

**遺構** V層面で、バミスが混じる黒色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は主にII層主体の黒色土層で、下位に一部III層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積する。検出面北側には土器片の集中がみられ、接合した結果、底部片とオロンガネ状土製品であることがわかった。出土遺物から縄文時代後期中葉の墓とみられる。

**遺物** 1は縄文時代後期中葉の底部片である。底は平らで底部付近は無紋である。2はオロンガネ状土製品である。皿状に窪む円盤状で、表には縄文を施し、裏は無紋である。

**P523 (図151 図版147)**

**遺構** V層面で、バミスが混じる黒褐色土層が長円形に落ち込む状況で検出された。覆土は主にバミスが混じるII層主体の黒褐色土層である。土器片は出土しなかったが、土坑の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑と考えた。

**遺物** 覆土からは石斧未成品が1点出土した。

**P524 (図151 図版147)**

**遺構** III層面で、バミスが混じる黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出した。覆土は主にバミスが混じるII層主体の黒褐色土層である。遺構の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片3点、後期後葉の破片12点などが出土している。

**P525 (図151 図版148)**

**遺構** III層面で、バミスが混じる黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出した。覆土は上位には炭化材やバミスを含む黒褐色土層が堆積し、坑底部にはII層が多く混じる黒褐色土層が堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片2点、後期後葉の破片11点などが出土している。

**P526 (図152・153 図版149・150)**

**遺構** 縄文時代後期中葉のホツケマ式期の住居H39の床面から検出された。住居址を先に調査したが、確認時の土坑上部には黒曜石の割片や土器片が散在していた。覆土は全般にローム粒やバミスを含む黒褐色土層や暗褐色土層で、埋め戻しの様相を呈する。坑底面には部分的にベンガラ散布がみられた。坑底部の東側からは透かしのある脚とみられる製品1点と、壊れた状態であればらな環状漆塗製品1点、ミニチュアの石皿1点が出土した。出土遺物から縄文時代晩期前葉の墓とみられる。

**遺物** 1は透かしのある脚とみられるが、歪んだ状態で出土しているため、推測ではあるが、四隅に三角形、中央には工字状の透かしを空け、そのまわりに「( )」形の透かしを施

しているものとみられる。2、3は同じ環状漆塗製品の破片と見られ、4、5もその小片と推測される。破損の状況から装飾の突起などが付されていた可能性がある。出土した漆塗製品の色調は朱色である。6は上部から出土した無紋の浅鉢で、7も同一個体片とみられる。8は縄文の施された口縁部片で、破片の曲りが具合からキャリバー型土器の口縁部片とみられる。9はミニチュアの甕または注口土器とみられる。口縁部は無紋で、頸部には貼瘤があり、九底の底部をもつ胴部には全面細い沈線による文様が施される。10、11はともに頁岩製のスクレイパー類である。12はミニチュアの石皿である。扁平な安山岩の円礫の片面を敲打し皿状に窪めたものである。

**P527 (図151 図版151)**

**遺構** 縄文時代中期の住居H42の床面から検出された。覆土は主にIII層とIV層が混じる暗褐色土層で、埋め戻しの様相を呈する。坑底面の南東側にはベンガラの散布がみられた。H42を切る状況はなかったことから、住居の床面に掘られた縄文時代中期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片6点などが出土している。1は頁岩製の石錐で、ベンガラ層中から出土した。

**P528 (図154 図版151)**

**遺構** 縄文時代前期とみられる住居H44を切る状況で検出された。平面形は長円形で、覆土は主にII層主体の黒色土が堆積する。遺構の特徴から縄文時代中期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片8点、後期後葉の破片2点などが出土している。1は砂岩製の砥石である。

**P529 (図154 図版150)**

**遺構** T-33区において遺構確認のためIV層上面を調査中に黒色土の落ち込みを確認した。落ち込みは不明瞭で自然攪乱の可能性もあったため、長軸にあわせたトレンチを落ち込みの範囲を超えて設定し、IV層まで掘り下げた。その結果明瞭な壁、坑底を確認した。覆土にはバミスを含む黒褐色土層が堆積し、縄文時代中期の破片が出土した。時期は不明である。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片8点などが出土した。

**P530 (図154 図版151)**

**遺構** 推文時代の住居H33の壁に断面がみつめられた。覆土は上部にII層、中位にバミスを含む黒褐色土層が、下位にII層主体の黒色土層が水平に堆積する。推文住居の壁面の崩落ともみられるが、坑底部出土の遺物から縄文時代中期の土坑とした。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片25点、後期後葉の破片10点などが出土している。1は縄文時代中期の胴部片である。2は御殿山式期相当の底部片である。

## P531 (図155 図版152・153)

**遺構** IV層面で、バミスが混じる黒褐色土層が暗褐色土層と重なり円形に落ち込む状況で検出された。覆土は上部にII層とIII層の混土が落ち込み、下位にはIV層主体の暗褐色土層が堆積し、坑底部にはやや黒ずんだ層が薄く堆積する。坑底面北側にはベンガラの散布がみとられ、付近から縄文時代前期の土器片が出土した。出土遺物から縄文時代前期前期の藤内中野式期相当の墓とみられる。

**遺物** 1は坑底面のベンガラ付近から出土した藤内中野式期相当の胴部片である。

## P532 (図155 図版152・153)

**遺構** III層面で、バミスが混じる黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は主にII層とIII層の混土である黒褐色土層が堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期前期の土坑とみられる。

**遺物** 1は縄文時代早期の東廻路N式の胴部片。2は御殿山式期～晩期前期の深鉢片である。

## P533 (図155 図版152)

**遺構** III層面で、バミスが混じる黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土はII層とIII層の混土である黒褐色土層である。覆土からは後北C<sub>1</sub>D式期の破片が出土しており、土坑の時期も後北C<sub>1</sub>D式期とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、後期後葉の破片3点、後北C<sub>1</sub>D式の破片1点などが出土している。

## P534 (図155 図版152・153)

**遺構** U-34区において、III層上面を精査中、黒褐色土の落ち込みを確認した。長軸に合わせ、南西側を半截すると、不明瞭ではあるが壁、坑底を確認することができた。土層は暗褐色から黒褐色土の様相を呈し、バミスブロックが混じる。埋め戻しの様相を呈する。出土遺物から縄文時代中期の土坑と考える。

**遺物** 1は縄文時代中期の深鉢口縁部片である。

## P535 (図156 図版153)

**遺構** U-34区においてIII層上面を精査中、黒色土の落ち込みを確認した。落ち込みは北東側に自然攪乱とみられる落ち込みを伴っていたため、自然攪乱と重複する部分を選けて東側を半截した。その結果、壁、坑底を確認することができた。土層は3層に区分した。上位2層はレンズ状を呈する自然堆積である。3層はバミスブロックが混じる人為的堆積とみられる層である。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片3点が出土している。

## P536 (図156 図版153)

**遺構** III層面で、黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土はII層とIII層の混土である黒褐色土層が堆積する。土器片は出土していないが、隣に位置するP537と似た特徴から縄文時代前期の土坑と考える。

**遺物** 覆土からはフレイク1点が出土している。

## P537 (図157・158 図版153・154)

**遺構** 縄文時代中期の住居址H42に切られて検出された長円形の土坑である。覆土は主にIII層とIV層が混じる暗褐色土層である。坑底部からは各種の石器類が検出され、その分布は主に土坑の北西側に偏っていた。付近には根穴などによる落ち込みがあり、その中からも石器が検出された。出土した石器類の特徴から縄文時代前期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片2点、前期の破片2点のほか55点の石器類が出土している。

1、2は燕尾形の基部をもつ石鏃で、石材には1は黒曜石、2は頁岩が利用されている。3～7は頁岩製で、3、6、7はスクレイパー類、4、5はつまみ付きナイフである。8～11は泥岩製の石斧である。形状の近い自然石を用いたとみられ、9の側面には茶色、11は刃部を除く全面に黒色の付着物がみられる。12～15は砥石である。いずれも薄い砂岩製で、縁辺部に顕著な使用痕が残る。

## P538 (図156 図版155)

**遺構** 縄文時代中期の住居址H42を切って検出された長円形の土坑である。覆土にはバミス混じりのIII層とIV層の混土が堆積する。出土遺物から縄文時代後期末葉の土坑としたが、特徴はとりにあるP527と似ており、中期の墓である可能性もある。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片3点、後期後葉の破片5点などが出土している。1は三ツ谷式から御殿山式期に相当する深鉢胴部片である。

## P539 (図156 図版155)

**遺構** U-34区においてIII層上面を精査中、黒色土の落ち込みを確認した。落ち込みの形状が不明瞭であったため、短軸方向にトレンチを設定してIV層まで掘り下げた。その結果不明瞭な壁、坑底を確認した。出土遺物から縄文時代早期の土坑と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片7点などが出土している。1は東廻路N式の胴部片である。

## P540 (図159 図版155)

**遺構** 縄文時代前期の住居址H41の床面に暗褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出された。覆土は主にIII層とIV層が混じる暗褐色土層である。覆土上位からは小形の土器や石器類が検出され、坑底面の一部にはベンガラの散布もみとられ

た。出土遺物から住居址の床面に掘られた縄文時代前期の墓とみられる。

**遺物** 1は縄文時代前期の静内中野式期に相当する小形の尖底土器である。底部を欠き、胎土には石英を含み、内面の口縁部付近にも縄文が施される。2～4は黒曜石製の石錐である。5は頁岩製のスクレイパー類である。

#### P541 (図160 図版156・157)

**遺構** U-36区においてIV層上面を遺構確認作業中、黒褐色土の落ち込みを確認した。短軸方向にあわせて南東側を半載すると、やや明瞭な壁、坑底を確認できた。覆土は上位にレンズ状に黒色土が堆積し、下位にはバミスが混じるⅢ層とIV層が混じる暗褐色土層である。出土遺物から縄文時代早期の土坑と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点が出土している。1は東銅路Ⅳ式の副下片である。

#### P542 (図160 図版156・157)

**遺構** U-36区においてIV層上面を遺構確認作業中、黒褐色土の落ち込みを確認した。短軸にあわせて南西側を半載すると、明瞭な壁、坑底を確認した。覆土は上位にレンズ状に黒色土が堆積し、下位にはバミスが混じるⅢ層とIV層が混じる暗褐色土層である。出土遺物から縄文時代後期中葉の土坑とした。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期中葉の破片1点が出土している。1は後期中葉の無紋の破片である。

#### P543 (図160 図版156・157)

**遺構** U-36区においてIV層上面を遺構確認作業中、黒色土の落ち込みを確認した。短軸にあわせて半載すると、明瞭な壁、坑底を確認することができた。覆土は上位に黒色土が堆積し、下位にはバミスが混じる黒褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片1点、中期の破片2点が出土している。1は静内中野式相当の口縁部片である。

#### P544 (図160 図版157)

**遺構** V-38の杭付近のIV層上面で、ローム粒が混じる黒褐色土層が小判型に落ち込みを確認した。覆土は、全体にバミスブロックが混じる褐色土と黒褐色土が互層に堆積する。坑底面から黒曜石の剥片が散在して出土した。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片4点、中期の破片7点、後期後葉の破片2点などが出土している。1は堂林式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P545 (図161 図版156)

**遺構** Ⅲ層上面において黒褐色土層が円形に落ち込みのを

確認した。覆土にはⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。遺物は出土していないが、検出された場所から縄文時代後期後葉の土坑である可能性があると考えられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

#### P546 (図161 図版157)

**遺構** U-37区においてバミス混じりの黒色土層が長円形に落ち込みを確認した。覆土はバミス混じりのⅡ層である。出土遺物から縄文時代前期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片13点などが出土している。1は胎土に砂粒や繊維を含む静内中野式相当の胴部片である。

#### P547 (図161 図版158)

**遺構** Ⅲ層上面を精査中に黒褐色土層が円形に落ち込みを確認した。土坑の南東側には木の根とみられる自然攪乱が2ヵ所みられる。覆土は全般にバミスが混じる黒褐色土が堆積する。出土遺物から縄文時代前期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片1点などが出土している。1は内外面に縄文が施される静内中野式相当の胴部片である。2は覆土下位から出土した頁岩製のつまみ付きナイフである。

#### P548 (図161 図版158)

**遺構** 縄文時代前期の住居址H41の壁際に暗褐色土層が円形に落ち込み状態で検出された。覆土は主にⅢ層とⅣ層が混じる暗褐色土層である。覆土には縄文時代前期の土器片が混じり、坑底面からは、つまみ付きナイフが出土。土坑の状況から住居址の床面に掘られた縄文時代前期の墓とみられる。

**遺物** 1は縄文時代前期の静内中野式期に相当する破片である。2は坑底面出土の頁岩製のつまみ付きナイフである。

#### P549 (図162 図版158)

**遺構** V-38杭付近のⅢ層上面において遺構確認作業中、黒褐色土の落ち込みを確認した。落ち込みの短軸にあわせて南側を半載すると、覆土は上位にはレンズ状に堆積する黒色土、下位にはバミスが混じる黒褐色土層が堆積している。出土遺物から縄文時代早期の土坑とみられる。

**遺物** 1は縄文時代早期の東銅路Ⅳ式相当の胴部片である。器面には絡縄体圧痕文が施される。

#### P550 (図162 図版一)

**遺構** Ⅳ層面で、黒色土層の円形の落ち込みが、黒褐色土層の楕円形の落ち込みと重なる状況で検出された。前者をP550、後者をP604として調査した。土坑は浅く、黒色土層が薄く堆積する。出土遺物から縄文時代後期前葉の土坑とした。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片1点が出土した。

## P551 (図162 図版159)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてローム粒やバミスが混じる黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。全体にバミスが混じる褐色土と黒褐色土が互層に堆積した埋め戻しである。坑底部の西側からは頭部の痕跡と見られる有機質な黒褐色土層の高まりがみとめられた。土器は出土していないが土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは石類1点が出土している。

## P552 (図162 図版159)

**遺構** 削平を受けたIV層面において黒色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。遺存する深さは14cmで、II層の黒色土が坑底面まで堆積する。坑底部の中央から透かしの無い櫛1点が検出された。出土遺物から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は透かしの無い櫛である。残りは悪く検出の際に上面は失われている。わずかに残る表面の破片から色調は朱色であったとみられる。

## P553 (図163・164 図版160・161)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてローム粒が混じる黒色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。本土坑は1号周堤墓の周堤上にはられた土坑とみられる。遺存する深さは11cmで、坑底まで同層が堆積する。坑底面には粒状のベンガラ散布がみられ、土坑北側には石棒が1点頭部を土坑の中央に向けて出土した。石棒の北側には6点の玉が出土し、石棒の南側からは人歯の痕跡と35点の玉を連ねた首飾りが検出された。石棒を挟んで出土したこれらの玉類は一連のものともみられ、石棒脇の被葬者が身に付けていたものとみられる。土坑の北西側でもわずかに人歯と見られる痕跡が見つかり、付近には長径18mm前後の丸玉状の玉5点などが出土した。また、土坑中央からは石斧が1点検出され、石斧の南からは8点の玉類が検出され、このうち3点は、大きな玉を中心に並んで検出された。本土坑は長軸が130cmあるため付近に3人目の被葬者がいた可能性もある。土坑の特徴や出土遺物から縄文時代後期後葉の合葬墓とみられる。

**遺物** 1～55には玉類を示した。このうち1～41までが土坑の北側の被葬者が身に付けていたとみられる首飾りである。石材は22、25、26がタルク製、そのほかは緑泥石岩製である。13、19の人の白歯状の玉類を境に大きめの玉を連ね、周りに白玉状の玉を配した首飾りである。なお、19には交差した特殊な穿孔が施される。42～47は土坑の北西側の被葬者の首飾りとみられ、1点の厚みのある小さな玉以外はやや大型の丸玉状の玉である。石材は43が赤色変質岩製であるほかは緑泥石岩製である。48～55は土坑の南東側から出土したものである。54の断面が半球状の垂珠の両側に大き目の玉を連ねた3点は並んで出土し、残りの白玉状の玉5点は散らばる状況で出土した。石材はすべて緑泥石岩製である。56は泥岩製

の石斧である。敲打により形状が整えられ、刃部が施される。57は緑色凝灰岩製の石棒である。長さ379mmあり、断面は楕円形である。頭部は無紋で、頭部頂部の溝は自然の亀裂とみられる。端部は破損している。

## P554 (図165・166 図版162・163)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてII層とIV層の混土である黒褐色土層とローム粒が混じる暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出した。本土坑は1号周堤墓の周堤上にはられた土坑とみられる。遺存する深さは27cmで、坑底まで同層が堆積する。坑底面にはベンガラの散布がみられ、土坑北側から人歯の痕跡と、それと重なりサメの歯1点が出土した。また、頭部とみられる位置から透かしの無い櫛1点が出土した。土坑の北西側でも人歯と見られる痕跡が見つかり、この周辺には玉類9点とサメの歯1点が散在して検出される。さらに、土坑南東側からも人歯の痕跡とサメの歯4点、さらに玉類47点が連なる首飾りと、やや離れて径の大きい玉23点が集中して出土する。また、周囲から3点の隅丸方形の平玉3点がみつかった。土坑の壁際からは、このほかにも玉類6点が散在して検出された。土坑の特徴や出土遺物から縄文時代後期後葉の3人の合葬墓とみられる。

**遺物** 1は透かしの無い櫛である。細く割れており土からの分離が出来なかったが、幅は84mmで、体部上部に1ヶ所の瘤が付される。色調は朱色である。2～7はサメ歯穿孔品とみられる。2は全長2.5m前後のオオサメ右顎2番目の歯を利用したもの。3はホホジロサメ右顎の歯を利用したもので、4～7はホホジロサメ下顎を利用したものである。8～95は玉類である。このうち33～79が南西側の被葬者の首飾りとみられる47点の連珠で、8～10はその付近から出土した平玉状の大きな玉、11～32、95はやや大きめの玉の連なりである。81～89は北西側の被葬者周辺から出土した玉類である。出土した玉類88点の石材は81、82、85、94がタルク製で、残りは緑泥石岩製である。

## P555 (図167 図版163)

**遺構** 削平を受けたIV層面において黒色土層が円形に落ち込む状況で確認した。本土坑は1号周堤墓の周堤上にはられた土坑とみられる。遺存する深さは13cmで、ローム粒を含むII層の黒色土が坑底面まで堆積する。坑底部の北西側にはベンガラの散布が認められた。出土遺物から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、中期の破片2点、後期後葉の破片1点などが出土した。

## P556 (図167 図版164)

**遺構** 削平を受けたIV層面において黒色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。本土坑は1号周堤墓の周堤上にはられた土坑とみられる。覆土はローム粒を含むII層の黒色土が坑



底面まで堆積する。土坑の坑底面からは小ピットが確認され、本土坑はこれを切るごとめられた。出土遺物は少ないが、土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、中期の破片4点などが出土した。

#### P557 (図167 図版164・165)

**遺構** 削平を受けたⅣ層面においてⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。本土坑は1号周墳墓の周墳内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは42cmで、覆土上位にはⅣ層主体の暗褐色土層が堆積し、覆土下位にはローム粒を含むⅡ層の黒褐色土層が堆積する。土坑西側の覆土上位からは堂林式期の小形の鉢がつぶれて検出された。出土遺物から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 1は堂林式期の鉢である。口径は93mmで、器面には縄文が施され、口径は平らに調整され、底部は円形に窪ませた状態である。

#### P558 (図168 図版164・165)

**遺構** 削平を受けたⅣ層面において黒褐色土層がⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で確認した。本土坑は1号周墳墓の周墳内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは60cmで、覆土は最上部に黒褐色土層が落ち込み、そのほかはⅣ層主体の暗褐色土層が坑底部まで堆積する。土坑北西側の覆土上位からは堂林式期の小形の深鉢が口縁部を上へ傾いて検出された。出土遺物から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 1は堂林式期の小形の深鉢である。切り出し状の口縁部は小波状に調整され、胴部には沈線化された入組文と充填縄文が施される。口径は13.7mmで、底部は無紋である。2は切り出し状の口縁部を持つ堂林式期の深鉢口縁部片である。

#### P559 (図168 図版165)

**遺構** 削平を受けたⅣ層面においてバミス混じりの黒褐色土層がⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で確認した。本土坑は1号周墳墓の周墳内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは60cmで、覆土は最上部に黒褐色土層が落ち込み、そのほかはⅣ層主体の暗褐色土層が坑底まで堆積する。坑底面にはベンガラが散布される。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片3点などが出土した。

#### P560 (図169 図版165)

**遺構** 削平を受けたⅣ層面においてバミスやローム粒混じりの黒褐色土層がⅣ層主体の暗褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で確認した。本土坑は1号周墳墓の周墳内にほら

れた土坑とみられる。遺存する深さは73cmで、覆土は最上部に黒褐色土層が落ち込み、そのほかはⅣ層主体の暗褐色土層が坑底まで堆積する。坑底面にはわずかにベンガラの散布もみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片1点が出土した。

#### P561 (図169 図版166・167)

**遺構** 削平を受けたⅣ層面においてバミスやローム粒混じりの黒褐色土層がⅣ層主体の暗褐色土層と重なり長円形に落ち込む状況で確認した。本土坑は1号周墳墓の周墳内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは32cmで、覆土は最上部に黒褐色土層が落ち込み、そのほかはⅣ層主体の暗褐色土層が坑底まで堆積する。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片2点が出土した。

#### P562 (図169 図版166・167)

**遺構** 削平を受けたⅣ層面においてバミス混じりの黒褐色土層がⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で確認した。本土坑は1号周墳墓の周墳内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは59cmで、覆土は最上部に黒褐色土層が落ち込み、そのほかはⅣ層主体の暗褐色土層が坑底まで堆積する。坑底面には厚くベンガラが散布される。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片3点が出土した。

#### P563 (図170 図版167)

**遺構** 付近の家屋の跡とみられる深い擾乱の壁に断面で確認した。本土坑は1号周墳墓の周墳内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは53cmで、覆土は最上部に黒褐色土層が落ち込み、そのほかはⅣ層主体の暗褐色土層が坑底まで堆積する。遺物の痕跡と見られる有機質な層とベンガラそうの散布がみられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期前期の破片が1点、後期後葉の破片3点などが出土した。

#### P564 (図170 図版168)

**遺構** 削平を受けたⅣ層面においてバミス混じりの黒色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。遺存する深さは23cmで、覆土は上位にバミス混じりの黒色土層が落ち込み、下位にⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。坑底部からは頭部の痕跡とみられる有機質な黒褐色土層から人の臼歯が咬み合せの状態で7点出土した。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片2点などが出土した。

## P565 (図171 図版168)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてバミス混じりの黒褐色土層がIII層とIV層の混土である暗褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で確認した。遺存する深さは40cmで、覆土は最上位にバミス混じりの黒色土層が少量落ち込み、下位には主にIII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積する。坑底部からは被葬者の頭部と大腸骨の痕跡がみつかった。被葬者の頭部東側には砥石が1点検出された。土坑の特徴から縄文時代晩期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は縄文時代晩期後葉のあるいは鉢の底部片である。底は平らに調整され、底部縁には2条の沈線文と縦に縄文が施される。2は砂岩製の砥石である。被熱した痕跡がみられ、裏面は表面が剥離する。

## P566 (図170 図版169)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてバミス混じりの黒色土層が円形に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは8cmで、覆土は黒色土層が坑底部まで堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点などが出土した。

## P567 (図170 図版169)

**遺構** 削平を受けたIV層面において黒色土層が小判型に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは13cmで、覆土は黒色土層が坑底部まで堆積する。土坑の特徴から縄文時代後葉の墓とみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

## P568 (図172 図版169)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてローム粒混じりの黒色土層が長円形に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは8cmで、覆土は黒色土層が坑底部まで堆積する。土坑の特徴から縄文時代後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片3点などが出土した。

## P569 (図172 図版170)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてIII層とIV層の混土である暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出した。覆土上位にはIII層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積し、下位にはII層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされた可能性がある。覆土南東側からはベンガラ痕跡もみつかった。土坑の特徴から縄文時代後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片7点、後期前葉の破片2点などが出土した。

## P570 (図173 図版170)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてIII層とIV層の混土である

暗褐色土層が黒色土層と重なり円形に落ち込む状況で検出した。覆土上位にはIII層とIV層の混土である暗褐色土層が薄く堆積し、下位にはII層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされた可能性がある。土坑北側の坑底部からは、12点の玉類がまとまって検出され、やや東側に離れた壁際からも2点の玉が出土した。土坑の特徴から縄文時代後葉の墓とみられる。出土した玉類の3点にはネズミのかじり跡がみられた。出土位置からみて、離れて見つかった2点と、まとまって出土した玉類の中でも離れた位置にある1点にその痕跡がみられ、ネズミが巣穴を掘った際に後天的に玉の位置をずらしたものと見られる。玉類にネズミのかじり跡がみられる土坑は複数あるが、いずれも上部が削平された土坑であり、これらのかじり痕も、本地域が造成された昭和40年代以降に受けたものとみられる。

**遺物** 1、2は覆土から出土した石器類である。1は黒曜石製の石鏃で燕尾形の基部をもつ。2は頁岩製のつまみ付きナイフである。これらの石器は遺構の時期とは異なる可能性がある。3～16は土坑に副葬された玉類14点である。石材はすべて緑泥石岩製の、丸玉状のものが目立つ。6～8にはネズミのかじり跡がみられる。かじり痕は穿孔面の縁に集中し、葉玉状の長さのある玉では側面の中央にもみられる。

## P571 (図172 図版171)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてIV層主体の暗褐色土層がバミス混じりのII層と重なり長円形に落ち込む状況で検出した。覆土上位にはIV層主体の暗褐色土層が落ち込み、下位にはII層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部西側からは遺体頭部の痕跡とみられる有機質黒色土層の堆積もみつかった。土坑の特徴から縄文時代後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片2点、中期の破片10点のほか、多数のフレイクが出土した。

## P572 (図172 図版171)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてIV層主体の暗褐色土層がバミス混じりのII層と重なり円形に落ち込む状況で検出した。覆土上位にはIV層主体の暗褐色土層がわずかに落ち込み、下位にはII層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされた可能性もあるとみられる。土坑の特徴から縄文時代後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は黒曜石製の石鏃である。2は縄文時代中期の円筒土層式に相当する口縁部片である。いずれも土坑の時期とは異なるものとみられる。

## P573 (図174 図版171)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてIII層とIV層の混土である暗褐色土層がバミス混じりのII層と混じり小判型に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは8cmで、覆土にはバミス混

じりのⅡ層主体の黒褐色土層とⅣ層主体の暗褐色土層が重なって堆積する。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P574 (図174 図版172・177)

遺構 削平を受けたⅣ層面において、土坑の坑底面に散布されたとみられるベンガラ層が攪乱層直下に広がることで土坑の痕跡とした。平面形は失われ、断面にはベンガラ層とⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層がみられる。縄文時代後期後葉の墓の痕跡とみられる。

遺物 1は縄文時代中期の副部片である。

#### P575 (図174 図版172)

遺構 遺構の一部は攪乱を受け、削平されたⅣ層面において、バミス混じりのⅡ層の下位にベンガラ層が堆積するのがみとめられた。遺存する深さは8cmで、覆土はバミス混じりのⅡ層とベンガラ層が重なって堆積する。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片3点などが出土した。

#### P576 (図174 図版172)

遺構 削平を受けたⅣ層面においてⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層がバミス混じりのⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層と重なり長円形に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは8cmで、覆土上部に少量の暗褐色土層が落ち込み、下位にはバミスを含む黒褐色土層が堆積する。坑底面にはベンガラ層の散布がみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P577 (図175 図版173)

遺構 削平を受けたⅣ層面において、バミス混じりのⅡ層主体の黒色土層がⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層と重なり、長円形に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは18cmで、覆土上部に黒色土層が落ち込み、下位にはバミスを含む黒褐色土層が堆積する。坑底部にはベンガラ層の散布もわずかにみとめられ、坑底西側には遺体の痕跡とみられる有機質な黒褐色土層の堆積もみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代前期の破片7点、後期後葉の破片2点などが出土した。

#### P578 (図175 図版173)

遺構 削平を受けたⅣ層面においてⅣ層主体の褐色土層が長円形に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは21cmで、覆土は部分的にⅡ層の混じった黒褐色土層がスジ状に堆積するほかは、褐色土層が坑底面まで堆積する。坑底面からは遺体の

痕跡とみられる有機質な土層と、一部骨の遺存もみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P579 (図175 図版173)

遺構 削平を受けたⅣ層面において、Ⅱ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が長円形に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは17cmで、覆土は坑底部付近まで暗褐色土層が堆積し、坑底面直上には黒色土層が薄く堆積するのがみとめられた。坑底面からは被葬者の頭部と足の痕跡が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点などが出土した。

#### P580 (図175 図版174)

遺構 削平を受けたⅣ層面において、バミスの混じったⅡ層が長円形に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは9cmで、覆土は坑底までバミス混じりの黒褐色土層が堆積する。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P581 (図176 図版174・175・177)

遺構 削平を受けたⅣ層面において、バミス混じりのⅡ層が長円形に落ち込む状況で検出した。検出場所付近には、本遺構を含め6基の土坑が1列に並ぶ状況が確認でき、同時に古い土坑との切り合いも確認した。6基の土坑の最も南側に位置し、縄文時代早期とみられるP767を切って検出されたのが本土坑である。遺存する深さは30cmで、覆土には主にⅡ層主体の黒色土層が堆積する。坑底面からは遺体の痕跡とみられる有機質な黒色土層と歯が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 1は焼けた骨製の装飾品の破片である。シカの四肢骨を利用したものともみられ、平らに加工された骨片端部に7ヵ所の円形の窪みが付される。2は黒尾形の基部をもつ黒曜石製の石鏃である。どちらの遺物も包含層からの流れ込みの可能性がある。

#### P582 (図176 図版174・175・177)

遺構 本土坑は1列に並ぶ6基の土坑のうち、南から2番目に位置し、縄文時代早期とみられるP768を切る。削平を受けたⅣ層面において、Ⅱ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは30cmで、覆土上部にはⅡ層とⅣ層の混土である黒色土層が堆積し、下位にはⅡ層主体の黒色土層が堆積する。坑底部西側からは遺体の痕跡とみられる有機質な黒色土層と歯が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 1は黒尾形の基部をもつ黒曜石製の石鏃で包含層からの流れ込みの可能性がある。

## P583 (図176 図版175・177)

**遺構** 本土坑は1列に並ぶ6基の土坑のうち、南から3番目に位置し、縄文時代早期とみられるP768と縄文時代後期前葉とみられるP599の一部を切る。削平を受けたIV層面において、II層とIV層の混土である黒褐色土層が黒色土層と重なり長円形に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは34cmで、覆土上位にはII層とIV層の混土である黒褐色土層がわずかに落ち込み、下位にはII層主体の黒色土層が堆積する。坑底部からは頭部と足の痕跡である有機質な黒色土層と歯が検出された。遺体の上部からはやや浮いた位置で石鏝とつまみ付きナイフが検出されたが、包含層の流れ込みとみられる。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1、2は遺体の上から浮いて出土した石器である。1は燕尾形の基部をもつ黒曜石製の石鏝、2は頁岩製のつまみ付きナイフである。

## P584 (図176 図版175～177)

**遺構** 本土坑は1列に並ぶ6基の土坑のうち、北から3番目に位置し、縄文時代後期前葉とみられるP599を切る。削平を受けたIV層面において、II層とIV層の混土である暗褐色土層が黒色土層と重なり小判型に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは50cmで、覆土上位にはII層とIV層の混土である黒褐色土層がわずかに落ち込み、下位にはII層主体の黒色土層が堆積する。坑底部西側からは歯が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片3点、中期の破片29点、晩期中葉の破片2点などが出土した。

## P585 (図177 図版175～177)

**遺構** 本土坑は1列に並ぶ6基の土坑のうち、北から2番目に位置する。削平を受けたIV層面において、バミスの混じるII層が小判型に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは16cmで、覆土は坑底部までII層主体の黒色土層が堆積する。坑底部からは遺体の痕跡とみられる有機質な層が検出され、西側壁際には頭部とみられる痕跡も見つかった。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片2点などが出土した。

## P586 (図177 図版176～177)

**遺構** 本土坑は1列に並ぶ6基の土坑のうち、最も北側に位置する。削平を受けたIV層面において、II層が小判型に落ち込む状況で検出した。遺存する深さは38cmで、覆土は坑底部までII層主体の黒色土層が堆積する。坑底部からは遺体の痕跡とみられる有機質な層が検出され、西側からは頭部とみられる痕跡も見つかった。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からはフレイクと礫が1点ずつ出土した。

## P587 (図177 図版177)

**遺構** 削平を受けたIV層面において、IV層主体の褐色土層がバミス混じりのII層主体の黒褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で検出した。覆土上位にはII層主体の褐色土層が落ち込み、下位にはII層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部北西側から歯の痕跡も見つかった。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片2点、中期の破片7点などが出土した。

## P588 (図177 図版178)

**遺構** 削平を受けたIV層面において、ローム粒の混じる黒色土層が円型に落ち込む状況で検出した。覆土はII層主体の黒色土層が堆積する。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

## P589 (図178 図版178・179)

**遺構** 削平を受けたIV層面において、III層とIV層の混土である暗褐色土層が、黒褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で検出した。覆土はバミスやロームブロックの混じる暗褐色土層がスジ状に堆積し、埋め戻しの様相を呈する。坑底部北西側からは頭部の痕跡とみられる有機質な黒色土層の高まりがみられ、付近から歯の痕跡と玉1点が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は緑泥石岩製の環玉状の玉で、厚さは17mmあり、この1点を首飾りにしていたものとみられる。

## P590 (図178 図版178・179)

**遺構** 削平を受けたIV層面において、ローム粒の混じる黒褐色土層が円型に落ち込む状況で検出した。覆土はII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積する。坑底面には石斧などの器具の痕跡がわずかにみられる。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 1は縄文時代後期後葉の厨部片とみられる。

## P591 (図178 図版179)

**遺構** 削平を受けたIV層面において、III層とIV層の混土である暗褐色土層が、黒褐色土層と混じり小判型に落ち込む状況で検出した。覆土上位にロームブロックの混じるII層が堆積し、坑底部直上によりロームブロックを含む黒褐色土層が堆積する。坑底部南西側からは頭部の痕跡とみられる有機質な黒色土層の高まりが検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は縄文時代前期の籬内中野式相当の口縁部片である。2は縄文時代早期の東銅器Ⅲ式相当の底部片である。いずれも包含層からの流れ込みとみられる。

**P592 (図179 図版179)**

**遺構** 削平を受けたIV層面において、IV層がII層とIV層の混土である黒褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は上位と下位にIV層主体の褐色土層が堆積し、中位の断面北西側にロームブロックやパミスを含む黒褐色土層が堆積する。坑底部西側からは頭部の痕跡とみられる有機質層が検出され、その付近からは首飾りとみられる3点の玉類が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1～3は緑泥石岩製の玉である。形状はすべて白玉状である。4、5は同一個体とみられる。覆土出土の破片が接合したもので、無紋の片口土器とみられる。

**P593 (図179 図版180)**

**遺構** V-38、39のIV層上面でII層とIV層の混土である黒褐色土層が小判型に落ち込むのを確認した。覆土は上位にII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積し、坑底付近にはII層が多く含まれる黒色土が堆積する。坑底部の北東寄りからは頭部の痕跡とみられる有機質な黒色土が見つかった。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は頁岩製のつまみ付きナイフである。

**P594 (図179 図版180)**

**遺構** V-38、39のIV層上面でII層とIV層の混土である黒褐色土層が小判型に落ち込むのを確認した。覆土は上位にII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積し、下位にはローム粒を含む黒色土が堆積する。坑底部のからは遺体の痕跡とみられる有機質層が見つかった。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は黒曜石製の石鏃で、先端部を欠く。2は堂林式期に相当する胴下部分である。

**P595 (図180 図版180)**

**遺構** 削平を受けたIV層面においてII層の黒色土層が小判型に落ち込むのを確認した。遺存する深さは4cmで、覆土にはII層の黒色土層が堆積する。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

**P596 (図180 図版181)**

**遺構** II層下位で、黒曜石のフレイクが直径約20cmの円形の範囲に集中して検出された。この状態を半載し、断面を図化したのちに、遺物を回収した。本遺構は袋状の入れ物に羽片類を含め、小ピットに収めたものとみられる。検出面の状況から縄文時代中期頃の遺構とみられる。

**遺物** 遺構からは、スクレイパー類や原石を含め、895点のフレイク類が出土した。黒曜石はすべて赤井川産である。

**P597 (図180 図版183)**

**遺構** 削平を受けたIV層面において、III層とIV層の混土である黒褐色土層がII層主体の黒色土層と重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は上位と下位東側にIV層主体の褐色土層が堆積し、上位にはローム粒を含む黒色土層が堆積する。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は安山岩製の台石である。

**P598 (図180 図版182)**

**遺構** 削平を受けたIV層面において、II層主体の黒色土層が円形に落ち込む状況で検出された。検出面上には礫が1点乗っていた。覆土は上位にII層主体の黒色土層が堆積し、下位にIV層主体の褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代中期以降の土坑とみられるが詳細は不明である。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片1点などが出土した。

**P599 (図181 図版182・183)**

**遺構** 削平を受けたIV層面において、パミスの混じる黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。本土坑は縄文時代後期後葉の墓P583、P584に切られる。遺存する深さは5cmで、覆土は坑底部まで黒褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代後期前葉の土坑とみられる。

**遺物** 1は縄文時代後期前葉の胴部分で、内外面に縄文が施される。

**P600 (図181 図版182)**

**遺構** 付近の深い埋立を除去した際、壁に現れた断面で確認した。平面は削平を受けたIV層面のV-41の杭と重なる位置で、パミス混じりの黒色土層がIII層とIV層の混土である暗褐色土層と重なり小判型に落ち込む。本土坑は2号周堤墓の周堤内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは72cmで、覆土にIII層とIV層の混土である黒褐色土層が坑底部まで堆積する。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

**P601 (図181 図版183)**

**遺構** 削平を受けたIV層面においてIII層とIV層の混土である暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。遺存する深さは38cmで、覆土は上位に暗褐色土層が落ち込み、下位にはパミス混じりの黒色土層が堆積する。土色による埋め分けがなされている可能性のある土坑である。坑底部西側からは頭部との痕跡とみられる有機質層が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 1は頁岩製のスクレイパーである。

**P602 (図182 図版183)**

**遺構** 削平を受けたIV層面においてII層とIV層の混土である

黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。遺存する深さは52cmで、覆土は黒褐色土層とIV層主体の褐色土層が互層に堆積する。埋め戻しの様相を呈する。平面の西側は一部攪乱され掘りすぎで、本来は小判型の平面形である。坑底部西側からは頭部の痕跡とみられる有機質層が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。  
遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点などが出土した。

#### P603 (図182 図版184・185)

遺構 IV層面において黒色土の攪乱を受けるII層とIV層の混土である黒褐色土層が、小判型に落ち込む状況で確認した。遺存する深さは6cmで、黒褐色土層が坑底面まで堆積する。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。  
遺物 1は縄文時代中期の北筒式相当の口縁部片である。

#### P604 (図182 図版184)

遺構 IV層面においてII層とIV層の混土である黒褐色土層が、小判型に落ち込む状況で確認した。本土坑は縄文時代晩期前葉のP550に切られる。覆土はバミスを含む黒褐色土層が坑底面に堆積する。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。  
遺物 覆土からは縄文時代中期の破片3点が出土した。

#### P605 (図182 図版184・185)

遺構 III層面においてII層の黒色土層が、円形に落ち込む状況で確認した。覆土は下位にバミスを含むが、II層主体の層が堆積する。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。  
遺物 1は縄文時代中期の葺ヶ岡2式相当の胴部片である。

#### P606 (図183 図版185)

遺構 T-34区のIV層面で、II層とIV層の混土である暗褐色土が小判型に落ち込むのを検出した。  
覆土はバミスを含む暗褐色土層が坑底面まで堆積する。土坑の特徴から縄文時代の墓とみられるが、時期は不明である。  
遺物 遺物は出土していない。

#### P607 (図183 図版185)

遺構 III層面においてII層とIV層の混土である黒褐色土層が円形に落ち込む状況で確認した。覆土は上位にバミスを含む黒褐色土層が堆積し中位に土器片を含む黒色土層、下位は上位と似た層が堆積し、坑底部に小ビットが重なる。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。  
遺物 覆土中位からは縄文時代中期の破片29点が出土した。1は珪岩製のスクレイパーである。2、3は円筒上層式期の口縁部片である。

#### P608 (図183 図版186・187)

遺構 III層面においてバミスが混じるII層が円形に落ち込む

状況で確認した。全般にII層起源の黒色土層が堆積する。覆土出土遺物から縄文時代後期中葉の土坑とみられる。

遺物 覆土中位からは縄文時代中期の破片29点が出土した。1は黒曜石製のスクレイパーである。2、3は縄文時代後期中葉の胴部片である。

#### P609 (図184 図版186・187)

遺構 縄文時代後期中葉の住居址H47の床面に掘られた土坑である。覆土はII層起源の黒色土層の間にIV層混じりの褐色土層や茶褐色土層がスジ状に堆積する。覆土上位は住居址の覆土が落ち込んだ状態である。土坑の上位には住居が埋まる際に流れ込んだ縄文時代後期後葉の破片がまとまって出土した。この破片は、周囲の包含層と接合し復元に至った。坑底部からは縄文時代後期中葉の破片が出土した。坑底部から出土した遺物から縄文時代後期中葉の土坑とみられる。

遺物 1、2は、覆土上位に落ち込んだ破片が包含層の破片と接合し、復元された堂林式期の深鉢である。1は比較的多くの破片が出土し、2は口縁部片の1点が接合したもので、土坑の時期より新しい遺物である。3～5は坑底部より出土した縄文時代後期中葉の破片である。このうち4は先に記したP608の破片と同一個体である可能性がある。6は黒曜石製の石鏃である。

#### P610 (図185 図版186・187)

遺構 縄文時代中期後葉の北筒式の住居址H48を調査中、断面で見つかった土坑である。本土坑は住居址が完全に埋まった後に掘られた土坑である。覆土は、上部にバミス混じりのII層が落ち込み、中位から下にはバミスやローム粒の混じる黒色土とIII層とIV層の混土である黒褐色土層が互層に堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片39点、後期後葉の破片2点などが出土した。1は縄文時代中期の葺ヶ岡2式相当の胴部片である。

#### P611 (図185 図版188・189)

遺構 耕作跡の残るIV層面でIII層とIV層の混土である暗褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は全般にバミスやローム粒を含む暗褐色土層が坑底付近まで堆積する。坑底部中央付近からは、つまみ付きナイフが1点検出された。土坑の特徴から縄文時代前期の墓とみられる。  
遺物 1は坑底部出土の珪岩製のつまみ付きナイフである。

#### P612 (図185 図版188)

遺構 U-36区においてIII層上面を遺構確認調査中、黒色土層がIII層とIV層の混土である黒褐色土層と重なり楕円形に落ち込むのを確認した。覆土は上位にレンス状に堆積する黒色土層、下位に黒褐色土層が堆積する。縄文時代の土坑とみられるが具体的な時期は不明である。

遺物 遺物は出土していない。

**P613 (図186 図版189)**

遺構 Ⅲ層面で、バミス混りのⅡ層が不整形に落ち込むことで確認した。本土坑の北東側はT P14に切られるが、長軸で2mほどの規模があったと推測される。覆土は上位に黒色土層、下位にⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。坑底部は平らに掘られることから、小規模の住居址であった可能性もある。遺構の特徴と出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

遺物 覆土から縄文時代中期の破片58点、後期後葉の破片1点などが出土した。1は縄文時代中期の底部片である。

**P614 (図186 図版189)**

遺構 耕作路の残るⅣ層面でローム粒を含む黒色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は黒色土層が坑底付近まで堆積する。出土遺物から縄文時代晩期中葉の土坑とみられる。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。2、3は縄文時代晩期中葉の破片である。2は口縁部に無紋帯があり、口唇部に棒状工具による刻みが施される。3の口縁部には縄文文が3条施される。

**P615 (図186 図版188・189)**

遺構 Ⅲ層面でバミスを含む黒色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は黒色土層が坑底付近まで堆積する。出土遺物から縄文時代晩期中葉の土坑とみられる。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。2は後期後葉の深鉢片3、4は縄文時代晩期中葉の底部片である。

**P616 (図187 図版190・191)**

遺構 Ⅳ層面においてバミスを含む黒色土層が長円形に落ち込む状況で検出された。土坑の中央付近で断面を切ったところ、坑底面が立ち上がりはじめ、柱穴状の土坑2基が重なる遺構であると確認した。断面は土坑の中心から外れた。土坑は深いので80cmあり、覆土はバミスやローム粒を含むⅡ層主体の黒色土層が坑底付近まで堆積する。土坑の特徴から、縄文時代晩期前葉の柱穴であったとみられる。

遺物 1は黒曜石製のつまみ付きナイフである。2は縄文時代中期の口縁部片である。

**P617 (図187 図版190・191)**

遺構 Ⅲ層面において少量のバミスを含むⅡ層が円形に落ち込むことで検出した。覆土は上位に黒色土層、下位にはⅡ層とⅢ層との混土である黒褐色土層が堆積する。坑底面の南側は一部窪みがある。遺構の特徴から縄文時代前期の土坑とみられる。

遺物 1、2は東側路Ⅳ式の破片で、3は静内中野式期相当

の胴部片である。

**P618 (図187 図版190・191)**

遺構 耕作路の残るⅣ層面でⅡ層とⅢ層との混土である黒褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出した。覆土は黒褐色土層が坑底まで堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期前葉の土坑とみられる。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。2は縄文時代後期後葉期の破片である。3は前期の静内中野式期の口縁部片である。

**P619 (図188 図版191)**

遺構 Ⅲ層面で少量のバミスを含むⅡ層が円形に落ち込むことで検出した。本土坑は縄文時代前期の住居址H52を切る。覆土は上位にⅡ層が落ち込み、下位にⅢ層とⅣ層との混土である黒褐色土層が堆積する。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

遺物 1、2は堂林式新段階から御殿山式相当の深鉢底部片と注口土器胴下部片である。

**P620 (図188 図版191)**

遺構 T-34区のⅣ層面上で黒色土層が小判型の落ち込むことで検出した。土層は黒色土が坑底まで堆積する。出土遺物から縄文時代中期以降の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代前期の破片1点、中期の破片2点が出土した。

**P621 (図188 図版192)**

遺構 T-34区のⅣ層面上でⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が小判型に落ち込むことで検出した。覆土は坑底部まで暗褐色土層が堆積する。墓とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 覆土からはフレイク1点が出土した。

**P622 (図188 図版192・193)**

遺構 S-36区のⅣ層面上で黒色土層が円形に落ち込むことで検出された。土層は黒色土が坑底まで堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

遺物 1は覆土から出土した天神山式相当の胴部片である。

**P623 (図189 図版192・193)**

遺構 Ⅳ層面においてⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が円形に落ち込むことで確認した。本土坑は縄文時代後期中葉の住居址H55を一部切る。覆土は黒褐色土層が坑底まで堆積する。出土遺物から、縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。2は御殿山式期の口縁部片、3、4は静内中野式相当の破片である。

## P624 (図189 図版192・193)

遺構 IV層面においてII層とIV層の混土である黒褐色土層が小判型に落ち込むことで確認した。本土坑は縄文時代後期中葉の住居址H55を一部切る。覆土は黒褐色土層が坑底まで堆積する土坑の特徴から縄文時代前期の土坑とみられる。

遺物 1は覆土下位から出土した頁岩製のつまみ付きナイフである。

## P625 (図189 図版193)

遺構 III層下位においてバミスの混じるII層が黒褐色土層と重なり小判型に落ち込むことで確認した。本土坑の検出面より上位の包含層からは縄文時代中期の破片がまとめて出土した。覆土は上位にII層が落ち込み中にIV層が混じる黒褐色土層、下位に黒褐色土層が堆積する。覆土中位から出土した破片から、縄文時代早期の東銅路IV式期の土坑とみられる。

遺物 1は、覆土中位から出土した東銅路IV式期の口縁部から胴下部にかけての破片である。

## P626 (図189 図版193)

遺構 III層下位においてバミスが少量混じる黒褐色土層が円形に落ち込むことで確認した。覆土は坑底部まで、ほぼ同質の黒褐色土層が堆積する。出土遺物から、縄文時代前期の静内中野式相当の土坑とみられる。

遺物 1、2は静内中野式相当の銅片である。いずれも粘土に繊維を含む。

## P627 (図190 図版194)

遺構 III層下位においてバミスの混じる黒褐色土層が円形に落ち込むことで確認した。覆土は上位にバミスの混じるII層が落ち込み下位に暗褐色土層が堆積する。縄文時代の土坑とみられるが、決め手となる遺物は出土しなかった。

遺物 覆土からは環が1点出土した。

## P628 (図189 図版194)

遺構 IV層面において、少量のバミスの混じる黒褐色土層が黒褐色土層と重なり円形に落ち込むことで確認した。覆土は上位にバミスの混じるII層が落ち込み、下位にII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積する。縄文時代の土坑とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 遺物は出土していない。

## P629 (図190 図版194・195)

遺構 IV層面において、少量のバミスの混じる黒褐色土層が黒褐色土層と重なり小判型に落ち込むことで確認した。覆土は上位にバミスの混じるII層が落ち込み、下位にII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積する。縄文時代の土坑とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 覆土からは東銅路IV式の破片8点などが出土した。1

は東銅路IV式の銅片である。

## P630 (図190 図版195)

遺構 III層下位においてバミスの混じる黒褐色土層が円形に小判型に落ち込むことで確認された。覆土は上位にバミスの混じるII層が落ち込み、下位にはII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代の早期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは東銅路IV式の破片4点などが出土した。

## P631 (図190 図版一)

遺構 縄文時代前期の住居址H38の調査中、住居址の覆土を切って構築される土坑があるのを確認した。覆土は上位にバミスが混じる黒褐色土層が堆積し、下位にはII層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積する。住居を切ることから、縄文時代前期以降の遺構であるとみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 遺物は出土していない。

## P632 (図191 図版195・221)

遺構 R-36区のIV層上面で、黒褐色土の大きな落ち込みを確認した。トレンチで確認したところ、付近には、土坑3基が重複していることがわかった。それらの重複関係の中で最も新しいのが本土坑である。覆土は上位にII層が落ち込み、中位にII層とIV層の混土である黒褐色土層が、下位には炭化物や土器片を多数含む黒褐色土層が堆積していた。また本遺構の北東端の壁斜面には、フレイク・チップの集積域1ヶ所が検出されている。坑底部付近から出土した遺物から、縄文時代中期の土坑（あるいは小形の住居址）とみられる。

遺物 坑底直上から縄文時代中期の破片461点のほか、石器類954点が出土した。1～4は坑底部から出土した黒曜石製の石鏃である。木葉形のものや基部を持つものがみられる。5～15は坑底部から出土した土器片で、円筒上層式期に相当する破片である。

## P633 (図192 図版一)

遺構 III層上面で黒褐色土層が円形に落ち込むのを確認した。短軸方向に断面を設定した結果、覆土は炭化物混じりのII層が堆積する。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 遺物は出土していない。

## P634 (図192 図版196・197)

遺構 III層上面で黒褐色土層が小判型に落ち込むのを確認した。本遺構はP647を切る。覆土は上位にバミスが混じるII層が堆積し、下位にはII層とIII層の混土である黒褐色土層が堆積する。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。



遺物 覆土から縄文時代中期の破片1点などが出土している。1は覆土出土の円筒土層式の口縁部片である。

#### P635 (図193 図版196・197)

遺構 包含層調査中に、出土した石皿を置いた状態でⅢ層まで下げると黒色土が円形に落ち込むのを確認した。石皿が断面を通るように断面を設定した。覆土は全般にⅢ層主体の黒色土が落ち込み、土壌の坑底部北西側には、石皿と黄褐色の粘土も検出された。出土遺物から縄文時代後期中葉の遺構とみられる。

遺物 遺物1は覆土出土した柱岩製のスクレイパーである。2は全面を敲打し形を整えた、多孔質な安山岩製の石皿である。形状から縄文時代後期中葉である可能性がある。3は覆土上位から出土した石皿である。出土位置から包含層の流れ込みである可能性もある

#### P636 (図192 図版196・197)

遺構 Ⅲ層下位でバミスの混じる黒褐色土層が円形に落ち込む状態で確認した。覆土は上位にバミスが混じるⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積し、下位にはⅡ層とⅢ層の混土である暗褐色土層が堆積する。遺構の特徴から縄文時代前期の墓とみられる。

遺物 覆土から縄文時代前期の破片16点などが出土している。1は安山岩製のすり石である。2は静内中野式相当の胴部片である。

#### P637 (図194 図版197)

遺構 Ⅳ層面でバミスの混じる暗褐色土層が円形に落ち込む状態で確認した。覆土は主にⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が坑底部まで堆積する。縄文時代の遺構とみられるが、決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 覆土から縄文時代後期後葉の破片1点が出土した。

#### P638 (図194 図版197)

遺構 Ⅲ層下位で黒色土層が楕円形に落ち込む状態で確認した。覆土は主にⅡとⅢ層の混土である黒色土層が坑底部まで堆積する。出土遺物から縄文時代晩期中葉の土坑とみられる。

遺物 1はから縄文時代晩期中葉の浅鉢底部片とみられる。

#### P639 (図194 図版197～199)

遺構 Ⅲ層下位で黒色土層が小判型に落ち込む状態で確認した。覆土上位にはバミス混じりのⅡ層が落ち込み、下位には主にバミス混じりのⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代晩期中葉の土坑とみられる。

遺物 1～3から縄文時代晩期中葉の破片である。1の口唇は棒状工具で刻まれ、口縁部に縄線文が施される。2は底部片で、底部にも縄文が施される。3は鉢の口縁部片である。4は縄文時代後期後葉の破片である。

#### P640 (図195・196 図版198・199)

遺構 縄文時代前期の住居址H56覆土を掘り下げているところ、南東壁に遺構の重複を確認した。精査すると、H56を切った掘られた土壌を確認した。覆土は上位にバミスを含む黒褐色土層が堆積し、下位には黒色土層が堆積する。上位の層には縄文時代中期の破片がまぎって出土する。覆土から出土遺物から、縄文時代中期の土坑とみられる。

遺物 1は黒曜石製のスクレイパー類である。2～4は覆土上位から出土した縄文時代中期の破片である。2は柏木川式に相当するとみられる。3、4は萩ヶ岡2式相当の土器である。胴部の貼付帯上には半截竹管による押引文が施される。4は底部にも結束の縄文が施される。

#### P641 (図194 図版199)

遺構 Ⅳ層面で、バミスの混じる暗褐色土層と褐色土層が混ざり円形に落ち込む状態で確認した。覆土は主にⅣ層主体の暗褐色土層が堆積する。土壌の特徴から縄文時代前期の遺構と考えた。

遺物 遺物は出土していない。

#### P642 (図197 図版198・199)

遺構 Ⅲ層下位で黒色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層が円形に落ち込み、下位にはⅡ層の黒色土層が堆積する。出土遺物から後期末葉の土坑と考えたが、検出面上にはわずかにT a - aらしき堆積も見られたため、より新しい土坑である可能性もある。

遺物 1、2は御殿山式期相当の破片である。

#### P643 (図197 図版200)

遺構 Ⅲ層上面でⅢ層とⅣ層が混じる褐色土が不鮮明ながら円形に落ち込む状況で確認した。覆土は上位に褐色土層が堆積し、下位には黒褐色土層が堆積する。また、この土坑は柱穴1ヶ所を切る。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 覆土から縄1点が出土している。

#### P644 (図197 図版200・201)

遺構 Ⅲ層下位でⅢ層とⅣ層が混じる褐色土が円形に落ち込む状況で確認した。覆土は上位に褐色土層が堆積し、下位には暗褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代中期の土坑と考える。

遺物 1は萩ヶ岡2式相当の胴部片である。

#### P645 (図197 図版200・201)

遺構 Ⅲ層下位でⅢ層主体の暗褐色土層が円形に落ち込む状況で確認した。覆土は暗褐色土層が薄く堆積する。出土遺物から縄文時代早期の土坑と考える。

遺物 1は中茶路式の胴部片である。

**P646 (図198 図版201)**

遺構 Ⅲ層下位で、Ⅲ層とⅣ層が混じる暗褐色土が円形に落ち込む状況で確認した。覆土は暗褐色土層が坑底まで堆積する。また、この土坑は柱穴1ヵ所を切る。縄文時代の遺構とみられるが、決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 覆土からフレイク1点が出土している。

**P647 (図198 図版201)**

遺構 Ⅲ層下位で、黒色土層が落ち込む状況で検出された。P634に切られ、覆土は上位にバミスを含むⅡ層が落込み、下位にはⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代前期の土坑とかんがえる。

遺物 覆土からは縄文時代前期の破片5点などが出している。1は静内中野式相当の胴部片である。

**P648 (図198 図版201)**

遺構 Ⅲ層下位で、黒褐色土層が落ち込む状況で検出された。P647に切られる。覆土はⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。出土遺物からP647とはほぼ同時期の縄文時代前期の土坑とかんがえる。

遺物 覆土からは縄文時代前期の破片1点、フレイク3点が出土している。1は静内中野式相当の口縁部片である。

**P649 (図199 図版一)**

遺構 Ⅲ層下位で、黒褐色土層が落ち込む状況で検出された。本土坑は縄文時代前期の住居址H54に切られる。覆土はⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層が堆積する。遺構の状況からH54とはほぼ同時期の縄文時代前期の土坑とかんがえる。

遺物 覆土からはフレイク1点が出土している。

**P650 (図199 図版202・203)**

遺構 Ⅲ層下位で、黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土にはバミスが少量混じるⅡ層が堆積する。縄文時代後葉の土坑P661を切ることから後北C、D式の土坑とかんがえる。

遺物 覆土からは縄文時代後葉の破片2点などが出している。1は堂林式新段階から三ツ谷式期の口縁部片である。

**P651 (図199 図版202・203)**

遺構 Ⅲ層下位で、暗褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。検出面には礎が1点見えていた。覆土はバミスが少量混じるⅢ層が堆積する。出土遺物から縄文時代早期の土坑とかんがえる。

遺物 1は東鋼路Ⅳ式相当の胴部片である。

**P652 (図199 図版202・203)**

遺構 Ⅲ層下位で、黒色土層が不整形に落ち込む状況で検出された。覆土にはバミスが少量混じるⅡ層が堆積する。遺構の状況から縄文時代後葉の土坑とかんがえる。

遺物 1、2は堂林式新段階から三ツ谷式期の胴部片。

**P653 (図200 図版203)**

遺構 Ⅳ層面で、黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土にはバミスが少量混じるⅡ層が堆積する。遺構の状況から縄文時代後葉の土坑とかんがえる。

遺物 1は萩ヶ岡2式相当の口縁部片である。

**P654 (図200 図版202・203)**

遺構 Ⅲ層下位で黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土にはバミスが少量混じるⅡ層が堆積する。出土遺物から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 1は東鋼路Ⅳ式の胴部片である。

**P655 (図200 図版203)**

遺構 Ⅱ層下位で、褐色土層の落ち込みで検出された。検出面では、小判型に落ち込む新しい土坑に切られる状況が確認された。断面から、本土坑は後北C、D式期の土坑P496に上部の一部を切れることがわかった。覆土は上位にはⅣ層主体の褐色土層、下位にはⅡ層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがなされたものとみられる。遺構の状況から縄文時代後葉の墓とかんがえる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片51点、後葉の破片67点などが出している。1～3は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する破片である。

**P656 (図201 図版204・205)**

遺構 Ⅳ層面で、暗褐色土層が、小判型に落ち込む状況で確認された。覆土は上位に少量の黒色土層が落ち込み、ほかにはⅣ層主体の暗褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代早期の土坑とかんがえる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片57点などが出している。1は東鋼路Ⅳ式に相当する口縁部片である。

**P657 (図201 図版204)**

遺構 Ⅳ層上面でバミス混じりの黒色土層が円形に落ち込む状況で確認した。覆土は坑底面まで黒色土層が堆積する。遺構の特徴から、後北C、D式期の土坑と考える。

遺物 遺物は出していない。

**P658 (図201 図版204・205)**

遺構 Ⅳ層上面でバミス混じりの黒色土層が円形に落ち込む状況で確認した。覆土は坑底面まで土層を含む黒色土層が堆積する。遺構の特徴から、後北C、D式期の土坑と考える。

遺物 1は堂林式新段階から御殿山式期に相当する口縁部片である。

**P659 (図201 図版204)**

遺構 IV層上面で炭化物粒を含む褐色土が長円形に落ち込む状況で確認した。覆土は褐色土層が坑底まで堆積する。遺構の特徴から、縄文時代早期の土坑と考える。

遺物 遺物は出土していない。

**P660 (図202 図版205)**

遺構 縄文時代前期の住居址H61の床面上でバミス混じりの黒色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。覆土は上部にII層を多く含む黒色土層が薄く堆積し、下位は黒褐色土層が坑底まで堆積する。出土遺物から縄文時代中期の土坑と考える。

遺物 1は円筒上層式期の胴部片である。

**P661 (図202 図版205)**

遺構 IV層上面でII層の黒色土のIV層の褐色土が重なり小判型に落ち込む状況で確認した。検出面で円形の土坑P650に切られるのがみとめられた。覆土は上位にはIV層主体の褐色土層、下位にはII層主体の黒褐色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがなされ可能性がある。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の墓と考える。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点が出土している。

**P662 (図202 図版205)**

遺構 IV層上面でバミス混じりの黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は主にII層とIII層が混じる黒褐色土層の堆積である。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 遺物は出土していない。

**P663 (図202 図版206・207)**

遺構 IV層上面でバミスが混じる暗褐色土層が円形に落ち込む状況で確認した。本土坑は縄文時代後期中葉の住居址H55に切られる。覆土は上位に一部II層の混じる黒褐色土層が落ち込むが、他は主にIII層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代前期の土坑と考える。

遺物 1は静内中野式相当の胴部片である。2は泥岩製の石斧で、縁辺を荒削りした状態のもの。

**P664 (図203 図版206)**

遺構 III層下位でバミスが混じるII層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は上位にII層が落ち込み、下位には全般にIII層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積する。土坑の特徴から縄文時代前期の土坑と考える。

遺物 遺物は出土していない。

**P665 (図204 図版206・207)**

遺構 IV層上面で、黒褐色土層が楕円形に落ち込むことで確認した。検出面には副葬品とみられる石器類が確認された。

覆土は主にIII層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積し、覆土上位や中位から、副葬品と見られる石器類16点が検出された。土坑の特徴や出土遺物から縄文時代前期の墓とみられる。

遺物 1～4はつまみ付きナイフ、5～9はスクレイパー類、10は石槍またはナイフである。石材は7、8が黒曜石製ではがは頁岩製である。11は泥岩製の石斧で、器面全体に磨かれる。

**P666 (図205・206 図版208・209)**

遺構 縄文時代前期の住居址H40を調査中に、黒色土が落ち込み、住居址を切ることから確認した。覆土は上部にII層主体の黒色土層が落ち込み、下位にIII層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積する。覆土上位には一部IV層が落ち込み、その上部に堆積する黒褐色土層中からは42点の玉類と6点のサメの歯が散在した状態で出土した。覆土下位の暗褐色土層からはほとんど遺物は出土していない。出土遺物から縄文時代後期後葉の墓とみられるが、覆土上位の黒色土層と下位の暗褐色土層の重なりが自然な堆積であることから、黒色土中に坑底部をもつ盛土墓状の墓と、前期の土坑が重なったものともみられる。

遺物 1は刃部を破損した石斧である。基部は研磨され、後期後葉の石斧とは特徴が異なる。2～7サメ歯穿孔とみられる。全長2m以下のホネジロサメの上顎骨を利用したもので、8～49は玉類である。石材はすべて緑泥石岩製である。これらのうち勾玉状のものが14、34、45で14の縁には割りが施される。26、27は厚みのある玉類で、44は董玉状である。そのほかの玉類は丸みのある白玉状のものが目立つ。

**P667 (図203 図版207)**

遺構 耕作跡の残るIV層面で黒褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出した。覆土はIII層とIV層の混土である黒褐色土層が坑底まで堆積する。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 遺物は出土していない。

**P668 (図207 図版209・210)**

遺構 IV層上面で、黒褐色土層が楕円形に落ち込むことで確認した。覆土には主にバミスが混じる黒褐色土層が堆積し、土坑の南東側には一部落込みがみられた。落込みの上位からは土器片がまとまって出土した。出土遺物から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 1は一括で出土した破片を復元したもので、東洞路IV式の口縁部である、山形の突起が4ヶ所付くとみられる。

## P669 (図203 図版210・211)

遺構 Ⅲ層面でバミスが混じるⅡ層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は上位にⅡ層の黒色土層が堆積し、下位にはⅡ層とⅢ層とⅣ層の混土である黒暗褐色土層が堆積する。遺構の特徴から、後北C:D式期の土坑と考える。

遺物 1は黒曜石製のつまみ付きナイフである。2は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する胴部片である。

## P670 (図203 図版210・211)

遺構 Ⅲ層下位でバミスが混じる黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は上位にⅡ層が混じる黒色土層が堆積し、下位にはⅡ層とⅢ層との混土である黒暗褐色土層が堆積する。出土遺物から、縄文時代中期の土坑と考える。

遺物 1は円筒上層式期の胴部片である。

## P671 (図208 図版211)

遺構 縄文時代前期の住居址H70の床面上でバミス混じりの黒褐色土層が小判型に形に落ち込む状況で確認した。覆土は主にⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層である。遺構の特徴から縄文時代中期の土坑とした。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。2は静内中野式相当の破片で、口縁部に縄端部の圧痕が施される。

## P672 (図208 図版211)

遺構 Ⅲ層下位でバミスが混じる黒色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は上位に少量に焼土が落ち込むが、ほかにはⅢ層主体の黒色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代中期の土坑下位にはⅡ層とⅢ層との混土である黒暗褐色土層が堆積する。遺構の特徴から、縄文時代後期後葉の土坑と考える。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点が出土している。

## P673 (図208 図版211)

遺構 耕作路の残るⅣ層面で黒褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出した。覆土はバミスが混じるⅢ層とⅣ層の混土が堆積する。遺構の特徴から、縄文時代早期の土坑と考える。

遺物 遺物は出土していない。

## P674 (図208 図版212)

遺構 Ⅳ層上面で黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出した。覆土にはバミスが混じるⅡ層とⅢ層の混土が堆積する。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 覆土からは縄4点が出土している。

## P675 (図208 図版212)

遺構 Ⅲ層下位でバミスが混じる黒色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土はバミスが混じるⅡ層とⅣ層の混土

が堆積する。遺構の特徴から、縄文時代中期の土坑と考える。遺物 遺物は出土していない。

## P676 (図209 図版213)

遺構 縄文時代前期の住居址H70の覆土面で黒色土層が円形に落ち込むことで確認した。覆土は黒色土が坑底まで堆積する。出土遺物から縄文時代晩期中葉の土坑とみられる。

遺物 1は黒曜石製の石鏃である。2～4は縄文時代晩期中葉の底部片である。いずれも底部に縄文が施される。4の器面には複数の縄文がとじ線文が付される。

## P677 (欠番)

## P678 (図209 図版213)

遺構 Ⅲ層下位で黒色土層が黒褐色土層に重なり円形に落ち込むことから確認した。検出面は乱れを受けるが、覆土上位には少量のバミスを含むⅡ層が落ち込み、下位にはⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。土坑の北側が深く落ち込むことから、浅い土坑との重なりだったとみられる。出土遺物から縄文時代前期の土坑と考える。

遺物 1は黒曜石製のスクレイパー類である。2は静内中野式相当の胴部片である。

## P679 (図209 図版213・221)

遺構 Ⅳ層上面で、黒褐色土層の大きく落ち込むことから確認した。本土坑は縄文時代中期の土坑P632に切られる。覆土はⅡ層が薄く堆積し、坑底はⅣ層を若干掘り下げたは平皿に作られている。

出土遺物から、縄文時代中期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片18点などが出土した。

## P680 (図210 図版215・215)

遺構 Ⅲ層下位で黒色土層が小判型に落ち込むことから確認した。覆土は全般に少量のバミスを含むⅡ層が堆積する。出土遺物から縄文時代前期の土坑と考える。

遺物 覆土からは縄文時代前期の破片38点などが出土している。1安山岩製のすり石で、半分近くが欠損する。2は静内中野式相当の口縁部片である。

## P681 (図210 図版214・215)

遺構 縄文時代前期の住居址H68を調査中に住居址を切る黒褐色土層が円形に落ち込み検出された。土層は上位に少量のバミスを含むⅡ層が堆積し、下位にはⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代晩期中葉の土坑と考える。

遺物 覆土からは縄文時代後期後葉の破片86点、晩期中葉の破片2点などが出土している。1は黒曜石製の石鏃である。2～4は御殿山式期相当の口縁部片である。

**P682 (図210 図版214・215)**

**遺構** 縄文時代後期中葉の住居址H55に切られた状態で検出された土坑である。覆土上位にはバミス混じりのⅡ層が落ち込み、下位にはⅡ層とⅢ層の混土が堆積する。出土遺物から縄文時代前期の土坑と考える。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片9点が出土している。1は静内中野式相当の胴部片である。

**P683 (図211 図版214・215)**

**遺構** Ⅳ層上面で、黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。土層はロームブロックが混じる黒色土である。遺構の特徴から縄文時代後期中葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片7点、後期後葉の破片18点などが出土した。1は堂林式新段階から御殿山式期に相当する口縁部片である。

**P684 (図211 図版214・215)**

**遺構** 縄文時代中期の土坑P632に切られて検出された。土層はロームブロックが混じる黒色土である。覆土から出土した遺物から、縄文時代中期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片34点などが出土した。1、2は円筒上層式期の破片である。1は口縁部片、2は底部片である。

**P685 (図211 図版214)**

**遺構** Ⅲ層下位から黒褐色土層が楕円形に落ち込むことで確認した。覆土上位に少量のバミスを含むⅡ層が堆積し、下位にはⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

**遺物** 遺物は出土していない。

**P686 (欠番)**

**P687 (図212 図版215)**

**遺構** 柏木川に面する斜面際、削平を受けたⅣ層面でバミス混じりの黒色土が、暗褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で確認した。遺存する深さは21cmで、覆土上位にはⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積し、下位の東側にⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が堆積する。坑底面の北西側からは遺体の頭部の痕跡とみられるベンガラ混じりの層が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土から縄文時代中期の破片4点などが出土した。

**P688 (図212 図版216・218)**

**遺構** 柏木川に面する斜面際、削平を受けたⅣ層面でバミス混じりの黒色土層が不整形に落ち込むことで検出した。遺存する深さは10cmで、全般にバミスが混じるⅡ層が堆積す

る。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

**遺物** 1は縄文時代中期の胴部片である。

**P689 (図212 図版216・217・218)**

**遺構** 削平を受けたⅣ層面において褐色土層がⅡ層とⅣ層の混土である暗褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で確認した。本土坑は3号周堤墓の周堤内にはられた土坑とみられる。遺存する深さは41cmで、覆土上位にはⅣ層が落ち込み下位にはⅣ層がブロック状に混じるⅡ層が堆積する。坑底面の北西側からは頭部の痕跡と見られる有機質黒褐色土層の高まりがみとめられた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片13点などが出土している。1は坑底部から出土したコハクの破片である。玉に加工されていたものとみられる。

**P690 (図213 図版216・217・218)**

**遺構** 削平を受けたⅣ層面において褐色土層がⅡ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が長円形に落ち込む状況で確認した。本土坑は3号周堤墓の周堤内にはられた土坑とみられる。遺存する深さは48cmで、覆土上位にはⅡ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が堆積し、下位には比較的Ⅱ層が含まれる黒色土が薄く堆積する。坑底部の北西側からは漆製品破片が検出され、付近にはベンガラの散布も確認された。坑底部中央からは土坑の長軸に沿って片岩製の石棒が1点出土した。石棒は部分的に砂質で、飾り面から崩れた状態で出土した。または、坑底面の南東側からは足部の痕跡と坑底部から浮いた位置で石鏡が1点検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。なお、3号周堤墓の設定には本土坑から石棒が出土していることも意識しているが、周堤墓とする根拠はやや弱い。

**遺物** 1は漆片である。断片的な遺存で詳細は不明だが、出土位置から櫛であった可能性もある。2は頁岩製の石鏡で、包含層からの流れ込みとみられる。3は石棒である。頭部の縁には瘤状の突起を6ヶ所作り出し、×字の刻みを施す。風化のためぬく、平対面の文様は、調査時に削ってしまった可能性がある。飾り面から崩れた状態を、土ごと取り上げ、樹脂で固めたものである。

**P691 (図214 図版216・217・218)**

**遺構** 削平を受けたⅣ層面においてバミスやローム粒を含む黒褐色土層が長円形に落ち込む状況で確認した。本土坑は3号周堤墓の周堤内にはられた土坑とみられる。遺存する深さは52cmで、検出面で、一部埋する縄文時代後期後葉の土坑であるP692に切られる。覆土上位にはⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積し、下位にはⅣ層主体の褐色土層が堆積する。坑底面の西側からは少量のベンガラがブロック状に出土した。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 1は静内中野式相当の破片で、包含層からの流れ込みとみられる。

#### P692 (図215・216 図版219・220)

遺構 削平を受けたIV層面においてバミスを含む黒色土層が小判型に落ち込み状況で確認された。本土坑は一部接する縄文時代後期後葉の土坑P691を切る。上部の黒色土を10cm前後掘り下げると、長軸80cm、幅38cmの長円形の落ち込みとなり、上面には複数の土器がつぶれて検出された。出土した破片のほとんどは接合し、土器3個体が復元された。土器片の下部の土層も上部の土層とはほぼ同じバミスを含むII層が堆積していた。出土遺物から縄文時代晩期後葉の墓とみられる。

遺物 紙面都合から、図216に掲載した土器実測図の縮尺を30%としている。復元された3個体の土器には内部にも使用痕がなく、調羹品として造られたものとみられ、器面にわずかながらベンガラが塗付された痕跡がみられる。ほんらいは完形品で収められたとみられるが、上面が削平されているため定かでない。縄文時代晩期中葉以降に在地系土器に現れる、口縁部に1対の向かい合う突起(穿孔を伴う)を持つ器形は、末葉になると舟形土器や壺形土器に分化するとみられるが、本土坑から出土した3個体は舟形や壺形に分化する直前の器形とみられる。1は口縁部に欠け(未接合の破片が一部ある)、口縁部に向かい合う突起を有する器形とみられ、胴部の無紋帯は内側に強く括れ、その上下に櫛歯状工具による沈線を下地とし文様が施される。底部中央の割れ口は穿孔されたものである可能性がある。このような器形は後に壺形土器に変化するものとみられる。2の口縁部は4分の1ほどしか残っていないが、器形は浅鉢形だったとみられる。器面の無紋帯や沈線文にはベンガラが塗付された痕跡がみられる。3は底部の一部を欠く。胴部は2段の無紋帯を挟んで括れ、口縁部には櫛歯状工具による沈線を施したのち工字文状の文様を施す。口縁部は突起の方向に広がる楕円形で、突起は2列の粘土の貼り付けの間に貫通穴が施される。このような器形は後に船形土器になるとみられ、器形を分化させる意図はこのような時期から始まっていたのかもしれない。4は頁岩製の石鏃で破損する基部にはアスファルトの付着がみられる。5は黒曜石製のスクレイパー類である。これらの石器は集中する土器片と同じ層位から出土しており、調羹品である可能性がある。

#### P693 (図214 図版220)

遺構 縄文時代前期の住居址H70を調査中に住居址を切る黒色土層が円形に落ち込み検出された。土層はいずれもロームブロックが多く混じるII層主体の黒色土層で埋め戻しとみられる。遺構の特徴から縄文時代晩期中葉の土坑とみられる。

遺物 1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する口縁部片である。2は静内中野式相当の胴部片である。

#### P694 (図214 図版221)

遺構 縄文時代前期の住居址H70を調査中に住居址を切る黒色土層が小判型に落ち込み検出された。覆土にはローム粒とベンガラを少量含むII層主体の黒色土層である。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

遺物 覆土から縄文時代早期の破片2点、前期の破片が1点、中期の破片が1点出土している。

#### P695 (図214 図版220・221)

遺構 IV層上面で、黒褐色土層の大きく落ち込むことから確認された。本土坑は縄文時代中期の土坑P679に切られる。覆土はII層とIII層の混土である暗褐色土層が薄く堆積し、坑底はIV層を若干掘り下げて平坦に作られている。出土遺物から、縄文時代中期の土坑とみられる。

遺物 覆土から縄文時代中期の破片が3点、後期後葉の破片3点などが出土している。

#### P696 (図214 図版221)

遺構 縄文時代中期の住居址H71を調査中に住居址の一部を切る円形の土坑が検出された。検出面はバミスを含む黒褐色土層が黒色土と重なり落ち込み、覆土は全般にバミスを含むII層主体の黒褐色土層の堆積である。坑底面には掘り具の痕跡が明瞭にみられた。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

遺物 1は珪岩製のつまみ付きナイフである。2は天神山式相当の口縁部片である。

#### P697 (図218 図版222・223)

遺構 縄文時代早期の住居址H67の床面付近に黒曜石のフレイク類が集中している状況がみられ、これを精査したところ楕円形の土坑が検出された。覆土は全般にバミスを含むII層とIII層の混土で、覆土中から77点の石器類が出土した。坑底部には一部ベンガラの散布もみられた。遺構の特徴から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 1〜3は頁岩製のつまみ付きナイフである。4は黒曜石製の石鏃片で、5〜7はスクレイパー類で、5、6は黒曜石製、7は砂岩製である。

#### P698 (図217 図版221)

遺構 IV層上面で、後北C、D式期の土坑P496と縄文時代後期後葉の土坑P655に切られて落ち込む黒褐色土層の落ち込みが確認された。覆土は上位にバミスを含むII層が落ち込み下部にII層とIII層の混土である黒褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

遺物 覆土から縄文時代中期の破片などが出土している。

#### P699 (図219 図版222)

遺構 削平を受けたIV層面においてIV層主体の褐色土層が不

整形に落ち込み検出された。覆土は上位と下位にバミスを含むⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積し、中位にⅣ層主体の褐色土層が堆積する。坑底部南西側からは歯と頭部の痕跡が検出された。土坑の特徴から縄文時代晩期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からはフレイク1点などが出土している。

#### P700 (図219 図版222・223)

遺構 削平を受けたⅣ層面より黒色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は主にローム粒が混じるⅡ層の黒色～黒褐色土層が坑底部まで堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片4点などが出土した。

#### P701 (図219 図版222・223)

遺構 削平を受けたⅣ層面より黒色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は主にローム粒が混じるⅡ層の黒色～黒褐色土層が坑底部まで堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片3点、晩期後葉の破片1点出土している。1は縄文時代晩期後葉の副部片である。

#### P702 (図220 図版222・223)

遺構 削平を受けたⅣ層面より黄褐色土層が楕円形に落ち込む状況で検出された。覆土は主にⅣ層主体の黄褐色土層が堆積する。坑底部南西側からは土器片とつまみ付きナイフが検出された。出土遺物から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 1は黒曜石製のつまみ付きナイフである。2は東鋼路Ⅱ式相当の底部片とみられる。

#### P703 (図220)

遺構 削平を受けたⅣ層面より黒色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は主にバミスを含むⅡ層の黒色土層が坑底部まで堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P704 (図220)

遺構 削平を受けたⅣ層面より黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は上部には赤色顔料、炭化物が混じるⅡ層が堆積し、下位にはローム粒が混じる黒褐色土層が堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P705 (図220 図版223)

遺構 縄文時代中期の住居址H71を調査中に住居址を切る小判型の土坑が検出された。検出面はバミスを含む黒色土がⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層がと重なり落ち込んでい

た。覆土は上位にⅡ層が落ち込み、下位にⅢ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積し、埋め戻しの様相を呈する。坑底面直上には薄く黒褐色土層が堆積し、さらに掘られた坑底面には、掘り具の痕跡がみられた。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片5点などが出土した。

#### P706 (図220 図版224)

遺構 縄文時代中期の住居址H71を調査中に住居址と接する位置から住居を切る円形の土坑が検出された。検出面はバミスを含む黒褐色土層が落ち込み、覆土も主にバミス混じりのⅡ層が坑底面まで堆積する状況であった。また、坑底面には、掘り具の痕跡がみられた。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点が出土している。

#### P707 (図221 図版224)

遺構 削平されたⅣ層面より黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は、上部に赤色顔料や炭化物の混じる黒色土、下位にはローム粒の混じる黒褐色土が堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点が出土している。

#### P708 (図221 図版224・225)

遺構 船木川に面する斜面際の、削平を受けたⅣ層面でバミスⅢ層とⅣ層の混土である褐色土層が長円形に落ち込む状況で確認した。遺存する深さは15cmで、覆土は褐色土層が坑底面まで堆積する。坑底面の南西端からは無頭石棒が1点、坑底面を横切るように出土した。土坑の特徴から縄文時代晩期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは石棒1点のほかフレイク2点が出土した。1は石英片岩製の石棒である。形状は縄文時代中期に形状の似た製品が出土しているが、土坑の形態からみても、この石棒は晩期後葉の遺物とみいと考えられる。ある程度磨耗した形状の近い自然石に調整を加えたものとみられ、表面にはわずかに敲打や研磨の痕跡がみられる。

#### P709 (図222 図版225)

遺構 Ⅲ層下面でローム粒の混じるⅡ層が円形に落ち込むのを確認した。覆土は上部にⅡ層が落ち込み、下位にはⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が堆積する。また、覆土中位からは縄文時代中期の破片が多数出土した。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片152点、フレイク252点などが出土した。1は黒曜石製の石鏃である。2～5は萩ヶ岡2式相当の破片である。2は厚みがある口縁部片で、胎土には繊維を含む。3の突起下には垂下する嚢を貼り、胴部や口縁部の添付帯上には半截竹管による押し引きが施され

る。また、胴部には半截竹管による沈線文が施される。4は突起部の破片で、貼付帯上に半截竹管による押し引き文が施される。5はやや上げ底の底部片で、底にも縄文が施される。

#### P710 (図221 図版226)

**遺構** 削平を受けたⅣ層面より黒色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土はローム粒や炭化物を含む黒色土が堆積する。特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

#### P711 (図223 図版226)

**遺構** 縄文時代前期の住居址H66の北壁を確認していた際、壁面に住居の輪郭から少しはみ出した黒褐色土の落ち込みを確認した。検出面にはP440が重なり、覆土にはバミス混じりのⅡ層が坑底面まで堆積する。住居址との新旧関係は不明であるが、覆土の色調が類似していることから、ほぼ同じ時期の土坑とみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

#### P712 (図223 図版226)

**遺構** 縄文時代早期の住居址H67の床面から暗褐色土層が円形に落ち込む状況で検出した。覆土にはバミスを含む黒褐色土層が堆積する。状況から縄文時代早期の土坑とみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

#### P713 (図224 図版227)

**遺構** Ⅲ層上面でⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層が小判型に落ち込む状況を確認した。遺存する深さは18cmで、覆土は全般に少量のバミスを含む黒褐色土層が堆積する。坑底部北西側にはベンガラ層が厚く堆積し、ベンガラ層中からは人歯が出土した。歯の位置からみて被葬者の胸付近からは11点の玉類が出土した。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられるが、付近にある同時期の墓と比較すると、土坑の深さが極端に浅いため、盛土墓のような構造をしていた可能性もある。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片5点、後期後葉の破片18点のほか11点の玉類などが出土している。1～11はすべて緑泥石岩製の玉類である。頭位に近い順に並べたもので、これらのうち9、10は勾玉状で並んで出土した。6は白玉に装飾的な突起が2ヶ所付されたものである。

#### P714 (図224 図版227)

**遺構** 耕作路の残るⅣ層面でⅣ層主体の褐色土層がⅡ層主体の黒色土層に重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は上位に褐色土層が落ち込み、下位にⅡ層主体の黒色土層が堆積していることから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底面には薄くベンガラが敷かれ、坑底北西側から頭部の痕跡とみられる有機質な黒色土層の高まりがみ

つかり、付近から人歯も検出された。また、土坑の南東側からは足の痕跡も出土した。土坑の特徴から、縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片2点、後期後葉の破片18点などが出土している。

#### P715 (図225 図版228・229)

**遺構** 縄文時代前期の住居址H75を調査中に住居址を切る黒色土層が大きく落ち込むを確認した。平面形は方形に近く、縄文時代後期後葉の墓であるP410に切られる状況である。土層は上位に少量のバミスを含むⅡ層が落ち込み、下位にはH75の下位の土層が流れ込んで堆積する。遺構の状況からH75に近い時期の土坑と考える。

**遺物** 1は砂岩製の断面が三角形のナリ石である。2、3は頁岩製のつまみ付きナイフである。4は泥岩製の石斧で、全面敲打による調整がほどこされ、刃部はまだ付されていないことから未製品とみられる。この石斧は黒色土中から出土しており、縄文時代後期後葉の遺物とみられる。5は黒曜石製の石鏝である。6は黒曜石製のスクレイパー類である。7、8は静内中野式相当の胴部片である。

#### P716 (図223 図版228・229)

**遺構** 三ツ谷式期の墓であるP411の南西側に重なって検出した土坑である。P411の調査終了時に存在に気が付いたため、土層で前後関係を捉えることが出来なかった。しかし、P411の東隣に位置するP444にも同様に小さな墓が重なり、その前後関係も捉えられていることから、大きな墓を意識した小さな墓が、上部に追葬されたものとみられる。覆土は上位にⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層が落ち込み、下位には黒色土層が堆積する。坑底面には薄くベンガラが敷かれ、南西側から人歯とサメの歯が1点検出された。時期は三ツ谷式期に近いものとみられる。

**遺物** 1はサメ歯穿孔品とみられる。ホホジロザメの上顎の歯を利用したものである。2、3は三ツ谷式から御殿山式期に相当する破片で、2は小形の鉢の口縁部片、3は蓋または注口土器の胴部片である。

#### P717 (図226 図版229)

**遺構** Ⅳ層上面で薄い暗褐色土の落ち込みを確認した。落ち込みはかなり不明瞭なものであったが、坑底、壁が明瞭に確認できたため、土坑として記録した。時期は不明であるが、覆土の色調、検出した状態からすると、縄文時代の比較的古い段階のものともみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

#### P718 (図226 図版229)

**遺構** Ⅳ層上面において黒色土が円形に落ち込むことから確認した。土層はⅡ層主体にバミス、炭化物、赤色顔料が混じ



る黒褐色土である。坑底はⅣ層を10cm掘り込む。出土遺物から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 遺物1は黒曜石製のつまみ付きナイフである。2は中茶路式相当の胴部片である。

#### P 719 (図226 図版230・231)

遺構 Ⅳ層上面において黒褐色土が楕円形に落ち込むのを確認した。土層はすべてがローム粒、炭化物が混じる黒褐色土を基調とした、人為的な堆積である。坑底は中心がくぼんでおり、壁は急である。出土遺物から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 遺物1は黒曜石製の石鏃である。

#### P 720 (図226 図版230)

遺構 Ⅳ層上面において黒色土が楕円形に落ち込むのを確認した。土層は径にして2cm以下のバミスが混じる黒色土で人為的な堆積とみられる。坑底は平坦、壁は緩やかであるが、坑底の北東端には土坑の中心に向かった張り出しがある。遺構の特徴から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P 721 (図227 図版230・231)

遺構 Ⅳ層上面においてⅣ層主体の褐色土層が円形に落ち込むのを確認した。覆土は上位にⅣ層主体の褐色土層が堆積し、下位には炭化物が混じる黒色土層が堆積する。出土遺物から、縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 1は東側路Ⅳ式の口縁部片である。

#### P 722 (図227 図版230・231)

遺構 Ⅳ層上面において黒色土が楕円形に落ち込むのを確認した。土層はいずれも黄褐色土ブロックが混じる黒色土で、人為的な堆積とみられる。出土遺物から、縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 1は頁岩製のつまみ付きナイフである。2は東側路Ⅳ式の口縁部片である。

#### P 723 (図227 図版230)

遺構 Ⅲ層下位で黒色土が円形に落ち込むのを確認した。土層はⅡ層主体の黒色土である。坑底と壁は緩やかな曲線を呈する。遺構の特徴から、縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P 724 (図227 図版231)

遺構 Ⅳ層上面で黒褐色土が楕円形に落ち込むのを確認した。土層は黄褐色土ブロックや炭化物が混じる人為的な堆積である。坑底は概ね平坦で、遺構の特徴から、縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P 725 (図228 図版231)

遺構 Ⅳ層上面で暗褐色土が楕円形に落ち込むのを確認した。土層はバミスが混じるⅡ層が落ち込み、壁際にはバミス混じりの黒褐色土が堆積する。出土遺物から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片が16点出土している。

1は東側路Ⅳ式の口縁部片、2は中茶路式の胴部片である。

#### P 726 (図228 図版231)

遺構 縄文時代前期の住居址H75の床面で、暗褐色土が楕円形に落ち込むのを確認した。土層は主にバミスが混じるⅡ層とⅢ層の混土が堆積する。遺構の状況から住居址と同じ時期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代前期の破片が1点や礫などが出土している。1は静内中野式相当の胴部片である。

#### P 727 (欠番)

#### P 728 (図228 図版232)

遺構 Ⅳ層上面で黄褐色土ブロックが混じる黒褐色土が楕円形に落ち込むのを確認した。覆土は黄褐色土ブロックや炭化物が混じる人為的な堆積である。遺構の状況から縄文時代晩期後葉の墓である可能性が高い。

遺物 覆土からはフレイクが1点出土している。

#### P 729 (図228 図版232)

遺構 Ⅳ層上面で黒色土が小判型に落ち込むのを確認した。覆土は黄褐色土ブロックや炭化物、骨片が混じる人為的な堆積である。遺構の状況から縄文時代晩期後葉の墓と考える。

遺物 覆土からはスクレイパーが1点、フレイクが1点出土している。

#### P 730 (図229 図版232)

遺構 Ⅳ層上面で黒色土が長円形に落ち込むのを確認した。覆土には骨片、炭化物の混じる黒色土層が堆積する。遺構の状況から縄文時代晩期後葉の墓である可能性が高い。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片が3点出土している。

#### P 731 (図229 図版232)

遺構 Ⅳ層上面で黒色土が長円形に落ち込むのを確認した。覆土にはバミス混じりの黒色土層が堆積する。坑底は概ね平坦で、壁の立ち上がりは急である。遺構の状況から縄文時代後期後葉の土坑である可能性が高い。

遺物 覆土から縄文時代中期の破片4点などが出土した。

#### P 732 (欠番)

## P733 (図229 図版233)

**遺構** IV層上面で黒褐色土層が楕円形に落ち込むを確認した。土層は上位に黒色土層が堆積し、下位に炭化物、パミスが混じる暗褐色土が堆積し、人為的である。坑底はIV層を掘り込んで作られ概ね平坦である。遺構の状況から縄文時代晩期中葉の土坑である可能性が高い。

**遺物** 覆土から縄文時代後期後葉の破片6点などが出土している。1は堂林式新段階から御殿山式期に相当する深鉢胴部片である。

## P734 (図229 図版233)

**遺構** IV層上面で黒褐色土層が円形に落ち込むを確認した。土層はパミス混じりの黒色土層が堆積する。坑底はIV層を掘り込み概ね平坦である。時期は不明である。

**遺物** 遺物は出土していない。

## P735 (図230 図版233)

**遺構** IV層上面で黒褐色土層が楕円形に落ち込むを確認した。覆土は炭化物、黄褐色土ブロックなどを含むII層主体の黒褐色土で、人為的な堆積とみられる。坑底はIV層を掘り込んで作られ、凹凸が多い。壁は比較的緩やかに立ち上がる。出土遺物から、縄文時代中期の土坑とみられる。

**遺物** 1は黒曜石製の石鏃である。

## P736 (図230 図版234・235)

**遺構** IV層上面で黒色土層が楕円形に落ち込むを確認した。覆土は上位にパミスの混じるII層が堆積し、中位に炭化物、パミスが混じる暗褐色土層、下位に黒色土層が堆積する。時期は不明である。

**遺物** 1は中茶路式の胴部片である。

## P737 (図230 図版234・235)

**遺構** 縄文時代中期の土坑P671の下位から暗褐色土層が楕円形に落ち込むを確認した。土層は上位には暗褐色土が堆積し、下位にはぶい黄褐色土と黒色土が堆積する。出土遺物と遺構の前後関係から縄文時代早期の土坑とみられる。

**遺物** 1は東鋼路Ⅳ式相当の胴部片である。

## P738 (図231 図版234・235)

**遺構** IV層上面において黒色土層が楕円形に落ち込むことから確認した。覆土は上位にパミスが混じるII層が落ち込み、中位にはIV層がブロック状に堆積し、坑底部にはロームブロックを含むII層が堆積する。出土遺物から、縄文時代早期の土坑とみられる。

**遺物** 1は中茶路式相当の胴部片である。2、3は東鋼路Ⅳ式相当の破片で、2は突起のある口縁部片、3は胴下部の破片である。4は安山岩製の石皿である。

## P739 (図230 図版235)

**遺構** III層下位において黒色土層が不整形に落ち込むことから確認した。覆土はパミスが混じるII層主体の黒色土層が坑底部まで堆積し、壁部はIV層主体の黄褐色土が堆積する。坑底は概ね平坦で、壁は急激に立ち上がっている。出土遺物から、縄文時代早期の土坑とみられる。

**遺物** 1は頁岩製のつまみ付きナイフである。2は東鋼路Ⅳ式相当の胴部片である。

## P740 (図231 図版234)

**遺構** IV層上面において暗褐色土層が楕円形に落ち込むことから確認した。覆土はローム粒が混じる暗褐色土である。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

**遺物** 遺物は出土していない。

## P741 (図232 図版235)

**遺構** IV層上面において黒色土層が暗褐色土層と重なり楕円形に落ち込むことから確認した。覆土は上位にII層が少量落ち込み、中位にはロームブロックが混じる暗褐色土層が堆積し、坑底部には黒褐色土層が薄く堆積する。時期は不明であるが、付近で検出される遺構から、縄文時代前期前半のものである可能性がある。

**遺物** 遺物は出土していない。

## P742 (図232 図版236)

**遺構** IV層上面において黒褐色土層が長円形に落ち込むことから確認した。覆土は主にローム粒を含むII層とIII層の混土である。坑底面の南東壁部からは蛇紋岩製の石斧1点が出土し、北西側の坑底部中央からは、砥石が1点出土した。検出された遺物から、縄文時代早期の土坑とみられる。

**遺物** 1は砂岩製の砥石である。2は蛇紋岩製の石斧で、体部は黒色に変色した、使い込まれた石斧である。

## P743 (図232 図版236)

**遺構** 削平を受けたIV層面よりIII層とIV層の混土である暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にIV層を多く含む暗褐色土層が落ち込み、下位にII層主体の黒褐色土層が堆積することから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底部の南西側からは被葬者の頭部の痕跡、坑底中央付近には足の痕跡が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、後期後葉の破片1点が出土した。1は東鋼路Ⅲ式相当の口縁部片である。

## P744 (図233 図版236)

**遺構** 削平を受けたIV層面より黒褐色土層が不整形に落ち込む状況で検出された。覆土は少量のパミスを含む黒褐色土層

が坑底面まで堆積する。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 遺物は出土していない。

#### P 745 (図233 図版237)

遺構 削平を受けたⅣ層面よりⅢ層とⅣ層の混土である褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は上部にⅣ層主体の褐色土層が落ち込み、下にⅡ層主体の黒色土層が堆積することから、土色による埋め分けがされたものとみられる。坑底面には厚くベンガラが敷かれていたが、遺体の痕跡は見つけられなかった。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。なお、本遺構の覆土はⅡ層面から掘り込まれたものであることや、近隣に分布する同時期の土坑の遺存する深さの比較から、1号周堤墓の周堤の範囲を推測する材料とした。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片1点、前期の破片4点、中期の破片8点などが出土している。

#### P 746 (図233 図版237)

遺構 削平を受けたⅣ層面よりバミスが混じる黒色土層が楕円形に落ち込むことから確認された。覆土には全般にⅡ層主体の黒色土が堆積する。坑底は平坦で、壁の立ち上がりは急角度である。遺構の時期は不明である。

遺物 覆土からはフレイク1点が出土した。

#### P 747 (図233 図版166・237)

遺構 削平を受けたⅣ層面よりⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認された。本土坑は1号周堤墓の周堤内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは34cmで、覆土は全般に暗褐色土層の堆積で、埋め戻しの様相を呈する。坑底面は平坦で土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片6点、後期後葉の破片1点が出土した。

#### P 748 (図234 図版238)

遺構 削平を受けたⅣ層面よりバミスを含むⅡ層が褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で確認された。本土坑は1号周堤墓の周堤内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは68cmで、覆土は最上位にバミスやローム粒を含む黒褐色土層が薄く落ち込み、残りは全般にⅣ層主体の褐色土層が堆積し、埋め戻しの様相を呈する。坑底面西側からはベンガラ層が厚く堆積しているのが検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代後期後葉の破片7点が出土した。1は堂林式新段階の鉢形土器口縁部片である。

#### P 749 (図234 図版238)

遺構 削平を受けたⅣ層面において暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認された。本土坑は1号周堤墓の周堤内にほられた土坑とみられる。小判型に落ち込む状況で検出された。遺存する深さは62cmで、覆土は最上位にわずかにⅡ層が混じるが、主にⅣ層主体の褐色土層で坑底部まで埋まり、坑底面直上に、薄くベンガラ混じりの堆積していた。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点が出土した。

#### P 750 (図235 図版238・239)

遺構 削平を受けたⅣ層面より黒褐色土層が褐色土層と重なり楕円形に落ち込む状況で確認された。検出面上の黒褐色土層中には土器片のまともなものがみられた。本土坑は1号周堤墓の周堤内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは40cmで、覆土は最上位にⅡ層が混じる黒褐色土層が落ち込み、下位は主にⅣ層主体の褐色土層で埋まる。覆土上位からは注口土器1点や深鉢土器が複数出土する破片の間に漆製品の破片が検出された。出土遺物から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

遺物 1は漆製品片である。出土時点で破片に砕けた状況で、詳細は不明だが、環状漆製品であった可能性がある。色調は朱色である。2は注口土器である。底部は上げ底で、口縁部と胴部に施された沈線文の間に充墳縄文が施される。口唇は平らで突起はない。3は胴部に括れをもつ深鉢形部片である。口縁部と底部の破片はなく、胴部には羽状縄文が施される。4は最も低い位置で出土した深鉢口縁部片である。これらの土器は堂林式の新段階とみられる。

#### P 751 (図234 図版239)

遺構 削平を受けたⅣ層面において褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認された。本土坑は1号周堤墓の周堤内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは72cmで、覆土はⅣ層にわずかにⅢ層が混じる褐色土層で埋まり、坑底面には遺体の痕跡とみられる黒褐色土層が薄く堆積する。土坑の状況から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代後期前期の破片1点が出土した。

#### P 752 (図236 図版240・241)

遺構 Ⅳ層上面よりバミス混じりのⅡ層がⅡ層とⅣ層の混土である黒褐色土層と重なり不整形に落ち込む状況で検出された。覆土は上部に黒色土層、下位にⅣ層を含む黒褐色土層が堆積する。坑底面は平坦で壁の立ち上がりはゆるやかである。下位の層中から出土した遺物から縄文時代前期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代前期の破片7点、後期後葉の破片1点が出土した。1は胴内中野式相当の口縁部片である。

## P753 (図236 図版240・241)

**遺構** IV層面でローム粒の混じる黒色土層が楕円形に落ち込む状況で検出された。断面から黒褐色土層が堆積する浅い土坑を、小判型の土坑が切る状態で重なっていることが判明した。小判型の土坑は上位にローム粒の混じる黒色土層、下位にII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積する。坑底部の中央付近にはわずかに有機質な層が堆積し、その層中から勾玉状の玉1点が検出された。遺構の状況と出土遺物から、縄文時代中期の土坑を縄文時代後期後葉の墓が切っているものとみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片1点、後期後葉の破片19点が出土した。1は緑泥石岩製の勾玉状の玉で、上部に欠損がある。

## P754 (図236 図版240・241)

**遺構** 1号周堤墓内の攪乱層を掘り抜いている際に、褐色土の落ち込みを確認した。本土坑は周堤内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは42cmで、覆土は坑底面まで掘削されたIV層が堆積し、坑底面付近に黒ずんだ層が薄く堆積する。坑底面北西側からはヒスイ製の小玉が4点検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは玉類以外の遺物は出土しなかった。1～4はヒスイ製の玉である。径は6～8.8mmで小さい玉が多く、すべて片側穿孔である。

## P755 (図237 図版241)

**遺構** 削平を受けたIV層面において暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。本土坑は直線状に6基並ぶ墓の東側に位置し、覆土は掘削されたIII層とIV層の混土が堆積する。遺構の状況から縄文時代早期の土坑とみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

## P756 (図237 図版241)

**遺構** 削平を受けたIV層面よりIII層とIV層の混土である褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。本土坑は2号周堤墓の周堤内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは70cmで、覆土は坑底部よりやや上部に黒色土層が薄く堆積するほかは、III層とIV層の混土である褐色土層で埋まる。坑底面の西側からは被葬者の頭部の痕跡と見られる有機質な高まりが検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、中期の破片1点などが出土している。

## P757 (図237 図版242)

**遺構** 削平を受けたIV層面において、黒褐色土層がおおむね円形に落ち込む状況で確認した。覆土は上位にIII層とIV層の混土である黒褐色土層が、下位にはIII層がやや多く混じる土

層が堆積する。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期中期の破片などが出土した。

## P758 (図237 図版242)

**遺構** 1号周堤墓内の攪乱層を掘り抜いている際に、褐色土の落ち込みを確認した。本土坑は周堤内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは51cmで、覆土は坑底面まで掘削されたIV層が堆積する。また、同じ周堤墓内の土坑P751と接するほど近くに位置する。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期中期の破片1点が出土した。

## P759 (図238 図版242・243)

**遺構** 削平を受けたIV層面より、IV層の褐色土がIII層とIV層の混土である褐色土層と重なり、小判型に落ち込む状況で検出された。本土坑は2号周堤墓の周堤内にほられた土坑とみられる。遺存する深さは47cmで、覆土は上部にIV層の落ち込みが堆積し、そのほかの覆土は、III層とIV層の混土である暗褐色土層で坑底面まで埋まる。坑底面の中央付近からは副葬品とみられる石斧が刃部を頸位側に向けて出土。また、坑底面西側からは、被葬者の頭部の痕跡と見られる有機質な高まりと人歯が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

**遺物** 土坑からは副葬品とみられる石斧1点が出土した。1は泥岩製の石斧で、縁辺には敲打による調整痕がみられ、最後に刃部を付している。

## P760 (図239 図版243)

**遺構** 柏木川に面する斜面際の、削平を受けたIV層面でもバミス混じりの黒色土が不整形に落ち込む状況で確認した。覆土は上位にバミス混じりのIII層が落ち込み、下位にはIII層とIV層の混土が堆積する。坑底面は平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。出土遺物から縄文時代前期の土坑とみられる。遺物 覆土からは縄文時代前期の破片36点などが出土した。1～4は縄文時代前期前半の静内中野型に相当する破片である。1は内外面に縄文が施される。4の口縁部片には補修孔が空けられた痕跡がみられる。いずれの破片も胎土に繊維を含む。

## P761 (図238 図版243)

**遺構** III層面において、ローム粒を含むII層が黒褐色土層に重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にローム粒やIV層ブロックを含む黒褐色土層が、下位にはII層とIII層がやや多く混じる土層が堆積する。IV層起源の褐色土層は覆土の上位に堆積していることから、土色による埋め分けがなされている可能性がある。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代後期後葉の破片2点などが出土した。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P762 (図239 図版244)

遺構 N層上面において、バミスを含む黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にバミスを含むⅢ層とⅣ層の混土が堆積し、下位にはローム粒ブロックが混じる黒色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代後期後葉以降の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代前期の破片1点、後期後葉の破片1点が出土した。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。

#### P763 (図239 図版244)

遺構 N層上面において、黒褐色土層が円形に落ち込む状況で検出された。覆土はローム粒を含むⅡ層とⅢ層の混土が坑底面まで堆積する。出土遺物から縄文時代後期後葉以降の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片4点、後期後葉の破片4点が出土した。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する鉢形土器の口縁部片である。

#### P764 (図240 図版244)

遺構 耕作跡の残るN層下面で黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土はバミスを含むⅡ層とⅢ層の混土で、ローム粒を含むⅡ層とⅢ層の混土が坑底面まで堆積する。周辺の遺構との特徴の比較から縄文時代後期後葉以降の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片4点、前期の破片4点などが出土した。

#### P765 (図240 図版245)

遺構 N層上面において、黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で検出された。覆土はバミスを含むⅡ層とⅢ層の混土が坑底面まで堆積する。周辺の遺構との特徴の比較から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは石斧未成品1点が出土した。

#### P766 (図240 図版245)

遺構 N層下面で黒色土層が黒褐色土層と重なり小判型に落ち込む状況で検出された。覆土は上位にバミスを含むⅡ層が落ち込み、下位にはⅡ層とⅢ層の混土が堆積する。周辺の遺構との比較から縄文時代後期後葉の土坑と考える。

遺物 遺物は出土していない。

#### P767 (図240 図版245)

遺構 削平を受けたN層上面において暗褐色土層の円形の落ち

込みが、直線状に6基並ぶ墓の南端に位置する。縄文時代後期後葉の墓P581に切られる状況で検出した。覆土は掘削されたⅢ層とⅣ層の混土が坑底面まで堆積する。周辺の遺構との比較から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P768 (図241 図版246)

遺構 削平を受けたN層上面において、暗褐色土層の円形の落ち込みが、直線状に6基並ぶ墓の中央に位置する。縄文時代後期後葉の墓P582とP583に南北方向を切られる状況で検出した。覆土は掘削されたⅢ層とⅣ層の混土が坑底面まで堆積する。周辺の遺構との特徴の比較から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 遺物は出土していない。

#### P769 (図241 図版246)

遺構 削平を受けたN層上面において、暗褐色土層が楕円形に落ち込むことから確認した。本土坑は直線状に6基並ぶ墓の西側に位置する。覆土は掘削されたⅢ層とⅣ層の混土が坑底面まで堆積する。周辺の遺構との特徴の比較から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 覆土からはフレイク1点が出土した。

#### P770 (図241 図版246・247)

遺構 Ⅲ層下面において、黒色土層が円形に落ち込むことから確認した。土層は上位にⅡ層が落ち込み、下位にローム粒の混じるⅢ層が堆積する円形の土坑が、バミス混じりの黒褐色土層で埋まる小土坑を切る状況であった。坑底面からは炭化物が出土した。遺構の特徴から縄文時代中期の土坑が早期の小土坑を切っているものとみられる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片3点などが出土した。1は東園路Ⅱ式相当の胴下部片である。

#### P771 (図241 図版247)

遺構 耕作跡の残るⅢ層下面において、黒褐色土層が落ち込むことから確認した。本土坑は試掘穴とみられる長方形の穴に切られ、推定円形とみられる平面の半分は失われていた。土層は全般にⅢ層とⅣ層が混じる黒褐色土層が坑底まで堆積する。出土遺物から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片9点、後期前葉の破片1点、後期後葉の破片2点などが出土した。1は余市式相当の胴部片である。

#### P772 (図242 図版247)

遺構 耕作跡の残るⅢ層下面において、黒褐色土層が小判型に落ち込むことから確認した。本土坑は試掘穴とみられる長方形の穴に切られ、P771との前後関係も不明である。覆土は全般にロームブロックを含むⅡ層とⅢ層とが混じる黒褐色

土層が坑底まで堆積する。坑底面の南西側からは被葬者の頭部の痕跡とみられる、有機質な黒色土層がみられ、付近から人歯の痕跡もみつかつた。また、調査中は意識していなかったが、覆土から出土した土器片には、壺または注口土器の同一個体片含まれ、復元に至った。おそらく覆土上位に副葬されたものとみられる。出土遺物から本土坑は縄文時代後期後葉の三ツ谷式期の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、中期の破片16点、後期前葉の破片58点などが出土した。1は三ツ谷式期の壺または注口土器で、器面全面にベンガラが塗られた痕跡がのこる。大きいほうの底径は40mmで、底径18mmの小さな底と二重の構造に加工される。胴部の張り出しと頸部に沈線による文様が施され、縄文が充填される。また頸部には5ヶ所の円い付けが施されとみられる。2～4は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する破片で、2は鉢形土器の口縁部片、3は深鉢形部片、4は鉢形時底部片である。

#### P773 (図242 図版248)

**遺構** 縄文時代後期後葉の墓P414の壁面に断面が現れ確認した土坑である。Ⅲ層下位において、黒褐色土層が円形に落ち込む土坑で、縄文時代後期後葉の墓P414とP775に南北方向を切られる状況で検出した。覆土はバミスを含む黒褐色土層が堆積する。状況から縄文時代前期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片3点が出土した。

#### P774 (図243 図版248・249)

**遺構** Ⅲ層下位において、ローム粒を含む黒色土層が小判型に落ち込むことから確認した。土層は全般にローム粒を含むⅡ層主体の黒色土層で埋まる。坑底面からは遺体の痕跡など発見出来なかったが、遺構の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片1点、中期の破片13点、後期後葉の破片40点などが出土した。1は堂林式新段階から三ツ谷式期の深鉢形部片で羽状縄文が施される。

#### P775 (図243 図版248・249)

**遺構** Ⅲ層下位において、バミスを含む黒色土層が小判型に落ち込むことから確認した。土層はバミスを含むⅡ層主体の黒色土層で埋まる。坑底面は平坦で立ち上がりは急である。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片6点などが出土した。1は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する鉢形土器の口縁部片である。

#### P776 (図243 図版248・249)

**遺構** Ⅲ層下位において、バミスを含む黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。土層は主にバミスを含むⅡ層主体の黒色土層で埋まる。覆土からは土器片が多く出土した。

遺構の特徴から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片3点、中期の破片5点、後期後葉の破片64点などが出土した。1～4は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する破片である。1～3は深鉢口縁部片で、4は壺または注口土器の胴部片である。

#### P777 (図244 図版249)

**遺構** Ⅱ層下位において、縄文時代後期後葉の墓であるP449の断面をトレンチ状に調査している際に、同時に発見された土坑がP777とP782である。付近は擾乱を激しく受け、P449以外の土坑が見えない状況であった。断面から、P777はP449とP782の両方に切られていることがわかった。わずかに残った断面から、覆土はバミスⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層が坑底付近まで堆積していたものと推測できる。坑底面の南東側からは櫛が1点出土した。頸位もこの付近であったと考えられる。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片9点、後期前葉の破片2点、後期中葉の破片1点、後期後葉の破片59点などが出土した。1は透かしのある櫛である。木の根による穴が空いており、詳細は不明であるが、四隅に三角形、中央にはおそらく工字状の透かしを空け、そのままに「( )」形が上下に分かれたような透かしが施されたいものとみられる。色調は朱色で、体部の下位には2ヶ所の瘤が造られる。2は三ツ谷式期に相当する深鉢口縁部片である。3は手桶式に相当する胴部片である。

#### P778 (図244 図版250)

**遺構** 耕作痕の残るⅣ層上面において、バミスを含む黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。土層は主にバミスを含むⅡ層主体の黒褐色土層で埋まる。出土遺物から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代中期の破片3点、後期後葉の破片3点などが出土した。

#### P779 (図245 図版250)

**遺構** 耕作痕の残るⅣ層上面において、バミスを含む黒褐色土層が黒褐色土層と重なり長円形に落ち込むことから確認した。土層は上位にバミスを含むⅡ層主体が落ち込み、下位にⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層が堆積する。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

**遺物** 遺物は出土していない。

#### P780 (図245 図版250・251)

**遺構** 耕作痕の残るⅣ層上面において、バミスを含む黒褐色土層が楕円形に落ち込むことから確認した。土層はバミスを含むⅡ層とⅢ層の混土である。坑底面にはやち起があり、

北東側からつまみ付きナイフが1点出土した。出土遺物から縄文時代前期の土坑とみられる。

遺物 1は頁岩製のつまみ付きナイフである。

#### P781 (図246・247 図版251・252)

遺構 耕作痕の残るⅣ層上面において、バミスを含む黒褐色土層が長円形に落ち込むことから確認した。覆土は主にバミスを含むⅡ層主体の黒褐色土層で、上位は黒色土、下位は黒褐色土で埋まる。坑底面にはベンガラが散布され、坑底部北西側からは髷が2点と玉類11点、サメの歯19点がまわって出土した。これらの遺物が集中出土しているまわりは、やや有機質な層が堆積し、人歯の痕跡もみとめられたことから、被葬者の頭部周辺だったとみられる。土坑の特徴から縄文時代後葉の墓とみられる。

遺物 1、2は透しのない髷である。突起部は弧線状に加工され、1は体部の上部に1ヵ所、下部に2ヵ所の瘤が付される。2は体部の上部に1ヵ所の瘤が付される。いずれも破損して出土したため詳細は不明である。色調は朱色である。3～20はサメ歯穿孔品とみられる。19点出土したもののうち1点は破損のため未実測である。すべて全長2m前後のホホジロザメの下顎歯を利用したものである。21～31は玉類ですべて緑泥石岩製である。21は玉類のまわりから離れて出土した。ネズミの齧り痕がみられる。本道構付近はⅣ層上面まで削平されており、ネズミが墓道内に入来したのも上部が削平された以降とみられる。同様にネズミの齧り痕のある玉類が出土した墓にはP432、P503、P570の3墓があるが、いずれも上部が削平されるか、道と重なり墓の上部が露出していた環境にある。27はもともと大きな垂飾で、縦長の体部には深い刻みが施される。そのほかの玉類には扁平な葉玉状のもの22、29、や菓玉状のもの23、25、丸玉状のもの24、26、28、30などがある。本土坑出土の玉類には側面の最大径部分に後線を造り出すものも目立つ。

#### P782 (図245 図版252)

遺構 Ⅱ層下位において、縄文時代後期後葉の墓であるP449の断面をトレンチ状に調査している際に、同時に発見された土坑である。付近は擾乱を激しく受け、P449以外の土坑が見えない状況であった。断面から、P782は縄文時代後期後葉の墓P777を切ることがわかった。土坑は柱穴状で坑底面は平坦で直径約40cmの円形に掘られ、深さは1mを超える。覆土は上部にⅡ層とⅣ層の混土である黒色土が堆積し、坑底部にⅡ層のみの黒色土が堆積する。出土遺物から縄文時代後期後葉の単独の柱穴とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代前期の破片2点、中期の破片13点、後期後葉の破片24点などが出土した。1、2は三ツ谷式から御殿山式期相当の深鉢片で、1は胴部、2は上げ底の底部片である。

#### P783 (図247 図版252)

遺構 耕作痕の残るⅣ層上面において、黒色土層が黒褐色土層と重なり円形に落ち込むのを確認した。土層はバミスを含むⅡ層が上位に堆積し下位にはⅡ層とⅢ層の混土が堆積する。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

遺物 1は黒曜石製の石織である。

#### P784 (図247 図版253)

遺構 Ⅱ層面においてバミス混じりの黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。本土坑は縄文時代後期中葉の土坑P520を切る。覆土はバミスを含むⅡ層層とⅢ層の混土が堆積する。坑底面はⅢ層上面で平坦である。出土遺物から縄文時代後期中葉以降の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片2点、中期の破片2点、後期後葉の破片1点などが出土した。1は東側路Ⅳ式相当の破片である。

#### P785 (図248 図版253)

遺構 柏木川に面する斜面際のⅢ層面でバミス混じりの黒褐色土層が円形に落ち込む状況で確認した。覆土は上部にバミスを含むⅡ層、坑底面にはⅡ層とⅢ層の混土である暗褐色土層が堆積する。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代後期中葉の破片2点、後期後葉の破片1点などが出土した。

#### P786 (図248 図版253)

遺構 柏木川に面する斜面際のⅡ層下でバミス混じりの黒褐色土層が円形に落ち込む状況で確認した。覆土はバミスを含むⅡ層が坑底まで堆積する。遺構の特徴から縄文時代後期後葉の土坑と考える。

遺物 覆土から縄文時代後期中葉の破片などが出土した。

#### P787 (図249 図版254・255)

遺構 耕作痕の残るⅣ層上面において、バミスを含む黒色土層が長円形に落ち込む状況で確認した。覆土は全般的にⅡ層の黒色土層が堆積する。坑底面の西側からは玉類57点が連なった状況で出土した。被葬者の頭部も付近にあったようで、遺構の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは玉類57点のほか縄文時代後期後葉の破片5点のどが出土した。1～57には玉類である。石材は13、38、42がタルク製で、それ以外は緑泥石岩製である。1、2は扁平な菓玉状であり、連珠とは離れた位置で出土した。首飾りとは別な装飾なのかもしれない。勾玉状の玉は9、12であるが、破損しているが10も勾玉状であったとみられる。表面には先刺がみられる。そのほかは白玉状、丸玉状の玉が多い。

## P788 (図248 図版255)

**遺構** 削平を受けたIV層面において、暗褐色土層が長円形に落ち込むことから確認した。覆土はローム粒を含むⅢ層が堆積し、坑底面は平坦に掘られる。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

**遺物** 遺物は出土していない。

## P789 (図248 図版254)

**遺構** 削平を受けたIV層面のQ-33の杖の位置において、黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土はおもにバミスを含むⅡ層とⅢ層の混土が堆積する。出土遺物から縄文時代後期後葉以降の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片2点、前期の破片2点、後期中葉の破片9点などが出土している。1は堂林式から三ツ谷式期の深鉢口縁部片である。

## P790 (図250 図版256)

**遺構** 耕作痕の残るIV層面において、黒色土層が暗褐色土層と重なり円形に落ち込むことから確認した。覆土は上位にバミスを含むⅡ層が堆積し、下位はⅡ層とⅢ層の混土が堆積する。縄文時代の遺構とみられるが、決め手となる遺物が出土しなかった。出土遺物から縄文時代後期後葉以降の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、中期の破片1点、後期中葉の破片12点などが出土している。

## P791 (図250 図版256)

**遺構** 柏木川に面する斜面際のⅢ層面でローム粒混じりの黒褐色土層が楕円形に落ち込む状況で確認した。覆土はローム粒を含むⅡ層とⅢ層の混土が堆積する。坑底面はやや傾斜する。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期中葉の破片2点などが出土している。

## P792 (図250 図版256)

**遺構** 柏木川に面する斜面際のⅢ層面でローム粒混じりの暗褐色土層が円形に落ち込む状況で確認した。覆土はローム粒を含むⅡ層とⅢ層の混土が堆積する。遺構の特徴から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

## P793 (図251 図版257)

**遺構** Ⅲ層面で、黒褐色土層で落ち込むP444とP793の2基の土坑がL字状に重なって検出された。P444の長軸で断面を設定し、観察したところ、土坑の上部で本土坑がP444を切っているのがわかった。また、この時点でP793の一部が失われた。覆土は上位にⅡ層・Ⅳ層の混じる黒褐色土層が堆積し、下位にバミスを含むⅡ層が堆積する。坑底部南西側から

は人歯の痕跡とサメの歯6点が検出された。土坑の特徴から縄文時代後期後葉の墓とみられ、さらに、隣の墓P411とP716の重複と同様に本土坑はP444上に追葬されたものとみられる。

**遺物** 1～6はサメ歯穿孔孔とみられる。すべてホホジロゾメの上顎骨を利用したもの。なかでも最大の4は全長2.5m前後の個体の上顎歯左4～6番目を利用したとみられる。

## P794 (図250 図版254)

**遺構** Ⅲ層上面で、ローム粒を含む黒色土層が黒褐色土層と重なり円形に落ち込む状況で確認した。覆土は上位にローム粒を含むⅡ層が落ち込み、下位にⅡ層とⅢ層の混土が堆積する。坑底面は平坦である。出土遺物から縄文時代中期の土坑とみられる。

**遺物** 1は黒曜石製の石鏝である。2は天神山式相当の深鉢の突起片である。

## P795 (図251 図版255)

**遺構** Ⅲ層上面で、黒色土層が円形に落ち込む状況で確認した。覆土は上位にローム粒を含むⅡ層、下位にⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代前期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片1点、前期の破片5点が出土している。

## P796 (図252 図版255)

**遺構** 削平を受けたIV層面において暗褐色土層の長円形の落ち込みが、縄文時代後期後葉の墓P533に切られる状況で検出された。覆土はバミスを含む黒褐色土層が堆積し、坑底面は平坦である。縄文時代後期後葉以前の土坑であるが、具体的な時期を示す遺物は出土していない。

**遺物** 遺物は出土していない。

## P797 (図252 図版255)

**遺構** Ⅲ層上面で、バミスを含む黒色土層が小柄型に円形に落ち込む状況で確認した。土坑の一部はⅡ層下位から残る。覆土は上位にⅡ層が堆積し、下位にはⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層が堆積する。埋め戻しの様相を呈する。土坑の状況から、縄文時代晩期前葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片2点が出土している。1は御殿山式期相当の壺または注口土器の底部の貼り付けが剥離したものである。

## P798 (図252 図版256)

**遺構** 耕作痕の残るIV層面において、Ⅱ層とⅣ層の混じる黒褐色土層が長円形に落ち込むことから確認した。覆土にはバミスを含む黒褐色土層が平坦な坑底面まで堆積する。土坑の状況から縄文時代後期後葉の墓とみられる。



**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片7点などが出土している。1は三ツ谷式から御殿山式期に相当する甕または注口土器の頸部片で、貼り瘤は横に貫通穴が空けられる。

#### P799 (図252 図版256・257)

**遺構** 耕作痕の残るⅣ層上面において、検出面は全体に攪乱を受けるが、覆土にベンガラを含む黒褐色土層が小判型に落ち込むことから確認した。土坑は浅く、覆土にはバミス、ベンガラ、炭化物を含むⅡ層が堆積する。坑底面の西側と中央付近にはベンガラ層がブロック状に堆積するのみみられたがその間は攪乱層が底面まで達していた。また、攪乱を受けていない坑底部中央付近からはコハク玉2点が検出された。攪乱層中からはコハク玉2点とコハク玉の破片20点、サメの歯が出土した。土坑の状況から縄文時代後期後葉の墓とみられる。本土坑はP412とP439の間に位置し、深さ70cmの差があることから盛土墓であった可能性もある。

**遺物** 1はサメ歯穿孔品とみられる。ホネジロサメ上顎の歯を利用したものである。2～5はコハク玉である。このうち坑底面で検出されたものが2の破損した勾玉状の玉と白玉状の3で、4と5は攪乱層中から出土したものである。これ以外にも複数のコハク玉片が出土しており、その中には甕玉状の玉なども含まれているとみられる。

#### P800 (図253 図版256)

**遺構** 耕作痕の残るⅣ層上面において、バミスを含む黒褐色土層が小判型に落ち込むことから確認した。覆土は全般にバミスやローム粒を含む黒褐色土層が坑底面まで堆積する。坑底面は平坦で、遺構の状況から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片6点、中期の破片3点、後期後葉の破片12点などが出土している。1はアルトリ式相当の胴部片である。2は東銅路Ⅳ式相当の口縁部片、3は堂林式新段階から三ツ谷式期に相当する底部片である。

#### P801 (図253 図版256)

**遺構** 縄文時代晩期前葉の墓であるP432調査後の東側壁面から断面が現れ確認した。覆土は上位にローム粒を含む黒色土層が堆積し、中位にⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が、下位には黒褐色土層が堆積する。坑底面は平坦で、中央付近からやや大型の礫が1点検出された。遺構の状況と出土遺物から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代早期の破片2点、前期の破片17点、中期の破片2点、後期後葉の破片4点などが出土した。

#### P802 (図253 図版257)

**遺構** 削平を受けたⅣ層上面において推文土器の口縁部片や炭化物を含む灰と黒色土の混土層が直径35cm前後の円形に落ち込むことから確認した。覆土には黄褐色や褐色を呈する灰

層に推文土器が混じる状況であった。土坑の状況から完全に削平された推文時代の堅住居址の煙道の堅穴の底のみが残ったものとみられる。

**遺物** 1は9世紀前半期ほどの推文土器の口縁部片で、口縁部には横走沈線が施される。2は同時期の胴部片で、外面は縦方向、内面は横方向にハケメの調整痕が付く。

#### P803 (図254 図版257)

**遺構** 縄文時代後期末葉の墓であるP441の調査後に北側壁面から断面が現れ確認した。覆土は黒色土層と暗褐色土層が互層に堆積する。平面は楕円形とみられ、坑底面は平坦である。遺構の状況から縄文時代前期の土坑とみられる。

**遺物** 遺物は出土していない。

#### P804 (図254 図版257)

**遺構** 縄文時代後期末葉の墓であるP434の調査後に南壁面から断面が現れ確認した。覆土は上位にローム粒を含む黒色土層が、中位にⅢ層とⅣ層の混土である暗褐色土層が、下位には黒褐色土層が堆積する。遺構の状況から縄文時代早期の土坑とみられる。

**遺物** 1は黒曜石製の石鏃である。2は東銅路Ⅳ式相当の胴部片である。

#### P805 (図254 図版258)

**遺構** 縄文時代晩期前葉の墓であるP506の調査後に北側壁面から断面が現れ確認した。覆土は全般にローム粒とバミスを含むⅡ層とⅢ層の混土である黒褐色土層が堆積する。平面は楕円形とみられ、坑底面は平坦である。遺構の状況から縄文時代前期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは礫が1点出土した。

#### P806 (図255 図版259)

**遺構** 耕作痕の残るⅣ層上面において、黒色土やバミスを含む黒褐色土層が入り乱れ円形に落ち込むことから確認した。覆土は上位にバミス混じりの黒褐色土層、下位にⅢ層とⅣ層の混土である褐色土層が堆積したものに、後天的に根穴とみられる1の層が入り込んだものとみられる。坑底面は平坦で、坑底部北側からはヒスイ製の玉盃2点が出土し、坑底部中央付近からは、石斧が1点出土した。土坑の状況と出土遺物から、縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1はヒスイ製の勾玉状の玉、2は垂珠状で、穿孔は主に片側から空けられ、最後に反対側から調整が加わっている。2の穿孔面とは反対側の穴の周りには敲打痕が残り、側面から穿孔部にかけて緩やかな窪みを施す。3は泥岩製の石斧である。体部にはわずかに敲打による調整痕が残るが、全面を研磨した石斧である。後期後葉のほかの石斧とはやや異なる特徴である。

## P807 (図254 図版258)

**遺構** 耕作痕の残るIV層面において、バミス混じりの黒色土層が楕円形に落ち込むことから確認した。覆土はバミスを含むII層とIII層の混土である。遺構の状況から縄文時代前期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは楔形石器3点が出土した。

## P808 (図256 図版258・260)

**遺構** 耕作痕の残るIV層面において、バミス混じりの黒色土層が長円形に落ち込みIII層とIV層の混土が落ち込むP819を切る状況で確認した。出土遺物から縄文時代後期後葉以降の土坑とみられるが、性格は不明である。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片15点などが出た。1、2は堂林式新段階から三ツ谷式相当の深鉢口縁部片である。

## P809 (図256 図版260)

**遺構** 耕作痕の残るIII層面において、バミス混じりのII層が長円形に落ち込む状況で確認した。覆土は坑底面まで黒色土層が堆積し、坑底面は平坦である。坑底部西側からは透かしのない備1点が発出された。出土遺物から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 1は透かしのない備である。突起部は破損すが弧線状に加工され、体部の上部に1ヶ所、下部に2ヶ所の瘤が付される。破損して出土したため詳細は不明であるが、幅は83mmで色調は朱色である。2は堂林式新段階から三ツ谷式相当の深鉢口縁部片である。

## P810 (図256 図版260)

**遺構** 縄文時代後期後葉の墓であるP474の調査後に南壁面から断面が現れ確認した。覆土は主にII層とIII層の混土である黒褐色土層が堆積する。平面は小判型とみられ、坑底面は平皿である。遺構の状況から縄文時代前期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からはフリク1点が出土した。

## P811 (図257 図版261)

**遺構** 削平を受けたIV層面においてバミス混じりの黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は主にバミスの混じるII層が堆積する。本土坑はP761と接する。出土遺物から縄文時代後期後葉以降の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代後期後葉の破片1点が出土した。

## P812 (図257 図版261)

**遺構** 縄文時代中期の住居址H60に切られ、半分が失われている。覆土は上位にIII層とIV層の混土である暗褐色土層が、下位にはバミス混りのII層が堆積する。平面は小判型だったとみられ、坑底面は平坦である。遺構の状況から縄文時代前期の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からはフリク1点が出土した。

## P813 (図257 図版261)

**遺構** 耕作痕の残るIV層面において、バミス混じりの黒褐色土層が楕円形に落ち込む状況で確認した。覆土は全般にII層とIV層の混土が堆積するが、比較的上位にIV層が多く混じり、下位はII層が多く混じるようである。遺構の状況から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片2点、前期の破片1点、中期の破片13点などが出た。

## P814 (図257 図版262・263)

**遺構** 耕作痕の残るIV層面において、バミス混じりの黒褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。覆土は全般にローム粒やバミスを含む、II層とIII層の混土が堆積するが、比較的上位にIV層が多く混じり、下位はII層が多く混じる。遺構の状況から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片3点、前期の破片2点、中期の破片5点などが出た。1は東洞路V式相当の口縁部片。2は萩ヶ岡2式相当の口縁部片である。

## P815 (図258 図版262・263)

**遺構** 耕作痕の残るIV層面において、IV層の暗褐色土層が小判型に落ち込む状況で確認した。覆土は上位にバミスが混じる黒褐色土層が堆積し、下位にはIII層とIV層の混土が堆積する。坑底部西側から人頭と玉類7点が発出された。遺構の状況から縄文時代後期後葉の墓とみられる。

**遺物** 覆土からは玉類7点が出た。1～3は管玉状の玉である。石材は緑泥石岩製で、両端から穿孔した環玉状の玉などの表面を磨いて管玉状までに加工したものである。本遺跡で、管玉状の玉に分類されたものはこの3点のみである。残りの石材は、3が緑色凝灰岩製、4、5がヒスイ製、6が緑泥石岩製である。ヒスイ製の玉は片側穿孔である。

## P816 (図258 図版262)

**遺構** 縄文時代後期後葉の墓であるP463の北東壁に断面の一部が現れ、確認したものである。覆土は上位III層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積し、下位にはII層とIII層の混土である黒褐色土層が堆積する。平面は小判型だったとみられ、坑底面は丸みがある。遺構の状況と出土遺物から縄文時代後期後葉の土坑とみられる。

**遺物** 覆土からは縄文時代前期の破片12点、後期後葉の破片1点などが出た。

## P817 (図259 図版263)

**遺構** 縄文時代晩期前葉の墓であるP428の北壁に断面の一部が現れ、確認したものである。主にII層とIII層の混土である黒色土層が覆土は上位堆積し、下位には褐色土層が薄く堆

積する。平面は円形で、坑底面は平坦である。縄文時代の遺構とみられるが、決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 1は唯一の出土遺物である。黒曜石製のつまみ付きナイフである。

#### P 818 (図259 図版263)

遺構 IV層上面において、バミスの混じるII層が円形に落ち込むことから確認した。本土坑は、縄文時代後期後葉の墓であるP412に切られる。覆土は上位にバミスを含む、黒色土層、下位にはII層とIII層の混土である黒褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片などが出土した。1は黒曜石製の石錐、2は東銅器IV式相当の口縁部片である。

#### P 819 (図259 図版263)

遺構 耕作痕の残るIV層上面において、縄文時代後期後葉以降の土坑であるP808に切られる状況で、III層とIV層の混土が円形に落ち込むのを確認した。覆土はII層とIV層が混じる黒褐色土層が堆積し、坑底面は丸みがある。縄文時代後期後葉以前の土坑とみられるが、詳細は不明である。

遺物 遺物は出土していない。

#### P 820 (図259 図版263)

遺構 IV層上面において、バミスの混じる黒褐色土層が楕円形に落ち込むことから確認した。覆土は全般にバミスを含むII層の堆積で、下位には薄く褐色土層が堆積する。自然の落込みである可能性のある土坑である。

遺物 遺物は出土していない。

#### P 821 (図260 図版264)

遺構 III層下面において、バミスの混じる黒色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は上位にバミスを含むII層が堆積し、下位にはIII層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積する。坑底面は平坦であるが、自然の落込の可能性がある土坑である。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点、後期後葉の破片1点が出土した。

#### P 822 (図260 図版264)

遺構 III層下面において、バミスの混じる黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は全般にバミスを含むII層とIII層の混土である黒褐色土層が堆積する。坑底面は丸く、自然の落込の可能性がある土坑である。

遺物 遺物は出土していない。

#### P 823 (図260 図版264)

遺構 III層下面において、バミスの混じる黒色土層が不整形に落ち込むことから確認した。覆土は上位にバミスを含むII

層、下位にIII層とIV層の混土である暗褐色土層が堆積する。自然の落込の可能性がある土坑である。

遺物 遺物は出土していない。

#### P 824 (図260 図版264)

遺構 III層下面において、バミスの混じる黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は全般にII層とIII層との混土である黒褐色土層が堆積し、根穴と見られる黒色土層が重なる。自然の落込の可能性がある土坑である。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点、後期後葉の破片4点が出土した。

#### P 825 (図261 図版264・265)

遺構 III層下面において、バミスの混じる黒色土層が円形に落ち込むことから確認した。検出面からは、すり石が1点出土した。覆土は全般にII層の黒褐色土層が堆積し、坑底面は平坦である。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 覆土からはすり石1点が出土した。1は唯一の遺物である安山岩製のすり石である。

#### P 826 (図261 図版264)

遺構 削平を受けたIV層下面において、バミスの混じる黒褐色土層が楕円形に落ち込むことから確認した。覆土は全般にII層とIII層の混土である黒褐色土層が堆積する。縄文時代の遺構とみられるが、決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 覆土からはフレイク1点が出土した。

#### P 827 (図261 図版264・265)

遺構 削平を受けたIV層下面において、ロームブロックの混じる黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は全般にII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積する。出土遺物から縄文時代の早期の土坑とした。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片1点が出土した。1は中茶路式相当の胴部片である。

#### P 828 (図261 図版265)

遺構 削平を受けたIV層下面において、ロームブロックの混じる黒褐色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は全般にII層とIV層の混土である黒褐色土層が堆積する。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 遺物は出土していない。

#### P 829 (図262 図版265)

遺構 耕作痕の残るIV層上面において、ローム粒の混じる黒色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は全般にII層とIII層の混土である黒色土層が堆積する。縄文時代の遺構と

みられるが、決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 遺物は出土していない。

#### P830 (図262 図版265)

遺構 IV層面において、ローム粒の混じる黒色土層が円形に落ち込むことから確認した。一部切り損じ、断面の上部が失われるが、覆土は全般にII層とIV層の混土である黒色土層が堆積していた。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 遺物は出土していない。

#### P831 (図262 図版266)

遺構 柏木川に面する斜面際のIV層面でバミス混じりの黒褐色土層と掘り返されたIV層がほぼ円形に落ち込む状況で確認した。覆土はローム粒を含むII層とIV層ブロックがスジ状に堆積し、埋め戻しの様相を呈する。遺構の状況から縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片1点、前期の破片1点などが出土した。

#### P832 (図262 図版265)

遺構 IV層面において、バミスの混じる黒褐色土層が楕円形に落ち込むことから確認した。覆土は全般にバミス混じりのII層が堆積する。坑底面は平坦で壁の立ち上がりは急である。出土遺物から縄文時代早期の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代早期の破片7点が出土した。

#### P833 (図263 図版265)

遺構 削平を受けたIV層面において、ローム粒の混じる黒色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は全般にIV層混じりのII層が堆積する。坑底面は平坦で壁は緩やかに立ち上がる。縄文時代の遺構とみられるが、時期の決め手となる遺物が出土しなかった。

遺物 遺物は出土していない。

#### P834 (図263 図版266)

遺構 削平を受けたIV層面において、バミスの混じる黒色土層が不整形に落ち込むことから確認した。覆土はバミスやローム粒を含むII層が上位に落ち込み、下位にはIII層とIV層が混じる暗褐色土層が堆積する。坑底面はやや起伏がみられ、壁は緩やかに立ち上がる。坑底面北側からはアルトリ式期の底部片が底を上向きに出土した。遺構の状況から周墳墓を造る際に削平された、縄文時代早期の住居跡の痕跡とみられる。なお、20mほど南の柏木川に面する斜面下からは、同時期の遺物や土砂を運った土器、石器の集中が見つかっている(北理調報248参照)。

遺物 覆土からは縄文時代早期のアルトリ式相当の破片13点が出土した。1は床面出土の底部片で器面には貝殻炭痕文に

よる調整が施される。2は口縁部片である。口縁部には1本の貼付帯が施され、口唇部外側と貼付帯上には貝殻炭痕文による刻みが施される。なお、1と2は別個体と見られる。

#### P835 (図263 図版267)

遺構 削平を受けたIV層面で、深い掘削の穴を掘りぬいている際に、壁面にIV層の落ち込みで検出された土坑である。本土坑は2号周墳墓の周墳内にほられた土坑とみられる。検出面は掘り返されたIV層で、平面からは存在に気付かなかった。平面は小判型で、覆土は上位に掘り返されたIV層の褐色土層が堆積し、下位にはII層とIV層の混土が堆積する。遺存する深さは68cmで、坑底面被葬者の足の痕跡がみつかった。特徴から縄文時代後期後葉の堂林式期の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片1点が出土している。

### 3. 周墳墓の設定 (図264~266 図版267)

土坑の報告中には、1号周墳墓から3号周墳墓まで設定しているが、ここでは、その設定の経緯について記す。最初に設定したのは1号周墳墓である。平成15年度の調査時点で、確認できた土坑については番号を付し、平成16年度の調査時点で新たに見つかった土坑については、最終番号のつぎの番号を付したため、1号周墳墓の周墳内には、P557からP563までの7基、P747からP751までの5基、およびさいごに見発されたP754、P758と番号の離れた14基の墓がある。そもそも当初は周墳墓が存在している意識が無いまま、調査を進めたため周墳墓内の墓にも、通常の土坑番号が付されている。1号周墳墓が位置する地所は、昭和38年に北海道大学の大地利夫らにより推定時代の堅穴住居2軒の調査がおこなわれた遺跡(当時 西島松南B遺跡)である。当時は付近に10ヶ所の堅穴の窪みが確認され、そのうちの南端の2軒を調査し、報告(患底遺跡1966)されている。当時調査した堅穴住居があったとみられる地点はグリッド番号のe-1-65~68といったところである。今回の報告範囲で、当時みられた10軒の堅穴住居跡とみられるものは、H46(X-40)とP802(U-42)の2ヶ所だけで、H46は削平が一部床面まで達し、P802は、住居址とは言えないところまで削平されていた。土坑は堅穴住居より深く掘られる可能性はあるが、削平はIV層の20~30cm下まで達し、1号周墳墓内の土坑の依存する深さから、削平は東側ほど深いとみられる。1号周墳墓とした土坑群の検出状況は、削平を受けたIV層面で暗褐色土層が小判型に落ち込み、上部に黒色土層が重なる9基の比較的小さな土坑が密集した状態であった。調査を始めると、遺存する深さは、60cm前後のものが多く、周辺の土坑より深さがあることが判明する。これに対し、土坑群の北側にある、石椁や竈などが出土した大型土坑のP553、P554は、遺存する深さがそれぞれ、11cm、27cmと浅い。このことから、土坑の掘込み面が異なることが考えられ、周墳墓が存在していたものと考えた。また、周墳墓内にある土坑の覆土は、IV層起

源の土層が主なるもので、覆土上位に黒色土が落ち込む状況であることも根拠の一つであった。次に、周堤の規模について考える。P553、P554の付近の土坑をさらに比較すると、P745が比較的深い土坑で、その覆土は黒色土に褐色土が重なる状態の、土色による埋め分けがされたものであった。このような土坑は黒色土層面から掘られたものであり、本土坑は周堤の外側に位置するものとみられた。近く同規模の土坑P556とP591で深さを比較すると、P556、P591、P745はそれぞれ25cm、43cm、62cmであった。位置関係から削平の度合いに差は無いとみられ、深さの差は、掘り込み面が周堤部と重なるかどうかの差だと考えた。周堤内の14基の土坑がすべて入り、P745まで達しない条件で規模を当てはめると、幅約2.5m、内径7.5m、直径12.6mの規模の周堤部が想定できた(図264・265)。1号周堤墓からはP557から出土した小波状の口縁部をもつ小形の深鉢や、P750から出土した胴部最大径が張り出す形状の注口土器や、胴部の括れに広い無紋帯をもつ深鉢などが出土していることから堂林式新段階の周堤墓とみられる。1号周堤墓の西側には、1列に並ぶ6基の土坑が検出された。これらの土坑の覆土には、下位に黒色土層が堆積し、削平されているが覆土上位には、褐色土層が堆積していた痕跡が部分的にあり、周堤の外側に掘られた土坑とみられる。しかし、1列に並ぶのはなぜなのか疑問に思い、周堤墓に挟まれている可能性があるのではと考え、これら6基の土坑より西側に位置するP600、P756、P759、P835に注目した。これら4基の土坑は平均で深さ64cmが遺存し、その覆土にはⅣ層起源の褐色土層が堆積し、周堤墓内の墓であった可能性はあると考え、2号周堤墓を設定した。周堤内の墓で、P835の覆土上位はきれいにⅣ層で埋められ、上面からは存在に気付かず、調査終了直前に、近くの掘削の穴を掘っているときに断面に現れ、確認した本遺跡で最後に調査した墓である。近隣には後期後葉とみられる土坑P601があるが、その覆土は上部にⅣ層が多く混じり暗褐色土層、下位にはⅡ層の黒色土が堆積する、黒色土から掘り込まれた土坑であった。そのことを踏まえ周堤の規模を考えると、長径約9m、内径約5mの周堤が想定される。副葬品として出土したものはP759の坑底から出土した石芥が1点だけである。時期は1号周堤墓とはほぼ同時期の堂林式の後半期とみられる。これら1、2号周堤墓より古い周堤墓があるとみて設定したのが3号周堤墓である。包含層の遺物では、堂林前半期の遺物がR・S-53・54付近に集中するのが確認され、1号周堤墓より南側にも、堂林式前半期の墓が存在するものとみられた。V-45・46に3基の長円形の土坑が2～2.5mの間隔で並んで検出された。中央に位置するP690からは石棒や漆製品の破片が出土し、最も北側に位置するP691は一部縄文時代晩期後葉の土坑P692に切り入れられる。この3基の土坑が周堤墓だった可能性があるとして設定したのが3号周堤墓(図266)である。推定される規模は、周堤の内径で約9m、外径で14～15mほどだったと考える。ただ、これらの土坑の覆

土は黒色土が比較的多く含まれ、中期の破片が混じっていることなど、黒色土層から掘り込まれた状況がみられることから、3号周堤墓の設定はやや強引だったかもしれない。

#### 4. Tピット (図267～273 図版268・269)

6年間の調査で西島松18遺跡からは合計23基のTピットが検出された。この数の中には、北里調報178集で縄文時代の土坑されていたP124・142・147・215・216も含まれる。これらの土坑は、長径50cmほどの小型のTピットがL字に並ぶ状況で、同市内の西島松18遺跡(「西島松17遺跡・西島松18遺跡」恵庭市教育委員会1992)やユカンボシE7(北里調報132)・E11遺跡(「ユカンボシE11遺跡」2002恵庭市教育委員会)などで報告されている「小形Tピット群」と類似する特徴なので、Tピットとして数えた。これと類似するものとしてP140・141もTピットとして数えている。Tピットの配列は、平成12年度に調査した5基と本報告範囲にあるT P12の6基や段丘の縁に列状に並ぶ状況がみられ、残りは調査区内に散在する(図267参照)。本報告範囲には6基のTピットが存在する。その土層は、いずれも掘られた後に壁面の崩落を繰り返し、最後の窪みに厚くⅡ層が堆積する、自然堆積の土層を呈する。上位の黒色土中には後期後葉の遺物が含まれるが、時期は縄文時代中期とみられる。

#### 5. 焼土 (図267～273 図版271～277)

本報告範囲では299基の焼土が調査されている。その分布範囲は包含層の残る地域に偏り、縄文時代晩期前葉のMC盛土範囲にあるものは、ほとんどが盛土と同時期の焼土とみられる。また、削平された範囲で検出された焼土には、住居地の跡とみられるものも含まれる。焼土には多量の焼骨などを含むものが多いため、その土壌はすべて回収、水洗し、そこから炭化種子、焼骨、その他の遺物を回収している。そのため、通常の包含層調査では回収が難しい、小形の土製品や骨角器などの遺物が出土している。特に直径5mm前後の土玉は、そのほとんどが土壌水洗から見つかったものである。形状は丸めた粘土に穴を開けたものが多いが、中には平玉状や垂扇状の形のものもみられる。F168からは土壌の屑部分の破片とみられるものも出土している。耳栓や環状土製品は包含層中から大量に出土しており、同様にF294、311、314からも出土した。包含層中のものがたまに焼土と位置が重なったものとみられる。なお、これらの耳栓を身に付けた同時期の墓は無く、耳栓は埋葬とは別な用途があったとみられる。出土した骨角器は、ほとんどが骨針の破片であるが、F325からユハズ型製品の破片が、また、F312からは骨製重飾品の破片が出土している。本製品の形状は宮城県津田貝塚から出土した骨角製の重飾品と類似するものとみられる。F312はMC盛土上の焼土で、付近からは一括性のある土器片も出土している。

## 6. 集石遺構 (図267~273 図版269・270)

西島松5遺跡から検出された集石遺構は5ヶ所である。いずれも低位の段丘上のほぼまどまった位置に検出された。周囲から出土した遺物より、時期は縄文時代中期のものとみられる。集石1から出土している礫は、材料として持ち込まれたものとみられる。石材は泥岩や頁岩が多く、たたき石として利用されているものも含まれる。集石2、3は皿状に窪ませた場所に安山岩製の礫や石皿片を集めたものである。集石2は他の集石よりやや離れて検出された。集石3、4は礫や礫石の破片がまぎらって出土した状況である。これは集石2、3のようにまとまった状況のものから、礫が抜き取られるか、あるいは、散らされた状況のものともみられる。

## 7. 小ピット (図310~361・370・371 図版281~283)

本報告範囲では1,257ヶ所の小ピットが検出されている。その分布範囲は調査区の東側、柏木川に面する台地の縁からやや離れた位置に多くみられる。柱穴状のものや小土坑がみられるが、分布する範囲は縄文時代の住居地の分布と重なり、関係する遺構ともみられる。検出された小ピットで配列が確認されたものは、図361に示したS P 3527~3532、3770の7基が並ぶ1ヶ所だけである。6ヶ所の柱穴が100~120cm間隔で並び、そこから約280cm離れた位置に1ヶ所の柱穴が位置するもので、図示しなかったが、離れた1ヶ所の柱穴との間には、IV層面が幾つたF459がある。この機土と柱穴は住居地の痕跡とみられる。この配列は、1号周堤墓の位置と重なっており、縄文時代後期後葉にすでに堅穴は削平されていたとみられる。目立った遺物が検出された小ピットには摩り切り痕のある石斧未成品が刺さった状態で1点出土したS P 3350、堂林式から三ツ谷式期相当の鉢が復元されたS P 3353などがある。

## 8. キウス5遺跡出土の漆塗櫛 (図372 図版283)

ここに掲載する遺物は平成8年度に調査した千歳市キウス5遺跡A地区から出土した漆塗櫛である。出土地点は斜面下のV-3層(縄文時代後期後葉の面)で、その層中の泥炭層の溜まりで、多量の流木とともに出土したものである。流木以外ほとんど遺物が検出されない中、唯一出土した土器片が図372の下部に示した、壺または注口土器の底部片である。土器片はすでに報告済み(北理調報125)だが、この破片から、流木溜の時期も御殿山式期相当と判明し、同層中から出土した透かしのある鉢も同時期のものとみられる。残念ながら出土時点で破損してしまったため、修復に時間を要し、報告に間に合わなかったものである。中央に楕円形の透かしを空け、その左右に3ヶ所の三角形の透かしを施した鉢である。色調はぶい朱色で、体部上位に1ヶ所、下位に2ヶ所の磨が造られる。鉢高は10本で、幅80mmである。鉢の高さまで残るものとみられたが、破損のため接合出来なかった。

## 9. 西島松3遺跡追加の遺構 (図373~376 図版287)

西島松3遺跡の平成15年度までの調査区からは土坑14基、Tピット2基、焼土24ヶ所、小ピット19ヶ所を検出し、報告済(北理調報248号)ではあるが、平成19年度の調査中、当該地に遺物水洗場等を設置する際に、擾乱土層の下から新たに土坑が検出された。急ぎ周辺の擾乱土層を掘りぬいたところ、全部で土坑4基、Tピット1基が検出された。これらを合わせた遺構数は土坑18基、Tピット3基、焼土24ヶ所、小ピット19ヶ所となった(表記)。新たに見つかった5基の遺構は本報告書に掲載した。また、新たに見つかった遺構出土の遺物や、縄文時代前期前半の漆塗織製品4点も含め、計42,395点が出土した。

### 西島松3遺跡遺構数

	遺構番号	欠番	合計
土坑	1号~18号	—	18基
Tピット	1号~3号	—	3基
焼土	1号~24号	—	24ヶ所
小ピット	1号~19号	—	19ヶ所

### P15 (図375 図版281)

遺構 擾乱層を取り除いたIV層面において、バミスの混じる黒色土層が楕円形に落ち込むことから確認した。検出には土器片が集中しているのがみとめられた。覆土は全般にII層主体の黒色土層が堆積する。覆土上位の土器は接合し壺形の土器が復元された。出土遺物から西島松3遺跡のP692と同時期の縄文時代晩期後葉の土坑とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代晩期後葉の破片60点などが出土している。1は縄文時代後期後葉の壺形に近い器形の深鉢である。底部にはわずかに縄文が施され、器面は櫛歯状工具による細い条痕文が施された後、沈線文と刺突による文様が付される。器面にはペンガラが塗付される。

### P16 (図375 図版281)

遺構 擾乱層を取り除いたIV層面において、黒色土層にロームブロックが混じり、長円形に落ち込むことから確認した。覆土は、砕かれたIV層にII層が混じるもので、埋め戻しの様相を呈する。検出面から、土坑の南東端には、黒色土層で埋まる小ピットが重なることを確認した。この小ピットが遺構に伴うものかは不明である。出土遺物から縄文時代晩期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土からは縄文時代前期の破片2点、中期の破片3点、後期後葉の破片7点、晩期後葉破片5点などが出土している。

### P17 (図376 図版282)

遺構 削平を受けたIV層面において、ロームブロックの混じる黒色土層がT P 3を切り、小判形に落ち込むことから確認

した。覆土は上位にⅡ層が多く混じり、下位は砕かれたⅣ層がブロック状に堆積する、埋め戻しの様相を呈するものであった。坑底面は平らで、Tピットより30cm深い。また、坑底面は検出面よりやや広がり、断面はフラスコ状である。Tピットが埋まってから掘られることや形状から、縄文時代晩期後葉の墓とみられる。ただし、切られているT P 3の深さは本来1m近くあったと考えられ、これが埋まったのちに掘られたものとなら。深さ130cm以上の柱穴状の土坑であったことになる。あるいは周堤墓のように、掘り下げた面から掘り込んだものか、近現代の土坑の可能性もあるかもしれない。

遺物 覆土からは縄文時代中期の破片3点などが出土した。

#### P18 (図376 図版282)

遺構 削平を受けたⅣ層面において、ロームブロックの混じる黒色土層が円形に落ち込むことから確認した。覆土は上位と下位にⅡ層が多く混じり、中位に砕かれたⅣ層がブロック状に堆積する埋め戻しの様相を呈する。土坑の特徴から縄文時代晩期後葉の墓とみられる。

遺物 覆土から縄文時代前期の破片1点などが出土した。

#### T P 3 (図376 図版282・283)

遺構 削平を受けたⅣ層面において、ロームブロックの混じる黒色土層がP17に切られ、細長く落ち込むことから確認した。遺存する深さは48cmで、重なる土坑P17より浅い。覆土は通常のTピット下位の状況に類似するもので、坑底付近は黒色土が堆積し、あとは崩落した深面のⅣ層やⅡ層が混じる堆積である。長軸は約4mあり、断面は1m以上あったとみられる。縄文時代中期の遺構とみられる。

遺物 覆土からは縄やフレイクが出土した。

## 10. 考察 (図377~379)

ここでは縄文時代後期後葉から晩期前葉にかけての墓域の変遷について若干の考察を加える。図377は副葬された土器をまとめたものである。代表的な出土土器をまとめたもので、出土遺物のすべては掲載していない。本道跡では、包含層から大量の土器が出土しているが、まとまって出土する例はほとんど無いことから、覆土の上から一括で出土し、復元された土器は副葬品と考えられる。なお、本道跡は南側ほど深く削平されているため、周堤墓を除いて上部の副葬品が残っていた墓は、検出された墓の中でも北側に偏って分布している。図378には、副葬された土器を時期別に分けたものである。最も古いものは、すべて1号周堤墓から検出された。鉢の口縁部は小波状で、沈線化した入組文が施され、底部は丸く窪ませ小さいことから堂林式期新段階に相当するものである。次いで三ツ谷式期に相当する土器がP411、445、455、497、772から出土している。図では深鉢を載せていない。このうち、隣り合うP455、772から出土した注口土器(壺形土器)は、太い頸部をもち、底部が2重に加

工されるなど特徴が類似しており、時期も近いものとみられる。P411、445から出土した土器は器面に爪形文や、棒状工具による爪形文風な施文が施され、底部は上げ底である。P497から出土した深鉢にも爪形文や三叉文がみられ、のちの御殿山式にみられる文様の特徴が現れることから、三ツ谷式期のなかでも新段階に相当するものとみられる。なお、本時期の墓からは、透かしのある櫛と無い櫛が混じって出土する傾向がみられた。御殿山式期の土器はP398、399、431、510、513から出土している。注口土器の頸部には貼付帯が施され、文様には三叉文が施される。P431は底部に乳房状突起が施され、そのほかの土器の底部は上げ底である。鉢には爪形文ではなく2条の沈線の間に刻みが施される。本時期の墓からは透かしのある櫛のみが出土している。縄文時代晩期前葉の大洞B1式併行の土器はP395、432、433、462、506、508から出土している。P506の注口土器には玉拍三叉紋が施される。図示していないがP433の注口土器は丸底の底部である。P508の注口土器には乳房状の突起を有するが、P395の注口土器と同様に、胴部の張り出しが胴部中央より下位にあり、底部が緩やかな角度で立ち上ることなど、のちの大洞B1式にみられる新しい要素が見られる。また、P395、432、508からは多数の個体が副葬され、その器種にはミニチュア土器やキャリバー形の口縁部をもつ鉢が含まれている特徴がみられる。P432はもっとも新しい土器のセットとみられ、その中にもキャリバー形の鉢が出土しているが、内面の括れは無く、口縁部が内反する鉢になる。以上の土器の時期区分から考察した墓の変遷を示したのが図379である。最も古い段階は堂林式期の3号周堤墓となつたもので、そこから堂林式新段階の1、2号の周堤墓と周堤上の墓に移る。次に三ツ谷式期に相当する墓域が周堤墓周辺の墓から15mほどはなれたO-R-33~36に分布する。この地域の墓は削平を被り受けており、副葬された土器は出土していない。墓域は東西方向に広がりがあることから2つの墓域が近接しているものとみられる。その後、三ツ谷式の新段階の範囲と御殿山式期の西側の墓域に別れ、それぞれ墓域の外郭北側に後の大洞B1式併行の墓や御殿山式期の墓が造られる。東西に離れた墓域の中央には、MC盛土と大洞B1式併行の土坑群が造られてゆく。

1、2号周堤墓には、規模に大小があるが、墓域の規模はそのまま続いてゆくものとみられる。三ツ谷式新段階の墓域の外郭には御殿山式期の墓がみられることから、西側にある御殿山式期の墓域は時的にやや遅れて造られたものとみられる。本道跡で周堤墓が造られるのは堂林式新段階までで、それ以降の墓は、縄文時代前期や中期の住居址と重なっていることや、墓の覆土の状況から周堤は無いとみられる。しかし、三ツ谷式以降の墓には、各時期とも墓域に中心域があり、新しい墓はその周辺に造られてゆく傾向がみられるが、これは周堤墓において新しい墓が周堤上やまわりに造られる状況と類似する。

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(1)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	※分類Ⅰ	分類Ⅱ	枚数	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底寸 (g)	備考	
								(玉類)／器種	石材	長径 (cm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)		(石器・石製品)／器種
P337	図2-1	8	T-16	覆土	3	調片	1	スクレイパー	obs	4.20	3.31	1.29	16.27		
	図2-2	8	T-16	覆土	5	B a	2	深鉢(口)	静内中野式相当	—	—	—	—		
	図2-3	8	T-16	覆土	5	B a	1	深鉢(胴)	静内中野式相当	—	—	—	—		
	図2-4	8	T-16	覆土下	5	B a	59	実底土器(完)	静内中野式相当	31.9	33.6	(実底)	—	一括土器	
P341	図3-1	8	S-16	覆土	5	B a	1	深鉢(胴)	円筒上層式相当	—	—	—	—		
	図3-2	9	S-16	覆土	3	礫石器	1	北海道式石冠	砂岩	7.20	13.40	6.59	909.0		
P342	図4-1	8	S-16	覆土	5	B a	1	深鉢(胴)	静内中野式相当	—	—	—	—		
P343	図4-1	8	Q-16	覆土1	5	B b	1	深鉢(口)	—	—	—	—			
	図4-2	8	Q-16	覆土1	5	B b	2	深鉢(胴)	—	—	—	—			
P347	図5-1	11	P-18	覆土	3	調片	1	スクレイパー	obs	3.00	3.98	0.28	4.99		
	図5-2	11	P-18	覆土	5	V b	1	鉢(口)	晩期中葉	—	—	—	—		
	図5-3	11	P-18	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—		
	図5-4	11	P-18	覆土	5	V b	1	深鉢(口)	晩期中葉	—	—	—	—		
P348	図5-1	11	O-16	覆土	5	VI	1	深鉢(口)	後北C、D	—	—	—	—		
															1
P349	図6-1	11	P-18	覆土	5	N c-V a	1	深鉢(口)	御殿山式・大瓶式相当	—	—	—	—	—	
							2								
							5								
							1								
							1								
P351	図6-2	11	O-18	覆土	5	V b	1	鉢(口)	晩期中葉	—	—	—	—		
	図6-1	11	P-17	覆土	5	B	1	深鉢(口)	天神山式相当	—	—	—	—		
P352	図7-1	12	M-19	覆土	5	N c	7	深鉢(口)	御殿山式相当	17.5	—	—	—		
							3								
							2								
							1								
							10								
							1								
							26								
	図7-2	12	M-19	覆土	5	N c	1	深鉢(口)	御殿山式相当	33.0	—	—	—		
							3								
							11								
	図7-3	12	M-19	覆土	5	N c	3	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—		
							1								
							1								
1															
図7-4	12	O-17	II B層	5	N c	2	深鉢(胴)	御殿山式相当	—	—	—	—	同一個体		
						2									
						1									
図7-5	12	L-22	I層	5	N c	1	深鉢(胴)	御殿山式相当	—	—	—	—			
						1									
図7-6	12	M-19	II B層	5	N c	1	浅鉢(口~底)	御殿山式相当	—	—	—	—			
						7									
図7-7	12	M-19	覆土	5	VI	3	深鉢(底)	後北C、D	—	—	9.7	—			
						1									
						5									
						2									
P353	図8-1	12	M-19	覆土	3	調片	1	石棺	obs	5.91	2.80	1.03	9.34		
	図8-2	12	M-19	覆土	5	N c	1	深鉢(口)	御殿山式相当	11.8	—	—	—		
	図8-3	12	M-19	覆土	5	N c	2	鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—		
	図8-4	12	M-19	覆土	5	N c	5	浅鉢(口)	御殿山式相当	13.8	—	—	—		
P354	図8-1	13	N-18, 19	覆土	5	I b-4	7	深鉢(口)	東洞路式相当	—	—	—	—		
	図8-2	13	N-18, 19	覆土	5	N c	3	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—		
	図8-2	13	N-19	MC層	5	N c	4	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—		

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品／玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他



表Ⅱ-1 土坑掲載遺物一覧(2)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、グリッド	層位	※分類Ⅰ	分類Ⅱ	高さ	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	—	備考											
								(玉類)／器種	石材	長径	幅径	厚さ	重さ												
								(石器、石製品)／器種 (土製品)／名称 (骨角器)／種名 (漆・漆)／名称	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)												
P355	図9-1	13	Q-20	Ⅰ・Ⅱ層	5	B c	1	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—	同一個体											
															2	深鉢(胴)	—	—	—	—					
															5	B c	1	ミニチュア(底)	御殿山式相当	—	2.5	—			
P357	図9-1	15	Q-20	Ⅰ層	3	銅片	1	石鏝	obs	1.80	0.90	0.14	0.19												
															P358	図9-1	15	R-20	Ⅱ層	5	B b	1	深鉢(胴)	天神山式相当	—
P359	図10-1	15	L-19	Ⅰ層	3	銅片	1	スケレイバー	頁岩	5.22	4.70	1.83	41.16	同一個体											
															2	浅鉢(胴)	—	—	—	—					
															3	Ⅱ層	5	V b	4	浅鉢(底)	晩期中葉	—	—	—	
P361	図10-1	15	P-21	Ⅰ層	5	B b	1	深鉢(口)	萩+岡2式相当	—	—	—	—	—											
															P363	図10-1	15	P-21	Ⅰ層	5	B a	1	深鉢(口)	—	—
P369	図12-2	17	Q-23	Ⅰ層	5	B c	1	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—											
															2	Ⅱ層	5	B c	1	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	
P371	図13-1	17	O-23	Ⅰ層	3	銅片	1	石鏝	obs	2.35	1.25	0.51	0.92												
															2	Ⅱ層	5	B c	1	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	
															3	Ⅲ層	5	B	2	深鉢(胴)	萩+岡2式相当	—	—	—	
P373	図13-2	17	M-19-20	Ⅰ層	5	B	10	深鉢(底)	萩+岡2式相当	—	15.4	—	—	—											
															P376	図14-1	17	N-23	Ⅲ層	3	銅片	1	石鏝	obs	2.00
P377	図14-4	17	N-23	Ⅱ層	5	B c	2	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—											
															3	Ⅲ層	5	V a	1	深鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	
															4	Ⅳ層	5	B c	1	フゴ、注口(胴)	御殿山式相当	—	—	—	
															5	Ⅴ層	5	B c	1	フゴ、注口(胴)	御殿山式相当	—	—	—	
															6	Ⅵ層	5	B c	1	鉢(底)	御殿山式相当	—	—	—	
															7	Ⅶ層	5	B c	1	鉢(底)	御殿山式相当	—	—	—	
															8	Ⅷ層	5	B c	3	深鉢(口)	三ツ谷式相当	—	—	—	
															9	Ⅸ層	5	B c	3	深鉢(口)	三ツ谷式相当	—	—	—	
															10	Ⅹ層	5	B c	9	鉢(胴)	御殿山式相当	—	—	—	
															11	Ⅺ層	5	B c	11	深鉢(胴)	三ツ谷式相当	—	—	—	
P378	図15-1	17	M-23	Ⅰ層	5	B c	3	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—											
															P379	図16-1	19	O-24	Ⅰ層	5	B c	1	フゴ、注口(胴)	三ツ谷式相当	—
P380	図16-2	19	N-23	Ⅱ層	5	B c	4	フゴ、注口(口)	三ツ谷式相当	6.0	—	—	—	同一個体											
															1	Ⅲ層	5	B c	1	深鉢(口)	御殿山式相当	36.2	—	—	
															2	Ⅳ層	5	B c	2	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	
P383	図17-1	19	L-21	Ⅰ層	3	銅片	1	石鏝	obs	2.18	1.93	0.37	0.63												
															2	Ⅱ層	5	V a	1	深鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	
															3	Ⅲ層	5	V a	1	深鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	
															4	Ⅳ層	5	V a	1	深鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	
															5	Ⅴ層	5	V a	1	深鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	
															6	Ⅵ層	5	V a	1	鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	
															7	Ⅶ層	5	V a	1	鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	
															8	Ⅷ層	5	V a	1	鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	
															9	Ⅸ層	5	V a	1	フゴ、注口(胴部)	御殿山式相当	—	—	—	
															10	Ⅹ層	5	B c	2	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	
															11	Ⅺ層	5	B c	3	フゴ、注口(胴部)	御殿山式相当	—	—	—	
															12	Ⅻ層	5	B c	3	フゴ、注口(胴部)	御殿山式相当	—	—	—	
															13	Ⅼ層	6	土製品	1	土製垂飾	—	(2.50)	(2.75)	0.75	2.54

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品／玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(3)

遺構	調査号	図版番号	統合遺構、グリッド	層位	※分類 I	分類 II	点数	(土器) / 器種 (部位)		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底径 (cm)	重さ (g)	備考	
								(玉類) / 器種	石材								口径 (cm)
P383	図17-4	19	L-21	覆土 I-MC層	5	B c	1	深鉢 (口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—		
	図17-5	19	L-21	覆土	5	B c	1	深鉢 (口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—		
	図17-6	19	L-21	覆土	5	V a	1	フボ・注口 (口)	大洞 B 式相当	11.0	—	—	—	—	—		
	図17-7	18	L-21	I・II B MC層	5	V a	43	フボ (完)	大洞 B 式相当	11.7	17.1	6.9	—	—	—	—	
							1										
	図17-8	19	L-21	覆土	5	B c	1	深鉢 (底)	新船山・大洞 B 式相当	—	—	—	—	—	—	—	底部穿孔
	図17-9	19	L-21	I・II B MC層	5	B c	4	深鉢 (底)	新船山・大洞 B 式相当	—	—	—	7.2	—	—	—	
	P384	図17-1	21	L-21	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	2.40	1.50	0.26	0.56	—	—	
		図17-2	21	L-21	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	2.23	1.20	0.33	0.53	—	—	
図17-3		21	L-21	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	2.20	1.50	0.42	0.82	—	—		
図17-4		21	L-21	覆土	5	V a	1	浅鉢 (口)	大洞 B 式相当	—	—	—	—	—	—		
図18-1		21	M-25	覆土	5	V	2	深鉢 (口)	—	—	—	—	—	—	—		
P385	図18-2	21	M-25	I層	5	V	2	深鉢 (胴)	赤穴式相当	—	—	—	—	—	—	同一個体	
							2										
	図18-3	21	M-25	覆土 II B層	5	V	1	深鉢 (胴)	—	—	—	—	—	—	—	—	
							3										
図18-4	21	M-25	覆土	5	V	1	深鉢 (底)	—	—	—	—	—	—	—	—		
P386	図18-1	21	K-23	灰土層	4	玉	1	—	緑色凝灰岩	5.0	3.5	2.4	0.04	—	—	ローテーション 翻転	
	図18-2	21	K-23	覆土	5	B c	2	深鉢 (口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—		
	図18-3	21	K-23	覆土	5	B c	1	鉢 (口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—		
	図18-4	21	K-23	覆土	5	B c	2	鉢 (口)	大洞 B 式相当	—	—	—	—	—	—		
	図18-5	21	K-23	覆土	5	V	1	深鉢 (口)	東北 C, D	—	—	—	—	—	—		
P387	図18-1	21	K-21	覆土	5	B c	1	深鉢 (口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—		
	図18-2	21	K-21	覆土	5	V c	1	深鉢 (口)	大洞 B 式相当	—	—	—	—	—	—		
	図18-3	21	K-21	覆土 II B層	5	V c	1	深鉢 (口)	大洞 B 式相当	—	—	—	—	—	—		
P389	図18-4	21	K-21	覆土	5	V c	1	浅鉢 (底)	大洞 B 式相当	—	—	—	—	—	—		
	図21-1	22	J, K-20 (点取り)	覆土	5	II a	28	尖底土器 (口-胴)	静内中野式相当	42.6	35.4	—	—	—	—		
	図21-2	22	J, K-20 (点取り)	覆土	5	II a	56	尖底土器 (口-胴)	静内中野式相当	39.5	23.4	—	—	—	—		
	図22-3	22	K-20 (点取り)	覆土	5	II a	1	尖底土器 (口)	静内中野式相当	—	—	—	—	—	—		
	図22-4	22	K-20 (点取り)	覆土	5	II a	1	尖底土器 (胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	—	—		
	図22-5	22	K-20 (点取り)	覆土	5	II a	1	尖底土器 (胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	—	—	—	
							9										
	図22-6	22	K-20 (点取り)	覆土	5	II a	1	尖底土器 (胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	—	—	—	
図22-7	23	K-20	覆土	3	礫石器	1	砥石	砂岩	28.10	12.00	8.80	3.60	—	—			
図22-8	23	J, K-20	覆土	3	礫石器	1	石皿	安山岩	95.20	35.30	8.30	10.94	—	—			
図23-9	22	J, K-20	覆土	—	3	礫石器	56	石皿	安山岩	48.8	34.6	19.6	15.14	—	—	芝野湖開田集 報告書 一版, 4-7, 4-11	
																	1
P390	図19-1	23	K-22	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	2.00	1.20	0.44	0.76	—	—		
	図19-2	23	K-22	覆土	5	B c	4	深鉢 (口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	同一個体	
	図19-3	23	K-20 MC層	覆土	5	B c	1	深鉢 (口)									
	図19-4	23	K-22	MC層	覆土	5	B c	1	注口 (口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	
								1									
図19-5	23	K-22	覆土	5	B c	1	注口 (口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—			
図19-4	23	K-22	覆土	5	B c	1	鉢 (胴)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—			
P394	図24-1	24	S-22	覆土	3	礫石器	1	西み石	泥岩	(12.40)	(16.90)	(3.20)	(306)	—	—		
P395	図26-1	26	S-26	覆土上 覆土2層	5	V a	6	注口	大洞 B 式相当	9.7	(20.3)	—	—	—	—		
																	57
							1										

※分類 I : 1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品 / 玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧(4)

遺構	調査号	図面番号	統合遺構 グリッド	層位	発見期Ⅰ	分類Ⅱ	(土器)/器種(部位)		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	重量 (g)	備考	
							(玉類)/器種									石材
							(石器・石製品)/器種 (土製品)/名称 (骨角器)/種名 (漆・髹)/名称	部位								
P305	R26-2	26	S-26	覆土 (点取り) 覆土2層 日層	5	Va	1	フボ	大淵B式相当	9.7	(14.8)	-	-			
							10									
	43															
	R26-3	26	S-26	覆土1層 覆土2層 覆土 上	5	Va	2	キャリバー	大淵B式相当	8.5	8.7	6.0	-			
							1									
	1															
	R26-4	26	S-26	覆土 日層	5	Va	40	キャリバー	大淵B式相当	9.3	10.2	5.0	-			
	R26-5	26	S-26	覆土上 日層	5	Va	5	深鉢	大淵B式相当	15.5	12.0	-	-			
	R26-6	26	S-26	覆土1層 日層 瓦片層	5	Va	6	深鉢	大淵B式相当	15.9	12.7	-	-			
	1															
	R26-7	27	S-26	覆土 (点取り)	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	6.6	7.2	3.1	-			
	R26-8	27	S-26	覆土 (点取り) 覆土上	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	5.6	7.7	2.8	-			
	2															
	R26-9	27	S-26	覆土 (点取り)	5	Va	5	ミニチュア	大淵B式相当	5.6	8.3	2.9	-			
	R26-10	27	S-26	覆土 (点取り)	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	5.7	7.5	2.7	-			
	R26-11	27	S-26	覆土 (点取り) 覆土2層 日層	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	6.2	7.6	3.2	-			
							5									
	3															
	2															
	R26-12	27	S-26	覆土 (点取り) 日層	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	3.8	5.6	3.4	-			
	R26-13	27	S-26	覆土	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	4.0	(5.0)	-	-			
	R26-14	27	S-26	覆土	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	(4.6)	5.9	(3.6)	-			
	R26-15	27	S-26	-	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	-	3.8	3.6	-			
	R26-16	27	S-26	覆土 日層	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	-	2.2	3.3	-			
	R26-17	27	S-26	覆土	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	-	1.6	2.9	-			
	R26-18	27	S-26	覆土1	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	-	1.3	2.7	-			
	R26-19	27	S-26	覆土	5	Va	1	ミニチュア	大淵B式相当	-	1.5	2.3	-			
	R26-20	27	S-26	覆土	5	Va	3	ミニチュア	大淵B式相当	-	-	-	-			
	R26-21	25	S-26	覆土1 日層	5	Va	6	深鉢 (口)	大淵B式相当	-	-	-	-			
	R26-22	25	S-26	灰底部	2	ヤナシ	1	アオサメ	L上1or2	2.40	1.10	0.50	0.17			
R26-23	25	S-26	灰底部	2	ヤナシ	1	アオサメ	L4-5	1.40	1.10	0.45	0.10				
R26-24	25	S-26	灰底部	2	ヤナシ	1	アオサメ	R4-5	1.40	0.95	0.33	0.08				
R26-25	25	S-26	灰底部	4	石製品	1	Σ-1	ツノ具付石	19.0	10.0	9.0	0.86	穿孔しようとした			
R26-26	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-3	緑泥石	12.5	12.4	16.5	2.45	破片3			
R26-27	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	9.6	8.5	6.1	0.68				
R26-28	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	8.1	7.9	5.1	0.43				
R26-29	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	6.0	5.9	3.0	0.15				
R26-30	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	5.8	5.2	3.1	0.13				
R26-31	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.8	8.3	5.6	0.55				
R26-32	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.0	7.1	4.5	0.36				
R26-33	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	8.4	8.2	5.6	0.46				
R26-34	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.3	7.9	4.5	0.39				
R26-35	25	S-26	灰底部	4	玉	1	-	緑泥石	8.3	6.9	3.9	0.24	割れ			
R26-36	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.9	7.7	5.2	0.36				
R26-37	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	6.6	6.4	4.4	0.23				
R26-38	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.3	9.2	4.4	0.53	フローテーション			
R26-39	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.8	7.5	3.6	0.30	フローテーション			
R26-40	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	6.3	6.0	4.0	0.20	フローテーション			
R26-41	25	S-26	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.4	7.7	5.3	0.47	フローテーション			
R26-42	25	S-26	覆土	3	網片	1	石籠	obs	(2.3)	(1.45)	(0.45)	0.85				
R26-43	25	S-26	覆土	3	網片	1	つまみ付ナイフ	首首	8.3	4.35	1.5	56.80				

※分類1: 1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(5)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	発見層Ⅰ	分類Ⅱ	高さ	(土器/器種(部位))		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	—	備考
								(玉類)/器種	石材							
P307 P308	図24-1	23	R、S-2b	覆土	5	群c	2	漆器(厨)	堂林-舞鶴山式相立	—	—	—	—	—	—	
	図24-1	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.9	8.2	4.7	0.51			
	図24-2	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.6	9.4	5.0	0.67			
	図24-3	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.3	8.3	3.4	0.40			
	図24-4	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.8	9.3	6.4	0.90			
	図24-5	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.0	7.8	4.5	0.49			
	図24-6	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.2	8.1	3.9	0.38			
	図24-7	31	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2	コハク	(15.0)	10.0	6.7	0.42	割れ	破片2	
	図24-8	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.5	9.2	4.9	0.63			
	図24-9	31	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2b	緑泥石器	20.0	15.5	8.5	2.70	割れ	2個併合	
	図24-10	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.9	4.1	0.42			
	図24-11	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.7	9.5	5.3	0.73			
	図24-12	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.9	9.6	6.6	1.05			
	図24-13	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.9	10.1	7.2	1.09			
	図24-14	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.9	8.5	7.4	0.67			
	図24-15	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.8	7.7	3.7	0.40			
	図24-16	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.5	4.3	0.40			
	図24-17	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.8	3.7	0.36			
	図24-18	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.6	4.8	0.47			
	図24-19	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	コハク	9.3	9.3	7.1	0.93	割片		
	図24-20	31	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2b	緑泥石器	10.9	10.5	5.5	1.07			
	図24-21	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-3	コハク	10.1	12.6	0.74		割片3		
	図24-22	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.3	8.1	3.9	0.38			
	図24-23	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.4	7.2	2.3	0.31			
	図24-24	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.5	4.3	0.54			
	図24-25	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.6	4.6	0.42			
	図24-26	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	7.7	4.1	0.37			
	図24-27	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.3	3.8	0.32			
	図24-28	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	7.9	4.2	0.45			
	図24-29	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.0	9.4	4.6	0.69			
	図24-30	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.0	9.7	5.0	0.69			
	図24-31	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.1	9.0	4.5	0.50			
	図24-32	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.0	8.6	3.7	0.41			
	図24-33	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	10.0	9.5	5.6	0.65			
	図24-34	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.5	9.3	4.9	0.51	割れ		
	図24-35	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.1	9.7	4.4	0.61			
	図24-36	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.4	9.3	4.3	0.55			
	図24-37	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	9.6	9.4	5.0	0.74			
	図24-38	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.9	9.7	5.3	0.71			
	図24-39	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	10.7	9.9	11.7	1.79			
	図24-40	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	11.7	10.6	7.4	1.29			
	図24-41	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.0	9.6	6.0	0.66			
	図24-42	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.9	8.6	3.7	0.45			
	図24-43	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	8.1	3.6	0.35			
	図24-44	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.6	8.1	4.1	0.41			
	図24-45	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.4	8.8	4.4	0.52			
	図24-46	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.4	8.7	4.4	0.51			
	図24-47	31	R-28	灰底部	4	玉	1	B-1	緑泥石器	9.4	7.7	3.6	0.41	破片2併合		
	図24-48	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.6	9.1	5.1	0.61			
	図24-49	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.0	8.3	2.9	0.30			
図24-50	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.5	8.7	4.2	0.49				
図24-51	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	9.3	8.9	5.3	0.57				
図24-52	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.8	9.2	3.8	0.56				
図24-53	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.7	9.2	3.6	0.56				
図24-54	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.8	9.7	6.6	0.99				
図24-55	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.3	10.8	6.4	1.11	破片5併合			
図24-56	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.7	10.5	7.1	1.27				
図24-57	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	12.4	11.1	9.4	1.80				
図24-58	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	11.1	10.6	12.0	1.49				

※分類1: 1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧(6)

遺構	調査号	坑内層番号	組合遺構、グリップ	層位	※分類Ⅰ	分類Ⅱ	高数	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	高径 (cm)	—	備考	
								(玉類)／器種								石材
P308	図29-59	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	12.6	11.0	7.2	1.50			
	図29-60	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.9	8.7	3.9	0.48			
	図29-61	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	10.0	9.3	4.2	0.56			
	図29-62	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.9	8.3	3.1	0.34			
	図29-63	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.2	8.4	4.8	0.46			
	図29-64	31	R-28	灰底部	4	玉	1	—	—	9.9	—	4.7	0.28	割れ		
	図29-65	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.9	7.0	3.1	0.24			
	図29-66	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	ロズン管?	10.5	9.5	4.3	0.70			
	図29-67	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.7	8.8	5.4	0.62			
	図29-68	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.7	9.6	3.9	0.53			
	図29-69	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.6	9.3	4.7	0.68			
	図29-70	31	R-28	灰底部	4	玉	1	B-1	緑色凝灰岩	8.5	7.1	5.9	0.33			
	図29-71	31	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	21.0	13.0	5.4	1.49			
	図29-72	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.8	8.6	5.5	0.62			
	図29-73	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	13.1	12.9	7.4	1.80			
	図29-74	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	10.4	9.6	5.7	0.84			
	図29-75	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.1	6.1	4.2	0.28			
	図29-76	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.1	6.9	2.7	0.18		(表面全て欠損)	
	図29-77	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.2	7.2	2.2	0.16			
	図29-78	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	14.7	14.3	8.1	2.57			
	図29-79	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑色凝灰岩	8.7	8.3	5.8	0.30			
	図29-80	31	R-28	灰底部	4	玉	1	C-1b	緑泥石	9.1	9.0	3.5	0.27	割れ		
	図29-81	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	5.1	5.0	2.8	0.09			
	図29-82	31	R-28	灰底部	4	玉	1	C-1	緑泥石	14.0	8.1	4.5	0.65			
	図29-83	31	R-28	灰底部	4	玉	1	—	—	(16.0)	5.9	4.9	0.50	割れ		
	図29-84	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	6.3	6.2	2.7	0.15			
	図29-85	31	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	25.0	12.5	6.5	1.94			
	図29-86	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	6.8	6.4	4.5	0.25	破片3枚	結合	
	図29-87	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	9.2	8.6	6.5	0.63	破片3枚	結合	
	図29-88	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	10.3	9.9	5.9	0.82			
	図29-89	31	R-28	灰底部	4	玉	1	C-1	緑泥石	12.5	7.5	5.6	0.70			
	図29-90	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	5.7	5.7	3.4	0.16			
	図29-91	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	7.0	6.2	4.7	0.26			
	図29-92	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.2	8.1	6.6	0.51			
	図29-93	31	R-28	灰底部	4	石製品	1	E-1	ツノ貝作石	19.5	7.0	12.5	0.30	割れ	自然ツノ貝化石	
	図29-94	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.1	7.5	3.5	0.34			
	図29-95	31	R-28	灰底部	4	石製品	1	E-1	ツノ貝作石	12.0	11.0	1.0	1.10	割れ	加工ツノ貝化石	
	図29-96	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.6	9.6	5.0	0.68			
	図29-97	31	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	16.2	11.0	3.9	0.75			
	図29-98	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.2	8.9	4.3	0.55			
	図29-99	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	10.4	10.0	5.1	0.84			
	図29-100	31	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	7.4	6.4	5.5	0.28			
	図29-101	31	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	15.8	9.0	4.2	0.63			
	図30-102	32	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗	—	—	58.0	97.0	23.0	11.33		
	図30-103	31	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗製品	—	—	—	—	—	—		
	図30-104	32	R-28	甌土 (点群)	5	B c	4 6	鉢	御殿山式相当	—	—	—	—	—		
	図30-105	32	R-28	甌土	5	B c	32	注口(空)	御殿山式相当	6.7	14.3	5.2	—	—		
図30-106	31	R-28	甌土	5	B c	1	漆鉢(口)	堂林-御殿山式相当	—	—	—	—	—			
図30-107	31	R-28	甌土	5	B c	2	漆鉢(口)	堂林-御殿山式相当	—	—	—	—	—			
図30-108	31	R-28	甌土	3	銅片	1	石眼	obs	2.39	1.60	0.28	0.77				
図30-109	31	R-28	甌土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	obs	3.34	1.52	0.50	3.05				
図30-110	31	R-28	甌土	3	銅片	1	ヌクレイバー	obs	2.00	3.25	0.46	2.37				
図30-111	30	R-28	甌土	3	礫石	1	石筍	泥岩	13.5	5.2	2.75	27.1				
図28-112	—	R-28	灰底部	3	玉	1	—	コハタ	—	—	—	—	0.09	未実測	割れ	破片9
図28-113	—	R-28	灰底部	3	玉	1	—	緑泥石	—	—	—	—	0.21	未実測	割れ	破片12点
P309	図33-1	34	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗	—	68.5	90.0	11.0	13.27			
	図33-2	34	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗板片	—	29.5	45.5	—	—			
	図33-3	33	R-28	甌土中	1	漆	1	漆塗板片	—	60.0	86.5	—	—			

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品／玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(2)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	発見層 I	分類II	高さ [cm]	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考	
								(玉類)／器種	石材	形状	厚さ (mm)	重さ (g)				
P309	IK33-4	34	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	59.0	87.5	—	—	—	(4)	
	IK33-5	34	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	57.0	89.0	—	—	—	(5)	
	IK33-6	34	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	28.5	26.5	—	—	—	(6)	
	IK33-7	34	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	57.5	81.0	—	—	—	(7)	
	IK33-8	34	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	42.0	35.5	—	—	—	(8)	
	IK33-9	34	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	61.0	83.5	—	—	—		
	IK34-10	34	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	23.5	21.0	4.5	0.55	—		
	IK34-11	34	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	36.5	13.0	5.5	0.27	薄片?		
	IK34-12	35	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	67.0	22.0	—	—	—		
	IK34-13	35	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—		
	IK34-14	35	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—		
	IK34-15	35	R-28	灰底部	1	漆	1	環状漆塗物	—	—	11	—	—	—	—	—
	IK34-16	35	R-28	灰底部	1	漆	1	環状漆塗物	—	45.0	23.3	—	—	—	—	—
	IK34-17	35	R-28	灰底部	1	漆	1	環状漆塗物	—	29.5	—	—	—	—	—	—
	IK34-18	35	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	45.5	17.0	—	—	—	—	
	IK34-19	35	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	28.0	17.0	—	—	—	—	
	IK34-20	34	R-28	灰底部	1	漆	1	環状漆塗物	—	77	—	—	—	—	—	—
	IK34-21	35	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	—	—
	IK34-22	36	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	16.0	8.5	4.0	0.49	—	—	
	IK34-23	36	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	15.0	9.5	4.0	0.51	—	—	
	IK34-24	36	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	17.0	11.0	5.0	0.81	—	—	
	IK34-25	36	R-28	灰底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	14.0	8.5	3.5	0.38	—	—	
	IK34-26	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑色凝灰岩	12.5	12.0	9.0	1.35	—	—	
	IK34-27	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑色凝灰岩	10.2	10.2	7.1	0.77	—	—	
	IK34-28	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑色凝灰岩	10.8	10.4	6.5	0.66	—	—	
	IK34-29	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑色凝灰岩	10.2	9.9	7.9	0.77	—	—	
	IK34-30	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑色凝灰岩	10.4	8.9	7.9	0.80	—	—	
	IK34-31	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑色凝灰岩	10.0	9.2	6.7	0.64	—	—	
	IK34-32	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑色凝灰岩	9.3	8.9	6.4	0.49	—	—	
	IK34-33	36	R-28	灰底部	4	玉	1	B-1	緑色凝灰岩	11.1	9.4	6.7	0.76	—	—	
	IK34-34	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑色凝灰岩	9.9	9.2	6.5	0.55	—	—	
	IK34-35	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑色凝灰岩	9.5	9.1	4.8	0.36	—	—	
	IK34-36	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.9	8.7	5.5	0.69	—	—	
	IK34-37	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.8	8.5	5.4	0.59	—	—	
	IK34-38	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.5	8.5	5.1	0.54	—	—	
	IK34-39	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.7	8.4	4.8	0.53	—	—	
	IK34-40	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.1	9.0	6.4	0.72	—	—	
	IK34-41	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.7	8.7	5.3	0.57	—	—	
	IK34-42	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	8.9	8.6	5.7	0.64	—	—	
	IK34-43	36	R-28	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	6.1	5.9	3.7	0.18	—	—	
	IK34-44	36	R-28	層土	3	網片	1	石籠	obs	3.15	1.82	0.40	1.55	—	—	
	IK34-45	36	R-28	層土	3	礫石	1	風石	砂岩	6.26	6.22	1.36	45.36	—	—	
P400	IK35-46	36	R-28	層土 (点取り)	5	B c	5 28	注口	御殿山式相当	8.6	5.3	15.7	—	—	—	
	IK35-47	36	R-28	層土 (点取り)	5	B c	15 6	漆鉢	御殿山式相当	13.2	14.9	6.0	—	—	—	
	IK35-48	36	R-28	層土	5	B c	2	漆鉢(口)	宮林-御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	
	IK35-49	36	R-28	層土	5	B c	1	漆鉢(口)	宮林-御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	
	IK35-50	36	R-28	層土	5	B c	1	漆鉢(口)	—	—	—	—	—	—	—	
	IK35-51	36	R-28	層土 (点取り)	5	B c	3 10	漆鉢(胴)	宮林-御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	同一個体
	IK35-52	36	R-28	層土	5	B c	—	漆鉢(底)	宮林-御殿山式相当	—	—	—	8.6	—	—	—
	IK36-1	37	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	57.0	82.6	—	—	—	—	
	IK36-2	37	R-28	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	28.5	27.0	—	—	—	—	
	IK36-3	37	R-28	層土	3	網片	1	石籠	百箇	3.71	1.98	0.66	1.62	—	—	
IK36-4	37	R-28	層土	3	網片	1	石籠	obs	4.40	1.71	0.70	4.62	—	—		
IK36-5	37	R-28	層土	3	網片	1	石籠タイプ	obs	4.70	2.10	0.70	5.96	—	—		

※分類1: 1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧(8)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリップ	層位	発見 分類Ⅰ	分類Ⅱ	高さ [m]	(土器/器種(部位))	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	—	備考	
								(玉類)/器種	石材	底径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)			
								(石器、石製品)/器種 (土製品)/名称 (骨角器)/種名 (漆・塗)/名称	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)		
P400	図36-6	37	R-28	甕土上面	5	Ⅱ c	1	漆跡(口)	竪林-御殿山式相当	—	—	—	—		
	図36-7	37	R-28	甕土上面	5	Ⅱ c	1	漆(口)	竪林-御殿山式相当	—	—	—	—		
P401	図36-8	37	R-28	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—		
	図38-1	39	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	20.0	99.5	—	—		
	—	39	R-29	—	—	—	—	—	—	24.0	9.0	—	—		
	—	39	R-29	—	—	—	—	—	104.0	29.5	11.5	5.24	—		
	—	39	R-29	—	—	—	—	—	59.5	27.5	6.5	0.87	—		
	—	39	R-29	—	—	—	—	—	62.5	23.0	4.5	0.88	—		
	—	39	R-29	—	—	—	—	—	103.0	28.5	—	—	—		
	図38-3	39	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	
	図38-4	39	R-28	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	53.5	—	—	—	—	製品(腕輪?)
	図38-5	39	R-28	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	
	図38-6	39	R-28	坑底部	4	玉	1	C-3 b	緑泥石岩	43.6	17.0	23.5	23.39	—	溝から外した物
	図38-7	39	R-28	坑底部	4	玉	1	A-6	緑泥石岩	16.0	15.1	31.3	10.65	—	
	図38-8	39	R-29	坑底部	4	玉	1	A-6	緑泥石岩	10.1	9.3	11.6	1.37	—	
	図38-9	39	R-29	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	10.3	10.2	4.8	0.68	—	腕輪の下から出土
	図38-10	39	R-29	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	7.3	7.0	3.7	0.24	—	腕輪の下から出土
図38-11	39	R-29	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	7.0	6.7	3.6	0.14	—	腕輪の下から出土	
図38-12	39	R-29	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	7.0	6.7	4.2	0.19	—		
図38-13	39	R-29	坑底部	3	網目	1	つまみ付きナイフ	百石	2.78	1.60	0.44	1.71	—	フローテーション	
図38-14	39	R-29	甕土	5	Ⅱ c	3	漆跡(口)	竪林-御殿山式相当	—	—	—	—	—		
P402	図39-1	40	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	19.0	14.0	13.0	0.22	—	
	図39-2	40	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	20.0	17.0	10.0	0.68	—	
	図39-3	40	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	18.0	18.5	10.0	0.26	—	
	図39-4	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	17.5	17.5	—	—	—	
	図39-5	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	19.5	15.5	—	—	—	
	図39-6	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	18.0	21.0	—	—	—	
	図39-7	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	21.0	14.0	—	—	—	
	図39-8	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	19.0	15.5	—	—	—	
	図39-9	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	
	図39-10	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	
	図39-11	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	
	図39-12	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	
	図39-13	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	22.5	16.0	—	—	—	
	図39-14	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	
	図39-15	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	
	図39-16	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	20.0	17.0	—	—	—	
	図39-17	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	21.5	16.5	—	—	—	
	図39-18	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	
	図39-19	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	25.0	16.5	—	—	—	
	図39-20	41	R-29	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	—	—	—	—	—	
	図39-21	40	R-29	坑底部	4	玉	1	C-3	緑泥石岩	19.9	14.1	12.8	3.76	—	
	図39-22	40	R-29	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	11.0	10.2	8.0	1.25	—	
	図39-23	40	R-29	坑底部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	10.0	9.0	6.6	0.76	—	
	図39-24	40	R-29	坑底部	4	玉	1	B-1	緑泥石岩	8.5	6.6	4.9	0.37	—	
	図39-25	40	R-29	甕土	3	網目	1	石眼	obs	2.52	1.40	0.36	0.05	—	
	図39-26	40	R-29	甕土	5	Ⅱ c	1	漆跡(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	—	
	図39-27	40	R-29	甕土	5	Ⅱ c	1	漆跡(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	—	
	図39-28	40	R-29	甕土	5	Ⅱ c	1	漆跡(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	—	
	P403	図40-1	42	S-28	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	34.0	29.0	—	—	—
		図40-2	42	S-28	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	66.5	29.5	—	—	—
図40-3		42	S-28	坑底部	2	骨角器	1	網目	—	1.1	0.65	0.45	0.27	—	
図40-4		42	S-28	甕土	3	網目	1	石眼	obs	1.80	1.55	0.34	0.73	—	
図40-5		42	S-28	甕土	3	網目	1	スクレイパー	漆塗	4.61	3.38	1.01	17.26	—	
図40-6		42	S-28	甕土	3	網目	1	スクレイパー	漆塗	6.00	3.40	1.20	28.28	—	
図40-7		42	S-28	甕土	3	礫石	1	砥石	砂岩	7.10	7.00	9.00	55	—	
図40-8		42	S-28	甕土	5	Ⅱ c	1	漆跡(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	—	
図40-9		42	S-28	甕土	5	Ⅱ c	2	漆跡(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	—	

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(9)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	発見層 I	分類II	高 度	(土器)/器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	容量 (L)	備考
								(玉類)/器種	石材	形状 (cm)	厚さ (cm)	長さ (cm)	幅 (cm)	
P403	040-10	42	S-28	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
	040-11	42	S-28	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
P404	042-1	44	P-34	灰底部	1	漆	1	漆塗	-	57.0	93.5	14.0	10.76	
	042-2	44	P-34	覆土中	1	漆	1	環状漆金製品	-	-	-	-	-	
	042-3	43	P-34	灰底部	2	骨角器/玉類	1	ホホロゾラメ	上野R3-5	1.90	1.80	0.42	0.14	
	042-4	43	P-34	灰底部	4	玉類	1	D-3	緑泥石器	33.5	33.0	6.0	8.90	
	042-5	43	P-34	灰底部	4	玉	1	C-2	緑泥石器	31.0	30.0	13.0	10.42	
	042-6	43	P-34	灰底部	4	玉	1	C-2b	緑泥石器	34.0	19.5	10.5	6.66	
	042-7	43	P-34	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.2	10.1	9.9	1.63	
	042-8	43	P-34	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.6	10.0	9.2	1.50	
	042-9	44	P-34	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	9.8	3.9	1.75	105.15	
	042-10	44	P-34	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	6.35	3.4	1.35	38.56	
P405	042-11	43	P-34	覆土	5	瓦c	1	注口(脚)	常林式相当	-	-	-	-	
	042-14	44	P-35	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林式相当	-	-	-	-	
	042-24	44	P-35	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林式相当	-	-	-	-	
P406	044-1	46	P-35	覆土	3	銅片	1	石鏡	obs	(3.1)	1.4	0.45	1.23	
	044-2	46	P-35	覆土	3	銅片	1	石鏡	obs	3.2	(1.75)	0.45	1.35	
	044-3	46	P-35	覆土	3	銅片	1	石鏡	obs	3.45	(1.5)	0.35	1.04	
	044-4	46	P-35	覆土	3	銅片	1	石鏡	obs	3.45	(1.3)	0.35	0.99	
	044-5	46	P-35	覆土	3	銅片	1	石鏡	obs	3.6	1.5	0.4	1.61	
	044-6	46	P-35	覆土	3	銅片	1	石鏡	obs	3.9	1.8	0.45	1.57	
	044-7	46	P-35	覆土	3	銅片	1	石鏡	obs	(3.65)	1.8	0.5	1.95	
	044-8	46	P-35	覆土	3	銅片	1	石鏡	obs	(2.0)	1.3	0.3	0.70	
	044-9	46	P-35	覆土	3	銅片	1	石鏡	頁岩	4.55	2.5	0.5	2.2	2.31
	044-10	46	P-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	4.1	2.4	0.9	8.39	
	044-11	46	P-35	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	obs	4.8	3.1	0.6	6.45	
	044-12	46	P-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	(4.3)	(2.2)	(0.7)	7.74	
	044-13	46	P-35	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁岩	7.4	4.6	1.5	39.21	
	044-14	46	P-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	7.4	4.15	1.5	27.35	
	044-15	46	P-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	5.8	2.9	1.0	15.13	
	044-16	46	P-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	4.5	3.6	1.0	13.28	
	044-17	46	P-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	3.0	4.6	0.9	9.51	
	044-18	46	P-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	2.5	4.2	0.8	7.67	
	044-19	46	P-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	3.0	4.7	0.9	9.14	
	044-20	46	P-35	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	obs	4.25	3.6	1.05	8.21	
	044-21	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ	obs	4.60	2.80	0.90	8.06	
	044-22	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ	obs	5.40	2.40	0.70	7.13	
	044-23	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ	obs	5.45	2.90	0.90	10.09	
	044-24	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ (スクレイパー)	obs	4.40	2.75	1.00	8.28	アスファルトより 外れたもの
	044-25	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ	obs	3.45	3.90	0.90	7.80	
	044-26	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ	obs	3.35	4.65	0.85	10.55	
	044-27	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ	obs	4.00	4.40	0.95	14.70	
	044-28	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ	頁岩	4.80	3.65	1.10	14.22	
	044-29	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ	obs	5.15	3.90	1.20	16.65	
	044-30	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ	obs	4.20	4.70	1.00	20.98	
044-31	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ (スクレイパー)	obs	4.10	6.05	1.10	16.65		
044-32	46	P-35	覆土	3	銅片	1	フレイタ	obs	4.50	4.95	1.00	18.40		
044-33	45	P-35	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	9.0	4.1	1.45	65.95		
044-34	45	P-35	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	10.23	4.25	1.65	91.62		
044-35	45	P-35	覆土	7	その他	-	アスファルト	-	-	-	-	-	102.52	5点接合
044-36	46	P-35	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林式相当	-	-	-	-	-	
046-1	47	Q-35	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林式相当	-	-	-	-	-	
P409	046-1	47	R-37	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁岩	6.83	1.90	0.95	10.78	
	046-2	47	S-37	覆土 (点取り)	5	Vb	14	浅鉢	晩期中葉	23.0	10.0	12.0	-	底部拓本
	046-3	47	S-37	覆土	5	Vb	1	浅鉢(口)	晩期中葉	-	-	-	-	
	046-4	47	S-37	覆土	5	Vb	1	鉢(口)	晩期中葉	-	-	-	-	

※分類1: 1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他



表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧(1)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリップ	層位	番号 分類Ⅰ	番号 分類Ⅱ	高さ [cm]	(土器)/器種(部位)	土器形式	口径 [cm]	器高 [cm]	底径 [cm]	容積 [cc]	備考
								(土器)/器種	石材	口径 [cm]	器高 [cm]	底径 [cm]	容積 [cc]	
P410	図47-1	46	O-32	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	4.40	1.70	0.56	2.36	
	図47-2	46	O-32	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
	図47-3	46	O-32	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
	図47-4	46	O-32	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
	図47-5	46	O-32	覆土	5	瓦c	1	フボ・注口(胴部)	常林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	同一個体
P411	図48-1	50	O-31	瓦底	4	瓦	1	A-2	緑泥石器	30.5	9.6	6.6	1.12	
	図48-2	50	O-31	瓦底	4	瓦	1	A-4	緑泥石器	8.9	8.8	4.9	0.59	
	図48-3	50	O-31	瓦底	4	瓦類	1	D-3	緑泥石器	32.0	31.5	4.0	6.98	
	図48-4	50	O-31	瓦底	4	瓦類	1	D-3	緑泥石器	40.0	27.5	6.0	5.01	
	図48-5	50	O-31	瓦底	4	瓦	1	B-3	緑泥石器	32.3	18.3	53.6	32.29	
	図48-6	50	O-31	覆土	3	銅片石器	1	石鏝	obs	2.95	1.54	0.31	0.97	
	図48-7	49	O-31	覆土 (点取り)	5	瓦c	11	フボ	三ツ谷式相当	7.2	-	-	-	
	図48-8	49	O-31	覆土 (点取り)	5	瓦c	10	フボ	三ツ谷式相当	6.5	17.7	5.2	-	内面ベンガラ付着
	図48-9	50	O-31	覆土 (点取り)	5	瓦c	37	フボ	三ツ谷式相当	2.5	13.3	4.0	-	保留
	図48-10	50	O-31	覆土 (点取り)	5	瓦c	23	フボ	三ツ谷式相当	-	10.3	-	-	ベンガラ付着
	図48-11	50	O-31	覆土 (点取り)	5	瓦c	18	フボ	三ツ谷式相当	-	(6.1)	2.8	-	ベンガラ付着
図48-12	50	O-31	覆土 (点取り)	5	瓦c	5	フボ	三ツ谷式相当	4.8	-	-	-		
図48-13	50	O-31	瓦底	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
図48-14	50	O-31	瓦底	5	瓦c	1	漆鉢(口)	常林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
図48-15	50	O-31	瓦底	5	瓦c	3	鉢(口)	三ツ谷式相当	-	-	-	-	ベンガラ付着	
図50-16	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	11.8	5.2	3.8	377.5		
図50-17	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	14.2	7.8	4.5	652.7		
図50-18	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	19.0	8.5	7.9	1602.3		
図50-19	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	16.4	4.8	4.6	469.0		
図50-20	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	17.0	7.3	4.5	732.2	石鏝?	
図50-21	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	16.2	6.7	4.9	912.2	すり石?	
図50-22	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	14.7	6.2	4.9	640.4		
図50-23	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	16.8	9.0	6.5	1284.7		
図50-24	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	14.8	8.0	5.5	925.3		
図50-25	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	18.0	9.5	3.8	911.8		
図50-26	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	12.9	6.8	6.5	783.2		
図50-27	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	13.9	10.0	6.5	1279.7		
図50-28	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	(8.0)	(6.0)	(2.5)	153.0		
図50-29	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	11.8	9.0	8.2	1100.9		
図50-30	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	12.0	8.0	7.5	1052.6		
図50-31	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	10.2	6.4	4.8	398.4		
図50-32	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	12.5	6.5	5.3	706.0		
図50-33	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	14.6	7.8	4.1	774.7		
図50-34	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	11.8	10.2	5.2	799.0		
図50-35	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	13.1	6.6	4.9	567.7		
図50-36	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	12.1	9.5	8.2	1375.8		
図50-37	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	12.8	7.1	4.5	569.2		
図50-38	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	14.9	7.8	5.9	913.2		
図50-39	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	15.3	9.8	9.8	2190.0	石鏝?	
図50-40	-	O-31	覆土	3	礫石器	1	礫	安山岩	11.6	8.6	6.4	763.1		
P412	図53-1	52	O-31	瓦底	1	漆	1	製針?	-	99.0	6.5	-	-	
	図53-2	52	O-31	瓦底	2	オキメジロザメ	1	オキメジロザメ	上顎L 1 or 2	1.90	1.50	0.33	0.18	
	図53-3	52	O-31	瓦底	2	オキメジロザメ	1	オキメジロザメ	上顎L	1.70	1.35	0.22	0.11	
	図53-4	52	O-31	瓦底	2	オキメジロザメ	1	(オキメジロザメ)	上顎L	1.60	1.60	0.30	0.08	製法上の可能性もあるが、 層位の観点の状況からオキ メジロザメの可能性がある
	図53-5	52	O-31	瓦底	2	オキメジロザメ	1	オキメジロザメ	上顎L	1.40	1.30	0.25	0.06	
図53-6	52	O-31	瓦底	2	オキメジロザメ	1	オキメジロザメ	下顎	1.15	0.85	0.26	0.05		
図53-7	52	O-31	瓦底	4	瓦	1	A-2	タムク化蛇紋岩	35.2	14.7	9.8	3.02		
図53-8	52	O-31	瓦底	4	瓦	1	A-4	タムク化蛇紋岩	12.6	12.6	11.7	1.98		

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/瓦類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(1)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	番号類 I	番号類 II	高さ (cm)	(土器/器種(部位))	土器形式	口径	器高	底径	-		備考	
								(玉類)/器種		石材	径長 (cm)	厚さ (mm)	径長 (cm)	厚さ (mm)		
P412	0053-9	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-2	タルク化蛇紋岩	13.2	12.9	9.5	2.74			
	0053-10	52	O-31	灰産部	4	玉	1	C-2	タルク化蛇紋岩	16.0	11.8	5.0	1.25			
	0053-11	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-2	タルク化蛇紋岩	10.8	10.6	7.4	1.08			
	0053-12	52	O-31	灰産部	4	玉	1	B-1	緑泥石	10.4	8.3	5.4	0.78			
	0053-13	52	O-31	灰産部	4	玉	1	B-2	タルク化蛇紋岩	11.9	9.9	15.0	2.78			
	0053-14	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-2	タルク化蛇紋岩	14.4	13.4	10.3	2.32			
	0053-15	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	11.7	10.9	9.8	1.77			
	0053-16	52	O-31	灰産部	4	玉	1	B-2	タルク化蛇紋岩	13.2	10.9	16.4	2.88			
	0053-17	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-2	タルク化蛇紋岩	14.0	13.0	8.7	2.05			
	0053-18	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	タルク化蛇紋岩	11.6	11.5	9.5	1.30			
	0053-19	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	タルク化蛇紋岩	11.4	11.0	9.2	1.52			
	0053-20	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	11.3	11.0	8.6	1.70			
	0053-21	52	O-31	灰産部	4	玉	1	B-3	タルク化蛇紋岩	17.7	13.2	27.1	9.64			
	0053-22	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-4	タルク化蛇紋岩	13.4	13.1	11.2	2.08			
	0053-23	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石	13.1	13.0	8.7	1.81			
	0053-24	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	13.9	13.7	7.6	2.10			
	0053-25	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	タルク化蛇紋岩	12.8	12.3	8.6	1.35			
	0053-26	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	12.2	11.8	10.1	2.22			
	0053-27	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	11.4	11.1	8.7	1.55			
	0053-28	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-2	タルク化蛇紋岩	14.3	14.2	9.2	2.50			
	0053-29	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-2	タルク化蛇紋岩	13.8	12.9	6.1	1.69			
	0053-30	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.0	9.0	7.5	0.89			
	0053-31	52	O-31	灰産部	4	玉	1	B-2	タルク化蛇紋岩	10.2	8.0	14.6	1.53			
	0053-32	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	タルク化蛇紋岩	13.2	12.4	7.7	1.43			
	0053-33	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-2	タルク化蛇紋岩	13.2	12.5	7.4	1.57			
	0053-34	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	タルク化蛇紋岩	11.1	10.8	7.7	1.33			
	0053-35	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	タルク化蛇紋岩	13.4	13.2	10.2	2.12			
	0053-36	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石	12.6	12.1	7.9	1.50			
	0053-37	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	タルク化蛇紋岩	11.6	11.1	5.7	0.91			
	0053-38	52	O-31	灰産部	4	玉	1	A-1	タルク化蛇紋岩	12.1	11.8	8.0	1.27			
	0053-39	52	O-31	灰産部	4	玉	1	B-2	緑泥石	16.6	10.6	18.7	4.94			
	0053-40	52	O-31	覆土上面	3	礫石器	1		石芥	泥器	15.9	5.0	3.0	389.7	覆土面にベンガラ	
	0053-41	52	O-31	覆土	3	礫石器	1		石芥	泥器	12.5	4.9	2.3	222.7		
	0053-42	52	O-31	覆土	3	礫石器	1		石芥	泥器	13.7	5.0	2.0	207.7		
	0053-43	53	O-31	覆土	5	B c	1		漆跡(口)	竈形-三ツ管式相当	-	-	-	-		
	0053-44	53	O-31	覆土	5	B c	1		フゴ/注口(胴)	竈形-三ツ管式相当	-	-	-	-		
	P413	0047-1	53	O-32	覆土	5	B c	1		漆跡(口)	竈形式相当	-	-	-		
		0047-2	53	O-32	覆土	5	B c	1		フゴ/注口(胴)	竈形-三ツ管式相当	-	-	-		ベンガラ付着
	P414	0047-1	55	P-27	覆土	3	銅片	1		石鏝	obs	2.15	1.39	0.31	0.57	S点中1点
		0047-2	55	P-27	覆土	3	B c-V a	1		鉢(口)	御殿山-大淵式相当	-	-	-	-	
		0047-3	55	P-27	覆土	5	B c	1		漆跡(口)	大淵B式相当	-	-	-	-	
		0047-4	55	P-27	覆土	5	B c	1		漆跡(口)	御殿山式相当	-	-	-	-	
		0047-5	55	P-27	覆土	5	V a	1		片口(口)	大淵B式相当	-	-	-	-	
0047-6		55	P-27	覆土	5	V a	3		浅鉢(口-底)	大淵B式相当	-	-	-	-		
P415	0047-7	55	P-27	覆土	5	B c	1		鉢(底)	竈形-御殿山式相当	-	-	-	2.8		
	0054-1	55	P-26	覆土	5	B c	1		漆跡(口)	竈形-御殿山式相当	-	-	-	-		
	0054-2	55	P-26	覆土	5	B c	1		フゴ/注口(口)	竈形-御殿山式相当	-	-	-	-	貫通孔	
	0054-3	55	P-26	覆土	5	B c	1		漆跡(胴)	竈形-御殿山式相当	-	-	-	-		
	0055-1	55	O-26	覆土	6	土製品	1		遺灰土製品	(スリット有)	(12.2)	(3.2)	1.7	6.44	ベンガラ付着	
P416	0055-2	55	O-26	覆土	5	B c	1		鉢(口)	竈形-御殿山式相当	-	-	-	-		
	0055-3	55	O-26	覆土	5	B c	1		鉢(口)	竈形-御殿山式相当	-	-	-	-		
	0055-4	55	O-26	覆土	5	B c	9		漆跡(口)	竈形-御殿山式相当	-	-	-	-		
	0055-5	55	O-26	覆土	5	B c	4		漆跡(口)	竈形-御殿山式相当	-	-	-	-		
	0055-6	55	O-26	覆土	5	B c	1		漆跡(口)	竈形-御殿山式相当	-	-	-	-		
	0055-7	55	O-26	覆土	5	B c	1		漆跡(口)	竈形-御殿山式相当	-	-	-	-		

※番号類 1: 漆製品 2: 骨角器 3: 石器 4: 石製品/玉類 5: 土器 6: 土製品 7: その他

表Ⅱ-1 土坑掲載遺物一覧(2)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	番号 分類Ⅰ	分類Ⅱ	点数	(土器)/器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重さ (g)	備考				
								(玉類)/器種	石材	長径 (cm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)					
P416	055-8	55	P-22	MC層	5	B c	1	深鉢(口)	—	—	—	—	11,12と同一個体					
	055-9	55	P-22	I層	5	B c	1	深鉢(胴)	—	—	—	—						
	055-10	55	O-26	I-B-B MC層	5	B c	4	深鉢(胴)	三ツ谷式相当	—	—	—		—				
										P-25	I層	1		—	—	—	—	
	055-11	55	H20	覆土9 MC層	5	B c	1	深鉢(胴)	三ツ谷式相当	—	—	—		—	8,9,10と同一個体			
										O-25	MC層	1		—		—	—	
										P-24	MC層	1		—		—	—	
	055-12	55	O-26	覆土 B層	5	B c	4	片口(胴)	御殿山式相当	—	—	—		—				
	P417	055-13	55	O-26	覆土	5	B c	1	深鉢(底)	堂林-御殿山式相当	—	—		5.4	—			
		055-1	55	O-26	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	1.67	1.40		0.31	0.49			
P418	054-2	55	O-26	覆土	5	B c	1	鉢(口)	堂林-三ツ谷式相当	—	—	—	—					
	054-1	57	P-27	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	堂林-御殿山式相当	—	—	—	—					
P419	054-2	57	P-27	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	堂林-御殿山式相当	—	—	—	—					
	056-1	57	N-27	覆土 (点取り)	5	V	44	深鉢	後北C,D	20.6	19.7	8.0	—					
	056-2	57	N-27	覆土 II B	5	V	2	注口	—	—	—	—	同一個体					
056-3	57	N-27	覆土 (点取り)	5	V	3	注口胴部	—	—	—	—							
P421	057-1	57	P-27	覆土	5	B c-V a	2	深鉢(口)	御殿山-大淵式相当	—	—	—	—					
	057-2	57	P-27	覆土	5	B c-V a	2	深鉢(口)	御殿山-大淵式相当	—	—	—	—					
P422	057-1	58	P-27	覆土	3	銅片	1	模形石器	obs	2.50	2.30	0.77	4.27	2点中1点				
	057-2	58	P-27	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	堂林-大淵式相当	—	—	—	—					
	057-3	58	P-27	覆土 MC層	5	B c	1	深鉢(口)	堂林式相当	—	—	—	—					
	057-4	58	P-27	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	堂林式相当	—	—	—	—					
	057-5	58	P-27	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—					
	057-6	58	P-27	覆土	5	V a	1	深鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—					
	057-7	58	P-27	覆土	5	B c	2	深鉢(口)	堂林-大淵式相当	—	—	—	—					
	057-8	58	P-27	覆土	5	V a	2	鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—					
	057-9	58	P-27	覆土	5	V a	2	鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—					
	057-10	58	P-27	覆土	5	V a	1	鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—					
057-11	58	P-27	覆土	5	V a	2	鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—						
057-12	58	P-27	覆土	5	V a	1	フゴ、注口(胴)	大淵B式相当	—	—	—	—						
057-13	58	P-27	覆土	5	B c	1	フゴ、注口(胴)	堂林-御殿山式相当	—	—	—	—						
P423	058-1	58	P-27	覆土	5	土	5	深鉢(胴)	萩+岡2式相当	—	—	—	—					
P425	058-1	59	O-26	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	三ツ谷-大淵式相当	—	—	—	—					
P426	059-1	59	P-26	MC層	5	B c	1	深鉢(口)	御殿山-大淵式相当	—	—	—	—					
										覆土	1	—	—	—				
										覆土 I層	5	B c	1	深鉢(口)	御殿山-大淵式相当	—	—	—
059-3	59	P-26	覆土 P417	5	V b	2	深鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—						
P427	059-1	59	L-27	覆土 (点取り)	5	V	3	深鉢(口)	赤穴式相当	—	—	—	—					
	059-2	59	L-27	覆土	5	V	3	深鉢(胴)	後北C,D	—	—	—	—					
P428	060-1	61	M-32	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	2.40	1.10	0.30	0.56					
														覆土	8	—	—	—
	060-2	60	M-32	日層	5	B c	4	鉢	御殿山-大淵B式相当	13.2	10.4	5.4	—					
														P486	7	—	—	—
														覆土	2	—	—	—
	060-3	61	M-32	覆土	5	V a	1	鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—					
	060-4	61	M-32	覆土	5	B c	1	鉢(口)	堂林-三ツ谷式相当	—	—	—	—					
	060-5	61	M-32	覆土	5	B c	1	鉢(口)	堂林-三ツ谷式相当	—	—	—	—					
	060-6	61	M-32	覆土	5	V a	4	フゴ、注口(口)	大淵B式相当	—	—	—	—					
	060-7	61	M-32	覆土	5	V a	4	フゴ、注口(口)	大淵B式相当	—	—	—	—					
060-8	61	M-32	覆土	5	V a	2	フゴ、注口(胴)	大淵B式相当	—	—	—	—						
060-9	61	M-32	覆土	5	V a	2	フゴ、注口(胴)	大淵B式相当	—	—	—	—						

番号類1: 1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(3)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	※分類Ⅰ	分類Ⅱ	高 さ (cm)	(土器/器種(部位))	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
								(玉類)/器種	石材	長径 (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)		
								(石器/石製品/骨類 土製品)/名称 (骨角器)/種名 (漆・灰)/名称	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)		
F428	F60-10	61	M-32 P429	覆土	5	Va	2	フゴ、注口(胴)	大淵B式相当	-	-	-	-	-	
							2								
							2								
F429	F60-11	61	M-32	覆土	5	Va	4	フゴ、注口(胴)	大淵B式相当	-	-	-	-	同一個体	
							5								
							5								
F431	F60-12	61	M-32	覆土	5	Va	5	フゴ、注口(胴)	大淵B式相当	-	-	-	-		
							5								
							5								
F431	F60-1	61	M-32	覆土	5	Bc	1	漆鉢(口)	堂鉢-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
							1								
							1								
F431	F60-2	61	M-32	覆土	5	Bc	1	漆鉢(口)	堂鉢-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
							1								
							1								
F431	F60-3	61	M-32	覆土	5	Bc	1	フゴ、注口(口)	堂鉢-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
							1								
							1								
F431	F60-1	62	M-30	灰灰部	2	ヤ/砂粒品	1	ホホジロザメ	下顎	1.75	1.15	0.45	0.11		
							1								
							1								
F431	F60-2	62	M-30	灰灰部	2	ヤ/砂粒品	1	ホホジロザメ	下顎	1.30	0.95	0.35	0.07		
							1								
							1								
F431	F60-3	62	M-30	灰灰部	2	ヤ/砂粒品	1	ホホジロザメ	下顎	1.30	0.85	0.40	0.07		
							1								
							1								
F431	F60-4	63	M-30	覆土	3	礫石器	1	威石	砂笥	10.10	10.60	2.65	295		
							3								
							3								
F431	F60-5	63	M-30	覆土	5	Bc	3	注口	御殿山式相当	-	(12.2)	1.2	-		
							33								
							1								
F431	F60-6	63	M-30	日曜	5	Bc	1	鉢	御殿山式相当	17.0	11.4	8.0	-		
							2								
							2								
F431	F60-7	63	M-30	覆土	5	Bc	37	鉢	御殿山式相当	17.0	11.4	8.0	-		
							9								
							9								
F431	F60-8	63	M-30	覆土	5	Bc	15	漆鉢	御殿山式相当	35.9	37.8	9.0	-		
							7								
							14								
F431	F60-9	63	M-30	覆土	5	Bc	1	鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	-	-	-	-		
							1								
							1								
F431	F60-10	63	M-30	覆土	5	Bc	1	漆鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	-	-	-	-		
							1								
							1								
F431	F60-11	63	M-30	覆土	5	Bc	1	フゴ、注口(口)	御殿山式相当	-	-	-	-		
							1								
							1								
F431	F60-12	63	M-30	覆土	5	Bc	1	注口	御殿山式相当	-	-	-	-		
							1								
							1								
F431	F60-13	63	M-30	覆土	5	Bc	3	フゴ、注口(胴)	御殿山-大淵B式相当	-	-	-	-		
							3								
							3								
P432	F60-1	65	M-30	覆土中	4	玉	1	C-3	蛇紋石	47.5	17.0	22.0	32.53	※ズビにかじられている	
							1								
							1								
P432	F60-2	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	C-2b	緑泥石	32.5	20.0	12.0	10.68		
							1								
							1								
P432	F60-3	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-4	緑泥石	56.3	15.9	12.5	4.47		
							1								
							1								
P432	F60-4	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	11.4	11.4	9.5	1.76		
							1								
							1								
P432	F60-5	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	6.8	6.6	4.9	0.21		
							1								
							1								
P432	F60-6	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-2	ジャスパー	9.5	9.4	6.9	0.79		
							1								
							1								
P432	F60-7	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.4	8.4	7.4	0.68		
							1								
							1								
P432	F60-8	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-6	緑泥石	10.6	10.6	12.6	2.18		
							1								
							1								
P432	F60-9	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-6	緑泥石	14.3	13.7	16.2	4.68		
							1								
							1								
P432	F60-10	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	14.9	14.6	12.9	3.88		
							1								
							1								
P432	F60-11	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	12.2	11.7	8.5	1.95		
							1								
							1								
P432	F60-12	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	10.7	10.5	7.5	1.26		
							1								
							1								
P432	F60-13	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.6	9.2	7.3	0.83		
							1								
							1								
P432	F60-14	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.7	7.9	5.8	0.55		
							1								
							1								
P432	F60-15	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.0	8.4	5.5	0.58		
							1								
							1								
P432	F60-16	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	10.2	10.0	7.7	1.10		
							1								
							1								
P432	F60-17	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	15.3	14.5	11.3	3.81		
							1								
							1								
P432	F60-18	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	12.4	12.1	11.5	2.49		
							1								
							1								
P432	F60-19	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.2	7.8	5.9	0.51		
							1								
							1								
P432	F60-20	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	10.2	9.5	7.6	1.01		
							1								
							1								
P432	F60-21	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.6	8.5	5.4	0.33	割れ	
							1								
							1								
P432	F60-22	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.2	8.9	4.7	0.50		
							1								
							1								
P432	F60-23	65	M-30	灰灰部	4	玉	1	C-1	ヒスイ	15.8	8.0	5.5	1.19		
							1								
							1								
P432	F60-24	64	M-30	(一括) 覆土	5	Va	76	注口	大淵B式相当	9.0	15.0	6.0	-		
							14								
							24								
P432	F60-25	64	M-30	日曜	5	Va	2	フゴ	大淵B式相当	8.3	9.0	6.0	-		
							2								
							1								
P432	F60-26	64	M-30	覆土	5	Va	25	鉢	大淵B式相当	16.8	12.0	8.0	-		
							2								
							2								
P432	F60-27	64	M-30	覆土	5	Va	22	浅鉢	大淵B式相当	12.5	5.55	7.0	-		
							2								
							2								

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧(14)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、グリッド	層位	発見部	分類Ⅱ	高さ	(土器)／器種(部位)		土器形式	口径	器高	底径	—		備考	
								(玉類)／器種	石材		径	径	厚さ	長さ			
											(石部・石製品)／器種 (土製品)／名称 (骨角器)／種名 (漆・他)／名称	径	径	厚さ	長さ		
P432	065-29	64	M-30	(一括)	5	Va	25	片口	大淵B式相当	23.0	9.0	8.3	—	—	—		
	065-29	65	M-30	覆土	5	Va	2	漆鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—	—	—		
	065-30	65	M-30	覆土	5	Va	1	漆鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—	—	—		
	065-31	65	M-30	覆土	5	Va	2	鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—	—	—		
	065-32	65	M-30	覆土	5	Va	1	漆鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—	—	—		
P433	067-1	66	N-30	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下腹	1.15	0.60	0.28	0.03	—	—		
	067-2	66	N-30	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下腹	1.35	0.75	0.30	0.06	破片4	—		
	067-3	66	N-30	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	—	0.7	0.45	0.15	0.01	—	—		
	067-4	66	N-30	坑底部	4	瓦	1	C-2b	緑泥石岩	20.1	20.0	10.4	6.90	—	—	—	
	067-5	66	N-30	坑底部	4	瓦	1	B-2	赤色夾質岩	15.8	12.7	21.4	7.47	—	—	—	
	067-6	66	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-2	コハク	8.2	7.7	5.3	0.17	—	—	—	
	067-7	66	N-30	坑底部	4	瓦	1	C-1	緑泥石岩	13.5	8.0	3.2	0.43	—	—	—	
	067-8	66	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-1	緑泥石岩	10.6	10.2	5.6	0.76	—	—	—	
	067-9	66	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-1	緑泥石岩	11.4	10.5	8.6	1.32	—	—	—	
	067-10	66	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-2	緑泥石岩	11.3	10.0	8.3	1.27	—	—	—	
	067-11	66	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-1	緑泥石岩	10.7	10.3	8.6	1.23	—	—	—	
	067-12	66	N-30	坑底部	4	石製品	1	石刀	緑色凝灰岩	(22.3)	3.7	2.0	—	—	—	—	
	067-13	67	N-30	覆土	5	Va	49	注口	大淵B式相当	—	13.0	—	—	—	—	—	
	067-14	67	N-30	覆土	5	Va	6	ミニチュア	大淵B式相当	—	—	—	—	—	—	—	
	067-15	67	N-30	—	5	Va	2	ミニチュア	大淵B式相当	—	—	—	—	—	—	—	
	067-16	67	N-30	覆土	5	Va	30	ミニチュア	大淵B式相当	(4.0)	(5.6)	—	—	—	—	—	
	067-17	67	N-30	—	5	Va	1	—	大淵B式相当	—	3.2	—	—	—	—	—	
	067-18	67	N-30	覆土	5	Pr c	1	漆鉢(口)	新島山-大淵B式相当	—	—	—	—	—	—	—	
	067-19	67	N-30	覆土	5	Pr c	1	フゴ、注口(底)	新島山-大淵B式相当	—	—	—	—	—	—	—	
	P434	068-1	68	N-30	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	—	—	—	—	—	—	—
068-2		68	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-1	緑泥石岩	7.7	7.6	5.8	0.56	—	—	—	
068-3		68	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-4	緑泥石岩	10.9	10.2	5.8	0.93	—	—	—	
068-4		68	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-1	緑泥石岩	8.4	7.9	3.3	0.28	—	—	—	
068-5		68	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-1	緑泥石岩	8.3	7.9	4.4	0.30	—	—	—	
068-6		68	N-30	坑底部	4	瓦	1	B-1	緑泥石岩	9.4	7.7	5.4	0.45	—	—	—	
068-7		68	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-1	緑泥石岩	7.9	7.8	4.4	0.41	—	—	—	
068-8		68	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-1	緑泥石岩	9.6	9.0	3.3	0.25	割れ	—	—	
068-9		68	N-30	坑底部	4	瓦	1	A-1	緑泥石岩	9.6	9.2	4.8	0.62	—	—	—	
068-10		68	N-30	覆土	3	銅片	1	石銀	obs	3.00	1.20	0.50	1.42	—	—	—	
068-11		68	N-30	覆土	5	Pr c	1	漆鉢(胴)	堂林-三ツ岩式相当	—	—	—	—	—	—	—	
068-12		69	O-30	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下腹	1.05	0.70	0.30	0.04	—	—	—	
068-13	69	O-30	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下腹	1.15	0.90	0.22	0.04	—	—	—		
068-14	69	O-30	坑底部	2	ヤハシ器品	1	不明	下腹	1.00	0.60	(0.20)	0.03	破片資料	—	—		
068-15	69	O-30	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下腹	0.65	0.50	0.20	0.01	—	—	—		
068-16	69	O-30	覆土中	4	瓦	1	C-1b	緑泥石岩	24.5	8.0	7.0	1.37	割れ	—	—		
068-17	69	O-30	覆土中	4	瓦	1	B-2	緑泥石岩	23.7	17.2	22.7	13.66	—	—	—		
068-18	69	O-30	覆土中	4	瓦	1	A-2	緑泥石岩	11.5	11.0	6.3	1.21	—	—	—		
068-19	69	O-30	覆土中	4	瓦	1	A-4	緑泥石岩	10.8	9.4	9.7	1.34	—	—	—		
068-20	69	O-30	覆土中	4	瓦	1	A-2	緑泥石岩	10.9	10.6	8.1	1.56	—	—	—		
068-21	69	O-30	覆土中	4	瓦	1	B-2	緑泥石岩	11.3	8.9	13.3	1.87	—	—	—		
068-22	69	O-30	覆土中	4	瓦	1	A-2	緑泥石岩	14.2	11.1	9.1	1.75	—	—	—		
068-23	69	O-30	覆土	3	銅片	1	つまみ付キナイフ	obs	8.0	2.25	1.15	16.94	—	—	—		
068-24	69	O-30	覆土	5	Pr c	1	漆鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	—		
068-25	69	O-30	覆土	5	Pr c	1	漆鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	—		
068-26	69	O-30	覆土	5	Pr c	1	漆鉢(胴)	堂林-御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	—		
068-27	69	O-30	覆土	5	Pr c	1	フゴ、注口(胴)	三ツ岩-御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	—		
068-28	69	O-30	覆土	5	Pr c	1	フゴ、注口(底)	三ツ岩-御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	—		
068-29	69	O-30	覆土	5	Pr c	2	フゴ、注口(底)	三ツ岩-御殿山式相当	—	—	—	—	—	—	—		
069-18	—	O-30	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	破片(3)	—	—	—	—	<0.01	未実測	—		
069-20	—	O-30	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	破片(2)	—	—	—	—	<0.01	未実測	—		
P436	071-1	70	O-30	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	56.0	66.0	10.0	7.09	—	—	—	
	071-2	70	O-30	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	91.0	25.0	—	—	—	—	—	
	071-3	70	O-30	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	—	—	—	—	—	—	—	
	071-4	69	O-30	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	上腹 1 or 2	1.50	1.15	0.30	0.17	1.5-2cmの小型の割れ	—	—	

※分類1：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品／玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(15)

遺構	調査号	図面 図号	組合遺構 グリッド	層位	発見 番号	分類Ⅱ	高 位	(土器)／器種(部位)		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
								(玉類)／器種	石材							
F436	071-5	69	O-30	坑底部	2	*ヤブ器品	1	ホホヅロサメ	下部の可能性あり	0.65	0.45	0.17	0.01	破片資料		
	071-6	69	O-30	坑底部	2	*ヤブ器品	1	ホホヅロサメ		0.70	0.55	0.20	0.02	破片資料		
	071-7	69	O-30	坑底部	2	*ヤブ器品	1	ホホヅロサメ	下部の可能性あり	0.65	0.25	0.23	0.01	破片資料		
	071-8	69	O-30	坑底部	2	*ヤブ器品	1	ホホヅロサメ		0.65	0.50	0.27	0.01	破片資料		
	071-9	69	O-30	坑底部	2	*ヤブ器品	1	ホホヅロサメ	上部の可能性あり	0.70	0.60	0.20	0.02			
	071-10	69	O-30	坑底部	2	*ヤブ器品	1	ホホヅロサメ	上部の可能性あり	0.65	0.50	0.20	0.01			
	071-11	69	O-30	坑底部	2	*ヤブ器品	1	ホホヅロサメ	上部の可能性あり	0.60	0.60	0.18	0.03			
	071-12	70	O-30	坑底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	37.0	23.5	12.0	12.31			
	071-13	70	O-30	坑底部	4	玉	1	C-1	緑泥石	30.0	18.5	9.0	5.56			
	071-14	70	O-30	坑底部	4	玉	1	C-2b	緑泥石	29.0	18.0	10.5	6.87			
	071-15	70	O-30	覆土	3	-	1	石斧	視置	17.0	5.7	3.00	465.7	赤彩あり		
	071-16	69	O-30	覆土	5	Bc	1	深鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	-	-	
	F437	072-1	71	M-31	覆土	3	網片	1	石鏝	obs	3.60	1.59	0.53	1.69		
		072-2	71	M-31	覆土	3	網片	1	スクレイパー	メノウ	6.50	4.40	1.56	37.74		
072-3		71	M-31	覆土	5	Bc	1	深鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	-	-	
072-4		71	M-31	覆土	5	Bc	1	深鉢 (胴)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	-	-	
072-5		71	M-31	覆土	5	Bc	2	深鉢 (胴)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	-	-	
072-6		71	M-31	覆土	5	Bc	1	フゴ、注口 (胴)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	-	-	
F438	072-1	72	N-31	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	-	73.5	89	-	-	-	
	072-2	72	N-31	覆土	5	Bc	1	深鉢 (口)	堂林-舞鶴山式相当	-	-	-	-	-	-	
	072-3	72	N-31	覆土	5	Bc	1	鉢 (口)	舞鶴山式相当	-	-	-	-	-	-	
	072-4	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.6	8.5	4.7	0.52			
	072-5	72	N-31	坑底部	4	玉	1	B-1	緑泥石	9.5	7.9	5.0	0.48			
	072-6	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.9	9.4	4.9	0.09			
	072-7	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.5	9.1	4.3	0.20			
	072-8	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.2	7.8	3.9	0.34			
	072-9	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.2	7.1	5.8	0.80			
	072-10	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.5	9.2	4.0	0.77			
	072-11	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.7	9.7	3.3	0.60			
	072-12	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	コハタ	9.5	9.2	7.7	0.45			
	072-13	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-2	コハタ	8.5	8.4	5.4	0.70			
	072-14	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-6	緑泥石	10.3	10.0	11.8	0.67			
	072-15	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.3	8.1	7.6	0.54			
	072-16	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.0	8.6	8.0	0.52			
	072-17	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-3	緑泥石	8.3	8.3	8.5	0.73			
	072-18	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.2	9.2	4.3	0.59			
	072-19	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.9	9.7	4.7	0.37			
	072-20	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	10.3	9.4	5.2	0.43			
	072-21	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.1	8.0	3.4	0.57			
	072-22	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	6.6	6.3	3.4	0.54			
	072-23	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	コハタ	6.3	6.0	4.8	0.35			
	072-24	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.2	6.7	6.6	0.22			
	072-25	72	N-31	坑底部	4	玉	1	A-3	緑泥石	7.9	7.5	8.0	1.33			
	P439	076-1	76	N-31	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	56.0	82.0	10.0	11.05		
		076-2	76	N-31	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	64.5	83.5	-	-		
		076-3	76	N-31	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	55.0	69.5	16.5	6.93		
		076-4	76	N-31	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	55.5	87.0	10.0	11.07		
076-5		76	N-31	坑底部	1	漆	1	環状漆塗物	-	112.0	94.0	-	-			
076-6		77	N-31	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	247.0	42.0	-	-			
076-7		76	N-31	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	-	-	-	-			
077-8		77	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.2	7.7	5.2	0.41			
077-9		77	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.7	7.5	4.3	0.25			
077-10		77	N-31	坑底部	4	玉	1	A-2	コハタ	7.3	7.1	4.6	0.15			
077-11		77	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	コハタ	7.4	6.6	6.4	0.20			
077-12		77	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.9	7.3	5.5	0.43			
077-13		77	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.8	7.5	3.4	0.28			
077-14		77	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	コハタ	8.4	7.8	7.2	0.25			
077-15	77	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	コハタ	7.6	7.4	6.2	0.21				
077-16	77	N-31	坑底部	4	玉	1	C-1	緑泥石	20.0	12.0	6.7	1.72				

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品／玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧(6)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	※分類Ⅰ	分類Ⅱ	高さ (mm)	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	—	備考
								(玉類)／器種	石材	底径 (cm)	厚さ (mm)	底径 (cm)	厚さ (mm)	
F430	077-17	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.2	6.9	4.1	0.26	
	077-18	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-1	コハク	7.1	7.0	5.7	0.15	
	077-19	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-1	コハク	8.2	7.9	5.2	0.19	
	077-20	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-6	緑泥石器	15.9	13.9	27.9	9.21	
	077-21	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-2	コハク	8.5	8.2	5.5	0.25	
	077-22	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-1	コハク	8.8	8.4	5.5	0.21	破片 5
	077-23	77	N-31	灰産部	4	玉	1	C-2 b	緑泥石器	37.5	22.0	9.5	8.66	
	077-24	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-2	コハク	8.4	7.7	6.0	0.21	
	077-25	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-2	コハク	9.0	8.4	5.6	0.19	割れ
	077-26	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-6	緑泥石器	8.8	8.8	10.6	1.19	
	077-27	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.4	6.8	3.7	0.24	
	077-28	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.7	7.4	4.0	0.36	
	077-29	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.1	9.9	5.8	0.88	
	077-30	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.8	9.8	6.1	0.84	
	077-31	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.20	1.18	1.11	1.37	
	077-32	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.08	1.00	0.94	0.93	
	077-33	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.08	1.08	0.98	1.12	
	077-34	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.10	1.05	0.98	1.11	
	077-35	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.00	1.09	1.00	1.03	
	077-36	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	0.99	0.90	0.87	0.79	
	077-37	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.04	1.05	0.93	0.93	
	077-38	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.10	1.10	0.98	1.13	
	077-39	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.20	1.20	0.98	1.27	
	077-40	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.10	1.00	0.91	0.99	
	077-41	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.06	1.09	0.93	0.93	
	077-42	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.10	1.00	0.95	1.01	
	077-43	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	0.99	0.99	0.93	0.85	
	077-44	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.10	1.10	1.01	1.18	
	077-45	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.00	1.00	0.98	0.88	
	077-46	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.01	1.00	0.99	0.98	
	077-47	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.10	1.01	0.93	0.92	
	077-48	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.10	1.00	0.81	0.86	
	077-49	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.20	1.10	0.96	1.06	
	077-50	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.10	1.10	0.94	0.99	
	077-51	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.10	1.00	0.99	1.01	
	077-52	77	N-31	灰産部	6	土製品	1	土玉	—	1.15	1.09	1.06	1.21	
	077-53	77	N-31	灰産部	4	玉	1	C-2	緑泥石器	38.1	20.0	10.3	9.06	
	077-54	77	N-31	灰産部	4	玉	1	C-2	緑泥石器	26.0	18.5	10.0	6.63	
	077-55	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	5.6	5.3	5.0	0.19	
	077-56	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	8.6	8.2	6.4	0.58	
	077-57	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.6	8.2	6.5	0.56	
	077-58	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	9.0	8.8	6.5	0.71	
	077-59	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	10.0	9.5	8.3	1.01	
	077-60	77	N-31	灰産部	4	玉	1	B-2	緑泥石器	14.6	11.7	22.1	4.77	
	077-61	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.5	9.3	7.5	0.83	
	077-62	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.8	8.8	8.7	0.79	
077-63	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	9.5	9.1	6.9	0.55	破片 2 接合 割れ	
077-64	77	N-31	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.2	9.2	7.8	0.79		
077-65	77	N-31	塵土	5	骨 c	1	鉢 (口)	御殿山式部当	—	—	—	—		
	075-66	—	N-31 灰産部	4	玉	1	—	コハク	—	—	—	—	0.05 破片 7	
P440	077-1	78	N-31	塵土	5	骨 c	1	鉢 (胴)	三ツ谷一飯殿山式部当	—	—	—	—	
	077-2	78	N-31	塵土	5	V b	4	浅鉢 (口)	磯期中葉	—	—	—	—	
P441	079-1	79	N-31	灰産部	1	漆	1	漆塗玉	—	56.0	23.0	—	—	
	079-2	79	N-31	灰産部	1	漆	1	漆塗玉	—	—	—	—	—	
	079-3	79	N-31	灰産部	1	漆	1	漆塗玉	—	—	—	—	—	
	079-4	79	N-31	灰産部	1	漆	1	漆塗玉	—	—	—	—	—	
	079-5	79	N-31	灰産部	1	漆	1	漆塗玉	—	—	—	—	—	
	079-6	79	N-31	灰産部	1	漆	1	漆塗玉	—	—	—	—	—	
	079-7	79	N-31	灰産部	1	漆	1	漆塗玉	—	—	—	—	—	

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品／玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(1)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	発見部	分類Ⅱ	高さ	(土器/器種(部位))		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
								(玉類)/器種	石材							
								(石器/石製品/骨類 (土製品)/名称 (骨角器)/種名 (漆・灰)/名称	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)			
P441	079-8	79	N-31	坑底部	1	漆	1		漆塗玉	—	—	—	—	—	—	
	079-9	79	N-31	坑底部	1	漆	1		漆塗玉	—	—	—	—	—	—	
	079-10	79	N-31	坑底部	1	漆	1		漆塗玉	—	—	—	—	—	—	
	079-11	79	N-31	坑底部	1	漆	1		漆塗玉	—	—	—	—	—	—	
	079-12	79	N-31	坑底部	1	漆	1		漆塗玉	—	—	—	—	—	—	
	079-13	79	N-31	坑底部	1	漆	1		漆塗玉	—	—	—	—	—	—	
	079-14	79	N-31	坑底部	1	漆	1		漆塗玉	—	—	—	—	—	—	
	079-15	79	N-31	坑底部	1	漆	1		漆塗玉	—	—	—	—	—	—	
	079-16	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	9.0	8.2	5.0	0.60		
	079-17	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	8.0	7.9	4.9	0.48		
	079-18	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	凝灰岩?	8.3	7.9	5.2	0.49		
	079-19	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	7.9	7.7	4.5	0.46		
	079-20	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	凝灰岩	7.7	7.3	4.4	0.31		
	079-21	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	8.1	7.8	4.7	0.43		
	079-22	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	8.6	8.4	5.5	0.72		
	079-23	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	7.7	7.5	4.1	0.34		
	079-24	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	7.4	7.2	4.3	0.31		
	079-25	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	10.5	10.0	6.1	0.94		
	079-26	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	10.8	10.3	5.8	1.10		
	079-27	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	7.3	7.0	3.9	0.29		
	079-28	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-2	緑泥石器	10.7	10.3	7.1	1.25		
	079-29	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	11.1	10.5	6.8	1.40		
	079-30	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	10.0	9.8	6.4	0.94		
	079-31	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	7.5	7.1	3.9	0.33		
	079-32	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	10.6	9.9	6.3	1.08		
	079-33	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-2	緑泥石器	10.6	9.5	7.3	1.23		
	079-34	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	7.2	6.8	3.3	0.22		
	079-35	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-2	凝灰岩?	8.9	8.8	6.6	0.67		
	079-36	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	8.3	8.1	4.7	0.54		
	079-37	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	11.7	10.4	7.6	1.45		
	079-38	80	N-31	坑底部	4	玉	1		A-1	緑泥石器	7.1	7.1	4.6	0.33		
	079-39	80	N-31	魔土	3	銅片	1		石槍	obs	5.10	2.00	0.61	4.01		
	079-40	80	N-31	魔土	3	礫石器	1		石斧	凝灰	(径.10)	3.85	1.30	0.50		
	079-41	80	N-31	魔土	5	漆	1		漆鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	079-42	80	N-31	魔土	5	漆	1		漆鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	079-43	80	N-31	魔土	5	漆	1		漆鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	079-44	80	N-31	魔土	5	漆	1		ミニチュア (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	079-45	80	N-31	魔土	5	漆	1		ミニチュア (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		未定
	079-46	80	N-31	魔土	5	漆	1		鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	079-47	80	N-31	魔土	5	漆	1		フゴ・注口 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	079-48	80	N-31	魔土	5	漆	4		フゴ・注口 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		ベンガラ付着
	080-1	80	N-31	魔土	5	漆	1		漆鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	080-2	80	N-31	魔土	5	漆	1		鉢 (朝)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	080-3	80	N-31	魔土	5	Vb	1		浅鉢 (口)	晩期中葉	—	—	—	—		
P443	082-1	81	O-31	魔土	3	銅片	1	石鏡	obs	(2.7)	1.4	0.5	1.37			
	082-2	81	O-31	魔土	3	銅片	1	石鏡	obs	(2.5)	(1.4)	(0.35)	0.97			
	082-3	81	O-31	魔土	3	銅片	1	スクレイパー	頁岩	4.2	3.5	1.1	15.93			
	082-4	81	O-31	魔土	3	銅片	1	スクレイパー	頁岩	7.4	4.2	1.4	40.82			
	082-5	82	N-31	魔土	6	土製品	1	環状土製品	—	5.42	5.40	1.43	29.87		ベンガラ	
	082-6	81	N-31	魔土	5	漆	4	漆鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—			
	082-7	81	N-31	魔土	5	漆	2	ミニチュア (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—			
	082-8	81	N-31	魔土	5	漆	1	ミニチュア (底)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		2.0	
	082-9	81	N-31	魔土	5	漆	13	漆鉢 (口)	三ツ谷式相当	—	—	—	—			
	082-10	82	N. O-31	魔土	3	礫石器	1	台石	安山岩	32.30	20.70	10.40	9200			
P444	084-1	83	O-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.2	10.0	6.4	1.18			
	084-2	83	O-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.6	10.9	9.7	1.88			
	084-3	83	O-31	坑底部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	9.6	9.2	6.0	0.85			

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他



表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧(別)

遺構	回番号	回層番号	組合遺構、 グリップ	層位	発見層Ⅰ	分類Ⅱ	高 位	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	—	備考									
								(玉類)／器種	石材	口径	底径	厚さ	—										
								(石器、石製品)／器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ										
								(土製品)／名称	部位	長さ	幅	厚さ	重さ										
								(骨角器)／種名	部位	長さ	幅	厚さ	重さ										
								(漆・灰)／名称	—	—	—	—	—										
P444								A-6	緑泥石器	11.3	11.2	11.6	1.98										
								A-1	緑泥石器	10.9	10.1	7.8	1.35										
								A-2	緑泥石器	11.9	11.8	8.3	1.71										
								A-4	緑泥石器	9.9	9.1	8.9	1.14										
								A-1	緑泥石器	10.7	10.0	8.7	1.48										
								A-6	緑泥石器	12.1	11.6	14.0	3.01										
								A-1	緑泥石器	9.5	9.2	4.9	0.61										
								A-1	緑泥石器	8.1	7.4	4.8	0.46										
								A-2	緑泥石器	9.7	9.4	5.9	0.77										
								A-1	緑泥石器	7.8	7.2	3.4	0.26										
								A-1	緑泥石器	10.2	9.5	8.5	1.27										
								A-4	緑泥石器	9.5	9.2	8.1	0.97										
								A-4	緑泥石器	9.8	9.6	7.5	1.04										
								C-2 b	緑泥石器	30.0	15.0	10.5	6.85										
								A-2	緑泥石器	8.5	7.9	4.9	0.47										
								A-2	緑泥石器	9.8	9.6	7.2	0.89										
								A-1	緑泥石器	9.5	9.5	5.6	0.77										
								A-1	緑泥石器	8.8	8.6	7.1	0.88										
								A-1	緑泥石器	8.8	8.3	7.0	0.68										
								A-1	緑泥石器	10.6	10.1	5.1	0.95										
								A-2	緑泥石器	7.4	7.0	4.5	0.33										
								A-2	緑泥石器	9.3	9.1	4.9	0.72										
								A-1	緑泥石器	8.3	8.0	4.3	0.45										
								C-1 b	緑泥石器	23.0	17.9	11.1	5.37										
								A-1	緑泥石器	11.6	11.1	8.7	1.87										
								A-4	緑泥石器	13.1	13.0	9.9	2.80										
								A-1	緑泥石器	9.6	9.4	7.2	0.97										
								A-1	緑泥石器	9.2	8.8	4.7	0.64										
								A-1	緑泥石器	9.0	9.0	6.7	0.88										
								A-1	緑泥石器	9.4	8.9	5.8	0.69										
								A-1	緑泥石器	9.1	9.0	8.7	1.09										
								A-1	緑泥石器	8.4	8.1	7.3	0.73										
								A-1	緑泥石器	9.1	8.7	5.4	0.64										
								A-1	緑泥石器	8.6	8.5	4.0	0.49										
								A-1	緑泥石器	9.1	8.8	6.3	0.82										
								A-1	緑泥石器	8.0	7.7	5.2	0.49										
								A-1	緑泥石器	8.2	7.9	6.3	0.61										
								A-1	緑泥石器	9.9	9.6	7.1	0.97										
								A-1	緑泥石器	8.9	8.1	5.2	0.55										
								A-1	緑泥石器	9.3	8.9	6.4	0.85										
								A-1	緑泥石器	10.5	10.2	5.0	0.91										
								A-1	緑泥石器	10.3	9.4	5.8	0.92										
								A-1	緑泥石器	8.5	8.1	4.8	0.52										
								A-1	緑泥石器	7.1	7.1	4.7	0.38										
								P448	83	N-31			5	B c	1	ツボ・注口(胴)	三ツ谷式相当	—	—	—	—	最大径14.3cm	
																							1
																							1
2																							
1																							
P449	83	N-31			5	B c	2	漆鉢(口)	堂林-三ツ谷式相当	—	—	—	—										
															1								
															1								
															1								
															1								
P440	83	N-31			5	B c	1	漆鉢(胴)	三ツ谷式相当	—	—	—	—										
															1								
															1								
															1								
															1								
P441	83	N-31			5	B c	2	漆鉢(口)	堂林-三ツ谷式相当	—	—	—	—										
															1								
															1								
															1								
															1								
P445	86	N-31			1	漆	1	漆塗物	—	60.0	85.5	—	—										
															1								
															1								
															1								
															1								
87	85	N-31			2	中々石製品	1	中々石製品	下顎	1.25	0.90	0.38	0.06										
															2								
															2								
															2								
															2								
88	85	N-31			2	中々石製品	1	中々石製品	下顎	1.25	1.10	0.35	0.06										
															2								
															2								
															2								
															2								
89	85	N-31			2	中々石製品	1	中々石製品	下顎	1.25	1.15	0.40	0.06										
															2								
															2								
															2								
															2								

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品／玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(9)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 ドリット	層位	番号 I	分類II	高 位	(土器)/器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考
								(玉類)/器種	石材	長径 (cm)	幅径 (cm)	厚さ (cm)	高さ (cm)	
P445	087-7	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.30	1.00	0.35	0.07	
	087-8	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.35	1.20	0.40	0.08	
	087-9	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.35	1.10	0.40	0.07	
	087-10	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.40	1.20	0.45	0.06	
	087-11	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	イタナザメ	—	1.85	2.85	0.43	0.17	
	087-12	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.43	1.23	0.43	0.08	
	087-13	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹L	1.50	1.65	0.40	0.17	
	087-14	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	イタナザメ	—	1.25	2.53	0.38	0.11	
	087-15	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹段	1.52	1.57	0.35	0.12	
	087-16	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	F腹段	1.43	1.15	0.37	0.09	
	087-17	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	F腹L	1.30	1.20	0.35	0.07	
	087-18	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	F腹L	1.33	1.20	0.38	0.07	
	087-19	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹	1.93	1.50	0.37	0.15	
	087-20	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.45	0.95	0.45	0.09	
	087-21	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	イタナザメ	—	2.00	2.90	0.50	0.20	遺付と4m前後の遺構
	087-22	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	F腹L	0.50	0.70	0.20	0.01	
	087-23	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹	0.75	0.85	0.25	0.03	
	087-24	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	F腹段	0.95	0.70	0.25	0.04	
	087-25	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.05	0.60	0.30	0.04	
	087-26	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	F腹L	0.95	0.85	0.25	0.03	
	087-27	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	F腹L	0.75	0.65	0.22	0.02	
	087-28	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	F腹L	1.30	0.90	0.32	0.08	
	087-29	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹段	0.90	1.63	0.30	0.05	
	087-30	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹L	0.95	1.73	0.30	0.05	
	087-31	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹L	1.30	1.18	0.30	0.06	
	087-32	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹段	1.00	1.85	0.25	0.05	
	087-33	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.05	0.65	0.30	0.04	
	087-34	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	0.95	0.90	0.25	0.04	
	087-35	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹段	0.65	1.20	0.25	0.03	
	087-36	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	F腹L	0.90	0.70	0.25	0.02	
	087-37	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.15	0.80	0.30	0.05	
	087-38	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹L 9～	0.75	1.32	0.25	0.03	
	087-39	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹	0.75	0.65	0.25	0.02	
	087-40	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.00	0.60	0.28	0.04	
	087-41	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹段	0.90	1.30	0.28	0.04	
	087-42	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹L 9～	0.75	1.60	0.25	0.03	
	087-43	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹	0.90	0.75	0.22	0.03	
	087-44	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	下腹	1.00	0.60	0.30	0.04	
	087-45	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹	1.00	0.75	0.28	0.05	
	087-46	85	N-31	坑底部	2	土製品	1	赤土ジロザメ	上腹段	1.05	1.40	0.30	0.08	
	087-47	85	N-31	坑底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	29.9	16.0	7.0	3.64	
	087-48	85	N-31	坑底部	4	玉	1	C-2	緑泥石	17.9	11.0	6.1	1.51	
	087-49	85	N-31	坑底部	4	玉	1	A-6	緑泥石	10.1	9.7	10.4	1.99	
	087-50	85	N-31	坑底部	4	玉	1	B-2	緑泥石	12.8	9.1	12.8	2.29	
	087-51	85	N-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	4.7	4.7	4.0	0.12	
087-52	85	N-31	坑底部	6	土製品	1	分銅軽土製品	—	2.70	1.60	1.60	4.96	ベンゼン付着	
087-53	85	N-31	腹土	5	瓦c	1	鉢(口)	三ツ谷-鉢山式相付	—	—	—	—		
087-54	85	N-31	腹土	5	瓦c	1	鉢(口)	堂林-三ツ谷式相付	—	—	—	—		
087-55	85	N-31	腹土上面	5	瓦c	10	片口	三ツ谷式相付	32.0	6.7	4.0	—	赤彩あり	
P446	080-1	86	N-32	腹土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	首首	5.71	5.73	1.15	24.62	
	080-2	86	N-32	腹土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	堂林-三ツ谷式相付	—	—	—	—	未検
	080-3	86	N-32	腹土	5	瓦c	2	鉢(口)	堂林-三ツ谷式相付	—	—	—	—	未検
	080-4	86	N-32	腹土	5	瓦c	6	鉢(胴)	堂林-三ツ谷式相付	—	—	—	—	
P447	088-1	87	O-32	坑底部	1	漆	1	漆塗物	—	90.0	88.0	10.0	6.20	
	088-2	87	O-32	坑底部	4	玉	1	C-1	緑泥石	21.0	15.0	6.6	3.07	
	088-3	87	O-32	坑底部	4	玉	1	A-6	緑泥石	12.0	11.9	12.5	2.42	
	088-4	87	O-32	坑底部	4	玉	1	A-1	緑色凝灰岩	6.2	6.1	5.3	0.25	
088-5	87	O-32	坑底部	4	玉	1	A-3	緑色凝灰岩	5.7	5.5	6.3	0.22		

※分類1: 1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧20

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グループ	層位	発見層 I	分類Ⅱ	高 度	(土器)/器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	高さ (cm)	備考			
								(玉類)/器種	石材	底径 (cm)	厚さ (mm)	高さ (cm)	重さ (g)				
P447	0888-6	87	O-32	覆土	3	礎石器	1	石斧	覆岩	6.25	2.15	1.0	23				
	0888-7	87	O-32	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0888-8	87	O-32	覆土	5	瓦 c	1	鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
P448	0890-1	88	O-32	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	56.5	86.0	13.0	9.64				
	0890-2	88	O-32	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	64.0	87.0	23.5	11.09				
	0890-3	88	O-32	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	67.0	92.5	9.5	9.56				
	0890-4	89	O-32	坑底部	1	漆	1	漆塗物	-	48.0	69.0	10.0	7.13				
	0890-5	89	O-32	坑底部	6	土製品	1	壇状土製品	-	2.72	2.70	0.82	6.44				
	0890-6	89	O-32	坑底部	6	土製品	1	壇状土製品	-	3.00	3.00	0.84	4.50				
	0890-7	89	O-32	坑底部	6	土製品	1	壇状土製品	-	2.82	2.71	0.78	4.91				
P449	0890-8	89	O-32	坑底部	6	土製品	1	壇状土製品	-	2.70	2.60	0.77	3.81				
	0890-9	89	O-32	坑底部	6	土製品	1	壇状土製品	-	2.60	2.50	0.92	4.82				
	0894-1	89	O-32	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
P450	0894-2	89	O-32	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (胴)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	同一個体			
	0894-3	89	O-32	覆土	5	瓦 c	3	深鉢 (胴)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0891-1	89	P-33	覆土	5	瓦 c	5	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
P451	0891-2	89	P-33	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0891-3	89	P-33	覆土	5	瓦 c	1	鉢 (胴)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
P452	0891-1	91	O-33	覆土	3	硝子片	1	石鏝	貫岩	3.20	1.05	0.47	1.79				
	0891-2	91	O-33	覆土	5	瓦 c	1	鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0891-3	91	O-33	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
P453	0892-1	91	N-33	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0892-2	91	N-33	覆土	5	瓦 c	3	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0892-1	91	N-33	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
P454	0892-2	91	N-33	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (胴)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0892-3	91	N-33	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (胴)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0894-1	92	N-33	覆土	3	礎石器	1	石斧	覆岩	11.6	4.6	2.2	199.6				
P455	0894-2	92	O-33	覆土	3	礎石器	1	石斧	覆岩	13.8	4.8	1.5	178.5				
	0894-3	92	N-33	覆土上	5	瓦 c	1	法口	三ツ谷式相当	11.7	18.3	3.5	-	-			
															覆土	13	
															日曜	35	
															N-33 日曜	1	
	0894-4	92	N-33	覆土	5	瓦 c	4	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	-			
															P469	5	
	0894-5	92	N-33	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0896-6	92	N-33	覆土	5	瓦 c	3	片口 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0894-7	92	N-33	覆土	5	瓦 c	1	フゴフ (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0894-8	92	N-33	覆土	5	瓦 c	1	フゴフ (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	0894-9	92	N-33	覆土	5	瓦 c	1	鉢 (口)	三ツ谷式相当	-	-	-	-				
	P456	0896-1	94	O-33	覆土	5	瓦 c	1	深鉢 (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-			
P457	0896-1	92	O-33	覆土	5	瓦 c	1	フゴフ (口)	窯林-三ツ谷式相当	-	-	-	-				
P459	0896-2	92	O-33	覆土	3	礎石器	1	石斧	覆岩	14.9	5.8	2.8	383.8				
	0897-1	94	P-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	上層1.5~6	1.60	1.60	0.30	0.07				
	0897-2	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	下層	0.60	0.25	0.18	<0.01				
	0897-3	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	上層	0.65	0.40	0.20	0.01				
	0897-4	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	上層	0.70	0.50	0.20	0.01				
	0897-5	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	上層	0.65	0.45	0.15	0.01				
	0897-6	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	上層	0.65	0.50	0.15	0.01				
	0897-7	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	下層	0.65	0.25	0.15	0.01				
	0897-8	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	下層	0.65	0.40	0.15	0.01				
	0897-9	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	上層	0.70	0.30	0.20	0.01				
	0897-10	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	上層	0.75	0.50	0.15	0.01				
	0897-11	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	上層	0.50	0.40	0.15	<0.01				
	0897-12	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	上層	0.70	0.40	0.15	<0.01	破片2			
	0897-13	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	上層	0.55	0.22	0.15	<0.01				
0897-14	94	O-33	坑底部	2	※9分類品	1	赤セロシメ	下層	0.70	0.45	0.20	<0.01					

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(2)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、グリップ	層位	発見数	分類Ⅱ	高径	(土器)／器種(部位) (玉類)／器種	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		備考
												口径	器高	
F450	0997-15	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.65	0.40	0.20	<0.01	
	0997-16	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.60	0.50	0.15	0.01	
	0997-17	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.55	0.50	0.15	0.01	
	0997-18	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.40	0.18	0.01	
	0997-19	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.40	0.20	0.12	0.01	
	0997-20	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.65	0.30	0.20	0.01	
	0997-21	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.65	0.40	0.15	0.01	
	0997-22	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.70	0.50	0.18	0.01	
	0997-23	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.50	0.30	0.18	0.01	
	0997-24	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.40	0.15	0.01	
	0997-25	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.70	0.45	0.18	0.01	
	0997-26	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.70	0.45	0.17	0.01	
	0997-27	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.30	0.20	0.01	
	0997-28	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.70	0.50	0.18	0.01	
	0997-29	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.35	0.35	0.12	0.01	
	0997-30	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.35	0.35	0.12	0.01	
	0997-31	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.70	0.45	0.20	<0.01	
	0997-32	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.50	0.50	0.15	0.01	
	0997-33	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.25	0.15	0.01	
	0997-34	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.35	0.15	0.01	
	0997-35	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.50	0.45	0.15	0.01	
	0997-36	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.55	0.25	0.15	0.01	
	0997-37	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.25	0.30	0.10	0.01	
	0997-38	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.25	0.18	0.01	
	0997-39	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.60	0.45	0.15	0.01	
	0997-40	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.60	0.50	0.17	0.01	
	0997-41	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.55	0.30	0.15	0.01	
	0997-42	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.35	0.18	0.10	0.01	
	0997-43	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.70	0.50	0.15	0.01	
	0997-44	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹の可能性あり	0.55	0.25	0.15	0.01	破片2
	0997-45	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.60	0.40	0.17	0.01	
	0997-46	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.65	0.25	0.20	0.01	
	0997-47	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.70	0.50	0.20	0.01	
	0997-48	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.65	0.45	0.17	0.01	
	0997-49	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.75	0.60	0.17	0.01	
	0997-50	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.70	0.45	0.17	0.01	
	0997-51	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.70	0.50	0.17	0.01	
	0997-52	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.65	0.50	0.17	0.01	
	0997-53	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.60	0.60	0.17	0.01	
	0997-54	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹段	0.70	0.55	0.17	0.01	
	0997-55	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.65	0.25	0.17	0.01	
	0997-56	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.30	0.17	0.01	
	0997-57	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.50	0.35	0.15	0.01	
	0997-58	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.40	0.25	0.15	0.01	破片2
	0997-59	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.55	0.50	0.15	0.01	
	0997-60	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.30	0.17	0.01	
0997-61	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.60	0.40	0.15	0.01		
0997-62	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.65	0.45	0.15	0.01		
0997-63	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.65	0.40	0.17	0.01		
0997-64	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.50	0.28	0.15	0.01		
0997-65	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.45	0.15	0.01		
0997-66	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.50	0.40	0.15	0.01	破片2	
0997-67	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.30	0.17	0.01		
0997-68	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.70	0.45	0.20	0.01		
0997-69	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	下腹	0.60	0.30	0.15	0.01		
0997-70	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.60	0.40	0.15	0.01		
0997-71	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.35	0.40	0.12	0.01		
0997-72	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.60	0.40	0.17	0.01		
0997-73	94	O-33	瓦底部	2	*片断品	1	赤セロシヤメ	上腹	0.65	0.45	0.17	0.01		

※分類1：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧22

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	発見 番号	分類Ⅱ	内容	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	—	備考	
								(玉類)／器種	石材	口径 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
P459	097-74	94	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	上頸	0.65	0.45	0.17	0.01		
	097-75	94	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	下頸	0.60	0.30	0.17	0.01		
	097-76	94	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	下頸	0.45	0.20	0.15	0.01		
	097-77	94	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	下頸	0.60	0.25	0.15	0.01		
	097-78	94	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	下頸	0.50	0.20	0.15	0.01		
	097-79	94	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	下頸	0.50	0.30	0.17	0.01		
	097-80	94	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	上頸	0.65	0.50	0.15	0.01	1)同じ小形の器種が出土したものと思われる	
	097-81	94	O-33	層土	5	野 c	1	深鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	097-82	94	O-33	層土	5	野 c	1	フボ-注口 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	台付取部かも？	
	097-83	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (2)	—	—	—	<0.01	未実測	
	097-84	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測
	097-85	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (3)	—	—	—	—	<0.01	未実測
	097-86	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (2)	—	—	—	—	<0.01	未実測
	097-87	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測
	097-88	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (3)	—	—	—	—	<0.01	未実測
	097-89	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測
	097-90	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測
	097-91	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (4)	—	—	—	—	<0.01	未実測
	097-92	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (2)	0.35	0.20	0.07	0.01		
	097-93	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (6)	—	—	—	—	<0.01	未実測
097-94	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-95	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (2)	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-96	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (4)	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-97	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-98	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-99	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-100	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-101	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-102	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (3)	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-103	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-104	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-105	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-106	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-107	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (3)	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-108	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (2)	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-109	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片	—	—	—	—	<0.01	未実測	
097-110	—	O-33	坑底部	2	＊/陶器品	1	ホネジロヤメ	破片 (2)	—	—	—	—	<0.01	未実測	
P461	098-1	95	L-31	層土	5	野 c	1	深鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	098-2	95	L-31	層土	5	野 c	2	鉢 (口～底)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
P462	098-1-1	97	Q-31	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	113.5	108.0	—	—	環状漆へ	
	098-1-2	97	Q-31	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	—	—	17.5	—	(横)	
	098-1-3	97	Q-31	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	22.5	15.5	11.5	0.44		
	098-1-4	97	Q-31	坑底部	1	漆	2	環状漆塗製品	—	8.0	14.5	12.5	0.19		
	098-1-5	97	Q-31	坑底部	1	漆	—	環状漆塗製品	—	10.0	12.0	9.0	0.16		
	098-1-6	97	Q-31	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	—	16.0	17.0	—	—	
	098-1-7	97	Q-31	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	21.0	12.0	—	—		
	098-1-8	97	Q-31	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	—	22.0	18.0	—	—	
	098-1-9	97	P-31	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	—	—	—	—	—	
	098-1-10	97	P-31	坑底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	—	—	—	—	—	
	098-1-11	97	Q-31	(内取)	5	V a	76	注口	大淵 B 式相当	—	(11.1)	1.3	—	—	
	098-1-12	98	Q-31	(内取)	P-31	1層	5	V a	2	注口	—	9.45	—	—	—
	098-1-13	98	Q-31	(内取)	P-31	1層	5	V a	3	注口	—	7.1	—	—	—
2															
098-1-14	98	Q-31	(内取)	P-31	1層	5	V a	11	注口	—	(7.0)	(2.0)	—	—	
															1
098-1-15	98	Q-31	(内取)	P-31	2層	5	V a	1	フボ-注口 (胴)	—	—	—	—	—	
															2

※分類 1：漆製品 2：骨角器 3：石器 4：石製品／玉類 5：土器 6：土製品 7：その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧23

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、グリッド	層位	発見部	分類Ⅱ	高数	(土器)/器種(部位)		土器形式	口径	器高	底径	—	備考
								(玉類)/器種	石材		径	径	厚さ	重さ	
											(石・石製品)/器種	石材	長さ	幅	
								(骨角器)/種名	部位	長さ <td>幅 <td>厚さ <td>重さ</td> <td></td> </td></td>	幅 <td>厚さ <td>重さ</td> <td></td> </td>	厚さ <td>重さ</td> <td></td>	重さ		
								(漆・髹)/名称	—	—	—	—	—		
P462	図01-7	98	Q-31	(点取り)	5	V a	1	ツボ・注口(口)	大淵B式相当	—	—	—	—		
	図01-8	98	P-31	(点取り) 覆土	5	V a	76 9	キャリバー形	大淵B式相当	(15.3)	13.1	5.4	—		
	図01-9	98	Q-31	(点取り)	5	V a	10	深鉢(口)	大淵B式相当	—	—	—	—		
	図01-10	97	P-31	(点取り)	5	V a	15	浅鉢	大淵B式相当	(8.9)	5.1	(4.2)	—	底部穿孔	
	図01-11	97	Q-31	(点取り) 覆土 H34	5	V a	2 1	浅鉢	大淵B式相当	8.4	4.4	3.9	—	底部穿孔	
	図01-12	97	Q-31	(点取り)	5	V a	5	浅鉢	大淵B式相当	7.9	4.5	(4.0)	—	底部穿孔	
	図01-13	97	Q-31	(点取り)	5	V a	2	浅鉢	大淵B式相当	(7.3)	(3.7)	(4.0)	—	底部穿孔	
	図01-14	97	P-31	(点取り) 1層	5	V a	6	浅鉢	大淵B式相当	(4.3)	3.85	(2.7)	—	底部穿孔	
	P463	図02-1	99	P-32	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
		図02-2	99	P-32	覆土	5	B c	1	鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
図02-3		99	P-32	覆土	3	礫石器	1	砥石	砂笥	(8.00)	(5.50)	(2.25)	(78)		
図02-4		99	P-32	覆土	4	石製品	1	鹿茸キレンフェルス	石棒	56.8	3.2	2.9	—		
P464	図03-1	101	M-34	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	図03-2	101	M-34	覆土	5	B c	1	鉢(胴)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	図03-3	101	M-34	埋藏 覆土	5	I b-4	1 6	深鉢(底)	東園路B式相当	—	—	—	—		
P465	図03-1	101	N-34	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	図03-2	101	N-34	覆土	5	B c	5	ツボ・注口(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	図03-3	101	N-34	覆土	5	B c	3	ツボ・注口(胴)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	同一個体	
	図03-1	101	O-35	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
P467	図04-1	101	N-34	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	図04-2	101	N-34	覆土	5	B c	1	片口(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
P468	図04-1	101	O-34	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	10.9	10.8	7.7	1.39		
	図04-2	101	O-34	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
P469	図04-1	103	N-33	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	突起部分つぶして いてわからない	
	図04-2	103	N-33	覆土上 P455	5	B c	1 2	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	同一個体	
P470	図05-3	103	N-33	覆土	5	B c	3	深鉢(胴)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	図05-1	103	O-34	覆土	5	B c	6	ミニチュア	竪林-三ツ谷式相当	3.9	5.05	1.5	—		
	図05-2	103	O-34	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	図05-3	103	O-34	覆土	5	B c	2	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
P471	図05-1	103	O-34	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	図05-2	103	O-34	覆土	5	B c	1	鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	図05-3	103	O-34	覆土	5	B c	1	ツボ・注口(胴)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
P472	図05-1	103	O-34	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	図05-2	103	O-34	覆土	5	B c	1	深鉢(胴)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
P473	図05-1	103	P-35	覆土	2	B c	1	深鉢(口)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
P474	図07-1	104	P-33	灰底部	2	*石製品	1	ホネゴロザメ	上頸	1.70	1.50	0.30	0.06		
	図07-2	104	P-33	灰底部	2	*石製品	1	(オノメゴロザメ)	上頸R 3~	1.50	1.50	0.33	0.07	形状の可能性もあるが、 材料の観点からオノメ ゴロザメの可能性がある	
	図07-3	104	P-33	灰底部	1	漆	1	漆塗物	—	51.0	79.0	—	—		
	図07-4	104	P-33	灰底部	1	漆	1	環状漆塗物	—	—	—	—	—		
	図07-5	104	P-33	灰底部	1	漆	1	環状漆塗物	—	—	—	—	—		
P475	図07-1	105	Q-34	覆土	5	B c	1	深鉢(胴)	竪林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
P476	106	106			1		2			68.0	18.0	7.0	2.21		
	図09-1	106	Q-34	灰底部	1	漆	1	環状漆塗物	—	—	—	—	—		
	106	106			1		1			42.0	11.5	2.5	0.35	1-3	
	図09-2	107	Q-34	灰底部	2	*石製品	1	ホネゴロザメの可能性	上頸L	0.80	0.80	0.20	0.02		
	図09-3	107	Q-34	灰底部	2	*石製品	1	ホネゴロザメの可能性	上頸L	0.75	0.75	0.20	0.02		
	図09-4	107	Q-34	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.6	9.4	6.6	0.91		
	図09-5	107	Q-34	灰底部	4	玉	1	B-2	緑泥石	12.3	10.3	10.4	2.30		
	図09-6	107	Q-34	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	10.5	10.3	6.4	1.09		
	図09-7	107	Q-34	灰底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	11.7	10.6	10.5	2.18		

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧(24)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリップ	層位	発見層Ⅰ	分類Ⅱ	高径	(土器/器種(部位))	土器形式	口径	器高	底径		備考	
								(玉類)/器種		口径	器高	厚さ	底径		
								(石類/器種)	石材	口径	器高	厚さ	底径		
								(石器)	石材	長さ	幅	厚さ	底径		
								(骨角器/種名)	部位	長さ	幅	厚さ	底径		
								(漆・他)/名称		長さ	幅	厚さ	底径		
P476	0109-8	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-6	緑泥石器	14.7	13.7	10.7	6.04		
	0109-9	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	C-1b	緑泥石器	25.0	12.0	10.5	4.71		
	0109-10	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.0	10.7	5.1	0.98		
	0109-11	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	11.3	10.0	11.4	1.90		
	0109-12	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	C-1b	緑泥石器	21.0	16.0	8.8	5.09		
	0109-13	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	14.8	13.8	10.7	3.02		
	0109-14	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	B-1	緑泥石器	16.4	13.4	12.7	3.44		
	0109-15	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	12.3	12.2	9.8	2.00		
	0109-16	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.0	9.7	4.3	0.71		
	0109-17	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.6	8.9	6.4	0.80		
	0109-18	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.0	10.9	8.6	1.84		
	0109-19	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.3	11.2	7.5	1.48		
	0109-20	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-6	緑泥石器	12.2	11.7	15.1	3.37		
	0109-21	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.5	8.2	5.0	0.68		
	0109-22	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.3	9.9	10.8	1.99		
	0109-23	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.1	10.0	8.4	1.41		
	0109-24	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.4	9.1	5.6	0.72		
	0109-25	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	10.3	9.1	5.3	0.80		
	0109-26	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	12.2	11.7	8.5	1.03		
	0109-27	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	10.7	10.5	6.3	1.12		
	0109-28	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.9	10.6	9.3	1.73		
	0109-29	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.2	10.2	5.6	1.02		
	0109-30	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	10.2	9.9	11.7	1.88		
	0109-31	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	C-1b	緑泥石器	14.0	11.0	4.4	0.77		
	0109-32	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.5	7.9	5.2	0.56		
	0109-33	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	10.3	9.3	11.0	1.69		
	0109-34	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	C-1	緑泥石器	20.0	12.0	10.0	5.00		
	0109-35	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	11.5	11.1	13.6	2.94		
	0109-36	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.0	8.9	7.2	1.07		
	0109-37	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.9	10.5	6.8	1.14		
	0109-38	107	Q-34	灰産部	4	玉	1	C-1b	緑泥石器	16.2	12.0	5.3	1.28		
	0109-39	106	Q-34	灰土	3	礫石器	1	石芥	掘笠	13.5	5.2	2.5	245.4		
	P477	0110-1	109	R-35	灰土	5	骨	1	海綿 (IT)						
	P478	0110-1	109	Q-35	灰土上面	5	骨	1	海綿 (骨)						
P480	0111-1	109	R-34	灰土	5	骨	1	筑前骨	三ツ管一輪山式相型					普通乳があげられている	
	0111-2	109	R-34	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.9	6.3	0.45		
	0111-3	109	R-34	灰産部	4	玉	1	A-1	タルク	11.2	10.9	5.4	1.05		
0111-4	109	R-34	灰産部	4	玉	1	A-1	タルク	9.7	9.5	6.2	0.90			
P482	0112-1	110	R-34	灰産部	1	漆	1	漆産物			49.5	23.5			
	0112-2	110	R-34	灰産部	1	漆	1	漆産物							
	0112-3	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸L	1.10	0.95	0.30	0.04		
	0112-4	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸L	1.00	0.95	0.25	0.03		
	0112-5	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸L	0.90	0.70	0.20	0.02		
	0112-6	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸L	1.30	1.20	0.30	0.06	破片2	
	0112-7	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸段	1.10	0.95	0.25	0.03	破片2	
	0112-8	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸段	1.25	1.15	0.25	0.06	破片2	
	0112-9	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸L	1.80	1.40	0.35	0.12	破片2	
	0112-10	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸段	1.55	1.30	0.32	0.07		
	0112-11	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	下頸L	1.65	1.30	0.40	0.09	破片2	
	0112-12	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸L	1.75	1.60	0.35	0.13	破片2	
	0112-13	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸段	1.80	1.25	0.35	0.25		
	0112-14	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸段	1.42	1.35	0.27	0.13		
	0112-15	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	下頸	1.70	1.40	0.35	0.20		
	0112-16	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	下頸	1.20	1.00	0.30	0.04		
	0112-17	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸段	1.10	1.10	0.35	0.05		
	0112-18	110	R-34	灰産部	2	骨角製品	1	赤土シロアモ	上頸L	1.00	0.95	0.25	0.03	破片3	
	P483	0114-1	112	R-33	灰産部	4	玉	1	C-1	緑泥石器	19.0	8.5	5.5	0.91	未実測
0114-2		112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.6	6.5	5.4	0.34		

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(四)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	発見層Ⅰ	分類Ⅱ	高径	(土器)/器種(部位)		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	—	備考
								(玉類)/器種	石材						
								(石器・石製品)/器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	長さ (mm)		
								(骨角器)/種名	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	長さ (mm)		
								(漆・漆)/名称	—	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	長さ (mm)		
F483	関14-3	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	7.4	7.3	4.9	0.37		
	関14-4	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.3	5.7	3.9	0.22		
	関14-5	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	5.9	5.4	4.0	0.18		
	関14-6	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.7	6.3	3.5	0.21		
	関14-7	112	R-33	灰産部	4	玉	1	C-1	緑泥石器	18.0	9.5	5.5	1.10		
	関14-8	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-1	ジャスパー	6.0	6.0	4.8	0.24		
	関14-9	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.0	7.7	4.3	0.41		
	関14-10	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	7.7	6.1	0.53		
	関14-11	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	8.3	8.2	5.7	0.56		
	関14-12	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.4	8.2	6.4	0.61		
	関14-13	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.0	8.2	8.6	0.93		
	関14-14	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.6	8.5	8.1	0.79		
	関14-15	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.9	8.9	6.9	0.83		
	関14-16	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.7	7.8	7.8	0.77		
	関14-17	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-6	緑泥石器	8.8	8.8	8.8	1.08		
	関14-18	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.1	8.4	8.5	0.97		
	関14-19	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.8	8.0	8.3	0.83		
	関14-20	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.8	9.4	8.4	0.95		
	関14-21	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.4	8.2	8.6	0.99		
	関14-22	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.6	9.5	7.9	1.06		
	関14-23	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	9.9	9.1	7.3	1.01		
	関14-24	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	11.3	10.0	9.9	1.58		
	関14-25	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.8	8.5	8.3	0.91		
	関14-26	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.3	8.4	7.8	0.98		
	関14-27	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	10.0	9.4	8.0	1.10		
	関14-28	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	10.5	9.6	8.7	1.06		
	関14-29	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	12.8	12.5	12.2	2.89		
	関14-30	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	12.9	12.7	12.6	2.87		
	関14-31	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	10.8	10.6	8.7	1.28		
	関14-32	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	12.9	11.9	11.2	2.56		
	関14-33	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	11.6	11.5	8.6	1.69		
	関14-34	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	11.9	11.5	9.3	1.79		
	関14-35	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	12.9	12.7	10.5	2.41		
	関14-36	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	11.1	10.9	8.3	1.57		
	関14-37	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	12.2	12.0	10.2	2.07		
	関14-38	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	11.4	10.9	10.7	1.71		
	関14-39	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	10.1	8.7	7.8	1.01		
	関14-40	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.4	8.7	8.9	1.04		
	関14-41	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.7	7.5	8.6	0.84		
	関14-42	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	10.1	10.0	8.0	1.05		
	関14-43	112	R-33	灰産部	4	玉	1	B-2	緑泥石器	9.8	8.1	9.3	1.06		
	関14-44	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.9	9.8	7.7	0.97		
	関14-45	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.6	8.6	9.4	1.10		
	関14-46	112	R-33	灰産部	4	玉	1	B-2	緑泥石器	9.1	7.6	8.0	0.87		
	関14-47	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.1	8.6	6.9	0.74		
	関14-48	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.4	9.3	9.1	1.14		
	関14-49	112	R-33	灰産部	4	玉	1	B-2	緑泥石器	8.6	7.1	8.1	0.69		
	関14-50	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.1	8.1	7.7	0.69		
	関14-51	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.6	7.9	7.9	0.78		
	関14-52	112	R-33	灰産部	4	玉	1	B-2	緑泥石器	9.2	7.0	7.5	0.72		
	関14-53	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.8	8.2	7.9	0.78		
	関14-54	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	8.4	8.2	5.3	0.57		
	関14-55	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.7	8.0	7.5	0.76		
	関14-56	112	R-33	灰産部	4	玉	1	B-1	緑泥石器	8.2	6.8	7.0	0.54		
	関14-57	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.3	7.4	7.5	0.63		
	関14-58	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.2	8.8	7.8	0.94		
	関14-59	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	ケルマ	9.4	8.3	8.4	0.99		
	関14-60	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.2	8.2	7.4	0.74		
	関14-61	112	R-33	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.9	8.1	6.7	0.99		

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他



表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧(2)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	発見層 I	分類Ⅱ	高位置	(土器)/器種(部位)		土器形式	口径	器高	底径	備考
								(玉類)/器種	石材		径長	厚さ	重さ	
											(石製)/器種	石材	径長	
F483	朝14-62	112	R-33	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	5.9	5.2	4.8	0.19	
	朝14-63	112	R-33	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.2	6.0	5.6	0.26	
	朝14-64	112	R-33	灰地部	4	玉	1	C-1	緑泥石器	14.0	8.5	6.5	0.87	
	朝14-65	112	R-33	灰地部	4	玉	1	A-1	ジャスパー	6.4	6.4	3.5	0.29	
	朝14-66	112	R-33	灰地部	4	玉	1	C-2	タタキ化粧紋石	13.5	10.0	6.0	1.35	
	朝14-67	112	R-33	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	10.8	10.1	9.5	1.63	
F484	朝11-1	113	R-34	覆土	5	骨c	1	漆鉢(口)	常林-三ツ管式相当	—	—	—	—	
F485	朝11-1	113	Q-34	覆土	5	骨c	1	漆鉢(口)	常林-三ツ管式相当	—	—	—	—	
F486	朝16-1	114	M-32	灰地部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	146.5	90.0	—	—	
	朝16-2	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	コハク	9.0	9.0	6.4	0.28	
	朝16-3	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	9.7	9.7	10.4	0.83	
	朝16-4	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-2	コハク	8.2	8.1	6.1	0.23	
	朝16-5	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-6	緑泥石器	11.6	11.0	15.4	2.11	
	朝16-6	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.6	8.4	5.3	0.41	
	朝16-7	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.1	9.0	5.4	0.54	
	朝16-8	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.8	9.1	8.2	1.08	
	朝16-9	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	コハク	10.0	9.7	8.5	0.96	
	朝16-10	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-4	コハク	11.5	11.1	8.9	0.75	
	朝16-11	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	8.0	4.7	0.48	
	朝16-12	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	8.1	4.2	0.38	
	朝16-13	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	コハク	8.6	8.2	7.5	0.24	
	朝16-14	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.8	8.7	5.6	0.48	
	朝16-15	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.9	8.5	4.8	0.47	
	朝16-16	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.0	8.8	5.0	0.51	
	朝16-17	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.2	9.0	6.4	0.60	
	朝16-18	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	コハク	9.3	9.0	7.3	0.35	
	朝16-19	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	コハク	7.2	7.0	4.7	0.14	
	朝16-20	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-4	コハク	11.1	10.5	11.0	0.81	
	朝16-21	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-6	緑泥石器	11.9	10.8	16.9	3.04	
	朝16-22	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	12.2	11.3	17.1	2.81	
	朝16-23	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-2	コハク	11.1	10.8	8.0	0.58	
	朝16-24	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-4	コハク	10.4	9.6	8.5	0.48	
	朝16-25	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.1	8.6	5.7	0.52	
	朝16-26	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.5	8.9	5.6	0.59	
	朝16-27	114	M-32	灰地部	4	玉	1	—	緑泥石器	8.0	7.0	8.5	0.35	
	朝16-28	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	コハク	8.7	7.6	7.1	0.26	
	朝16-29	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	8.0	5.1	0.42	
	朝16-30	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	7.0	4.4	0.39	
	朝16-31	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	8.1	5.2	0.38	
	朝16-32	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.2	8.1	4.3	0.41	
	朝16-33	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	6.9	4.4	0.36	
	朝16-34	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	コハク	9.3	9.1	6.5	0.32	
	朝16-35	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.8	8.8	5.2	0.56	
	朝16-36	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.6	8.6	4.8	0.43	
	朝16-37	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.6	8.0	7.3	0.63	
	朝16-38	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.8	7.7	3.2	0.27	
	朝16-39	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.1	7.0	2.3	0.19	
	朝16-40	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.1	6.6	2.0	0.15	
	朝16-41	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.7	6.6	1.7	0.08	
	朝16-42	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.4	3.9	0.31	
	朝16-43	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.5	7.7	4.7	0.41	
	朝16-44	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.3	7.4	3.2	0.29	
	朝16-45	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.2	7.1	4.1	0.28	
	朝16-46	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.4	6.1	2.8	0.16	
	朝16-47	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.2	3.7	0.32	
	朝16-48	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.2	7.4	4.0	0.32	
	朝16-49	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	6.4	2.8	0.19	
	朝16-50	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.8	6.8	2.9	0.18	
	朝16-51	114	M-32	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.4	7.1	3.8	0.22	

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(2)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	発見部I	分類II	高 位	(土器/器種(部位))	土器形式	口径	器高	底径	容積	備考																								
								(玉類)/器種		径	径	径																										
								(石器・石製品/骨類)		径	幅	厚さ																										
								(土製品)/名称		(mm)	(mm)	(mm)																										
								(骨角器)/種名		部位	径	幅	厚さ																									
(漆・灰)/名称	(mm)	(mm)	(mm)	(L)																																		
P486	例16-52	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.1	4.0	0.31	組合																								
	例16-53	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.0	7.4	3.9	0.37																									
	例16-54	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.7	6.5	2.9	0.18																									
	例16-55	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.6	2.2	0.18																									
	例16-56	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.0	6.9	2.9	0.23																									
	例16-57	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.2	6.7	2.4	0.16																									
	例16-58	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.8	6.6	2.2	0.17																									
	例16-59	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.3	6.1	2.6	0.10																									
	例16-60	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.5	8.1	6.2	0.50																									
	例16-61	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	7.6	4.3	0.43																									
	例16-62	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.8	7.3	2.8	0.23																									
	例16-63	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	8.0	3.5	0.33																									
	例16-64	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.0	3.0	0.23																									
	例16-65	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.5	3.2	0.27																									
	例16-66	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.8	9.2	5.9	0.66																									
	例16-67	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.8	8.7	5.0	0.45																									
	例16-68	114	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.2	8.7	5.7	0.50																									
	例16-69	114	P428	M-32	覆土上面	5	B c	5	注口(底)	御殿山式相当	-	-	1.6		-																							
								1																														
2																																						
例16-70	114	P487	M-32	覆土上面	5	B c	1	鉢(口)	堂林-御殿山式相当	-	-	-	-																									
							1																															
例16-71	114	P487	M-32	覆土	5	B c	1	深鉢(口)	堂林-御殿山式相当	-	-	-	-																									
							2																															
例16-72	114	P487	M-32	覆土上面	5	B c	2	鉢(口)	堂林-御殿山式相当	11.6	-	-	-																									
							2																															
例15-73	-	-	M-32	灰産部	4	玉	1	-	緑泥石器	-	-	-	-	0.12	破片4																							
																例15-74	4	玉	1	-	緑泥石器	-	-	-	0.55	破片4												
																例15-75	4	玉	1	-	緑泥石器	-	-	-	0.28	破片2												
																例15-76	4	玉	1	-	緑泥石器	-	-	-	0.96	破片22												
																例15-77	4	玉	1	-	緑泥石器	-	-	-	0.50	破片12												
																例15-78	4	玉	1	-	緑泥石器	-	-	-	0.17	破片5												
																P487	-	-	M-32	灰産部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	7.1	7.1	5.9	0.42									
																															例17-2	115	M-32	灰産部	4	玉	1	A-1
例17-3	115	M-32	灰産部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	10.3	10.1	7.7	1.28																										
例17-4	115	M-32	灰産部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	9.6	9.3	7.9	1.06																										
例17-5	115	M-32	灰産部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	8.6	8.4	6.9	0.81																										
例17-6	115	M-32	灰産部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	9.9	9.9	8.1	1.18																										
例17-7	115	M-32	灰産部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	7.3	7.3	5.0	0.38																										
例17-8	115	P486	M-32	覆土	5	B c	34	注口	御殿山式相当	4.8	10.3	2.0	-	一括																								
							1																															
							2																															
							9																															
例17-9	115	P428	M-32	覆土	5	B c	2	鉢(口)	御殿山式相当	-	-	-	-																									
							3																															
P489	-	-	M-32	覆土	5	B c	4	深鉢(口)	堂林-御殿山式相当	-	-	-	-																									
							例17-11							115	M-32	覆土	5	B c	25	深鉢(口)	御殿山式相当	-	-	-														
							P490							-	-	N-27	覆土	3	礫石器	1	磁石	安山岩	11.60	8.20	6.00	662												
																											例18-1	117	N-27	覆土	5	B	1	深鉢(口)	-	-	-	
																											例18-2	117	N-27	覆土	5	B a	1	深鉢(口)	チブコブ式	-	-	-
																											例18-3	117	N-27	覆土	5	B a	1	深鉢(口)	-	-	-	
P491	-	-	N-27	覆土	5	B a	3	深鉢(胴)	チブコブ式	-	-	-	-	同一個体																								
															例18-4	117	N-27	覆土	5	B a	1	深鉢(口)	-	-	-													
P492	-	-	M-32	覆土	5	V	1	深鉢(口)	桃北C,D	-	-	-	-	-	同一個体																							
																例18-2	117	M-32	覆土	5	V	1	深鉢(口)	-	-	-												
																例19-1	117	Q-28	覆土	5	V a	1	深鉢(口)	大園B式相当	-	-	-	種別異なりとしたアトモ										
																例19-2	117	Q-28	覆土	5	B-V a	1	鉢(口)	新殿山-大園B式相当	-	-	-											
P492	-	-	Q-28	覆土	5	F-V a	1	浅鉢(口)	新殿山-大園B式相当	-	-	-	-	-																								
															例19-3	117	Q-28	覆土	5	F-V a	1	浅鉢(口)	新殿山-大園B式相当	-	-	-												
例19-4	117	Q-28	覆土	5	F-V a	1	深鉢(胴)	新殿山-大園B式相当	-	-	-	-																										

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表Ⅱ-1 土坑掲載遺物一覧表

遺構	調査号	区画番号	組合遺構 グリッド	層位	発見 番号	分類Ⅱ	高 度	(土器)/器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	—	備考			
								(玉類)/器種	石材	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)		重さ (g)		
P496	R120-1	119	N-33	(点取り)	5	V	1	注口	隼北C,D	—	—	—	—				
				甕土	5	V a	1	深鉢 (口)	大淵B式相当	—	—	—	—				
				甕土	5	B c	1	深鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—				
				甕土	5	B c	1	フゴ・注口 (底)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—				
P497	R122-1	120	O-32	(点取り)	5	B c	1	深鉢 (底)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—				
				(点取り)	5	B c	24	深鉢	三ツ谷式相当	24.6	(20.5)	—	—				
				(点取り)	5	B c	42	深鉢	三ツ谷式相当	22.0	(27.7)	—	—				
P498	R120-1	120	L-28	(点取り)	5	V	3	鉢 (底)	隼北C,D	—	—	7.6	—				
				甕土	5	V b	1	浅鉢 (口~底)	中期中葉	—	3.4	—	—	—			
P499	R120-1	120	L-28	甕土	5	V b	1	浅鉢 (口~底)	中期中葉	—	3.4	—	—				
P501	R121-1	123	P-35	甕土	5	B c	1	深鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—				
P502	R121-1	123	P-35	甕土	5	B c	1	深鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—				
				甕土	3	礫石器	1	石斧	片岩	8.70	3.50	1.40	7.1	ペンガツ付着			
P503	R121-1	123	R-33	埴灰部	4	玉	1	B-1	緑泥石	13.8	11.9	10.2	2.55				
				埴灰部	4	玉	1	A	緑泥石	11.3	—	7.8	1.15	本ズミにかけられている			
				甕土	5	B c	1	深鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—				
				埴灰部	2	*ハシロ製品	1	ホホジロザメ	上顎	2.10	1.45	0.32	0.08				
P504	R124-2	123	P-33	埴灰部	4	石製品	1	E-1	フノ貝化石	29.0	9.5	9.5	0.72	割れ 自然フノ貝化石			
				甕土	3	銅片	1	石鏝	頁岩	2.81	1.10	0.43	1.03				
				甕土	3	礫石器	1	石鏝	頁岩	—	—	—	—				
				甕土	5	B c	1	深鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	ペンガツ付着			
				甕土	5	B c	1	フゴ・注口 (胴)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	ペンガツ付着			
				甕土	3	礫石器	1	石鏝	安山岩	30.90	26.40	8.90	2000				
P505	R125-1	125	M-31	甕土	5	B c	1	深鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—				
				甕土	5	B c	1	深鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—				
				甕土	5	B c	1	鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—				
P506	R126-1	125	M-31	甕土	5	B c	1	深鉢 (口)	常林式相当	—	—	—	—				
				甕土	5	B c	3	深鉢 (口)	御殿山-大淵B式相当	—	—	—	—				
				甕土	5	V a	26	注口	大淵B式相当	—	(15.3)	—	—				
				L, M-31	5	B c	2	深鉢 (底)	御殿山-大淵B式相当	—	—	—	5.8	—			
				甕土	5	V a	2	浅鉢 (口)	大淵B式相当	—	—	—	—				
				甕土	5	B c	1	フゴ・注口 (胴)	御殿山-大淵B式相当	—	—	—	—				
P507	R126-7	125	L, M-31	L, M-31	5	V a	25	フゴ・注口	大淵B式相当	—	(12.0)	—	—	玉軸三叉文			
				甕土	5	V a	59	深鉢	大淵B式相当	(30.4)	37.2	—	—				
				甕-MC型	5	V a	26	注口	大淵B式相当	—	—	—	—				
				L, M-31	3	礫石器	1	産石	安山岩	12.50	6.40	4.90	530				
				T-34	5	墨	1	深鉢 (胴)	萩+岡2式相当	—	—	—	—				
				R-27	3	銅片	1	石鏝	obs	1.8	1.2	0.4	0.47				
				R-27	3	銅片	1	石鏝	obs	2.40	1.47	0.43	0.92				
				R-27	3	銅片	1	石鏝	obs	3.9	1.5	0.75	2.98				
P508	R131-3	129	R-27	埴灰部	3	銅片	1	石鏝	頁岩	2.5	1.3	0.5	0.91				
				埴灰部	3	銅片	1	石鏝	頁岩	5.3	3.1	1.2	31.18				
				埴灰部	3	礫石器	1	石斧	泥岩	—	—	—	—				
				埴灰部	3	銅片	1	フレイタ	obs	5.25	2.65	0.95	14.89				
				埴灰部	3	銅片	1	フレイタ	obs	6.40	2.30	1.00	11.32				
				埴灰部	3	銅片	1	フレイタ	obs	2.95	4.15	0.90	8.89				
				埴灰部	3	銅片	1	フレイタ	obs	3.30	3.90	1.35	15.66				
				埴灰部	3	銅片	1	フレイタ	obs	4.05	3.35	1.20	16.43				
				埴灰部	3	銅片	1	フレイタ	obs	4.50	3.60	1.70	17.04				
				埴灰部	3	銅片	1	フレイタ	obs	3.80	4.20	1.45	18.61				
				埴灰部	3	銅片	1	フレイタ	obs	3.45	4.60	1.30	20.84				
				R131-14	128	R-27	埴灰部	2	*ハシロ製品	1	ホホジロザメ	上顎 1 aw 2	3.30	2.75	0.55	0.60	3cm程度の部体 高さ4.5cm程度の部体が発見や宮内庁の調査にもとことがある
				R131-15	128	R-27	埴灰部	2	*ハシロ製品	1	不明	—	0.55	0.55	0.18	0.01	土壌水洗
				R131-16	128	R-27	埴灰部	2	*ハシロ製品	1	不明	—	0.60	0.50	0.15	0.01	土壌水洗

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(2)

遺構	調査号	坑目 図番	組合遺構 グリッド	層位	券分類Ⅰ	券分類Ⅱ	高 位	(土器)/器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	—	備考
								(玉類)/器種	石材	長径	胴径	厚さ	重さ	
								(石器・石製品)/器種 (土製品)/名称 (骨角器)/種名 (漆・他)/名称	石材 — 部位 —	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
P508	探13-17	128	R-26	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	10.5	10.1	5.2	0.72	
	探13-18	128	R-26	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	10.0	8.8	5.5	0.57	
	探13-19	128	R-26	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	8.9	8.6	4.5	0.38	欠け
	探13-20	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	8.8	8.3	4.4	0.50	
	探13-21	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	8.9	8.3	3.7	0.40	
	探13-22	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.7	7.7	3.6	0.28	
	探13-23	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	8.1	8.1	3.2	0.36	
	探13-24	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	8.1	8.0	4.5	0.44	
	探13-25	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	9.1	8.8	3.7	0.45	
	探13-26	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.8	7.8	4.7	0.41	
	探13-27	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	5.7	5.7	3.0	0.15	
	探13-28	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.0	5.9	3.1	0.11	破片2
	探13-29	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	8.3	8.3	3.1	0.33	
	探13-30	128	R-26	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	9.1	9.0	3.0	0.37	
	探13-31	128	R-26	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	8.2	7.7	5.5	0.50	
	探13-32	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	9.7	9.7	4.4	0.65	
	探13-33	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.9	6.7	5.2	0.38	
	探13-34	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.1	7.0	1.9	0.14	
	探13-35	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.0	6.9	2.9	0.13	
	探13-36	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.8	7.5	4.1	0.28	
	探13-37	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.2	7.0	3.1	0.21	
	探13-38	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.7	7.4	2.2	0.19	
	探13-39	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.8	7.7	3.6	0.31	
	探13-40	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	5.8	5.7	4.1	0.10	
	探13-41	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.3	5.8	2.7	0.19	破片3
	探13-42	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.3	6.2	3.4	0.19	
	探13-43	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	5.5	5.5	3.4	0.14	
	探13-44	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.9	6.9	3.0	0.18	
	探13-45	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	-	緑硬石岩	6.0	4.0	3.5	0.07	2/3欠け
	探13-46	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	5.7	5.4	3.0	0.14	
	探13-47	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.6	6.6	3.6	0.21	
	探13-48	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.9	6.4	3.6	0.20	
	探13-49	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.0	6.5	3.6	0.21	
	探13-50	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.7	6.7	3.5	0.22	
	探13-51	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	B-1	緑硬石岩	6.7	5.3	2.7	0.14	
	探13-52	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.7	7.6	3.8	0.28	
	探13-53	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.5	6.2	4.0	0.22	
	探13-54	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.5	6.5	3.7	0.23	
	探13-55	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	5.9	5.7	4.0	0.20	
	探13-56	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.7	6.5	4.6	0.27	
	探13-57	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.5	6.5	3.3	0.17	欠け
	探13-58	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.0	5.9	4.1	0.19	
	探13-59	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.6	6.1	2.6	0.16	
	探13-60	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.4	6.2	3.5	0.19	
	探13-61	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.4	6.3	3.2	0.18	
	探13-62	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	5.5	5.3	3.2	0.11	
	探13-63	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.3	6.1	3.7	0.17	欠け
	探13-64	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.8	6.2	3.8	0.21	
	探13-65	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.9	6.7	4.3	0.23	
	探13-66	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.2	6.5	3.7	0.20	
	探13-67	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	8.2	7.8	4.5	0.34	
	探13-68	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	8.6	8.2	3.8	0.38	
	探13-69	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	7.8	7.7	4.8	0.45	
	探13-70	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	11.4	10.7	6.4	1.22	
	探13-71	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	6.2	6.1	3.3	0.19	
	探13-72	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	8.4	7.9	3.6	0.26	欠け
	探13-73	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	9.3	9.0	4.8	0.52	
	探13-74	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	9.7	9.4	4.7	0.66	
	探13-75	128	R-27	瓦底部	4	瓦	1	A-1	緑硬石岩	9.7	9.4	4.7	0.66	

券分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧30

遺構	回番号	回層 番号	組合遺構 グリッド	層位	※分類Ⅰ	分類Ⅱ	高 位	(土器/器種(部位))	土器形式	口径	器高	底径	—	備考				
								(玉類)/器種		口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	— (cm)					
								(石器/石製品/骨 器)							長径	幅	厚さ	重さ
								(土製品)/名称 (骨角器)/種名 (漆・塗)/名称							長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)
P508	個11-76	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	7.4	7.4	5.2	0.39					
	個11-77	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	7.8	7.4	5.8	0.43					
	個11-78	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	11.1	10.1	6.4	1.19					
	個11-79	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.8	6.8	3.8	0.28					
	個11-80	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	7.0	6.8	4.4	0.25					
	個11-81	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	—	緑褐色石	10.1	8.1	5.1	0.49	2/5欠け				
	個11-82	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	7.9	7.6	5.2	0.49					
	個11-83	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.7	8.6	3.9	0.42					
	個11-84	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	9.7	8.9	5.7	0.77					
	個11-85	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.1	7.8	4.0	0.35					
	個11-86	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	9.1	8.6	4.5	0.46					
	個11-87	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	9.2	9.1	3.8	0.45					
	個11-88	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.6	6.5	3.3	0.21					
	個11-89	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.5	8.2	3.3	0.34					
	個11-90	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.3	8.1	3.8	0.39					
	個11-91	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	9.1	8.6	5.7	0.63					
	個11-92	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.9	6.9	3.6	0.26					
	個11-93	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.5	8.5	4.0	0.42					
	個11-94	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.9	8.9	2.9	0.39					
	個11-95	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.1	7.9	4.3	0.41					
	個11-96	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	—	緑褐色石	9.0	6.9	5.1	0.36	半分				
	個11-97	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	7.9	7.5	4.1	0.37					
	個11-98	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	10.7	10.4	5.1	0.80					
	個11-99	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.7	8.4	4.1	0.47					
	個11-100	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	9.3	8.5	4.3	0.50					
	個11-101	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.4	8.2	4.0	0.39					
	個11-102	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.5	8.5	4.4	0.47					
	個11-103	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.8	8.7	4.8	0.52					
	個11-104	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	11.3	10.8	4.4	0.80					
	個11-105	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.6	6.5	4.3	0.24					
	個11-106	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.0	6.0	3.4	0.12					
	個11-107	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	7.0	6.7	4.1	0.28					
	個11-108	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	—	緑褐色石	6.0	5.0	1.5	0.03	破片				
	個11-109	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	—	緑褐色石	10.0	8.0	4.8	0.54	半分				
	個11-110	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	7.3	6.5	4.8	0.26					
	個11-111	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	7.7	7.3	4.4	0.27					
	個11-112	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	9.9	9.6	4.5	0.62					
	個11-113	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.1	5.7	2.3	0.14					
	個11-114	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.0	5.6	3.2	0.12					
	個11-115	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	7.6	7.3	3.1	0.28					
	個11-116	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	B-1	緑褐色石	6.6	5.3	3.6	0.14					
	個11-117	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	A-2	緑褐色石	5.3	5.1	3.4	0.14					
	個11-118	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.8	8.7	6.8	0.53					
	個11-119	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	C-1 b	緑褐色石	10.1	8.1	4.8	0.96					
	個11-120	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.0	7.7	4.6	0.41					
	個11-121	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.4	6.2	4.9	0.22	欠け				
	個11-122	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.7	8.5	3.3	0.36					
	個11-123	128	R-26	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.9	8.6	4.9	0.50					
	個11-124	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	5.8	5.7	3.1	0.14					
	個11-125	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.1	6.0	3.2	0.15					
	個11-126	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.0	5.8	4.4	0.22					
	個11-127	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	9.8	9.6	4.0	0.51					
	個11-128	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.6	8.5	3.4	0.33					
	個11-129	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.8	8.3	3.6	0.33					
	個11-130	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	8.6	8.4	3.3	0.40					
	個11-131	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.2	6.1	3.5	0.18					
	個11-132	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.2	6.0	2.9	0.13					
	個11-133	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	5.4	5.3	2.9	0.11					
	個11-134	128	R-27	堆積部	4	Ⅲ	1	A-1	緑褐色石	6.2	6.2	3.4	0.17					

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(3)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	発見部Ⅰ	分類Ⅱ	高 位	(土器)/器種(部位)		土器形式		口径	器高	底径		備考	
								(玉類)/器種		石材		持持		脚径			—
								(石器、石製品)/器種		石材		長さ		幅			長さ
								(骨角器)/種名 (漆・土)		部位		長さ		幅			長さ
(漆・土)/種名		部位		長さ		幅		長さ	(g)								
P908	例31-126	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.5	6.4	3.5	0.14		
	例31-126	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.5	6.2	2.9	0.14		
	例31-127	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.4	6.1	2.9	0.15		
	例31-128	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.7	5.6	2.3	0.10		
	例31-129	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	8.0	7.8	5.2	0.45		
	例31-140	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.7	5.6	2.9	0.11		
	例31-141	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	7.2	7.0	4.0	0.29		
	例31-142	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.9	5.5	4.3	0.16		
	例31-143	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	—	—	—	—	6.0	—	3.1	0.08	1/2欠け	
	例31-144	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.9	6.8	4.0	0.27		
	例31-145	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	8.0	7.9	3.9	0.34		
	例31-146	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	7.3	7.2	4.0	0.29		
	例31-147	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	8.8	8.2	5.5	0.53		
	例31-148	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	8.5	8.3	2.9	0.32		
	例31-149	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	8.2	8.1	3.7	0.37		
	例31-150	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.2	6.2	5.1	0.30		
	例31-151	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.6	6.6	3.5	0.24		
	例31-152	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.5	6.3	3.2	0.16		
	例31-153	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.9	6.9	4.0	0.22		
	例31-154	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	9.3	8.5	4.8	0.48		
	例31-155	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	10.9	10.0	6.6	1.03		
	例31-156	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.0	6.0	4.4	0.24		
	例31-157	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.2	6.2	3.7	0.30		
	例31-158	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	8.0	7.6	3.8	0.27		
	例31-159	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	8.1	7.8	3.6	0.29		
	例31-160	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	7.0	7.0	2.5	0.17		
	例31-161	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	8.5	8.5	3.6	0.40		
	例31-162	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	8.8	8.8	3.8	0.43		
	例31-163	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	8.4	7.7	3.8	0.34		
	例31-164	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	9.2	8.9	3.8	0.48		
	例31-165	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.7	6.4	4.5	0.23		
	例31-166	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	—	—	—	—	6.1	4.0	2.6	0.09	1/3破損	
	例31-167	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.8	6.4	4.0	0.34		
	例31-168	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.9	6.2	3.7	0.17		
	例31-169	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.8	5.8	2.6	0.12		
	例31-170	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.5	6.5	4.0	0.23		
	例31-171	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.1	6.0	3.7	0.19		
	例31-172	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.4	6.4	3.2	0.19		
	例31-173	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	7.0	6.7	4.7	0.29		
例31-174	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	—	—	—	—	5.9	—	3.8	0.11	1/2欠け		
例31-175	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.5	5.5	3.2	0.14			
例31-176	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.1	6.0	4.0	0.21			
例31-177	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.8	6.3	3.6	0.30			
例31-178	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.1	6.1	4.2	0.19			
例31-179	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.9	5.8	3.5	0.16			
例31-180	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.8	5.7	3.4	0.15			
例31-181	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.3	5.3	2.4	0.07			
例31-182	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.3	5.2	3.0	0.10			
例31-183	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.5	5.3	2.4	0.10			
例31-184	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	5.5	5.5	3.2	0.11			
例31-185	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.7	6.6	3.9	0.29			
例31-186	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.2	6.2	3.9	0.21			
例31-187	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.1	5.8	3.4	0.14	欠け		
例31-188	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	7.1	6.9	3.5	0.19			
例31-189	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	7.2	7.1	3.9	0.29			
例31-190	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	7.4	7.2	4.2	0.29			
例31-191	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	7.1	6.9	4.1	0.24			
例31-192	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	7.6	7.6	3.9	0.26			
例31-193	126	R-27	埋藏部	4	玉	1	A-1	—	—	—	6.8	6.6	3.5	0.24			

※分類1：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧表

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	※分類Ⅰ	分類Ⅱ	高 位	(土器/器種(部位))	土器形式	口径	器高	底径	重	備考								
								(玉類)/器種	石材	径	径	量										
								(石器/石製品/骨類)	石材	径	径	量										
								(骨角器)/種名	部位	径	径	量										
(漆・塗)/名称	—	径	径	量																		
P908								A-1	緑泥石器	6.8	6.7	4.5	0.27									
								A-2	緑泥石器	7.2	6.3	3.7	0.21									
								A-1	緑泥石器	7.5	6.9	5.0	0.33									
								A-1	緑泥石器	6.8	6.7	4.5	0.30									
								A-1	緑泥石器	5.6	5.6	3.5	0.13									
								A-1	緑泥石器	6.6	6.4	3.7	0.22									
								A-1	緑泥石器	5.9	5.8	3.3	0.16									
								A-1	緑泥石器	5.8	5.3	2.7	0.09									
								A-1	緑泥石器	5.3	4.9	1.7	0.06									
								A-1	緑泥石器	6.4	6.3	3.1	0.15									
								A-1	緑泥石器	5.2	5.2	1.8	0.07									
								A-1	緑泥石器	6.4	6.0	3.0	0.17									
								A-1	緑泥石器	6.0	5.4	3.4	0.14									
								A-1	緑泥石器	5.8	5.6	3.3	0.11									
								A-1	緑泥石器	5.7	5.1	2.3	0.09									
								A-1	緑泥石器	6.9	6.6	3.9	0.24	土壌水洗								
								A-1	緑泥石器	5.8	5.5	3.5	0.15	土壌水洗								
								A-1	緑泥石器	5.9	5.8	2.9	0.11	土壌水洗								
								A-1	緑泥石器	6.8	3.7	2.8	0.08	土壌水洗(1/2欠)								
								P909								法口	大淵B式相当	5.9	(14.5)	—	—	
																フボ-法口(底)	脚轆山式相当	—	—	1.6	—	
																R-26,27	R-26,27	5	V a	50	27	2
覆土	—	—	—																			
R-26	R-26	5	V a	32	25	1	1									キャリパー	大淵B式相当	—	—	—	—	
																						覆土
R-27	R-27	5	V a	12	1	1	1									鉢	大淵B式相当	11.4	(5.9)	—	—	
																						覆土
R-27	R-27	5	V a	7	3	1	1									鉢	大淵B式相当	12.6	6.6	4.5	—	
																						覆土
R-27	R-27	5	V a	6	1	1	1									?	大淵B式相当	9.5	12.1	3.3	—	
																						覆土
R-26,27	R-26,27	5	V a	1	6	1	1									?	大淵B式相当	8.6	(9.1)	—	—	
																						覆土
R-27	R-27	5	V a	1	4	1	1									?	大淵B式相当	8.0	(7.0)	—	—	
																						覆土
R-27	R-27	5	V a	4	1	1	1									ミニチュア	大淵B式相当	4.9	5.2	1.5	—	
																						覆土
P909																A-1	緑泥石器	7.1	6.4	4.1	0.25	
																A-1	緑泥石器	7.2	6.9	4.6	0.32	
																A-1	緑泥石器	8.4	8.1	3.9	0.27	
																A-1	緑泥石器	8.3	8.1	5.0	0.47	
								A-1	緑泥石器	8.4	8.1	5.4	0.53									
								A-1	緑泥石器	6.4	6.2	3.0	0.15									
								A-1	緑泥石器	5.7	5.7	2.3	0.10									
								A-1	緑泥石器	9.2	8.9	6.1	0.75									
								C-2	緑泥石器	29.0	21.0	11.0	8.08									
								A-1	緑泥石器	9.0	8.2	5.3	0.50									
								D-2	緑泥石器	23.0	12.0	5.7	1.81									

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧表

遺構	調査号	図面記号	組合遺構 グリップ	層位	発見層 I	分類 II	高さ m	(土器) / 器種 (部位)		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	量		備考		
								(玉類) / 器種					石材	口徑 (cm)		厚さ (cm)	重さ (g)
								(石器・石製品) / 器種 (土製品) / 名称 (骨角器) / 種名 (漆・灰) / 名称	部位								
P509	探33-12	131	R-27	灰産部	4	玉	1	C-1b	緑泥石器	18.2	12.0	5.7	1.02				
	探33-13	131	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	8.4	6.4	0.54				
	探33-14	131	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.5	9.1	5.7	0.71				
	探33-15	131	R-27	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	10.4	10.0	5.6	0.63	欠け			
	探33-16	131	R-27	灰産部	4	玉	1	C-2	緑泥石器	24.1	18.1	9.0	4.92				
	探33-17	131	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.8	11.7	7.6	1.46				
	探33-18	131	R-27	灰産部	4	玉	1	C-2	緑泥石器	28.1	18.0	8.6	5.16				
	探33-19	131	R-27	塵土	5	瓦 c	1	漆鉢 (口)	常陸-御殿山式相当	—	—	—	—				
探33-20	131	R-27	塵土	5	瓦 c	1	漆鉢 (胴)	常陸-御殿山式相当	—	—	—	—					
F540	探35-1	132	R-27	敷土中	4	玉類	1	D-1	緑泥石器	23.0	14.0	11.3	4.95				
	探35-2	132	R-27	灰産部	4	石製品	1	E-2	硯	41.0	25.0	7.3	13.03				
	探35-3	132	R-27	灰産部	4	石製品	1	E-3	硯	40.0	30.9	15.7	18.46	洞だれ石 ベンガワ付着			
	探35-4	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.8	8.5	4.2	0.49				
	探35-5	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.4	7.2	3.5	0.28				
	探35-6	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	7.7	4.4	0.39				
	探35-7	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	蛇紋岩	8.6	8.3	4.6	0.49				
	探35-8	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.4	8.7	4.3	0.56				
	探35-9	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.0	8.9	4.3	0.51				
	探35-10	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.6	9.0	4.2	0.49				
	探35-11	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	8.3	3.6	0.29				
	探35-12	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.2	8.4	4.3	0.53				
	探35-13	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.8	8.4	3.9	0.41				
	探35-14	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.1	8.9	4.7	0.57				
	探35-15	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.4	9.3	3.7	0.53				
	探35-16	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.1	9.0	4.1	0.58				
	探35-17	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.6	8.5	3.9	0.48				
	探35-18	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.5	8.2	3.8	0.42				
	探35-19	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.5	9.2	5.1	0.65				
	探35-20	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.3	8.1	5.1	0.46				
	探35-21	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.9	8.9	5.3	0.64				
	探35-22	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.3	9.0	5.2	0.69				
	探35-23	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.5	7.9	4.6	0.36				
	探35-24	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.7	9.3	5.1	0.71				
	探35-25	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.1	8.9	4.6	0.56				
	探35-26	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.7	9.5	5.2	0.74				
	探35-27	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.5	9.3	3.8	0.54				
	探35-28	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.6	9.6	5.0	0.71				
	探35-29	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.6	9.4	5.6	0.69				
	探35-30	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.3	9.1	4.8	0.63				
	探35-31	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.3	9.2	3.2	0.42				
	探35-32	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.6	9.4	4.2	0.58				
	探35-33	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.0	9.8	4.8	0.67				
	探35-34	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.0	7.8	4.2	0.43				
	探35-35	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.3	9.3	4.7	0.63				
	探35-36	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	12.1	11.8	7.0	1.24				
	探35-37	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.7	10.5	5.3	1.01				
	探35-38	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.2	10.0	3.4	0.55				
	探35-39	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.0	9.8	4.8	0.64				
	探35-40	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.3	10.2	5.4	0.79				
	探35-41	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.7	11.5	7.0	1.34				
	探35-42	132	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.7	11.2	5.5	1.05				
探35-43	133	R-27	塵土	輸出面 I-MC層	5	瓦 c	1	漆鉢	御殿山式相当	20.9	13.2	8.2	—	—			
															15		
探35-44	133	R-27	塵土	5	瓦 c	12	12	漆鉢	御殿山式相当	11.6	6.7	5.0	—	—			
探35-45	132	R-27	塵土	5	瓦 c	1	1	漆鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	—			
探35-46	132	R-27	塵土	5	瓦 c	1	1	漆鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	—			
探35-47	132	R-27	塵土	5	瓦 c	1	1	—	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	—			

※分類1：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他



表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧34

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	発見順 I	分類Ⅱ	高 位	(土器/器種(部位))		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚さ (mm)	重さ (g)	備考
								(玉類)/器種	石材							
P511	図28-1	135	R-27	灰産部	1	漆	1	漆塗物	-	-	60.5	-	-	-	-	
	図28-2	135	R-27	灰産部	1	漆	1	漆塗物	-	-	62.0	-	-	-	-	
	図28-3	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.0	7.9	4.2	0.37	-		
	図28-4	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.9	4.1	0.40	-		
	図28-5	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.4	3.2	0.24	-		
	図28-6	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.3	8.2	4.0	0.39	-		
	図28-7	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.0	9.0	4.9	0.61	-		
	図28-8	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.0	9.5	4.3	0.63	-		
	図28-9	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.0	9.5	4.1	0.62	-		
	図28-10	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.0	9.0	5.8	0.78	-		
	図28-11	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.7	9.3	5.0	0.64	-		
	図28-12	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.5	8.9	4.3	0.54	-		
	図28-13	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.4	9.2	4.9	0.64	-		
	図28-14	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.6	8.9	5.2	0.66	-		
	図28-15	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.2	8.5	5.4	0.54	-		
	図28-16	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.1	8.6	3.9	0.48	-		
	図28-17	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.7	8.1	5.3	0.56	-		
	図28-18	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.2	5.1	0.46	-		
	図28-19	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.6	4.4	0.45	-		
	図28-20	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.9	8.6	5.3	0.48	-		
	図28-21	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.2	8.9	5.8	0.66	-		
	図28-22	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	8.8	8.5	5.0	0.55	-		
	図28-23	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.5	8.1	3.8	0.33	-		
	図28-24	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.4	7.3	4.1	0.28	-		
	図28-25	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	ジャスパー	7.0	6.6	4.1	0.26	-		
	図28-26	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.8	7.5	4.5	0.49	-		
	図28-27	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	ジャスパー	8.0	8.0	4.8	0.46	-		
	図28-28	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	7.9	4.9	0.38	-		
	図28-29	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.2	3.3	0.24	-		
	図28-30	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.0	6.8	3.1	0.22	-		
	図28-31	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	9.1	8.8	6.7	0.76	-		
	図28-32	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.5	8.0	4.5	0.41	-		
	図28-33	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.0	8.0	4.8	0.44	-		
	図28-34	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.6	4.2	0.35	-		
	図28-35	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.6	8.3	3.1	0.31	-		
	図28-36	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	8.4	7.9	4.2	0.38	-		
	図28-37	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.8	7.4	3.7	0.31	-		
	図28-38	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	7.8	5.0	0.49	-		
	図28-39	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.8	7.4	3.5	0.30	-		
	図28-40	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.8	7.5	4.3	0.40	-		
	図28-41	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.0	6.8	4.1	0.52	-		
	図28-42	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.4	8.9	4.4	0.56	-		
	図28-43	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.6	8.5	4.8	0.53	-		
	図28-44	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.3	8.1	4.2	0.38	-		
	図28-45	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.8	9.8	5.0	0.69	-		
	図28-46	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.6	9.6	4.1	0.59	-		
	図28-47	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.5	9.2	6.5	0.73	-		
	図28-48	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.8	8.8	6.0	0.69	-		
	図28-49	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.3	9.3	6.0	0.69	-		
	図28-50	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.6	8.3	4.7	0.53	-		
	図28-51	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.2	9.0	4.9	0.60	-		
	図28-52	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	8.2	5.3	0.54	-		
	図28-53	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.2	8.2	4.7	0.46	-		
	図28-54	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	8.4	4.9	0.53	-		
	図28-55	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.0	7.0	5.4	0.33	-		
	図28-56	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.1	7.0	5.3	0.35	-		
	図28-57	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.0	6.9	4.6	0.32	-		
	図28-58	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.3	7.1	5.8	0.39	-		
	図28-59	134	R-27	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	7.8	7.7	5.5	0.43	-		

※分類1：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧③

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	発見部Ⅰ	分類Ⅱ	高 位	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	—	備考		
								(玉類)／器種	石材	口径	底径	厚さ	重さ			
								(石器)／器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ			
								(骨角器)／種名	部位	長さ	幅	厚さ	重さ			
								(漆・他)／名称	—	長さ	幅	厚さ	重さ	(g)		
P511	個128-60	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.0	6.9	5.4	0.33			
	個128-61	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.7	7.7	6.9	0.49			
	個128-62	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	6.5	6.3	5.1	0.25			
	個128-63	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	6.9	6.8	5.2	0.30			
	個128-64	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.7	7.9	6.3	0.48			
	個128-65	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.6	6.4	5.2	0.26			
	個128-66	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.5	7.3	6.1	0.45			
	個128-67	134	R-27	灰地部	4	玉	1	—	緑泥石器	7.0	(5.5)	5.1	0.16	割れ		
	個128-68	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.2	6.1	4.4	0.19			
	個128-69	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.6	6.5	4.7	0.27			
	個128-70	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	8.4	7.4	5.2	0.38			
	個128-71	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.3	7.1	5.8	0.39			
	個128-72	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.0	6.8	5.4	0.31			
	個128-73	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.6	6.4	4.4	0.23			
	個128-74	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	7.7	7.6	5.2	0.44			
	個128-75	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	6.5	6.2	5.0	0.22			
	個128-76	134	R-27	灰地部	4	玉	1	—	緑泥石器	6.0	5.0	4.3	0.12	割れ	破片 4	
	個128-77	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.5	6.5	4.7	0.25			
	個128-78	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.5	6.3	4.6	0.25			
	個128-79	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.6	6.4	5.2	0.28			
	個128-80	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.1	6.0	3.9	0.18			
	個128-81	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.7	6.5	4.5	0.26			
	個128-82	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.2	6.1	4.4	0.21			
	個128-83	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.2	7.1	5.8	0.41			
	個128-84	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.9	7.7	6.4	0.53			
	個128-85	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	8.0	7.7	5.8	0.52			
	個128-86	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	8.1	8.0	5.9	0.52			
	個128-87	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.6	8.4	6.6	0.61			
	個128-88	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	9.0	8.9	7.2	0.76			
	個128-89	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.4	8.1	7.7	0.68			
	個128-90	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	8.2	7.8	6.1	0.55			
	個128-91	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.8	7.4	6.1	0.48			
	個128-92	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	6.4	6.4	5.2	0.27			
	個128-93	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.5	6.4	4.3	0.22			
	個128-94	134	R-27	灰地部	4	玉	1	—	緑泥石器	5.0	4.0	4.8	0.09	割れ	破片 3	
	個128-95	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.0	6.9	5.5	0.34			
	個128-96	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.1	6.0	4.2	0.23			
	個128-97	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	5.4	5.4	3.4	0.11			
	個128-98	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.5	6.5	4.7	0.26			
	個128-99	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.5	7.4	5.9	0.46			
	個128-100	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	7.2	7.1	5.5	0.38			
	個128-101	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.4	6.3	5.1	0.26			
	個128-102	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	7.4	7.1	5.5	0.40			
	個128-103	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	7.6	7.5	5.5	0.45			
	個128-104	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	5.8	5.7	3.6	0.14			
	個128-105	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	5.9	5.7	4.0	0.19			
	個128-106	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	8.2	8.0	6.7	0.58			
	個128-107	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.2	7.2	6.0	0.43			
	個128-108	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	6.8	6.7	5.5	0.31			
	個128-109	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	6.8	6.5	5.2	0.31			
	個128-110	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.7	6.6	5.5	0.30			
	個128-111	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	6.8	6.8	5.7	0.32			
	個128-112	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	6.6	6.5	4.8	0.27			
	個128-113	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	6.5	6.5	5.0	0.28			
	個128-114	134	R-27	灰地部	4	玉	1	—	緑泥石器	—	—	—	—	0.24	割れ	破片 6
	個128-115	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	5.7	5.5	3.5	0.09			
	個128-116	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.7	6.7	5.3	0.28			
	個128-117	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.2	5.9	0.45			
	個128-118	134	R-27	灰地部	4	玉	1	A-4	緑泥石器	6.9	6.7	5.3	0.34			

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品／玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧③6

遺構	回番号	回層号	組合遺構、 グリッド	層位	発見層Ⅰ	分類Ⅱ	高 位	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	—	備考
								(玉類)／器種	石材	長径	幅径	厚さ	重さ	
								(石器、石製品)／器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ	
								(骨角器)／種名	部位	長さ	幅	厚さ	重さ	
								(漆・漆) <td>— <td>長さ <td>幅 <td>厚さ <td>重さ <td></td> </td></td></td></td></td>	— <td>長さ <td>幅 <td>厚さ <td>重さ <td></td> </td></td></td></td>	長さ <td>幅 <td>厚さ <td>重さ <td></td> </td></td></td>	幅 <td>厚さ <td>重さ <td></td> </td></td>	厚さ <td>重さ <td></td> </td>	重さ <td></td>	
P511	0028-109	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-4	埴灰石器	6.8	6.8	6.4	0.38	
	0028-120	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-4	埴灰石器	7.1	7.1	5.7	0.36	
	0028-121	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.2	6.2	5.1	0.29	
	0028-122	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.4	6.2	4.2	0.23	
	0028-123	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.6	6.4	4.4	0.25	
	0028-124	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.6	6.4	5.0	0.29	
	0028-125	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	5.4	5.2	3.8	0.14	
	0028-126	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.4	6.2	4.2	0.21	
	0028-127	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-4	埴灰石器	6.6	6.4	5.3	0.27	
	0028-128	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-4	埴灰石器	6.4	6.4	4.9	0.25	
	0028-129	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.1	6.0	4.3	0.18	
	0028-130	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	7.1	6.5	5.2	0.27	欠け
	0028-131	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-4	埴灰石器	6.8	6.7	5.5	0.31	
	0028-132	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.7	6.6	5.1	0.29	
	0028-133	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.9	6.6	4.8	0.27	
	0028-134	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.5	6.4	4.8	0.26	
	0028-135	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	5.8	5.6	3.7	0.15	
	0028-136	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.4	6.2	4.4	0.23	
	0028-137	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	5.8	5.6	2.9	0.15	
	0028-138	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.1	6.0	4.1	0.19	
	0028-139	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.2	6.1	4.0	0.17	組合
	0028-140	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.2	6.1	4.2	0.21	
	0028-141	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-4	埴灰石器	6.1	6.0	4.9	0.23	
	0028-142	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-4	埴灰石器	6.3	5.9	4.9	0.21	
	0028-143	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.4	6.2	5.0	0.24	
	0028-144	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-4	埴灰石器	6.1	6.0	4.9	0.21	
	0028-145	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.0	6.0	4.5	0.20	
	0028-146	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.1	5.9	4.2	0.19	
	0028-147	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.4	6.3	4.4	0.23	
	0028-148	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.9	6.8	4.8	0.29	
	0028-149	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.8	6.7	5.1	0.33	
	0028-150	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.9	6.7	4.7	0.30	
	0028-151	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.4	6.2	5.0	0.27	
	0028-152	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	7.6	7.4	5.5	0.44	
	0028-153	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	7.1	6.7	5.0	0.29	
	0028-154	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	-	埴灰石器	6.0	4.3	5.0	0.14	割れ
	0028-155	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-2	埴灰石器	6.6	6.5	4.9	0.23	
	0028-156	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	-	埴灰石器	6.0	4.0	1.6	0.04	割れ
	0028-157	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-4	埴灰石器	6.9	6.9	5.3	0.29	
	0028-158	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	-	埴灰石器	6.0	4.8	4.0	0.09	割れ
	0028-159	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.9	6.6	4.3	0.26	
	0028-160	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	8.3	7.7	5.1	0.57	
	0028-161	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	7.7	6.9	5.4	0.43	
	0028-162	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	8.5	8.3	5.6	0.57	
	0028-163	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	8.3	8.2	5.2	0.57	
	0028-164	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	8.8	8.6	5.4	0.61	
	0028-165	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	9.0	8.7	5.3	0.65	
	0028-166	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.9	6.5	4.3	0.31	
	0028-167	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	7.1	6.5	5.0	0.36	
	0028-168	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	7.6	7.1	4.8	0.41	
	0028-169	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.6	6.3	4.8	0.29	
0028-170	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.6	6.2	4.1	0.27		
0028-171	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.0	6.0	3.5	0.22		
0028-172	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	5.7	5.6	3.6	0.17		
0028-173	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	5.6	5.5	3.2	0.15		
0028-174	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	5.7	5.2	3.6	0.16		
0028-175	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	6.0	5.7	4.0	0.21		
0028-176	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	5.4	5.2	3.6	0.14		
0028-177	134	R-27	埴灰部	4	玉	1	A-1	埴灰石器	5.7	5.4	3.5	0.16		

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品／玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(3)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	発見部Ⅰ	分類Ⅱ	高 位	(土器)/器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	—	備考	
								(玉類)/器種	石材	口径	器高	底径	厚さ		重さ
								(石器・石製品)/器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ		
								(骨角器)/名称	部位	長さ	幅	厚さ	重さ		
								(漆・漆)	名称	長さ	幅	厚さ	重さ		
P911	図28-178	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	4.6	4.6	2.8	0.11		
	図28-179	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	4.7	4.4	2.2	0.06		
	図28-180	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	4.8	4.8	2.4	0.08		
	図28-181	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.0	5.0	1.8	0.05		
	図28-182	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.0	4.8	2.9	0.11		
	図28-183	134	R-27	堆積部	4	玉	1	B-1	緑泥石片	6.2	5.0	3.8	0.18		
	図28-184	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.5	4.9	3.5	0.14		
	図28-185	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	6.7	6.3	4.6	0.28		
	図28-186	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	6.0	5.9	3.9	0.21		
	図28-187	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.6	5.0	3.6	0.15		
	図28-188	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.3	5.3	2.6	0.11		
	図28-189	134	R-27	堆積部	4	玉	1	B-1	緑泥石片	6.0	5.0	3.6	0.14	欠け	
	図28-190	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.4	5.2	2.5	0.11		
	図28-191	134	R-27	堆積部	4	玉	1	B-1	緑泥石片	6.5	5.5	3.9	0.19	欠け	
	図28-192	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.7	5.3	3.2	0.15		
	図28-193	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.9	5.5	3.5	0.17		
	図28-194	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	6.0	5.3	3.6	0.20		
	図28-195	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.7	5.1	3.6	0.15		
	図28-196	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	6.0	5.2	4.1	0.19		
	図28-197	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.1	4.9	3.4	0.16		
	図28-198	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.3	5.0	2.8	0.12		
	図28-199	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.5	5.3	3.2	0.16		
	図28-200	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.2	5.1	3.6	0.15		
	図28-201	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.3	5.1	3.6	0.15		
	図28-202	134	R-27	堆積部	4	玉	1	B-1	緑泥石片	6.0	4.6	3.7	0.14		
	図28-203	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.5	4.9	3.0	0.13		
	図28-204	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.5	5.3	2.9	0.13		
	図28-205	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	6.0	5.8	3.7	0.19		
	図28-206	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.7	5.3	3.2	0.15		
	図28-207	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	4.8	4.4	2.5	0.08		
	図28-208	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	4.7	4.6	2.7	0.11		
	図28-209	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	蛇紋岩	5.7	4.9	4.0	0.17		
	図28-210	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.9	5.5	3.7	0.21		
	図28-211	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	6.1	5.9	3.3	0.22		
	図28-212	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.8	5.3	4.0	0.20		
	図28-213	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	6.9	6.5	4.1	0.32		
	図28-214	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	6.8	6.6	4.2	0.27		
	図28-215	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	7.4	7.0	4.9	0.45		
	図28-216	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	7.1	6.6	4.7	0.39		
	図28-217	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	7.6	7.0	5.3	0.46		
	図28-218	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	7.7	7.5	5.4	0.46		
	図28-219	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	7.5	7.2	5.6	0.42		
	図28-220	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	7.6	7.0	5.5	0.48		
	図28-221	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	7.4	6.8	5.1	0.41		
	図28-222	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	8.6	8.2	4.5	0.39		
	図28-223	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	4.3	4.3	1.8	0.06	土俵水洗	
	図28-224	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.3	5.0	3.8	0.12	土俵水洗	
	図28-225	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	5.2	5.1	3.8	0.16	土俵水洗	
	図28-226	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-2	緑泥石片	6.9	6.8	4.8	0.28	土俵水洗	
	図28-227	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-2	緑泥石片	6.8	6.7	4.8	0.28	土俵水洗	
図28-228	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-4	緑泥石片	6.4	6.1	5.0	0.24	土俵水洗		
図28-229	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	6.4	6.2	4.8	0.22	土俵水洗		
図28-230	134	R-27	堆積部	4	玉	1	—	緑泥石片	—	—	—	0.19	割れ 遺片 5 土俵水洗		
図28-231	134	R-27	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	6.3	6.2	4.7	0.21	土俵水洗		
P942	図25-1	135	S-26	堆積部	4	玉	1	—	緑泥石片	6.8	5.0	4.7	0.12	割れ	
	図25-2	135	S-26	堆積部	4	玉	1	A-4	緑泥石片	8.3	7.4	6.3	0.55		
	図25-3	135	S-26	堆積部	4	玉	1	A-2	緑泥石片	10.3	9.8	6.6	0.83		
	図25-4	135	S-26	堆積部	4	玉	1	A-1	緑泥石片	10.6	9.7	8.6	1.26		
	図25-5	135	S-26	堆積部	4	玉	1	A-2	緑泥石片	12.1	11.8	8.5	1.59		

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧表

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	番号類Ⅰ	番号類Ⅱ	高 位	(土器)／器種(部位)		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		備考
								(玉類)／器種	石材				口径	底径	
								(石器、石製品)／器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)		
								(骨角器)／種名	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)		
								(漆・漆)／名称	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)		
P512	研25-6	I35	S-26	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	12.1	11.0	8.0	1.51		
	研25-7	I35	S-26	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	10.9	10.6	7.1	1.04		
	研25-8	I35	S-26	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	9.1	9.0	6.6	0.67		
	研25-9	I35	S-26	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	8.7	8.3	5.1	0.46		
	研25-10	I35	S-27	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	8.6	8.6	5.5	0.55		
	研25-11	I35	S-27	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	7.2	7.2	5.1	0.35		
	研25-12	I35	S-27	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	5.9	5.5	4.8	0.18		
	研25-13	I35	S-27	覆土	5	Ⅴ c	1	漆鉢 (口)	—	—	—	—			
	研29-1	I37	S-28	灰産部	1	Ⅴ	1	環状漆器製品	—	125.0	39.0	—	—		
	研29-2	I36	S-28	覆土	5	Ⅴ c	11	漆鉢	脚盤山式相当	—	—	—	—		
	研29-3	I36	S-28	覆土上 覆土	5	Ⅴ c	5 2	フグ、注口 (口)	脚盤山式相当	7.2	—	—	—		
	研29-4	I37	S-28	覆土	5	Ⅴ c	5	鉢 (腹)	脚盤山式相当	—	—	—	—		
研40-5	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑色凝灰岩	8.5	7.9	4.4	0.26			
研40-6	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	6.9	6.3	4.7	0.25			
研40-7	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	7.6	6.9	4.7	0.28			
研40-8	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	6.6	6.5	3.4	0.18			
研40-9	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	6.7	6.6	3.6	0.21			
研40-10	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	7.5	7.3	4.5	0.33			
研40-11	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	7.7	7.5	4.2	0.32			
研40-12	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.5	4.5	0.36			
研40-13	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	8.3	7.8	4.7	0.42			
研40-14	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	B-1	緑泥石器	8.6	7.1	4.3	0.37			
研40-15	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	10.3	10.3	6.1	0.91			
研40-16	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	イモク化凝灰岩	12.8	12.2	8.1	1.34			
研40-17	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	9.6	9.4	4.8	0.72			
研40-18	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	9.3	9.1	5.1	0.67			
研40-19	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	8.4	7.7	4.4	0.38			
研40-20	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	8.6	8.1	4.6	0.41			
研40-21	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	7.9	7.3	4.5	0.38			
研40-22	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	7.4	7.1	3.7	0.28			
研40-23	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.5	3.9	0.34			
研40-24	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	7.7	7.6	3.5	0.32			
研40-25	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	7.8	6.9	4.3	0.39			
研40-26	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	7.2	7.0	4.5	0.36			
研40-27	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	6.4	6.3	3.9	0.22			
研40-28	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	5.7	5.4	3.1	0.12			
研40-29	I37	S-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	6.8	6.4	4.0	0.23			
研40-30	I37	S-28	覆土	4	Ⅴ	1	A-1	コハク	9.1	8.6	5.4	0.28			
研40-31	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	4.40	4.70	1.05	17.42			
研40-32	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	3.75	3.05	0.75	6.91			
研40-33	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	4.30	4.35	1.10	17.15			
研40-34	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	3.60	4.50	0.80	8.99			
研40-35	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	4.00	4.35	0.75	10.83			
研40-36	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	3.70	3.95	1.20	14.18			
研40-37	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	3.00	5.55	0.65	9.09			
研40-38	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	3.40	5.05	0.65	9.75			
研40-39	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	4.60	7.50	1.60	42.64			
研40-40	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	4.05	5.70	1.15	22.25			
研40-41	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	3.20	4.00	0.60	4.63			
研40-42	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	4.90	3.55	1.00	15.15			
研40-43	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	5.35	4.00	0.80	15.15			
研40-44	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	6.50	3.70	0.85	10.87			
研40-45	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	フレイタ	首袋	7.25	3.75	1.60	24.89			
研40-46	I37	S-28	覆土	3	Ⅴ	1	石皿	安山岩	(26.40)	19.50	9.40	6700			
P514	研41-1	I38	S-28	覆土	5	Ⅴ	23	漆 (底)	北大首式相当	—	(13.3)	7.5	—		
	研41-2	I38	S-28	覆土	5	Ⅴ	6	漆 (底)	北大首式相当	—	8.1	8.2	—		
P515	研42-1	I40	R-28	灰産部	4	Ⅴ	1	石佛	片首	56.3	3.6	2.75	—		
	研42-2	I40	R-28	灰産部	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	15.6	15.5	10.8	3.30		

番号類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品／玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧表

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	発見部 I	分類 II	高さ	(土器/器種(部位))	土器形式	口径	器高	底径	—	備考	
								(玉類)/器種		石材	口径	器高	底径		—
								(石器/石製品/骨類 (土製品)/名称 (骨角器)/種名 (漆・漆)/名称	石材	口径	器高	底径	—		
								部位	口径	器高	底径	—			
P515	図42-3	140	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	13.6	12.7	13.1	3.22	1/2割れ)	
	図42-4	140	R-28	灰産部	4	玉	1	A-3	緑泥石	13.7	12.9	17.0	3.97		
	図42-5	140	R-28	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石	11.9	11.6	8.0	1.14		
	図42-6	140	R-28	灰産部	4	玉	1	—	緑泥石	10.5	7.1	7.9	0.67		
	図42-7	140	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	13.2	12.8	9.6	2.32		
	図42-8	140	R-28	灰産部	4	玉	1	A-6	緑泥石	13.4	12.9	19.3	4.37		
	図42-9	140	R-28	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石	12.5	12.2	8.5	1.89		
	図42-10	140	R-28	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石	11.2	11.1	8.3	1.02		
	図43-11	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	下腹	1.70	0.65	0.35	0.06		
	図43-12	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	下腹	1.75	0.70	0.37	0.08		
	図43-13	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	下腹R3	2.00	0.70	0.37	0.09		
	図43-14	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	F腹L	2.00	0.70	0.40	0.09		
	図43-15	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	F腹R	1.80	0.70	0.40	0.15		
	図43-16	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	上腹L1 or 2	1.45	0.90	0.30	0.11		
	図43-17	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	下腹R3	2.00	0.70	0.40	0.09		
	図43-18	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	F腹L	2.05	0.75	0.42	0.11		
	図43-19	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	F腹R	1.95	0.60	0.40	0.09		
	図43-20	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	下腹	1.85	0.35	0.40	0.04		
	図43-21	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	F腹L	1.70	0.60	0.40	0.07		
	図43-22	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	上腹L1 or 2	1.35	0.85	0.32	0.06		
	図43-23	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	下腹	1.80	0.40	0.35	0.04		
	図43-24	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	下腹R3	2.00	0.65	0.40	0.10		
	図43-25	140	R-28	灰産部	2	サ/漆製品	1	アオサメ	上腹L1 or 2	1.45	0.90	0.30	0.07		
	図43-26	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	首首	4.10	6.25	1.85	24.38		
	図43-27	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	首首	3.40	4.70	0.90	12.54		
図43-28	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	首首	5.90	4.00	1.65	10.15			
図43-29	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	首首	4.55	3.55	1.50	9.58			
図43-30	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	首首	4.20	3.40	1.30	7.48			
図43-31	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	首首	2.50	2.45	1.20	2.92			
図43-32	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	首首	2.55	3.40	0.70	3.21			
図43-33	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	首首	3.40	2.20	1.45	10.55			
図43-34	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	首首	3.50	2.65	0.90	4.29			
図43-35	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	obs	4.80	2.05	1.30	11.63			
図43-36	140	R-28	灰産部	3	銅片	1	フレイク	obs	3.80	1.65	0.95	5.14			
図43-37	140	R-28	灰産部	5	石 c	2	溝跡 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—			
図43-38	140	R-28	灰産部	5	石 c	1	溝跡 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—			
図43-39	140	R-28	灰産部	5	石 c	1	溝跡 (口)	御殿山式相当	—	—	—	—			
図43-40	140	R-28	灰産部	5	石 c	1	跡 (底)	御殿山式相当	—	—	—	—			
P516	図44-1	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.4	7.4	3.9	0.36		
	図44-2	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.2	8.1	4.4	0.36		
	図44-3	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.6	7.3	4.4	0.40		
	図44-4	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.6	7.1	3.6	0.29		
	図44-5	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.5	7.3	3.3	0.34		
	図44-6	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.9	7.4	4.0	0.27		
	図44-7	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.2	7.9	4.4	0.40		
	図44-8	141	R-28	灰産部	4	玉	1	C-1	緑泥石	9.9	7.2	3.8	0.38		
	図44-9	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.6	7.5	4.2	0.37		
	図44-10	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.4	7.1	3.2	0.25		
	図44-11	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.7	8.5	4.9	0.55		
	図44-12	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-2	ヒスイ	8.2	7.7	6.1	0.61		
	図44-13	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-2	緑色凝灰岩	9.7	8.8	6.5	0.66		
	図44-14	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石	9.2	9.1	5.2	0.67		
	図44-15	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.6	9.2	5.6	0.76		
	図44-16	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.1	7.9	4.1	0.43		
	図44-17	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑色凝灰岩	8.7	7.7	5.5	0.30		
	図44-18	141	R-28	灰産部	4	玉	1	B-1	緑泥石	15.0	9.4	5.6	1.20		
	図44-19	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-2	緑色凝灰岩	10.1	9.2	6.5	0.63		
	図44-20	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.1	8.9	5.1	0.62		
図44-21	141	R-28	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石	5.1	4.8	2.3	0.07			

※分類1: 1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧40

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グループ	層位	発見期Ⅰ	分類Ⅱ	高さ [cm]	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	-		備考
								(玉類)／器種		石材	口径 [cm]	器高 [cm]	底径 [cm]	厚さ [mm]	
								(石部)／器種	石材	長さ [mm]	幅 [mm]	厚さ [mm]	重さ [g]		
								(骨角器)／種名	部位	長さ [mm]	幅 [mm]	厚さ [mm]	重さ [g]		
								(漆・他)／名称		長さ [mm]	幅 [mm]	厚さ [mm]	重さ [g]		
P516	図44-22	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	5.2	5.1	2.4	0.08		
	図44-23	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.5	3.8	0.37		
	図44-24	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.6	3.7	0.33		
	図44-25	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.6	4.5	0.43		
	図44-26	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.2	7.2	3.8	0.33		
	図44-27	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.8	7.8	3.5	0.38		
	図44-28	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.1	6.0	2.7	0.13		
	図44-29	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.1	5.9	2.7	0.14		
	図44-30	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	11.1	11.1	5.3	0.96		
	図44-31	141	R-28	灰地部	4	玉	1	B-1	緑色磁気石	13.0	8.0	4.1	0.46		
	図44-32	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	5.1	4.9	2.3	0.07		
	図44-33	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.8	7.7	4.6	0.45		
	図44-34	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.1	7.1	4.0	0.31		
	図44-35	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.6	3.7	0.34		
	図44-36	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.7	6.5	2.0	0.11		
	図44-37	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.8	6.4	2.8	0.17		
	図44-38	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.9	4.3	0.42		
	図44-39	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.7	7.5	3.8	0.39		
	図44-40	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.7	4.1	0.39		
	図44-41	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.8	8.8	4.6	0.55		
	図44-42	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.1	6.9	3.3	0.27		
	図44-43	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.2	7.1	3.7	0.30		
	図44-44	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.1	6.9	3.1	0.23		
	図44-45	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.1	6.8	3.6	0.26		
	図44-46	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.7	6.6	3.0	0.18		
	図44-47	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.8	6.5	2.3	0.15		
	図44-48	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	5.8	5.7	2.5	0.13		
	図44-49	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	5.6	5.5	2.3	0.07		
	図44-50	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.7	6.4	2.6	0.14		
	図44-52	141	R-28	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.0	6.5	3.3	0.21		
	図44-52	141	R-28	灰土	3	網片	1	石籠	obs	2.5	1.6	0.4	0.91		
	P517	図45-1	143	R-29	灰土	5	瓦 c	1	深鉢(胴)	竪林-御殿山式相当	-	-	-	-	
図46-1		143	R-29	灰地部	1	漆	1	漆塗物	-	65.5	95.0	-	-		
図46-2		143	R-29	灰地部	1	漆	1	環状漆塗物	-	113.0	117.5	-	-		
図46-3		143	R-29	灰地部	1	漆	1	環状漆塗物	-	134.0	42.0	-	-		
図46-4		143	R-29	灰地部	4	玉	1	C-2 b	コハク	44.0	26.0	12.5	7.05		
図46-5		143	R-29	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	10.7	9.9	7.8	1.06	破片 2	
図46-6		143	R-29	灰地部	4	玉	1	C-2 b	緑泥石器	31.0	22.5	11.0	7.51		
図46-7		143	R-29	灰地部	4	玉	1	-	緑泥石器	10.3	10.3	-	1.31	破片 5	
図46-8		143	R-29	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	10.7	10.5	6.5	0.94		
図46-9		143	R-29	灰土	5	瓦 c	2	深鉢(口)	竪林-御殿山式相当	-	-	-	-		
図46-10	143	R-29	灰土	5	瓦 c	1	深鉢(胴)	竪林-御殿山式相当	-	-	-	-			
P519	図49-1	145	S-29	灰地部	1	漆	1	漆塗物	-	60.0	86.0	-	-		
	図49-2	145	S-29	灰地部	1	漆	1	漆塗物	-	-	-	-	-		
	図49-3	144	S-29	灰地部	1	漆	1	漆塗物	-	36.0	16.5	-	-		
	図49-4	144	S-29	灰地部	1	漆	1	漆塗物	-	31.0	22.0	-	-		
	図49-5	145	S-29	灰地部	1	漆	1	漆塗物	-	49.5	19.0	-	-		
	図49-6	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	上顎	1.35	0.90	0.25	0.04		
	図49-7	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	下顎	2.10	1.70	0.47	0.16		
	図49-8	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	上顎	1.20	1.10	0.25	0.05		
	図49-9	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	上顎L	1.25	1.15	0.30	0.06		
	図49-10	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	上顎	1.15	1.05	0.25	0.04		
	図49-11	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	上顎L	1.25	1.10	0.25	0.04		
	図49-12	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	上顎	1.45	1.05	0.25	0.04		
	図49-13	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	下顎	0.80	0.55	0.25	0.02		
	図49-14	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	破片(3)	0.58	0.46	0.12	0.01	未実測→実測へ	
	図49-15	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	-	0.55	0.50	0.15	0.01		
	図49-16	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	-	0.65	0.50	0.15	0.01		
	図49-17	145	S-29	灰地部	2	骨角製品	1	ホホヅロサメ	-	0.65	0.55	0.15	0.01		

※分類1: 1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(4)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 ドリット	層位	発見 箇所	分類Ⅱ	高 位	(土器/器種(部位))		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考
								(玉類)/器種	石材							
P519	埋149-18	145	S-29	堆底部	2	*ノコギリ	1	ホホジロザメ	—	0.60	0.35	0.13	0.01			
	埋149-19	145	S-29	堆底部	2	*ノコギリ	1	ホホジロザメ	—	0.87	0.41	0.09	<0.01			
	埋149-20	145	S-29	堆底部	2	*ノコギリ	1	アオザメ	破片(3)	0.90	0.40	0.15	0.01			
	埋149-21	145	S-29	堆底部	2	*ノコギリ	1	ホホジロザメ	下物	0.65	0.33	0.15	0.01			
	埋149-22	145	S-29	堆底部	2	*ノコギリ	1	アオザメ	下物	0.90	0.45	0.25	0.01			
	埋149-23	145	S-29	堆底部	2	*ノコギリ	1	ホホジロザメ	下物	0.55	0.35	0.15	0.01			
	埋149-24	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-4	瀬灰質泥岩	16.6	15.4	12.9	3.95			
	埋149-25	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	10.2	9.9	7.8	0.95			
	埋149-26	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	コハク	8.5	8.4	6.9	0.31			
	埋149-27	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	5.3	5.1	4.0	0.13			
	埋149-28	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	コハク	8.2	7.9	5.9	0.23			
	埋149-29	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.7	9.3	6.5	0.85			
	埋149-30	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.9	9.3	7.3	1.07			
	埋149-31	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	10.0	9.3	8.3	0.89			
	埋149-32	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-4	コハク	10.4	9.8	8.5	0.47			
	埋149-33	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.4	9.3	6.4	0.80			
	埋149-34	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	8.5	8.3	4.9	0.51			
	埋149-35	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	10.0	9.7	7.0	0.99			
	埋149-36	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-2	コハク	7.8	7.6	5.3	0.20			
	埋149-37	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.2	9.0	7.2	0.91			
	埋149-38	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.8	9.7	6.9	1.02			
	埋149-39	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.4	9.1	6.4	0.87			
	埋149-40	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	10.3	9.6	7.1	1.04			
	埋149-41	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	8.6	8.5	5.7	0.66			
	埋149-42	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.5	9.2	6.7	0.87			
	埋149-43	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	コハク	7.3	7.2	6.1	0.18			
	埋149-44	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-2	コハク	9.6	9.4	5.9	0.21	破片3		
	埋149-45	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	コハク	6.6	6.5	4.4	0.07	破片1		
	埋149-46	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	8.9	8.9	6.6	0.84	破片2		
	埋149-47	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	8.1	7.7	5.2	0.45			
	埋149-48	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	コハク	6.3	6.1	3.0	0.06			
	埋149-49	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	瀬灰岩	6.1	5.8	2.7	0.09			
	埋149-50	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	5.8	5.7	2.6	0.10			
	埋149-51	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	5.4	5.4	2.6	0.10			
	埋149-52	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	6.0	5.6	3.0	0.16			
	埋149-53	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	7.6	7.4	3.2	0.24			
	埋149-54	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	5.9	5.9	2.9	0.15			
	埋149-55	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	6.0	5.7	2.8	0.15			
	埋149-56	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	5.3	5.1	3.6	0.10			
	埋149-57	145	S-29	堆底部	4	玉	1	B-1	緑泥石岩	7.7	6.4	4.8	0.30			
	埋149-58	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.7	9.0	7.2	0.85			
	埋149-59	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	7.0	6.7	3.9	0.23			
	埋149-60	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	5.9	5.8	3.5	0.16			
	埋149-61	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-2	緑色凝灰岩	8.6	7.4	5.3	0.33	破片2		
	埋149-62	145	S-29	堆底部	4	玉	1	C-1b	緑泥石岩	23.0	11.0	7.3	2.61			
	埋149-63	145	S-29	堆底部	4	玉	1	B-1	緑色凝灰岩	8.3	6.7	5.2	0.26			
	埋149-64	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.3	9.3	6.1	0.79			
埋149-65	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	10.6	9.9	8.1	1.51				
埋149-66	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	10.7	10.2	5.6	0.93				
埋149-67	145	S-29	堆底部	4	玉	1	B-2	コハク	10.1	8.5	9.9	0.42				
埋149-68	145	S-29	堆底部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	10.0	9.4	7.9	1.13			甕から出土	
埋149-69	145	S-29	堆底部	4	石製品	1	E-3	瀬灰質泥岩	39.7	35.0	19.1	26.60				
埋149-70	145	S-29	甕土	5	甕c	1	漆塗(口)	三ツ角一輪山式甕片	—	—	—	—	—	—	—	
埋149-71	145	S-29	甕土	5	甕c	1	漆塗(口)	三ツ角一輪山式甕片	—	—	—	—	—	—	—	
埋149-72	145	S-29	甕土	5	甕c	1	フゴ(注口)跡	御飯山式甕当	—	—	—	—	—	—	—	
埋147-73	—	S-29	堆底部	2	*ノコギリ	1	ホホジロザメ	破片	—	—	—	—	—	<0.01	未実測	
埋147-74	—	S-29	堆底部	2	*ノコギリ	1	ホホジロザメ	破片	—	—	—	—	—	—	<0.01	未実測
埋147-75	—	S-29	堆底部	2	*ノコギリ	1	ホホジロザメ	破片	—	—	—	—	—	—	<0.01	未実測
埋147-76	—	S-29	堆底部	2	*ノコギリ	1	ホホジロザメ	破片(2)	—	—	—	—	—	—	<0.01	未実測

※分類1: 1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他



表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧42

遺構	回番号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	発見 番号	分類Ⅱ	高さ (cm)	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	—		備考
										(cm)	(cm)	(cm)	長さ (cm)	高さ (cm)	
P519	Ⅷ17-77	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片(2)	—	—	—	<0.00	未実測	
	Ⅷ17-78	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片(2)	—	—	—	<0.00	未実測	
	Ⅷ17-79	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片	—	—	—	<0.00	未実測	
	Ⅷ17-80	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片(7)	—	—	—	<0.00	未実測	
	Ⅷ17-81	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片(2)	—	—	—	<0.00	未実測	
	Ⅷ17-82	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片	—	—	—	<0.00	未実測	
	Ⅷ17-83	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片	—	—	—	<0.00	未実測	
	Ⅷ17-84	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片	—	—	—	<0.00	未実測	
	Ⅷ17-85	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片	—	—	—	<0.00	未実測	
	Ⅷ17-86	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片(4)	—	—	—	<0.00	未実測	
Ⅷ17-87	—	S-29	灰底部	2	ヤ/燗器製品	1	水ホジロサメ	破片	—	—	—	<0.00	未実測		
P520	Ⅷ30-1	146	S-29	覆土	5	瓦 c	1	浅鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	
	Ⅷ30-2	146	S-29	覆土	3	銅片	1	石鍔	obs	3.02	1.40	0.44	0.85	—	
	Ⅷ30-3	146	S-29	覆土上層	3	銅片	1	石鍔	obs	2.10	0.95	0.27	0.36	—	
P521	Ⅷ30-4	146	S-30	覆土	5	瓦 b	2	鉢(底)	手組・ホケツカ式相当	—	—	—	—	—	
	Ⅷ30-5	146	S-30	覆土	3	銅片	1	石鍔	obs	2.88	1.60	0.47	1.25	—	
	Ⅷ30-6	146	S-30	覆土	3	礫石器	1	すり石	安山岩	7.90	5.70	5.90	751	—	
	Ⅷ30-7	146	S-30	覆土	3	礫石器	1	すり石	安山岩	6.70	12.30	4.40	495	—	
	Ⅷ30-8	146	S-30	覆土	3	瓦 b	22	深鉢(底)	手組式相当	—	—	—	—	—	
	Ⅷ30-9	148	R-29	覆土	5	瓦 b	22	深鉢(底)	手組式相当	—	—	—	—	—	
P522	Ⅷ45-1	148	R-29	覆土	5	瓦 b	22	深鉢(底)	手組式相当	—	—	—	—	—	
	Ⅷ45-2	148	R-29	覆土	6	土製品	1	オロシガネ状	—	(10.0)	9.60	1.80	67.71	—	(破片5集合) 置きはハイサムを含む
	Ⅷ52-1	149	R-32	灰底部	1	漆	1	漆塗製品	—	94.0	47.0	—	—	—	
	Ⅷ52-2	149	R-32	灰底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	75.0	—	—	—	—	
	Ⅷ52-3	149	R-32	灰底部	1	漆	1	環状漆塗製品	—	71.0	—	—	—	—	
	Ⅷ52-4	149	R-32	灰底部	1	漆	1	漆塗製品	—	—	—	—	—	—	
	Ⅷ52-5	149	R-32	灰底部	1	漆	1	漆塗製品	—	—	—	—	—	—	
	Ⅷ52-6	150	R-32	(点取り)	5	V a	4	浅鉢	—	—	—	—	—	—	
	Ⅷ52-7	150	R-32	(点取り)	5	V a	1	浅鉢(口)	大洞B式相当	—	—	—	—	—	同一個体
	Ⅷ52-8	150	R-32	(点取り)	5	V a	2	キャリバー形	大洞B式相当	—	—	—	—	—	
P523	Ⅷ52-9	150	R-32	(点取り)	5	V a	12	ツボミニチュア	?	—	—	—	—	—	
	Ⅷ52-10	150	R-32	検出面	3	銅片	1	スクレイパー	首首	10.20	6.20	1.68	79.76	—	
	Ⅷ52-11	150	R-32	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	首首	4.60	3.90	1.32	18.16	—	
	Ⅷ52-12	150	R-32	灰底部	4	石製品	1	ミニ石鏝	安山岩	6.7	6.2	2.7	118.5	—	ペンギラの甲から出土
	Ⅷ52-13	151	P-29	覆土	3	銅片	1	石鏝	首首	3.90	1.20	0.50	2.14	—	S点検合
	Ⅷ52-14	151	P-29	覆土	3	礫石器	1	砥石	砂岩	(仮.30)	(6.5)	(0.90)	53	—	
P530	Ⅷ54-1	151	P-29	覆土	5	瓦	1	深鉢(胴)	—	—	—	—	—	—	
	Ⅷ54-2	151	P-29	覆土	1	瓦 c	1	ミニチュア(底)	御殿山式相当	—	—	—	—	—	1.6
P531	Ⅷ55-1	153	K-28	(点取り)	5	瓦 a	1	実底土器(胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	—	—
	Ⅷ55-2	153	L-30	覆土	5	I b-4	1	深鉢(胴)	東御路式相当	—	—	—	—	—	—
P532	Ⅷ55-3	153	L-30	覆土	5	瓦 c	1	深鉢(胴)	新堀山式相当	—	—	—	—	—	—
	Ⅷ55-4	153	U-34	覆土	5	瓦	1	深鉢(口)	—	—	—	—	—	—	—
P534	Ⅷ58-1	154	P-30	覆土	3	銅片	1	石鍔	obs	(3.2)	(1.6)	(0.45)	1.53	—	
	Ⅷ58-2	154	P-30	覆土	3	銅片	1	石鍔	首首	4.5	2.1	0.35	2.61	—	
	Ⅷ58-3	154	P-30	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	首首	(4.8)	(4.2)	1.0	10.24	—	
	Ⅷ58-4	154	P-30	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	首首	8.9	4.8	1.2	29.46	—	
	Ⅷ58-5	154	P-30	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	首首	10.1	3.3	1.3	24.59	—	
	Ⅷ58-6	154	P-30	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	首首	7.5	2.9	1.4	19.46	—	
	Ⅷ58-7	154	P-30	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	首首	7.9	5.0	1.3	36.59	—	
	Ⅷ58-8	154	P-30	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	8.4	4.9	1.2	72.55	—	
	Ⅷ58-9	154	P-30	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	10.8	4.9	2.3	175.5	—	
	Ⅷ58-10	154	P-30	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	9.5	3.1	1.5	84.57	—	
	Ⅷ58-11	154	P-30	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	6.6	3.2	0.9	31.82	—	
	Ⅷ58-12	154	P-30	覆土	3	礫石器	1	砥石	砂岩	12.0	3.2	1.3	38.71	—	
	Ⅷ58-13	154	P-30	覆土	3	礫石器	1	砥石	砂岩	13.1	11.2	1.05	143.1	—	S点検合
	Ⅷ58-14	154	P-30	覆土	3	礫石器	1	砥石	砂岩	(9.0)	5.1	(1.0)	43.14	—	
	Ⅷ58-15	154	P-30	覆土	3	礫石器	1	砥石	砂岩	6.8	3.65	0.8	25.38	—	
P538	Ⅷ56-1	155	P-29	覆土	5	瓦 c	1	鉢(胴)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	—	

※分類1: 1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧表

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリップ	層位	発見 番号	分類Ⅱ	高 度	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	備考	
								(玉類)／器種	石材	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)		
P539	0606-1	155	U-34	覆土	5	I b-4	1	漆鉢(口)	東洞路B式相当	—	—	—	—	—	H4HP1より
								実底土器	静内中野式相当	14.5	11.45	—	—	H4HP1より	
								石庫	obs	3.8	2.8	0.5	2.25		
								石庫	obs	4.62	3.10	0.79	10.46		
								石庫	obs	4.70	3.50	0.48	7.76		
P540	0609-5	155	L-29	覆土	3	網付	1	スクレイパー	頁岩	5.08	3.90	1.38	19.92	—	
P541	0609-1	157	U-36	覆土	5	I b-4	1	漆鉢(口)	東洞路B式相当	—	—	—	—	—	
P542	0609-1	157	U-36	覆土	5	B a	1	漆鉢(口)	手編式相当	—	—	—	—	—	
P543	0609-1	157	U-36	覆土	5	B a	1	実底(口)	静内中野式相当	—	—	—	—	—	
P544	0609-1	157	U, V-36	覆土	5	D c	1	漆鉢(口)	常林式相当	—	—	—	—	—	
P546	0601-1	157	U-37	覆土	5	B a	1	実底土器(胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	—	
P547	0601-1	158	V-37	覆土	5	Ⅱ	1	漆鉢(胴)	—	—	—	—	—	—	
P548	0601-2	158	L-30	(点取り)	5	B a	1	つまみ付きナイフ	頁岩	7.29	2.85	0.67	13.73	—	
								実底土器(胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	H4HP2-3より	
								つまみ付きナイフ	頁岩	7.7	3.3	1.1	24.55		H4HP2より
P549	0602-1	158	V-36	覆土	5	I b-4	1	漆鉢(胴)	東洞路B式相当	—	—	—	—		
P552	0602-1	159	S-38	灰吹部	1	漆	1	漆塗	—	—	—	—	—		
P553	0604-1	161	R-39	灰吹部	4	Ⅱ	1	A-1	緑泥石器	90.0	73.0	—	—	—	
								A-1	緑泥石器	9.3	9.1	7.4	0.89	—	
								A-1	緑泥石器	8.8	8.4	4.0	0.45	—	
								A-1	緑泥石器	8.7	8.4	4.1	0.52	—	
								B-1	緑泥石器	11.4	9.6	7.7	1.17	—	
								A-1	緑泥石器	9.5	9.1	5.3	0.69	—	
								A-1	緑泥石器	7.7	7.7	8.7	0.52	—	
								A-1	緑泥石器	10.1	9.6	5.0	0.79	—	
								A-1	緑泥石器	8.9	8.8	3.8	0.39	—	
								A-1	緑泥石器	10.3	9.3	6.2	0.90	—	
								A-1	緑泥石器	10.3	9.6	4.9	0.63	—	
								A-1	緑泥石器	8.6	8.0	4.6	0.50	—	
								B-2	緑泥石器	12.6	10.3	11.2	1.89	—	
								A-1	緑泥石器	27.0	15.0	11.9	5.79	—	
								C-1 b	緑泥石器	10.8	10.4	14.8	2.34	—	
								A-6	緑泥石器	12.7	12.3	15.1	2.79	—	
								B-2	緑泥石器	14.5	12.2	19.0	4.81	—	
								C-1	緑泥石器	15.9	10.9	9.4	1.84	—	
								A-6	緑泥石器	13.0	12.2	13.0	2.72	—	
								D-1	緑泥石器	26.9	15.0	12.1	5.82	—	
								A-6	緑泥石器	11.2	9.8	11.6	2.11	—	
								A-1	緑泥石器	8.4	8.0	4.8	0.52	—	
								A-1	ケルタ	8.8	8.2	4.8	0.59	—	
								A-1	緑泥石器	8.6	8.2	4.3	0.49	—	
								A-1	緑泥石器	9.6	9.5	7.4	1.08	—	
								A-1	ケルタ	8.5	7.9	4.0	0.41	—	
								A-1	ケルタ	9.1	8.3	4.1	0.50	—	
								A-1	緑泥石器	10.0	9.5	5.8	0.84	—	
								A-1	緑泥石器	9.5	9.1	5.8	0.81	—	
								A-1	緑泥石器	8.6	7.9	5.5	0.61	—	
								A-1	緑泥石器	7.7	7.5	4.3	0.40	—	
								A-1	緑泥石器	9.4	9.4	5.6	0.89	—	
								A-1	緑泥石器	8.9	8.6	5.4	0.66	—	
								A-1	緑泥石器	8.2	8.2	4.2	0.41	—	
								A-1	緑泥石器	9.0	8.6	4.9	0.52	—	
								A-1	緑泥石器	8.9	8.8	2.7	0.27	—	
								A-1	緑泥石器	9.4	8.9	5.6	0.74	—	
								A-1	緑泥石器	9.1	8.6	6.1	0.79	—	
								A-2	緑泥石器	11.2	10.5	7.4	1.46	—	
								A-1	緑泥石器	9.4	9.1	5.7	0.87	—	
A-1	緑泥石器	9.2	8.7	5.5	0.67	—									

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品／玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧44

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリップ	層位	発見部Ⅰ	分類Ⅱ	高 位	(土器/器種(部位))	土器形式	口径	器高	底径	—	備考		
								(玉類)/器種		石材	口径	器高	底径		厚さ	重さ
								(石部/石製品/器種)	石材	長さ	幅	厚さ	重さ			
								(土製品)/名称	部位	長さ	幅	厚さ	重さ			
								(骨角器)/種名	部位	長さ	幅	厚さ	重さ			
								(漆・他)/名称	部位	長さ	幅	厚さ	重さ			
P503	図64-41	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.2	8.8	5.7	0.76			
	図64-42	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-3	緑泥石岩	7.9	7.0	9.9	0.72			
	図64-43	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-4	赤色凝灰岩	19.8	19.5	15.6	8.39			
	図64-44	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石岩	17.9	16.9	15.8	6.93			
	図64-45	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	18.7	18.2	12.2	6.02			
	図64-46	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-4	緑泥石岩	18.4	17.5	16.1	7.75			
	図64-47	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	20.2	19.9	14.1	8.26			
	図64-48	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	8.7	7.6	5.7	0.65			
	図64-49	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	8.3	8.3	6.3	0.66			
	図64-50	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	8.2	8.1	5.7	0.48			
	図64-51	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	7.9	7.8	5.1	0.44			
	図64-52	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	7.5	7.0	4.1	0.23			
	図64-53	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	14.4	13.3	10.0	2.49			
	図64-54	161	R-39	灰産部	4	玉	1	C-3	緑泥石岩	28.5	18.0	25.0	18.00			
	図64-55	161	R-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	13.1	12.7	8.8	2.33			
	図64-56	161	R-39	灰産部	3	骨角器	1	石斧	掘出	11.6	4.4	1.9	143.1			
	図64-57	161	R-39	覆土	4	石製品	1	石佛	緑色凝灰岩	(37.9)	3.25	2.4	—			
	P504	図66-1	162	S-29	灰産部	1	漆	1	漆塗機	—	60.0	84.0	21.5	—		
		図66-2	162	S-30	灰産部	2	*フタ穿孔品	1	アオサメ	上頸R2	2.25	1.45	0.55	0.56		2.5cm前後 比較的 淨合いの種
		図66-3	162	S-30	灰産部	2	*フタ穿孔品	1	ホホヅロサメ	上頸R2	1.00	1.20	0.25	0.05		
		図66-4	162	S-30	灰産部	2	*フタ穿孔品	1	ホホヅロサメ	下頸	1.65	0.70	0.30	0.05		
		図66-5	162	S-30	灰産部	2	*フタ穿孔品	1	ホホヅロサメ	下頸	1.10	0.70	0.35	0.04		
		図66-6	162	S-30	灰産部	2	*フタ穿孔品	1	ホホヅロサメ	下頸	1.10	0.70	0.30	0.03		
図66-7		162	S-30	灰産部	2	*フタ穿孔品	1	ホホヅロサメ	下頸	1.05	0.55	0.30	0.03			
図66-8		163	S-39	灰産部	4	玉	1	B-2	緑泥石岩	20.0	11.8	16.2	6.67			
図66-9		163	S-39	灰産部	4	玉	1	B-2	緑泥石岩	19.9	12.0	14.1	6.07			
図66-10		163	S-39	灰産部	4	玉	1	B-2	緑泥石岩	16.8	11.1	15.6	6.14			
図66-11		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	12.7	12.6	10.2	2.42			
図66-12		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	14.0	15.5	9.6	2.79			
図66-13		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	15.3	15.3	11.9	4.40			
図66-14		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-6	緑泥石岩	12.6	12.0	12.6	2.69			
図66-15		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	14.0	13.9	11.8	3.75			
図66-16		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	12.2	11.9	8.6	2.01			
図66-17		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	13.6	13.3	9.6	2.70			
図66-18		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	11.8	11.7	6.6	1.39			
図66-19		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	10.1	9.6	6.0	0.81			
図66-20		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	10.3	9.9	5.8	0.90			
図66-21		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	12.2	11.8	6.1	1.26			
図66-22		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	11.5	10.7	7.4	1.44			
図66-23		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	12.8	12.1	8.8	2.15			
図66-24		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	12.2	12.1	8.0	1.89			
図66-25		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	11.1	11.1	7.4	1.48			
図66-26		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	11.7	11.5	6.8	1.46			
図66-27		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	11.3	11.0	7.6	1.40			
図66-28		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	10.6	10.3	6.1	1.12			
図66-29		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.7	9.4	5.6	0.79			
図66-30		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	9.6	9.6	5.5	0.75			
図66-31		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	10.2	9.9	5.6	0.81			
図66-32		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	8.8	7.9	5.3	0.53			
図66-33		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	6.5	6.4	4.2	0.25			
図66-34		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	6.5	6.3	3.9	0.19			
図66-35		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	6.7	6.7	3.2	0.22			
図66-36		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-2	緑泥石岩	6.1	6.1	3.7	0.16			
図66-37		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	7.4	7.4	3.9	0.32			
図66-38		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	5.9	5.8	2.9	0.12			
図66-39		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	5.4	5.2	3.6	0.10			
図66-40		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	5.7	5.6	2.8	0.12			
図66-41		163	S-39	灰産部	4	玉	1	A-1	緑泥石岩	6.5	6.2	3.0	0.19			

※分類1：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧表

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリップ	層位	発見層Ⅰ	分類Ⅱ	高 位	(土器) / 器種 (部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重 さ (g)	備考
								(玉類) / 器種	石材	長径 (cm)	幅径 (cm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
								(石器、石製品) / 器種 (土製品) / 名称 (骨角器) / 種名 (漆・漆) / 名称	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
									部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
P504	個66-02	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.5	6.1	4.1	0.18	
	個66-03	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.5	7.3	3.9	0.27	
	個66-44	163	S-39	灰地部	4	玉	1	B-1	緑泥石器	7.9	6.3	4.9	0.34	
	個66-45	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	9.4	8.7	10.4	1.39	
	個66-46	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	10.4	9.6	7.5	1.08	
	個66-47	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	8.6	8.2	8.6	0.77	
	個66-48	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.5	8.4	5.0	0.52	
	個66-49	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	11.7	11.0	8.4	1.29	
	個66-50	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.6	7.8	7.5	0.83	
	個66-51	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	9.3	8.4	9.4	1.10	ベンガラ付着
	個66-52	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	9.7	9.3	5.9	0.75	
	個66-53	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.5	7.7	8.1	0.92	ベンガラ着色
	個66-54	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-3	緑泥石器	7.4	6.9	7.8	0.54	ベンガラ着色
	個66-55	163	S-39	灰地部	4	玉	1	B-2	緑泥石器	7.8	6.5	8.3	0.62	ベンガラ着色
	個66-56	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	7.5	4.5	0.45	
	個66-57	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.6	8.6	5.3	0.57	
	個66-58	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.7	8.2	3.8	0.43	
	個66-59	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.8	8.4	4.4	0.56	
	個66-60	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.5	8.0	4.6	0.40	欠け
	個66-61	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.4	7.4	5.2	0.46	
	個66-62	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.3	8.0	4.7	0.37	
	個66-63	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	8.4	5.1	0.60	
	個66-64	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.9	8.5	4.9	0.57	
	個66-65	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.7	8.7	5.5	0.63	
	個66-66	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	7.9	5.0	0.53	
	個66-67	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.1	8.0	4.4	0.48	
	個66-68	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	8.4	4.8	0.55	
	個66-69	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.3	8.3	4.5	0.47	
	個66-70	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	7.4	8.1	0.82	
	個66-71	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.8	8.7	4.1	0.54	
	個66-72	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	8.4	7.9	4.6	0.34	
	個66-73	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.2	3.2	0.26	
	個66-74	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	6.2	6.2	2.7	0.15	
	個66-75	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.6	7.1	4.2	0.29	
	個66-76	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	9.0	8.8	6.6	0.80	
	個66-77	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	9.3	9.0	6.1	0.79	
	個66-78	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.8	7.5	4.1	0.39	
	個66-79	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.9	7.8	5.4	0.56	
	個66-80	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	10.7	9.5	10.2	1.72	
	個66-81	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-4	ケルタ	11.7	10.9	9.0	1.84	
	個66-82	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	ケルタ	9.4	9.1	7.3	0.88	
	個66-83	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-6	赤色変質岩	10.6	10.0	11.4	1.40	
	個66-84	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	11.3	11.0	8.5	1.96	
	個66-85	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	ケルタ	9.7	9.7	6.5	0.97	
	個66-86	163	S-39	灰地部	4	玉	1	B-1	緑泥石器	11.0	8.1	6.3	0.90	
	個66-87	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	10.8	9.5	7.6	1.28	
	個66-88	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	7.7	6.7	4.6	0.33	
	個66-89	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	13.8	13.5	8.9	2.69	
	個66-90	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	13.4	12.5	8.5	2.40	
	個66-91	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	12.4	11.9	6.9	1.68	
	個66-92	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	緑泥石器	12.4	12.0	8.1	1.85	
	個66-93	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-2	緑泥石器	11.7	11.3	7.1	1.48	
	個66-94	163	S-39	灰地部	4	玉	1	A-1	ケルタ	10.9	10.5	7.6	1.51	
	個66-95	163	S-39	灰地部	4	玉	1	B-2	緑泥石器	12.3	10.1	10.2	2.00	
P505	個67-1	163	T-39	塵土	5	T a	1	漆跡 (口)	アルトリ式相当	-	-	-	-	
	個67-1	165	S-39	(内取付)	5	B c	33	鉢	常林式相当	9.3	6.1	2.5	-	1号同地蔵
P508	個68-1	165	(内取付)	5	B c	29	鉢	常林式相当	13.7	11.1	2.8	-	1号同地蔵	
	個68-2	165	塵土	5	B c	2	漆跡 (口)	常林式相当	-	-	-	-		
P565	個71-1	168	R-41	塵土	5	V c	2	鉢 (底)	晩期後葉	-	-	-	-	

※分類1: 1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表Ⅴ-1 土坑掲載遺物一覧46

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、グリップ	層位	番号別Ⅰ	分類Ⅱ	点数	(土器)/器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考							
								(玉類)/器種								石材	形状	厚さ (cm)	重さ (g)			
P565	図71-2	168	R-41	覆土	3	礫石部	1	砥石	砂笥	(17.5)	(17.2)	(5.3)	200.0									
								(石部・石製品)/器種	石材	形状	厚さ (cm)	重さ (g)										
								(土製品)/名称	—	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)									
								(骨角器)/種名	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)									
								(漆・灰)/名称	—	—	—	—	—									
								石鏡	obs	2.78	1.51	0.40	1.27									
								銅片	—	6.05	3.11	0.53	9.86									
								つまみ付きナイフ	首首	10.4	7.4	1.53										
								砕石部	A-2	10.2	10.9	8.6	1.65									
								砕石部	A-1	11.2	10.9	8.6	1.65									
								砕石部	A-2	10.8	10.5	7.5	1.31									
								砕石部	—	—	—	—	2.08	本ズミにかじられている								
								砕石部	—	12.9	11.9	—	2.49	本ズミにかじられている								
								砕石部	—	—	—	5.0	2.71	本ズミにかじられている								
								P570	図73-2	170	S-42	覆土	4	玉	1	A-4	砕石部	14.6	14.1	10.9	3.37	
A-4	砕石部	14.6	13.6	13.0	4.09																	
A-4	砕石部	13.6	13.6	12.4	4.41																	
A-1	砕石部	12.8	12.6	10.2	2.38																	
A-4	砕石部	12.5	11.8	9.8	2.22																	
A-2	砕石部	13.7	13.2	8.4	2.43																	
A-1	砕石部	10.2	10.2	8.6	1.79																	
A-2	砕石部	10.7	10.4	6.8	1.09																	
石鏡	obs	2.81	1.15	0.35	0.88																	
深鉢(Ⅰ)	内筒上層式相当	—	—	—	—																	
深鉢(Ⅱ)	—	—	—	—	—																	
骨角器	—	(11.5)	1.4	0.3	—																	
石鏡	obs	2.70	1.48	0.41	1.14																	
石鏡	obs	1.78	1.30	0.21	0.31																	
石鏡	obs	1.85	1.30	0.28	0.50																	
P583	図76-1	177	U-41	覆土	3	銅片	1	石鏡	obs	1.85	1.30	0.28	0.50									
								つまみ付きナイフ	首首	6.2	3.8	0.6	11.47									
								砕石部	A-6	砕石部	17.0	15.8	26.0	10.54								
								覆土	Vc 1	深鉢(Ⅱ)	晩期後葉	—	—	—								
								覆土	Ⅱa 1	実底土器(Ⅰ)	静内中野式相当	—	—	—								
								覆土	I b-1 1	深鉢(Ⅱ)	東園路古式相当	—	—	—								
								砕石部	A-1	砕石部	6.2	6.0	3.9	0.14								
								砕石部	A-1	砕石部	6.0	5.8	3.5	0.14								
								砕石部	A-1	砕石部	6.8	6.5	3.8	0.28								
								覆土	Vc 2	片口(Ⅰ)	—	—	—	—								
								覆土	Vc 3	片口(Ⅱ)	三ツ谷式相当	—	—	—								
								覆土	Vc 2	片口(Ⅰ)	—	—	—	—								
								覆土	Vc 2	鉢(Ⅱ)	堂林式相当	—	—	—								
								覆土	Vc 2	鉢(Ⅱ)	堂林式相当	—	—	—								
								P593	図79-1	180	V-39	覆土2	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	首首	6.70	2.10	0.71	12.98	
石鏡	obs	2.00	1.40	0.37	0.94																	
覆土	Vc 2	鉢(Ⅱ)	堂林式相当	—	—	—																
焼乱	礫石部	1	台石	7.10	9.95	3.55	382															
覆土	Va 1	深鉢(Ⅱ)	タブコフ式相当	—	—	—																
覆土	Vc 3	銅片	1	スクレイパー	—	—	—															
覆土	Vc 2	深鉢(Ⅰ)	首首	4.00	4.49	0.65	15.20															
覆土	Vc 1	深鉢(Ⅱ)	萩+岡2式相当	—	—	—																
覆土	Vc 1	スクレイパー	持首	4.09	2.20	0.99	10.10															
(点取り)	Ⅱa 1	深鉢(Ⅰ)	内筒上層式相当	—	—	—																
(点取り)	Ⅱa 1	深鉢(Ⅰ)	内筒上層式相当	—	—	—																
(点取り)	Ⅱa 1	深鉢(Ⅰ)	内筒上層式相当	—	—	—																
覆土	Vc 3	銅片	1	スクレイパー	obs	4.42	2.25									0.47	4.38					
P609	図83-2	187	S-28	(点取り)	5	Ⅱb	4									深鉢(ⅡZ)	手箱式相当	—	—	—	—	
																S-28 (点取り)	10					
								S-27 M C	2	鉢	堂林式相当	15.6	11.7	4.0	—							
								S-28 Ⅱ-MC型	11													
								S-28 (点取り)	1													
								S-28 Ⅱ-MC型	27	鉢	堂林式相当	24.1	15.1	7.0	—							
								覆土	Vc 6	深鉢(Ⅰ)	手箱式相当	—	—	—								
								覆土	Vc 6	深鉢(Ⅱ)	手箱式相当	—	—	—								
								覆土	Vc 6	深鉢(Ⅰ)	手箱式相当	—	—	—								
								覆土	Vc 6	深鉢(Ⅰ)	手箱式相当	—	—	—								
								覆土	Vc 3	銅片	1	石鏡	obs	2.28	1.15	0.37	0.67					
								P610	図85-1	187	N-29	覆土	5	Ⅱb	1	深鉢(Ⅱ)	萩+岡2式相当	—	—	—	—	

番号別Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(47)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、グリップ	層位	発見部	分類Ⅱ	高数	(土器) / 器種 (部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	—	備考
								(玉類) / 器種	石材	底径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
								(石器、石製品) / 器種 (土製品) / 名称 (骨角器) / 種名 (漆・灰) / 名称	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
P611	0085-1	189	L-28	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁岩	7.20	2.22	0.82	12.35	
P612	0086-1	189	N-29 (点取り)	覆土	5	壘	6	深鉢 (底)	—	—	—	—	—	
P614	0086-1	189	M-33	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	2.20	0.80	0.20	0.34	
	0086-2	189	M-33	覆土	5	V b	1	鉢 (口)	埴期中葉	—	—	—	—	
P615	0086-3	189	M-33	覆土	5	V b	1	鉢 (口)	埴期中葉	—	—	—	—	
	0086-1	189	M-33	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	3.22	2.03	0.48	2.16	
P616	0086-2	189	M-33 (点取り)	覆土	5	V c	1	深鉢 (口)	常林式相当	—	—	—	—	
	0086-3	189	M-33	覆土	5	V b	1	鉢 (底)	埴期中葉	—	—	—	—	
P617	0086-4	189	M-33 (点取り)	覆土	5	V b	1	鉢 (底)	埴期中葉	—	—	—	—	
	0087-1	191	O-28	覆土 (西)	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	obs	4.10	1.60	0.33	2.61	
P618	0087-2	191	O-28	覆土 (西)	5	壘	1	深鉢 (口)	—	—	—	—	—	
	0087-1	191	L-30	覆土	5	I b-4	4	実底土器 (口)	東瀬川式相当	—	—	—	—	
P619	0087-2	191	L-30	覆土	5	I b-4	4	実底土器 (胴)	東瀬川式相当	—	—	—	—	
	0087-3	191	L-30	覆土	5	B a	4	実底土器 (胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	
P620	0087-1	191	L-30	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	3.10	1.88	0.49	1.82	
	0087-2	191	L-30	覆土	5	V c	1	深鉢 (口)	常林-御船山式相当	—	—	—	—	
P621	0087-3	191	L-30	覆土	5	B a	1	実底土器 (口)	静内中野式相当	—	—	—	—	
	0088-1	191	M-34	覆土	5	V c	7	深鉢	三ツ谷-御船山式相当	—	—	—	—	
P622	0088-2	191	M-34	覆土	5	V c	2	フゴ、注口 (胴)	三ツ谷-御船山式相当	—	—	—	—	
	0088-1	193	S-36	覆土	5	壘 b	1	深鉢 (胴)	天神山式相当	—	—	—	—	
P623	0089-1	193	P-31	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	2.00	1.71	0.21	0.31	フローテーション
	0089-2	193	P-31 (点取り)	覆土	5	V c	1	浅鉢 (口)	御船山式相当	—	—	—	—	
P624	0089-3	193	P-31	覆土	5	B a	1	実底土器 (口)	静内中野式相当	—	—	—	—	
	0089-4	193	P-31	覆土	5	B a	1	実底土器 (胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	
P625	0089-1	193	M-29 (点取り)	覆土	5	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁岩	5.90	2.45	0.96	14.36	
P626	0089-1	193	M-30	覆土	5	I b-4	13	実底土器 (口)	東瀬川式相当	17.2	—	—	—	
	0089-2	193	M-30	覆土	5	B a	1	実底土器 (胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	
P629	0089-2	193	M-30	覆土	5	B a	2	実底土器 (胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	
	0090-1	195	N-30	覆土	5	I b-4	3	実底土器 (胴)	東瀬川式相当	—	—	—	—	
P632	0091-1	195	R-36	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	2.80	1.60	0.38	1.01	
	0091-2	195	R-36	覆土 4	3	銅片	1	石鏝	obs	2.60	1.21	0.45	1.34	炭化物集中
P633	0091-3	195	R-36	覆土 4	3	銅片	1	石鏝	obs	2.90	1.25	0.40	1.07	炭化物集中
	0091-4	195	R-36	覆土 4	3	銅片	1	石鏝	obs	2.50	1.28	0.35	0.78	
P634	0091-5	195	R-36	覆土 1	5	B a	1	深鉢 (口)	内筒上層式相当	—	—	—	—	図8・14と同一個体
	0091-6	195	R-36	覆土 4	5	B a	1	深鉢 (口)	内筒上層式相当	—	—	—	—	
P635	0091-7	195	R-36	覆土 4	5	B a	2	深鉢 (口)	内筒上層式相当	—	—	—	—	図12と同一個体
	0091-8	195	R-36	覆土 4	5	B a	1	深鉢 (口)	内筒上層式相当	—	—	—	—	図5・14と同一個体
P636	0091-9	195	R-36	覆土 4	5	B a	2	深鉢 (口)	内筒上層式相当	—	—	—	—	図11と同一個体
	0091-10	195	R-36	覆土 4	5	B a	3	深鉢 (口)	内筒上層式相当	—	—	—	—	
P637	0091-11	195	R-36	覆土 4	5	B a	10	深鉢 (胴)	内筒上層式相当	—	—	—	—	図9と同一個体
	0091-12	195	R-36	覆土 4	5	B a	2	深鉢 (胴)	内筒上層式相当	—	—	—	—	図7と同一個体
P638	0091-13	195	R-36	覆土 4	5	B a	2	深鉢 (胴)	内筒上層式相当	—	—	—	—	
	0091-14	195	R-36	覆土 4	5	B a	4	深鉢 (胴)	内筒上層式相当	—	—	—	—	図5・8と同一個体
P639	0091-15	195	R-36	覆土 4	5	B a	1	深鉢 (底)	内筒上層式相当	—	—	—	—	
	0092-1	197	T-37	覆土	5	B a	1	深鉢 (口)	内筒上層式相当	—	—	—	—	
P640	0093-1	197	S-26	覆土	3	銅片	1	ステレバール	珪岩	4.40	3.00	0.81	10.68	
	0093-2	197	S-26	覆土	3	礫石	1	石皿	安山岩	18.60	21.40	10.90	5250	
P641	0093-3	197	S-26	覆土	3	礫石	1	石皿	安山岩	34.20	18.60	4.20	3600	
	0093-1	197	N-28	覆土	3	礫石	1	すり石	安山岩	5.60	(7.20)	5.00	(285)	焼成
P642	0092-2	197	N-28	覆土	5	B a	3	実底土器 (胴)	静内中野式相当	—	—	—	—	
	0094-1	197	M-33	覆土	5	V b	1	鉢 (底)	埴期中葉	—	—	—	—	
P643	0094-1	199	N-34	覆土	5	V b	1	鉢 (口)	埴期中葉	—	—	—	—	
	0094-2	199	N-34	覆土	5	V b	1	鉢 (底)	埴期中葉	—	—	—	—	
P644	0094-3	199	N-34	覆土	5	V b	1	鉢 (口)	埴期中葉	—	—	—	—	
	0094-4	199	N-34	覆土	5	V c	2	鉢 (底)	三ツ谷-御船山式相当	—	—	—	5.6	

※分類 1：漆製品 2：骨角器 3：石器 4：石製品／玉類 5：土器 6：土製品 7：その他

表Ⅴ-1 土坑掲載遺物一覧48

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	発見 番号	分類Ⅱ	高さ [cm]	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径 [cm]	器高 [cm]	底径 [cm]	底厚 [cm]	底径 [cm]	備考
P640	RI95-1	199	O-37	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	3.80	1.20	1.00	4.50		
	RI95-2	199	O-37	覆土1	5	皿b	2	深鉢(胴)	萩+岡2式相当	-	-	-	-		
	RI95-3	199	N. O-37	覆土1	5	皿b	24	深鉢(口)	萩+岡2式相当	-	-	-	-		
	RI96-4	199	N. O-37	覆土1層 N-37 O-37 II層	5	皿b	34 2 4	深鉢	萩+岡2式相当	30.0	47.3	12.0	-		
P642	RI97-1	199	R-28	覆土	5	片c	1	深鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	-	-	-	-		
	RI97-2	199	R-28	覆土	5	片c	1	深鉢(底)	三ツ谷-御殿山式相当	-	-	-	-		
P644	RI97-1	201	(点取り)	覆土	5	皿a	1	深鉢(胴)	萩+岡2式相当	-	-	-	-		
P645	RI97-1	201	P-32	覆土	5	I b-3	2	深鉢(胴)	中系路式相当	-	-	-	-		
P647	RI98-1	201	T-37	覆土	5	皿a	3	実底土器(胴)	静内中野式相当	-	-	-	-		
P648	RI98-1	201	T-37	覆土	5	皿a	1	実底土器(口)	静内中野式相当	-	-	-	-		
P650	RI99-1	203	Q-37	覆土	5	片c	1	鉢(口)	宮林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
P651	RI99-1	203	P-30	(点取り) 覆土	5	I b-4	2 3	実底土器(胴)	東瀬路式相当	-	-	-	-		
	RI99-1	203	Q-27	覆土	5	片c	1	深鉢(胴)	宮林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
P652	RI99-2	203	Q-27	覆土	5	片c	1	深鉢(胴)	宮林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
P653	RI200-1	203	Q-29	覆土	5	皿b	1	深鉢(口)	宮林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
P654	RI200-1	203	(点取り)	覆土	5	I b-4	1	実底土器(胴)	東瀬路式相当	-	-	-	-		
P655	RI200-1	203	N-32	覆土	5	片c	1	深鉢(口)	宮林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
P656	RI200-2	203	N-32	覆土	5	片c	1	鉢(口)	宮林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
	RI200-3	203	N-32	覆土	5	片c	2	深鉢(胴)	宮林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
P656	RI201-1	205	P-29	(点取り) 覆土	5	I b-4	3 7	実底土器(口)	東瀬路式相当	-	-	-	-		
P658	RI201-1	205	Q-37	覆土	5	片c	1	深鉢(口)	宮林-御殿山式相当	-	-	-	-		
P660	RI202-1	205	Q-35	覆土1層 覆土	5	皿a	1 1	深鉢(胴)	円筒上層式相当	-	-	-	-		
	RI202-1	205	O-30	(点取り)	5	皿a	1	実底土器(胴)	静内中野式相当	-	-	-	-		
P663	RI202-2	207	O-30	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	10.05	4.50	1.60	100		
P665	RI204-1	207	R-35	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁岩	4.08	1.95	0.87	8.45		
	RI204-2	207	R-35	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁岩	9.30	4.40	1.01	36.44		
	RI204-3	207	R-35	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁岩	6.45	2.50	1.22	18.07		
	RI204-4	207	S-35	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁岩	6.99	2.65	0.97	15.99		
	RI204-5	207	R-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	頁岩	5.70	2.00	0.55	6.72		
	RI204-6	207	S-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	頁岩	5.10	3.15	0.88	14.55		
	RI204-7	207	S-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	4.00	2.70	1.05	12.89		
	RI204-8	207	S-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	obs	5.13	2.49	0.34	3.42		
	RI204-9	207	S-35	覆土	3	銅片	1	スクレイパー	頁岩	7.00	3.60	1.27	24.11		
	RI204-10	207	S-35	覆土	3	銅片	1	石槍-ナイフ	頁岩	9.72	3.00	1.29	34.53		
	RI204-11	207	S-35	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	8.91	4.50	1.49	99.58		
	RI205-1	209	O-31	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	(10.0)	(4.4)	2.0	130.3		
	RI205-2	209	O-31	灰底部	2	*ヤハシ	1	ホホヅロサメ	上層土	1.25	1.05	0.25	0.06		
	RI205-3	209	O-31	灰底部	2	*ヤハシ	1	ホホヅロサメ	上層土	1.05	0.90	0.23	0.04		
	RI205-4	209	O-31	灰底部	2	*ヤハシ	1	ホホヅロサメ	上層土	1.60	1.10	0.28	0.13		
	RI205-5	209	O-31	灰底部	2	*ヤハシ	1	ホホヅロサメ	上層土	1.60	1.10	0.30	0.08		
RI205-6	209	O-31	灰底部	2	*ヤハシ	1	ホホヅロサメ	上層土	1.50	1.10	0.30	0.09			
RI205-7	209	O-31	灰底部	2	*ヤハシ	1	ホホヅロサメ	上層土	1.05	0.80	0.23	0.04			
RI205-8	209	O-31	覆土上	4	玉	1	A-2	緑泥石	14.1	12.6	10.1	2.84			
RI205-9	209	O-31	覆土上	4	玉	1	A-2	緑泥石	10.5	9.9	6.4	0.94			
RI205-10	209	O-31	覆土上	4	玉	1	A-2	緑泥石	10.4	10.2	7.5	1.09			
RI205-11	209	O-31	覆土上	4	玉	1	A-2	緑泥石	10.7	10.4	6.9	1.06			
RI205-12	209	O-31	覆土上	4	玉	1	A-1	緑泥石	10.8	10.1	6.4	1.08			
RI205-13	209	O-31	覆土上	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.6	9.5	5.7	0.75			
RI205-14	209	O-31	覆土上	4	玉	1	C-1 b	緑泥石	25.5	12.0	6.0	2.27			
RI205-15	209	O-31	覆土上	4	玉	1	A-1	緑泥石	8.8	8.8	5.9	0.71			
RI205-16	209	O-31	覆土上	4	玉	1	A-2	緑泥石	9.1	8.8	6.3	0.66			
RI205-17	209	O-31	覆土上	4	玉	1	A-2	緑泥石	11.1	9.9	7.0	1.17			

※分類1：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧表

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリッド	層位	発見層 I	分類II	高 位	(土器/器種(部位))	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	備考	
								(玉類)/器種	石材	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)		
P666								(石器/石製品/骨角器) (土製品)/名称 (骨角器)/種名 (漆・他)/名称	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)			
								部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)				
										A-2	縄文石器	11.0	11.0	7.7	1.40	
										A-2	縄文石器	12.0	11.6	7.0	1.53	
										A-2	縄文石器	10.9	10.5	5.7	1.00	
										A-2	縄文石器	12.7	12.3	8.7	2.12	
										A-1	縄文石器	11.3	11.3	9.7	1.67	
										A-1	縄文石器	11.7	11.7	6.8	1.42	
										A-2	縄文石器	12.4	11.5	6.6	1.28	
										A-1	縄文石器	12.7	12.4	10.0	2.42	
										A-3	縄文石器	13.1	12.7	12.9	3.50	
										A-3	縄文石器	14.2	12.4	22.1	6.12	
										A-2	縄文石器	15.7	14.8	8.9	3.37	
										A-2	縄文石器	12.6	12.1	9.3	2.13	
										A-2	縄文石器	13.0	12.2	8.7	1.90	
										A-2	縄文石器	12.1	11.8	8.9	1.95	
										A-1	縄文石器	9.4	9.0	5.2	0.66	
										A-1	縄文石器	13.0	12.9	8.6	1.97	
										C-1	縄文石器	34.0	17.0	11.5	7.33	
										A-2	縄文石器	12.6	11.9	7.6	1.68	
										A-2	縄文石器	11.3	10.8	7.2	1.32	
										A-2	縄文石器	9.4	8.6	5.3	0.61	
										A-2	縄文石器	10.1	10.0	6.6	0.97	
										A-2	縄文石器	10.1	10.0	5.6	0.88	
										A-1	縄文石器	9.4	9.0	5.5	0.69	
		A-2	縄文石器	11.6	11.2	7.1	1.42									
		A-2	縄文石器	14.4	13.9	10.3	2.83									
		A-1	縄文石器	10.8	10.6	7.0	1.26									
		A-6	縄文石器	13.5	12.1	14.0	3.12									
		C-1	縄文石器	26.9	12.9	6.1	2.33									
		A-2	縄文石器	12.3	12.1	7.2	1.59									
		B-1	縄文石器	10.6	8.7	5.8	0.86									
		A-2	縄文石器	8.6	8.2	5.7	0.54									
		A-1	縄文石器	9.2	9.1	5.8	0.70									
P668	R207-1	R-30	(点取り) 魔土	3	B a	30	1	実底土器	東側路式相当	-	-	-	-	-		
P669	R203-2	R-32	(点取り)	5	B c	1	1	つまみ付きナイフ	ob	3.20	3.00	0.75	5.70			
								漆鉢(胴)	笠林-三ツ谷式相当							
P670	R203-1	R-32	(点取り)	5	B	1	1	漆鉢(胴)								
								石皿								
P671	R208-1	R-36	魔土	3	調片	1	1	石皿	ob	1.82	0.70	0.14	0.17			
								漆鉢(口)	静内中野式相当							
P676	R209-1	R-36	魔土	3	調片	1	1	石皿	ob	2.11	1.51	0.33	0.72			
								鉢(底)	晩期中葉							
								鉢(底)	晩期中葉							
								鉢(底)	晩期中葉							
								鉢(底)	晩期中葉							
P678	R209-1	R-35	(点取り)	5	B a	3	1	スクリーパー	ob	4.10	2.99	0.37	5.32			
								実底土器(胴)	静内中野式相当							
P680	R210-1	R-30	魔土	2	B a	3	1	すり石	安山岩	(6.60)	(8.20)	(4.50)	(321)			
								実底土器(口)	静内中野式相当							
P681	R210-1	R-35	魔土	3	調片	1	1	石皿	ob	3.20	1.50	0.56	1.72			
								鉢(口-底)	御殿山式相当							
								漆鉢(口)	御殿山式相当							
								鉢(口)	御殿山式相当							
								鉢(口)	御殿山式相当							
P682	R210-1	R-31	(点取り)	5	B a	1	1	実底土器(胴)	静内中野式相当							
P683	R211-1	R-36	(点取り)	5	B c	1	1	鉢(口)	笠林-御殿山式相当							
P684	R211-1	R-36	魔土	5	B a	2	1	漆鉢(口)	内筒上層式相当							
P688	R212-1	R-46	(点取り)	5	B	1	1	漆鉢(胴)	内筒上層式相当					7.4		

※分類1: 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他



表Ⅴ-1 土坑掲載遺物一覧50

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、グリップ	層位	発見層	分類Ⅱ	数量	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	—	備考
								(玉類)／器種	石材	口径	器高	底径	厚さ	
P689	0212-1	218	V-46	坑底部	4	玉	1	—	コハク	12.0	7.9	5.2	0.28	3号周地盤
	0213-1	218	V-45	坑底部	1	漆	1	漆塗製品	—	—	—	—	—	—
	0213-2	218	V-45	覆土	3	銅片	1	石鏝	百笥	5.00	2.55	0.42	3.64	3号周地盤
P691	0213-3	218	V-45	坑底部	4	石製品	1	石棒	片岩	52.4	7.0	4.95	—	—
	0214-1	218	V-45	覆土	5	■ b	1	漆鉢(胴)	—	—	—	—	—	3号周地盤
P692	0216-1	220	V-45	覆土	5	V c	1	漆鉢	晩期後葉	—	(22.8)	13.8	—	—
	0216-2	220	V-45	覆土	5	V c	27	浅鉢	晩期後葉	—	—	8.1	8.8	—
P693	0216-3	220	V-45	覆土	5	V c	84	漆鉢	晩期後葉	—	—	—	—	—
	0216-4	220	V-45	覆土	3	銅片	1	石鏝	百笥	3.70	1.30	0.41	1.56	ズスファルト付着
	0216-5	220	V-45	覆土	3	銅片	1	スケレイバー	obs	5.09	6.60	1.13	44.29	—
	0214-1	220	N-36	(点取り)	5	■ c	1	漆鉢(口)	釜形・三ツ角式相当	—	—	—	—	—
	0214-2	220	N-36	(点取り)	5	■ a	1	尖底土器(胴)	胴内中野式相当	—	—	—	—	—
P696	0217-1	220	Q、R-66	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	珪岩	5.90	2.40	0.99	14.80	—
P701	0217-2	220	Q-46	覆土	5	■ b	1	漆鉢(口)?	天神山式相当	—	—	—	—	—
	0218-1	223	M-33	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	百笥	6.2	2.8	0.8	9.65	—
P702	0218-2	223	M-33	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	百笥	7.1	1.9	0.8	11.32	—
	0218-3	223	M-33	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	百笥	(4.7)	(3.2)	(0.7)	6.87	—
	0218-4	223	M-33	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	(2.2)	(1.3)	0.2	0.48	—
	0218-5	223	M-33	覆土	3	銅片	1	スケレイバー	obs	4.5	3.9	0.6	6.99	—
	0218-6	223	M-33	覆土	3	銅片	1	スケレイバー	obs	4.5	4.2	1.4	15.75	—
	0218-7	223	M-33	覆土	3	銅片	1	スケレイバー	砂岩	(7.5)	(5.4)	2.8	9.49	—
	0219-1	223	W-41	覆土	5	■ c	1	漆鉢(胴)	晩期後葉	—	—	—	—	—
	0219-2	223	U-44	(点取り)	5	I b-1	4	漆鉢(底)	東御路遺式相当	—	—	—	—	—
	0219-1	225	S-48	坑底	4	石製品	—	石棒	石灰片岩	32.4	4.4	3.7	—	—
	P708	0221-1	225	N-34	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	1.87	1.41	0.23	0.44
0222-2		225	N-34	(点取り)	5	■ b	1	漆鉢(口)	萩+岡2式相当	—	—	—	—	—
P713	0222-3	225	N-34	(点取り)	5	■ b	20	漆鉢(口)	萩+岡2式相当	—	—	—	—	—
	0222-4	225	N-34	(点取り)	5	■ b	1	漆鉢(口)	萩+岡2式相当	—	—	—	—	—
	0222-5	225	N-34	(点取り)	5	■ b	23	漆鉢(底)	萩+岡2式相当	—	—	—	—	—
	0224-1	227	O-31	坑底部	4	玉	1	A-2	緑泥石石	9.6	9.1	5.4	0.67	—
	0224-2	227	O-31	坑底部	4	玉	1	A-4	緑泥石石	11.4	10.7	10.6	1.75	—
	0224-3	227	O-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石石	8.4	8.2	6.8	0.61	—
	0224-4	227	O-31	坑底部	4	玉	1	A-2	緑泥石石	8.6	8.1	6.3	0.61	—
	0224-5	227	O-31	坑底部	4	玉	1	A-4	緑泥石石	9.2	8.9	8.4	0.93	—
	0224-6	227	O-31	坑底部	4	玉	1	C-1 b	緑泥石石	15.2	9.6	8.2	1.33	—
	0224-7	227	O-31	坑底部	4	玉	1	A-2	緑泥石石	10.2	10.0	5.2	0.75	—
P715	0224-8	227	O-31	坑底部	4	玉	1	A-2	緑泥石石	10.8	10.2	5.8	0.98	—
	0224-9	227	O-31	坑底部	4	玉	1	C-2	緑泥石石	22.0	10.0	8.5	0.91	—
	0224-10	227	O-31	坑底部	4	玉	1	C-1 b	緑泥石石	30.5	15.0	6.5	3.12	—
	0224-11	227	O-31	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石石	8.9	7.9	5.4	0.54	—
	0225-1	229	O-32	覆土	3	礫石器	1	すり石	砂岩	7.80	(13.0)	6.10	(657)	—
	0225-2	228	O-32	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	百笥	5.40	3.30	1.12	17.37	—
	0225-3	228	O-32	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	百笥	7.50	2.40	0.54	11.80	—
	0225-4	229	O-32	覆土	3	礫石器	1	石斧	泥岩	16.10	9.80	4.70	1221	—
	0225-5	228	O-32	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	2.35	1.50	0.35	1.12	—
	0225-6	228	P-32	覆土	3	銅片	1	スケレイバー	obs	3.61	1.79	0.59	3.10	—
P716	0225-7	228	P-32	(点取り)	5	■ a	1	尖底土器(胴)	胴内中野式相当	—	—	—	—	—
	0225-8	228	P-32	(点取り)	5	■ a	2	尖底土器(胴)	胴内中野式相当	—	—	—	—	—
P718	0223-1	228	O-31	坑底部	2	*石製品	1	ホシジロヤメ	上層灰	0.95	1.20	0.28	0.05	—
	0223-2	228	O-31	覆土	5	■ c	1	ミニチュア(口)	三ツ角一輪山式相当	—	—	—	—	—
	0223-3	228	O-31	覆土	5	■ c	1	ツボ/注口(胴)	三ツ角一輪山式相当	—	—	—	—	—
P719	0226-1	228	Q-37	覆土	1	銅片	1	つまみ付きナイフ	obs	6.90	2.02	0.83	10.43	—
	0226-2	228	Q-37	(点取り)	5	I b-3	3	漆鉢(胴)	中室路式相当	—	—	—	—	—
P719	0226-1	231	R-37	覆土	2	銅片	1	石鏝	obs	2.11	0.81	0.23	0.33	—

※分類Ⅰ：1.漆製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧(5)

遺構	調査号	区画番号	組合遺構 グリッド	層位	発見期 I	分類II	高 度	(土器) / 器種 (部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	備考
								(玉類) / 器種	石材	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	
P721	R227-1	Z31	Q-37	敷1 (漆器) 漆器 (漆器)	5	I b-4	1	実底土器 (口)	東瀬路V式相当	-	-	-	-	
								(石部) / 器種 / 骨格 (土製品) / 名称 (骨角器) / 種名 (漆・製) / 名称	石材	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	底重 (g)
P722	R227-1	Z31	R-38	覆土 2	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	百官	5.09	2.38	0.50	7.23	
P725	R228-1	Z31	R-38	覆土 5	5	I b-4	1	実底土器 (口)	東瀬路V式相当	-	-	-	-	
P725	R228-2	Z31	S-37	覆土 5	5	I b-4	3	実底土器 (口)	東瀬路V式相当	-	-	-	-	
P726	R228-2	Z31	S-37	覆土 5	5	I b-3	3	漆鉢 (胴)	中茶路式相当	-	-	-	-	
P726	R228-1	Z31	O-31	(点取り)	5	B a	1	実底土器 (胴)	静内中野式相当	-	-	-	-	
P733	R229-1	Z33	N-35	敷1 (漆器) 漆器 (漆器)	5	B c	1	漆鉢 (胴)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
P735	R230-1	Z33	N-35	集	3	銅片	1	石鏝	ebs	2.50	1.29	0.46	1.10	
P736	R230-1	Z35	O-36	覆土 5	5	I b-3	1	漆鉢 (胴)	中茶路式相当	-	-	-	-	
P737	R230-1	Z35	N-36	敷1 (漆器) 漆器 (漆器)	5	I b-4	8	実底土器 (胴)	東瀬路V式相当	-	-	-	-	
P738	R231-1	Z35	N-35	敷1 (漆器) 漆器 (漆器)	5	I b-3	1	漆鉢 (胴)	中茶路式相当	-	-	-	-	
P739	R231-2	Z35	N-35	(点取り) (点取り)	5	I b-4	1	実底土器 (口)	東瀬路V式相当	-	-	-	-	
								(玉類) / 器種	石材	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	底重 (g)
								実底土器 (胴)	東瀬路V式相当	-	-	-	-	-
								石皿	安山岩	25.30	21.00	4.70	3600	
P740	R230-1	Z35	N-35	覆土 3	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	百官	3.90	2.90	0.65	7.46	
								実底土器 (胴)	東瀬路V式相当	-	-	-	-	-
P742	R232-1	Z36	T-38	覆土 3	3	礫石器	1	砥石	砂岩	14.1	10.6	1.5	200.3	
								石斧	蛇紋岩	6.8	5.6	1.2	76.08	
P743	R232-1	Z36	U-40	覆土 5	5	I b-1	1	漆鉢 (口)	東瀬路V式相当	-	-	-	-	
P748	R234-1	Z39	S-40	覆土 5	5	B c	2	鉢 (口)	堂林式相当	-	-	-	-	1号同地蔵
P750	R235-1	Z39	T-40	覆土上 覆土	1	漆	1	漆塗製品	-	40.0	-	-	-	1号同地蔵
								注口	堂林式相当	9.7	18.3	2.6	-	
P752	R235-3	Z39	T-40	覆土 I層	5	B c	17 8	漆鉢	堂林式相当	-	(11.9)	-	-	
								漆鉢 (口)	堂林式相当	13.8	-	-	-	
P752	R236-1	Z41	Q-34	覆土 5	5	B a	2	実底土器 (口)	静内中野式相当	-	-	-	-	
P754	R236-1	Z41	T-40	塚地区	4	玉	1	C-1	緑泥石	26.1	19.0	7.1	4.72	1号同地蔵
								A-7	ヒスイ	9.1	8.8	5.8	0.61	
								A-7	ヒスイ	8.7	8.6	6.8	0.79	
								A-7	ヒスイ	7.6	6.3	0.49		
								A-7	ヒスイ	6.0	6.0	3.9	0.18	破片2 割れ
P759	R238-1	Z43	V-40	覆土 3	3	礫石器	1	石斧	泥岩	14.0	6.0	2.6	384.6	2号同地蔵
P760	R239-1	Z43	Q-44	覆土 5	5	B a	2	実底土器 (胴)	静内中野式相当	-	-	-	-	
								実底土器 (胴)	静内中野式相当	-	-	-	-	
								実底土器 (胴)	静内中野式相当	-	-	-	-	
								実底土器 (口)	静内中野式相当	-	-	-	-	
P761	R238-1	Z43	Q-36,37	覆土 5	5	B c	1	鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
								漆鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
P763	R239-1	Z45	P-36	覆土 5	5	B c	2	鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
P770	R241-1	Z45	R-35	覆土 5	5	I b-4	1	実底土器 (胴)	東瀬路V式相当	-	-	-	-	
P771	R241-1	Z47	O-33	覆土 5	5	B a	1	漆鉢 (胴)	余市式相当	-	-	-	-	
P772	R242-1	Z47	O-33	日廻 礎石 日廻	5	B c	1	ツボ・注口	三ツ谷式相当	13.5	17.4	4.2	-	赤彩あり
								漆鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	図4と同一個体
								漆鉢 (胴)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
								漆鉢 (胴-底)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	図2と同一個体
								漆鉢 (胴)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
P774	R243-1	Z47	P-33	覆土 5	5	B c	1	漆鉢 (胴)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
P775	R243-1	Z47	P-34	覆土 5	5	B c	1	鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
P776	R243-1	Z47	P-34	覆土 5	5	B c	1	漆鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
								漆鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
								漆鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
R243-2	247	P-34	覆土 5	5	B c	1	漆鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
R243-3	247	P-34	覆土 5	5	B c	3	漆鉢 (口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		
R243-4	247	P-34	覆土 5	5	B c	1	ツボ・注口 (胴)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-		

※分類1: 1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧表

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	発見 番号	分類Ⅱ	高 位	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	—	備考		
								(玉類)／器種		石材	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)		厚さ (cm)	重さ (g)
								(石部)／器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)			
								(骨角器)／種名	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)			
								(漆・灰)／名称	—	—	—	—	—	—		
P777	IR244-1	248	O-32	坑底部	1	漆	1	漆塗層	—	63.5	96.5	—	—	—	—	
	IR244-2	249	O-32	埋丸	5	灰 c	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
	IR244-3	249	O-32	覆土	5	灰 b	1	—	—	—	—	—	—	—	—	
P780	IR245-1	249	P-34	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁岩	7.10	2.15	0.82	13.14	—	—	
	P781	IR246-1	250	P-34	坑底部	1	漆	1	漆塗層	—	56.5	72.0	—	—	—	—
IR246-2		250	P-34	坑底部	1	漆	1	漆塗層	—	48.5	76.0	—	—	—	—	
IR247-3		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.55	0.80	0.35	0.07	—	—	
IR247-4		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.42	0.75	0.35	0.06	—	—	
IR247-5		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.25	0.80	0.28	0.04	破片2	—	
IR247-6		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.20	0.95	0.30	0.05	—	—	
IR247-7		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.20	0.85	0.30	0.04	—	—	
IR247-8		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.50	0.80	0.37	0.07	—	—	
IR247-9		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.25	1.00	0.32	0.06	—	—	
IR247-10		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.35	0.80	0.40	0.06	—	—	
IR247-11		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.30	1.00	0.35	0.05	—	—	
IR247-12		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.30	1.00	0.33	0.05	—	—	
IR247-13		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.50	0.72	0.35	0.07	—	—	
IR247-14		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.40	1.05	0.40	0.07	—	—	
IR247-15		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.75	1.05	0.40	0.07	—	—	
IR247-16		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.35	0.65	0.33	0.06	—	—	
IR247-17		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.20	0.80	0.35	0.04	—	—	
IR247-18		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.55	0.90	0.38	0.10	—	—	
IR247-19		249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.50	0.63	0.35	0.06	—	—	
IR247-20	249	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	下脛	1.25	0.75	0.40	0.06	破片3	破片3は、破片2にかきこ られている		
IR247-21	250	P-34	坑底部	4	玉	1	—	緑泥石	—	—	—	1.34	—	—		
IR247-22	250	P-34	坑底部	4	玉	1	B-2	緑泥石	17.3	14.6	15.4	5.55	—	—		
IR247-23	250	P-34	坑底部	4	玉	1	A-6	緑泥石	13.1	12.2	13.8	3.01	—	—		
IR247-24	250	P-34	坑底部	4	玉	1	A-4	緑泥石	13.5	13.2	12.5	2.90	—	—		
IR247-25	250	P-34	坑底部	4	玉	1	A-6	緑泥石	14.0	13.8	19.3	5.28	—	—		
IR247-26	250	P-34	坑底部	4	玉	1	A-4	緑泥石	11.7	11.3	8.9	1.96	—	—		
IR247-27	250	P-34	坑底部	4	玉	1	C-1 b	緑泥石	45.1	12.0	10.5	7.76	—	—		
IR247-28	250	P-34	坑底部	4	玉	1	A-2	緑泥石	12.2	11.6	8.9	1.57	—	—		
IR247-29	250	P-34	坑底部	4	玉	1	B-2	緑泥石	16.5	13.6	17.9	5.33	—	—		
IR247-30	250	P-34	坑底部	4	玉	1	A-4	緑泥石	13.0	11.7	11.6	2.32	—	—		
IR247-31	250	P-34	坑底部	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.2	6.6	4.6	0.98	—	—		
P782	IR246-32	—	P-34	坑底部	2	ヤハシ器品	1	ホホジロザメ	破片	—	—	<0.01	未実測	—	—	
	IR245-1	250	O-32	覆土	5	灰 c	1	漆灰(銅)	三ツ谷一級焼山式相当	—	—	—	—	—	—	
P783	IR245-2	250	O-32	覆土	5	灰 c	1	漆灰(灰)	三ツ谷一級焼山式相当	—	—	—	—	—	—	
	IR247-1	250	P-33	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	3.92	1.40	0.42	1.62	—	—	
P784	IR247-1	250	S-29	覆土	5	I b-4	2	実地土器(銅)	東御路式相当	—	—	—	—	—	—	
	IR249-1	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	B-2	緑泥石	13.9	11.2	18.4	4.11	—	—	
	IR249-2	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	B-2	緑泥石	14.1	10.6	19.2	4.91	—	—	
	IR249-3	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	A-2	緑泥石	9.9	9.8	6.6	0.94	—	—	
	IR249-4	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.3	8.7	5.2	0.69	—	—	
	IR249-5	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	A-1	緑泥石	10.7	10.1	6.6	0.88	—	—	
	IR249-6	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.1	8.9	7.8	0.75	—	—	
	IR249-7	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	A-2	緑泥石	9.8	9.4	6.9	0.64	—	—	
	IR249-8	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	A-1	緑泥石	9.4	9.0	3.3	0.37	—	—	
	IR249-9	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	C-1	緑泥石	21.0	9.9	4.9	1.20	—	—	
	IR249-10	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	—	緑泥石	22.1	9.9	6.2	1.17	破れ 破片4 内2 点とNo34の1点接合	—	
	IR249-11	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	A-2	緑泥石	16.6	16.5	10.9	5.22	—	—	
	IR249-12	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	C-2 b	緑泥石	20.0	12.0	7.5	2.16	—	—	
	IR249-13	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	A-1	カルタ	10.2	9.8	3.4	0.51	—	—	
IR249-14	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	A-2	緑泥石	8.9	8.6	5.2	0.61	—	—		
IR249-15	253	Q-33	覆土中	4	玉	1	A-1	緑泥石	7.8	7.7	6.0	0.35	—	—		

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品／玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表IV-1 土坑掲載遺物一覧表

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリッド	層位	発見層Ⅰ	分類Ⅱ	高さ	(土器)／器種(部位)	土器形式	口径	器高	底径	—	備考		
								(玉類)／器種	石材	口径	器高	底径	厚さ		重さ	
									石材	長さ	幅	厚さ	重さ			
									(骨角器)／種名	部位	長さ	幅	厚さ	重さ		
									(漆・他)／名称	—	長さ	幅	厚さ	重さ		
P787	Ⅸ249-16	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	10.6	9.9	5.6	0.86			
	Ⅸ249-17	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	8.7	8.7	6.0	0.52			
	Ⅸ249-18	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	9.8	9.1	5.9	0.91			
	Ⅸ249-19	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	9.5	8.9	3.8	0.55			
	Ⅸ249-20	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	9.3	9.2	4.9	0.53			
	Ⅸ249-21	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	—	緑泥石器	7.1	4.0	4.8	0.45	割れ片 5 (内2個実測)		
										7.8	6.0	3.0	0.29			
	Ⅸ249-22	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	11.1	10.0	10.5	1.50			
	Ⅸ249-23	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-4	緑泥石器	10.5	10.0	9.8	1.13			
	Ⅸ249-24	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-4	緑泥石器	9.8	9.8	7.7	0.86			
	Ⅸ249-25	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-4	緑泥石器	9.8	8.8	9.0	1.19			
	Ⅸ249-26	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-6	緑泥石器	9.9	9.4	10.3	1.25			
	Ⅸ249-27	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-4	緑泥石器	12.5	12.2	11.3	1.68			
	Ⅸ249-28	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	—	緑泥石器	10.0	8.0	9.3	0.60	割れ		
	Ⅸ249-29	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	13.0	12.9	6.8	1.70			
	Ⅸ249-30	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	12.0	11.8	6.6	1.35			
	Ⅸ249-31	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	10.6	10.0	7.4	1.30			
	Ⅸ249-32	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	11.9	10.8	9.2	1.70			
	Ⅸ249-33	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-4	緑泥石器	11.1	11.0	10.4	1.29			
	Ⅸ249-34	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	—	緑泥石器	8.0	8.0	4.8	0.36	割れ 破片 2内1点 の計と接合		
	Ⅸ249-35	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	9.2	8.7	6.9	0.87			
	Ⅸ249-36	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	10.9	10.5	7.6	1.25			
	Ⅸ249-37	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑色凝灰岩	9.8	9.2	5.7	0.66			
	Ⅸ249-38	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	ケルタ	10.0	9.6	5.4	0.79			
	Ⅸ249-39	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	12.0	10.8	5.7	1.03			
	Ⅸ249-40	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	12.5	12.1	8.3	1.55			
	Ⅸ249-41	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	12.6	11.9	8.2	1.87			
	Ⅸ249-42	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	ケルタ	10.7	9.8	5.4	0.90			
	Ⅸ249-43	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	11.1	11.1	8.6	1.71			
	Ⅸ249-44	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	12.2	12.2	8.4	1.84			
	Ⅸ249-45	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	12.2	12.2	9.0	1.85			
	Ⅸ249-46	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	12.2	12.0	6.8	1.47			
	Ⅸ249-47	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	12.7	12.7	9.8	2.28			
Ⅸ249-48	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	12.1	12.0	4.9	1.16				
Ⅸ249-49	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	12.1	11.6	8.7	1.93				
Ⅸ249-50	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	12.3	12.2	11.0	2.42				
Ⅸ249-51	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	14.1	13.8	9.9	2.55				
Ⅸ249-52	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	12.7	12.6	11.1	2.69				
Ⅸ249-53	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	12.6	12.4	8.6	1.79				
Ⅸ249-54	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-2	緑泥石器	13.0	12.2	9.6	2.19				
Ⅸ249-55	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	12.7	11.7	11.2	2.63				
Ⅸ249-56	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	14.2	14.2	11.9	2.69				
Ⅸ249-57	253	Q-33	覆土中	4	Ⅴ	1	A-1	緑泥石器	14.3	14.2	13.3	4.40				
P789	Ⅸ248-1	252	P-32	覆土	5	Ⅶc	1	漆鉢(口)	笠鉢・三ツ管式相当	—	—	—	—			
	Ⅸ248-1	255	O-31	坑底部	2	Ⅳa	1	赤セロシメ	上頸	1.40	1.40	0.32	0.07			
P793	Ⅸ251-2	255	O-31	坑底部	2	Ⅳa	1	赤セロシメ	上頸	1.30	1.15	0.32	0.07			
	Ⅸ251-3	256	O-31	坑底部	2	Ⅳa	1	赤セロシメ	上頸L	1.23	1.33	0.33	0.09			
	Ⅸ251-4	256	O-31	坑底部	2	Ⅳa	1	赤セロシメ	上頸L4.5,6	2.00	2.15	0.45	0.19			
	Ⅸ251-5	256	O-31	坑底部	2	Ⅳa	1	赤セロシメ	上頸L	1.15	1.25	0.33	0.07			
	Ⅸ251-6	256	O-31	坑底部	2	Ⅳa	1	赤セロシメ	上頸L4.5,6	1.50	1.30	0.33	0.09			
P794	Ⅸ250-1	255	M-30	覆土	3	Ⅵ	1	銅片	石鏝	—	—	—	—			
	Ⅸ250-2	256	M-30	覆土	5	Ⅶb	1	漆鉢(口)	天神山式相当	—	—	—	—			
P797	Ⅸ252-1	256	O-31	覆土	5	Ⅶc	1	フゴ、注口(底)	御殿山式相当	—	—	—	—			
	Ⅸ252-1	257	Q-34	覆土	5	Ⅶc	1	フゴ、注口(腹)	三ツ管-御殿山式相当	—	—	—	—		貼付の所貫通孔	
P799	Ⅸ252-1	257	N-32	坑底部	2	Ⅳa	1	赤セロシメ	上頸	0.60	0.65	0.18	0.01		土質水洗で出土 (フローテーション)	
	Ⅸ252-2	257	N-32	坑底部	4	Ⅴ	1	C-1	コハタ	26.0	9.0	8.3	1.01			

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品／玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表Ⅳ-1 土坑掲載遺物一覧54

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリップ	層位	発見層 I	分類II	高 位	(土器)/器種(部位)	土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底厚 (cm)	備考
								(玉類)/器種	石材	長径 (cm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
P799	9252-3	257	N-32	坑底部	4	玉	1	A-1	コハク	7.7	7.2	6.0	0.14	破片3
	9252-4	257	N-32	坑底部	4	玉	1	A-1	コハク	7.1	6.4	3.8	0.11	
	9252-5	257	N-32	坑底部	4	玉	1	A-2	コハク	8.9	8.1	5.7	0.22	
P800	9253-1	257	N-32	覆土	5	I a	1	漆鉢(胴)	アムトリ式相当	-	-	-	-	
	9253-2	257	N-32	覆土	5	I b-4	1	実成土器(口)	東銅路式相当	-	-	-	-	
	9253-3	257	N-32	覆土	5	骨c	1	漆鉢(底)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
P802	9253-1	257	U-42	(点取り)	5	骨	1	鏝(口)	播文 丸底紀	-	-	-	-	
	9253-2	257	U-42	(点取り)	5	骨	1	鏝(胴)	播文 丸底紀	-	-	-	-	
P804	9254-1	257	N-30	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	1.61	1.40	0.23	0.37	
P806	9254-2	257	N-30	覆土	5	I b-4	2	実成土器(胴)	東銅路式相当	-	-	-	-	
	9255-1	259	O-32	坑底部	4	玉	1	C-2	ヒスイ	20.5	21.0	12.5	17.06	
	9255-2	259	O-32	坑底部	4	玉	1	C-1	ヒスイ	45.0	26.0	25.0	34.76	
P808	9255-3	259	N-O型	覆土	3	礫石器	1	石斧	掘出	16.7	5.3	2.8	440.4	
P809	9256-1	260	O-34	覆土	5	骨c	1	漆鉢(口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
	9256-2	260	O-34	覆土	5	骨c	1	漆鉢(口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
P814	9256-1	260	O-32	坑底部	1	漆	1	漆塗器	-	41.5	82.0	-	-	
	9256-2	260	O-32	覆土	5	骨c	1	漆鉢(胴)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
	9257-1	263	N-32	覆土	5	I b-4	1	実成土器(口)	東銅路式相当	-	-	-	-	
P815	9257-2	263	N-32	覆土	5	骨b	1	漆鉢(口)	森+岡2式相当	-	-	-	-	割れ
	9258-1	263	N-32	坑底部	4	玉	1	A-5	緑泥石	7.1	6.7	21.3	1.40	
	9258-2	263	N-32	坑底部	4	玉	1	A-5	緑泥石	6.8	6.2	22.2	1.31	
	9258-3	263	N-32	坑底部	4	玉	1	A-5	緑泥石	7.0	7.0	22.8	1.37	
	9258-4	263	N-32	坑底部	4	玉	1	A-2	緑色凝灰岩	9.7	9.3	6.5	0.39	
	9258-5	263	N-32	坑底部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	10.1	9.8	6.6	1.09	
	9258-6	263	N-32	坑底部	4	玉	1	A-7	ヒスイ	8.5	8.4	6.7	0.70	
	9258-7	263	N-32	坑底部	4	玉	1	-	緑泥石	10.0	7.0	6.1	0.24	
P817	9259-1	263	M-32	覆土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	obs	4.30	2.60	1.11	11.49	
P818	9259-1	263	O-32	覆土	3	銅片	1	石鏝	obs	3.99	1.85	1.23	5.43	
P824	9259-2	263	O-32	覆土	5	I b-4	1	実成土器(口)	東銅路式相当	-	-	-	-	
	9260-1	265	M-31	覆土	5	骨c	1	漆鉢(口)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
	9260-2	265	M-31	覆土	5	骨c	1	漆鉢(胴)	堂林-三ツ谷式相当	-	-	-	-	
P825	9261-1	265	S-28	覆土	3	礫石器	1	千石	安山岩	8.90	17.80	5.00	1111	
P827	9261-2	265	S-32	覆土	5	I b-3	1	漆鉢(胴)	中条路式相当	-	-	-	-	
P834	9263-1	266	U-41	(点取り)	5	I a	1	漆鉢	アムトリ式相当	-	(10.2)	7.0	-	
	9263-2	266	U-41	覆土	5	I a	3	漆鉢(口)	アムトリ式相当	-	-	-	-	

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表IV-2 遺構別掲載遺物一覧 TP

遺構	調査号	掲載号	組合遺構 グリッド	層位	※分類Ⅰ	分類Ⅱ	点数	(土器)ノ器種(部位)	地文及び主な調整	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重さ (g)	備考
								(玉類)ノ器種	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
								(石器、石製品)ノ器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
								(土製品)ノ名称	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
TP12	9302-2 269	M-18	覆土	5	Ⅱb	2	漆鉢(口)	北流式相当	--	--	--	--		
								漆鉢(胴)	萩+岡2式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(底)	--	--	--	--		
TP13	9302-1 269	L-24	覆土	5	Ⅱb	1	漆鉢(胴)	萩+岡2式相当	--	--	--	--		
								漆鉢(口)	--	--	--	--		
								漆鉢(底)	--	--	--	--		
TP14	9302-2 269	N-20	覆土	5	Ⅱb	1	漆鉢(胴)	萩+岡2式相当	--	--	--	--		
								漆鉢(口)	--	--	--	--		
								漆鉢(底)	--	--	--	--		
TP15	9302-1 269	P-36	覆土	5	Ⅱb	1	漆鉢(口)	萩+岡2式相当	--	--	--	--		
								漆鉢(胴)	萩+岡2式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(底)	萩+岡2式相当	--	--	--	--	
TP16	9302-4 269	U-30	覆土	5	Ⅱb-4	1	実底土器(口)	東海路式相当	--	--	--	--		
								実底土器(胴)	東海路式相当	--	--	--	--	
								実底土器(底)	東海路式相当	--	--	--	--	

表IV-3 遺構別掲載遺物一覧 焼土(I)

遺構	調査号	掲載号	組合遺構 グリッド	層位	※分類Ⅰ	分類Ⅱ	点数	(土器)ノ器種(部位)	地文及び主な調整	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	重さ (g)	備考
								(玉類)ノ器種	石材	長径 (cm)	短径 (cm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
								(石器、石製品)ノ器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
								(土製品)ノ名称	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重さ (g)	
F162	9302-1 272	Q-17	覆土	5	Ⅱa	1	漆鉢(胴部)	糸巾式相当	--	--	--	--		
F163	9302-1 272	R-18	覆土	5	Ⅱc	1	漆鉢(口縁)	堂林式相当	--	--	--	--		
F166	9302-1 272	P-18	覆土	5	Ⅱc	1	漆鉢(口縁)	堂林式相当	--	--	--	--		
F167	9302-1 272	O-18	覆土	5	Ⅱc	1	漆鉢(口縁)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--		
F168	9302-1 271	O-19	フク土	6	土製品	2	土銅片	--	3.90	2.20	0.85	3.76	フローテーション(選別)	
								フコノ注口(底)	--	--	--	--	--	
F169	9302-1 272	O-18	覆土	5	Ⅱc	3	漆鉢(胴部)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--		
								漆鉢(口)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(底)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--	
F170	9302-1 272	P-18	覆土	5	Ⅱc	1	漆鉢(口)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--		
								漆鉢(口)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(底)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--	
F172	9302-1 272	P-16	覆土	5	Ⅱc	1	漆鉢(口)	三ツ谷+御殿山式相当	--	--	--			
F173	9302-1 272	P-16	覆土	5	Ⅱc	1	漆鉢(口)	三ツ谷式相当	--	--	--			
F176	9302-1 272	O-17	覆土	5	Ⅱc	1	漆鉢(底)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--			
F177	9302-1 272	O-17	覆土	5	Ⅱc	5	鉢(口~底)	堂林+三ツ谷式相当	11.2	3.1	5.1	--		
								漆鉢(口)	大淵B式相当	--	--	--	--	
F179	9302-1 272	O-16	Ⅱ層	5	Ⅱa	4	漆鉢(口)	大淵B式相当	--	--	--	--		
								漆鉢(口)	後北C,D	--	--	--	--	
F180	9302-1 272	O-16	覆土	5	Ⅱc	1	ミニチュア(口)	御殿山+大淵B式相当	2.4	--	--	--	ミニチュア	
								漆鉢(口)	三ツ谷+御殿山式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(口)	大淵B式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(口)	三ツ谷+御殿山式相当	--	--	--	--	
F188	9302-1 271	M-19	覆土	2	骨角器	1	骨針	--	(0.30)	0.20	0.15	0.01	フローテーション	
								漆鉢(口)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(胴)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(底)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(口)	後北C,D	--	--	--	--	
F189	9302-1 271	Ⅱ層	4	Ⅱ	Ⅱ	1	緑泥石	緑泥石	0.80	0.79	0.53	0.34		
								漆鉢(口)	御殿山式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(口)	御殿山式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(口)	御殿山式相当	--	--	--	--	
								漆鉢(底)	御殿山式相当	--	--	--	--	
F193	9302-1 272	M-19	覆土	5	Ⅱc	1	漆鉢(口)	堂林+三ツ谷式相当	--	--	--	--		
								漆鉢(底)	三ツ谷+御殿山式相当	--	--	--	--	
F194	9302-1 271	L-19	(Ⅱ)	6	Ⅱ	1	土玉	--	0.60	0.75	0.70	0.26		
								土玉	0.60	0.75	0.70	0.25		
F194	9302-3 272	L-19	覆土	5	Ⅱc	1	漆鉢(口)	御殿山+大淵B式相当	--	--	--	--		
F195	9302-1 272	L-19	覆土	5	Ⅱc	1	漆鉢(口)	堂林+御殿山式相当	--	--	--	--		
F197	9302-1 272	L-19	覆土	5	Ⅱc	2	漆鉢(胴)	堂林+御殿山式相当	--	--	--	--		

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表Ⅳ-3 遺構別掲載遺物一覧 焼土(2)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構 グリップ	層位	発見部Ⅰ	分類Ⅱ	高 位	(土器)／器種(部位)	地文及び主な調整	口径	器高	底径	—	備考
								(玉類)／器種	石材	径長	径長	径長	径長	
F198	90363-1-272			覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-2-272		L-19	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-3-272			覆土	5	瓦c	2	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F203	90363-1-272		R-19	覆土	5	瓦a	1	漆鉢(胴)	タブコブ式相当	—	—	—	—	
	90363-2-272			覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F204	90363-2-272		R-25	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-2-272			覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-3-272			覆土	5	瓦c	1	鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F206	90363-1-271			2	骨角器	1	骨針	—	—	(0.75)	0.30	0.25	0.03	フローテーション
	90363-2-272		Q-22	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
	90363-3-272			覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F208	90363-1-272			覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-2-272		Q-22	覆土	5	瓦c	1	浅鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-3-272			覆土	5	瓦c	2	鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-4-272			覆土	5	瓦c	7	漆鉢(胴)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F210	90363-1-272		R-20	覆土	5	瓦c	1	鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
F215	90363-1-271		P-22	2	骨角器	1	骨針	—	—	(1.10)	0.30	0.25	0.07	フローテーション
F216	90363-1-271		P-22	フク土	5	玉	1	土玉	—	0.45	1.00	1.00	0.42	
	90363-2-271		P-22	フク土	5	玉	1	土玉	—	0.45	1.10	1.10	0.46	
F220	90363-1-272		O-22	覆土	5	瓦a	1	漆鉢(胴)	金市式相当	—	—	—	—	
F221	90363-1-273		O-22	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
F222	90363-1-273		O-22	覆土	5	瓦c	3	漆鉢(胴)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F223	90363-1-273		P-22	覆土	5	瓦	1	漆鉢(胴)	後北C,D	—	—	—	—	
F225	90363-1-273		Q-23	覆土	5	瓦b	1	漆鉢(胴)	—	—	—	—	—	
F226	90363-1-273		Q-23	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-2-273			覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
F227	90363-1-273			覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
F228	90363-1-273		Q-24	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
F231	90363-1-271		S-22	4	玉	1	A-1	縄文石	—	0.60	0.55	0.39	0.15	フローテーション
F232	90363-1-273			覆土	5	瓦c	2	漆鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-2-273		P-23	覆土	5	瓦c	1	フコ(口) 漆(胴)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	ミニチュア
	90363-3-273			覆土	5	瓦	1	漆鉢(口)	後北C,D	—	—	—	—	
F233	90363-1-273		P-23	覆土	5	瓦b	1	漆鉢(口)	坂+岡2式相当	—	—	—	—	
F236	90363-1-273		P-23	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F238	90363-1-273		P-25	覆土	5	瓦c	1	鉢(口)	御殿山-大瀨3式相当	—	—	—	—	
F239	90363-1-271		T-25	フク土	6	玉	1	土玉	—	0.65	0.70	0.65	0.25	フローテーションより
	90363-2-271		T-25	フク土	6	玉	1	土玉	—	0.65	0.80	0.70	0.30	フローテーションより
	90363-3-271		T-25	フク土	6	玉	1	土玉	—	0.60	0.65	0.70	0.22	フローテーションより
	90363-4-273		T-25	覆土	5	瓦c	1	鉢(底)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	1.5
F241	90363-1-273		P-23	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(胴)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
F242	90363-1-271		P-23	復土	6	玉	1	土玉	—	0.30	0.45	0.45	0.07	フローテーションより
F243	90363-1-273		R-22	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(底)	窯林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F245	90363-1-273			覆土	5	瓦c	2	漆鉢(胴)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-2-273		T-23	覆土	5	瓦c	6	漆鉢(胴)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F246	90363-1-273		S-22	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(胴)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F247	90363-1-273		R-25	覆土	5	瓦c	2	漆鉢(胴)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
F248	90363-1-273		R-26	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(胴)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F249	90363-1-273			覆土	5	瓦c	1	鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-2-273		Q-26	覆土	5	瓦c	1	鉢(口)	御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-3-273			覆土	5	瓦	1	漆鉢(口)	北大貫式相当	—	—	—	—	
F251	90363-1-271		Q-22	2	骨角器	1	骨針	—	—	(0.70)	0.45	0.35	0.14	フローテーション
	90363-2-273		Q-22	覆土	5	瓦b	1	漆鉢(口)	繪木川式相当	—	—	—	—	
F255	90363-1-273		S-23	覆土	5	瓦c	2	漆鉢(胴)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F258	90363-1-273		R-25	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F261	90363-1-273			覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-2-273		N-22	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F262	90363-1-273		S-24	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(胴)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F265	90363-1-273		N-20	覆土	5	瓦c	3	漆鉢(胴)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
F266	90363-1-271			2	骨角器	1	骨針	—	—	(0.50)	0.30	0.15	0.01	フローテーション
	90363-2-271			2	骨角器	1	骨針	—	—	(1.00)	0.30	0.25	0.06	フローテーション
	90363-3-273		R-26	覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-4-273			覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	
	90363-5-273			覆土	5	瓦c	1	漆鉢(口)	窯林-御殿山式相当	—	—	—	—	

※分類1:1.塗製品 2.骨角器 3.石器 4.石製品/玉類 5.土器 6.土製品 7.その他

表IV-3 遺構別掲載遺物一覧 焼土③

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、グリップ	層位	発見層 I	分類 II	高数	(土器) / 器種 (部位)	地文及び主な調整	口径	器高	底径	底径	備考	
								(玉類) / 器種	石材	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底径 (cm)		
								(石器) / 器種	石材	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	長さ (mm)		
								(骨角器) / 種名	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	長さ (mm)		
								(漆・漆) / 名称	—	—	—	—	—		
								骨角部	骨針	—	(7, 80)	0.50	0.50	1.23	
F269	R036-1	271	Q-26		2	骨角部	1		手鋸式相当	—	—	—	—		
	R036-2	273			5	Ⅱb	2	深鉢 (脚)	—	—	—	—	—		
F270	R036-1	273	N-21		5	Ⅱc	1	浅鉢 (底)	常林-御殿山式相当	—	—	—	—		
F271	R036-1	273	M-20		5	Ⅱc	2	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-1	273			5	Ⅱc	2	深鉢 (底)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F272	R036-2	273	M-21		5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-3	273			5	Ⅱc	1	鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F274	R036-1	271	N-23	MC中	6	Ⅱ	1	土玉	—	0.75	0.84	0.80	0.46	フロアテーション	
	R036-2	273			5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F277	R036-1	273	M-21		5	Ⅱc	3	深鉢 (脚)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-1	271		MC	6	Ⅱ	1	土玉	—	0.55	0.60	0.60	0.18	フロアテーション	
F278	R036-2	273	O-24		5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-3	273			5	Ⅱc	2	フゴ、注口 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	R036-4	273			5	Ⅱc	3	フゴ、注口 (脚)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
F279	R036-1	274	O-24		5	Va	1	深鉢 (口)	大淵B式相当	—	—	—	—		
	R036-2	274			5	Va	1	深鉢 (脚)	大淵B式相当	—	—	—	—		
	R036-1	271		MC	6	土製品	1	土製垂舟	—	4.35	2.00	0.85	7.15	9/10のその他と複合フロアテーション	
							1	その他	—	—	—	—	—		
	R036-2	274			5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F280	R036-3	274	N-25		5	Ⅱc	1	鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-4	274			5	Ⅱc	1	鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-5	274			5	Ⅱc	2	フゴ、注口 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-6	274			5	Ⅱc	1	深鉢 (脚)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F285	R036-1	274	N-24		5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	R036-2	274			5	Ⅱc	2	鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	R036-3	274			5	Ⅱc	1	鉢 (底)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	2.5		
	R036-4	274			5	Ⅱc	4	深鉢 (底)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	6.0		
	R036-5	274			5	Ⅱc	1	深鉢 (脚)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
F286	R036-1	274	N-24		5	Ⅱc	1	注口 (脚)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-2	274			5	Ⅱc	1	鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-1	274			5	V	1	深鉢 (脚)	畿北C,D	—	—	—	—		
F287	R036-2	274	N-24		5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F288	R036-1	274	O-24		5	Ⅱc	1	鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F289	R036-1	274	M-25		5	Ⅱc	1	鉢 (脚)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F290	R036-1	274	M-25		5	V	1	深鉢 (口)	赤穴式相当	—	—	—	—		
F291	R036-1	271	M-25	MC	6	Ⅱ	1	土玉	—	1.10	1.15	0.50	0.64	フロアテーション	
	R036-2	274			5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F292	R036-1	274	M-25		5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F293	R036-1	274	M-25		5	V	2	深鉢 (脚)	畿北C,D	—	—	—	—		
F294	R036-1	271	M-22	ⅡB	6	Ⅱ	1	土玉	—	(1, 70)	(0, 70)	1.10	1.10	フロアテーション	
	R036-2	271		ⅡB	6	土製品	1	耳輪	—	0.30	0.45	0.40	0.06	フロアテーション	
	R036-3	274			5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-4	274			5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-5	274			5	V	1	深鉢 (脚)	畿北C,D	—	—	—	—		
F295	R036-1	274	M-22		5	Ⅱc	2	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
F296	R036-1	274	M-22		5	Ⅱc	1	鉢 (口)	常林-三ツ谷式相当	—	—	—	—		
	R036-1	274	L-25				4		—	—	—	—	—		
				Ⅰ層	5		3	深鉢 (口)	—	—	—	—	—	同一個体	
				Ⅱ層			6		—	—	—	—	—		
F297	R036-2	274	L-24	Ⅰ層	5	Va	2	深鉢 (口)	大淵B式相当	—	—	—	—		
	R036-3	274	L-25		5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	三ツ谷-御殿山式相当	—	—	—	—		
	R036-1	274					2		—	—	—	—	—		
				Ⅰ層	5		1	深鉢 (口)	—	—	—	—	—	同一個体	
				Ⅱ層			1		—	—	—	—	—		
F299	R036-2	274	L-24	Ⅰ層	5	Va	5	深鉢 (口)	大淵B式相当	—	—	—	—		
	R036-3	274			5		1	深鉢 (脚)	—	—	—	—	—		
				Ⅰ層	5		2	深鉢 (口)	—	—	—	—	—	同一個体	
				Ⅱ層			2		—	—	—	—	—		
	R036-4	274			5	Ⅱc	1	深鉢 (口)	御殿山-大淵B式相当	—	—	—	—		
	R036-5	274			5	Ⅱc	1	浅鉢 (口)	御殿山-大淵B式相当	—	—	—	—		

※分類 1: 漆製品 2: 骨角器 3: 石器 4: 石製品/玉類 5: 土器 6: 土製品 7: その他



表Ⅳ-3 遺構別掲載遺物一覧 焼土(4)

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、グリップ	層位	発見層 I	分類 II	高数	(土器) / 器種 (部位)		土器形式	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	底高 (cm)	重さ (g)	備考
								(玉類) / 器種	石材							
								(石器・石製品 / 骨角器)	石材							
								(骨角器) / 種名	部位							
								(漆・他) / 名称								
F299	0366-6	274	L-24	5	Ⅴc	4	1	キャリバー	新鹿山-大瀬式相当地							
F302	0366-7	274	L-25	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (底)	新鹿山-大瀬式相当地				10.4			
F308	0366-1	275	K-25	5	Ⅴ	1	1	漆鉢 (胴)	新鹿山-大瀬式相当地							
F309	0366-1	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F310	0366-1	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F311	0366-1	271	K-20	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F312	0366-3	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (胴)	宮林-三ツ谷式相当地							
F313	0366-1	271	K-20	6	土製品	1	1	耳栓	新鹿山-大瀬式相当地		4.15	(3.30)	(2.90)	21.92	フロアーテーション	
F314	0366-2	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F315	0366-3	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (胴)	宮林-三ツ谷式相当地							
F316	0366-1	271	K-20	6	土製品	1	1	耳栓	新鹿山-大瀬式相当地		(2.65)	(1.50)	2.75	7.21		
F317	0366-2	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	新鹿山-大瀬式相当地							
F318	0366-3	275	K-20	5	Ⅴa	5	5	浅鉢 (口)	大瀬式相当地							
F319	0366-1	271	K-20	2	骨角器	1	1	環状骨角器	環状骨角器		1.10	0.75	0.40	0.14	フロアーテーション	
F320	0366-2	275	K-20	5	Ⅴc	2	2	漆鉢 (口)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F321	0366-3	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F322	0366-4	275	K-20	5	Ⅴc	3	3	漆鉢 (口)	新鹿山-大瀬式相当地							
F323	0366-5	275	K-20	5	Ⅴc	6	6	漆鉢 (口)	新鹿山-大瀬式相当地							
F324	0366-6	275	K-20	5	Ⅴc	4	4	漆鉢 (胴)	新鹿山-大瀬式相当地							
F325	0366-1	275	K-20	5	Ⅴa	2	2	漆鉢 (口)	大瀬式相当地							
F326	0366-2	275	K-20	5	Ⅴa	1	1	漆鉢 (口)	大瀬式相当地							
F327	0366-3	275	K-20	5	Ⅴa	1	1	漆鉢 (口)	大瀬式相当地							
F328	0366-4	275	K-20	5	Ⅴa	1	1	漆鉢 (口)	大瀬式相当地							
F329	0366-5	275	K-20	5	Ⅴa	3	3	浅鉢 (口)	大瀬式相当地							
F330	0366-6	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	鉢 (口)	大瀬式相当地							
F331	0366-7	275	K-20	5	Ⅴa	3	3	浅鉢 (口)	大瀬式相当地							
F332	0366-8	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	鉢 (口)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F333	0366-7	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	フコ、注口 (胴)	新鹿山-大瀬式相当地							
F334	0366-8	275	K-20	5	Ⅴc	2	2	漆鉢 (底)	新鹿山-大瀬式相当地					8.2		
F335	0366-1	271	K-21	MC	6	玉	1	土玉			0.80	0.97	0.90	0.54	フロアーテーション	
F336	0366-2	271	K-21	MC	6	土製品	1	耳栓			3.46	3.50	1.70	20.72	北埋288に報告	
F337	0366-3	275	K-21	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F338	0366-4	275	K-21	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F339	0366-5	275	K-21	5	Ⅴc	2	2	漆鉢 (胴)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F340	0366-6	275	K-21	5	Ⅴa	2	2	浅鉢 (口)	大瀬式相当地							
F341	0366-7	275	K-21	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (底)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F342	0366-8	275	K-21	5	Ⅴc	5	5	鉢 (胴)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F343	0366-1	275	K-21	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F344	0366-1	271	L-23	Ⅱ	6	玉	1	土玉			0.54	0.65	0.60	0.19	フロアーテーション	
F345	0366-1	275	K-23	5	Ⅴc	3	3	漆鉢 (胴)	新鹿山-大瀬式相当地							
F346	0366-2	275	K-23	5	Ⅴa	2	2	漆鉢 (口)	大瀬式相当地							
F347	0366-3	275	K-23	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (底)	新鹿山-大瀬式相当地							
F348	0366-1	271	K-22	Ⅱ	5	玉	1	土玉			0.60	0.65	0.65	0.22	フロアーテーション	
F349	0366-1	275	K-22	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	三ツ谷-新鹿山式相当地							
F350	0366-2	275	K-20	2	骨角器	1	1	環形骨角器			1.50	0.90	0.40	0.36	フロアーテーション	
F351	0366-3	275	K-20	5	Ⅴc	1	1	鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F352	0366-3	275	L-25	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (胴)	宮林-三ツ谷式相当地							
F353	0366-1	275	K-21	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (胴)	宮林-新鹿山式相当地							
F354	0366-1	275	M-24	5	Ⅴc	3	3	漆鉢 (胴)	宮林-三ツ谷式相当地							
F355	0366-1	275	M-24	5	Ⅴc	3	3	漆鉢 (胴)	宮林-新鹿山式相当地							
F356	0366-1	276	M-24	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (胴)	宮林-新鹿山式相当地							
F357	0366-2	276	M-24	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F358	0366-1	276	O-27	Ⅱ B層上	5	Ⅴc	1	鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F359	0366-1	271	L-26	MC上	6	玉	1	土玉			0.20	0.53	0.50	0.06		
F360	0366-1	276	M-26	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F361	0366-1	276	M-26	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (胴)	宮林-三ツ谷式相当地							
F362	0366-1	276	M-26	5	Ⅴc	1	1	漆鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F363	0366-2	276	O-27	Ⅱ B層	5	Ⅴc	1	漆鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F364	0366-2	276	O-27	Ⅱ B層	5	Ⅴc	1	漆鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F365	0366-3	276	O-27	Ⅱ B層	5	Ⅴc	1	鉢 (胴)	宮林-三ツ谷式相当地							
F366	0366-1	276	O-27	Ⅱ B層上	5	Ⅴc	1	漆鉢 (胴)	宮林-三ツ谷式相当地							
F367	0366-2	276	O-27	Ⅱ B層上	5	Ⅴc	1	漆鉢 (胴)	宮林-三ツ谷式相当地							
F368	0366-1	276	O-27	Ⅱ B層上	5	Ⅴc	1	漆鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							
F369	0366-1	276	O-27	Ⅱ B層上	5	Ⅴb	1	漆鉢 (底)								
F370	0366-1	276	O-27	Ⅱ B層上	5	Ⅴc	1	漆鉢 (口)	宮林-三ツ谷式相当地							

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表IV-3 遺構別掲載遺物一覧 焼土⑤

遺構	調査号	図説番号	組合遺構、グリッド	層位	発見期Ⅰ	分類Ⅱ	点数	(土器)／器種(部位)	地文及び主な調整	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	—	備考
								(玉類)／器種	石材	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(mm)	重さ(g)	
								(石部・石製品)／器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	
								(土製品)／名称	—	—	—	—	—	
								(骨角器)／種名	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	
								(漆・他)／名称	—	—	—	—	—	
F344	0268-1	276	Q-26	Ⅱ層上	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F347	0268-1	276	S-26	焼土下	Ⅱ	Ⅱb	1	注口(胴)	ホツケマ式相当	—	—	—	—	同一個体
	0268-2	276		焼土下	Ⅱ	Ⅱb	1	注口(胴)	—	—	—	—	—	
	0268-3	276		焼土下	Ⅱ	Ⅱc	5	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
	0268-4	276		Ⅱ層上	Ⅱ	Ⅱc	1	ツボ・注口(胴)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F348	0268-1	276	T-26	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(胴)	竇林-御籠山式相当	—	—	—	—	
F349	0268-1	276	T-26	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F354	0268-1	276	S-29	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱb	1	漆跡(胴)	手編式相当	—	—	—	—	
F358	0268-1	276	R-27	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(胴)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F363	0268-1	276	P-28	Ⅱ層下	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F366	0268-1	276	L-26	Ⅱ層上	Ⅱ	Ⅱ	1	漆跡(胴)	龍北C,D	—	—	—	—	
F370	0268-1	276	N-26	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(胴)	三ツ谷-御籠山式相当	—	—	—	—	
F371	0268-1	276	S-27	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱb	1	キヤリバー(口)	手編式相当	—	—	—	—	
F373	0269-1	276	N-27	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱb	1	漆跡(口)	萩+岡2式相当	—	—	—	—	
F375	0269-1	276	O-28	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	鉢(口)	三ツ谷-御籠山式相当	—	—	—	—	
F378	0269-1	276	O-30	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(胴)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F379	0269-1	276	N-31	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱa	1	漆跡(口)	余市式相当	—	—	—	—	
F381	0269-1	276	N-29	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	同一個体
	0269-2	276		Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	2	漆跡(胴)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F382	0269-1	276	N-29	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱb	1	漆跡(胴)	萩+岡2式相当	—	—	—	—	同一個体
	0269-1	276		Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F383	0269-2	276	N-30	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	2	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	同一個体
	0269-3	276		Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	鉢(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
	0269-4	276		Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	3	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F384	0269-1	276	N-31	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	鉢(胴)	三ツ谷-御籠山式相当	—	—	—	—	同一個体
	0269-2	276		Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱa	5	漆跡(口)	余市式相当	—	—	—	—	
	0269-3	276		Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱa	8	漆跡(胴)	—	—	—	—	—	
F385	0269-1	276	M-31	焼土中	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	同一個体
	0269-2	276		焼土中	Ⅱ	Ⅱc	2	漆跡(胴)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F386	0269-1	277	M-31	Ⅱ層上	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F391	0269-1	277	L-30	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱb	1	漆跡(口)	天神山式相当	—	—	—	—	
F393	0269-1	277	L-29	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	鉢(胴)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F394	0269-1	277	L-30	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F395	0269-1	277	Q-27	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱb	1	漆跡(胴)	—	—	—	—		
F396	0269-1	277	L-29	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(胴)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F398	0269-1	277	L-29	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	鉢(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F399	0269-1	277	M-29	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F407	0269-1	277	N-29	Ⅱ層下	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F409	0269-1	277	R-30	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱ	1	漆跡(胴)	—	—	—	—		
F416	0269-1	277	S-30	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(口)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F417	0269-1	277	S-30	Ⅱ層	Ⅱ	I b-4	1	灰底土器(口)	東園路式相当	—	—	—	—	
F418	0269-1	277	R-27	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱc	1	漆跡(胴)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F432	0269-1	277	R-28	Ⅱ層上	Ⅱ	Ⅱb	1	漆跡(口)	萩+岡2式相当	—	—	—	—	目録より
F435	0269-1	277	Q-36	上面	Ⅱ	Ⅱc	1	鉢(胴)	竇林-三ツ谷式相当	—	—	—	—	
F438	0269-1	277	R-28	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱb	1	漆跡(口)	天神山式相当	—	—	—	—	
F441	0269-1	277	N-37	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱ	1	漆跡(胴)	—	—	—	—		
F452	0269-1	277	P-43	Ⅱ層上	Ⅱ	I b-4	1	灰底土器(口)	東園路式相当	—	—	—	—	
F453	0269-1	277	P-32	Ⅱ層	Ⅱ	Ⅱ	1	漆跡(胴)	—	—	—	—		

表IV-4 遺構別掲載遺物一覧 集石

遺構	調査号	図説番号	組合遺構、グリッド	層位	発見期Ⅰ	分類Ⅱ	点数	(土器)／器種(部位)	地文及び主な調整	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	—	備考
								(玉類)／器種	石材	長径(cm)	短径(cm)	厚さ(mm)	重さ(g)	
								(石部・石製品)／器種	石材	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	
								(土製品)／名称	—	—	—	—	—	
								(骨角器)／種名	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	
								(漆・他)／名称	—	—	—	—	—	
集石1	0204-1	269	M-40	Ⅱ層	Ⅲ	礫石部	1	磁き石	編貫岩	5.4	5.2	3.8	173.8	
集石1	0204-2	269	M-40	Ⅱ層	Ⅲ	礫石部	1	磁き石	不明	7.0	6.1	4.8	282.2	
集石1	0204-3	269	M-40	Ⅱ層	Ⅲ	礫石部	1	磁き石	泥岩	9.1	7.1	4.3	322.2	
集石1	0204-4	269	M-40	Ⅱ層	Ⅲ	礫石部	2	磁き石	泥岩	7.3	5.9	1.9	85.8	集合
										8.1	6.5	2.7	210.8	

※分類1: 1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

表Ⅴ-5 遺構別掲載遺物一覧 SP

遺構	調査号	図面番号	組合遺構、 グリップ	層位	発見部	分類Ⅱ	高 位	(土器)/器種(部位)	地文及び主な調整	口径	器高	底径	重さ	備考		
								(玉類)/器種	石材	長径	幅	厚さ	重さ			
								(石製)/器種	石材	長さ	幅	厚さ	重さ			
								(骨角器)/種名	部位	長さ	幅	厚さ	重さ			
								(漆・縄)/名称								
S7225	R020-1	280	M-17	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(口)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7229	R020-1	280	M-21	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(口)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
	R020-1	280	K-19	Ⅴ土	6	土製品		耳杯		2.00	2.01	2.00	9.00			
S7264	R020-2	280	K-19	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	--	--	--	--			
	R020-3	280		Ⅴ土		Ⅴc	1	鉢(口)	三ツ谷-御殿山式相当	--	--	--	--			
S7263	R020-1	280	K-19	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	鉢(底)	三ツ谷-御殿山式相当	--	--	--	--			
S7273	R020-1	280	Q-22	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(胴)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7289	R020-1	280	N-21	Ⅴ土	5	Ⅴc	3	漆跡(口)	三ツ谷-御殿山式相当	--	--	--	--			
S7292	R020-1	280	M-20	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	浅鉢(口)	新磯山-大淵式相当	--	--	--	--			
S7296	R020-1	280	M-22	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	鉢(胴)	三ツ谷-御殿山式相当	--	--	--	--			
S7263	R020-1	280	M-22	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(口)	竈林-御殿山式相当	--	--	--	--			
S7264	R020-1	280	M-22	Ⅴ土	5	Ⅴc	2	漆跡(胴)	竈林-御殿山式相当	--	--	--	--			
S7263	R020-1	280	M-22	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	鉢(口)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7285	R020-1	280	L-22	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(底)	三ツ谷-御殿山式相当	--	--	--	--			
S7289	R020-1	280	L-22	Ⅴ土	5	Ⅴc	2	漆跡(口)	三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7285	R020-1	280	N-24	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(口)	三ツ谷-御殿山式相当	--	--	--	--			
			N-24	Ⅴ土			1									
			M-25	MC罎			1									
S7286	R020-1	280	N-24	MC罎	5	Ⅴc	2	漆跡(口)	三ツ谷-御殿山式相当	--	--	--	--			
			O-25	MC罎			1									
S7303	R020-1	280	M-23	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(口)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7307	R020-1	280	K-23	Ⅴ土	5	Ⅴc	2	漆跡(口)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7336	R020-1	280	K-18	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(口)	竈林-御殿山式相当	--	--	--	--			
S7327	R020-1	280	K-18	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(胴)	竈林-御殿山式相当	--	--	--	--			
S7328	R020-1	280	O-27	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(胴)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7326	R020-1	280	O-28	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(口)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7330	R020-1	280	O-28	Ⅴ土	5	Va	1	鉢(口)	大淵式相当	--	--	--	--			
S7336	R020-1	279	P-35	Ⅴ土	3	礫石器	1	石器未成品	坩堝	20.0	7.7	3.60	830	掘り切痕		
S7336	R021-1	280	O-29	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(胴)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7316	R021-1	280	M-26	Ⅴ土	5	Ⅴc	3	漆跡(胴)	竈林-御殿山式相当	--	--	--	--			
				Ⅴ土			9									
S7333	R021-1	279	M-28	Ⅴ土	5	Ⅴc	5	鉢	竈林-三ツ谷式相当	12.9	8.2	3.7	--			
S7336	R021-1	280	R-28	Ⅴ土	5	Ⅴc	3	漆跡(口)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7336	R021-1	280	N-35	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(口)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7340	R021-1	279	X-38	Ⅴ土	3	礫石器	1	すり石	砂笥	18.6	(9.7)	(4.9)	(480)			
S7340	R021-1	279	V-42	Ⅴ土	3	礫石器	1	砥石	砂笥	13.4	8.1	2.5	305			
S7380	R021-1	279	V-41	Ⅴ土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁巻	6.45	3.4	1.15	15.52			
S7382	R021-1	279	U-41	Ⅴ土	3	銅片	1	つまみ付きナイフ	頁巻	(4.5)	2.2	0.6	(5.46)			
	R021-1	280	W-40	Ⅴ土	5	Ⅴb	1	漆跡(底)	--	--	--	--	--			
S7316	R021-2	279	W-40	Ⅴ土	3	銅片	1	スレイバー	頁巻	3.9	3.8	1.7	21.21			
S7321	R021-1	280	U-39	Ⅴ土	5	Va	1	漆跡(胴)	余布式相当	--	--	--	--			
S7324	R021-1	279	T-39	Ⅴ土	3	銅片	1	石銀	obs	(2.8)	1.7	0.42	(1.51)			
S7384	R021-1	280	N-31	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	鉢(胴)	竈林-御殿山式相当	--	--	--	--			
	R021-1	280		Ⅴ土	5	Ⅴc	3	漆跡(胴)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7384	R021-2	280	N-31	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(口)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7392	R021-1	279	R-35	Ⅴ土	3	礫石器	1	砥石	砂笥	9.8	9.3	2.35	279	2個体		
S7387	R021-1	279	N-32	Ⅴ土	3	礫石器	1	砥石	砂笥	11.9	7.4	2.15	167	2個体		
S7386	R021-1	280	O-32	Ⅴ土	5	Va	1	漆跡(胴)	タブコブ式相当	--	--	--	--			
S7387	R021-1	280	S-28	Ⅴ土	5	Ⅴ	1	漆跡(胴)	--	--	--	--	--			
S7322	R021-1	280	S-29	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(口)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			
S7328	R021-1	280	R-26	Ⅴ土	5	Ⅴc	1	漆跡(胴)	竈林-三ツ谷式相当	--	--	--	--			

※分類Ⅰ：1. 漆製品 2. 骨角器 3. 石器 4. 石製品/玉類 5. 土器 6. 土製品 7. その他

















表IV-6 土坑出土器物一覽(8)

器物 編號	器形	出土 位置	出土 層位	出土 數量	土器			青銅器			鐵器			石器等			其他	備考
					豆	碗	其他	劍	戈	其他	刀	矛	其他	石	骨	其他		
P733	瓦甕	1	1	1														
P734	Q-36 5	1	1	1														
P735	N-35 3	1	1	1														
P736	N-35 3	1	1	1														
P737	N-36 5	1	1	1														
P738	S-35 3	1	1	1														
P739	S-35 3	1	1	1														
P740	S-35 3	1	1	1														
P741	S-35 3	1	1	1														
P742	S-35 3	1	1	1														
P743	U-36 4	1	1	1														
P744	U-36 3	1	1	1														
P745	U-36 3	1	1	1														
P746	U-35 3	1	1	1														
P747	S-35 3	1	1	1														
P748	S-35 3	1	1	1														
P749	S-35 3	1	1	1														
P750	S-35 3	1	1	1														
P751	T-35 3	1	1	1														
P752	Q-36 3	1	1	1														
P753	Q-35 3	1	1	1														
P754	Q-35 3	1	1	1														
P755	T-35 3	1	1	1														
P756	T-35 3	1	1	1														
P757	U-35 3	1	1	1														
P758	U-35 3	1	1	1														
P759	V-35 3	1	1	1														
P760	Q-34 3	1	1	1														
P761	Q-35 3	1	1	1														
P762	Q-35 3	1	1	1														
P763	Q-35 3	1	1	1														
P764	Q-35 3	1	1	1														
P765	P-35 3	1	1	1														
P766	Q-35 3	1	1	1														
P767	Q-35 3	1	1	1														
P768	U-35 3	1	1	1														
P769	U-35 3	1	1	1														
P770	U-35 3	1	1	1														
P771	U-35 3	1	1	1														
P772	Q-35 3	1	1	1														
P773	P-34 3	1	1	1														
P774	U-35 3	1	1	1														
P775	P-35 3	1	1	1														
P776	P-35 3	1	1	1														
P777	Q-35 3	1	1	1														
P778	P-34 3	1	1	1														
P779	P-34 3	1	1	1														
P780	P-34 3	1	1	1														
P781	P-34 3	1	1	1														
P782	O-32 3	1	1	1														
P783	P-35 3	1	1	1														
P784	S-35 3	1	1	1														

































表IV-10 S P出土遺物一覧(9)

遺物番号	フリット	種類	出土層	位置	土器			石器			石製品			骨製品			石製品			備考	
					器種	形状	寸法	器種	形状	寸法	器種	形状	寸法	器種	形状	寸法	器種	形状	寸法		
S1001	00	土器	1	1																	
S1002	00	土器	1	1																	
S1003	00	土器	1	1																	
S1004	00	土器	1	1																	
S1005	00	土器	1	1																	
S1006	00	土器	1	1																	
S1007	00	土器	1	1																	
S1008	00	土器	1	1																	
S1009	00	土器	1	1																	
S1010	00	土器	1	1																	
S1011	00	土器	1	1																	
S1012	00	土器	1	1																	
S1013	00	土器	1	1																	
S1014	00	土器	1	1																	
S1015	00	土器	1	1																	
S1016	00	土器	1	1																	
S1017	00	土器	1	1																	
S1018	00	土器	1	1																	
S1019	00	土器	1	1																	
S1020	00	土器	1	1																	
S1021	00	土器	1	1																	
S1022	00	土器	1	1																	
S1023	00	土器	1	1																	
S1024	00	土器	1	1																	
S1025	00	土器	1	1																	
S1026	00	土器	1	1																	
S1027	00	土器	1	1																	
S1028	00	土器	1	1																	
S1029	00	土器	1	1																	
S1030	00	土器	1	1																	
S1031	00	土器	1	1																	
S1032	00	土器	1	1																	
S1033	00	土器	1	1																	
S1034	00	土器	1	1																	
S1035	00	土器	1	1																	
S1036	00	土器	1	1																	
S1037	00	土器	1	1																	
S1038	00	土器	1	1																	
S1039	00	土器	1	1																	
S1040	00	土器	1	1																	
S1041	00	土器	1	1																	
S1042	00	土器	1	1																	
S1043	00	土器	1	1																	
S1044	00	土器	1	1																	
S1045	00	土器	1	1																	
S1046	00	土器	1	1																	
S1047	00	土器	1	1																	
S1048	00	土器	1	1																	
S1049	00	土器	1	1																	
S1050	00	土器	1	1																	
S1051	00	土器	1	1																	
S1052	00	土器	1	1																	
S1053	00	土器	1	1																	
S1054	00	土器	1	1																	
S1055	00	土器	1	1																	
S1056	00	土器	1	1																	
S1057	00	土器	1	1																	
S1058	00	土器	1	1																	
S1059	00	土器	1	1																	
S1060	00	土器	1	1																	
S1061	00	土器	1	1																	
S1062	00	土器	1	1																	
S1063	00	土器	1	1																	
S1064	00	土器	1	1																	
S1065	00	土器	1	1																	
S1066	00	土器	1	1																	
S1067	00	土器	1	1																	
S1068	00	土器	1	1																	
S1069	00	土器	1	1																	
S1070	00	土器	1	1																	
S1071	00	土器	1	1																	
S1072	00	土器	1	1																	
S1073	00	土器	1	1																	
S1074	00	土器	1	1																	
S1075	00	土器	1	1																	
S1076	00	土器	1	1																	
S1077	00	土器	1	1																	
S1078	00	土器	1	1																	
S1079	00	土器	1	1																	
S1080	00	土器	1	1																	
S1081	00	土器	1	1																	
S1082	00	土器	1	1																	
S1083	00	土器	1	1																	
S1084	00	土器	1	1																	
S1085	00	土器	1	1																	
S1086	00	土器	1	1																	
S1087	00	土器	1	1																	
S1088	00	土器	1	1																	
S1089	00	土器	1	1																	
S1090	00	土器	1	1																	
S1091	00	土器	1	1																	
S1092	00	土器	1	1																	
S1093	00	土器	1	1																	
S1094	00	土器	1	1																	
S1095	00	土器	1	1																	
S1096	00	土器	1	1																	
S1097	00	土器	1	1																	
S1098	00	土器	1	1																	
S1099	00	土器	1	1																	
S1100	00	土器	1	1																	





表Ⅳ-10 S P出土器物一覽表(2)

器名	器種	出土地點	出土地點	一號	二號	工器				用途	石製品	骨製品	木製品	其他	圖號
						刀	斧	錐	鑽						
S1001	石斧	...	...	...	...										
S1002	石斧	...	...	...	...										
S1003	石斧	...	...	...	...										
S1004	石斧	...	...	...	...										
S1005	石斧	...	...	...	...										
S1006	石斧	...	...	...	...										
S1007	石斧	...	...	...	...										
S1008	石斧	...	...	...	...										
S1009	石斧	...	...	...	...										
S1010	石斧	...	...	...	...										
S1011	石斧	...	...	...	...										
S1012	石斧	...	...	...	...										
S1013	石斧	...	...	...	...										
S1014	石斧	...	...	...	...										
S1015	石斧	...	...	...	...										
S1016	石斧	...	...	...	...										
S1017	石斧	...	...	...	...										
S1018	石斧	...	...	...	...										
S1019	石斧	...	...	...	...										
S1020	石斧	...	...	...	...										
S1021	石斧	...	...	...	...										
S1022	石斧	...	...	...	...										
S1023	石斧	...	...	...	...										
S1024	石斧	...	...	...	...										
S1025	石斧	...	...	...	...										
S1026	石斧	...	...	...	...										
S1027	石斧	...	...	...	...										
S1028	石斧	...	...	...	...										
S1029	石斧	...	...	...	...										
S1030	石斧	...	...	...	...										
S1031	石斧	...	...	...	...										
S1032	石斧	...	...	...	...										
S1033	石斧	...	...	...	...										
S1034	石斧	...	...	...	...										
S1035	石斧	...	...	...	...										
S1036	石斧	...	...	...	...										
S1037	石斧	...	...	...	...										
S1038	石斧	...	...	...	...										
S1039	石斧	...	...	...	...										
S1040	石斧	...	...	...	...										
S1041	石斧	...	...	...	...										
S1042	石斧	...	...	...	...										
S1043	石斧	...	...	...	...										
S1044	石斧	...	...	...	...										
S1045	石斧	...	...	...	...										
S1046	石斧	...	...	...	...										
S1047	石斧	...	...	...	...										
S1048	石斧	...	...	...	...										
S1049	石斧	...	...	...	...										
S1050	石斧	...	...	...	...										
S1051	石斧	...	...	...	...										
S1052	石斧	...	...	...	...										
S1053	石斧	...	...	...	...										
S1054	石斧	...	...	...	...										
S1055	石斧	...	...	...	...										
S1056	石斧	...	...	...	...										
S1057	石斧	...	...	...	...										
S1058	石斧	...	...	...	...										
S1059	石斧	...	...	...	...										
S1060	石斧	...	...	...	...										
S1061	石斧	...	...	...	...										
S1062	石斧	...	...	...	...										
S1063	石斧	...	...	...	...										
S1064	石斧	...	...	...	...										
S1065	石斧	...	...	...	...										
S1066	石斧	...	...	...	...										
S1067	石斧	...	...	...	...										
S1068	石斧	...	...	...	...										
S1069	石斧	...	...	...	...										
S1070	石斧	...	...	...	...										
S1071	石斧	...	...	...	...										
S1072	石斧	...	...	...	...										
S1073	石斧	...	...	...	...										
S1074	石斧	...	...	...	...										
S1075	石斧	...	...	...	...										
S1076	石斧	...	...	...	...										
S1077	石斧	...	...	...	...										
S1078	石斧	...	...	...	...										
S1079	石斧	...	...	...	...										
S1080	石斧	...	...	...	...										
S1081	石斧	...	...	...	...										
S1082	石斧	...	...	...	...										
S1083	石斧	...	...	...	...										
S1084	石斧	...	...	...	...										
S1085	石斧	...	...	...	...										
S1086	石斧	...	...	...	...										
S1087	石斧	...	...	...	...										
S1088	石斧	...	...	...	...										
S1089	石斧	...	...	...	...										
S1090	石斧	...	...	...	...										
S1091	石斧	...	...	...	...										
S1092	石斧	...	...	...	...										
S1093	石斧	...	...	...	...										
S1094	石斧	...	...	...	...										
S1095	石斧	...	...	...	...										
S1096	石斧	...	...	...	...										
S1097	石斧	...	...	...	...										
S1098	石斧	...	...	...	...										
S1099	石斧	...	...	...	...										
S1100	石斧	...	...	...	...										



表Ⅳ-10 S P出土器物一覽(4)

器名	器種	出土地	一層	二層	土器			陶器	青銅器	鐵器	銅器	石製品	骨製品	竹製品	漆製品	其他	備註
					瓦器	土器	陶器										
S1001	土器	...															
S1002	土器	...															
S1003	土器	...															
S1004	土器	...															
S1005	土器	...															
S1006	土器	...															
S1007	土器	...															
S1008	土器	...															
S1009	土器	...															
S1010	土器	...															
S1011	土器	...															
S1012	土器	...															
S1013	土器	...															
S1014	土器	...															
S1015	土器	...															
S1016	土器	...															
S1017	土器	...															
S1018	土器	...															
S1019	土器	...															
S1020	土器	...															
S1021	土器	...															
S1022	土器	...															
S1023	土器	...															
S1024	土器	...															
S1025	土器	...															
S1026	土器	...															
S1027	土器	...															
S1028	土器	...															
S1029	土器	...															
S1030	土器	...															
S1031	土器	...															
S1032	土器	...															
S1033	土器	...															
S1034	土器	...															
S1035	土器	...															
S1036	土器	...															
S1037	土器	...															
S1038	土器	...															
S1039	土器	...															
S1040	土器	...															
S1041	土器	...															
S1042	土器	...															
S1043	土器	...															
S1044	土器	...															
S1045	土器	...															
S1046	土器	...															
S1047	土器	...															
S1048	土器	...															
S1049	土器	...															
S1050	土器	...															
S1051	土器	...															
S1052	土器	...															
S1053	土器	...															
S1054	土器	...															
S1055	土器	...															
S1056	土器	...															
S1057	土器	...															
S1058	土器	...															
S1059	土器	...															
S1060	土器	...															
S1061	土器	...															
S1062	土器	...															
S1063	土器	...															
S1064	土器	...															
S1065	土器	...															
S1066	土器	...															
S1067	土器	...															
S1068	土器	...															
S1069	土器	...															
S1070	土器	...															
S1071	土器	...															
S1072	土器	...															
S1073	土器	...															
S1074	土器	...															
S1075	土器	...															
S1076	土器	...															
S1077	土器	...															
S1078	土器	...															
S1079	土器	...															
S1080	土器	...															
S1081	土器	...															
S1082	土器	...															
S1083	土器	...															
S1084	土器	...															
S1085	土器	...															
S1086	土器	...															
S1087	土器	...															
S1088	土器	...															
S1089	土器	...															
S1090	土器	...															
S1091	土器	...															
S1092	土器	...															
S1093	土器	...															
S1094	土器	...															
S1095	土器	...															
S1096	土器	...															
S1097	土器	...															
S1098	土器	...															
S1099	土器	...															
S1100	土器	...															





表Ⅳ-10 S P出土遺物一覧(16)

遺物番号	遺物名	産地	出土層	工器			石製品	土製品							石製品(焼)	骨製品	貝製品	銅製品	
				種類	用途	数量		土器	瓦器		雑器								
									土器	V	Va	Vb	Vc	土器					土器
51201	土器																		
51202	土器																		
51203	土器																		
51204	土器																		
51205	土器																		
51206	土器																		
51207	土器																		
51208	土器																		
51209	土器																		
51210	土器																		
51211	土器																		
51212	土器																		
51213	土器																		
51214	土器																		
51215	土器																		
51216	土器																		
51217	土器																		
51218	土器																		
51219	土器																		
51220	土器																		
51221	土器																		
51222	土器																		
51223	土器																		
51224	土器																		
51225	土器																		
51226	土器																		
51227	土器																		
51228	土器																		
51229	土器																		
51230	土器																		
51231	土器																		
51232	土器																		
51233	土器																		
51234	土器																		
51235	土器																		
51236	土器																		
51237	土器																		
51238	土器																		
51239	土器																		
51240	土器																		
51241	土器																		
51242	土器																		
51243	土器																		
51244	土器																		
51245	土器																		
51246	土器																		
51247	土器																		
51248	土器																		
51249	土器																		
51250	土器																		
51251	土器																		
51252	土器																		
51253	土器																		
51254	土器																		
51255	土器																		
51256	土器																		
51257	土器																		
51258	土器																		
51259	土器																		
51260	土器																		
51261	土器																		
51262	土器																		
51263	土器																		
51264	土器																		
51265	土器																		
51266	土器																		
51267	土器																		
51268	土器																		
51269	土器																		
51270	土器																		
51271	土器																		
51272	土器																		
51273	土器																		
51274	土器																		
51275	土器																		
51276	土器																		
51277	土器																		
51278	土器																		
51279	土器																		
51280	土器																		
51281	土器																		
51282	土器																		
51283	土器																		
51284	土器																		
51285	土器																		
51286	土器																		
51287	土器																		
51288	土器																		
51289	土器																		
51290	土器																		
51291	土器																		
51292	土器																		
51293	土器																		
51294	土器																		
51295	土器																		
51296	土器																		
51297	土器																		
51298	土器																		
51299	土器																		
51300	土器																		
51301	土器																		
51302	土器																		
51303	土器																		
51304	土器																		
51305	土器																		
51306	土器																		
51307	土器																		
51308	土器																		
51309	土器																		
51310	土器																		
51311	土器																		
51312	土器																		
51313	土器																		
51314	土器																		
51315	土器																		
51316	土器																		
51317	土器																		
51318	土器																		
51319	土器																		
51320	土器																		
51321	土器																		
51322	土器																		
51323	土器																		
51324	土器																		
51325	土器																		
51326	土器																		
51327	土器																		
51328	土器																		
51329	土器																		
51330	土器																		
51331	土器																		
51332	土器																		
51333	土器																		
51334	土器																		

## V 自然科学的手法による分析

### 1 西島松5遺跡出土の玉類・石製品・石斧石材の岩石学的分析

西島松5遺跡の平成14～16年度の調査において出土した玉類・石製品・石斧の石材について、平成16・18・19年度の3年にわたり、アースサイエンス株式会社に依頼して岩石学的分析を行った。

平成16年度は、墓から出土した玉類22点、包含層出土の石斧2点を分析した。その結果、「カンラン岩」と予想された玉類の石材について、「変質ダンカンラン岩」という予察的な見解が示された。また、従来「蛇紋岩」とされることの多かった石斧の石材について、「ロジン岩」との結果を得た。

平成18年度には、墓から出土した玉の過半数におよぶ751点を分析し、その結果、前回「変質ダンカンラン岩」とされたものを含め、大部分が「緑泥石岩」との結論を得た。

平成19年度は墓から出土した玉類5点と石棒5点を分析した。玉類については、前年までの分析データを補完するため、資料の破壊を伴うX線粉末分析を含む分析を行った。破壊を伴う分析には、接合・個体復元が不可能な小破片を用いた。その結果、玉類は前年までの結果を追認するデータが得られ、石棒については緑色凝灰岩・石英片岩などとの鑑定結果が得られている。

以下、1-1～1-3として、各年度の分析報告を掲載する。このうち、平成16年度に分析を行った石斧は、北理調報248集「西島松3遺跡・西島松5遺跡5」において報告済みで、第3分冊図版284に写真を再掲している。

なお、分析報告中の遺物番号は、当初現地での取り上げ番号を使用していたが、今回の掲載に当たり本報告書掲載番号に置き換えてある。

#### 1-1 西島松5遺跡出土カンラン岩・ロジン岩製遺物産地分析（平成17年度）

アースサイエンス株式会社

##### 1. 分析方針

###### (1) 実体顕微鏡による検鏡

ここでは予察的に玉類22資料、石斧2資料を検鏡したが、これを含めて詳細な記載を行う。代表的な資料数点については実体鏡写真を撮影する。

###### (2) 非破壊分析

###### 1) 全岩化学組成分析

XRF（蛍光X線）による分析を行う。

ダンカンラン岩……………3資料（うち1資料は自形クロマイトを含むもの）

ロジン岩？……………4資料（1資料は日高町より入手）

タルク岩？……………1資料

###### 2) 鉱物分析

EDS（エネルギー分散型EPMA）による鉱物分析を行う。

ダンカンラン岩……………3資料につき各カンラン石？、クロマイト

ロジン岩……………4資料につき各3鉱物

タルク岩？……………1資料につき1鉱物

###### 3) 分析試料

非破壊分析用資料は以下を使用する。

ダンカンラン岩	・ P511209 (自形クロマイト、帯緑灰色カンラン石?) ・ P516 3 (他形クロマイト、帯緑灰色カンラン石?) ・ P516 8 (自形クロマイト、黄緑色カンラン石?)
ロジン岩?	・ P516 13 (ザクロ石?、透輝石?、クロマイト?) ・ P516 19 (ザクロ石?、ペクトライト?、石英?、緑色鉱物) ・ 包含層 P-4511層 (小)(ペクトライト?、タルク?) ・ 日高ひすい入りロジン岩 (ペクトライト、透輝石、ザクロ石)
タルク岩	・ P516 12 (タルク?)

### (3) 破壊分析

#### 1) X線粉末回折

XRD (X線粉末回折) による分析を行う。

ロジン岩……………2資料

#### 2) 分析試料

資料は以下のごく一部を使用する。

・ P-4311層 (大)

・ P-4511層 (小)

### (4) 考察

すべてのデータを総合し、供給源の推定を行う。

- 1) カンラン岩は北海道のものであれば、幌満カンラン岩体 (様似町) を含む日高帯の諸カンラン岩体、または神居古潭帯の岩内岳カンラン岩体 (日高町) に由来する。それぞれにダンカンラン岩が存在するが、日高帯と神居古潭帯のダンカンラン岩の岩石学的特徴がやや異なることを利用して、玉類との比較検討を行う。これに基づいて道内のものかどうか? 道内のものであればどのカンラン岩体に由来するかを議論する。道外のものであれば、その供給源について考察する。カンラン石は一定の熱水条件の下で蛇紋石や緑泥石に変質し易いので、この点にも注目する。
- 2) ロジン岩は蛇紋岩に接触する種々の岩石が蛇紋岩化作用 (カンラン岩が蛇紋岩に変化する作用=このときCaを蛇紋岩の外へ放出する) に伴うカルシウム交代作用を受けて、種々のカルウム鉱物の集合体となった岩石である。すなわち、ロジン岩であるということはそれが蛇紋岩地域からもたらされたことを意味する。この中でとくに、微褶曲が発達する特殊なロジン岩は分布が限られ、これに、いわゆる「日高ひすい」(=クロム透輝石) が含まれていれば、それは日高町から平取町にかけて分布する糠平蛇紋岩体からもたらされた可能性が非常に高くなる。すなわち、石器の材料としてロジン岩の転石を採取したとすると、沙流川水系ということになる。

これらの可能性について分析データを総合し、既存データとの比較・検討を行った上で議論する。

- 3) タルクは蛇紋岩中に局所的に生成することが多い。したがって、タルクであることが確認されれば、これを含む石器の石材が蛇紋岩地域からもたらされたものである可能性が高くなる。しかし、タルクは強度的に弱い鉱物なので、ひすい輝石等の他の鉱物の可能性も考えられる。
- 4) ロジン岩の可能性を考えた資料の一部は、緑色凝灰岩の可能性もある。この点について明

らかにする。

- 5) 全体を総合し、玉類の母材の供給源を推定する。

## 2. 玉類代表試料他の肉眼鑑定結果

肉眼鑑定はルーペと実体鏡(40×)を併用して行った。結果を表2-1に示す。

なお、表の岩石名等は分析の結果に基づいて修正してある。

## 3. 全岩化学分析

全岩化学分析(および鉱物分析)を行った資料のうち、玉の写真を図3-1に示す。

### 3-1 分析装置及び分析条件

分析には北海道教育大学札幌校のフィリップス社製蛍光X線分析装置MagiXを使用した。各元素の測定条件を表3-1に示す。X線管球はエンドウィンドウ型のRh管球を用いた。測定環境はヘリウム環境中で測定している。測定時間は一試料につき約23分である。

試料及び定量操作：試料は未処理のものをそのまま測定試料とした。試料測定用プラスチック製カップに、一重のポリプロピレンフィルムを装着し、試料を入れた。中の試料が動かないようにフタをして、金属ホルダーに入れ試料室にセットし測定を行った。定量分析はフィリップス社製のソフトI Q+を用いファンダメンタルパラメータ法(F P法)によって行った。

なお、本装置では、Na-Uの元素が定量可能であり、C、N、Oといった軽元素は検出できない。

本試料の測定で用いたF P法は、標準試料を用いた検量線法とは異なり、分析線の強度が試料の組成と基礎的定数(ファンダメンタルパラメータ)の関数として記述できるという考え方を基礎とした理論計算法である。この方法は、出所不明の未知試料の分析や、試料の形状・重量に関係なく前処理なしで定量できるメリットがある。

表 2-1 恵庭市西島松5遺跡玉類他の肉眼鑑定結果

遺構番号	遺物番号	岩石名	備考	
玉	P511	図138-209	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色半透明のカンラン石(変質)が主体。自形のクロマイトを含む。直径5mm、厚さ3mm→乾紋石主体らしい。
	P511	図138-26	変質ダクカンラン岩	直径12mm、厚さ(長さ)19mmの筒状。暗灰色のカンラン石(変質)が主体。自形のクロマイトを含む。
	P516	図144-1	変質ダクカンラン岩	暗緑灰色のカンラン石(変質)が主体。クロマイトは認められない。
	P516	図144-2	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。半自形のクロマイトを含む。カンラン石は部分的に乾紋石化?
	P516	図144-3	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。クロマイトが含まれるが他形。テクニクな変形組織が認められる。→緑泥石主体であった。
	P516	図144-4	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。自形のクロマイトを含む。微細フラクチャーに沿ってわずかに乾紋石生成。
	P516	図144-6	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。リングの端面に形の良い自形のクロマイトを含む。
	P516	図144-5	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。自形のクロマイトを含む。直径7mm、厚さ3mm。
	P516	図144-7	変質ダクカンラン岩	黄緑色のカンラン石(変質)が主体。自形のクロマイトを含む。
	P516	図144-8	変質ダクカンラン岩	黄緑色のカンラン石(変質)が主体。自形のクロマイトを含む。微細なフラクチャーに沿って。乾紋石化。→緑泥石主体であった。
	P516	図144-9	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。半自形・自形のクロマイトを含む。微細なフラクチャーに沿って乾紋石化?
	P516	図144-10	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。自形のクロマイトを含む。径7mm。
	P516	図144-11	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。半自形のクロマイトを含む。
	P516	図144-12	ひすい輝石岩	透明感の強い帯緑灰色のタルク(滑石)のみからなる。→分析の結果ひすい輝石岩(ひすい輝石+オンファース輝石)であることが判明。
	P516	図144-13	緑色凝灰岩	帯緑灰色を呈する粒子と灰白色粒子の集合体。帯緑灰色粒子はときに自形。ときに灰白色粒子間で他形。灰白色粒子はときにカンラン石様の自形。不透明鉱物が1個認められる。
	P516	図144-14	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。自形・他形のクロマイトを含む。数枚の乾紋石繊維?が定向配列。
	P516	図144-15	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。半自形のクロマイトを含む。乾紋石繊維?生成。
	P516	図144-16	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。半自形?のクロマイトを含む。
	P516	図144-17	緑色凝灰岩	帯緑灰色を呈する自形または他形の粒子と灰白色を呈する自形または他形の粒子の集合体。[P51614]と類似。ただし、不透明鉱物は認められない。
	P516	図144-18	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。自形のクロマイトを含む。変質したカンラン石はさらに部分的に風化し、淡褐色を呈する。8X15mm(厚さは5mm)程度の細長い楕円状。
P516	図144-19	緑色凝灰岩	帯緑灰色の基質中に無数の楕円形で不規則な外形をした灰白色粒子(ガラス?)が散在する。これは一部同心円状に灰白色鉱物が生成しており、袋泡状を理めているような印象もある。自形・短柱状の石英? (炭酸塩鉱物?)が晶洞中に生成。自形の不透明鉱物が微量存在。ガラス片主体の緑色凝灰岩?と考えられる。	
P666	図205-23	変質ダクカンラン岩	帯緑灰色のカンラン石(変質)が主体。自形のクロマイトを含む。	
石解	包含層P-43 11層(大)	北沢洞跡28 [西島松5遺跡] [西V-28-12]	ロジン岩 (微褶曲タイプ)	灰白色片状で微褶曲が発達。主として針状透明鉱物(方解石やアラセ石ではない)の集合体。一部暗灰色半透明鉱物を含む。クロマイト様半自形鉱物を少量含む。又緑粉末回折から、トレモラ閃石集合体である。
	包含層P-45 11層(小)	北沢洞跡28 [西島松5遺跡] [西V-28-6]	ロジン岩 (微褶曲タイプ)	帯緑灰色片状で微褶曲が発達。他形・半自形のクロマイトらしい乾紋状物が散在。X線粉末回折から、トレモラ閃石→緑泥石である。

表 3-1 各元素の測定条件

	Analytical element		Crystal	Detector	kV	mA	Angle ( $2\theta$ )	Counting time (s)
	K $\alpha$	L $\alpha$						
1	Mo-Pr		LiF200	Scint.	60	50	9.5-21	115
2	Zn-Mo	Re-Am	LiF220	Scint.	60	50	27.5-126	345
3	V-Cu	Pr-W	LiF220	Duplex	50	60	61-126	650
4	K-V	In-Ce	LiF200	Flow	24	125	76-146	175
5	P-Cl	Zr-Ru	Ge11	Flow	24	125	91-146	22
6	Si-Si	Rb-Sr	PE002	Flow	24	125	100-115	5
7	Al-Al	Br-Br	PE002	Flow	24	125	130-147.04	5,68
8	Na-Mg	Zn-Se	PX1	Flow	24	125	20-30.05	2,68

Scint. : シンチレーション検出器

Duplex : ガスフロー検出器とXeシールド型のタンデム型検出器

Flow : ガスフロー検出器

## 3-2 分析結果

全岩化学分析値を表3-2に示す。非破壊のため、表面に凹凸があり、かつ試料がX線照射面積の一部しか占めないなので、ノーマライズ前の合計値は低い。

## 1) 変質ダンカンラン岩

ダンカンラン岩と肉眼鑑定した3試料(P511-209、P516-3、P516-5)はすべて変質している可能性が高い。新鮮なダンカンラン岩は、岩内岳カンラン岩体の例では、 $\text{SiO}_2$  42~43%、 $\text{MgO}$  45%前後、 $\text{Al}_2\text{O}_3$  0.1~1.0%である(例えば資源エネルギー庁、1989)。これに対し、P511-209は、 $\text{Al}_2\text{O}_3$  1.5%とダンカンラン岩に近いものの、 $\text{SiO}_2$ は61%と多く、 $\text{MgO}$ は逆に32%と少ない。これはダンカンラン岩質蛇紋岩の分析値( $\text{SiO}_2$  32~42%、 $\text{MgO}$  40~42%、 $\text{Al}_2\text{O}_3$  0.2~1.0%)(資源エネルギー庁、1989)と比べても、やはり $\text{SiO}_2$ が多く、 $\text{MgO}$ が少ない。ただし、 $\text{MgO}$ は32%とは言え、普通の岩石としては非常に多い。 $\text{Al}_2\text{O}_3$ が少ないことからみて、斜長石を含む岩石ではないと考えられる。自形のスピネル(クロマイト)を含むことも考えると、ダンカンラン岩質の蛇紋岩がさらに変質作用を受けて、不良結晶度蛇紋石(ジュエライト)主体の変質鉱物集合に変わっている可能性が考えられる。

P516-3とP516-8は新鮮なダンカンラン岩に比べて $\text{SiO}_2$ 量は矛盾しないが、 $\text{MgO}$ は少なく(28~29%)、 $\text{Al}_2\text{O}_3$ が異常に多い(18~21%)。このことは、少なくとも蛇紋石が主体ではなく、 $\text{MgO}$ の多い緑泥石が主体であることを示している。

## 2) ひすい

P516-12は、当初タルク(滑石)の可能性を考えたが、分析値は $\text{SiO}_2$  61%、 $\text{Al}_2\text{O}_3$  20%、 $\text{MgO}$  3%、 $\text{CaO}$  7%、 $\text{Na}_2\text{O}$  7%などであった。

タルクは $\text{Al}_2\text{O}_3$ を含まないので、タルクではない。淡緑色半透明の玉として使われる鉱物はひすい輝石が考えられる。ひすい輝石は $\text{SiO}_2$  56~62%、 $\text{Al}_2\text{O}_3$  12~25%、 $\text{MgO}$  2%以下、 $\text{CaO}$  0.3~4%(特殊なもので13%)、 $\text{Na}_2\text{O}$  12~15%(特殊なもので6%)(Deer, et al., 1997)であるので、分析値からみてひすい輝石である可能性が高い。

## 3) 凝灰岩

P516-13および17は岩石組織からみて、複数種の鉱物片の集合体である。 $\text{SiO}_2$  59~67%、 $\text{Al}_2\text{O}_3$  16%、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$  2.5~8%、 $\text{CaO}$  3.6~5.4%、 $\text{K}_2\text{O}$  5.2~6.8%が含まれる。

肉眼的に淡緑色であることなども考えると、結成作用ないし、低温の熱水変質作用を受けて生成した緑色凝灰岩であると考えられる。この場合、沸石を多量に生じることが多いが、この分析値はその可能性を支持している。

## 4) ロジン岩

P-45(小型の石斧)は $\text{SiO}_2$  50%、 $\text{Al}_2\text{O}_3$  8%、 $\text{Fe}_2\text{O}_3$  14%、 $\text{MgO}$  16%、 $\text{CaO}$  10%を含む。トレモラ閃石が主体のロジン岩であろう。

P-43のHR-3とHR-5は「日高ひすい」を含むロジン岩である。白色の単斜輝石が主体であって、P-45とは構成鉱物種が異なる。

ロジン岩は、日高町~平取町周辺の例によると、トレモラ閃石主体のものも単斜輝石主体のものも存在する(Katoh-Niida, 1983)。ただし、蛇紋岩起源のロジン岩で、トレモラ閃石主体のもの、現在のところ確認されていない。

表3-2 全岩化学分析値

試料番号	P511-209		P516-3		P516-8		P516-12		P516-13		P516-19		P-45		日R-3 (P-45)		日R-5 (P-45)	
	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩	変質 ダンカンラン岩
化合物名	濃度(%)	絶対誤差 (%)	濃度(%)	絶対誤差 (%)	濃度(%)	絶対誤差 (%)	濃度(%)	絶対誤差 (%)	濃度(%)	絶対誤差 (%)	濃度(%)	絶対誤差 (%)	濃度(%)	絶対誤差 (%)	濃度(%)	絶対誤差 (%)	濃度(%)	絶対誤差 (%)
SiO <sub>2</sub>	61.09	0.9	43.84	0.6	42.86	0.6	60.73	1	66.51	0.6	58.90	0.5	49.80	0.2	55.29	0.2	52.24	0.3
TiO <sub>2</sub>											1.13	0.04	0.09	0.006				
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	1.47	0.1	18.20	0.3	20.90	0.4	19.53	0.5	16.17	0.3	16.37	0.3	7.94	0.1	1.92	0.04	0.86	0.05
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	4.83	0.1	7.62	0.06	6.84	0.09	1.72	0.08	2.50	0.06	7.98	0.08	14.34	0.05	3.26	0.03	4.43	0.05
MnO			0.12	0.008							0.56	0.03	0.85	0.01	0.05	0.002	0.27	0.020
MgO	31.56	0.4	29.18	0.2	27.89	0.3	3.02	0.1	0.50	0.03	1.27	0.04	15.67	0.09	15.26		12.28	0.1
CaO							6.54	0.2	5.37	0.1	3.59	0.07	10.08	0.05	23.85		29.66	0.1
Na <sub>2</sub> O							6.65	0.3							0.22	0.01		
K <sub>2</sub> O							0.37	0.04	6.84	0.1	5.19	0.06	0.11	0.006				
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	0.61	0.06	0.62	0.04	0.87	0.06	0.79	0.06	0.60	0.03	0.65	0.03	0.14	0.01				
SO <sub>3</sub>					0.18	0.02	0.31	0.04					0.09	0.006			0.06	0.007
Ba									0.97	0.03	3.65	0.05						
Rb									0.02	0.001	0.03	0.001						
Sr							0.10	0.002	0.54	0.004	0.70	0.004	0.01	0.001	0.01	0.001		
Ni	0.440	0.02	0.32	0.009	0.468	0.02	0.24	0.01					0.50	0.008	0.14	0.004	0.10	0.006
Cr			0.09	0.007									0.36	0.01			0.10	0.006
Co													0.03	0.002				
Total	100.00		99.99		100.01		100.00		100.02		100.02		100.01		100.00		100.00	
ハーフ シリ ケイ	2.70%		8.60%		5.20%		2.60%		6.40%		12.40%		40.10%		49.00%		15.90%	
備考	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> が少なく、 MgOが多い。 不良結晶度能 較低（ジュネ ライト）主体 の可能性。	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> が多く、 MgOが多い。 緑泥石主体の 可能性。	Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub> が多く、 MgOが多い。 緑泥石主体の 可能性。	ひすい輝石よ りオンファス 輝石に近い組 成。	緑色凝灰岩、 沸石主体と考 えられる。	緑色凝灰岩、 沸石主体と考 えられる。	トレモラ 石）緑閃 石）	単斜輝石） アンテグラ イト）緑輝 石	単斜輝石									

分析法：蛍光X線分析（非破壊、ファンダメンタル・パラメータ法）

## 4. EPMA分析

構成鉱物の化学分析は、走査電子型顕微鏡とそれに付設のエネルギー分散型X線分析装置によった。装置は北海道教育大学札幌校のLink社製QX200Jである。加速電圧は15kV、補正はZAF補正によった。試料は前処理として、炭素蒸着を行った。これは非導電性試料に炭素を真空蒸着することによって電子線照射による試料面の帯電を防ぐ効果がある。この炭素膜は測定後アセトンやアルコールにて容易に取り除くことができる。電子線は最小領域2～3ミクロンまで絞り込むことができ、試料中鉱物の微小領域の化学分析が可能である。電子線照射によって発生する元素特有の波長を示す固有X線を検出することによって元素の定性・定量分析を行うが、正確な定量分析を行うためには、試料表面を平滑にする必要がある。今回の分析試料の多くは穿孔されたリング形状をもっているが、測定にあたっては、出来るだけ平滑な部分を選んで行った。合計重量が100%近くにならない場合が多いが、分析結果から推定される予想鉱物の理想化学式との対応は概ね良い（表4-1）。

表4-1 鉱物のEPMA分析結果

試料番号	P511-209 Sp1	P511-209 Sp2	P511-209 Cl1	P511-209 Cl2	P511-209 Cl3	P516-3 Sp1	P516-3 Sp2	P516-3 Cl1	P516-3 Cl2
試料名	スズニル	スズニル	ジュネ サイト	ジュネ サイト	ジュネ サイト	スズニル	スズニル	緑泥石	緑泥石
SiO <sub>2</sub>	3.07	3.23	43.81	49.55	29.70	0.17	0.11	22.00	21.64
TiO <sub>2</sub>	4.24	4.28	0.00	0.17	0.00	0.00	0.01	0.01	0.12
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	37.47	36.71	2.82	2.71	2.59	22.26	18.50	12.87	12.45
FeO*	1.89	0.51	0.18	0.25	0.01	1.00	1.35	0.02	0.14
MnO	0.65	1.42	25.03	30.23	17.73	10.26	9.85	21.77	22.92
CaO			0.65	0.96	0.05			0.04	0.09
Na <sub>2</sub> O			0.66	0.00	1.01			0.00	0.05
K <sub>2</sub> O			0.17	0.00	0.01			0.07	0.03
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	32.68	33.87	0.00	0.00	0.00	45.49	48.46	0.00	0.00
NO					0.09			0.00	0.00
SO <sub>2</sub>			0.12	0.12	0.16			0.26	0.00
Total	100.00	100.00	75.33	86.01	55.00	99.99	100.00	60.15	61.36
原子比	0 = 8		0 = 14			0 = 8		0 = 9	
Si	0.120	0.128	4.696	4.353	4.329	0.008	0.006	0.930	1.884
Al	0.368	0.366	0.309	0.305	0.624	1.657	1.403	1.330	1.278
Fe	2.311	2.242	0.249	0.208	0.316	1.089	1.169	0.229	0.227
Mn	0.118	0.003	0.016	0.020	0.002	0.054	0.074	0.002	0.011
Mg	0.007	0.150	2.923	4.153	3.833	0.962	0.944	2.846	2.975
Ca			0.005	0.006	0.008			0.003	0.009
Na			0.134	0.000	0.286			0.000	0.144
K			0.011	0.000	0.002			0.004	0.002
Cr	3.071	3.111	0.000	0.000	0.000	2.282	2.465	0.000	0.000
Ni			0.000	0.000	0.000			0.000	0.000
S			0.009	0.009	0.017			0.017	0.000

試料番号	P516-12 Sp1	P516-12 Sp2	鉱物群P-45 Tr1	鉱物群P-45 Tr2	P516-13 Sp1	P516-13 Sp2	P516-13 Sp3	P516-19 Sp1	P516-19 Sp2	P516-19 Sp3
試料名	クワイニ輝石	クワイニ輝石	トリモライト	トリモライト	濃石	濃石	濃石	濃石	濃石	濃石
SiO <sub>2</sub>	46.10	45.44	33.77	53.07	70.46	56.40	60.83	69.25	65.79	76.39
TiO <sub>2</sub>	0.20	0.00	0.06	0.08	0.98	1.32	0.60	0.90	1.53	0.50
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	34.40	21.76	5.41	4.06	16.91	17.53	22.85	17.28	16.97	10.92
FeO*	3.92	3.97	7.07	8.05	3.15	11.43	8.53	4.45	6.08	5.00
MnO	0.37	0.09	0.71	0.26	0.00	0.14	0.00	0.00	0.00	0.23
MgO	5.78	5.14	21.40	22.42	0.62	2.90	0.85	0.82	2.48	1.63
CaO	4.16	3.61	6.86	12.24	0.62	3.41	2.30	3.27	3.14	1.14
Na <sub>2</sub> O	13.19	15.09	<0.01	0.70	0.11	0.64	0.11	0.36	0.00	0.70
K <sub>2</sub> O	0.87	0.44	<0.01	0.00	2.85	6.11	2.09	3.93	5.11	2.66
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.00	0.00	0.50	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
NO	0.60	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
SO <sub>2</sub>	0.91	0.46	0.08	0.18	0.25	0.11	0.88	0.00	0.00	0.83
Total	100.00	100.00	100.01	100.06	100.03	99.99	100.04	100.26	100.07	100.00
原子比	0 = 6		0 = 21		0 = 21		0 = 21		0 = 21	
Si	1.635	1.736	7.308	7.332	27.640	24.140	24.470	27.400	26.610	29.710
Al	0.008	0.000	0.006	0.009	0.290	0.180	0.270	0.270	0.470	0.190
Fe	1.020	0.911	0.866	0.661	7.820	8.840	11.210	8.080	8.900	5.010
Mn	0.116	0.118	0.804	0.500	1.030	4.090	2.870	1.480	2.060	1.620
Mg	0.011	0.003	0.982	0.030	0.000	0.050	0.000	0.000	0.010	0.080
Mp	0.396	0.272	4.668	4.616	0.360	1.850	0.510	0.480	1.500	0.950
Ca	0.158	0.137	1.290	1.809	1.980	1.570	0.990	1.390	0.920	0.470
Na	0.907	1.039	0.001	0.187	0.080	0.530	0.080	0.280	0.000	0.530
K	0.020	0.010	<0.001	0.000	1.430	3.340	1.070	1.990	2.640	1.320
Cr	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
Ni	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000
S	0.024	0.012	0.009	0.018	0.020	0.040	0.270	0.000	0.000	0.240

試料番号	P516-8 Sp1	P516-8 Sp2	P516-8 Cl1	P516-8 Cl2	鉱物群P-45 Cl1	鉱物群P-45 Cl2	トリモライト Cl1	トリモライト Cl2	トリモライト Cl3	トリモライト Cl4
試料名	スズニル	スズニル	緑泥石	緑泥石	緑泥石 濃石	濃石	トリモライト	トリモライト 細粒状?	電気 スズニル	電気 スズニル
SiO <sub>2</sub>	0.00	0.00	35.01	36.85	34.04	54.20	40.93			
TiO <sub>2</sub>	13.77	13.45	0.14	0.60	0.13	14.00	0.01		0.08	0.22
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	17.33	16.93	5.14	5.83	10.03	10.24	9.87		11.70	7.87
FeO*	0.00	0.00	0.00	0.11	0.21	0.35	1.00		0.19	0.86
MgO	12.73	13.69	36.79	36.10	14.68	22.12	21.01		3.30	1.24
CaO			0.15	0.01	0.19	32.25	1.88			
Na <sub>2</sub> O			2.19	0.82	1.41	1.25	0.21			
K <sub>2</sub> O			0.10	0.13	0.00	0.13	0.00			
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	32.21	30.61							0.17	0.00
NO										
SO <sub>2</sub>			0.80	0.06	0.10					
Total	96.04	94.98	100.00	100.04	100.12	99.61	100.09	100.00	100.05	100.05
原子比	0 = 8		0 = 9			0 = 23		0 = 8		
Si			1.887	1.969	1.969	7.000				
Ti	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000	0.000			0.005	0.015
Al	1.086	1.075	1.357	1.142	1.490	1.490			1.140	0.808
Fe	0.970	0.960	0.229	0.260	0.170	1.170			5.844	6.541
Mn	0.000	0.000	0.004	0.005	0.040	0.040			0.013	0.063
Mg	1.270	1.385	2.765	2.624	4.510	4.510			0.408	0.161
Ca			0.009	0.000	0.040	0.740				
Na			0.226	0.085	0.330	0.330				
K			0.007	0.009	0.020	0.020				
Cr	2.762	2.714								0.000
Ni										
S					0.020					



## 5. X線粉末回折

### (1) 測定方法

採取した試料から、次の要領で定方位試料と不定方位試料を作製し、X線粉末回折分析を行った。

#### 1-1 不定方位試料

試料の一部を風乾後、鉄乳鉢内で粗砕した。さらにめのう乳鉢で指先にざらつきを感じない程度まで粉砕した。粉末した試料をアルミニウム製試料ホルダーに圧入し測定に供した。

#### 1-2 含有量の推定

回折X線の強度は、結晶相物質の含有量・鉱物種類（化学組成、結晶構造）・結晶度・粉末粒子の形状・大きさ・方位・測定条件・混合物全体のX線吸収係数などによって決定する。これら主要な要素のみについてみても鉱物の種類によって異なり、また同族の鉱物であっても異変があり、同じ結晶面の回折強度が一定の強度を示すとは限らない。従ってX線回折より得られる結果は、あくまでも定性的なものであり、量的な評価はある程度相対的なものである。

#### 1-3 測定条件

分析は、島津製作所製XR D6000型X線回折装置を使用し、測定条件は以下の通りである。

表5-1 X線粉末回折測定条件

	不定方位
対照極	Cu
フィルター	Counter monochrometer
管電圧	30kV
管電流	20mA
スリット系	1°-0.3mm-1°
走査速度	2°/min
フルスケール計数	2000cps
タイムコンスタント	1.5sec
走査範囲	2~65°

表5-2 X線粉末回折結果一覧表

サンプル名	Am	Chl
P-43	○	
P-45	○	+

凡例

○：極多量    ○：多量    △：中量    +：少量    -：微量    ?：不確実

Am：角閃石（トレモラ閃石）    Chl：緑泥石

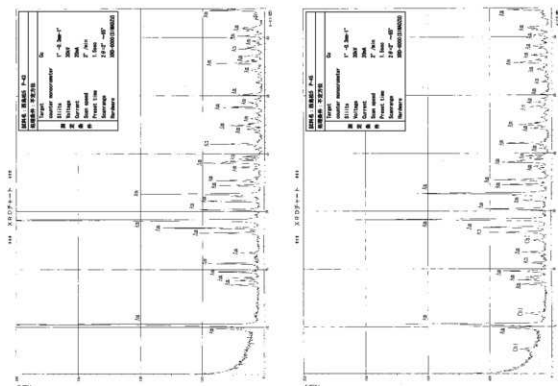


図 5-1 XRDチャート

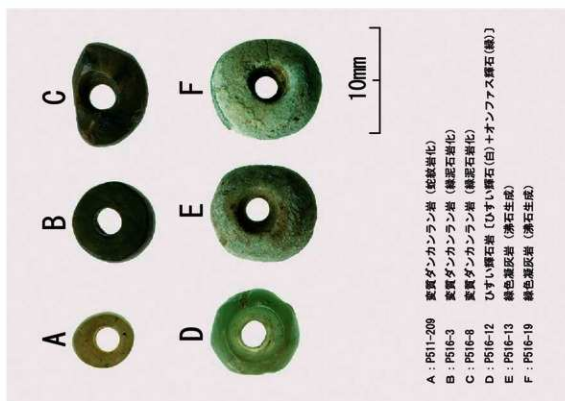


図 3-1 分析資料の写真

## 6. 考察

### (1) 「カンラン岩」について

分析の結果、肉眼鑑定で「ダンカンラン岩」と考えた3試料(P511-209、P516-3、P516-8)には、いずれもカンラン石が残存していないことが判明した(表3-2、表4-1、表6-1)。これらはクロムを多く含有する自形のスピネル(クロマイト)を伴うことなどから、原岩がダンカンラン岩(dunite)であることは間違いない(表6-2)。

このことから、これらの試料は(変質していない)岩内岳カンラン岩体や幌満カンラン岩体のダンカンラン岩ではないということが言える。岩内岳カンラン岩体の周囲を含む神居古潭帯には広く蛇紋岩が分布するが、P516-3、P516-8のように緑泥石岩化したものはほとんど知られていない。後述する「ひすい輝石岩の玉」と一緒に出土していることを考えると、これが出土する糸魚川(青海一小滝)周辺の蛇紋岩体からもたらされた可能性がある。しかし、現在のところ、この蛇紋岩体のダンカンラン岩が緑泥石岩化しているというデータがない。例えば、Chihara (1971)によれば、この蛇紋岩の分析値の平均は $Al_2O_3=1.40\%$ なので、緑泥石岩はあっても少ないであろう。したがって、現地での注意深いサンプリングと分析を行って緑泥石岩が存在するか確かめる必要がある。

なお、P511-209に認められたジュエライト(deweyite)と呼ばれる不良結晶度の蛇紋石は蛇紋岩中の鉱物を置換したり、蛇紋岩中のフラクチャーに沈殿する低温生成の鉱物である。この鉱物は北海道や中国地方の蛇紋岩体周辺から報告されている(湊・岡村、1958; 渋谷・原田、1980; 水落ほか、2004)が、蛇紋岩地帯であればどこにも生成している可能性がある。しかし、玉にできる大きさの結晶や集合体の存在は今のところ報告がない。

### (2) ひすい輝石岩について

P516-12は灰白色および淡緑色半透明の鉱物の集合体である。全岩分析によるとオンファス輝石に近く(表3-2、表6-1)、鉱物分析によるとひすい輝石に近い(表4-1、表6-1)。糸魚川の「ひすい輝石」は近年の研究により、白色部がひすい輝石で、淡緑色部がオンファス輝石であることが判明した(フォッサマグナミュージアム、ホームページ)。したがって、本試料は糸魚川産のひすい輝石岩であると考えられる。

全岩はオンファス輝石主体で、鉱物分析はひすい輝石を分析したと考えられる。

### (3) 緑色凝灰岩について

実体顕微鏡下で帯緑灰色を呈し、複数種の粒状鉱物と基質からなる玉(P516-13、P516-19)は緑色凝灰岩であると考えられる。とくにP516-19は均質な丸味を帯びたガラス(粘土鉱物ないし珪長質鉱物に交代)と考えられる粒子が多い(P516-4にも少ないが同じものを含む)。これらは全岩化学分析で $SiO_2=59\sim 67\%$ であり(表3-2)、中性(安山岩質)の火山噴出物を起源とする可能性が高い。これが、続成作用や低温の熱水変質作用を受けて淡緑色の岩石となったと考えられる。このような岩石は北海道から山陰にかけての日本海沿いのいわゆるグリーンタフ地域に広く分布する。この緑色凝灰岩にはしばしば沸石を伴う。今回の分析値はいずれも沸石であると考えられる(表4-1、表6-3)。沸石の中では比較的 $SiO_2$ に富み、CaO、K<sub>2</sub>Oに富むという共通性がある。これらの特徴はヒューランダイト(輝沸石)に似ている(表6-3)が、試料がFeOに富む(4.5~11%)などよくわからない点もある。いずれにしても沸石主体の変質凝灰岩(緑色凝灰岩)であると考えられる。

## (4) ロジン岩について

分析した玉の中にはロジン岩は認められなかった。石筈2試料(P-43, P-45)はともに蛇紋岩起源で、トレモラ閃石が主体のロジン岩である。

蛇紋岩起源のロジン岩は、日高町のベンケユクトラシナイ川に産するいわゆる「日高ヒスイ」がある(番場、1972)。しかし、これはクロムを含有する透輝石(デオプサイド)である。神居古潭帯のロジン岩にはトレモラ閃石も出現する(Katoh and Niida, 1983)が蛇紋岩起源のロジン岩で、トレモラ閃石主体のものは現在のところ知られていない。

したがって今後、神居古潭帯の蛇紋岩体とともに、糸魚川や東北地方を含む本州起源の可能性も考慮に入れて検討する必要があるであろう。

## 引用・参考文献

- Arai, S. (1978): Chromian spinel lamellae in olivine from the Iwanai-dake peridotite mass, Hokkaido, Japan. *Earth and Planet. Sci. Lett.*, 39, 267-273.
- 番場猛夫 (1953): 北海道の超塩基性岩に伴われる尖晶石について。地質雑, 59.
- 番場猛夫 (1980): 北海道日高千栄産クロム透輝石ヒスイ。宝石学会誌, 7, 9-13.
- Chihara, K. (1971): Mineralogy and paragenesis of jadeite from the Omi-Kotaki area, central Japan. *Mineral. Soc. Japan, Spec.*, 1, 147-156.
- Deer, W.A., Howie, R.A. and Zussman, J. (1997): *Rock-forming minerals*, Vol 2 A, Single-chain silicates. The Geological Society, London, 668p.
- フォッサマグナミュージアム・ホームページ (2005年9月12日時点),
- Katoh, T. and Niida, K. (1983): Rodingites from the Kamuikotan tectonic belt, Hokkaido. *Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ.*, Ser. IV, 20, 151-169.
- 松原 聡・横山一己(編)(2004): 翡翠展—東洋の至宝。国立科学博物館。
- 湊 秀雄・村岡久志 (1958): 北海道空知支庁雨竜郡鞆加内村産Deweyliteについて。鉱物学雑誌, 3, 626-633.
- 水落幸広・二ノ宮淳・加藤孝幸・矢鳥達哉 (2004): 蛇紋岩地域における炭酸塩沈殿現象—蛇紋岩体へのCO<sub>2</sub>固定にむけてのナチュラルアナログ研究。平成16年度資源・素材学会春季大会講演原稿, 企画100-103.
- Niida, K. (1984): Petrology of the Horoman ultramafic rocks in the Hidaka metamorphic belt, Hokkaido, Japan. *Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ.*, Ser. IV, 21, 197-250.
- 渋谷五郎・原田進造 (1980): 山口県宇部市域の蛇紋岩に伴う炭酸塩鉱物について。鉱物学雑誌, 14, 293-313.
- 資源エネルギー庁 (1989): 昭和63年度希少金属鉱物資源の賦存状況調査報告書。日高南部地域。119p (+巻末26p)。
- 須藤俊男 (1974): 粘土鉱物学。岩波書店, 498p.
- 高橋奈津子 (1997): 靱満かんらん岩体で見られるマグマ分離現象。地質学論集, 47, 87-105.
- 富永博夫編 (1987): ゼオライトの科学と応用。講談社サイエンティフィック, 講談社, 224p.
- Yui, T-F., Lo, C-H., Lan, C-Y. & Lee, C.W. (1987): Nephrite-rodingite in metamorphosed ophiolite, Nanao, northeast Taiwan. *Proc. Geol. Soc. China (Taiwan)*, 30, 22-39.

表6-1 比較対象鉱物の分析値例1 (ひすい、蛇紋石、輝泥石岩石ほか)

鉱物名	ひすい輝石	オンファス輝石	クロム透輝石 ("日高ヒスイ")	トレモラ閃石	カンラン石	蛇紋石	ジュエライト	輝泥石	
産地	新潟・赤松(白色)	赤魚川(緑色)	北海道、日高町	台湾	北海道、岩内県	同、沙流町岩体	同、観加内	茨城県日夕鉱山	高知県野茂鉱山
酸化物 (重量%)									
SiO <sub>2</sub>	59.20	57.60	52.52	57.70	40.20	39.80	41.62	25.76	29.07
TiO <sub>2</sub>			0.16	0.04	0.00	0.01	—	—	0.32
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	24.88	13.08	4.61	0.57	0.04	1.07	0.06	21.26	21.82
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>			0.95		0.00	0.11			
FeO			0.28				0.03	6.75	0.83
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.06	0.38	2.03	3.99	6.33	4.27	1.35	14.60	3.67
MnO				0.13	0.13	0.20	tr	—	—
MgO	0.12	8.61	16.12	21.33	53.7	39.84	33.89	18.64	29.90
CaO	0.28	12.31	22.43	13.72	0.03	0.00	0.06	0.90	0.19
Na <sub>2</sub> O	15.32	7.79	0.74	0.05	0.00				tr
K <sub>2</sub> O			0.03	0.01					tr
NiO									
LOI					0.42	0.52			
H <sub>2</sub> O <sup>+</sup>			0.08				17.60	10.33	10.76
H <sub>2</sub> O <sup>-</sup>			0.02				6.13	1.32	2.76
Total			99.97	97.54	100.90	85.82	100.74	99.56	99.32
			0 = 6		0.000(EFC) = 21		0 = 14		0 = 10, 000 = 5
原子比									
Si			1.904	7.964		3.837			2.80
Al			0.096	0.036		0.122			1.20
Al <sup>IV</sup>			0.100	0.056					1.28
Ti			0.004	0.004		0.000			
Fe <sup>2+</sup>			0.009						0.06
Cr			0.026						
Mg			0.877	4.388		5.727			4.30
Fe <sup>3+</sup>			0.061	0.431		0.344			0.03
Mn			—	0.015		0.017			
Na			0.052	0.013					
Ca			0.087	1.946		0.000			
K			0.000	0.002					
C									
Ni						0.041			
文献	—	香場 (1972)	Yui et al. (1987)	Arai (1978)	加藤 (未公表データ)	湯・村岡 (1956)	Sudo (1956)	Sakamoto&Sudo (1956)	
備考	フォッサマグナムミュージアム「ヒスイの顔」ホームページより	ロジック岩の一種に含まれる。普通のヒスイではない。	ヒスイ(トレモラ閃石)からなるロジック岩。Ca 0.80%, Si 80.02%を含む		ダンカンラン岩中のカンラン石。	不良結晶度蛇紋石岩に含まれるリザルダイト。		鉱物に伴う微量元素分析中、加藤(1956)より。	石質鉱物ととりま(実質中、加藤(1956)より。

表6-2 比較対象鉱物の分析値例2 (スピネル)

鉱物名	スピネル	スピネル
産地	岩内岩カンラン岩体	観音カンラン岩体
酸化物 (重量%)		
SiO <sub>2</sub>	n.d.	n.d.
TiO <sub>2</sub>	0.06	n.d.
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	9.28	44.95
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	62.10	25.47
FeO <sup>+</sup>	15.30	17.53
MnO	0.61	n.d.
MgO	12.50	10.39
CaO	n.d.	1.12
Na <sub>2</sub> O	n.d.	n.d.
NiO	0.06	n.d.
Total	100.00	99.50
文献	Arai (1977)	香場 (1953)
備考	ダンカンラン岩	ダンカンラン岩

表6-3 比較対象鉱物の分析値例3 (沸石)

化合物名	ヒューラン ダイト	フリノブナロ ライト	モルテナイト	アナルサイト	ワイラサイト	ローモン タイト
重量%						
SiO <sub>2</sub>	57.38	68.30	66.24	59.70	54.91	49.78
TiO <sub>2</sub>			0.11	Tr	0.01	Tr
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	16.91	11.66	11.04	20.03	22.75	21.92
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>		0.02	1.74		0.64	0.07
FeO					0.44	
MnO				0.06	0.01	Tr
MgO	0.01	0.36	0.23	Tr	0.23	0.02
CaO	7.00	1.03	1.31	Tr	11.69	9.84
SiO	1.55		Tr			
Na <sub>2</sub> O	0.10	2.47	3.19	12.06	0.60	1.22
K <sub>2</sub> O	1.38	2.93	2.45	0.05	0.31	0.67
H <sub>2</sub> O <sup>+</sup>	13.67	13.23*	6.50	8.35	8.23	16.06
H <sub>2</sub> O <sup>-</sup>	3.06		5.02	0.30	0.19	
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>						0.01
Total	101.06	100.00	99.92	100.55	100.01	99.59
Si	26.82	30.17	40.3	34.4	32.59	15.87
Al	9.31	5.83	7.7	13.6	15.38	8.24
Mg	0.01	0.23	0.2			
Ca	3.50	0.48	0.8		7.19	3.35
Sr	0.42					
Na	0.09	2.10	3.7	13.5	1.12	0.77
K	0.83	1.64	1.8	0.01	0.01	0.27
H <sub>2</sub> O	26.10	24.00	22.9	16	16	17.10
O	72	72	96	96	96	68

\*EPMAによる分析であって、水分は差の値で示されている(高永福, 1987による)。

## 1-2 西島松5遺跡出土玉類の岩石学的分析 (平成18年度)

アースサイエンス株式会社

## はじめに

本報告書は「西島松5遺跡出土玉類の岩石学的分析」についてのものであります。

XRFおよびEDS分析にあたっては、北海道教育大学の岡村聡教授の御指導をいただきました。また、鑑定と分析にあたっては、同大学菅原いよ氏および加藤欣也氏の補助をいただきました。記して感謝いたします。

## (1) 玉類の肉眼鑑定

玉類約750試料について、ルーペと実体鏡を併用して肉眼鑑定を行った。このうち、化学分析を行った試料の写真を第1図に示す。また、鑑定結果を第1表に示す。なお、この表には、全岩および鉱物の非破壊化学分析を行った試料も含まれ、分析結果は岩石名に反映させている。



第1図 分析資料の写真

P439-No.28: (蛇紋岩質) 緑泥石岩, P510-No.7: 蛇紋岩 (緑泥石岩化), P432-No.23: ヒスイ  
 P439-No.23: (蛇紋岩質) 緑泥石岩, P432-No.6: ジャスパー, P412-No.16: タルク化蛇紋岩, P398-No.40: (蛇紋岩質) 緑泥石岩  
 P509-No.12: (蛇紋岩質) 緑泥石岩, P509-No.17: (蛇紋岩質) 緑泥石岩, P480-No.4: タルク, P439-No.16: (蛇紋岩質) 緑泥石岩  
 (最上段3資料はEDSによる鉱物分析を, 中下段の資料はXRFによる全岩分析を行った)

第1表(1) 玉類の鑑定結果

番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考	番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考
1	P 398	Ⅷ29-20	緑泥石岩	スピネル	51	P 404	Ⅷ42-5	緑泥石岩	自形スピネル, 淡緑色
2	P 398	Ⅷ29-22	緑泥石岩	自形スピネル	52	P 404	Ⅷ42-6	緑泥石岩	自形スピネル, 淡緑色
3	P 398	Ⅷ29-23	緑泥石岩	自形スピネル, 濃緑色	53	P 404	Ⅷ42-7	緑泥石岩	自形スピネル, 淡緑色
4	P 398	Ⅷ29-29	凝灰岩	堆積構造あり	54	P 404	Ⅷ42-8	緑泥石岩	自形スピネル, 淡緑色
5	P 398	Ⅷ29-30	緑泥石岩	自形スピネル	55	P 411	Ⅷ48-4	緑泥石岩	
6	P 398	Ⅷ29-31	緑泥石岩		56	P 412	Ⅷ53-39	緑泥石岩	自形スピネル
7	P 398	Ⅷ29-32	緑泥石岩		57	P 412	Ⅷ53-7	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
8	P 398	Ⅷ29-33	緑泥石岩		58	P 412	Ⅷ53-8	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
9	P 398	Ⅷ29-34	緑泥石岩	自形スピネル	59	P 412	Ⅷ53-9	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
10	P 398	Ⅷ29-35	緑泥石岩		60	P 412	Ⅷ53-10	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
11	P 398	Ⅷ29-36	凝灰岩	堆積構造あり	61	P 412	Ⅷ53-11	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
12	P 398	Ⅷ29-37	緑泥石岩		62	P 412	Ⅷ53-12	緑泥石岩	
13	P 398	Ⅷ29-38	凝灰岩		63	P 412	Ⅷ53-13	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
14	P 398	Ⅷ29-39	緑泥石岩	自形スピネル, 淡緑色	64	P 412	Ⅷ53-14	タルク化蛇紋岩	斑点状
15	P 398	Ⅷ29-40	緑泥石岩	自形スピネル	65	P 412	Ⅷ53-15	緑泥石岩	自形スピネル
16	P 398	Ⅷ29-41	緑泥石岩	自形スピネル	66	P 412	Ⅷ53-16	タルク化蛇紋岩	斑点状, ナフワ, 自形スピネル
17	P 398	Ⅷ29-42	緑泥石岩		67	P 412	Ⅷ53-17	タルク化蛇紋岩	斑点状
18	P 398	Ⅷ29-43	緑泥石岩		68	P 412	Ⅷ53-18	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
19	P 398	Ⅷ29-44	緑泥石岩		69	P 412	Ⅷ53-19	タルク化蛇紋岩	斑点状
20	P 398	Ⅷ29-46	緑泥石岩	自形スピネル, 変形	70	P 412	Ⅷ53-20	緑泥石岩	自形スピネル
21	P 398	Ⅷ29-45	緑泥石岩		71	P 412	Ⅷ53-21	タルク化蛇紋岩	斑点状, 風化
22	P 398	Ⅷ29-51	緑泥石岩		72	P 412	Ⅷ53-22	タルク化蛇紋岩	斑点状
23	P 398	Ⅷ29-52	緑泥石岩	自形スピネル	73	P 412	Ⅷ53-23	緑泥石岩	スピネル?
24	P 398	Ⅷ29-53	緑泥石岩		74	P 412	Ⅷ53-24	緑泥石岩	自形スピネル
25	P 398	Ⅷ29-55	緑泥石岩		75	P 412	Ⅷ53-25	タルク化蛇紋岩	斑点状
26	P 398	Ⅷ29-54	緑泥石岩		76	P 412	Ⅷ53-26	緑泥石岩	
27	P 398	Ⅷ29-56	緑泥石岩	自形スピネル (多い)	77	P 412	Ⅷ53-27	緑泥石岩	自形スピネル, 白っぽい
28	P 398	Ⅷ29-57	緑泥石岩	自形スピネル	78	P 412	Ⅷ53-35	タルク化蛇紋岩	斑点状
29	P 398	Ⅷ29-58	緑泥石岩		79	P 412	Ⅷ53-34	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
30	P 398	Ⅷ29-59	緑泥石岩	自形スピネル	80	P 412	Ⅷ53-33	タルク化蛇紋岩	斑点状
31	P 398	Ⅷ29-60	緑泥石岩		81	P 412	Ⅷ53-32	タルク化蛇紋岩	斑点状
32	P 398	Ⅷ29-61	緑泥石岩	自形スピネル	82	P 412	Ⅷ53-30	緑泥石岩	自形スピネル
33	P 398	Ⅷ29-63	緑泥石岩		83	P 412	Ⅷ53-29	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
34	P 398	Ⅷ29-62	緑泥石岩		84	P 412	Ⅷ53-28	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
35	P 398	Ⅷ29-64	緑泥石岩		85	P 412	Ⅷ53-31	タルク化蛇紋岩	斑点状
36	P 398	Ⅷ29-65	緑泥石岩		86	P 412	Ⅷ53-36	緑泥石岩	自形スピネル
37	P 398	Ⅷ29-66	ロジン岩?	変形, 白っぽい, 自形スピネル	87	P 412	Ⅷ53-37	タルク化蛇紋岩	斑点状, 自形スピネル
38	P 398	Ⅷ29-67	緑泥石岩		88	P 412	Ⅷ53-38	タルク化蛇紋岩	斑点状
39	P 401	Ⅷ38-6	緑泥石岩	自形スピネル	89	P 432	Ⅷ64-4	緑泥石岩	自形スピネル
40	P 401	Ⅷ38-8	緑泥石岩	自形スピネル	90	P 432	Ⅷ64-5	緑泥石岩	繊維組織
41	P 401	Ⅷ38-7	緑泥石岩	自形スピネル	89	P 432	Ⅷ64-6	ジャスパー	層岩は凝灰岩
42	P 401	Ⅷ38-9	緑泥石岩	自形スピネル	92	P 432	Ⅷ64-7	緑泥石岩	
43	P 401	Ⅷ38-12	緑泥石岩	自形スピネル	93	P 432	Ⅷ64-9	緑泥石岩	半自形スピネル, 繊維状
44	P 401	Ⅷ38-11	緑泥石岩		94	P 432	Ⅷ64-8	緑泥石岩	
45	P 401	Ⅷ38-10	緑泥石岩		95	P 432	Ⅷ64-23	ヒスイ	
46	P 402	Ⅷ39-21	緑泥石岩	自形スピネル	96	P 432	Ⅷ64-2	緑泥石岩	自形スピネル
47	P 402	Ⅷ39-24	緑泥石岩	自形スピネル	97	P 432	Ⅷ64-22	緑泥石岩	自形スピネル
48	P 402	Ⅷ39-23	緑泥石岩	自形スピネル	98	P 432	Ⅷ64-21	緑泥石岩	
49	P 402	Ⅷ39-22	緑泥石岩	自形スピネル, 淡緑色	99	P 432	Ⅷ64-20	緑泥石岩	脈あり
50	P 404	Ⅷ42-4	緑泥石岩	自形スピネル	100	P 432	Ⅷ64-10	緑泥石岩	

注:「緑泥石岩」は蛇紋岩質緑泥石岩(蛇紋岩起源の緑泥石岩)  
 ※蛍光X線分析 ※※:エネルギー分散法EPMA分析(EDS分析)

第1表2) 玉類の鑑定結果

番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考	番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考
101	P 432	0664-11	緑泥石岩	自形スピネル	151	P 439	0877-58	緑泥石岩	
102	P 432	0664-12	緑泥石岩	自形スピネル	152	P 439	0877-59	緑泥石岩	
103	P 432	0664-13	緑泥石岩	自形スピネル、白/緑	153	P 439	0877-60	緑泥石岩	
104	P 432	0664-14	緑泥石岩	自形スピネル	154	P 439	0877-61	緑泥石岩	
105	P 432	0664-15	緑泥石岩	自形スピネル	155	P 439	0877-62	緑泥石岩	白っぽい
106	P 432	0664-16	緑泥石岩	自形スピネル (大)	156	P 439	0877-64	緑泥石岩	
107	P 432	0664-17	緑泥石岩	自形スピネル	157	P 439	0877-63	緑泥石岩	
108	P 432	0664-18	緑泥石岩		158	P 439	0877-53	緑泥石岩	自形スピネル
109	P 432	0664-3	緑泥石岩	変形著しい	159	P 439	0877-34	緑泥石岩	自形スピネル
110	P 432	0664-19	緑泥石岩	変形著しい	160	P 439	0877-29	緑泥石岩	
111	P 432	0664-1	蛇紋岩	自形スピネル、アンチゴライト	161	P 439	0877-30	緑泥石岩	
112	P 433	0667-5	赤色炭質岩 (炭質岩質)	自形スピネル	162	P 441	0879-38	緑泥石岩	
113	P 435	0870-7	緑泥石岩	自形スピネル	163	P 441	0879-37	緑泥石岩	自形スピネル、淡緑色
114	P 435	0870-6	緑泥石岩	自形スピネル	164	P 441	0879-36	緑泥石岩	
115	P 435	0870-5	緑泥石岩	自形スピネル	165	P 441	0879-35	凝灰岩?	
116	P 435	0870-11	緑泥石岩		166	P 441	0879-34	緑泥石岩	
117	P 435	0870-10	緑泥石岩	褐色部あり	167	P 441	0879-33	緑泥石岩	自形スピネル
118	P 435	0870-8	緑泥石岩	自形スピネル	168	P 441	0879-32	緑泥石岩	
119	P 435	0870-9	緑泥石岩		169	P 441	0879-30	緑泥石岩	
120	P 438	0872-5	緑泥石岩		170	P 441	0879-31	緑泥石岩	自形スピネル
121	P 438	0872-25	緑泥石岩		171	P 441	0879-29	緑泥石岩	
122	P 438	0872-24	緑泥石岩	自形スピネル	172	P 441	0879-28	緑泥石岩	
123	P 438	0872-4	緑泥石岩	淡緑色	173	P 441	0879-27	緑泥石岩	
124	P 438	0872-22	緑泥石岩	自形スピネル	174	P 441	0879-26	緑泥石岩	
125	P 438	0872-21	緑泥石岩	自形スピネル	175	P 441	0879-25	緑泥石岩	自形スピネル
126	P 438	0872-20	緑泥石岩	自形スピネル	176	P 441	0879-24	緑泥石岩	
127	P 438	0872-19	緑泥石岩		177	P 441	0879-20	凝灰岩?	
128	P 438	0872-18	緑泥石岩	自形スピネル	178	P 441	0879-19	緑泥石岩	
129	P 438	0872-15	緑泥石岩	自形スピネル	179	P 441	0879-17	緑泥石岩	
130	P 438	0872-6	緑泥石岩	白っぽい	180	P 441	0879-16	緑泥石岩	淡緑色
131	P 438	0872-7	緑泥石岩		181	P 441	0879-18	凝灰岩?	
132	P 438	0872-8	緑泥石岩	自形スピネル	182	P 441	0879-21	緑泥石岩	
133	P 438	0872-9	緑泥石岩		183	P 441	0879-22	緑泥石岩	
134	P 438	0872-10	緑泥石岩	白っぽい	184	P 441	0879-23	緑泥石岩	
135	P 438	0872-11	緑泥石岩		185	P 444	0884-1	緑泥石岩	
136	P 438	0872-14	緑泥石岩	自形スピネル	186	P 444	0884-2	緑泥石岩	
08137	P 439	0877-28	緑泥石岩	自形スピネル	187	P 444	0884-3	緑泥石岩	自形スピネル
138	P 439	0877-27	緑泥石岩		188	P 444	0884-4	緑泥石岩	
139	P 439	0877-26	緑泥石岩	自形スピネル	189	P 444	0884-8	緑泥石岩	
08140	P 439	0877-23	緑泥石岩	匂玉、自形スピネル	190	P 444	0884-9	緑泥石岩	
141	P 439	0877-20	緑泥石岩		191	P 444	0884-7	緑泥石岩	
142	P 439	0877-17	緑泥石岩		192	P 444	0884-6	緑泥石岩	
08143	P 439	0877-16	緑泥石岩	数珠、自形スピネル	193	P 444	0884-45	緑泥石岩	自形スピネル?
144	P 439	0877-13	緑泥石岩	白っぽい	194	P 444	0884-5	緑泥石岩	
145	P 439	0877-12	緑泥石岩		195	P 444	0884-44	緑泥石岩	
146	P 439	0877-9	緑泥石岩		196	P 444	0884-43	緑泥石岩	
147	P 439	0877-8	緑泥石岩		197	P 444	0884-42	緑泥石岩	自形スピネル
148	P 439	0877-55	緑泥石岩		198	P 444	0884-41	緑泥石岩	
149	P 439	0877-56	緑泥石岩		199	P 444	0884-40	緑泥石岩	
150	P 439	0877-57	緑泥石岩		200	P 444	0884-39	緑泥石岩	

注:「緑泥石岩」は蛇紋岩質緑泥石岩(蛇紋岩起源の緑泥石岩)

※蛍光X線分析 ※※:エネルギー分散法EPMA分析(EDS分析)



第1表3) 玉類の鑑定結果

番号	造構番号	遺物番号	岩石名	備考	番号	造構番号	遺物番号	岩石名	備考
201	P 444	084-11	緑泥石岩	白っぽい	251	P 476	009-32	緑泥石岩	
202	P 444	084-12	緑泥石岩	変形	252	P 476	009-35	緑泥石岩	自形スピネル
203	P 444	084-13	緑泥石岩		253	P 476	009-34	緑泥石岩	一部褐色
204	P 444	084-10	緑泥石岩		254	P 476	009-33	緑泥石岩	
205	P 444	084-18	緑泥石岩		255	P 476	009-36	緑泥石岩	
206	P 444	084-25	緑泥石岩	変形	256	P 476	009-37	緑泥石岩	
207	P 444	084-26	緑泥石岩		257	P 476	009-38	緑泥石岩	自形スピネル
208	P 444	084-27	緑泥石岩	赤っぽい	258	P 476	009-11	緑泥石岩	自形スピネル
209	P 444	084-16	緑泥石岩		259	P 480	009-2	緑泥石岩	
210	P 444	084-38	緑泥石岩		260	P 480	009-3	タルク	灰白色
211	P 444	084-37	緑泥石岩	自形スピネル	※261	P 480	009-4	タルク	自形スピネル、灰白色
212	P 444	084-36	緑泥石岩		262	P 483	009-1	緑泥石岩	
213	P 444	084-35	緑泥石岩	自形スピネル	263	P 483	009-2	緑泥石岩	
214	P 444	084-34	緑泥石岩		264	P 483	009-3	緑泥石岩	
215	P 445	087-49	緑泥石岩	自形スピネル	265	P 483	009-4	緑泥石岩	
216	P 445	087-47	緑泥石岩		266	P 483	009-5	緑泥石岩	淡緑色
217	P 445	087-48	緑泥石岩	自形スピネル(多い)	267	P 483	009-6	緑泥石岩	
218	P 445	087-51	緑泥石岩	淡緑色	268	P 483	009-7	緑泥石岩	
219	P 445	087-50	緑泥石岩		269	P 483	009-8	ジャスパー?	淡褐色
220	P 447	088-3	緑泥石岩		270	P 483	009-9	緑泥石岩	
221	P 447	088-5	緑色凝灰岩		271	P 483	009-10	緑泥石岩	
222	P 447	088-4	緑色凝灰岩		272	P 483	009-11	緑泥石岩	
223	P 447	088-2	緑泥石岩	自形スピネル	273	P 483	009-12	緑泥石岩	
224	P 476	009-13	緑泥石岩		274	P 483	009-13	緑泥石岩	自形スピネル
225	P 476	009-14	緑泥石岩		275	P 483	009-14	緑泥石岩	
226	P 476	009-15	緑泥石岩	自形スピネル	276	P 483	009-15	緑泥石岩	
227	P 476	009-9	緑泥石岩		277	P 483	009-16	緑泥石岩	
228	P 476	009-8	緑泥石岩	自形スピネル	278	P 483	009-17	緑泥石岩	
229	P 476	009-4	緑泥石岩		279	P 483	009-18	緑泥石岩	
230	P 476	009-5	緑泥石岩	自形スピネル?	280	P 483	009-19	緑泥石岩	自形スピネル
231	P 476	009-6	緑泥石岩		281	P 483	009-20	緑泥石岩	
232	P 476	009-7	緑泥石岩		282	P 483	009-21	緑泥石岩	
233	P 476	009-10	緑泥石岩		283	P 483	009-22	緑泥石岩	
234	P 476	009-12	緑泥石岩	自形スピネル	284	P 483	009-23	緑泥石岩	
235	P 476	009-16	緑泥石岩		285	P 483	009-24	緑泥石岩	
236	P 476	009-17	緑泥石岩		286	P 483	009-25	緑泥石岩	
237	P 476	009-19	緑泥石岩		287	P 483	009-26	緑泥石岩	自形スピネル
238	P 476	009-18	緑泥石岩		288	P 483	009-27	緑泥石岩	
239	P 476	009-21	緑泥石岩	自形スピネル	289	P 483	009-28	緑泥石岩	
240	P 476	009-22	緑泥石岩		290	P 483	009-29	緑泥石岩	淡緑色
241	P 476	009-20	緑泥石岩		291	P 483	009-30	緑泥石岩	
242	P 476	009-23	緑泥石岩		292	P 483	009-31	緑泥石岩	自形スピネル
243	P 476	009-25	緑泥石岩		293	P 483	009-32	緑泥石岩	
244	P 476	009-26	緑泥石岩	半自形スピネル?	294	P 483	009-33	緑泥石岩	
245	P 476	009-34	緑泥石岩		295	P 483	009-34	緑泥石岩	
246	P 476	009-27	緑泥石岩		296	P 483	009-35	緑泥石岩	
247	P 476	009-28	緑泥石岩		297	P 483	009-36	緑泥石岩	
248	P 476	009-29	緑泥石岩	自形スピネル	298	P 483	009-37	緑泥石岩	
249	P 476	009-30	緑泥石岩		299	P 483	009-38	緑泥石岩	
250	P 476	009-31	緑泥石岩		300	P 483	009-39	緑泥石岩	自形スピネル

注:「緑泥石岩」は蛇紋岩質緑泥石岩(蛇紋岩起源の緑泥石岩)  
 ※蛍光X線分析 ※※:エネルギー分散法EPMA分析(EDS分析)

第1表(4) 玉類の鑑定結果

番号	造標番号	造物番号	岩石名	備考	番号	造標番号	造物番号	岩石名	備考
301	P 483	国14-40	緑泥石岩		351	P 510	国35-20	緑泥石岩	濃緑色脈あり
302	P 483	国14-41	緑泥石岩		352	P 510	国35-13	緑泥石岩	
303	P 483	国14-42	緑泥石岩		353	P 510	国35-6	緑泥石岩	変形
304	P 483	国14-43	緑泥石岩	自形スピネル	354	P 510	国35-8	緑泥石岩	濃緑色脈あり, 自形スピネル
305	P 483	国14-44	緑泥石岩		355	P 510	国35-5	緑泥石岩	濃緑色脈あり
306	P 483	国14-45	緑泥石岩	自形スピネル	356	P 510	国35-9	緑泥石岩	濃緑色脈あり
307	P 483	国14-46	緑泥石岩		357	P 510	国35-12	緑泥石岩	
308	P 483	国14-47	緑泥石岩		358	P 510	国35-10	緑泥石岩	濃緑色脈あり
309	P 483	国14-48	緑泥石岩		359	P 510	国35-20	緑泥石岩	
310	P 483	国14-49	緑泥石岩		360	P 510	国35-19	緑泥石岩	
311	P 483	国14-52	緑泥石岩	自形スピネル	361	P 510	国35-21	緑泥石岩	自形スピネル
312	P 483	国14-53	緑泥石岩	淡緑色	362	P 510	国35-25	緑泥石岩	変形
313	P 483	国14-54	緑泥石岩	淡緑色, 自形スピネル	363	P 510	国35-26	緑泥石岩	変形, 自形スピネル
314	P 483	国14-55	緑泥石岩		364	P 510	国35-18	緑泥石岩	
315	P 483	国14-56	緑泥石岩	淡緑色, 自形スピネル	365	P 510	国35-22	緑泥石岩	変形, 自形スピネル
316	P 483	国14-57	緑泥石岩	淡緑色	366	P 510	国35-42	緑泥石岩	変形, 自形スピネル
317	P 483	国14-58	緑泥石岩		367	P 510	国35-25	緑泥石岩	
318	P 483	国14-59	タルク	他形スピネル	368	P 510	国35-34	緑泥石岩	
319	P 483	国14-60	緑泥石岩		369	P 510	国35-41	緑泥石岩	自形スピネル
320	P 483	国14-61	緑泥石岩		370	P 510	国35-30	緑泥石岩	
321	P 483	国14-62	緑泥石岩		371	P 510	国35-32	緑泥石岩	
322	P 483	国14-63	緑泥石岩	自形スピネル	372	P 510	国35-31	緑泥石岩	
323	P 483	国14-64	緑泥石岩	自形スピネル	373	P 510	国35-35	緑泥石岩	自形スピネル
324	P 483	国14-65	ジャスパー	淡褐色	374	P 510	国35-29	緑泥石岩	自形スピネル
325	P 483	国14-66	タルク化蛇紋岩	自形スピネル	375	P 510	国35-28	緑泥石岩	
326	P 483	国14-67	緑泥石岩		376	P 510	国35-27	緑泥石岩	
327	P 483	国14-30	緑泥石岩	自形スピネル	377	P 510	国35-36	緑泥石岩	
328	P 483	国14-51	緑泥石岩	自形スピネル	378	P 510	国35-37	緑泥石岩	
329	P 509	国33-1	緑泥石岩	変形, 自形スピネル	379	P 510	国35-38	緑泥石岩	自形スピネル
330	P 509	国33-2	緑泥石岩		380	P 510	国35-39	緑泥石岩	自形スピネル
331	P 509	国33-3	緑泥石岩		381	P 510	国35-40	緑泥石岩	白色脈あり
332	P 509	国33-4	緑泥石岩		382	P 510	国35-11	緑泥石岩	自形スピネル
333	P 509	国33-5	緑泥石岩		383	P 510	国35-14	緑泥石岩	
334	P 509	国33-6	緑泥石岩		384	P 510	国35-15	緑泥石岩	
335	P 509	国33-7	緑泥石岩	一部白色	385	P 510	国35-16	緑泥石岩	繊維組織あり
336	P 509	国33-8	緑泥石岩		386	P 510	国35-17	緑泥石岩	
337	P 509	国33-9	緑泥石岩		387	P 511	国38-22	ビスイ	
338	P 509	国33-10	緑泥石岩		388	P 511	国38-25	ジャスパー	
339	P 509	国33-11	緑泥石岩		389	P 511	国38-27	ジャスパー	
340	P 509	国33-13	緑泥石岩		390	P 511	国38-28	緑泥石岩	
341	P 509	国33-14	緑泥石岩	自形スピネル	391	P 511	国38-30	緑泥石岩	
342	P 509	国33-15	緑泥石岩	自形スピネル	392	P 511	国38-29	緑泥石岩	
343	P 509	国33-16	緑泥石岩	自形スピネル	393	P 511	国38-32	緑泥石岩	
※344	P 509	国33-17	緑泥石岩	他形スピネル	394	P 511	国38-33	緑泥石岩	自形スピネル
345	P 509	国33-18	緑泥石岩		395	P 511	国38-34	緑泥石岩	自形スピネル, タルク(光る)
※346	P 509	国33-12	緑泥石岩	匂玉, 自形スピネル, 繊維組織	396	P 511	国38-35	緑泥石岩	自形スピネル
347	P 510	国35-1	緑泥石岩	自形スピネル	397	P 511	国38-36	緑泥石岩	繊維状の脈
※348	P 510	国35-7	蛇紋岩	自形スピネル, 緑泥石岩化	398	P 511	国38-37	緑泥石岩	自形スピネル
349	P 510	国35-4	緑泥石岩		399	P 511	国38-38	緑泥石岩	
350	P 510	国35-24	緑泥石岩		400	P 511	国38-39	緑泥石岩	

注:「緑泥石岩」は蛇紋岩質緑泥石岩(蛇紋岩起源の緑泥石岩)

※蛍光X線分析 ※※:エネルギー分散法EPMA分析(EDS分析)

第1表5) 玉類の鑑定結果

番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考	番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考
401	P.511	Ⅷ38-40	緑泥石岩		451	P.511	Ⅷ38-179	緑泥石岩	タルク(光る)含む
402	P.511	Ⅷ38-41	緑泥石岩	自形スピネル	452	P.511	Ⅷ38-177	緑泥石岩	自形スピネル
403	P.511	Ⅷ38-42	緑泥石岩	自形スピネル?	453	P.511	Ⅷ38-141	緑泥石岩	自形スピネル?
404	P.511	Ⅷ38-43	緑泥石岩	自形スピネル?	454	P.511	Ⅷ38-180	緑泥石岩	濃緑/灰白
405	P.511	Ⅷ38-45	緑泥石岩	白色顔あり	455	P.511	Ⅷ38-215	緑泥石岩	自形スピネル
406	P.511	Ⅷ38-46	緑泥石岩	濃緑色	456	P.511	Ⅷ38-214	緑泥石岩	タルク(光る)含む
407	P.511	Ⅷ38-47	緑泥石岩	自形スピネル	457	P.511	Ⅷ38-125	緑泥石岩	自形スピネル
408	P.511	Ⅷ38-48	緑泥石岩	自形スピネル	458	P.511	Ⅷ38-137	緑泥石岩	淡緑色
409	P.511	Ⅷ38-49	緑泥石岩	自形スピネル	459	P.511	Ⅷ38-212	緑泥石岩	
410	P.511	Ⅷ38-50	緑泥石岩		460	P.511	Ⅷ38-126	緑泥石岩	濃緑/灰白
411	P.511	Ⅷ38-51	緑泥石岩	タルク(光る)含む	461	P.511	Ⅷ38-98	緑泥石岩	白っぽい
412	P.511	Ⅷ38-52	緑泥石岩	自形スピネル	462	P.511	Ⅷ38-93	緑泥石岩	淡緑/灰白
413	P.511	Ⅷ38-53	緑泥石岩		463	P.511	Ⅷ38-207	緑泥石岩	淡緑、タルク含む
414	P.511	Ⅷ38-54	緑泥石岩		464	P.511	Ⅷ38-107	緑泥石岩	暗緑/灰白
415	P.511	Ⅷ38-19	緑泥石岩	淡緑色、タルク(光る)含む	465	P.511	Ⅷ38-106	緑泥石岩	一部濃緑
416	P.511	Ⅷ38-18	緑泥石岩	自形スピネル	466	P.512	Ⅷ25-2	緑泥石岩	自形スピネル
417	P.511	Ⅷ38-31	緑泥石岩	自形スピネル?	467	P.512	Ⅷ25-3	緑泥石岩	自形スピネル
418	P.511	Ⅷ38-196	緑泥石岩	緑泥石	468	P.512	Ⅷ25-4	緑泥石岩	濃緑/灰白
419	P.511	Ⅷ38-213	緑泥石岩	淡緑色	469	P.512	Ⅷ25-5	緑泥石岩	自形スピネル、濃緑/灰白
420	P.511	Ⅷ38-128	緑泥石岩	白っぽい	470	P.512	Ⅷ25-6	緑泥石岩	
421	P.511	Ⅷ38-129	緑泥石岩	白っぽい、自形スピネル	471	P.512	Ⅷ25-7	緑泥石岩	自形スピネル
422	P.511	Ⅷ38-126	緑泥石岩	白っぽい	472	P.512	Ⅷ25-8	緑泥石岩	
423	P.511	Ⅷ38-125	緑泥石岩	白っぽい	473	P.512	Ⅷ25-9	緑泥石岩	タルク(光る)含む
424	P.511	Ⅷ38-216	緑泥石岩		474	P.512	Ⅷ25-10	緑泥石岩	タルク(光る)含む
425	P.511	Ⅷ38-113	緑泥石岩		475	P.512	Ⅷ25-11	緑泥石岩	
426	P.511	Ⅷ38-102	緑泥石岩	タルク(光る)含む	476	P.512	Ⅷ25-12	緑泥石岩	
427	P.511	Ⅷ38-103	緑泥石岩	タルク(光る)含む	477	P.513	Ⅷ40-26	緑泥石岩	
428	P.511	Ⅷ38-70	緑泥石岩	淡緑色(白っぽい)	478	P.513	Ⅷ40-25	緑泥石岩	
429	P.511	Ⅷ38-164	緑泥石岩		479	P.513	Ⅷ40-24	緑泥石岩	
430	P.511	Ⅷ38-165	緑泥石岩		480	P.513	Ⅷ40-23	緑泥石岩	
431	P.511	Ⅷ38-71	緑泥石岩	暗緑色/淡緑色	481	P.513	Ⅷ40-22	緑泥石岩	自形スピネル
432	P.511	Ⅷ38-72	緑泥石岩	暗緑色/淡緑色	482	P.513	Ⅷ40-21	緑泥石岩	
433	P.511	Ⅷ38-72	緑泥石岩		483	P.513	Ⅷ40-20	緑泥石岩	暗緑/灰白
434	P.511	Ⅷ38-123	緑泥石岩		484	P.513	Ⅷ40-19	緑泥石岩	
435	P.511	Ⅷ38-154	緑泥石岩		485	P.513	Ⅷ40-17	緑泥石岩	
436	P.511	Ⅷ38-128	緑泥石岩		486	P.513	Ⅷ40-16	凝灰岩	
437	P.511	Ⅷ38-129	緑泥石岩	自形スピネル	487	P.513	Ⅷ40-15	緑泥石岩	
438	P.511	Ⅷ38-220	緑泥石岩	自形スピネル	488	P.513	Ⅷ40-14	緑泥石岩	輝石含む?
439	P.511	Ⅷ38-125	緑泥石岩		489	P.513	Ⅷ40-13	緑泥石岩	自形スピネル
440	P.511	Ⅷ38-127	緑泥石岩	自形スピネル	490	P.513	Ⅷ40-12	緑泥石岩	
441	P.511	Ⅷ38-221	緑泥石岩	自形スピネル	491	P.513	Ⅷ40-11	緑泥石岩	
442	P.511	Ⅷ38-98	緑泥石岩		492	P.513	Ⅷ40-10	緑泥石岩	
443	P.511	Ⅷ38-106	緑泥石岩	自形スピネル?	493	P.513	Ⅷ40-9	緑泥石岩	
444	P.511	Ⅷ38-94	緑泥石岩		494	P.513	Ⅷ40-8	緑泥石岩	
445	P.511	Ⅷ38-107	緑泥石岩	自形スピネル	495	P.513	Ⅷ40-7	緑泥石岩	
446	P.511	Ⅷ38-109	凝灰岩		496	P.513	Ⅷ40-6	緑泥石岩	
447	P.511	Ⅷ38-105	緑泥石岩		497	P.513	Ⅷ40-18	緑泥石岩	
448	P.511	Ⅷ38-102	緑泥石岩	自形スピネル	498	P.516	Ⅷ44-20	緑泥石岩	
449	P.511	Ⅷ38-101	緑泥石岩	タルク(光る)含む	499	P.516	Ⅷ44-21	緑泥石岩	暗緑/淡緑
450	P.511	Ⅷ38-100	緑泥石岩	タルク(光る)含む	500	P.516	Ⅷ44-22	緑泥石岩	

注:「緑泥石岩」は蛇紋岩質緑泥石岩(蛇紋岩起源の緑泥石岩)  
 ※蛍光X線分析 ※※:エネルギー分散法EPMA分析(EDS分析)

第1表(6) 玉類の鑑定結果

番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考	番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考
501	P 516	Ⅷ44-20	緑泥石岩	自形スピネル、輝石?	551	P 519	Ⅷ49-51	緑泥石岩	
502	P 516	Ⅷ44-34	緑泥石岩	自形スピネル	552	P 519	Ⅷ49-50	緑泥石岩	
503	P 516	Ⅷ44-25	緑泥石岩	自形スピネル	553	P 519	Ⅷ49-49	凝灰岩	
504	P 516	Ⅷ44-26	緑泥石岩	暗緑色	554	P 519	Ⅷ49-46	緑泥石岩	自形スピネル
505	P 516	Ⅷ44-27	緑泥石岩	一部灰白	555	P 519	Ⅷ49-39	緑泥石岩	
506	P 516	Ⅷ44-28	緑泥石岩	自形スピネル	556	P 519	Ⅷ49-31	緑泥石岩	自形スピネル
507	P 516	Ⅷ44-29	緑泥石岩		557	P 519	Ⅷ49-33	緑泥石岩	
508	P 516	Ⅷ44-30	緑泥石岩		558	P 519	Ⅷ49-34	緑泥石岩	
509	P 516	Ⅷ44-31	緑色凝灰岩		559	P 519	Ⅷ49-35	緑泥石岩	
510	P 516	Ⅷ44-32	緑泥石岩	自形スピネル	560	P 519	Ⅷ49-37	緑泥石岩	一部赤褐色
511	P 516	Ⅷ44-33	緑泥石岩		561	P 519	Ⅷ49-38	緑泥石岩	
512	P 516	Ⅷ44-34	緑泥石岩		562	P 519	Ⅷ49-39	緑泥石岩	
513	P 516	Ⅷ44-35	緑泥石岩		563	P 519	Ⅷ49-40	緑泥石岩	
514	P 516	Ⅷ44-36	緑泥石岩	淡緑色、自形スピネル	564	P 519	Ⅷ49-42	緑泥石岩	淡緑色
515	P 516	Ⅷ44-37	緑泥石岩	自形スピネル、輝石?	565	P 519	Ⅷ49-41	緑泥石岩	
516	P 516	Ⅷ44-38	緑泥石岩		566	P 519	Ⅷ49-29	緑泥石岩	
517	P 516	Ⅷ44-39	緑泥石岩		567	P 519	Ⅷ49-68	緑泥石岩	
518	P 516	Ⅷ44-40	緑泥石岩		568	P 553	Ⅷ64-48	緑泥石岩	淡緑色
519	P 516	Ⅷ44-41	緑泥石岩		569	P 553	Ⅷ64-49	緑泥石岩	
520	P 516	Ⅷ44-42	緑泥石岩	自形スピネル	570	P 553	Ⅷ64-36	緑泥石岩	
521	P 516	Ⅷ44-43	緑泥石岩	輝石?	571	P 553	Ⅷ64-51	緑泥石岩	
522	P 516	Ⅷ44-44	緑泥石岩	自形スピネル	572	P 553	Ⅷ64-52	緑泥石岩	淡緑色、タルク(光る)
523	P 516	Ⅷ44-45	緑泥石岩		573	P 553	Ⅷ64-53	緑泥石岩	自形スピネル、暗緑色
524	P 516	Ⅷ44-46	緑泥石岩	自形スピネル	574	P 553	Ⅷ64-54	緑泥石岩	自形スピネル、暗緑色
525	P 516	Ⅷ44-47	緑泥石岩		575	P 553	Ⅷ64-55	緑泥石岩	
526	P 516	Ⅷ44-48	緑泥石岩		576	P 553	Ⅷ64-16	緑泥石岩	白っぽい、自形スピネル
527	P 516	Ⅷ44-49	緑泥石岩		577	P 553	Ⅷ64-17	緑泥石岩	
528	P 516	Ⅷ44-50	緑泥石岩		578	P 553	Ⅷ64-18	緑泥石岩	暗緑/灰白、自形スピネル
529	P 516	Ⅷ44-51	緑泥石岩		579	P 553	Ⅷ64-19	緑泥石岩	自形スピネル、暗緑色
530	P 519	Ⅷ49-65	緑泥石岩		580	P 553	Ⅷ64-35	緑泥石岩	淡緑色、タルク含む
531	P 519	Ⅷ49-63	緑色凝灰岩		581	P 553	Ⅷ64-34	緑泥石岩	一部淡緑色、タルク含む
532	P 519	Ⅷ49-66	緑泥石岩	自形スピネル	582	P 553	Ⅷ64-33	緑泥石岩	淡緑色、タルク含む
533	P 519	Ⅷ49-24	凝灰質泥岩		583	P 553	Ⅷ64-32	緑泥石岩	淡緑色
534	P 519	Ⅷ49-61	緑色凝灰岩		584	P 553	Ⅷ64-1	緑泥石岩	タルク含む、自形スピネル
535	P 519	Ⅷ49-60	緑泥石岩		585	P 553	Ⅷ64-2	緑泥石岩	淡緑色、タルク含む
536	P 519	Ⅷ49-59	緑泥石岩		586	P 553	Ⅷ64-3	緑泥石岩	淡緑色
537	P 519	Ⅷ49-58	緑泥石岩	自形スピネル	587	P 553	Ⅷ64-4	緑泥石岩	淡緑色、自形スピネル、タルク
538	P 519	Ⅷ49-64	緑泥石岩		588	P 553	Ⅷ64-5	緑泥石岩	淡緑色
539	P 519	Ⅷ49-62	緑泥石岩		589	P 553	Ⅷ64-6	緑泥石岩	
540	P 519	Ⅷ49-48	コハク		590	P 553	Ⅷ64-7	緑泥石岩	淡緑色、タルク含む
541	P 519	Ⅷ49-47	緑泥石岩	自形スピネル	591	P 553	Ⅷ64-8	緑泥石岩	淡緑色
542	P 519	Ⅷ49-25	緑泥石岩	自形スピネル、赤褐色化	592	P 553	Ⅷ64-9	緑泥石岩	淡緑色
543	P 519	Ⅷ49-49	凝灰質泥岩		593	P 553	Ⅷ64-10	緑泥石岩	
544	P 519	Ⅷ49-27	緑泥石岩	自形スピネル	594	P 553	Ⅷ64-11	緑泥石岩	自形スピネル、タルク
545	P 519	Ⅷ49-57	緑泥石岩		595	P 553	Ⅷ64-12	緑泥石岩	
546	P 519	Ⅷ49-36	緑泥石岩		596	P 553	Ⅷ64-13	緑泥石岩	自形スピネル
547	P 519	Ⅷ49-55	緑泥石岩		597	P 553	Ⅷ64-20	緑泥石岩	淡緑色
548	P 519	Ⅷ49-54	緑泥石岩	自形スピネル	598	P 553	Ⅷ64-28	緑泥石岩	淡緑色、タルク
549	P 519	Ⅷ49-33	緑泥石岩	自形スピネル	599	P 553	Ⅷ64-31	緑泥石岩	自形スピネル
550	P 519	Ⅷ49-32	緑泥石岩	自形スピネル	600	P 553	Ⅷ64-30	緑泥石岩	淡緑色

注:「緑泥石岩」は蛇紋岩質緑泥石岩(蛇紋岩起源の緑泥石岩)

※蛍光X線分析 ※※:エネルギー分散法EPMA分析(EDS分析)

第1表7) 玉類の鑑定結果

番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考	番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考
601	P 553	関64-29	緑泥石岩	自形スピネル、淡緑色	651	P 554	関66-76	緑泥石岩	自形スピネル
602	P 553	関64-14	緑泥石岩		652	P 554	関66-75	緑泥石岩	自形スピネル
603	P 553	関64-15	緑泥石岩	自形スピネル	653	P 554	関66-73	緑泥石岩	
604	P 553	関64-47	緑泥石岩	自形スピネル	654	P 554	関66-74	緑泥石岩	
605	P 553	関64-46	緑泥石岩	自形スピネル	655	P 554	関66-72	緑泥石岩	
606	P 553	関64-45	緑泥石岩	自形スピネル	656	P 554	関66-71	緑泥石岩	自形スピネル
607	P 553	関64-44	緑泥石岩	自形スピネル	657	P 554	関66-70	緑泥石岩	自形スピネル
608	P 553	関64-43	赤色変質岩	自形スピネル、蛇紋岩質	658	P 554	関66-69	緑泥石岩	
609	P 553	関64-42	緑泥石岩		659	P 554	関66-68	緑泥石岩	自形スピネル
610	P 553	関64-36	タルク	淡緑色	660	P 554	関66-67	緑泥石岩	自形スピネル
611	P 553	関64-25	タルク		661	P 554	関66-66	緑泥石岩	
612	P 553	関64-24	緑泥石岩		662	P 554	関66-65	緑泥石岩	
613	P 553	関64-23	緑泥石岩	淡緑色	663	P 554	関66-64	緑泥石岩	自形スピネル
614	P 553	関64-22	タルク	淡緑色	664	P 554	関66-63	緑泥石岩	自形スピネル
615	P 553	関64-21	緑泥石岩	タルクの可能性もある	665	P 554	関66-62	緑泥石岩	自形スピネル
616	P 553	関64-27	緑泥石岩		666	P 554	関66-61	緑泥石岩	風化
617	P 553	関64-41	緑泥石岩		667	P 554	関66-60	緑泥石岩	風化
618	P 553	関64-40	緑泥石岩		668	P 554	関66-59	緑泥石岩	自形スピネル
619	P 553	関64-39	緑泥石岩		669	P 554	関66-58	緑泥石岩	自形スピネル
620	P 553	関64-38	緑泥石岩		670	P 554	関66-57	緑泥石岩	自形スピネル
621	P 553	関64-37	緑泥石岩		671	P 554	関66-56	緑泥石岩	自形スピネル
622	P 553	関64-36	緑泥石岩	自形スピネル	672	P 554	関66-55	緑泥石岩	
623	P 554	関66-50	緑泥石岩		673	P 554	関66-54	緑泥石岩	
624	P 554	関66-94	タルク	自形スピネル	674	P 554	関66-53	緑泥石岩	
625	P 554	関66-93	緑泥石岩	黄褐色	675	P 554	関66-52	緑泥石岩	自形スピネル、風化
626	P 554	関66-90	緑泥石岩	黄褐色	676	P 554	関66-51	緑泥石岩	自形スピネル(多い)、風化
627	P 554	関66-92	緑泥石岩	黄褐色	677	P 554	関66-50	緑泥石岩	
628	P 554	関66-10	緑泥石岩		678	P 554	関66-49	緑泥石岩	鉱物各種含む
629	P 554	関66-95	緑泥石岩	自形スピネル?	679	P 554	関66-48	緑泥石岩	自形スピネル、風化
630	P 554	関66-11	緑泥石岩	黄褐色	680	P 554	関66-47	緑泥石岩	
631	P 554	関66-12	緑泥石岩	自形スピネル?	681	P 554	関66-46	緑泥石岩	自形スピネル
632	P 554	関66-13	緑泥石岩		682	P 554	関66-45	緑泥石岩	
633	P 554	関66-14	緑泥石岩		683	P 554	関66-44	緑泥石岩	淡緑色
634	P 554	関66-15	緑泥石岩		684	P 554	関66-43	緑泥石岩	自形スピネル、淡緑色
635	P 554	関66-16	緑泥石岩	黄褐色	685	P 554	関66-42	緑泥石岩	自形スピネル
636	P 554	関66-17	緑泥石岩	黄褐色	686	P 554	関66-41	緑泥石岩	自形スピネル
637	P 554	関66-27	緑泥石岩		687	P 554	関66-40	緑泥石岩	
638	P 554	関66-31	緑泥石岩	黄褐色	688	P 554	関66-38	緑泥石岩	
639	P 554	関66-32	緑泥石岩		689	P 554	関66-37	緑泥石岩	自形スピネル
640	P 554	関66-30	緑泥石岩	黄褐色	690	P 554	関66-36	緑泥石岩	
641	P 554	関66-25	緑泥石岩	黄褐色	691	P 554	関66-35	緑泥石岩	自形スピネル
642	P 554	関66-23	緑泥石岩	黄褐色	692	P 554	関66-34	緑泥石岩	自形スピネル
643	P 554	関66-24	緑泥石岩	黄褐色	693	P 554	関66-39	緑泥石岩	
644	P 554	関66-18	緑泥石岩	黄褐色	694	P 554	関66-37	緑泥石岩	自形スピネル
645	P 554	関66-30	緑泥石岩	黄褐色	695	P 554	関66-36	緑泥石岩	淡緑色、自形スピネル
646	P 554	関66-19	緑泥石岩	黄褐色	696	P 554	関66-35	タルク	
647	P 554	関66-21	緑泥石岩	黄褐色	697	P 554	関66-34	緑泥石岩	
648	P 554	関66-22	緑泥石岩	黄褐色	698	P 554	関66-32	タルク	自形スピネル
649	P 554	関66-9	緑泥石岩		699	P 554	関66-31	タルク	
650	P 554	関66-77	緑泥石岩	自形スピネル	700	P 554	関66-33	赤色変質岩	自形スピネル、蛇紋岩質

注:「緑泥石岩」は蛇紋岩質緑泥石岩(蛇紋岩起源の緑泥石岩)

※蛍光X線分析 ※※:エネルギー分散法EPMA分析(EDS分析)

第1表(8) 玉類の鑑定結果

番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考	番号	遺構番号	遺物番号	岩石名	備考
701	P 554	Ⅷ66-80	緑泥石岩		726	P 787	Ⅷ249-13	タルク	
702	P 554	Ⅷ66-88	緑泥石岩		727	P 787	Ⅷ249-14	緑泥石岩	暗緑色
703	P 554	Ⅷ66-26	緑泥石岩	黄褐色	728	P 787	Ⅷ249-15	緑泥石岩	暗緑色
704	P 554	Ⅷ66-29	緑泥石岩	黄褐色	729	P 787	Ⅷ249-16	緑泥石岩	
705	P 554	Ⅷ66-28	緑泥石岩	自形スピネル	730	P 787	Ⅷ249-17	緑泥石岩	
706	P 554	Ⅷ66-29	緑泥石岩	自形スピネル	731	P 787	Ⅷ249-37	緑泥石岩	自形スピネル
707	P 554	Ⅷ66-28	緑泥石岩		732	P 787	Ⅷ249-36	緑泥石岩	
708	P 554	Ⅷ66-29	緑泥石岩	自形スピネル	733	P 787	Ⅷ249-42	タルク	
709	P 554	Ⅷ66-23	緑泥石岩	自形スピネル	734	P 787	Ⅷ249-41	緑泥石岩	自形スピネル
710	P 554	Ⅷ66-8	緑泥石岩		735	P 787	Ⅷ249-40	緑泥石岩	
711	P 754	Ⅷ26-4	ヒスイ?	要分析, 緑色, 自形スピネル	736	P 787	Ⅷ249-29	緑泥石岩	自形スピネル
712	P 781	Ⅷ247-21	緑泥石岩	淡緑色	737	P 787	Ⅷ249-30	緑泥石岩	自形スピネル
713	P 781	Ⅷ247-22	緑泥石岩	淡緑色, 自形スピネル	738	P 787	Ⅷ249-31	緑泥石岩	自形スピネル
714	P 781	Ⅷ247-23	緑泥石岩	自形スピネル	739	P 787	Ⅷ249-39	緑泥石岩	
715	P 781	Ⅷ247-31	緑泥石岩	自形スピネル?	740	P 787	Ⅷ249-38	タルク	自形スピネル
716	P 781	Ⅷ247-34	緑泥石岩	自形スピネル	741	P 787	Ⅷ249-37	緑色凝灰岩	
717	P 781	Ⅷ247-25	緑泥石岩	自形スピネル	742	P 787	Ⅷ249-32	緑泥石岩	自形スピネル
718	P 781	Ⅷ247-26	緑泥石岩		743	P 787	Ⅷ249-33	緑泥石岩	白色鉱物, 線状沈澱
719	P 781	Ⅷ247-27	緑泥石岩	自形スピネル	744	P 815	Ⅷ256-1	緑泥石岩	
720	P 781	Ⅷ247-28	緑泥石岩	暗緑色脈あり	745	P 815	Ⅷ256-3	緑泥石岩	自形スピネル
721	P 781	Ⅷ247-30	緑泥石岩	自形スピネル	746	P 815	Ⅷ256-2	緑泥石岩	自形スピネル
722	P 781	Ⅷ247-29	緑泥石岩	淡緑色, 自形スピネル	747	P 815	Ⅷ256-7	緑泥石岩	風化
723	P 787	Ⅷ249-1	緑泥石岩	自形スピネル	748	P 815	Ⅷ256-4	緑色凝灰岩	
724	P 787	Ⅷ249-2	緑泥石岩	自形スピネル	749	P 815	Ⅷ256-6	ヒスイ	
725	P 787	Ⅷ249-12	緑泥石岩		750	P 815	Ⅷ256-5	緑色凝灰岩	
						P 402	3	緑泥石岩	

注:「緑泥石岩」は蛇紋岩質緑泥石岩(蛇紋岩起源の緑泥石岩)  
 蛍光X線分析

## (2) 全岩化学分析

### (2)-1 分析装置及び分析条件

分析には北海道教育大学札幌校のフィリップス社製蛍光X線分析装置MagiXを使用した。各元素の測定条件を第2-1表に示す。X線管球はエンドウィンドウ型のRh管球を用いた。測定環境はヘリウム環境中で測定している。測定時間は一試料につき約23分である。

試料及び定量操作: 試料は未処理のものをそのまま測定試料とした。試料測定用プラスチック製カップに、一重のポリプロピレンフィルムを装着し、試料を入れた。中の試料が動かないようにフタをして、金属ホルダーに入れ試料室にセットし測定を行った。定量分析はフィリップス社製のソフトI Q+を用いファンダメンタルパラメータ法(F P法)によって行った。

なお、本装置では、Na-Uの元素が定量可能であり、C、N、Oといった軽元素は検出できない。

本試料の測定で用いたF P法は、標準試料を用いた検量線法とは異なり、分析線の強度が試料の組成と基礎的定数(ファンダメンタルパラメータ)の関数として記述できるという考え方を基礎とした理論計算法である。この方法は、出所不明の未知試料の分析や、試料の形状・重量に関係なく前処理なしで定量できるメリットがある。

第2-1表 各元素の測定条件

	Analytical element		Crystal	Detector	kV	mA	Angle (° 2θ)	Counting time (s)
	Kα	Lα						
1	Mo-Pr		LiF200	Scint.	60	50	9.5-21	115
2	Zn-Mo	Re-Am	LiF220	Scint.	60	50	27.5-62	345
3	V-Cu	Pr-W	LiF220	Duplex	50	60	61-126	650
4	K-V	In-Ce	LiF200	Flow	24	125	76-146	175
5	P-Cl	Zr-Ru	Gel11	Flow	24	125	91-146	22
6	Si-Si	Rb-Sr	PE002	Flow	24	125	100-115	5
7	Al-Al	Br-Br	PE002	Flow	24	125	130-147.04	5.68
8	Na-Mg	Zn-Se	PX 1	Flow	24	125	20-30.05	2.68

Scint. : シンチレーション検出器

Duplex : ガスフロー検出器とXeシールド型のタンダム型検出器

Flow : ガスフロー検出器

## (2)-2 分析結果

肉眼鑑定を行った試料から8試料について全岩化学分析を行った。結果を第2-2表に示す。この表の上には肉眼鑑定と分析値から考えられる岩石名を示した。

第2-2表 全岩化学分析値

試料番号	P308-No.40	P412-No.16	P432-No.6	P439-No.23	P439-No.16	P480-No.4	P509-No.17	P509-No.12
岩石名	緑泥石岩	タルク化 蛇紋岩	ジャスパー	緑泥石岩	緑泥石岩	タルク	緑泥石岩	緑泥石岩
酸化物・ 元素 (重量%)								
SiO <sub>2</sub>	41.72	59.50	93.86	42.27	39.87	62.81	39.73	60.67
TiO <sub>2</sub>	0.07				0.11			0.22
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	19.83	4.35	3.17	20.58	20.20	0.94	19.91	22.69
Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	5.62	7.80	0.53	6.42	5.51	4.74	5.62	13.57
MnO	0.13	0.24			0.07		0.16	0.28
MgO	30.97	24.28	0.49	26.01	30.79	30.79	32.24	
CaO	0.12	0.16	0.13	1.00	0.51			0.28
Na <sub>2</sub> O		0.64						
K <sub>2</sub> O		0.15	0.50	0.21	0.06			
P <sub>2</sub> O <sub>5</sub>	1.07	2.06	0.96	2.64	2.43	0.24	1.37	1.18
Ni	0.36926	0.43416	0.07096	0.52737	0.30395	0.49123	0.34187	0.69487
Cr		0.13219	0.18906	0.11838	0.04432		0.61545	0.27421
SO <sub>3</sub>	0.07367	0.1287	0.10529	0.1494	0.0659			0.14005
Zn	0.02561			0.07043	0.02401			
Cl		0.11691						

注：合計を100%にノーマライズして示す

・「緑泥石岩」はすべて蛇紋岩に由来する緑泥石岩（蛇紋岩質緑泥石岩）

・タルク：滑石 ジャスパー：碧玉

## (3) 鉱物の化学分析

## (3)-1 分析方法

構成鉱物の化学分析は、走査型電子顕微鏡とそれに付設のエネルギー分散型X線分析装置によった。装置は北海道教育大学札幌校の電子顕微鏡 (JEOL JSM-T330A) に付設したLink社製QX200Jである。加速電圧は15kV、補正はZAF補正によった。試料は前処理として、炭素蒸着を行った。これは非導電性試料に炭素を真空蒸着することによって電子線照射による試料面の帯電を防ぐ効果がある。この炭素膜は測定後アセトンやアルコールにて容易に取り除くことができる。電子線は最小領域2~3ミクロンまで絞り込むことができ、試料中鉱物の微小領域の化学分析が可能である。電子線照射によって発生する元素特有の波長を示す固有X線を検出することによって元素の定性・定量分析を行うが、正確な定量分析を行うためには、試料表面を平滑にする必要がある。今回の分析試料の多くは穿孔されたリング状形態をもっているが、測定にあたっては、出来るだけ平滑な部分を選んで行った。合計重量が100%近くにならない場合が多いが、分析結果から推定される予想鉱物の理想化学式との対応は概ね良い (第3-1~第3-3表)。

## (3)-2 分析結果

鉱物分析が必要と考えられる3試料 (P439-No.28, P510-No.7, P432-No.23) について、各2~6点の分析を行った。結果を第3-1~第3-3表に示す。各表には肉眼鑑定と鉱物分析から考えられる岩石名と鉱物名を示した。

第3-1図には蛇紋岩 (緑泥石岩化: P510-No.7) の組成像を示す。緑泥石が多量に生成しているが、Alに乏しい蛇紋石が不均質に残存している。

また第3-2図にはヒスイ (ひすい輝石岩: P432-No.23) の組成像を示す。Naに富みCaに乏しいひすい輝石と、Naに乏しくCaに富むオンファス輝石が入り混じって成長している。

第3-1表 緑泥石岩の鉱物分析値				
P439-No.28 (蛇紋岩質) 緑泥石岩				
	1-1 (100)	1-1	1-2 (100)	1-2
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石
SiO <sub>2</sub>	37.99	25.14	39.33	26.57
TiO <sub>2</sub>	0.02	0.01	0.10	0.07
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	24.10	15.95	23.43	15.82
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>			0.17	0.12
FeO	4.97	3.29	4.82	3.26
MnO	0.10	0.06		
MgO	31.16	20.62	30.99	20.94
CaO	0.90	0.59	0.86	0.58
Na <sub>2</sub> O	0.73	0.48	0.45	0.30
K <sub>2</sub> O	0.07	0.05	0.02	0.01
total	100.03	66.20	100.17	67.66
Si	6.221	6.221	3.204	3.204
Ti	0.003	0.003	0.006	0.006
Al	4.651	4.651	2.249	2.249
Cr			0.011	0.011
Fe	0.681	0.681	0.329	0.329
Mn	0.014	0.014		
Mg	7.607	7.607	3.763	3.763
Ca	0.157	0.157	0.075	0.075
Na	0.231	0.231	0.071	0.071
K	0.016	0.016	0.002	0.002
O	14	14	14	14

1-1, 1-2ともに左側(100)は右側の分析値を100%にノーマライズした値。



第3-2表 蛇紋岩の鉱物分析値

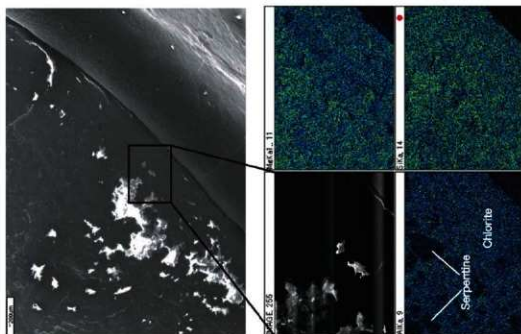
P510-No.7 蛇紋岩 (緑泥石岩化)							
鉱物名	2-1 スピネル	2-2 蛇紋石	2-3 緑泥石	2-4 蛇紋石	2-5 緑泥石	2-6 スピネル	2-7 スピネル
SiO <sub>2</sub>	0.81	48.95	44.72	49.75	43.29	0.37	0.64
TiO <sub>2</sub>	0.11	0.01	0.03		0.25		0.02
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	8.30	2.70	17.82	0.74	18.45	9.78	4.28
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	40.96	0.42		0.43	0.08	59.00	68.75
FeO	15.75	2.13	6.97	3.09	6.88	22.02	23.45
MnO	0.56	0.03	0.29		0.26	1.39	0.40
MgO	5.16	44.93	29.81	45.06	29.92	7.07	2.08
CaO		0.003	0.16	0.11	0.03		0.09
Na <sub>2</sub> O	0.38	0.83	0.61	1.05	0.54	0.44	0.29
K <sub>2</sub> O	0.03			0.08	0.20	0.02	
total	72.06	100.01	100.42	100.31	100.00	100.09	100.01
Si	0.298	3.967	3.644	4.053	3.544	0.099	0.179
Ti	0.032	0.001	0.002		0.015		0.005
Al	3.608	0.258	1.711	0.071	1.781	3.114	1.418
Cr	11.947	0.027		0.027	0.005	12.603	15.280
Fe	4.859	0.144	0.475	0.210	0.471	4.974	5.514
Mn	0.176	0.002	0.020		0.025	0.319	0.095
Mg	2.838	5.427	3.620	5.472	3.651	2.846	0.871
Ca		0.0003	0.014	0.009	0.002		0.028
Na	0.270	0.130	0.097	0.165	0.086	0.232	0.161
K	0.015			0.009	0.021	0.007	
O	32	14	14	14	14	32	32

分析値は100%にノーマライズ。

第3-3表 ヒスイの鉱物分析値

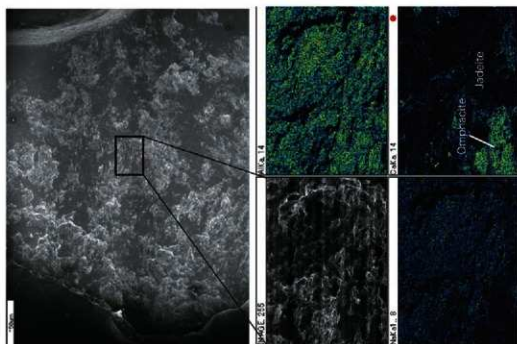
P432-No.23 ヒスイ						
鉱物名	7-1 ヒスイ輝石	7-2 オンファス輝石	7-3 ゾイサイト	7-4 ゾイサイト	7-5 ヒスイ輝石	7-6 ヒスイ輝石
SiO <sub>2</sub>	59.39	49.08	45.45	42.18	55.13	58.73
TiO <sub>2</sub>	0.19	1.70			0.11	
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	25.77	23.41	26.84	26.80	25.62	24.87
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>		0.17	0.02	0.01	0.03	0.16
FeO	0.01	1.78	0.10	1.06	0.69	0.38
MnO	0.13	0.11	0.27			
MgO	0.57	1.23	0.30	0.56	0.41	0.94
CaO	0.66	6.17	26.80	27.66	6.13	1.40
Na <sub>2</sub> O	13.34	9.82	0.10	0.91	10.97	13.58
K <sub>2</sub> O		6.53	0.12	1.01	1.01	0.07
total	100.06	100.00	100.01	100.19	100.08	100.13
Si	1.989	1.774	3.495	3.337	1.893	1.981
Ti	0.005	0.046			0.003	
Al	1.017	0.997	2.448	2.498	1.037	0.989
Cr		0.005	0.002	0.0004	0.001	0.004
Fe	0.0003	0.054	0.007	0.069	0.020	0.011
Mn	0.004	0.003	0.017			
Mg	0.028	0.066	0.035	0.067	0.021	0.047
Ca	0.024	0.239	2.221	2.342	0.226	0.050
Na	0.866	0.688	0.008	0.139	0.730	0.888
K		0.301	0.013	0.102	0.044	0.003
O	6	6	13	13	6	6

分析値は100%にノーマライズ。



第3-1図 P510-No.7 (緑泥石化蛇紋岩) の組成像。

大部分緑泥石 (Chlorite) 化が進んでいるが、不均質にAlに乏しい蛇紋石 (Serpentine) が残存している。



第3-2図 P432-No.23 (ヒスイ) の組成像。

Jadeite (みずい輝石) の部分はNaに富み、Caに乏しい。  
Omphacite (オンファース輝石) の部分はNaに乏しく、Caに富む。

#### (4) 考察

##### (4)-1 玉類の岩石種

##### 蛇紋岩に由来する岩石

###### 1) 緑泥石岩について

「緑泥石岩」としたものは、すべて蛇紋岩質緑泥石岩で、今回鑑定した資料の実に91% (683/750) を占める。すべて蛇紋岩起源であるが、一部蛇紋岩を不均質に残す資料があるものの、大部分が緑泥石の集合に交代された岩石である。主として自形、一部半自形のスピネル(尖晶石)を含むので、さらに前はダンかんらん岩質のかんらん岩であったと考えられる。まれに、輝石かんらん岩であったと考えられるものも含む。蛇紋石を残す資料(例えば、試料P510-No.7)は、岩石組織や色調からみて、おそらくアンチゴライトが主体である。したがって、この緑泥石岩はダンかんらん岩(一部輝石かんらん岩)→アンチゴライト質蛇紋岩→緑泥石岩という過程をたどって生成したものであると考えられる。

###### 2) タルク化蛇紋岩について

不均質な灰白色の斑点を伴う岩石で、やはり主として自形～半自形のスピネルを含む(例えば、試料P412-No.16)。一部に輝石であったと考えられる仮像を含む。蛇紋岩が不均質にタルク(滑石)化を受けた岩石である。タルク化蛇紋岩は750資料中24資料(3.2%)含まれている。

###### 3) タルクについて

灰白色または帯緑灰白色で、後者は透明感がある。前者はタルクの微細結晶集合体、後者は粗粒結晶集合体と考えられる。しばしば、自形のスピネルを含むことから、やはり蛇紋岩起源である(例えば、試料P480-No.4)。750資料中タルクは10資料(1.3%)含まれている。

###### 4) 蛇紋岩質赤色変質岩

蛇紋岩起源の赤褐色の変質岩が750資料中2資料あった(0.3%)。

##### ヒスイ(ひすい輝石岩)

灰白色および鮮やかな淡緑色～緑色、半透明の鉱物の集合体である。灰白色の鉱物はひすい輝石で、緑色の鉱物はオンファス輝石である(試料P432-No.23)。ヒスイは750資料中3(ないし4)資料(0.4～0.5%)である。

##### 緑色凝灰岩

帯緑灰色を呈し、不均質で複数種の粒状鉱物と基質からなる。今回は分析を行っていないが、弱い珪化作用を受けて、やや珪酸分(Si)が多くなっていそうなものや、沸石が生成しているものがありそうである。中新世のグリーンタフ地域に分布する岩石である。緑色凝灰岩は750資料中5資料(0.7%)である。

##### ジャスパー

淡緑色または帯褐灰色で微細結晶からなる、ち密均質の場合と、不均質な火砕岩様の組織を示すものがある。中～古生代の付加体に含まれる岩石のようには変形組織が発達していないので、第三紀以降などの非変形の細粒火砕岩(凝灰岩)が、熱水変質作用を受けて珪酸分に著しく富むようになったものであろう(試料P432-No.6はSiO<sub>2</sub>=94%)。ジャスパーは750資料中2(ないし3)資料(0.3～0.4%)である。

## コハク

コハク製の玉が1資料認められた (P519-No.48)。

## その他

その他、凝灰岩やロジン岩?製の玉が少量含まれる。

## (4)-2 玉類の由来

## 蛇紋岩に由来する岩石

北海道には神居古譚帯と呼ばれる日本最大の蛇紋岩体が分布する。しかし、緑泥石岩化が進んだ蛇紋岩体は知られていない (例えば、岡村ほか、2003)。蛇紋岩に伴うロジン岩の反応帯に幅数10cm以下で帯緑暗灰色の緑泥石帯が出現する (Katoh&Niida, 1983) が、玉に使用される緑泥石岩とは見かけがまったく異なる。すなわち今回、鑑定した蛇紋岩質緑泥石岩は、元の蛇紋岩の組織的特徴 (ち密なアンチゴライト質蛇紋岩) を残したまま、全体が緑泥石岩化している。また、蛇紋岩組織を残したままタルク化しているもの (斑点状のタルク化蛇紋岩) がある。これらの特徴は、蛇紋岩体が何らかの熱変成作用~Al交代作用を受けて形成された可能性を示している。すなわち、元の蛇紋岩に比べてAlが著しく付加されている。このような蛇紋岩は、古生代などの古い蛇紋岩の一部に存在する可能性がある。すなわち、シベリアなどの大陸地域や、日本では糸魚川地域を含む飛騨外緑帯 (青海-蓮華帯) の蛇紋岩などである。古い時代の蛇紋岩ほど、後の時代の火成岩の貫入による影響を受けている可能性が高いのである。

新潟県姫川地域 (青海-蓮華帯) の蛇紋岩の一部に緑泥石岩化した岩体がある (大村ほか、1983) ことに注目しておきたい。

## ヒスイ

今回分析した試料 (P432-No.23) には、ひすい輝石とオンファス輝石が共存する。糸魚川 (青海-蓮華帯) の「ひすい輝石」は近年の研究により、白色部がひすい輝石で、淡緑色部がオンファス輝石であることが判明した (フォッサマグナミュージアム、ホームページ)。したがって、本試料は糸魚川産のひすい輝石岩である可能性が高い。

## 緑色凝灰岩

緑色凝灰岩は、東北~北海道の主として日本海側に広く分布するので、今のところその分布範囲のどこかであるとはしか言えないが、他の玉類と一緒に運ばれるという可能性を考える場合、一つの束縛条件となり得る。

## ジャスパー

ジャスパーも緑色凝灰岩と源岩が類似し、緑色凝灰岩より細粒の火砕岩 (凝灰岩) が、より強く珪化作用を受けたものであると考えられる。色調は一般に淡緑色~褐色で、今回は認められていないが赤色のものが佐渡に産する (赤玉)。今回のような緑色のものは、佐渡の他、より広く各地に産する可能性があり、産地となり得る候補地のマップづくりとサンプリング・分析を行うことが今後必要であろう。

## コハク

コハクについては岩手県などに産地が知られているが、分析を行っておらず、ジャスパー同様、現在のところ、産地推定の積極的根拠がない。

## 1-3 西島松5遺跡出土の玉・石製品の岩石学的分析 (平成19年度)

アースサイエンス株式会社

### はじめに

本報告書は「石器及び玉類の岩石学的分析」についてのもです。蛍光X線 (XRF) 分析および電子線マイクロアナライザ (EPMA) 分析にあたっては、北海道教育大学札幌校の岡村聡教授ならびに菅原いよ氏の御指導・御協力をいただきました。記して感謝申し上げます。

西島松5遺跡分析試料一覧

番号	遺構 番号	グリッド	層位	点取 No.	遺物名	肉眼 鑑定	写真	EDS 分析	X線粉 未回折
1	P433	N-30	覆土	12	石棒	○	○		
2	P463	P-32	覆土	4	石棒	○	○		
3	P553	R-39	覆土	57	石棒	○	○		
4	P708	S-48	坑底	1	石棒	○	○		
5	P490	N-27	覆土		石棒片	○	○	○	○
8	P398	R-28	覆土	56	玉 (破片)	○		○	○
9	P511	R-27	覆土	230	玉 (破片)	○		○	○
10	P518	R-29	覆土	7	玉 (破片)	○	○	○	○
26	P511	R-27	覆土	231	玉 (未実測)	○	○	○	○
27	P486	M-32	覆土	76	玉 (未実測)	○	○	○	○
合 計						10	8	6	6

### (1) 肉眼鑑定

西島松5遺跡出土の石製品および玉について肉眼鑑定を行った。資料の写真を図1-1に、鑑定結果を表1-1に示す。なお、肉眼鑑定にあたっては実体鏡とルーペを併用した。



図1-1 資料の写真(2): 泥質ホルンフェルス



図1-1 資料の写真(1): 綠色凝灰岩



図1-1 資料の写真(3)：緑色凝灰岩



図1-1 資料の写真(4)：石英片岩



図1-1 資料の写真(3)：緑色凝灰岩

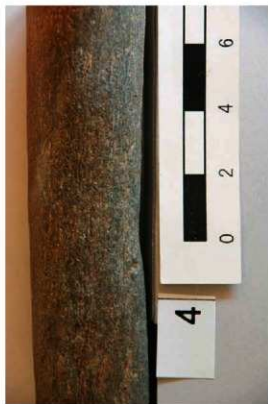


図1-1 資料の写真(4)：石英片岩



図1-1 資料の写真(6): 緑泥石岩  
西5-8 P.398, R-28, 56



図1-1 資料の写真(5): 藍閃石片岩  
西5-5 P.490, N-27



図1-1 資料の写真(8): 緑泥石岩  
P.511, R-27, 231



図1-1 資料の写真(7): 緑泥石岩  
P.518, R-29, 230



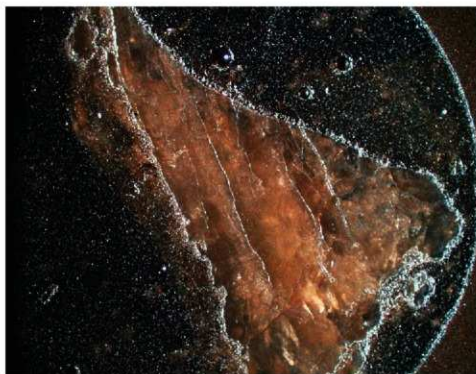


図1-1 資料の写真(9): 緑泥石岩  
P486, M-32, 76

表1-1 西島松5遺跡出土の石製品および玉の内眼鑑定結果

番号	遺構 番号	グリッド	層位	点取 No.	遺物名	岩石名	備 考
1	P433	N-30	覆土	12	石棒	緑色凝灰岩	軽石凝灰岩が淡緑色に変質，弱い珪化作用を受けて硬質になっている。緑色は緑泥石などが生成しているためである。
2	P463	P-32	覆土	4	石棒	泥質ホルンフェルス	黒色の泥質岩がホルンフェルス化を受けた岩石，微細な石英や黒雲母を多量に生じる。点紋状に鉱物が散在し，重晶石が生成していると考えられる。
3	P553	R-39	覆土	57	石棒	緑色凝灰岩	軽石を含む粗粒な凝灰岩～火山礫凝灰岩が珪化作用を受けて硬質になっている。緑色は緑泥石などが生成しているためである。
4	P708	S-48	坑底	1	石棒	石英片岩	泥質部薄層と石英集合部が細かく互層する片岩，黒色片岩と石英片岩の中間的な片岩。
5	P490	N-27	覆土		石棒片	藍閃石片岩	青緑色を呈する片岩。
8	P398	R-28	覆土	56	玉(破片)	緑泥石岩	スピネルを含むので蛇紋岩起源と考えられる。
9	P511	R-27	覆土	230	玉(破片)	緑泥石岩	スピネルを含むので蛇紋岩起源と考えられる。
10	P518	R-29	覆土	7	玉(破片)	緑泥石岩	スピネルを含むので蛇紋岩起源と考えられる。
26	P511	R-27	覆土	231	玉(未実測)	緑泥石岩	スピネルを含むので蛇紋岩起源と考えられる。
27	P486	M-32	覆土	76	玉(未実測)	緑泥石岩	スピネルを含むので蛇紋岩起源と考えられる。

## (2) 鉱物分析

## (2)-1 分析方法

構成鉱物の化学分析は、走査型電子顕微鏡とそれに付設のエネルギー分散型X線分析装置試料は(EDS)によった。装置は北海道教育大学札幌校の電子顕微鏡(JEOL JSM-T330A)に付設したOxford社製Link ISIS300である。加速電圧は15kV、補正はZAF補正によった。試料は前処理として、炭素蒸着を行った。これは非導電性試料に炭素を真空蒸着することによって電子線放射による試料面の帯電を防ぐ効果がある。この炭素膜は測定後アセトンやアルコールにて容易に取り除くことができる。電子線は最小領域2~3ミクロンまで絞り込むことができ、試料中鉱物の微小領域の化学分析が可能である。電子線放射によって発生する元素特有の波長を示す固有X線を検出することによって元素の定性・定量分析を行うが、正確な定量分析を行うためには、試料表面を平滑にする必要がある。今回の分析試料は穿孔されたリングの形状をもっているが、測定にあたっては、出来るだけ平滑な部分を選んで非破壊分析を行った。合計重量が100%近くにならない場合が多いが、分析結果から推定される予想鉱物の理想化学式との対応は概ね良い。

## (2)-2 分析結果

EDSによる鉱物の分析結果を表2-1に示す。

表2-1(1) 鉱物の分析値 [西5-5 P490, N-27]

	1	2	3	4	5
SiO <sub>2</sub>	54.12	50.18	46.86	41.57	40.66
TiO <sub>2</sub>	0.35	5.24	0.79	0.00	0.10
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	24.08	6.89	10.61	38.03	27.18
FeO	9.26	16.04	25.92	2.05	7.34
MnO	0.62	0.86	0.35	0.17	0.47
MgO	0.89	6.76	4.30	0.00	2.53
CaO	1.47	11.88	8.05	17.85	21.33
Na <sub>2</sub> O	7.80	1.37	2.60	0.00	0.00
K <sub>2</sub> O	0.73	0.43	0.20	0.25	0.00
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.28	0.44	0.22	0.36	0.27
NiO	0.39	0.00	0.10	0.16	0.21
原子比	O=24	24	24	10	14
Si	7.588	7.551	7.318	2.416	3.49
Ti	0.037	0.593	0.093	0.000	0.01
Al	3.979	1.222	1.953	2.605	2.75
Fe	1.085	2.018	3.385	0.100	0.53
Mn	0.074	0.110	0.047	0.009	0.03
Mg	0.186	1.516	1.000	0.000	0.32
Ca	0.221	1.915	1.347	1.111	1.96
Na	2.121	0.399	0.787	0.000	0.00
K	0.130	0.082	0.039	0.018	0.00
Cr	0.032	0.053	0.028	0.016	0.02
Ni	0.044	0.000	0.013	0.008	0.01
Total	15.496	15.460	16.011	6.283	9.122
鉱物名	藍閃石	鉄アクリノ 閃石	鉄アクリノ 閃石	ローソン石	パンベ リー石

表2-1(2) 鉱物の分析値 [西5-8 P398, 56]

	1	2	3	4	5
SiO <sub>2</sub>	39.99	39.63	39.95	39.23	39.73
TiO <sub>2</sub>	0.00	0.03	0.02	0.04	0.02
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	19.53	19.10	18.90	19.81	19.11
FeO	3.53	3.72	3.40	3.60	3.27
MnO	0.16	0.47	0.32	0.15	0.14
MgO	36.37	36.22	36.75	36.50	36.79
CaO	0.00	0.07	0.09	0.08	0.04
Na <sub>2</sub> O	0.00	0.37	0.20	0.34	0.11
K <sub>2</sub> O	0.00	0.02	0.00	0.00	0.11
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.00	0.00	0.00	0.04	0.08
NiO	0.59	0.55	0.42	0.25	0.61
原子比	O=28	28	28	28	28
Si	6.500	6.472	6.508	6.396	6.48
Ti	0.000	0.004	0.003	0.005	0.00
Al	3.741	3.676	3.630	3.807	3.67
Fe	0.480	0.509	0.463	0.491	0.45
Mn	0.022	0.065	0.044	0.021	0.02
Mg	8.811	8.815	8.925	8.871	8.94
Ca	0.000	0.012	0.016	0.014	0.01
Na	0.000	0.116	0.063	0.107	0.03
K	0.000	0.005	0.000	0.000	0.02
Cr	0.000	0.000	0.000	0.005	0.01
Ni	0.077	0.072	0.054	0.033	0.08
Total	19.630	19.746	19.706	19.748	19.709
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石

表 2-1(3) 鉱物の分析値 (西 5-9 P511, 230)

	1	2	3	4	5
SiO <sub>2</sub>	41.11	41.62	40.71	41.16	40.56
TiO <sub>2</sub>	0.04	0.03	0.00	0.00	0.06
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	18.10	17.46	18.88	17.85	18.61
FeO	4.23	4.60	3.98	3.74	4.34
MnO	0.00	0.00	0.32	0.00	0.00
MgO	35.56	35.11	35.05	36.74	35.11
CaO	0.49	0.50	0.36	0.34	0.38
Na <sub>2</sub> O	0.23	0.25	0.23	0.28	0.24
K <sub>2</sub> O	0.00	0.15	0.06	0.00	0.12
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.00	0.05	0.00	0.00	0.00
NiO	0.47	0.24	0.45	0.18	0.62
原子比	0 = 28	28	28	28	28
Si	6.694	6.797	6.641	6.680	6.663
Ti	0.005	0.004	0.000	0.000	0.01
Al	3.473	3.360	3.629	3.415	3.59
Fe	0.577	0.628	0.544	0.508	0.59
Mn	0.000	0.000	0.044	0.000	0.00
Mg	8.632	8.545	8.523	8.886	8.55
Ca	0.086	0.088	0.063	0.059	0.07
Na	0.074	0.082	0.073	0.087	0.08
K	0.000	0.031	0.012	0.000	0.02
Cr	0.000	0.006	0.000	0.000	0.00
Ni	0.062	0.031	0.059	0.023	0.08
Total	19.602	19.572	19.587	19.656	19.620
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石

表 2-1(5) 鉱物の分析値 (西 5-26 P511, 231)

	1	2	3	4	5
SiO <sub>2</sub>	40.80	40.88	41.31	43.00	39.78
TiO <sub>2</sub>	0.00	0.00	0.10	0.23	0.00
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	18.85	15.63	15.76	15.40	19.49
FeO	3.78	10.23	10.28	9.86	2.97
MnO	0.16	0.17	0.00	0.00	0.00
MgO	36.28	31.80	31.70	31.01	37.14
CaO	0.19	0.60	0.52	0.59	0.21
Na <sub>2</sub> O	0.07	0.53	0.04	0.00	0.26
K <sub>2</sub> O	0.00	0.00	0.10	0.04	0.03
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.00	0.00	0.10	0.00	0.13
NiO	0.00	0.19	0.12	0.00	0.21
原子比	0 = 28	28	28	28	28
Si	6.620	6.862	6.912	7.137	6.45
Ti	0.000	0.000	0.013	0.029	0.00
Al	3.606	3.093	3.108	3.012	3.72
Fe	0.512	1.436	1.439	1.369	0.40
Mn	0.022	0.024	0.000	0.000	0.00
Mg	8.774	7.957	7.905	7.672	8.98
Ca	0.033	0.107	0.093	0.105	0.04
Na	0.021	0.172	0.013	0.000	0.08
K	0.000	0.000	0.022	0.008	0.01
Cr	0.000	0.000	0.013	0.000	0.02
Ni	0.000	0.026	0.016	0.000	0.03
Total	19.588	19.677	19.533	19.332	19.724
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石

表 2-1(4) 鉱物の分析値 (西 5-10 P518, 7)

	1	2	3	4	5
SiO <sub>2</sub>	39.66	39.71	40.40	40.25	40.80
TiO <sub>2</sub>	0.09	0.00	0.18	0.00	0.07
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	17.87	18.02	18.66	18.89	18.67
FeO	12.03	6.78	5.94	5.44	5.68
MnO	0.04	0.22	0.09	0.05	0.05
MgO	29.71	34.76	33.92	34.44	34.85
CaO	0.13	0.18	0.19	0.04	0.38
Na <sub>2</sub> O	0.00	0.23	0.34	0.17	0.00
K <sub>2</sub> O	0.13	0.17	0.09	0.09	0.00
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.00	0.05	0.00	0.08	0.00
NiO	0.51	0.01	0.34	0.58	0.00
原子比	0 = 28	28	28	28	28
Si	6.688	6.559	6.634	6.604	6.66
Ti	0.011	0.000	0.023	0.000	0.01
Al	3.551	3.507	3.611	3.652	3.59
Fe	1.696	0.937	0.816	0.747	0.78
Mn	0.005	0.030	0.012	0.007	0.01
Mg	7.466	8.557	8.302	8.423	8.48
Ca	0.023	0.032	0.033	0.008	0.02
Na	0.000	0.074	0.107	0.055	0.00
K	0.028	0.036	0.019	0.019	0.00
Cr	0.000	0.007	0.000	0.011	0.00
Ni	0.069	0.001	0.045	0.076	0.00
Total	19.539	19.740	19.600	19.601	19.538
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石

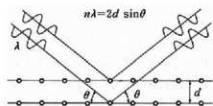
表 2-1(6) 鉱物の分析値 (西 5-27 P486, 76)

	1	2	3	4	5
SiO <sub>2</sub>	42.32	45.27	41.23	39.61	41.86
TiO <sub>2</sub>	0.00	0.00	0.00	0.19	0.07
Al <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	15.40	10.45	17.28	18.57	15.81
FeO	3.71	3.29	5.27	3.93	4.21
MnO	0.00	0.11	0.13	0.00	0.23
MgO	38.38	39.93	34.90	37.13	37.12
CaO	0.00	0.05	0.42	0.19	0.03
Na <sub>2</sub> O	0.35	0.48	0.64	0.21	0.26
K <sub>2</sub> O	0.00	0.05	0.09	0.00	0.01
Cr <sub>2</sub> O <sub>3</sub>	0.00	0.00	0.00	0.05	0.00
NiO	0.17	0.57	0.14	0.17	0.49
原子比	0 = 28	28	28	28	28
Si	6.683	7.353	6.760	6.465	6.84
Ti	0.000	0.000	0.000	0.023	0.01
Al	2.943	2.001	3.339	3.571	3.04
Fe	0.503	0.447	0.722	0.536	0.57
Mn	0.000	0.014	0.018	0.000	0.03
Mg	9.278	9.666	8.529	9.032	9.03
Ca	0.000	0.009	0.074	0.033	0.00
Na	0.109	0.152	0.204	0.067	0.08
K	0.000	0.010	0.018	0.000	0.00
Cr	0.000	0.000	0.000	0.007	0.00
Ni	0.022	0.074	0.019	0.022	0.06
Total	19.719	19.727	19.682	19.757	19.677
鉱物名	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石	緑泥石

### (3) X線粉末回折

#### (3)-1 X線粉末回折の方法

X線回折は、鉱物の結晶構造や結晶状態に関する情報を得るための分析方法である。結晶物質に特性X線を照射すると、X線が結晶格子面で反射しお互いに干渉しあい、ブラッグの条件を満たす方向に強い回折線を示す。



ブラッグの条件  $2d\sin\theta = n\lambda$

$\theta$ : ブラッグ角

$d$ : 結晶粒子の面間隔

$\lambda$ : X線の波長

$n$ : 反射の次数 (整数)

この式により格子面間隔が求められる。面間隔は結晶物質の固有の値で回折X線の角度 ( $2\theta$ ) と強度を求めることにより、結晶物質の同定ができる。

X線回折にはいくつかの方法があり、鉱物の判定・定量などには粉末回折法が有効な分析方法であり、通常適用されている。分析装置はX線ディフラクトメーターが使われる。次にX線粉末回折装置で分析するときの、試料調整法、測定法、試料の特徴などを述べる。

鉱物の同定

X線粉末回折による鉱物の同定は、鉱物がそれぞれ特有の回折線を与えるので、回折線の位置と強度を、標準鉱物の回折データと比較して判定する。標準鉱物のデータベースとしてJCPDS (Joint Committee on Powder Diffraction Standards) のPDF (Powder Data File) 粉末データファイルがあり、これを比較・対照して同定を行う。この場合、以下に述べる不定方位の回折データと比較するが、それだけでは鉱物が決定できない場合があり定方位と各処理が行われる。

不定方位法

不定方位法は、最も一般的な粉末法である。粉末試料に混在する鉱物の判定や各回折線の正確な強度の測定をするとき、広い範囲の回折角度について回折パターンを得るときなどに使われる。

試料の一部を風乾させ、鉄乳鉢で粗砕する。さらにめのう乳鉢を用いて、指先で粒子を感じない ( $10\mu\text{m}$ 以下) 程度まで粉砕する。粉末にした試料をアルミニウム製試料ホルダーに圧入し測定に供する。

含有量の推定

回折X線の強度は、結晶物質の含有量・鉱物の種類 (化学組成、結晶構造)・結晶度・粉末粒子の形状・大きさ・方位・測定条件・混合物全体のX線吸収係数などによって決定される。これら主要な要素のみについてみても鉱物の種類によって異なり、また同族の鉱物であっても異変があり、同じ結晶面の回折強度が一定の強度を示すとは限らない。従ってX線回折より得られる結果は、あくまでも定性的なものであり、量的な評価はある程度相対的なものである。

測定条件

分析は、島津製作所製XRD6000型X線回折装置を使用した。測定条件は、X線管球Cu対陰極、カウンタモノクロメータ、管電圧30kV・管電流20mA、スリット系： $1^\circ - 0.3\text{mm} - 1^\circ$ 、走査速度  $2^\circ/\text{min}$ 、プリセットタイム1.5sec、走査範囲不定方位  $2 \sim 65^\circ$  定方位  $2 \sim 20^\circ$  で行った。

### (3)-2 X線粉末回折の結果

X線粉末回折の結果を表3-1に示す。また、以下のページに回折チャートを示す。

表3-1 X線粉末回折結果一覧表

番号	サンプルNo.			Qz	Pl	Glc	Pmp	Chl
	道構名	道構番号	点取No.					
5	西島松5	P490	石棒片	○	△	○	△	+
8	西島松5	P398	56					○
9	西島松5	P511	230					△
10	西島松5	P518	7					○
26	西島松5	P511	231					△
27	西島松5	P486	76					○

○：極多量 ○：多量 △：中量 +：少量 -：微量 ?：不確定  
Qz：石英 Pl：斜長石 Glc：藍閃石 Pmp：パンベリー石 Chl：緑泥石

### (4) 考察

肉眼鑑定を行った資料は10点でこのうち、6点についてEDS分析とX線粉末回折を行った。10のうち5点が石棒、5点が玉（破片）である。

石棒 石棒は珪化作用を受けて硬質となった緑色凝灰岩が2点、泥質ホルンフェルス、石英変岩、藍閃石片岩が各1点である。緑色凝灰岩は変形作用を受けていないので、付加体地域に由来するものではない。北海道～本州の主として日本海側に分布するグリーンタフ地域の中で、熱水活動による珪化変質を受けた地域で形成された可能性が高い。泥質ホルンフェルスは、変形した泥岩すなわち付加体を構成する泥岩がホルンフェルス化を受けているようである。石英、黒雲母のほか重晶石様鉱物も生成している。このようなホルンフェルスは北海道では日高変成帯や渡島半島の花崗岩質岩体の周辺に見られるが、産地の試料のサンプリングを含めて今後の検討が必要である。藍閃石片岩は付加体構成物が高压の変成作用を受けてきた岩石で、石英片岩もこの仲間である。北海道では、神居古潭峡各～幌加内などに分布する。分析した藍閃石片岩にはX線粉末回折から石英、斜長石、藍閃石、パンベリー石、緑泥石が含まれていることがわかった。鉱物分析からはこの他ローソン石や鉄アクチノ閃石も含まれている可能性がある。

玉 玉は5試料のいずれも緑泥石岩であった。スピネル（クロムスピネル）を含むので、原岩は蛇紋岩で、さらにその元はかんらん岩、とくらダンかんらん岩であった。北海道には神居古潭帯などに蛇紋岩が広く分布している。しかし、緑色片岩化が岩体に広く及んでいる場所は今のところ発見されていない。神居古潭帯では蛇紋岩に伴うロジン岩の反応帯として幅数10cm以下の規模で帯緑暗灰色の緑泥石帯が出現する（Katoh and Niida, 1983）。しかし、これは玉に使用される緑泥石岩とは見かけが異なり、極めて局所的にしか分布しないので、これらの原産地とは考えにくい。

このような大規模にAlが付加されるような蛇紋岩体は、地質時代に熱水変質作用を受けている古生代などの古い岩体、例えば日本では糸魚川地域を含む飛騨外縁帯（青海～蓮華帯）やシベリアなどの大陸地域（岡村ほか、2003）が上げられる。新潟県姫川地域の蛇紋岩帯には大規模に緑泥石岩化した部分が報告されており（大村ほか、1983）、今後、これらとの比較検討が必要である。

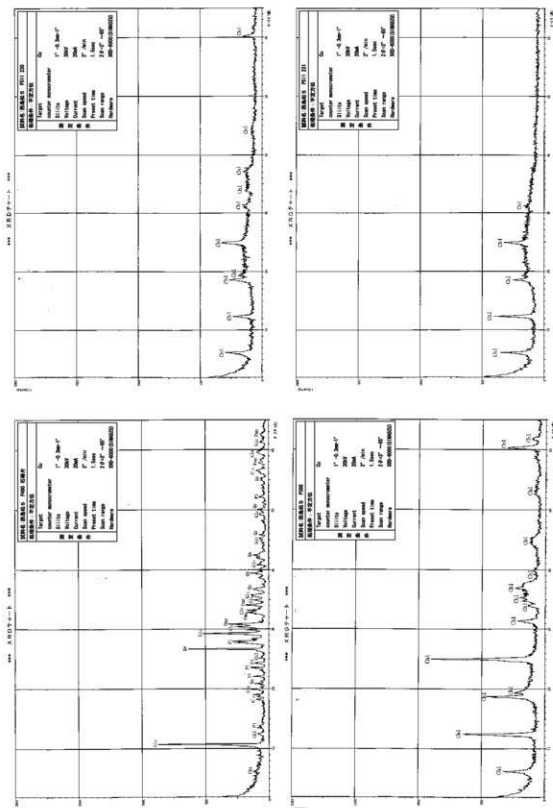


図 3-1(1) XRDチャート

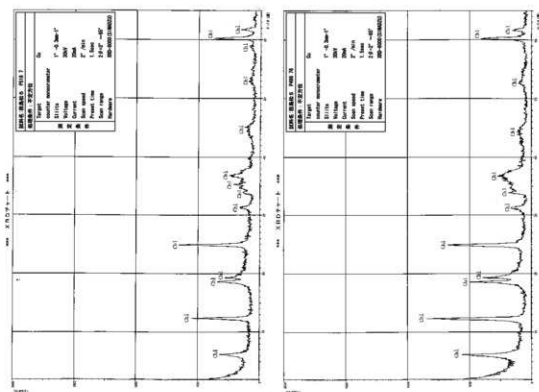


図 3-1(2) XRDチャート

引用文献 (1-2・1-3)

フォッサマグナムミュージアム・ホームページ

Katoh, T. and Niida, K. (1983): Rodingites from the Kamuikotan tectonic belt, Hokkaido. *Jour. Fac. Sci., Hokkaido Univ., Ser. IV*, 20, 151-169.

岡村 聡・加藤孝幸・寺崎康史 (2003): 今金町美利河 1 遺跡から出土した玉類の石質と起源. *北海道考古学*, 第39輯, 77-82.

大村一夫・山地英喜・岩槻 修・吉田亘弘・山戸武史 (1983): 新潟県姫川地域の蛇紋岩-岩盤評価の前に. *応用地質*, 24, 9-24.

## 2 西島松5遺跡出土ヒスイ製玉類の産地分析

(有) 遺物材料研究所

### はじめに

玉類の観察は、一般的に肉眼観察で岩石の種類を決定し、それが真実のよう思われているのが実態である。岩石製では玉類の原材料として硬玉、滑石、軟玉（角閃石）、蛇紋岩、結晶片岩、碧玉などが推測される。それぞれの岩石の命名定義に従って岩石名を決定するが、非破壊で命名定義を求めるには限度があり、若干の傷を覚悟して硬度、光沢感、比重、結晶性、主成分組成を求めるなどで、非破壊で命名の主定義の結晶構造、屈折率などを正確には求められない。原石名が決定されたのみでは考古学の資料としては不完全で、どこの産地の原石が使用されているかの産地分析が行われて初めて、考古学に寄与できる資料となる。遺跡から出土する勾玉、管玉など玉類の産地分析というのは、玉類の製品が何処の玉造遺跡で加工されたということを調査するのではなく、何ヶ所かあるヒスイ（硬玉、軟玉）とか碧玉の原産地うち、どこの原産地の原石を使用しているかを明らかにするのが、玉類の原産地推定である。玉類の原石の産地を明らかにすることは考古学上重要な意味をもっている。糸魚川市でヒスイが発見されるまでは、中国、雲南、ビルマ説、発見後は、専ら国内説で、岩石学的方法<sup>1)</sup>および貴重な考古遺物を非破壊で産地分析を行った蛍光X線分析で行う元素比法<sup>2), 3), 4)</sup>が報告されている。また、碧玉製管玉の産地分析で系統的に行った研究は蛍光X線分析法と電子スピンの共鳴法を併用し産地分析より正確に行った例<sup>5)</sup>が報告されている。石鏃など石器と玉類の製品はそれぞれ使用目的が異なるため、それぞれの産地分析で得られた結果の意味も異なる。(1)石器の原産地推定で明らかになる、遺跡から石材原産地までの移動、活動範囲は、石器は生活必需品であるため、生活上必要な生活圏と考えられる。(2)玉類は古代人が生きるために必ずしもいるものではない。勾玉、管玉は権力の象徴、お祭、御守り、占いの道具、アクセサリとして、精神的な面に重要な作用を与えられと考えられる。従って、玉類の産地分析で、明らかになるヒスイ製玉類の原石の分布範囲は、権力の象徴としての玉類であれば、権力圏を現わしているかもしれない、お祭、御守り、占いの道具であれば、同じような習慣を持つ文化圏が考えられる。石器の原産地分析で得られない貴重な資料を考古学の分野に提供することができる。今回分析を行った遺物は北海道恵庭市西島松5遺跡806号土坑より出土の縄文時代後期～晩期のヒスイ製勾玉と垂珠の2個について産地分析結果が得られたので報告する。

### 非破壊での産地分析の方法と手段

原産地推定の第一歩は、原産地間を区別する人間で言えば指紋のような、その原産地だけにしかないという指標を見つければならない。その区別するための指紋は鉱物組成の組み合わせ、比重の違い、原石に含有されている元素組成の違いなどにより、原産地同士を区別できなければ産地分析はできない。成功するかどうかは、とにかく行ってみなければわからない。原産地同士が指紋でもって区別できたならば、次に遺跡から出土する遺物の指紋と原産地の指紋を比較して、一致しない原産地を消去して一致する原産地の原石が使用されていると判定する。ヒスイ、碧玉製勾玉、大珠、玉などは、国宝、重要文化財級のものが多くて、非破壊で産地分析が行える方法でなければ発展しない。石器の原産地分析で成功している<sup>4)</sup>非破壊で分析を行う蛍光X線法を用いて玉類に含有されている元素を分析する。

遺跡から出土した大珠、勾玉、管玉などを水洗いして、試料ホルダーに置くだけの、完全な非破壊で産地分析を行った。ヒスイ製玉類は蛍光X線分析法で元素の種類と含有量を求め、試料の形や大き



さの違いの影響を打ち消すために分析された元素同士で含有量の比をり、この元素比の値を原産地を区別する指標とした。碧玉製玉類はESR法を併用するが試料を全く破壊することなく、碧玉に含有されている常磁性種を分析し、その信号から碧玉産地間を区別する指標を見つけて、産地分析に利用した<sup>3)</sup>。

### ヒスイの原産地

分析したヒスイ原石は、日本国内産では<sup>1)</sup>新潟県糸魚川市と、それに隣接する同県西頸城郡青海町から産出する糸魚川産、<sup>2)</sup>軟玉ヒスイと言われる北海道沙流郡日高町千栄の日高産<sup>6)</sup>、<sup>3)</sup>鳥取県八頭郡若桜町角谷の若桜産、<sup>4)</sup>岡山県阿哲郡大佐町の大佐産、<sup>5)</sup>長崎県長崎市三重町の長崎産であり、さらに<sup>6)</sup>西黒田ヒスイと呼ばれている静岡県引佐郡引佐町の引佐産の原石、<sup>7)</sup>兵庫県養父郡大屋町からの原石、<sup>8)</sup>北海道旭川市神居町の神居コタン産、<sup>9)</sup>岐阜県大野郡丹生川村の飛騨産原石、また、肉眼的にヒスイに類似した原石で玉類等の原材になったのではないかと考えられる<sup>10)</sup>長崎県西彼杵郡大瀬戸町雪浦からの原石である。国内産のヒスイ原産地は、これでは調査し尽くされていると思われる。これら原石の原産地を図1に示す。これに加えて外国産として、ミャンマー産の硬玉と台湾産軟玉および韓国、春川産軟玉などのヒスイの分析も行われている。

### ヒスイ試料の蛍光X線分析

ヒスイの主成分元素はナトリウム (Na)、アルミニウム (Al)、珪素 (Si) などの軽元素<sup>1)</sup>で、次いで比較的含有量の多いカルシウム (Ca)、鉄 (Fe)、ストロンチウム (Sr) である。また、ヒスイに微量含有されている、カリウム (K)、チタン (Ti)、クロム (Cr)、マンガン (Mn)、ルビジウム (Rb)、イットリウム (Y)、ジルコニウム (Zr)、ニオブ (Nb)、バリウム (Ba)、ランタン (La)、セリウム (Ce) の各元素を分析した。主成分の珪素など軽元素の分析を行わないときには、励起線源のX線が試料によって散乱されたピークを観測し、そのピークの大きさが主に試料の分析面積に比例することに注目し、そのピークを含有元素と同じく産地分析の指標として利用できる。Na元素はヒスイ岩を構成するヒスイ輝石に含有される重要な元素で、出土した遺物が硬玉か否かを判定するには直接ヒスイ輝石を観測すればよい、しかし、ヒスイ輝石を非破壊で検出する方法が確立されるまでは、蛍光X線分析でNa元素を分析し間接的にヒスイ輝石の存在を推測する方法にたよる他ないのではなかろうか。各原産地の原石のなかで、確実にNa元素の含有が確認されるヒスイ産地は糸魚川、大屋、若桜、大佐、神居コタン、長崎の各原産地の原石でこれらは硬玉に属すると思われる。Na元素の含有量が分析誤差範囲の産地は日高、引佐、飛騨の各産地の原石である。糸魚川産原石のうち緑色系の硬玉に、肉眼的に最も似た原石を産出する産地は、他の硬玉産地よりも後述した日高、飛騨、引佐の原石に見られる。各原産地の原石の他の特徴を以下に記述する。若桜産のヒスイ原石はSrのピークがFeのピークに比べて相当大きく、またZrの隣に非常に小さなNbのピークが見られ、Baのピークも大きく、糸魚川産では見られないLa、Ceのピークが観測されている。このCeのピークは大佐産と長崎産ヒスイ原石のスペクトルにも見られ、これらCeを含有する原石の産地は、糸魚川の産地と区別するときには有効な判定基準になる。長崎産ヒスイは、Tiの含有量が多く、Yのピークが見られるのが特徴的である。日高産、引佐産、飛騨産ヒスイ原石は、Caピークに比べてTiとかK、またFeピークに比べてSrなどのピークが小さいのが特徴で糸魚川産のものと区別するときの判断基準になる。春川軟玉原石は、優白色の工芸加工性に優れた原石で、軟玉であるが、古代では勾玉などの原材料となった可能性も考えられることから分析を行った。この原石には、Sr、Zrのピークが全く見られないため、糸魚川産などのSr、Zrを含有する原石と容易に区別できる。また、長崎県雪浦のヒスイ類似岩をヒスイの代替品として勾玉、大珠などの原材料に使用している可能性が考えられ、分析を行った。こ

の岩石は比重が2.91と小さく、比重でもって他の産地のものと区別できる。また砒素 (As) のピークが見られる個体が多いのも特徴である。これら各原産地の原石は同じ産地の原石であっても、原石ごとに元素の含有量には異同がある。したがって、一つの原産地について多数の原石を分析し、各元素の含有量の変動の範囲を求めて、その産地の原石の特徴としなければならない。糸魚川産のヒスイは、白色系が多いが、緑色系の半透明の良質のもの、青色系、コバルト系、およびこれらの色が白地に縞となって入っているものなど様々である。分析した糸魚川産原石の比重を調べると、硬玉の3.2~3.4の範囲のもの、3.2に達しない軟玉に分類される原石もある。若桜産、大佐産の分析した原石には、半透明の緑色のものはないが、全体が淡青緑かかった乳白色のような原石、また大屋産は乳白色が多い。このうち大佐産、大屋産の原石では比重が3.20に達したものはなく、これらの原石は比重からは軟玉に分類される。しかし、ヒスイ輝石の含有量が少ない硬玉とも考えられる。長崎産のヒスイ原石は3個しか分析できなかったが良質である。このうち1個は濃い緑色で、他の2個は淡い緑色で、少しガラス質である。日高産ヒスイの原石は肉眼観察では比較的糸魚川産のヒスイに似ている。ミャンマー産のヒスイ原石は、質、種類とも糸魚川産のヒスイ原石と同じものが見られ肉眼で両産地の原石を区別することは不可能と考えられる。分析した台湾産のヒスイは軟玉に属するもので、暗緑色のガラス質な原石である。これら各原産地の原石の分析結果から各産地を区別する判断基準を引き出し産地分析の指標とする。

#### ヒスイ原産地の判別基準

原石産地の判定を行うときの判断基準を原石の分析データから引き出すが、分析個数が少ないため、必ずしもその原産地の特徴を十分に反映しと言えない産地もある。表1に各原産地ごとの原石の比重と元素比量をまとめた。元素比量の数値は、その原産地の分析した原石の中での最小値と最大値の範囲を示し、判定基準(1)とした。ヒスイで比重が3.19未満の軽い原石は、硬玉ヒスイではない可能性があるが、糸魚川産の原石で比重が3.19未満のものも分析を行った。大佐産のヒスイは比重が3.17未満であった。したがって、遺物の比重が3.3以上を示す場合は判定基準(1)により大佐産のヒスイでないと言える。日高産、引佐産の両ヒスイではSr/Feの比の値が小さくて、糸魚川産と区別する判定基準(1)になる。表2の判定基準(2)にはCr、Mn、Rb、Y、Nb、Ba、La、Ceの各元素の蛍光X線ピークが観測できた個体数を%で示した表である。例えば遺物を分析してBaのピークが観測されなかったとき、その遺物は、若桜、大佐、長崎産のヒスイでないといえる。図2はヒスイ原石のSr/Feの比の値とSr/Zrの比の値を各原産地ごとにまとめて分布範囲を示したものである。●は糸魚川産のヒスイで、分布の範囲を実線で囲み、この枠内に遺物の測定点が入れば糸魚川産の原石である可能性が高いと判断する。□はミャンマー産のヒスイの分布で、その範囲を短い破線で囲む。糸魚川の実線の範囲とミャンマーの破線の範囲の大部分は重なり両者は区別できないが、ミャンマーと糸魚川が区別される部分がSr/Feの値(横軸)2.5以上の範囲で見られる。この範囲の中に、遺物の測定点が入ればミャンマー産と考えるより、糸魚川産である可能性の方が高いと考えられる。▲は大佐産の、△は若桜産の、▽は大屋産のヒスイの分布を示している。糸魚川と大佐、若桜、大屋のヒスイが重なる部分に遺物の測定点が入った場合、これら複数の原産地を考えなければならない。しかし、この遺物にBaの蛍光X線スペクトルのピークが見られなかった場合、表2-2の判定基準(2)に従えば糸魚川産または大屋産のヒスイであると判定でき、その遺物の比重が3.2以上あれば大屋産でなくて、糸魚川産と推定される。■は長崎産ヒスイの分布で、独立した分布の範囲を持っていて他の産地のヒスイと容易に区別できる。台湾産の軟玉はグラフの左下に外れる。★印の日高産および\*印の引佐産ヒスイの分布の一部が、糸魚川産と重なり区別されない範囲がみられる。しかし、Ca/Si比とSr/

Fe比を指標とすることにより(図3)、糸魚川産ヒスイは日高産および引佐産の両ヒスイと区別することができる。Na/Si比とMg/Si比を各原産地の原石について分布を示すことにより(図4)、遺物がどこの原産地の分布内に帰属するかにより、硬玉か軟玉かの判別の手段の一つになると考えられる。

#### 西島松5遺跡出土のヒスイ製遺物の分析結果

分析したヒスイ製垂珠、勾玉は比重が約3.3(アルキメデス法)以上を示し硬玉の可能性を示している。これらヒスイ製遺物には硬玉の主成分の一つのNa元素が観測されることから、この玉類を硬玉製と判定した。また、分析できた含有元素の結果を表3に示した。この硬玉製玉の原産地をあらかじめするために、これら分析値を各原産地の原石の元素比量の分布範囲と比較し産地判定の図とした。分析番号98527(垂珠)、98528(勾玉)は糸魚川産の範囲に入り、糸魚川産のヒスイの可能性を示した(図5)。次に元素比Sr/Fe対Ca/Siの分布範囲の判定図でも糸魚川産の範囲のみ入り糸魚川産原石の可能性が推測される(図6)。またNa/Si対Mg/Siの図では分析番号98527は糸魚川産、大佐産、若桜産の重なる範囲に入り、98527は糸魚川産、若桜産の重なる範囲に入り、これら重なった産地の原石の可能性が推測された(図7)。これら判定図と判定基準表1、表2の比重の範囲および蛍光X線スペクトル図8-1~2に示すBa元素の有無などの条件を考慮して、全ての条件を満たした産地の結果を総合判定として表4に示した。

#### 結 論

今回分析した西島松5遺跡806号土坑出土の硬玉製垂珠、勾玉の総合判定の結果は、糸魚川・青海産硬玉産地のヒスイが使用されていると判定した。糸魚川・青海産硬玉は縄文、弥生時代に多くみられ、使用遺跡を抜粋して示す(図1)と例えば北海道千歳市美々4遺跡から青森県大石平遺跡、岩手県大日II遺跡、山梨県石堂遺跡、岐阜県西田遺跡、愛知県白石遺跡、三重県森添遺跡、大分県二反田遺跡、熊本県ワクド石遺跡、宮崎県宇頭遺跡、沖縄県糸満市、北谷町まで日本全国におよび、糸魚川産ヒスイが尊重される共通の基盤を持っていたと思われる。糸魚川産地から遠くなるにしたがって、希少価値が増すと推測され本遺跡がヒスイの玉類の供給遺跡の可能性を推測しても産地分析の結果と矛盾しない。

#### 参考文献

- 1) 茅原一也(1964)、長者が原遺跡産のヒスイ(翡翠)について(概報)。長者ヶ原、新潟県糸魚川市教育委員会:63-73
- 2) 薬科哲男・東村武信(1987)、ヒスイの産地分析。富山市考古資料館紀要6:1-18
- 3) 薬科哲男・東村武信(1990)、奈良県内遺跡出土のヒスイ製玉類の産地分析。橿原考古学研究所紀要『考古学論攷』、14:95-109
- 4) 薬科哲男・東村武信(1983)、石器原材の産地分析。考古学と自然科学、16:59-89
- 5) Tetsuo Warashina(1992)、Allocation of Jasper Archeological Implements By Means of ESR and XRF. Journal of Archaeological Science19:357-373
- 6) 番場猛夫(1967)、北海道日高産軟玉ヒスイ。調査研究報告会講演要旨録 No.18:11-15
- 7) 河野義礼(1939)、本邦における翡翠の新産出及び其化学的性質。岩石矿物鉱床学雑誌22:195-201

表1 ヒスイ製造物の原産地の判定基準(1)

原産地名	分析回数	蛍光X線法による元素比の範囲					
		比重	K/Ca	Ti/Ca	Sr/Fe	Zr/Sr	Ca/Si
糸魚川産	41	3.00~3.35	0.01~0.17	0.01~0.56	0.15~30	0.00~2.94	0.72~27.6
若板産	12	3.12~3.29	0.01~0.91	0.03~0.59	3.45~47	0.00~0.25	4.33~48.4
大佐産	20	2.85~3.17	0.01~0.07	0.00~1.01	3.18~61	0.00~12.4	3.47~28.6
長崎産	3	3.16~3.23	0.01~0.14	0.17~0.33	0.02~0.06	4.30~16.0	
日高産	22	2.98~3.29	0.00~0.01	0.00~0.02	0.00~0.37	0.00~0.063	5.92~51.6
引佐産	8	3.15~3.36	0.04~0.04	0.00~0.03	0.03~0.33	0.00~0.018	36.3~65.9
大屋産	18	2.96~3.19	0.03~0.08	0.04~0.16	1.08~79	0.02~0.48	0.95~4.81
神居コタン産	9	2.95~3.19	0.02~0.49	0.09~0.17	0.04~0.22	0.12~0.85	2.22~17.3
飛騨産	40	2.85~3.15	0.01~0.04	0.00~0.00	0.02~0.10	0.00~1.24	12.7~28.5
ミヤンマ産	26	3.15~3.36	0.02~0.14	0.01~0.26	0.09~2.5	0.01~23	
台湾産	1	3.00	0.003	ND	ND	ND	

ND: 検出限界以下の濃度

表2 ヒスイ製造物の原産地の判定基準(2)

原産地名	蛍光X線法による分析元素 (各元素が確認できた個体数の百分率)								
	Cr	Mn	Rb	Y	Nb	Ba	La	Ce	
糸魚川産	26%	6%	20%	ND	13%	33%	ND	ND	ND
若板産	ND	ND	16%	ND	100%	100%	67%	67%	67%
大佐産	ND	ND	44%	ND	33%	100%	67%	67%	67%
長崎産	ND	ND	ND	ND	100%	100%	100%	100%	100%
日高産	tr	tr	ND	ND	ND	tr	ND	ND	ND
引佐産	88%	75%	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
大屋産	tr	ND	31%	ND	6%	90%	100%	100%	100%
神居コタン産	ND	100%	22%	100%	ND	55%	ND	ND	ND
飛騨産	100%	100%	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND
ミヤンマ産	13%	4%	ND	ND	ND	35%	ND	ND	ND
台湾産	tr	tr	ND	ND	ND	ND	ND	ND	ND

ND: 検出限界以下 tr: 検出確認

表3 西島松5遺跡806号土坑出土のヒスイ製造物の元素分析値と比量の結果

遺物	遺物番号	分析番号	元素分析値の比量														試料比重	試料重量 (g)			
			Na/Si	Mg/Si	Al/Si	K/Ca	Ca/Si	Ti/Ca	Cr/Fe	Mn/F	Ni/Fe	Sr/Fe	Nb/Sr	Ba/Sr	La/Sr	Ce/Sr			Rb/Sr	Y/Sr	
垂珠	No.2	98527	0.200	0.221	0.180	0.110	3.901	0.030	0.005	0.061	0.068	0.419	0.050	0.000	0.590	0.010	0.030	0.000	0.010	3.342	34.7738
勾玉	No.1	98528	0.231	0.347	0.180	0.070	3.566	0.060	0.010	0.036	0.033	0.955	0.553	0.010	0.230	0.320	0.090	0.070	0.000	3.329	17.0642
JG-1*			0.030	0.169	0.090	1.320	2.307	0.180	0.002	0.011	0.000	0.401	0.798	0.050	6.030	0.000	0.000	0.770	0.150		

a): 標準試料、Ando, A., Karasawa, H., Ohmori, T. &amp; Takeda, E. (1974). 1974 compilation of data on the GJS geochemical reference samples JG-1 granofiorite and JB-1 basalt Geochemical Journal, Vol. 8 175-192.

表1-1 西島松5遺跡出土の石製品および玉の内蔵鑑定結果

遺物	遺物番号	分析番号	各分類基準による判定				総合判定
			図5判定	図6判定	図7判定	比重&基準(2)	
垂珠	No.2	98527	IT	IT	IT, OS, WK	IT, IN	糸魚川産
勾玉	No.1	98528	IT	IT	IT, WK	IT, IN	糸魚川産

IT: 糸魚川WK: 若板OS: 大佐NG: 長崎HK: 日高IN: 引佐OY: 大屋

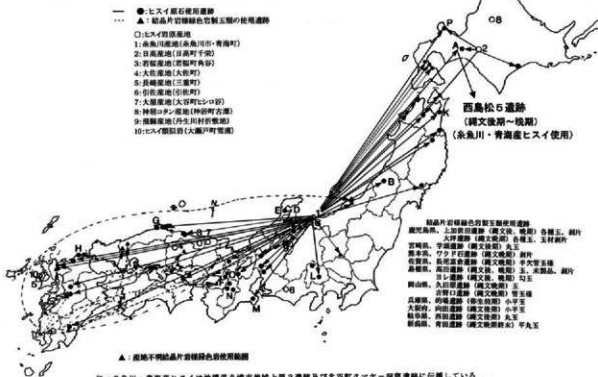
KM: 神居コタンHD: 飛騨

注: Ni/Fe比は日高産地および飛騨産地に同時に帰属された遺物の分類指標

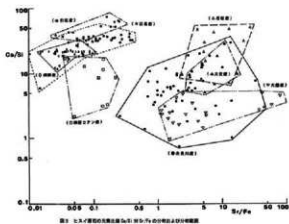
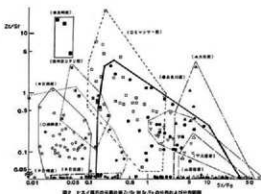
(飛騨産原石、42個の平均値±標準偏差) Ni/Fe=0.091±0.030

(日高産原石、14個の平均値±標準偏差) Ni/Fe=0.065±0.028

図1：ヒスイ産地およびヒスイ製玉類使用遺跡分布図



注：糸魚川・青森産ヒスイは神縄産糸網布産地(上原)遺跡及び北谷町タマケイ洞窟遺跡に分布している。  
(他の分析手法の結果で確定した結果をこの使用範囲に含めると、先史の交流、交易考察に活発が生じます)



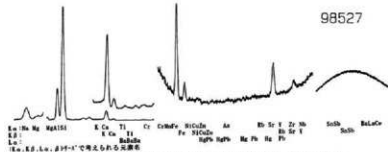
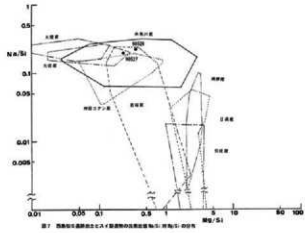
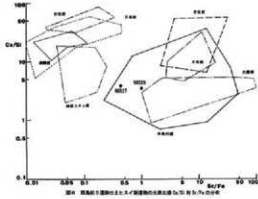
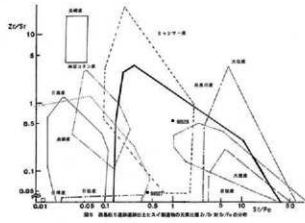


図8-1 西島松石遺跡806号土坑出土遺物No.3(98527)の蛍光X線スペクトル

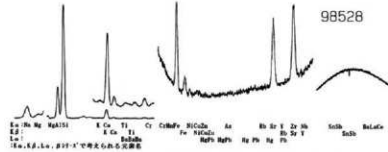


図8-2 西島松石遺跡806号土坑出土勾玉No.2(98528)の蛍光X線スペクトル

### 3 西島松5遺跡出土の縄文時代以降の炭化種実について

バリノ・サーヴェイ株式会社

#### はじめに

今回の分析調査では、北海道恵庭市西島松5遺跡の発掘調査により、縄文時代早期、中期、後期後葉、縄文時代とされる各遺構より出土した種実遺体の同定を実施し、当時の植物利用や周辺植生に関する資料を作成する。

#### (1) 試料

試料は、遺構覆土の水洗作業（フローテーション）より検出された種実130試料（No.1-130、リスト外試料No.79を含む）である。各試料は袋に入っており、1袋中には1-100点以上が確認される。詳細は、結果とともに表1に示す。

#### (2) 分析方法

試料を双眼実体顕微鏡下で観察する（試料の洗浄は、脆く壊れやすい水洗乾燥後の種実を破壊する可能性が高いため、実施していない）。現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から、種実の種類と部位を同定し、個数を数えて表示する。分析後は、種類毎に袋に戻して返却する。

#### (3) 結果

##### (1) 時代別種実検出状況

結果を表1に示す。木本12分類群（オニグルミ、サワシバ、コナラ亜属、コナラ属、ホオノキ、コブシ、マタタビ属、キハダ、カエデ属、ブドウ属、ミズキ、タラノキ）632個、草本11分類群（イネ、オオムギ、ヒエ？、イネ科、ホタルイ属、タデ属、アカザ科、ナデシコ科、マメ類、マメ科、カタバミ属）101個、計733個の種実が同定され、栽培植物のイネ11個、オオムギ1個、ヒエ（？）5個、マメ類1個が確認された。その他に、種類・部位不明の種実、木の芽、炭化材、植物の節、木材組織が確認されない不明の物質や炭化物、菌核、動物の骨片、岩片、土粒などが確認された。

種実遺体の遺存状態は不良で、炭化している個体（オニグルミ、サワシバ、コナラ亜属、コナラ属、キハダ、カエデ属、ブドウ属、ミズキ、イネ、オオムギ、ヒエ？、イネ科、タデ属、マメ類、マメ科）、明らかに炭化していない（以下非炭化と表示）個体（マタタビ属、ナデシコ科、イネ科（果実）、タデ属、カタバミ属）個体、元々黒く硬い果皮・種皮のため炭化しているか不明の個体（ホオノキ、コブシ、キハダ（核）、マタタビ属、ホタルイ属、タデ属、アカザ科）が確認された。

以下に時代別種実検出状況を記す（表2）。

・縄文時代早期（No.130）

炭化：オニグルミ100個、コナラ属果実1個

・縄文時代中期（No.43・49・50・51・114）

非炭化・不明：イネ科2個、タデ属24個、アカザ科1個

・縄文時代後期後葉（No.41・42・52-113・115-129）

炭化：オニグルミ455個、コナラ属子葉11個、キハダ2個、キハダ？4個、カエデ属4個、イネ胚乳11個（3個額付着）、イネ？4個、オオムギ1個、ヒエ？4個、イネ科胚乳7個、イネ科果実6個、タデ属1個

非炭化・不明：マタタビ属 5個、タラノキ 1個、イネ科果実 5個、ホタルイ属 1個、タデ属 9個、タデ属？ 2個、アカザ科 2個、アカザ科？ 5個、ナデシコ科 1個、カタバミ属 1個

・捺文時代住居床面 (No. 5・32-38・40)

炭化：オニグルミ 3個、ブドウ属 1個、

非炭化・不明：ナデシコ科 1個、カタバミ属 1個

・捺文時代住居カマド内 (No. 3・4・10・39・47・48)

炭化：ヒエ？ 1個、マメ類 1個

非炭化・不明：タデ属 2個

・捺文住居 9cの覆土 (No. 1・2・6-9・11-31・44-46)

炭化：サワシバ 16個、コナラ亜属 1個、コナラ属子葉 2個、カエデ属 24個、ミズキ 1個、マメ科？ 2個

非炭化・不明：ホオノキ 1個、コブシ 1個、マタタビ属 2個、イネ科 1個、タデ属 4個、カタバミ属 1個

## (2) 種実遺体の記載

### <木本>

・オニグルミ (*Juglans mandshurica* Maxim. subsp. *sieboldiana* (Maxim.) Kitamura) クルミ科クルミ属

核の破片が検出された。炭化しており黒色。完形ならば長さ 3-4 cm、径 2.5-3 cm 程度の頂部が尖る広卵形で、1本の明瞭な縦の縫合線がある。核は硬く緻密で、表面には縦方向に溝状の浅い影紋が走り、ごつごつしている。内部には子葉が入る 2つの大きな窪みと隔壁がある。破片は最大 1.5 cm 程度。

・サワシバ (*Carpinus cordata* Blume) カバノキ科クマシデ属

果実が検出された。炭化しており黒色。長さ 3.5-4 mm、幅 2-2.5 mm、厚さ 1 mm 程度のやや扁平な卵状長楕円体。頂部に 6-10 個の歯牙と、線形で短い 2 個の柱頭がある。果皮表面は粗面で、両面には 5-6 個の縦隆条が配列する。

・コナラ属コナラ亜属 (*Quercus* subgen. *Quercus*) ブナ科

幼果が検出された。炭化しており黒色。高さ 4.5 mm、径 6 mm 程度の椀形で、表面に覆瓦状に配列する狭卵形の鱗片が長いことから、カシワ (*Q. Thunberg*) の可能性がある。

・コナラ属 (*Quercus*) ブナ科

子葉の破片と果実の破片が検出された。炭化しており黒色。子葉は卵状楕円-偏球体、合わせ目に沿って縦半分に割れた長さは 1.1 cm、径 9 mm 程度。子葉は硬く緻密で、表面は縦方向に走る維管束の圧痕がみられる。合わせ目の表面は平滑で、正中線上は僅かに窪み、頂部には小さな孔 (主根) がある。果実破片は灰褐色、基部の着点部で、径 7.5 mm 程度の歪な円形。外面には維管束の穴が輪状に並ぶ。内面は粗面。

・ホオノキ (*Magnolia obovata* Thunb.) モクレン科モクレン属

種子が検出された。黒色、長さ 6.5 cm、幅 7 mm、厚さ 3 mm 程度の歪でやや扁平な三角状広卵体。頂部は尖る。背面は丸く、腹面正中線上は幅広い縦溝と基部に臍がある。種皮は硬く、表面には浅く細い縦溝がある。

・コブシ (*Magnolia kobus* DC.) モクレン科モクレン属

種子の破片が検出された。黒色、長さ 6.5 cm、幅 6 mm、厚さ 4 mm 程度の頂部がやや尖る腎状広卵体。



破片は背面を欠損する。腹面正中線上は幅広い縦溝と基部に臍がある。種皮は硬く、表面は粗面。

・マタビ属 (*Actinidia*) マタビ科

種子が検出された。茶一黒褐色、長さ1.5-2mm、幅1mm程度の両凸レンズ状楕円体。基部は斜切形でやや突出する。種皮は硬く、表面には円一楕円形の凹点が密布し網目模様をなす。

・キハダ (*Phellodendron amurense* Ruprecht) ミカン科キハダ属

核(内果皮)が検出されたほか、果実と思われる炭化種実が確認された。核は黒色、長さ3-5mm、幅1-3mm、厚さ1.5mm程度のやや扁平な半横広卵体。内果皮は硬く、表面には浅く微細な縦長の網目模様が配列する。

果実は炭化しており黒色。長さ9mm、径6mm程度の楕円体。基部に果柄が確認される。果皮表面は粗面、断面は厚さ1.5mm程度で、内部には、長さ3-5mm、幅1-3mm、厚さ1.5mm程度のやや扁平な半横広卵体の種子(キハダの核と思われる)が入る5-6室が確認される。

・カエデ属 (*Acer*) カエデ科

果実が検出された。炭化しており黒色。長さ4.5-5mm、幅3mm、厚さ2.5mm程度のやや扁平な広卵体で、頂部につく非対称倒三角形の翼を欠損する。基部は切形で2翼果の合着面は平ら。果実内部に楕円体の種子1個が入る。果皮両面の正中線上に鈍稜がある。表面には葉脈状の隆条模様がある。No.19の2個は、径6-7mm程度と大きく扁平であることから、別種の可能性がある。

・ブドウ属 (*Vitis*) ブドウ科

種子が検出された。炭化しており黒色。長さ4-4.5mm、径3-3.7mm程度の広倒卵体、側面観は半広倒卵形。基部の臍の方に向かって細くなり、嘴状に尖る。背面にさじ状の凹みがある。腹面には中央に縦筋が走り、その両脇には楕円形の深く窪んだ孔が存在する。種皮は薄く硬く、断面は櫛状。

・ミズキ (*Cornus controversa* Hemsley) ミズキ科ミズキ属

核(内果皮)が検出された。炭化しており黒色、径4mm程度の偏球体。基部に大きく深い孔がある。内果皮は硬く、表面には一周する1本のやや幅広く深い縦溝と、やや深い縦溝が数本走る。

・タラノキ (*Aralia elata* (Miq.) Seemann) ウコギ科タラノキ属

核(内果皮)が検出された。灰褐色、長さ1.8mm、幅1.3mm程度のやや扁平な半月形。腹面はほぼ直線状で、片端に突起がある。背面には数本の浅い溝が走る。表面は粗面。

<草本>

・イネ (*Oryza sativa* L.) イネ科イネ属

胚乳と穎(果)が検出された。炭化しており黒色。長楕円形でやや扁平。胚乳は長さ4-5.5mm、幅2.5-3.5mm、厚さ1.5mm程度。基部一端に胚が脱落した斜切形の凹部がある。表面はやや平滑で、2-3本の隆条が縦列する。胚乳を包む穎(果)は長さ6-6.5mm、幅3-3.5mm、厚さ2mm程度。基部に斜切状円柱形の果実序柄と1対の護穎を有し、その上に外穎(護穎と言う場合もある)と内穎がある。外穎は5脈、内穎は3脈をもち、ともに舟形を呈し、縫合してやや扁平な長楕円形の稲初を構成する。果皮は柔らかく、表面には顆粒状突起が縦列する。

・オオムギ (*Hordeum vulgare* L.) イネ科オオムギ属

胚乳が検出された。炭化しており黒色、長さ6mm、径2.8mm程度のやや扁平な紡錘状長楕円体。両端は尖る。腹面は正中線上にやや深く深い縦溝があり、背面は基部正中線上に胚の痕跡があり丸く窪む。表面はやや平滑で、浅く微細な縦筋がある。

・ヒエ? (*Echinochloa utilis* Ohwi et Yabuno) イネ科ヒエ属

胚乳が確認された。炭化しており黒色、長さ1.2-1.8mm、幅1-1.5mm、厚さ1mm程度の狭卵-半偏

球体で背面は丸みがあり腹面はやや平ら。基部正中線上に胚の凹みがある。表面はやや平滑で、浅く微細な縦筋がある。同定根拠となる穎(果)の付着は認められない。

・イネ科 (*Gramineae*)

果実と胚乳が確認された。イネ、オオムギ、ヒエ?等の栽培種とは区別され、形態上差異のある複数種を一括している。胚乳と果実の一部は炭化しており黒色、炭化していない果実は淡灰褐色。長さ1.5-2mm、径1mm程度の狭卵-半偏球体で背面は丸みがあり腹面は偏平。果皮表面は平滑で微細な縦長の網目模様が縦列する。表面に伏毛が密生する個体もみられる。胚乳は長さ1.2mm、径0.6mm程度の楕円体、背面は丸みがあり腹面は平ら。基部正中線上に胚の凹みがある。胚乳表面はやや平滑で、浅く微細な縦筋がある。

・ホタルイ属 (*Scirpus*) カヤツリグサ科

果実が検出された。黒色、長さ1.8mm、径1.3mm程度の片凸レンズ状広倒卵体。頂部は尖り、基部は切形。基部から伸びる刺針状花被片を欠損する。背面正中線上は鈍稜。果皮表面は光沢があり、不規則な波状横皺状模様が発達する。

・タデ属 (*Polygonum*) タデ科

果実が検出された。形態上差異のある複数種を一括している。茶-黒褐色、炭化個体は黒色。長さ1.7-2mm、径1.3-1.5mm程度の頂部がやや尖る二面または三稜状卵-広卵体。果皮表面は平滑または微細な網目模様がある。丸みのある三稜状卵体で、基部に灰褐色の萼片があり、果皮表面はやや平滑で光沢がある、イヌタデ (*P. longisetum* De Bruyn) に似る個体などがみられる。

・アカザ科 (*Chenopodiaceae*)

種子が検出された。黒色、径1mm程度のやや偏平な円盤状。基部は凹み、臍がある。種皮表面には臍を取り囲むように微細な網目模様が放射状に配列し、光沢がある。なお、表面の網目模様がやや粗い種子を、アカザ科?と区別している。

・ナデシコ科 (*Caryophyllaceae*)

種子が検出された。灰褐色、径1mm程度のやや偏平な腎状円形。基部は凹み、臍がある。種皮は薄く表面には瘤-針状突起が臍から同心円状に配列する。

・マメ類 (*Leguminosae*) マメ科

種子が検出された。炭化しており黒色、長さ7mm、径5mm程度の長楕円体。子葉の合わせ目上にある長楕円形の臍を欠損する。種皮は薄く表面はやや平滑。なお、長さ2.5mm、径2mm程度の小型種子には、野生種の可能性も含むため、マメ科としている。

・カタバミ属 (*Oxalis*) カタバミ科

種子が検出された。黒褐色、長さ1.5mm、幅1mm程度の偏平な倒卵体。基部はやや尖る。種皮は薄く、表面には4-7列の肋骨状横隆条が配列する。

#### (4) 考察

種実同定の結果、木本のオニグルミ、サワシバ、コナラ亜属、コナラ属、ホオノキ、コブシ、マタタビ属、キハダ、カエデ属、ブドウ属、ミズキ、クワノキと、草本のイネ、オオムギ、ヒエ?、イネ科、ホタルイ属、タデ属、アカザ科、ナデシコ科、マメ類、マメ科、カタバミ属が確認された。

栽培植物は、縄文時代後期後葉でイネ11個、オオムギ1個、ヒエ(?)4個、撥文時代でヒエ(?)1個、マメ類1個が確認され、ヒエを除き渡来種とされる。これらの栽培植物の可食種実が、炭化した状態で遺構内より出土したことから、本遺跡周辺で入手し植物質食糧として利用され、その後火を

受けたことが推定される。

ただしその利用時期に関しては、北海道の縄文時代におけるヒエ、マメ類の出土例は確認されるのに対し、縄文時代におけるイネ、オオムギ、ヒエの出土例は、ヒエを除き確認されていない（松谷, 2001；山田, 2007など）。現時点では、各遺構から確認された栽培植物の種実を、当該期における利用に直結させるのは早計と判断される。今後は、栽培植物の種実を対象とした年代測定の実施や、試料採取時の土壌の観察所見、採取時及び採取後の履歴等の検証を行い、利用時期を慎重に評価する必要がある。

なお、本遺跡周辺域に生育していたものに由来すると考えられる分類群は、縄文時代で、木本のオニグルミ、コナラ属、マタタビ属、キハダ、カエデ属、タラノキ、草本のイネ科、ホタルイ属、タデ属、アカザ科、ナデシコ科、カタバミ属が、縄文時代で、木本のオニグルミ、サワシバ、コナラ属、コナラ属、ホオノキ、コブシ、マタタビ属、カエデ属、ブドウ属、ミズキ、草本のイネ科、タデ属、ナデシコ科、カタバミ属、マメ科が確認された。

木本は、全て現在の本遺跡周辺域にも分布する落葉広葉樹で、川沿いなどの湿潤な場所を好んで生育する樹種（オニグルミ、サワシバ、ミズキ）や、林縁部等に生育する低木（タラノキ）、籐本（マタタビ属、ブドウ属）などを含む。草本は、明るく開けた場所に草地を形成する、いわゆる人里植物に属する分類群が多い。

縄文時代早期、後期後葉より多量確認されたオニグルミは、核内部の種子が生食可能で、コナラ属は子葉がアク抜きすれば食用可能である。これらの堅果類は、長期保存可能で収量も多いことから、古くより植物質食糧として利用され、遺跡出土例も多い（渡辺, 1975など）。北海道では、縄文時代早期～晩期でオニグルミの出土事例が多く、ミズナラやコナラ、カシワ、クリ、トチノキ、ハシバミ等の堅果類も報告されている。

以上のことから、オニグルミ、コナラ属は、当該期の本遺跡周辺の森林より遺構内に持ち込まれ、植物質食糧として利用されたことが推定される。また、炭化しているため火を受けたことが推定されるが、可食部（子葉）が確認されたコナラ属に対し、オニグルミは可食部外（核）の破片のみが確認されることから、利用後の残渣の状態でも火を受けた可能性がある。

ところで、これらの種実には、遺存状態の違いが認められる。木本のオニグルミ、サワシバ、コナラ属、コナラ属、キハダ（果実）、カエデ属、ブドウ属、ミズキ、草本のイネ科（胚乳・一部の果実）、タデ属（1個）、マメ科は炭化しているのに対し、マタタビ属（一部）、ナデシコ科、イネ科（一部の果実）、タデ属（一部）、カタバミ属は、明らかに炭化していない。ホオノキ、コブシ、キハダ（核）、マタタビ属（一部）、ホタルイ属、タデ属（一部）、アカザ科は、黒くて堅く残りやすい果皮や種皮を持つことから、炭化の有無は不明瞭で、当時の種実が残存していた可能性と、土壤中に混入した後代のものに由来する可能性がある。

遺跡から出土する種実のうち、低湿地以外から出土した炭化していない種実、炭化種実と同様に扱うには問題があるとされ（吉崎, 1992など）、遺物包含層の年代観と出土種実の年代測定結果が異なる事例（木下, 2003など）もあることから、今回確認された種類すべてが遺構の帰属時期の植生や植物利用を反映するものであるかについては課題が残る。この点については、上述の栽培植物と同様に、試料の由来を慎重に検討することが望まれる。

## 引用文献

- 石川茂雄, 1994, 原色日本植物種子写真図鑑. 石川茂雄図鑑刊行委員会, 328p.
- 木下尚子, 2003, 遺物包含層における現代イネ混入の検討. 考古学研究室報告 第38集, 熊本大学文学部考古学研究室, 55-62.
- 松谷暁子, 2001, 灰像と炭化像による先史時代の利用植物の探求. 植生史研究, 10, 47-66.
- 中山至大・井之口希秀・南谷忠志, 2000, 日本植物種子図鑑. 東北大学出版会, 642p.
- 山田悟郎, 2007, 北海道における栽培植物種子の出土状況. 日本考古学協会2007年度熊本大会研究発表資料集, 日本考古学協会2007年度熊本大会実行委員会, 409-419.
- 吉崎昌一, 1992, 古代雑穀の検出. 月刊考古学ジャーナル, No. 355, 2-14.
- 渡辺 誠, 1975, 縄文時代の植物食. 雄山閣出版, 187p.











## 4 西島松5遺跡出土の動物骨同定

金子浩昌

試料は平成14、15、16年度の西島松5遺跡の調査で出土した焼骨である。これらの焼骨からは、魚類6種類（チョウザメ科、ニシン科、サケ科、イトウ、ウグイ属、イトヨ）、鳥類4種類（キジ目、タカ目、カモ類、ハクチョウ類）、哺乳類9種類（ウサギ科、ネズミ属、キツネ、タヌキ、イヌ、テン、ヒグマ、イノシシ、ニホンジカ）が検出された。（動物遺体種名表参照）

サケ科、ヒグマ、ニホンジカ、イノシシの部位別数量を表6に示す。これら全体の集計表に基づいて、以下に考察を進めていく。

### 1. 出土骨の特徴

焼骨は、全て強い火力によって焼かれ、小さく割れていた。比熱の度合いはすべて同じで、炭化状、あるいは生との中間のような状態にあるものがない。火力が均一に回るような状態が推測される。その結果、被熱骨特有の亀裂、破損を生じ、同定できる状態の部位は限定されている。完存部位がのごされても、魚類の歯であるとか、あるいは獣骨中1個体で多数になる指趾骨関係などである。ここでは確認できた部位から個体数の復元を試みているが、焼骨の標本数のみからの個体数の復元は難しい。したがって、出土骨の総量を単純に比較するのではなく、骨格全体の出土の傾向からの判断も重要になると思われる。

#### <魚類>

魚類では、ニシン科・コイ科の椎骨、サケ科の歯、および椎骨、イトウの椎骨片、イトヨの背鰭・腹鰭棘、チョウザメの鱗片、その他の椎骨片などが検出されるとどまる。これらの中では、サケ科の歯および椎骨が多く検出されている。同時期の遺跡で、サケ科の椎骨は、千歳市のキウス4遺跡（高橋、2001・2002）でも多量に出土していることが報告されており、内陸の漁獲の内容をよく示していると思われる。なお、焼骨となった遺骨から多くの魚類を検出するのはかなり難しい。実際には、その他の魚種も漁獲、食用として利用されていたと想像されるが、その痕跡を残していないのは被熱による破損のためと思われる。

### 動物遺体種名表

硬骨魚綱	Class Osteichthyes
チョウザメ目	Order Acipenseriformes
チョウザメ科	Family Acipenseridae
チョウザメ	<i>Acipenser medirostris</i>
ニシン目	Order Clupeiformes
ニシン科	Family Clupeidae
サケ目	Order Salmoniformes
サケ科	Family Salmonidae
イトウ属	<i>Hucho</i> sp.
イトウ	<i>Hucho perryi</i>
コイ目	Order Cypriniformes
コイ科	Family Cyprinidae
ウグイ属	<i>Tribolodon</i> sp.
トゲウオ目	Order Gasterosteida
トゲウオ科	Family Gasterosteidae
イトヨ属	<i>Gasterosteus</i> sp.
イトヨ	<i>Gasterosteus aculeatus</i>
鳥綱	Class Aves
キジ目	Order Galliformes
キジ科	Family Phasianidae
キジ	<i>Phasianus colchocus</i>
タカ目	Order Falconiformes
タカ科	Family Accipitridae
ワシ類	<i>Haliaeetus</i> sp.
ミズナギドリ目	Order Procellariiformes
ミズナギドリ科	Family Procellariidae
ミズナギドリ類	<i>Procellariinae</i> sp.
カモ目	Order Anseriformes
カモ科	Family Anatidae
ハクチョウ類	<i>Cygnus</i> sp.
哺乳綱	Class Mammalia
ウサギ目	Order Lagomorpha
ウサギ科	Family Leporidae
ネズミ目（齧歯目）	Order Rodentia
ネズミ科	Family Muridae
ネズミ属	<i>Muridae</i> gen. et sp. Indet
リス科	Family Sciuridae
ネコ目（食肉目）	Order Carnivora
イヌ科	Family Canidae
キツネ属	<i>Vulpes</i> .
タヌキ属	<i>Nyctereutes</i> .
イヌ属	<i>Canis</i> .
イタチ科	Family Mustelidae
テン属	<i>Martes melampus</i> .
クマ科	Family Ursidae
ヒグマ	<i>Ursus arctos</i>
ウシ目（偶蹄目）	Order Artiodactyla
シカ科	Family Cervus
ニホンジカ	<i>Cervus nippon</i>
イノシシ科	Family Suidae
イノシシ	<i>Sus scrofa</i>

### <鳥類>

被熱している細片となった骨の中には、鳥骨もかなり含まれている可能性がある。ただし、種の同定までに至る標本はごく少なく、焼骨のため止むを得ないことである。おそらく、実際に捕獲された鳥類は多かったのではないかと想像される。猛禽類としたのは、ワシ、タカ類の趾骨である。被熱前であれば、さらに大きかったと思われる。ハクチョウは趾骨のみが検出された。水鳥類の大形趾骨であった。他にかなり大形になる鳥骨片が検出されており、ハクチョウ類やワシ類などの骨が推測されるが、破片となっているために詳細不明である。

### <獣骨>

ウサギは上腕骨滑車部分が出土、タヌキ、キツネ、テンなどの中型獣類の遺骸は、顎骨、主要四肢骨などで確認することができなかった。そうした部位が残されていないのである。椎骨、指骨などの断片的な部位に限られ、また焼骨となっているため、不確かな点が多い。

ヒグマは、大形で、特徴のある形態の指骨や末節骨で確認されている。大形の四肢骨で推定された標本もあったが、検出個数が少なく、破損率が高かったのである。指骨の中では中節骨が最も多く、完存する標本もあった。穿孔などの加工痕はみられない。指掌部分はクマ骨の部分でも大事に扱われるはずであるが、被熱していることは骨全体の特殊な扱いと関連するであろう。

イノシシは、多くの骨片を採集している。総点数は106点になり、これらの詳細な部位同定を行った。それによると、中手/中足骨の遠位骨端、基節骨遠位骨端は検出例も多い。しかし、完存する標本がなく、破損骨であるため、個体数を予測することが難しい。ただし、それを考慮しても、全体で数個体以上にはならないであろう。現在北海道に野生しないイノシシの遺骸の出土は当然関心のもたれるところであり、本遺跡はその遺骸が多く検出するかにみえたのであるが、遺骸の総数を部位別にみると、かなり限定された数であることがわかる。なお、イノシシには幼、若体の個数をみる。骨端の外れた標本が確認される。1歳から3歳未満、あるいはそれに近い個体である。それと共に成獣個体もあった。

ニホンジカはもっとも多く136点が同定された。検出部位も全身の骨格にわたった。ニホンジカの場合でも出土量の多いのは中手/中足骨の骨体と遠位骨端、指骨の近、遠位端であった。これらでも左右に分けられる数量を示すと、数個体程にしかならない。多くみつかったもので、右膝蓋骨（硬質の骨で破損しているが原形を残す）が8点、右距骨の近位端の5点などである。

種子骨は、解体時に皮革と一緒に外されたとも考えられる。手根、足根骨は、外されて調理に使われたのであろう。可食部が残されている。指骨部などは、蹄部分と別に扱われ、骨髄採取などにしたはずである。なお、主要四肢骨の破片が意外に少ないが、これらは別の場所で解体が行われ、脛骨遠位骨端のように足根骨と筋で硬く結合した部分が残ったと思われる。幼獣も数例検出されているが、成獣の大型個体の遺体が大半を占めている。

## 2. 遺構・層位別の出土状況

### <ニホンジカ>

土坑 土坑からは副手根骨左が2点、P593（後期後葉）とP646（不明）から出土しているほか、踵骨R・距骨Rの破片がP413・P579から出土いずれも後期後葉、尺側手根骨RがP377から出土している。これは晩期前葉の土坑であるが、覆土から出土する焼骨はいずれも包含層からの流れ込みと見られ、土坑の時期にかかわらず後期後葉のものと思われる。

- 住居 H33から尺側手根骨Lが1点、H34から2+3手根骨Rが出土、住居は9世紀代の撥文時代に属するが、覆土から出土した土器片の9割以上が縄文時代後期後葉の破片であることから焼骨も同時期の包含層からの流れ込みと考えられる。
- 焼土 確実な資料では橈側手根骨RがF310から出土しているほか、上腕骨R遠位端や大腿骨R遠位端がF347・F340から出土している。いずれも縄文時代後期後葉の焼土である。
- 包含層 I層・耕作等攪乱を受けた層で、出土遺物から後期後葉の焼骨である可能性が最も高いと考えられる。中間手根骨L・膝蓋骨R・Lがそれぞれ1点ずつ出土している。
- II層 遺物包含層である。出土している遺物の9割が縄文時代後期後葉であることから見つかった焼骨も、ほとんどが同時期の遺物とみられる。果骨Lが2点、2+3手根骨L・尺側手根骨Lがそれぞれ1点ずつ出土、このほか確実性に欠けるが膝蓋骨Rが3点出土している。
- MB 斜面に堆積する後期後葉の生活廃棄層（盛土層）で、尺側手根骨Rが1点出土。
- MC 晩期前葉の人々が後期後葉の盛土を壊して住居址の窪みなどを埋めた層とみられ、出土遺物の多くが本層から出土している。時期は縄文時代後期後葉がほとんどで、果骨Lが2点、2+3手根骨R・Lがそれぞれ2点、橈側手根骨Rが2点出土している。
- II B MC盛土下の黒色土層で時期は早期から後期後葉まで含まれる。本層からは距骨Rが2点、2+3手根骨Rが1点出土している。時期はやはり後期後葉とみられる。
- III層 黒色土とローム層の漸移層で、時期的には早期の層とみられるが、上層の遺物の流れ込みなどが多いことから後期後葉の遺物である可能性がたかい。距骨Rが1点出土している。
- M2 斜面に堆積する後期後葉から晩期前葉の生活廃棄層（盛土層）でC+4足根骨Rが1点、破片だが距骨R・膝蓋骨Rが1点ずつ出土している。

#### <イノシシ>

- 土坑 P668（後期後葉）から尺側手根骨Lが1点、P359より（晩期中葉）より脛骨R近位が1点出土、土坑はMC盛土を掘り抜いており、出土した焼骨は後期後葉の包含層からの流れ込みとみられる。住居・焼土からは出土していない。
- I層 第3足根骨Rが1点 そのほか破片で距骨R・尺骨L近位が出土している。時期は後期後葉とみられる。
- II層 中間手根骨L・尺側手根骨Rがそれぞれ1点ずつ出土、破片では距骨Rが1点出土している。後期後葉とみられる。
- MC 第3足根骨L・橈側手根骨R・Lがそれぞれ1点ずつ、破片で距骨Rが3点出土している。後期後葉とみられる。
- II B 下顎骨L片（P2・3付近）が1点、尺側手根骨Rが1点、破片だが尺骨L近位が1点出土している。後期後葉と考えられる。
- M2 斜面に堆積する後期後葉から晩期前葉の生活廃棄層（盛土層）で橈側手根骨Lが1点、出土している。

遺跡出土の焼骨のほとんどが、大量の土器片とともに盛土遺構や包含層から出土し、時期は縄文時代後期後葉のもの見られることから、層位別の個体数では、ニホンジカは各層や遺構などに最多で2個体が確認できるが、これをそれぞれの層位で集計すべきか、総数でまとめて見るべきなのか、難しいところである。

種別の同定総数を比較は以下のとおりである。

ニホンジカ 136点 イノシシ 106点 ヒグマ 22点 キツネ 6点 テン 5点  
タヌキ 4点 ウサギ 1点 ネズミ 9点

統計上の数ではなく、確実な部位（距骨片などを除く）で個体数をだすと次のようになる。

ニホンジカ 2 + 3 手根骨 R ····· 4 個体  
イノシシ 尺側手根骨 R ····· 2 個体  
その他中小獣 1 個体

個々の遺構や層がそれぞれ独立した層序であるとし、各層ごとの出土数を合計するとニホンジカ16個体、イノシシ6個体となり、適切な個体数にみえるが、ヒグマを同様に数えると8個体となってしまい問題があるように思う。

以下は出土層別個体数を出したものである。

	土坑	住居址	焼土	I層	II層	MB	MC	II B	III	計
ニホンジカ	3	2	3	1	2	1	2	1	1	16
イノシシ	2	0	0	1	1	0	1	1	0	6
ヒグマ	1	0	3	1	1	0	1	1	0	8

出土総数からみた個体数は以下のようになっており、比較的よい値ではないかと考えられる。

ニホンジカ 距骨 R ····· 7 個体  
イノシシ 距骨 R ····· (6 個体)  
尺骨 L ····· 3 個体  
その他全 ····· 1 個体

### 3. 総括

焼骨の場合、貝塚などで残りやすい部位である、手根骨・足根骨・踵骨・距骨などが必ずしも残るとは限らず、個体数を出すにあたり困難な面がある。ただし、すべての骨が同じ条件の下で残っているとすれば、同定結果に生ずる差は骨の回収のむずかしさや同定の難しさに起因するのかもしれない。今回の調査対象とされた焼魚獣骨は、そのほとんどが縄文後期後葉期に所属するとみられ、本遺跡はその顕著な一例と言えるだろう。焼骨は堆積層の全面から検出され、特別な遺構に伴うことがなかったようである。したがって、焼骨の在り方は、遺跡全体の構成をみていく過程から、さらに考察することが必要かと考えている。

表1 動物依存体固定表 [魚類] (1)

## チョウザメ

番号	順位	成績	
		F	R
F225	徳士	1	
総計		1	

## ニシン科

番号	順位	南	椎骨		椎体片	第1第5	第6	第7第8	第9	第10	第11	第12
			第1第5	第6								
F383	徳士			1								
総計				1								

## サケ科イトウ

番号	順位	南	椎骨		椎体片	第1第5	第6	第7第8	第9	第10	第11	第12
			第1第5	第6								
F254	徳士			1	0.05							
総計				1	0.05							

## コイ科ウグイ属

番号	順位	南	椎骨		椎体片	第1第5	第6	第7第8	第9	第10	第11	第12
			第1第5	第6								
P348	徳士											
P390												
P414	徳士1											
F167	徳士											
F169					1	0.04						
F170					5	0.02						
F180			1	0.01								
F215					1	0.01						
F254				1								
F285				1								
F308					1	0.03						
F354					3	0.01						
F355					6	0.07						
F383					4	0.05						
H20	H F 2			1								
M-25	カマド				1	0.04						
M-25	M C				2	0.01						
N-25	M C				2	0.02						
総計			1		3	28						

## トゲウオ科イトヨ

番号	順位	南	椎骨		椎体片	第1第5	第6	第7第8	第9	第10	第11	第12
			第1第5	第6								
H33	火床										1	1
総計											1	1

## 種別不明

番号	順位	南	椎骨		椎体片	第1第5	第6	第7第8	第9	第10	第11	第12
			第1第5	第6								
F196								1				
L-19	B						1					
総計							1	1				

## サケ科

番号	順位	南	椎骨		椎体片	第1第5	第6	第7第8	第9	第10	第11	第12
			第1第5	第6								
P348	徳士				0.45							
P390	徳士		1	0.08								
P414	徳士1		2	0.01	0.05							
F167	徳士				0.28							
F169	徳士				0.16							
F170	徳士				0.64							
F179	徳士		0.18		1.16							
F180	徳士		2	0.02	0.59							
F181	徳士			0.01	0.07							
F182	徳士				0.26							
F188	徳士		0.08		1.86							
F189	徳士			0.07	1.13							
F195	徳士		1.13		0.36	2						
F196	徳士		0.35	1								
F197	徳士				0.1							
F198	徳士				0.38							
F203	徳士				0.07							
F204	徳士				0.06							
F206	徳士		3	0.03	0.25							
F208	徳士				0.11							

表2 動物依存体固定表【魚類】(2)

番号	部位	歯	椎骨			椎体片	頭蓋骨					背棘棘						
			第1椎骨	腹椎	尾椎		F	F	F	F	F	背	第1	第2				
F215	鱗土																	
F216	鱗土																	
F222	鱗土	0.07																
F223	鱗土	0.25																
F227	鱗土																	
F230	鱗土	21 0.19																
F231	鱗土	0.37			1													
F232	鱗土	0.34																
F248	鱗土	2.16		1														
F249	鱗土	0.46																
F251	鱗土	0.03																
F254	鱗土																	
F254	鱗土																	
F258	鱗土	1																
F258	鱗土																	
F266	鱗土																	
F271	鱗土																	
F274	鱗土																	
F280	鱗土																	
F285	鱗土																	
F286	鱗土	0.09																
F289	鱗土	0.17																
F293	鱗土	1.06																
F294	鱗土	0.78			2	1												
F297	鱗土	0.32																
F299	鱗土	0.30																
F303	鱗土																	
F308	鱗土																	
F309	鱗土	0.61																
F310	鱗土																	
F313	鱗土	0.11																
F314	鱗土				1													
F318	鱗土	0.2																
F319	鱗土																	
F321	鱗土																	
F325	鱗土	0.06																
F330	鱗土																	
F332	鱗土																	
F333	鱗土	0.4																
F336	鱗土	7 0.04																
F337	鱗土	0.16																
F355	鱗土																	
F358	鱗土	0.47																
F365	鱗土	0.04																
F366	鱗土	0.66																
F367	鱗土	0.16																
F368	鱗土	1 0.01																
F369	鱗土																	
F383	鱗土	2 0.03																
F385	鱗土	0.08																
F393	鱗土																	
F402	鱗土																	
F407	鱗土																	
F425	鱗土																	
F425	鱗土																	
F427	鱗土	1 0.01																
F434	鱗土																	
H30	H F 1	3 0.02																
H30	H F 2	0.09																
H30	カマド	0.51																
H30	カマド・ソデ部																	
H30	床面4																	
H21	カマド内機土	0.01																
H23	扉前・カマド内機土																	
H25	機土	0.11			1	1												
H25	扉前	0.01																
H26	MC																	
H26	MC下段																	
H33	火床	0.19																
H34	火床	0.1																
H34	炉	0.27																
H46	火床	0.13																
H62	H F 1																	
L-19	H	1			4													
M-21	MC																	
M-25	MC・F																	
N-20	MC																	
N-25	MC	2 0.02																
F-25	MC																	
F-25	MC																	
統計					10	7				2				3	1	1		

表3 動物依存体固定表 [鳥類・ヒグマ]

キジ

部位		手根骨		第3中手骨		指骨		腕骨	中足骨	足指基節骨		足指中節骨		足指末節骨		趾骨		脛骨
		尺骨		R	L	pro	dis			dis	pro	dis	dis	pro	dis	pro	dis	
番号	部位	R	L	R	L			L										
F207	雌土													1				
統計														1				

猛禽類

部位		手根骨		第3中手骨		指骨		腕骨	中足骨	足指基節骨		足指中節骨		足指末節骨		趾骨		脛骨
		尺骨		R	L	pro	dis			dis	pro	dis	dis	pro	dis	pro	dis	
番号	部位	R	L	R	L			L										
N-20	I																	
O-16	II														1	1		
F-25	M/C																	
P-26	M/C							1										
Q-24	II, I														1			
統計								1							1	2	1	

カモ類

部位		手根骨		第3中手骨		指骨		腕骨	中足骨	足指基節骨		足指中節骨		足指末節骨		趾骨		脛骨
		尺骨		R	L	pro	dis			dis	pro	dis	dis	pro	dis	pro	dis	
番号	部位	R	L	R	L			L										
H15	カマド																	1
統計																		1

ハクチョウ

部位		手根骨		第3中手骨		指骨		腕骨	中足骨	足指基節骨		足指中節骨		足指末節骨		趾骨		脛骨
		尺骨		R	L	pro	dis			dis	pro	dis	dis	pro	dis	pro	dis	
番号	部位	R	L	R	L			L										
P-33	雌土, I																	1
統計																		1

大型鳥類

部位		手根骨		第3中手骨		指骨		腕骨	中足骨	足指基節骨		足指中節骨		足指末節骨		趾骨		脛骨
		尺骨		R	L	pro	dis			dis	pro	dis	dis	pro	dis	pro	dis	
番号	部位	R	L	R	L			L										
M-23	M/C																	
統計																		

小型鳥類

部位		手根骨		第3中手骨		指骨		腕骨	中足骨	足指基節骨		足指中節骨		足指末節骨		趾骨		脛骨
		尺骨		R	L	pro	dis			dis	pro	dis	dis	pro	dis	pro	dis	
番号	部位	R	L	R	L			L										
F-26	雌土				1													
F-23									1									
統計					1				1									

種別不明

部位		手根骨		第3中手骨		指骨		腕骨	中足骨	足指基節骨		足指中節骨		足指末節骨		趾骨		脛骨
		尺骨		R	L	pro	dis			dis	pro	dis	dis	pro	dis	pro	dis	
番号	部位	R	L	R	L			L										
F-90	雌土			1														
K-25	II																	1
P-25	M/C																	1
H-29	M/C								1		1							1
統計									1	1	1							2

ヒグマ

部位		第1中手骨		第3中手骨		腕骨		中手・中足骨				基節骨				中節骨				末節骨	
		dis	dis	R	L	R	L	pro	R	dis	L	R	dis	L	R	dis	L	R	dis	pro	
番号	部位	R	L	R	L	R	L	pro <td>R</td> <td>dis <td>L</td> <td>R</td> <td>dis <td>L</td> <td>R</td> <td>dis <td>L</td> <td>R</td> <td>dis <td>pro </td></td></td></td></td>	R	dis <td>L</td> <td>R</td> <td>dis <td>L</td> <td>R</td> <td>dis <td>L</td> <td>R</td> <td>dis <td>pro </td></td></td></td>	L	R	dis <td>L</td> <td>R</td> <td>dis <td>L</td> <td>R</td> <td>dis <td>pro </td></td></td>	L	R	dis <td>L</td> <td>R</td> <td>dis <td>pro </td></td>	L	R	dis <td>pro </td>	pro	
F-44	雌土							1													
F-170	雌土																				
F-31																					
F-325	I				1																
H-30	M1-肌細胞																				
K-30	K2-肌細胞																				
K-25	II																				
K-25	II																				
L-21	I																				
M-25	M/C																			1	
N-21	I																				
N-25	M/C																			1	
O-22	II																				
O-25	I																				
P-22	M/C																			1	
P-26	M/C																				
R-26	M/C																			1	
S-26	II, R																			1	
S-28	II																			1	
統計		1			1			1	1		2		5	1	1		2		2	2	1

表4 動物依存体固発案 [小・中型獣]  
ウサギ

部位	大洞	尾洞	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	
部位																					
番号	P-10	P-11																			
部材	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨

## ネズミ

部位	大洞	尾洞	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	
部位																					
番号	P-20	P-21																			
部材	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨

## 小型哺乳類 (リス科)

部位	大洞	尾洞	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	
部位																					
番号	P-25	P-26																			
部材	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨

## イヌ科 (キツネ)

部位	大洞	尾洞	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	
部位																					
番号	P-30	P-31																			
部材	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨

## タヌキ

部位	大洞	尾洞	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	
部位																					
番号	P-35	P-36																			
部材	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨

## テン

部位	大洞	尾洞	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	
部位																					
番号	P-40	P-41																			
部材	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨

## 中型哺乳類

部位	大洞	尾洞	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	上腸骨	胎骨	大腸骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	胎骨	中子・中足骨	
部位																					
番号	P-45	P-46																			
部材	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨	胎骨













## 出土動物遺体



1～3: 猛禽類<1: 趾骨 (図) /2: 趾骨 (図) /3: 趾骨 (図)> 4: 鳥綱 右尺側手根骨 5: 鳥綱 (大型) 右高脛骨 (図) 6: 小型鳥綱 (スズメ) 脛骨 (図)  
 7: エゾヤチネズミ左大腿骨 (図) 8: 小・中型獣 足脛骨 9: 小型獣 (ウサギ) 右重骨 10: 中型獣 (ウサギ) 右上腕骨 (図) 11～13: 中型獣 (ウサギ)<11: 大重 (上) /12: 右腕手根骨 /13: 右尺骨 (図)> 14: 中型獣 (ウサギ) 右面骨 15: 中型獣 (ウサギ) 左脛骨 (図) 16: 中型獣 中脛骨 17: 小型獣 尾脛 18～24: ヒゲヤク<18: 左面骨 /19: 中手・中足骨 (図) /20・21: 高脛骨 (図) /22・23: 左中脛骨 /24: 末脛骨 (図)> 25～34: イノシシ<25: 左腕手根骨 /26: 種子骨 /27: 右第3足指骨 /28: 中手・中足骨 (図) /29: 右中脛骨 /30: 左第2・5指趾中手・中足骨 (図) /31: 右第5中足骨 (図) /32: 第2・5指趾高脛骨 /33: 右第2・5指趾中脛骨 /34: 左第2・5指趾末脛骨> 35～43: ニホンジカ<35: 鹿角 /36: 種子骨 /37: 左腕手根骨 /38: 左尺側手根骨 /39: 右重骨 /40: 右末脛骨 /41: 左第2・5指趾高脛骨 /42: 左第2・5指趾中脛骨 /43: 左第2・5指趾末脛骨> 44: イノシシ 椎骨片 45～46: イノシシ<45: 背椎 /46: 左腰椎> 47: サウワジメ 椎骨

## 5 西島松5遺跡出土のネズミのかじり痕のある玉について

財団法人北海道埋蔵文化財センター  
第2調査部第3調査課 柳瀬由佳

西島松5遺跡の墓から出土した、小動物のかじり痕と予想した痕跡のある玉類について、元北海道大学農学部教授の阿部 永先生に鑑定していただき、以下のコメントをいただいた。

なお、鑑定の際には、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園・博物館所蔵の標本を比較資料として用いた。

資料の鑑定を快諾して下さった阿部 永先生、比較資料の提供などにご協力下さった北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園・博物館の市川秀雄氏、加藤 克氏、高谷文仁氏、また、阿部先生にご紹介下さった酪農学園大学獣医学部寄生虫学教室の浅川満彦先生に記して感謝致します。

**鑑定資料：**墓から出土した玉類 計6点：P432-1、P503-2、P570-6・7・8、P781-21  
(図版284)

**結論：**アカネズミの下顎切歯によるかじり痕と考えられる。(タイリクヤチネズミのかじり痕も含まれる可能性はある)

### 根拠：

- ・一見して、げっ歯類の切歯によるかじり痕である。
- ・かじり痕には、噛みついて止まった一対の「穴状の痕」と、ガリガリとかじった一対の「溝状の痕」があり、後者が多い。  
「溝状の痕」の大きさ(幅)から、行為者はタイリクヤチネズミかアカネズミと考えられる。しかし、噛みついた「穴状の痕」は細い針で突いたような痕で、先細りの形状の切歯によると考えられる。この形状と大きさに該当するのは、アカネズミの下顎切歯である。タイリクヤチネズミの切歯の先端は平坦で幅広く、資料に見られる痕より大きい。
- ・「溝状の痕」は、形状からはアカネズミかタイリクヤチネズミかは断定できない。しかし、「穴状の痕」が全てアカネズミのものであること、タイリクヤチネズミの草食に対しアカネズミは堅果類(特にオニグルミ)を好むことを考慮すると、資料である石のような硬いものをかじるのはアカネズミではないかと考えられる。
- ・北海道に生息する普通種のネズミは他に2種(ヒメネズミとミカドネズミ)がある。しかし、これらはいずれもアカネズミやタイリクヤチネズミより顕著に小型であり、かじり痕の行為者としての可能性は著しく低い。
- ・資料が遺跡の発掘調査時、地中5~30cmほどの位置から出土したことは、アカネズミが地中に巣穴を掘る習性を考えると、偶然掘りあたる可能性は十分にあり、説明がつく。
- ・遺跡と周辺の環境(クルミやドングリ類の木が多い、河畔の畑・荒地)は、アカネズミの生息に適した環境である。

## 6 恵庭市西島松5遺跡から出土した赤色漆塗堅櫛の構造と製作技法について

財団法人北海道埋蔵文化財センター

第1調査部第1調査課 田口 尚

### 1. はじめに

北海道では縄文時代早期(約9000年前)から赤色顔料を使用した多種多様な漆塗製品が多量に出土している。特に縄文時代後期中葉から末葉にかけては漆工文化の最盛期と言われ、質・量ともに豊富な出土例が見られる。なかでも結菌式漆塗堅櫛はその代表的な存在であり、環状列石(ストーン・サークル)、群集墓、周堤墓、積石墓などと呼ばれる特徴的な墓制や儀礼などと深くかかわって発展してきたものである。最近では、縄文時代後期末葉の恵庭市カリンバ3遺跡(国指定史跡 平成17年3月)から発見された3基の合葬墓に副葬された色彩豊かな赤色漆塗堅櫛をはじめとする漆製品(国指定重要文化財 平成18年6月)などが著明である。

ここでは最新のX線CTスキャナーを用いて、透かし文様のある赤色漆塗堅櫛と透かし文様の無い赤色漆塗堅櫛の構造と製作技法を非破壊で解析し、多くの成果が得られたのでその一部を報告する。ここではカリンバ3遺跡と同様に多量の漆塗製品が発見された阿西島松5遺跡のP398とP404の墓塚から出土した結菌式赤色漆塗堅櫛であり、他の機器分析と合わせて検討した。

### 2. 資料と調査方法

試料はP398出土の透かし文様のある櫛1点、P404の透かし文様の無い櫛1点の計2点である。

この2点の試料について外見的特徴の観察の後、非破壊調査としてX線透過撮影、X線CTスキャナーによる解析を行い、試料から剥落した微小破片については漆膜試料を破壊調査し、有機質分析(FTIR)、蛍光X線分析(EDS)などの科学分析を行って比較検討した。

#### (1) 構造調査と材質調査(図1～図11、表1)

外観的特徴はデジタルHDマイクロスコープ、実体顕微鏡で観察し、X線透過撮影装置による構造調査後、剥落していた2～3mm程度の微小片を試料とした。微小破片の一部はフーリエ変換赤外分光分析装置を用いて有機質分析を行った。残りの試料は透明エポキシ樹脂(ベトロポキシ154)を使用して硬化させた後、実体顕微鏡や光学顕微鏡で断面を確認しながらA#800-WA#3000、ラッピングフィルムで研磨し、プレパラートとした。試料は落射光装置と光学顕微鏡で観察し、走査電子顕微鏡(JSM-5600LV)とエネルギー分散型蛍光X線分析装置(EDS JED-2200)を使用し、赤色漆塗膜の元素分析および鉄(Fe)、水銀(Hg)、イオウ(S)のマッピング分析を行った。

#### (2) X線CTスキャナーによる構造と製作技法の調査(図12～図22、表1)

一般的なX線透視撮影では試料の横断面や縦断面の詳細を把握することが困難であり、貴重な試料から大型薄片を作成することは試料を損壊させる危険があるので現実的ではない。これまでは平面的なX線画像と櫛の破損箇所から覗く、断片的な内部観察および漆膜断面に見られるわずかな情報から構造を検討せざるを得なかった。これらの問題点を解決できることから九州国立博物館に設置されている文化財用高精度X線CTスキャナーを使用して断面および3D画像で観察を行った。装置は大型文化財などを観察する目的で導入されたものであるが、最高0.2mmの高精度で断面と立体画像を作成できるため小型脆弱資料の観察も可能である。医療用X線CTスキャナーの約5倍の分解能があり、画像を見ながら任意に自由な方向から横断面や縦断面を設定可能である。特に漆器等の脆弱試料は、シール容器などに保管したまま計測可能であるため、試料を損傷させる心配が少ない。今後は土壌ご



と切取った保存処理前の漆器類などの事前観察および保存処理計画作成にも効果が期待される。

### 3. 調査結果と考察

表1 分析および観察結果の比較

	P398	P404
透かし文様	透かし文様有り、中央に分画形と( )文様、両側に2個の三角文様一対。(図1)	透かし文様無し。(図2)
外観	体部下辺が幅広い台形状で上辺は弧状に湾曲し、その中央に瘤状隆起。両側に三角の突起あり、わずかに欠損。	体部下辺が幅広い台形状で上辺は弧状に湾曲し、両側に三角の突起あり、一部欠損。
隆起部分	上部の三角突起下部に瘤状隆起(波状隆起)なし。下部中央表裏に2個の瘤状隆起あり。太燃り糸を文字状に結束して作出。横走隆起帯は3条。	上部の三角突起下部に瘤状の大形隆起(波状隆起)表裏に6山あり。表裏で凸凹されている。太燃り糸が波状に見える。下部中央表裏に2個の瘤状隆起あり。太燃り糸をX字状に結束して作出。横走隆起帯4条。
色調・塗り	赤色塗漆。透かし文様模様は朱漆を厚く塗り重ね、縁取る。凹部分に朱漆がやや厚く溜まっている。色調は明るい赤系系、隆起や瘤部分など凸部分は手擦れなどで尊純し、下部にベンガラ漆や黒色系下地が露出。手擦れにより根来漆の風合いがある。(図4)	赤色塗漆。凹部分に朱漆がやや厚く溜まっている。色調はオレンジ系系。隆起や瘤部分など凸部分は手擦れなどで尊純し、下部にベンガラ漆や黒色系下地が露出。手擦れにより根来漆の風合いがある。(図2)
脚歯の特徴	結節式、脚歯は腐食により消失(空洞)、12本。瘤状隆起の直上から上辺に向かって急激に薄く削ぎおとし上端では角形。両側の歯を太く加工。(図5、図13、図16)	結節式、脚歯は腐食により消失(空洞)14本。瘤状隆起の直上から上辺に向かって急激に薄く削ぎおとし上端では角形。両側の歯の太さは同じに加工。(図18、図19)
横架材	細い空洞部分は結束した太燃り糸が腐食した部分。歯に一巻きしながら互いの歯を結束固定。横架材のように見えるのは燃り糸または細い繊維束か?(図13、図16)	細い空洞部分は結束した太燃り糸が腐食した部分あり。歯に一巻きしながら互いの歯を結束固定。横架材のように見えるのは燃り糸または細い繊維束か?(図18、図22)
塗膜	上層は朱(酸化水銀系 HgS)塗り、膜厚20~40μm前後、還元分解した部分もある。下層はパイプ状ベンガラ(Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )が散点的に混じるベンガラ塗膜厚50~70μm前後。ベンガラ塗膜は2~3層。FTIRでは1210~1200cm <sup>-1</sup> 、1630~1640cm <sup>-1</sup> (糖タンパク)、1070~1040cm <sup>-1</sup> (ゴム質)、1280cm <sup>-1</sup> (フェノール)などの吸収がやや大きい。1645cm <sup>-1</sup> (酸化メチレン基)、1720cm <sup>-1</sup> (カルボニル基)、2925cm <sup>-1</sup> 、2850cm <sup>-1</sup> (炭化水素)などが見られ塗漆と同一。	上層は朱(酸化水銀系 HgS)塗り、膜厚20~30μm前後、下層はパイプ状ベンガラ(Fe <sub>2</sub> O <sub>3</sub> )が散点的に混じるベンガラ塗膜厚50~60μm前後。ベンガラ塗膜は1~2層。FTIRでは1210~1200cm <sup>-1</sup> 、1650~1640cm <sup>-1</sup> (糖タンパク)、1070~1040cm <sup>-1</sup> (ゴム質)、1280cm <sup>-1</sup> (フェノール)などの吸収がやや大きい。1645cm <sup>-1</sup> (酸化メチレン基)、1720cm <sup>-1</sup> (カルボニル基)、2925cm <sup>-1</sup> 、2850cm <sup>-1</sup> (炭化水素)などが見られ塗漆と同一。
彫形・下地	彫形材は木粉に細かな植物繊維を含む木屑塗漆、歯と歯の間隙や隆起箇所から厚くパテ塗りし、全体を強化。微小な岩片や鉱物含む箇所もある。下地には生漆を15μm前後、彫形材に塗って、ある程度の平滑化と浸透強化。	彫形材は木粉に細かな植物繊維を含む木屑塗漆、歯と歯の間隙や隆起箇所から厚くパテ塗りし、全体を強化。微小な岩片や鉱物含む箇所もある。下地には生漆を5μm前後、彫形材に塗って、平滑化と浸透強化。

### 4. まとめ

この研究では漆膜や顔料分析のための機器分析と合わせて、最新のX線CTスキャンを用いることにより、新発見やこれまでの成果の検証ができた。①透かし文様の切り抜き技法、②太燃り糸の「X・V・ノ」字状の結束による瘤状隆起、③脚歯の結束状況(横架材状)、④透かし文様を有するものと透かし文様の無い脚について脚歯整形・加工が異なり、ふたつの資料は完成形態を考慮し、別々の製作意図を反映して製作がなされていることなどが非破壊三次元情報として確認できた。今後は脆弱資料の解析に欠かせない分析・解析方法となるはずである。

この時代の北海道では漆製品生産の検討が必要であり、既に報告された遺跡を含め、出土地周辺におけるウルシノキの種子や花粉の検出に努め、他のウルシ属樹木の有用性の調査や赤色顔料産地の同定とそれらの交易ルートの調査研究が重要な課題となる。

なお、この報告は「東アジア文化財保存修復国際会議」(2006)および「日本文化財科学会台25回大会」(2008)発表資料を訂正加筆したものである。本稿では限られた試料および紙面の関係から概略的な報告となっており、今後、あらためて詳細な検討を試みたい。

最後にX線CTスキャンの実施については九州国立博物館の本田光子氏、今津節生氏、鳥越俊行氏の多大なる協力をいただいた。漆塗膜分析については北海道開拓記念館の小林幸雄氏に助言を、EDS分析については当センターの花岡正光氏に協力をいただきました。記して心より感謝申し上げます。

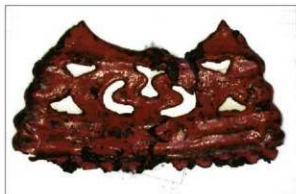


図1 P398 透かし彫りのある轆轤式堅楯

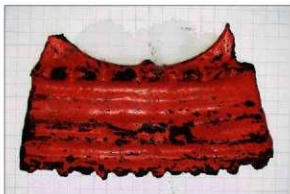


図2 P404 透かしの無い轆轤式堅楯



図3 P398 楯歯の形状 (空洞部は腐食した楯歯木質)



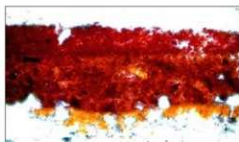
図5 P398 の透かし彫り欠損部に見られる切り抜かれた楯歯痕 (上部が切取られている)



図4 透かし彫り部分周縁の補修状況 (矢印)



図6 漆膜分析のための微小破片の樹脂包埋作業



楯表面  
 ←朱漆層  
 ←ベンガラ漆層 ①  
 ←ベンガラ漆層 ②  
 ←下地層  
 ←型形材

図7 P398 漆塗膜断面 (上HgS、下Fe)

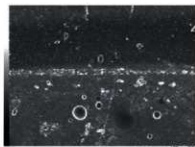


図8 P398 二次電子像



図9 P398 Hg(上)-Fe(下)のマッピング



図10 Hgのマッピング

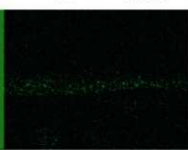


図11 Feのマッピング



図12 P398のX線CT横断面の位置

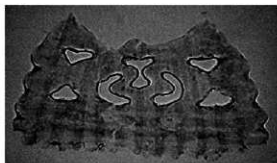


図14 P398のX線透過撮影画像

透かし文様範囲と黒く見えるのは糸、以下同じ



図15 P398のX線CT横断面の3D



図17 P404のX線CT横断面の位置

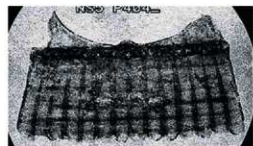


図19 P404のX線透過撮影画像

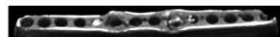


図20 P404のX線CT横断面の3D



図21  
P404の  
X線CT  
縦断面  
の3D

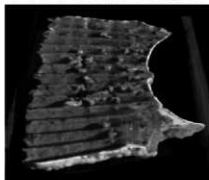


図22 P404のX線CT平面断面の3D  
断面と型残片を同時に写像して透かし文様を製作している。  
断面と型残片を同時に写像して透かし文様を製作している。  
断面と型残片を同時に写像して透かし文様を製作している。

- ①
- ②
- ③



図13 X線CT断面図 横断面(上・中・下)

横断面(上・中・下) ※断面に白く見えるのは糸は5層以下同じ  
角状突起となる両側の幅数は同じで、他の層は上部に向かって扁平

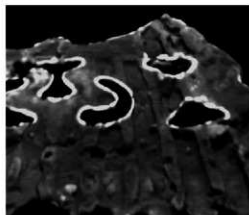


図16 P398のX線CT平面断面の3D

断面と型残片を同時に写像して透かし文様を製作している。

- ①
- ②
- ③
- ④

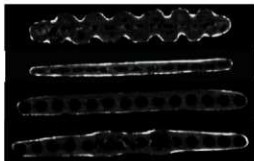


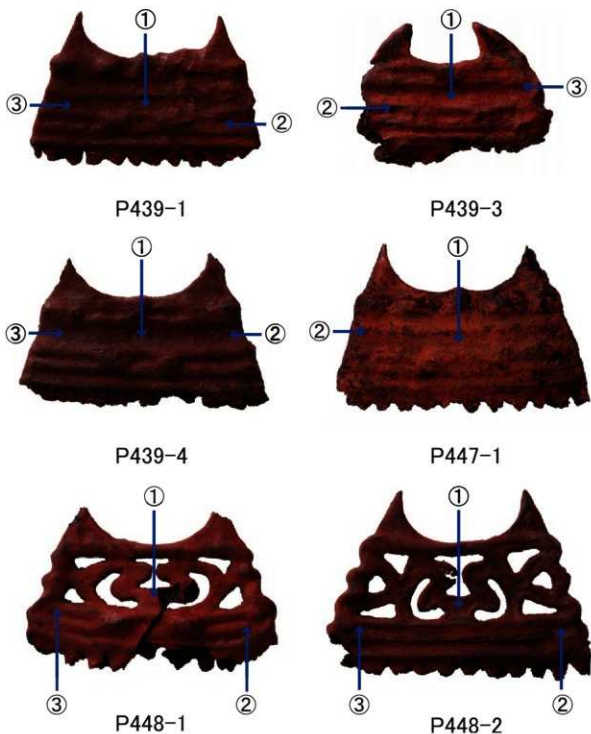
図18 X線CT断面図 横断面(上・中・下)

横断面(上・中・下) ※最下部中央の突起部は糸糸を巻いている  
透かし残りのものは上部に糸巻きと型残片による波打線がある

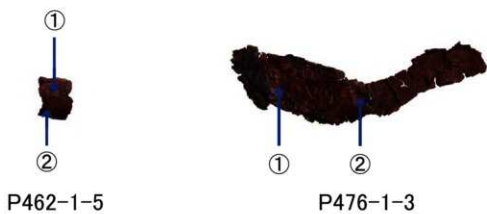
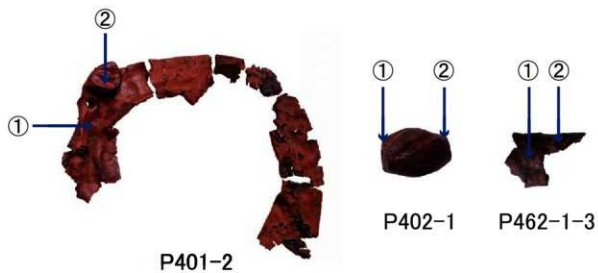
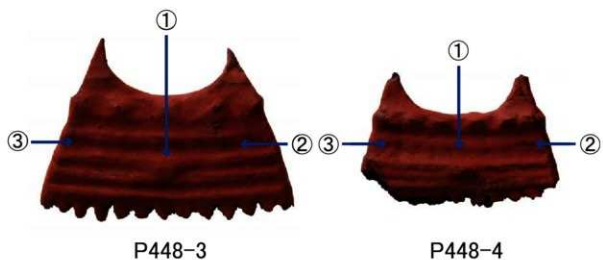
## 7 蛍光X線分析

（東京都文化財保存研究所）

蛍光X線分析は平成16・17年度の2カ年にわたり、（東京都文化財保存研究所で）櫛8点、環状漆塗製品3点、漆塗玉1点について行われた。以下、測定ポイントと測定結果のグラフを記す。



蛍光X線測定ポイント①

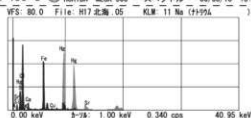


蛍光X線測定ポイント②



蛍光 X線元素分析2

P439-3-② HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 13:57:41



測定条件

項目	#1	#2
日付	06/03/08	06/03/08
測定時間	14:54:54	14:54:54
測定速度	300	300
測定電圧	20	20
測定電流	4% A	4% A
検出器	EDX	EDX
試料名	真鍮	真鍮

定性結果

記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
13	Al	○			
14	Si	○			
15	P	○			
16	S	○			
17	Cl	○			
18	K	○			
19	Ca	○			
20	Sc	○			
26	Fe	○			
28	Ni	○			
29	Cu	○			
30	Zn	○			
31	Ga	○			
32	Ge	○			
33	As	○			
35	Br	○			
36	Kr	○			
37	Rb	○			
38	Sr	○			
39	Y	○			
40	Zr	○			
41	Nb	○			
42	Mo	○			
43	Tc	○			
44	Ru	○			
45	Rh	○			
46	Pd	○			
47	Ag	○			
48	Cd	○			
49	In	○			
50	Sn	○			
51	Pb	○			
52	Bi	○			
53	Po	○			
54	At	○			
55	Bi	○			
56	Po	○			
57	Fr	○			
58	Ra	○			
59	Ac	○			
60	Th	○			
61	Pa	○			
62	U	○			
63	Np	○			
64	Pu	○			
65	Am	○			
66	Cm	○			
67	Bk	○			
68	Cf	○			
69	Es	○			
70	Fm	○			
71	Mendelevium	○			
72	Nobelium	○			
73	Lanthanum	○			
74	Cerium	○			
75	Praseodymium	○			
76	Neodymium	○			
77	Europium	○			
78	Gadolinium	○			
79	Terbium	○			
80	Dysprosium	○			
81	Ytterbium	○			
82	Erbium	○			
83	Thulium	○			
84	Ytterbium	○			
85	Lutetium	○			
86	Hafnium	○			
87	Tantalum	○			
88	Tungsten	○			
89	Rhenium	○			
90	Osmium	○			
91	Iridium	○			
92	Platinum	○			
93	Gold	○			
94	Mercury	○			
95	Thallium	○			
96	Lead	○			
97	Bismuth	○			
98	Polonium	○			
99	Astatine	○			
100	Radon	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 13:58:23

成分

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
80 Na	水銀	51.02	0.56
26 Fe	鉄	0.96	14.859
28 Ni	ニッケル	0.04	0.139
30 Zn	亜鉛	0.02	0.274
31 Ga	ガリウム	0.00	0.000
32 Ge	ゲルマニウム	0.00	0.000
33 As	ヒ素	0.00	0.000
35 Br	臭素	0.00	0.000
36 Kr	クリプトン	0.00	0.000
37 Rb	ルビジウム	0.00	0.000
38 Sr	ストロンチウム	0.00	0.000
39 Y	イットリウム	0.00	0.000
40 Zr	ジルコニウム	0.00	0.000
41 Nb	タンタルム	0.00	0.000
42 Mo	モリブデン	0.00	0.000
43 Tc	テクネチウム	0.00	0.000
44 Ru	ルビジウム	0.00	0.000
45 Rh	ロジウム	0.00	0.000
46 Pd	パラジウム	0.00	0.000
47 Ag	銀	0.00	0.000
48 Cd	カドミウム	0.00	0.000
49 In	インジウム	0.00	0.000
50 Sn	スズ	0.00	0.000
51 Pb	鉛	0.00	0.000
52 Bi	ビスマス	0.00	0.000
53 Po	ポロニウム	0.00	0.000
54 At	アスタチン	0.00	0.000
55 Bi	ビスマス	0.00	0.000
56 Po	ポロニウム	0.00	0.000
57 Fr	フランシウム	0.00	0.000
58 Ra	ラジウム	0.00	0.000
59 Ac	アクチン	0.00	0.000
60 Th	チウロ	0.00	0.000
61 Pa	プロトアクチン	0.00	0.000
62 U	ウラン	0.00	0.000
63 Np	ネプチウム	0.00	0.000
64 Pu	プルトニウム	0.00	0.000
65 Am	アメリシウム	0.00	0.000
66 Cm	キュリウム	0.00	0.000
67 Bk	ベルグムウム	0.00	0.000
68 Cf	カリフォルニウム	0.00	0.000
69 Es	エイチウム	0.00	0.000
70 Fm	フェルミウム	0.00	0.000
71 Md	メジウム	0.00	0.000
72 No	ノボリウム	0.00	0.000
73 Lr	ルネシウム	0.00	0.000

P439-4-① HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:01:21



測定条件

項目	#1	#2
日付	06/03/08	06/03/08
測定時間	14:54:49	14:54:49
測定速度	300	300
測定電圧	20	20
測定電流	4% A	4% A
検出器	EDX	EDX
試料名	真鍮	真鍮

定性結果

記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
13	Al	○			
14	Si	○			
15	P	○			
16	S	○			
17	Cl	○			
18	K	○			
19	Ca	○			
20	Sc	○			
26	Fe	○			
28	Ni	○			
29	Cu	○			
30	Zn	○			
31	Ga	○			
32	Ge	○			
33	As	○			
35	Br	○			
36	Kr	○			
37	Rb	○			
38	Sr	○			
39	Y	○			
40	Zr	○			
41	Nb	○			
42	Mo	○			
43	Tc	○			
44	Ru	○			
45	Rh	○			
46	Pd	○			
47	Ag	○			
48	Cd	○			
49	In	○			
50	Sn	○			
51	Pb	○			
52	Bi	○			
53	Po	○			
54	At	○			
55	Bi	○			
56	Po	○			
57	Fr	○			
58	Ra	○			
59	Ac	○			
60	Th	○			
61	Pa	○			
62	U	○			
63	Np	○			
64	Pu	○			
65	Am	○			
66	Cm	○			
67	Bk	○			
68	Cf	○			
69	Es	○			
70	Fm	○			
71	Mendelevium	○			
72	Nobelium	○			
73	Lanthanum	○			
74	Cerium	○			
75	Praseodymium	○			
76	Neodymium	○			
77	Europium	○			
78	Gadolinium	○			
79	Terbium	○			
80	Dysprosium	○			
81	Ytterbium	○			
82	Erbium	○			
83	Thulium	○			
84	Ytterbium	○			
85	Lutetium	○			
86	Hafnium	○			
87	Tantalum	○			
88	Tungsten	○			
89	Rhenium	○			
90	Osmium	○			
91	Iridium	○			
92	Platinum	○			
93	Gold	○			
94	Mercury	○			
95	Thallium	○			
96	Lead	○			
97	Bismuth	○			
98	Polonium	○			
99	Astatine	○			
100	Radon	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:02:05

成分

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
26 Fe	鉄	51.02	0.66
14 Si	シリコン	0.96	3.764
15 P	リン	0.04	0.040
16 S	硫黄	0.02	0.074
17 Cl	塩素	0.00	0.000
18 K	カリウム	0.00	0.000
19 Ca	カルシウム	0.00	0.000
20 Sc	スカンジウム	0.00	0.000
26 Fe	鉄	0.00	0.000
28 Ni	ニッケル	0.00	0.000
29 Cu	銅	0.00	0.000
30 Zn	亜鉛	0.00	0.000
31 Ga	ガリウム	0.00	0.000
32 Ge	ゲルマニウム	0.00	0.000
33 As	ヒ素	0.00	0.000
35 Br	臭素	0.00	0.000
36 Kr	クリプトン	0.00	0.000
37 Rb	ルビジウム	0.00	0.000
38 Sr	ストロンチウム	0.00	0.000
39 Y	イットリウム	0.00	0.000
40 Zr	ジルコニウム	0.00	0.000
41 Nb	タンタルム	0.00	0.000
42 Mo	モリブデン	0.00	0.000
43 Tc	テクネチウム	0.00	0.000
44 Ru	ルビジウム	0.00	0.000
45 Rh	ロジウム	0.00	0.000
46 Pd	パラジウム	0.00	0.000
47 Ag	銀	0.00	0.000
48 Cd	カドミウム	0.00	0.000

## 蛍光 X 線元素分析3

P439-4-③ HORIBA MESA-500 スペクトル ' 06/03/10 14:06:04



測定条件

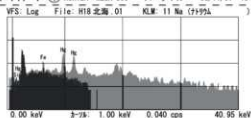
項目	# 1	# 2
日時	06/03/08	06/03/08
測定時間	15:12:17	15:15:17
測定電圧	15.00 kV	15.00 kV
測定電流	50.00 μA	50.00 μA
測定速度	1.00 cps	1.00 cps
検出器	Si	Si
試料室	真空	真空

定性結果	元素名	判定	記号	元素名	判定
13 Al	アルミ	○	80 Hg	水銀	○
14 Si	シリコン	○			
15 P	リン	○			
16 S	硫黄	○			
17 Cl	塩素	○			
18 Ar	アルゴン	○			
19 K	カリウム	○			
20 Ca	カルシウム	○			
21 Sc	スカンジウム	○			
22 Ti	チタン	○			
23 V	バナジウム	○			
24 Cr	クロム	○			
25 Mn	マンガン	○			
26 Fe	鉄	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 ' 06/03/10 14:06:47

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
26 Fe	46.36	0.34	24.458
13 Al	0.05	0.01	0.215
14 Si	0.05	0.01	0.250
15 P	0.05	0.01	0.250
16 S	0.05	0.01	0.250
17 Cl	0.05	0.01	0.250
18 Ar	0.05	0.01	0.250
19 K	0.05	0.01	0.250
20 Ca	0.05	0.01	0.250
21 Sc	0.05	0.01	0.250
22 Ti	0.05	0.01	0.250
23 V	0.05	0.01	0.250
24 Cr	0.05	0.01	0.250
25 Mn	0.05	0.01	0.250

P447-1-① HORIBA MESA-500 スペクトル ' 06/11/01 15:35:05



測定条件

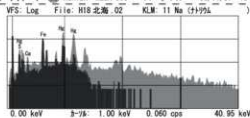
項目	# 1	# 2
日時	06/11/01	06/11/01
測定時間	14:55:07	14:55:07
測定電圧	15.00 kV	15.00 kV
測定電流	50.00 μA	50.00 μA
測定速度	1.00 cps	1.00 cps
検出器	Si	Si
試料室	大気	大気

定性結果	元素名	判定	記号	元素名	判定
14 Si	シリコン	○			
80 Hg	水銀	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 ' 06/11/01 15:36:14

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
80 Hg	17.41	0.347	1.33
14 Si	47.84	3.14	0.001
26 Fe	8.39		

P447-1-② HORIBA MESA-500 スペクトル ' 06/11/01 15:37:11



測定条件

項目	# 1	# 2
日時	06/11/01	06/11/01
測定時間	15:03:55	15:03:55
測定電圧	15.00 kV	15.00 kV
測定電流	50.00 μA	50.00 μA
測定速度	1.00 cps	1.00 cps
検出器	Si	Si
試料室	大気	大気

定性結果	元素名	判定	記号	元素名	判定
16 S	硫黄	○			
80 Hg	水銀	○			

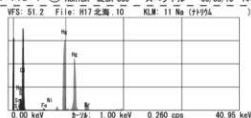
HORIBA MESA-500 定量結果 ' 06/11/01 15:38:28

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
80 Hg	71.86	1.33	23.718
16 S	1.33	0.04	1.63
20 Ca	2.22	0.19	0.047



蛍光 X線元素分析4

P448-1-① HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:08:45



測定条件 #1 #2  
 日付 06/03/08 06/03/08  
 測定時間 15:21:12 15:21:12  
 測定電圧 15.00 kV 15.00 kV  
 測定電流 20.00 mA 20.00 mA  
 測定距離 50.00 mm 50.00 mm  
 測定速度 1.00 mm/s 1.00 mm/s  
 検出器 NaI 検出器  
 試料室 真空 真空

記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14 Si	けい素	○			
17 Cl	塩素	○			
20 Ca	カルシウム	○			
26 Fe	鉄	○			
39 K	カリウム	○			
59 Co	コバルト	○			
80 Hg	水銀	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:09:36

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
80 Hg	水銀	0.47	3.494
59 Co	コバルト	0.024	0.024
39 K	カリウム	0.003	0.003
26 Fe	鉄	0.003	0.003
17 Cl	塩素	0.003	0.003
14 Si	けい素	0.003	0.003
38 Sr	ストロンチウム	0.07	0.008

P448-1-③ HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:13:05



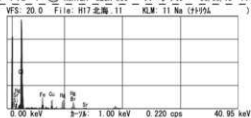
測定条件 #1 #2  
 日付 06/03/08 06/03/08  
 測定時間 15:30:13 15:30:13  
 測定電圧 15.00 kV 15.00 kV  
 測定電流 20.00 mA 20.00 mA  
 測定距離 50.00 mm 50.00 mm  
 測定速度 1.00 mm/s 1.00 mm/s  
 検出器 NaI 検出器  
 試料室 真空 真空

記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14 Si	けい素	○			
17 Cl	塩素	○			
20 Ca	カルシウム	○			
26 Fe	鉄	○			
39 K	カリウム	○			
80 Hg	水銀	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:13:46

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
14 Si	けい素	0.97	4.445
80 Hg	水銀	0.006	0.010
59 Co	コバルト	0.006	0.007
17 Cl	塩素	0.006	0.007
26 Fe	鉄	0.006	0.007
39 K	カリウム	0.006	0.007

P448-1-② HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:11:39



測定条件 #1 #2  
 日付 06/03/08 06/03/08  
 測定時間 15:26:02 15:26:02  
 測定電圧 15.00 kV 15.00 kV  
 測定電流 20.00 mA 20.00 mA  
 測定距離 50.00 mm 50.00 mm  
 測定速度 1.00 mm/s 1.00 mm/s  
 検出器 NaI 検出器  
 試料室 真空 真空

記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14 Si	けい素	○			
17 Cl	塩素	○			
20 Ca	カルシウム	○			
26 Fe	鉄	○			
39 K	カリウム	○			
59 Co	コバルト	○			
80 Hg	水銀	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:12:20

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
14 Si	けい素	0.24	0.020
80 Hg	水銀	0.016	0.017
59 Co	コバルト	0.016	0.017
39 K	カリウム	0.016	0.017
26 Fe	鉄	0.016	0.017
17 Cl	塩素	0.016	0.017
14 Si	けい素	0.00	0.000

P448-2-① HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:23:17



測定条件 #1 #2  
 日付 06/03/08 06/03/08  
 測定時間 16:07:45 16:07:45  
 測定電圧 15.00 kV 15.00 kV  
 測定電流 20.00 mA 20.00 mA  
 測定距離 50.00 mm 50.00 mm  
 測定速度 1.00 mm/s 1.00 mm/s  
 検出器 NaI 検出器  
 試料室 真空 真空

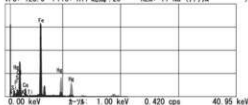
記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14 Si	けい素	○			
17 Cl	塩素	○			
20 Ca	カルシウム	○			
26 Fe	鉄	○			
39 K	カリウム	○			
80 Hg	水銀	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:23:58

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
14 Si	けい素	0.95	4.225
80 Hg	水銀	0.006	0.010
59 Co	コバルト	0.006	0.007
17 Cl	塩素	0.006	0.007
26 Fe	鉄	0.006	0.007
39 K	カリウム	0.006	0.007

## 蛍光 X線元素分析5

P448-2-② HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:25:23  
 WFS: 128.0 File: H17北端\_20 KLM: T1 Na (+99%)



測定条件

#	1	2
分析日時	06/03/08	06/03/08
測定時間	15:34:36	15:34:36
測定電圧	15 kV	15 kV
測定電流	10 μA	10 μA
測定速度	50 cps	50 cps
検出器	粉末	粉末
試料材質	真空中	真空中

定性結果

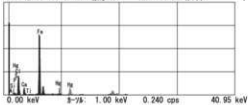
記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
13 Al	741-7AL	○			
14 Si	741-7Si	○			
17 Cl	741-7Cl	○			
19 F	741-7F	○			
20 Ca	741-7Ca	○			
24 Cr	741-7Cr	○			
26 Fe	741-7Fe	○			
32 Ge	741-7Ge	○			
36 Kr	741-7Kr	○			
39 Y	741-7Y	○			
40 Zr	741-7Zr	○			
56 Ba	741-7Ba	○			
80 Hg	741-7Hg	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:26:04

成分

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
80 Hg	0.27	0.05	16.274
56 Ba	0.69	0.13	41.986
40 Zr	0.80	0.15	47.936
39 Y	0.92	0.17	54.471
36 Kr	0.92	0.17	54.471
26 Fe	1.40	0.26	84.733
24 Cr	1.51	0.28	91.268
19 F	1.79	0.33	107.803
17 Cl	2.00	0.37	124.338

P448-2-③ HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:27:04  
 WFS: 128.0 File: H17北端\_21 KLM: T1 Na (+99%)



測定条件

#	1	2
分析日時	06/03/08	06/03/08
測定時間	16:10:45	16:10:45
測定電圧	15 kV	15 kV
測定電流	10 μA	10 μA
測定速度	50 cps	50 cps
検出器	粉末	粉末
試料材質	真空中	真空中

定性結果

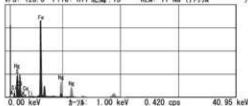
記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
13 Al	741-7AL	○			
14 Si	741-7Si	○			
17 Cl	741-7Cl	○			
19 F	741-7F	○			
20 Ca	741-7Ca	○			
24 Cr	741-7Cr	○			
26 Fe	741-7Fe	○			
32 Ge	741-7Ge	○			
36 Kr	741-7Kr	○			
39 Y	741-7Y	○			
40 Zr	741-7Zr	○			
56 Ba	741-7Ba	○			
80 Hg	741-7Hg	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:27:54

成分

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
80 Hg	0.27	0.05	16.274
56 Ba	0.69	0.13	41.986
40 Zr	0.80	0.15	47.936
39 Y	0.92	0.17	54.471
36 Kr	0.92	0.17	54.471
26 Fe	1.40	0.26	84.733
24 Cr	1.51	0.28	91.268
19 F	1.79	0.33	107.803
17 Cl	2.00	0.37	124.338

P448-3-① HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:14:33  
 WFS: 128.0 File: H17北端\_13 KLM: T1 Na (+99%)



測定条件

#	1	2
分析日時	06/03/08	06/03/08
測定時間	15:34:36	15:34:36
測定電圧	15 kV	15 kV
測定電流	10 μA	10 μA
測定速度	50 cps	50 cps
検出器	粉末	粉末
試料材質	真空中	真空中

定性結果

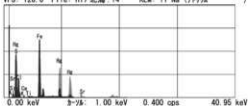
記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
13 Al	741-7AL	○			
14 Si	741-7Si	○			
17 Cl	741-7Cl	○			
19 F	741-7F	○			
20 Ca	741-7Ca	○			
24 Cr	741-7Cr	○			
26 Fe	741-7Fe	○			
32 Ge	741-7Ge	○			
36 Kr	741-7Kr	○			
39 Y	741-7Y	○			
40 Zr	741-7Zr	○			
56 Ba	741-7Ba	○			
80 Hg	741-7Hg	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:15:14

成分

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
80 Hg	0.18	0.04	10.818
56 Ba	0.47	0.09	28.213
40 Zr	0.57	0.11	34.748
39 Y	0.64	0.13	39.892
36 Kr	0.64	0.13	39.892
26 Fe	0.92	0.17	54.471
24 Cr	0.92	0.17	54.471
19 F	1.24	0.23	73.665
17 Cl	1.36	0.25	80.200

P448-3-② HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:15:51  
 WFS: 128.0 File: H17北端\_14 KLM: T1 Na (+99%)



測定条件

#	1	2
分析日時	06/03/08	06/03/08
測定時間	15:39:05	15:39:05
測定電圧	15 kV	15 kV
測定電流	10 μA	10 μA
測定速度	50 cps	50 cps
検出器	粉末	粉末
試料材質	真空中	真空中

定性結果

記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
13 Al	741-7AL	○			
14 Si	741-7Si	○			
17 Cl	741-7Cl	○			
19 F	741-7F	○			
20 Ca	741-7Ca	○			
24 Cr	741-7Cr	○			
26 Fe	741-7Fe	○			
32 Ge	741-7Ge	○			
36 Kr	741-7Kr	○			
39 Y	741-7Y	○			
40 Zr	741-7Zr	○			
56 Ba	741-7Ba	○			
80 Hg	741-7Hg	○			

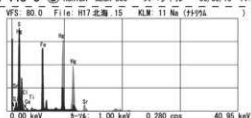
HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:16:34

成分

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
80 Hg	0.18	0.04	10.818
56 Ba	0.47	0.09	28.213
40 Zr	0.57	0.11	34.748
39 Y	0.64	0.13	39.892
36 Kr	0.64	0.13	39.892
26 Fe	0.92	0.17	54.471
24 Cr	0.92	0.17	54.471
19 F	1.24	0.23	73.665
17 Cl	1.36	0.25	80.200

蛍光X線元素分析6

P448-3-③ HORIBA MESA-500 スペクトル 06/03/10 14:17:15



測定条件 # 1 06/03/08 # 2 06/03/08  
 日付 15:47:34 15:47:34  
 測定時間 00:00:00 00:00:00  
 測定位置 A A  
 測定高さ 66 66  
 測定速度 220 220  
 測定電圧 20 20  
 測定電流 15 15  
 測定ガス 真空 真空  
 測定器型名 MESA-500 MESA-500

定性結果 記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14	Li	○			
20	B	○			
30	Si	○			
32	Sr	○			
88	Ne	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 06/03/10 14:17:56

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/ $\mu A$ )
80	Ne	70.76	0.43
14	Li	0.00	0.00
20	B	0.00	0.00
30	Si	0.00	0.00
32	Sr	0.00	0.00
88	Ne	0.00	0.00

P448-4-① HORIBA MESA-500 スペクトル 06/03/10 14:19:18



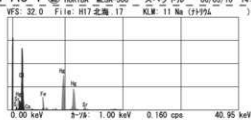
測定条件 # 1 06/03/08 # 2 06/03/08  
 日付 15:47:34 15:47:34  
 測定時間 00:00:00 00:00:00  
 測定位置 A A  
 測定高さ 66 66  
 測定速度 220 220  
 測定電圧 20 20  
 測定電流 15 15  
 測定ガス 真空 真空  
 測定器型名 MESA-500 MESA-500

定性結果 記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14	Li	○			
20	B	○			
30	Si	○			
32	Sr	○			
88	Ne	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 06/03/10 14:19:56

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/ $\mu A$ )
80	Ne	69.14	1.26
14	Li	0.00	0.00
20	B	0.00	0.00
30	Si	0.00	0.00
32	Sr	0.00	0.00
88	Ne	0.00	0.00

P448-4-② HORIBA MESA-500 スペクトル 06/03/10 14:20:25



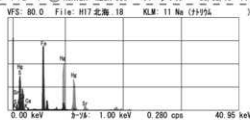
測定条件 # 1 06/03/08 # 2 06/03/08  
 日付 15:51:44 15:51:44  
 測定時間 00:00:00 00:00:00  
 測定位置 A A  
 測定高さ 66 66  
 測定速度 220 220  
 測定電圧 20 20  
 測定電流 15 15  
 測定ガス 真空 真空  
 測定器型名 MESA-500 MESA-500

定性結果 記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14	Li	○			
20	B	○			
30	Si	○			
32	Sr	○			
88	Ne	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 06/03/10 14:21:14

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/ $\mu A$ )
80	Ne	69.80	1.050
14	Li	0.00	0.00
20	B	0.00	0.00
30	Si	0.00	0.00
32	Sr	0.00	0.00
88	Ne	0.00	0.00

P448-4-③ HORIBA MESA-500 スペクトル 06/03/10 14:21:50



測定条件 # 1 06/03/08 # 2 06/03/08  
 日付 15:57:46 15:57:46  
 測定時間 00:00:00 00:00:00  
 測定位置 A A  
 測定高さ 66 66  
 測定速度 220 220  
 測定電圧 20 20  
 測定電流 15 15  
 測定ガス 真空 真空  
 測定器型名 MESA-500 MESA-500

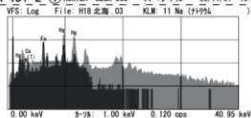
定性結果 記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
14	Li	○			
20	B	○			
30	Si	○			
32	Sr	○			
88	Ne	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 06/03/10 14:22:32

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/ $\mu A$ )
80	Ne	51.78	11.880
14	Li	0.00	0.00
20	B	0.00	0.00
30	Si	0.00	0.00
32	Sr	0.00	0.00
88	Ne	0.00	0.00

## 蛍光X線元素分析7

P401-2-① HORIBA MESA-500 スペクトル '06/11/01 16:05:26



0.00 keV 3-γs 1.00 keV 0.120 cps 40.95 keV

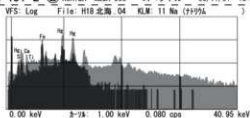
測定条件 #1 '06/11/01 #2 '06/11/01  
 日付 06/11/01 16:13 06/11/01 16:13  
 測定時間 15:50 15:50  
 測定位置 200 200  
 測定高さ 100 100  
 測定速度 100 100  
 測定電圧 20 kV 20 kV  
 測定電流 10 mA 10 mA  
 測定距離 20 mm 20 mm  
 測定角度 45° 45°  
 測定材料 鉄 鉄  
 測定装置 天気 天気

定性結果	元素名	判定	記号	元素名	判定
26 Fe	鉄	○			
29 Cu	銅	○			
30 Zn	亜鉛	○			
35 Br	臭素	○			
40 Ni	ニッケル	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/11/01 16:06:20

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
26 Fe	85.29	0.34	26.338
29 Cu	4.14	0.17	1.252
30 Zn	0.57	0.02	0.432
35 Br	0.00	0.00	0.014
40 Ni	0.00	0.00	0.048

P401-2-② HORIBA MESA-500 スペクトル '06/11/01 15:42:36



0.00 keV 3-γs 1.00 keV 0.080 cps 40.95 keV

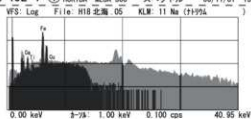
測定条件 #1 '06/11/01 #2 '06/11/01  
 日付 06/11/01 15:20 06/11/01 15:20  
 測定時間 15:00 15:00  
 測定位置 200 200  
 測定高さ 100 100  
 測定速度 100 100  
 測定電圧 20 kV 20 kV  
 測定電流 10 mA 10 mA  
 測定距離 20 mm 20 mm  
 測定角度 45° 45°  
 測定材料 鉄 鉄  
 測定装置 天気 天気

定性結果	元素名	判定	記号	元素名	判定
26 Fe	鉄	○			
29 Cu	銅	○			
30 Zn	亜鉛	○			
35 Br	臭素	○			
40 Ni	ニッケル	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/11/01 15:43:26

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
26 Fe	83.50	0.88	28.694
29 Cu	2.78	0.10	2.172
30 Zn	0.50	0.02	0.372
35 Br	0.00	0.00	0.014
40 Ni	0.00	0.00	0.057

P402-1-① HORIBA MESA-500 スペクトル '06/11/01 15:44:27



0.00 keV 3-γs 1.00 keV 0.100 cps 40.95 keV

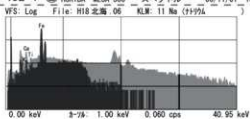
測定条件 #1 '06/11/01 #2 '06/11/01  
 日付 06/11/01 15:24 06/11/01 15:24  
 測定時間 15:00 15:00  
 測定位置 200 200  
 測定高さ 100 100  
 測定速度 100 100  
 測定電圧 20 kV 20 kV  
 測定電流 10 mA 10 mA  
 測定距離 20 mm 20 mm  
 測定角度 45° 45°  
 測定材料 鉄 鉄  
 測定装置 天気 天気

定性結果	元素名	判定	記号	元素名	判定
26 Fe	鉄	○			
29 Cu	銅	○			
30 Zn	亜鉛	○			
35 Br	臭素	○			
40 Ni	ニッケル	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/11/01 15:45:15

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
26 Fe	95.45	0.29	21.155
29 Cu	0.00	0.00	0.014
30 Zn	0.00	0.00	0.014
35 Br	0.34	0.01	0.051

P402-1-② HORIBA MESA-500 スペクトル '06/11/01 15:46:09



0.00 keV 3-γs 1.00 keV 0.060 cps 40.95 keV

測定条件 #1 '06/11/01 #2 '06/11/01  
 日付 06/11/01 15:28 06/11/01 15:28  
 測定時間 15:00 15:00  
 測定位置 200 200  
 測定高さ 100 100  
 測定速度 100 100  
 測定電圧 20 kV 20 kV  
 測定電流 10 mA 10 mA  
 測定距離 20 mm 20 mm  
 測定角度 45° 45°  
 測定材料 鉄 鉄  
 測定装置 天気 天気

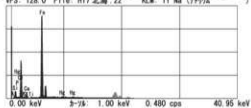
定性結果	元素名	判定	記号	元素名	判定
26 Fe	鉄	○			
29 Cu	銅	○			
30 Zn	亜鉛	○			
35 Br	臭素	○			
40 Ni	ニッケル	○			

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/11/01 15:47:13

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
26 Fe	94.80	0.24	40.587
29 Cu	0.00	0.00	0.140
30 Zn	0.00	0.00	0.018
35 Br	0.71	0.14	0.018

蛍光 X 線元素分析8

P462-1-3-① HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:28:34  
WFS: 128.0 File: H17北端.22 検量: 11 Na (††99L)



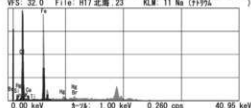
測定条件 #1 #2  
#1 06/03/08 #2 06/03/08  
日付 16:14:35 16:14:35  
場所 16:14:35 16:14:35  
測定機 A A  
測定者 杉本 杉本  
試料名 真空 真空

定性結果	元素名	判定	記号	元素名	判定
13	Al	○	○		
14	Si	○	○		
17	Cr	○	○		
19	Ca	○	○		
20	Ca	○	○		
22	Ti	○	○		
26	Fe	○	○		
28	Ni	○	○		
35	Br	○	○		
59	Co	○	○		
80	Pb	○	○		
82	Pb	○	○		
91	Sc	○	○		
92	U	○	○		
94	U	○	○		
96	Cm	○	○		
98	Cf	○	○		
99	Cf	○	○		
118	Cn	○	○		
119	Cn	○	○		
120	Cn	○	○		
121	Cn	○	○		
122	Cn	○	○		
123	Cn	○	○		
124	Cn	○	○		
125	Cn	○	○		
126	Cn	○	○		

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:29:16

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
26	Fe	55.43	0.44
27	Co	0.00	0.00
28	Ni	0.00	0.00
29	Cu	0.00	0.00
30	Zn	0.00	0.00
31	Ga	0.00	0.00
32	Ge	0.00	0.00
33	As	0.00	0.00
34	Se	0.00	0.00
35	Br	0.17	0.00
36	Kr	0.00	0.00
37	Rb	0.00	0.00
38	Sr	0.17	0.00
39	Y	0.00	0.00
40	Zr	0.00	0.00
41	Nb	0.00	0.00
42	Mo	0.00	0.00
43	Tc	0.00	0.00
44	Ru	0.00	0.00
45	Rh	0.00	0.00
46	Pd	0.00	0.00
47	Ag	0.00	0.00
48	Cd	0.00	0.00
49	In	0.00	0.00
50	Sn	0.00	0.00
51	Sb	0.00	0.00
52	Te	0.00	0.00
53	I	0.00	0.00
54	Xe	0.00	0.00
55	Ba	0.00	0.00
56	La	0.00	0.00
57	Ce	0.00	0.00
58	Pr	0.00	0.00
59	Co	0.00	0.00
60	Ni	0.00	0.00
61	Cu	0.00	0.00
62	Zn	0.00	0.00
63	Ga	0.00	0.00
64	Ge	0.00	0.00
65	As	0.00	0.00
66	Se	0.00	0.00
67	Br	0.17	0.00
68	Kr	0.00	0.00
69	Rb	0.00	0.00
70	Sr	0.17	0.00
71	Y	0.00	0.00
72	Zr	0.00	0.00
73	Nb	0.00	0.00
74	Mo	0.00	0.00
75	Tc	0.00	0.00
76	Ru	0.00	0.00
77	Rh	0.00	0.00
78	Pd	0.00	0.00
79	Ag	0.00	0.00
80	Zn	0.00	0.00
81	Ga	0.00	0.00
82	Ge	0.00	0.00
83	As	0.00	0.00
84	Se	0.00	0.00
85	Br	0.17	0.00
86	Kr	0.00	0.00
87	Rb	0.00	0.00
88	Sr	0.17	0.00
89	Y	0.00	0.00
90	Zr	0.00	0.00
91	Nb	0.00	0.00
92	Mo	0.00	0.00
93	Tc	0.00	0.00
94	Ru	0.00	0.00
95	Rh	0.00	0.00
96	Pd	0.00	0.00
97	Ag	0.00	0.00
98	Cd	0.00	0.00
99	In	0.00	0.00
100	Sn	0.00	0.00
101	Sb	0.00	0.00
102	Te	0.00	0.00
103	I	0.00	0.00
104	Xe	0.00	0.00
105	Ba	0.00	0.00
106	La	0.00	0.00
107	Ce	0.00	0.00
108	Pr	0.00	0.00
109	Nd	0.00	0.00
110	Pm	0.00	0.00
111	Sm	0.00	0.00
112	Eu	0.00	0.00
113	Gd	0.00	0.00
114	Tb	0.00	0.00
115	Dy	0.00	0.00
116	Ho	0.00	0.00
117	Er	0.00	0.00
118	Tm	0.00	0.00
119	Yb	0.00	0.00
120	Lu	0.00	0.00
121	Hf	0.00	0.00
122	Ta	0.00	0.00
123	W	0.00	0.00
124	Re	0.00	0.00
125	Os	0.00	0.00
126	Ir	0.00	0.00
127	Pt	0.00	0.00
128	Au	0.00	0.00
129	Hg	0.00	0.00
130	Tl	0.00	0.00
131	Pb	0.00	0.00
132	Bi	0.00	0.00
133	Po	0.00	0.00
134	At	0.00	0.00
135	Rn	0.00	0.00
136	Fr	0.00	0.00
137	Ra	0.00	0.00
138	Ac	0.00	0.00
139	Th	0.00	0.00
140	Pa	0.00	0.00
141	U	0.00	0.00
142	Np	0.00	0.00
143	Pu	0.00	0.00
144	Am	0.00	0.00
145	Cm	0.00	0.00
146	Bk	0.00	0.00
147	Cf	0.00	0.00
148	Es	0.00	0.00
149	Fm	0.00	0.00
150	Mendelevium	0.00	0.00

P462-1-3-② HORIBA MESA-500 スペクトル '06/03/10 14:30:49  
WFS: 32.0 File: H17北端.23 検量: 11 Na (††99L)



測定条件 #1 #2  
#1 06/03/08 #2 06/03/08  
日付 16:18:52 16:18:52  
場所 16:18:52 16:18:52  
測定機 A A  
測定者 杉本 杉本  
試料名 真空 真空

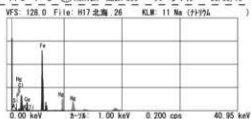
定性結果	元素名	判定	記号	元素名	判定
13	Al	○	○		
14	Si	○	○		
17	Cr	○	○		
19	Ca	○	○		
20	Ca	○	○		
22	Ti	○	○		
26	Fe	○	○		
28	Ni	○	○		
35	Br	○	○		
59	Co	○	○		
80	Pb	○	○		
82	Pb	○	○		
91	Sc	○	○		
92	U	○	○		
94	U	○	○		
96	Cm	○	○		
98	Cf	○	○		
99	Cf	○	○		
118	Cn	○	○		
119	Cn	○	○		
120	Cn	○	○		
121	Cn	○	○		
122	Cn	○	○		
123	Cn	○	○		
124	Cn	○	○		
125	Cn	○	○		
126	Cn	○	○		

HORIBA MESA-500 定量結果 '06/03/10 14:31:33

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
26	Fe	46.65	0.72
27	Co	0.00	0.00
28	Ni	0.00	0.00
29	Cu	0.00	0.00
30	Zn	0.00	0.00
31	Ga	0.00	0.00
32	Ge	0.00	0.00
33	As	0.00	0.00
34	Se	0.00	0.00
35	Br	0.26	0.07
36	Kr	0.00	0.00
37	Rb	0.00	0.00
38	Sr	0.26	0.07
39	Y	0.00	0.00
40	Zr	0.00	0.00
41	Nb	0.00	0.00
42	Mo	0.00	0.00
43	Tc	0.00	0.00
44	Ru	0.00	0.00
45	Rh	0.00	0.00
46	Pd	0.00	0.00
47	Ag	0.00	0.00
48	Cd	0.00	0.00
49	In	0.00	0.00
50	Sn	0.00	0.00
51	Sb	0.00	0.00
52	Te	0.00	0.00
53	I	0.00	0.00
54	Xe	0.00	0.00
55	Ba	0.00	0.00
56	La	0.00	0.00
57	Ce	0.00	0.00
58	Pr	0.00	0.00
59	Co	0.00	0.00
60	Ni	0.00	0.00
61	Cu	0.00	0.00
62	Zn	0.00	0.00
63	Ga	0.00	0.00
64	Ge	0.00	0.00
65	As	0.00	0.00
66	Se	0.00	0.00
67	Br	0.26	0.07
68	Kr	0.00	0.00
69	Rb	0.00	0.00
70	Sr	0.26	0.07
71	Y	0.00	0.00
72	Zr	0.00	0.00
73	Nb	0.00	0.00
74	Mo	0.00	0.00
75	Tc	0.00	0.00
76	Ru	0.00	0.00
77	Rh	0.00	0.00
78	Pd	0.00	0.00
79	Ag	0.00	0.00
80	Zn	0.00	0.00
81	Ga	0.00	0.00
82	Ge	0.00	0.00
83	As	0.00	0.00
84	Se	0.00	0.00
85	Br	0.26	0.07
86	Kr	0.00	0.00
87	Rb	0.00	0.00
88	Sr	0.26	0.07
89	Y	0.00	0.00
90	Zr	0.00	0.00
91	Nb	0.00	0.00
92	Mo	0.00	0.00
93	Tc	0.00	0.00
94	Ru	0.00	0.00
95	Rh	0.00	0.00
96	Pd	0.00	0.00
97	Ag	0.00	0.00
98	Cd	0.00	0.00
99	In	0.00	0.00
100	Sn	0.00	0.00
101	Sb	0.00	0.00
102	Te	0.00	0.00
103	I	0.00	0.00
104	Xe	0.00	0.00
105	Ba	0.00	0.00
106	La	0.00	0.00
107	Ce	0.00	0.00
108	Pr	0.00	0.00
109	Nd	0.00	0.00
110	Pm	0.00	0.00
111	Sm	0.00	0.00
112	Eu	0.00	0.00
113	Gd	0.00	0.00
114	Tb	0.00	0.00
115	Dy	0.00	0.00
116	Ho	0.00	0.00
117	Er	0.00	0.00
118	Tm	0.00	0.00
119	Yb	0.00	0.00
120	Lu	0.00	0.00
121	Hf	0.00	0.00
122	Ta	0.00	0.00
123	W	0.00	0.00
124	Re	0.00	0.00
125	Os	0.00	0.00
126	Ir	0.00	0.00
127	Pt	0.00	0.00
128	Au	0.00	0.00
129	Hg	0.00	0.00
130	Tl	0.00	0.00
131	Pb	0.00	0.00
132	Bi	0.00	0.00
133	Po	0.00	0.00
134	At	0.00	0.00
135	Rn	0.00	0.00
136	Fr	0.00	0.00
137	Ra	0.00	0.00
138	Ac	0.00	0.00
139	Th	0.00	0.00
140	Pa	0.00	0.00
141	U	0.00	0.00
142	Np	0.00	0.00
143	Pu	0.00	0.00
144	Am	0.00	0.00
145	Cm	0.00	0.00
146	Bk	0.00	0.00
147	Cf	0.00	0.00
148			

## 蛍光 X 線元素分析9

P476-1-3-① HRIBA MESA-500 スペクトル ' 06/03/10 14:34:59



測定条件

測定条件	# 1	# 2
日付	06/03/08	06/03/08
時間	16:31:27	16:31:27
測定機	HRIBA	HRIBA
測定室	環境科学館 4F	環境科学館 4F
測定対象	黄砂	黄砂

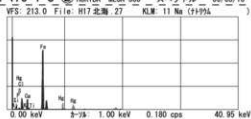
定性結果

記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
Na	ナトリウム	○			
Si	シリコン	○			
S	硫黄	○			
Cl	塩素	○			
K	カリウム	○			
Ca	カルシウム	○			
Fe	鉄	○			
不	不	○			

HRIBA MESA-500 定量結果 ' 06/03/10 14:36:03

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
26 Fe	40.19	0.37	8.926
30 Si	12.80	0.36	2.410
32 S	4.84	0.29	0.250
17 Cl	1.00	0.09	0.110
19 K	0.96	0.09	0.055
20 Ca	0.96	0.09	0.055
11 Na	0.01	0.00	0.018
12 Mg	0.00	0.00	0.000
13 Al	0.00	0.00	0.014

P476-1-3-② HRIBA MESA-500 スペクトル ' 06/03/10 14:37:07



測定条件

測定条件	# 1	# 2
日付	06/03/08	06/03/08
時間	16:35:41	16:35:41
測定機	HRIBA	HRIBA
測定室	環境科学館 4F	環境科学館 4F
測定対象	黄砂	黄砂

定性結果

記号	元素名	判定	記号	元素名	判定
Na	ナトリウム	○			
Si	シリコン	○			
S	硫黄	○			
Cl	塩素	○			
K	カリウム	○			
Ca	カルシウム	○			
Fe	鉄	○			
不	不	○			

HRIBA MESA-500 定量結果 ' 06/03/10 14:37:46

成分	濃度 (wt%)	標準偏差	強度 (cps/μA)
26 Fe	50.08	0.38	29.157
30 Si	13.91	0.29	2.788
32 S	5.07	0.31	0.690
17 Cl	1.00	0.09	0.110
19 K	0.96	0.09	0.055
20 Ca	0.96	0.09	0.055
11 Na	0.01	0.00	0.018
12 Mg	0.00	0.00	0.000
13 Al	0.00	0.00	0.014



# 報告書抄録

ふりがな	えいわし にししまつ5いせき (6)							
書名	恵庭市 西島松5遺跡 (6)							
副書名	柏木川基幹河川改修工事用地内埋蔵文化財発掘調査報告書							
シリーズ名	〔北海道埋蔵文化財センター調査報告書(北埋調報)〕							
シリーズ番号	第260集							
編著者名	土肥研品・柳瀬由佳							
編集機関	財団法人 北海道埋蔵文化財センター (http://www.domaibun.or.jp)							
所在地	〒069-0832 北海道江別市西野幌685-1 Tel. (011) 386-3231							
発行年月日	平成21(西暦2009)年3月26日							
収録遺跡	所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (㎡)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
北海道 西島松5遺跡	北海道 恵庭市西島松 306・501番地 先河川敷地	01224	A-04-38	42° 54' 25"	141° 34' 30"	20020401 ~20041030	16,782㎡	河川改修 工事に 伴う 事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物	特記事項		
西島松5遺跡	集落跡	縄文時代前期		墓×41基	土器・石器			
		縄文時代後期後葉 ~末葉		墓×195基	土器・石器 土製品 漆塗製品 玉・垂飾類 石棒 サメ歯穿孔品	副葬品の土器・石器 漆製品・玉類が一括 で検出される。		
		縄文時代晩期前葉		墓×55基	土器・石器 漆塗製品 玉・垂飾類 サメ歯穿孔品	副葬品の土器・石器 漆製品・玉類が一括 で検出される。		
要約	遺跡は恵庭市の西方の柏木川とその支流であるキトウシュメンナイ川に挟まれた標高約26mの低い台地上に位置する。これまでの調査で住居址75軒、土坑825基などの遺構が検出されている。本報告では、これらのうちの坑495基、Tピット6基、焼土299カ所、小ピット1,257カ所、集石遺構5カ所を報告する。検出された主な遺構は、縄文時代後期後葉~晩期前葉にかけての墓である。これらは、周堤墓以降の墓域の変遷がたどれる状況で検出され、堂林式、三ツ谷式、御殿山式、大洞B1式相当の各時期の墓から副葬品が検出されている。							



（助）北海道埋蔵文化財センター調査報告書 第260集

## 恵庭市 西島松5遺跡（6）

— 柏木川基幹河川改修用地内埋蔵文化財発掘調査報告書 —

[第1分冊 本文編]

発行 平成21年（2009）年3月26日  
編集 財団法人 北海道埋蔵文化財センター  
〒069-0832 江別市西野幌685番地1  
TEL. (011) 386-3231 FAX (011) 386-3238  
<http://www.hokkaidou.mmd.ntt-east.co.jp/maizou>

印刷 山藤三陽印刷株式会社

〒063-0051 札幌市西区宮の沢1条4丁目16-1  
TEL. (011) 661-7163 FAX (011) 661-7173